SIEMENS

WinCC V7.5 SP1 インストール/リリースノート 1

WinCC/WebNavigator 2

WinCC/DataMonitor 3

WinCC/WebUX 4

WinCC/Cloud Connector 5

SIMATIC HMI

WinCC V7.5 SP1 WinCC Basic オプション (WebNavigator, DataMonitor, WebUX, Cloud Connector)

システムマニュアル

オンラインヘルプの印刷

11/2019
A5E47941015-AA

法律上の注意

警告事項

本書には、ユーザーの安全性を確保し製品の損傷を防止するうえ守るべき注意事項が記載されています。ユーザーの安全性に関する注意事項は、安全警告サインで強調表示されています。このサインは、物的損傷に関する注意事項には表示されません。以下に表示された注意事項は、危険度によって等級分けされています。

⚠ 危険
回避しなければ、直接的な死または重傷に至る危険状態を示します。

⚠ 警告
回避しなければ、死または重傷に至るおそれのある危険な状況を示します。

⚠ 注意
回避しなければ、軽度または中度の人身傷害を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。

通知
回避しなければ、物的損傷を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。

複数の危険レベルに相当する場合は、通常、最も危険度の高い事項が表示されることになっています。安全警告サイン付きの人身傷害に関する注意事項があれば、物的損傷に関する警告が付加されます。

有資格者

本書が対象とする製品 / システムは必ず有資格者が取り扱うものとし、各操作内容に関連するドキュメント、特に安全上の注意及び警告が遵守されなければなりません。有資格者とは、訓練内容及び経験に基づきながら当該製品 / システムの取り扱いに伴う危険性を認識し、発生し得る危害を事前に回避できる者をいいます。

シーメンス製品を正しくお使いいただくために

以下の事項に注意してください。

⚠ 警告
シーメンス製品は、カタログおよび付属の技術説明書の指示に従ってお使いください。他社の製品または部品との併用は、弊社の推奨もしくは許可がある場合に限ります。製品を正しく安全にご使用いただくには、適切な運搬、保管、組み立て、据え付け、配線、始動、操作、保守を行ってください。ご使用になる場所は、許容された範囲を必ず守ってください。付属の技術説明書に記述されている指示を遵守してください。

商標

®マークのついた称号はすべて Siemens AG の商標です。本書に記載するその他の称号は商標であり、第三者が自己の目的において使用した場合、所有者の権利を侵害することになります。

免責事項

本書のハードウェアおよびソフトウェアに関する記述と、実際の製品内容との一致については検証済みです。 しかしなお、本書の記述が実際の製品内容と異なる可能性もあり、完全な一致が保証されているわけではありません。 記載内容については定期的に検証し、訂正が必要な場合は次の版て更新いたします。

Siemens AG
Digital Industries
Postfach 48 48
90026 NÜRNBERG
ドイツ

A5E47941015-AA
℗ 09/2019 変更する権利を留保

Copyright © Siemens AG 2019.
無断複写・転載を禁じます

目次

1 WinCC V7.5 SP1 インストール/リリースノート 9

1.1 WinCC インストールの注意事項 9
1.1.1 WinCC インストール説明書 9
1.1.2 納入範囲 9
1.1.3 SIMATIC WinCC:製品の互換性およびサポートされている機能 11
1.1.4 ライセンスとライセンス供与 12
1.1.5 ASIA ライセンスの有効化とテスト 15
1.1.6 WinCC インストールの必要条件 18
1.1.6.1 WinCC インストールの前提条件 18
1.1.6.2 WinCC のインストールのハードウェア要件 20
1.1.6.3 WinCC のインストールのソフトウェア要件 22
1.1.6.4 WinCC 用 Microsoft SQL Server 29
1.1.6.5 データとシステムのセキュリティに関する注 30
1.1.6.6 オペレーティングシステムのアクセス権 34
1.1.6.7 Windows セキュリティポリシーの適合方法 40
1.1.7 WinCC のインストール 41
1.1.7.1 WinCC のインストール 41
1.1.7.2 Microsoft メッセージキューのインストール方法 43
1.1.7.3 WinCC のインストール方法 44
1.1.7.4 追加コンポーネントを後でインストールする方法 49
1.1.7.5 追加言語をインストールするには 50
1.1.7.6 WinCC の自動インストールの設定 51
1.1.8 WinCC のアンインストール 54
1.1.9 WinCC のアップグレード 56
1.1.9.1 WinCC のアップグレード 56
1.1.9.2 アップグレードインストールの実行方法 57
1.1.10 概要:操作に関する注記 59

1.2 WinCC リリースノート 61
1.2.1 リリースノート 61
1.2.2 操作上の注記 61
1.2.2.1 操作上の注記 61
1.2.2.2 Windows オペレーティングシステムに関する情報 64
1.2.2.3 データベースシステムに関する情報 69
1.2.2.4 ネットワークテクノロジと USP に関する情報 70
1.2.3 WinCC に関する注意点 76
1.2.3.1 WinCC および設定に関する一般情報 76
1.2.3.2 WinCC CS に関する情報 81
1.2.3.3 WinCC Runtime に関する情報 84
1.2.3.4 スマートツールに関する情報 86

1.2.3.5 プロセス通信に関する情報 ... 87
1.2.3.6 リモートアクセスとリモートデスクトッププロトコル(RDP) ... 89
1.2.4 WinCC 冗長性に関する注記 ... 92
1.2.5 プロセスコントロールオプションに関する注記 ... 93

1.3 WinCC/接続性パックのインストールノート ... 96
1.3.1 Connectivity Pack ライセンス ... 96
1.3.2 Microsoft メッセージキューのインストール方法 ... 96
1.3.3 接続性パックサーバーのインストール ... 98
1.3.4 接続性パッククライアントのインストール ... 99

1.4 WinCC/接続性パックのリリースノート ... 101
1.4.1 接続性パックに関する情報 ... 101

1.5 WinCC/DataMonitor インストールノート ... 102
1.5.1 DataMonitor のインストールの必要条件 ... 102
1.5.2 DataMonitor クライアントをインストールするユーザー権限 ... 105
1.5.3 インターネットインフォメーションサービス(IIS)のインストール ... 107
1.5.4 DataMonitor のインストール ... 108
1.5.5 DataMonitor のライセンス ... 111

1.6 WinCC/DataMonitor リリースノート ... 115
1.6.1 DataMonitor についての注記 ... 115

1.7 WinCC/WebNavigator インストールノート ... 118
1.7.1 WebNavigator インストールに関する一般情報 ... 118
1.7.2 WebNavigator インストールの必要条件 ... 119
1.7.2.1 WebNavigator のハードウェアとソフトウェア要件 ... 119
1.7.2.2 WebNavigator のライセンス ... 122
1.7.2.3 ターミナルサービス使用の要件 ... 126
1.7.3 WebNavigator サーバーのインストール ... 127
1.7.3.1 概要:WebNavigator サーバーのインストール ... 127
1.7.3.2 インターネットインフォメーションサーバー(IIS)のインストール ... 128
1.7.3.3 WebNavigator サーバーのインストール ... 130
1.7.4 WebNavigator クライアントのインストール ... 131
1.7.4.1 WebNavigator クライアントのインストール ... 131
1.7.4.2 WebNavigator クライアントのユーザー権限およびユーザーグループ ... 135
1.7.4.3 Internet Explorer の設定(WebNavigator クライアント) ... 137
1.7.4.4 DVD からのインストール(WebNavigator クライアント) ... 139
1.7.4.5 イントラネット/インターネットによるインストール(WebNavigator クライアント) ... 139
1.7.5 WebNavigator 診断クライアントのインストール ... 141
1.7.6 WebNavigator デモプロジェクト ... 142
1.7.7 WebNavigator のアンインストール ... 143

1.8 WinCC/WebNavigator リリースノート ... 145
1.8.1 WebNavigator について ... 145

1.9 WinCC/WebUX ... 153
1.9.1 WebUX のライセンス ... 153

1.9.2 通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書 155
1.9.3 WebUX のインストール 157
1.9.4 WebUX Web サイトの構成 160

1.10 サービスとサポート 163
1.10.1 警告 163
1.10.2 GDPR - 一般情報保護規定 166
1.10.3 カスタマサポート 168
1.10.4 サポートリクエスト 170

2 WinCC/WebNavigator 175

2.1 WinCC/WebNavigator のご使用にあたって 175
2.1.1 はじめての Web プロジェクト 175
2.1.2 WinCC プロジェクトの設定 177
2.1.2.1 プロセス画像の発行 177
2.1.2.2 WebNavigator クライアントのユーザーの管理 183
2.1.3 WebNavigator サーバーの設定 185
2.1.3.1 デモプロジェクトの起動 185
2.1.3.2 WebNavigator Web ページの設定 185
2.1.3.3 ファイアウォールの設定 188
2.1.3.4 有効化した Web ページの確認 190
2.1.4 WinCC プロジェクトの操作 191
2.1.4.1 Internet Explorer での WinCC プロジェクトの操作 191
2.1.4.2 WinCCViewerRT を使用した WinCC プロジェクトの操作 193
2.1.5 新規プロセス画像の作成およびそのクライアントでの表示 198
2.1.5.1 新規プロセス画像の作成 198
2.1.5.2 新規プロセス画像の Web への設定 201
2.1.5.3 WebNavigator クライアントでのプロセス画像の表示 202

2.2 WinCC/WebNavigator 文書 205
2.2.1 機能の概要 205
2.2.2 WinCC/WebNavigator の使用可能なアプリケーション 207
2.2.2.1 WinCC サーバー上の WebNavigator サーバー 207
2.2.2.2 WinCC と WebNavigator サーバーの分離 208
2.2.2.3 専用 Web サーバー 211
2.2.2.4 WinCCViewerRT 212
2.2.2.5 WebNavigator 診断クライアント 213
2.2.2.6 端末サービスと WebNavigator 214
2.2.3 WebNavigator システムの設定 215
2.2.3.1 設定ステップの概要 215
2.2.3.2 WinCC プロジェクトの設定 216
2.2.3.3 WebNavigator サーバーの設定 239
2.2.3.4 WinCC 基本システムとの相違 255
2.2.4 WinCC プロジェクトの操作 260
2.2.4.1 WebNavigator クライアントの全般プロパティ 260

2.2.4.2 WebNavigator クライアントのプロセス画像 262
2.2.4.3 Internet Explorer での WinCC プロジェクトの操作 264
2.2.4.4 WinCCViewerRT を使用した WinCC プロジェクトの操作 268
2.2.4.5 [ハードコピー]ファンクションの使用 274
2.2.4.6 "Status.html"による接続の診断 276
2.2.5 WinCC Plug-In Builder のインストール 280
2.2.5.1 WinCC Plug-In Builder の概要 280
2.2.5.2 プラグインを公開する方法 282
2.2.6 WebNavigator の端末サービスの設定 284
2.2.6.1 端末サービスを使用する通信 284
2.2.6.2 端末サービスのセットアップ 285
2.2.6.3 Windows サーバーで端末サービスを有効にする 285
2.2.6.4 端末サーバーにアクセスするユーザーの作成 286
2.2.6.5 端末クライアントでの端末サーバーの起動 286
2.2.7 付録 287
2.2.7.1 トラブルシューティング 287
2.2.7.2 ファンクション 291

3 WinCC/DataMonitor 307

3.1 WinCC/DataMonitor のご使用にあたって 307
3.1.1 DataMonitor 307
3.1.2 準備 308
3.1.3 DataMonitor システムの構成 309
3.1.3.1 Windows のユーザーの定義 309
3.1.3.2 DataMonitor に対するユーザーの管理 312
3.1.3.3 DataMonitor Web ページの設定 314
3.1.3.4 ファイアウォールの設定 316
3.1.3.5 Web View Publisher を使って WinCC プロセス画像を発行する方法 317
3.1.4 DataMonitor クライアントでの作業 325
3.1.4.1 Internet Explorer のセキュリティ設定 325
3.1.4.2 DataMonitor クライアントの DataMonitor スタートページ 327
3.1.5 WinCCViewerRT での作業 329
3.1.5.1 WinCCViewerRT の設定 329
3.1.5.2 画像の表示 333
3.1.6 DataMonitor の使用 334
3.1.6.1 接続と言語設定 334
3.1.6.2 "Trends and Alarms"経由のプロセス値とメッセージの表示 336
3.1.6.3 Excel Workbook でのプロセス値の表示 343
3.1.6.4 "Reports"を使用したデータの出力 366
3.1.6.5 「Webcenter」での Webcenter ページの作成 378

3.2 WinCC/DataMonitor マニュアル 388
3.2.1 基本原理 388
3.2.1.1 DataMonitor 388
3.2.1.2 WinCCViewerRT 389

3.2.1.3 Webcenter 390
3.2.1.4 webpart の概要 391
3.2.1.5 トレンドおよびアラーム 392
3.2.1.6 Excel ワークブック 393
3.2.1.7 レポート 394
3.2.2 DataMonitor システムの設定 396
3.2.2.1 設定ステップの概要 396
3.2.2.2 WinCC プロジェクトを設定 397
3.2.2.3 DataMonitor システムの構成 412
3.2.2.4 DataMonitor クライアントでの作業 419
3.2.3 WinCCViewerRT での作業 423
3.2.3.1 WinCCViewerRT の設定 423
3.2.3.2 画像の表示 428
3.2.4 Webcenter での作業 429
3.2.4.1 管理 429
3.2.4.2 Webcenter に対するスタティックプロセス画面の作成 447
3.2.4.3 Webcenter ページのレイアウトテンプレートの作成 449
3.2.4.4 Webcenter ページの作成 451
3.2.4.5 Webcenter ページへの webpart の挿入 454
3.2.4.6 Webcenter ページでの webpart の設定 457
3.2.4.7 Webcenter ページとレイアウトテンプレートの削除 459
3.2.5 トレンドおよびアラームでの作業 461
3.2.5.1 プロセス値をテーブルに表示 461
3.2.5.2 プロセス値の図表示 464
3.2.5.3 メッセージをアラームテーブルに表示 466
3.2.5.4 アラームログ列名 468
3.2.5.5 メッセージの統計リスト表示 470
3.2.5.6 プロセス値の統計機能の表示 472
3.2.6 Excel ワークブックでの作業 474
3.2.6.1 Excel ワークブックの構成 474
3.2.6.2 Excel ワークブックでのプロセスデータの表示 492
3.2.6.3 アラーム属性 495
3.2.6.4 Excel ワークブックの VBA 関数 496
3.2.7 レポートの取り扱い 497
3.2.7.1 Excel ワークブックをテンプレートとして使用可能化 497
3.2.7.2 レポートツールとして、Excel ワークブックを使用できるようにする 499
3.2.7.3 レポートの設定 500
3.2.7.4 Excel Workbook を使用したレポートの表示 502
3.2.7.5 印刷ジョブを使用したレポートを作成 505

4 WinCC/WebUX 509

4.1 WebUX - 概要 509

4.2 WebUX のライセンス 513

4.3 通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書 516

4.4 WebUX のインストール 519
4.5 WebUX Web サイトの構成 522
4.6 WebUX でサポートされるファンクション 525
4.6.1 WebUX でサポートされるファンクション 525
4.6.2 サポートされているファンクション:グラフィックオブジェクト 526
4.6.3 サポートされているファンクション:WinCC コントロール 530
4.6.4 サポートされているファンクション:ダイナミック化 533
4.7 WebUX 用の WinCC プロジェクトの構成 537
4.8 WebUX の使用方法 541
4.9 付録 543
4.9.1 表現/式に関するダイナミクスダイアログの制限事項 543
5 WinCC/Cloud Connector 545
5.1 WinCC/Cloud Connector 545
5.2 ライセンシングクラウドコネクタ 547
5.3 MQTT を経由したクラウドへのデータ転送 548
5.4 WinCC タグ管理での設定 552
5.5 WinCC クラウドコネクタでの設定 554
5.6 クラウド接続の設定を指定します。 559
5.7 クラウド接続の診断 564
索引 567

WinCC V7.5 SP1 インストール/リリースノート 1

1.1 WinCC インストールの注意事項

1.1.1 WinCC インストール説明書

内容

このドキュメントには、納入範囲と、WinCC のインストールおよび操作に関する重要な情報が記載されています。

ここに記載されている情報は、マニュアルおよびオンラインヘルプに記載されている情報より優先します。

1.1.2 納入範囲

提供されるコンポーネント

WinCC V7.5 SP1 は、基本パッケージまたはアップグレードパッケージ、およびダウンロードパッケージ「OSD」(オンラインソフトウェア配送)として利用されることができます。

提供されるコンポーネントは、以下のとおりです。

コンポーネント 1)	基本/アップグレード/ダウンロードパッケージ
WinCC V7.5 SP1 DVD: • WinCC V7.5 SP1 • WinCC/WebUX • WinCC/WebNavigator • WinCC/DataMonitor • WinCC/Connectivity Pack • WinCC/Connectivity Station • SQL Server 2016 SP2 for WinCC V7.5 SP1 • SIMATIC Logon V1.6 2) • Automation License Manager V6.0 SP5 • AS-OS-Engineering V8.2 3)	X
SIMATIC NET DVD: • Simatic Net V16	X
Additional Content DVD: • SQL Server Management Studio	X
必要なライセンス	X
ライセンス証明書	X

1) インストールに関する注意事項とリリースノートのソフトウェア要件を参照してください。

2) SIMATIC Logon をインストールするとき、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。

3) 少なくとも AS-OS Engineering V8.2 Update 2 を使用してください。

注記

インストールに関する注意事項の印刷

各製品のインストールに関する注意事項は PDF ファイル形式でも提供されます。

インストールに関する注意事項とリリースノートは、WinCC DVD の"Install_and_Release-Notes"ディレクトリにあります。

Adobe Acrobat Reader V5.0 以降が必要になります。以下の URL から無償の Adobe Acrobat Reader をダウンロードできます。

- http://www.adobe.com/products/acrobat

通信ドライバ

このパッケージに同梱されている通信ドライバには追加のライセンスは必要ありません。

- Allen Bradley - Ethernet IP
- 三菱製 Ethernet
- Modbus TCP/ IP
- OPC
- OPC UA [1)]
- PROFIBUS DP
- SIMATIC 505 TCPIP
- SIMATIC S5 Ethernet Layer 4
- SIMATIC S5 Profibus FDL
- SIMATIC S5 Programmers Port AS511
- SIMATIC S5 Serial 3964R
- SIMATIC S7 Protocol Suite
- SIMATIC S7-1200、S7-1500
- SIMATIC TI Ethernet Layer 4
- SIMATIC TI Serial
- SIMOTION
- システム情報

1) WinCC OPC UA サーバーには接続性パックライセンスが必要です。

1.1.3 SIMATIC WinCC:製品の互換性およびサポートされている機能

他の SIMATIC 製品と一緒にソフトウェアを使用するには、製品バージョンの適合および必要な機能のサポートを確認する必要があります。

- 互換性ツールを使用してバージョンの互換性を確認します。
- 製品および機能に関するその他の情報に注意してください。

SIMATIC Process Historian

それぞれの場合に使用される SIMATIC Process Historian のバージョンでサポートされる機能に注意してください。詳細は SIMATIC Process Historian のドキュメントを参照してください。

PH-Ready / IS-Ready のインストール

「Process Historian / Information Server」DVD からの「PH-Ready」と「IS-Ready」をインストールします。

互換性ツール

互換性ツールを使用すると、産業オンラインサポートは、ソフトウェア製品の互換性選択を統合するため、または既存の互換性構成のチェックを行うために使用可能な機能を提供します。

下記のエントリで、互換性ツールを呼び出し、ツールの操作に関する追加情報を検索できます。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/64847781 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/64847781)

1.1.4 ライセンスとライセンス供与

はじめに

WinCC ソフトウェアは保護されているため、有効なライセンスを所持している場合に限り無制限に使用できます。WinCC が制限なく動作するには、各インストール済みのソフトウェアおよび使用するオプションに、有効なライセンスが必要です。オプションパッケージ用のライセンスは別途注文する必要があります。

ライセンスのインストールに必要なライセンスキーを受け取ります:

- ライセンスキーの入った記憶媒体として
- インターネット(オンラインソフトウェア配送)により

WinCC で使用するためにインストールされるライセンスは、記憶媒体からローカルドライブに転送され、記憶媒体では登録されません。

注記

さらに、被許諾者は、ソフトウェア(SW)に、Microsoft 社またはその関連会社によってライセンス供与されたソフトウェアが含まれていることを確認します。それによって、被許諾者は、Microsoft SQL Server とエンドユーザーとの間の追加ライセンス供与条件によって制約を受け、同条件を履行することに同意するものとします。

ライセンス条件に関する注記

インストール中に表示される付属のライセンス条件を確認します。WinCC V7.5 には V7.5 ライセンスが必要です。

SIMATIC WinCC ソフトウェアは、不正使用に対してコピープロテクトされています。ライセンスおよびライセンスの種類の詳細については、WinCC 情報システムの「ライセンシング」で参照できます。

WinCC が適切に動作するには、インストール済みのライセンスが必要になります。インストールする WinCC のライセンスがない場合、プログラムは起動時にデモモードに切り替わります。

注記

有効なライセンスなしでプロセスモードの WinCC を実行することは禁じられています。

累加的ライセンス

ライセンスの対象となるコンポーネントごとに複数のライセンスの累積は、以下のライセンスまたは以下のオプションのライセンスでのみ可能です。

- WinCC アーカイブライセンス
- WinCC/DataMonitor
- WinCC/WebNavigator
- WinCC/WebUX
- WinCC/IndustrialDataBridge
- WinCC/PerformanceMonitor
- SIMATIC Information Server

その他のライセンスを蓄積することはできません。

デモモード

1 つまたは複数のコンポーネント用のライセンスが欠落すると、WinCC はデモモードで動作します。また、プロジェクト内のプロセスタグまたはアーカイブタグが最大許可数を超えた場合も、WinCC はデモモードに切り替わります。

デモモードでは、最長 1 時間のみ WinCC ソフトウェアを無制限に使用できます。この時間を超えて WinCC を操作することはライセンス許可に違反します。

1 時間が経過すると、WinCC エクスプローラとエディタが閉じます。

ランタイムでは、システムが有効なライセンスの取得を要求します。このダイアログは 10 分毎に表示されます。

WinCC デモモードを終了するために、必要なライセンスをインストールします。

デモモードの詳細については、WinCC 情報システムの「ライセンシング」を参照してください。

Microsoft SQL Server 2016

Microsoft SQL Server データベースを使用するにはライセンスが必要です。このライセンスは、WinCC にライセンスが供与され、WinCC が適切にインストールされるときに、すぐに入手することができます。

WinCC と共にインストールされた SQL Server のライセンスは、WinCC と接続して使用する場合のみ有効です。

他の目的のためにそれを使用するには、追加のライセンスが必要です。これには、例えば、以下が含まれます。

- 社内データベースでの使用
- サードパーティ製のアプリケーションでの使用
- WinCC で提供されていない SQL アクセスメカニズムの使用

アンインストール

WinCC のアンインストール後、「WinCC」SQL サーバーインスタンスも削除する必要があります。

[コントロールパネル] > [ソフトウェア]を選択し、次に[Microsoft SQL Server 2016]を選択して削除します。

ライセンスのインストール

Automation License Manager は、ライセンスのインストールに使用できます。

ライセンスは、WinCC のインストール中またはその後にインストールできます。Automation License Manager は、Windows スタートメニューの"Siemens Automation"プログラムグループにあります。後からライセンスをインストールしたときは、コンピュータの再起動時に有効になります。

ライセンスのインストールには、以下の必要条件を満たす必要があります。

- ライセンスの入っている記憶媒体は、書き込み保護しないでください。
- RC ライセンスを設定用のライセンスサーバーにインストールできます。ライセンスをローカルドライブにインストールする必要はありません。
- ライセンスをインストールできるのは非圧縮ドライブのみです。

注記

WinCC をアンインストールしても、ライセンスはシステムにインストールされたまま残ります。

1.1.5 ASIA ライセンスの有効化とテスト

概要

WinCC Runtime および WinCC RC (ランタイムおよび設定)のライセンスキーは、同梱のライセンス記憶媒体「License Key USB Hardlock」に入っています。

ライセンス許諾された ASIA バージョンは、Unicode に切り替えることで、ヨーロッパバージョンと並行して実行可能です。

「License Key USB Hardlock」(ドングル)は以下の条件を確認します:

- WinCC GUI 言語
- ランタイム言語
- テキストライブラリにはアジア言語が含まれています。
- WinCC プロジェクトにはアジア文字が使用されています。
- オペレーションシステム設定

ライセンスインストールの詳細が「ライセンスおよびライセンシング」で説明されています。

注記

有効なライセンスなしでプロセスモードの WinCC を実行することは禁じられています。

インストールされた言語

新しく作成されたプロジェクトは、インストール済みの WinCC 言語およびプロジェクト言語をすべて取り込みます。

設定言語を削除

ASIA バージョンのライセンスがなく、アジアプロジェクト言語をテキストライブラリで削除すると、WinCC プロジェクトがデモモードで実行され続けます。

デモモードを無効にするには、WinCC プロジェクトを閉じます。再度開いたときに、WinCC プロジェクトが ASIA バージョンに対してライセンスを必要としなくなったことが認識されます。

ライセンスの正当性のテスト

正しくライセンスが付与された WinCC バージョンを、ドングルを接続しないで起動すると、以下のエラーメッセージが表示されます。

正しくライセンス付与された WinCC バージョンを装備したコンピュータからそのドングルを外すと、同じエラーメッセージが、数分後に表示されます。

このエラーメッセージが表示されない場合は、ライセンスのない WinCC バージョンがインストールされています。

この場合、WinCC の使用に関する権利は利用できません。この WinCC バージョンを削除して、適正な、ライセンスが付与された WinCC V7 を入手してください。

必要に応じて、WinCC サポートに連絡して、使用中のソフトウェアのバージョンのシリアル番号を伝えてください。

- http://www.automation.siemens.com/partner/index.asp (http://www.automation.siemens.com/partner/index.asp)

シリアルナンバーは Certificate of License (CoL)で入手可能です。

「License Key USB Hardlock」の取り扱い

以下の事項に注意して作業を行います。

- 「License Key USB Hardlock」ではデータを編集しないでください。
  以下の操作は許可されていません。
  - データ名の変更
  - データの削除
  - 「License Key USB Hardlock」へのデータのコピー
- 「License Key USB Hardlock」をフォーマットしないでください。
- WinCC の実行中は「License Key USB Hardlock」をパーソナルコンピュータから取り出さないでください。

通知
「License Key USB Hardlock」ドングルを取り外さないでください。 コンピュータからドングルを取り外すと、エラーメッセージが表示され、WinCC はデモモードに切り替わります。 ドングルをコンピュータに再接続すると、エラーメッセージが消えて、デモモードが解除されます。WinCC は再びライセンスモードで作動します。

下記も参照

http://www.automation.siemens.com/partner/index.asp (http://www.automation.siemens.com/partner/index.asp)

1.1.6 WinCC インストールの必要条件

1.1.6.1 WinCC インストールの前提条件

はじめに

WinCC をインストールするには、特別なハードウェアおよびソフトウェアが必要です。必要条件は、「インストールのハードウェア要件」および「インストールのソフトウェア要件」の章に記載されています。

注記

Windows オペレーティングシステム：システムで変更しないでください。

デフォルトから外れた Windows 設定は、WinCC の動作に影響することがあります。
特に次の変更を行う場合は、この注記に従ってください。
- [コントロールパネル]のプロセスおよびサービスの変更。
- Windows タスクマネージャの変更。
- Windows レジストリの変更。
- Windows セキュリティポリシーの変更。

特定の条件を満たしているかどうかの最初の検査は、WinCC のインストール時にすでに行われています。以下の条件がチェックされます。

- オペレーティングシステム
- ユーザー権限
- グラフィック解像度
- Internet Explorer
- MS メッセージキュー
- 強制完全リスタート(コールドリスタート)

エラーメッセージ

これらの条件に適合していなければ、WinCC のインストールは中止され、エラーメッセージが表示されます。表示されるエラーメッセージについての詳細は、次の表を参照してください。

エラーメッセージ	説明
インストールを正しく実行するには、コンピュータを再起動します。	コンピュータにインストールするソフトウェアが再起動を要求しています。WinCC をインストールする前に、一度再起動します。
このアプリケーションは VGA またはそれ以上の解像度を必要とします。	接続されているモニタの設定をチェックし、必要に応じてグラフィックカードをアップグレードします。
管理者権限がありません。管理者としてログオンします。	インストールを行うには、管理者権限が必要です。 管理者権限を持つユーザーとして Windows に再ログインします。
unInstallShield が有効であることが検出されました。unInstallShield を閉じ、セットアップを再起動します。	unInstallShield を閉じます。 このメッセージは、このインストールに管理者権限を持たない場合も表示されます。この場合、管理者権限を持つユーザーとして Windows に再ログインします。
Microsoft メッセージキューサービスがインストールされていません。	Microsoft メッセージキューサービスをインストールします。これをインストールするには Windows のインストール CD が必要です。詳細情報は、「Microsoft メッセージキューのインストール」のセクションを参照してください。

下記も参照

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 40)

Microsoft メッセージキューのインストール方法 (ページ 43)

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

WinCC のインストールのソフトウェア要件 (ページ 22)

WinCC のインストールのハードウェア要件 (ページ 20)

WinCC 用 Microsoft SQL Server (ページ 29)

1.1.6.2 WinCC のインストールのハードウェア要件

概要

インストールするには、特定のハードウェア設定条件を満たす必要があります。

ハードウェア要件

WinCC はすべての一般的な IBM/AT 互換 PC プラットフォームをサポートします。

WinCC が効率的に動作するために、使用するシステムの推奨仕様は以下のとおりです。

注記

逆に注記がない場合は、シングルユーザーシステムに対してもサーバーと同じ必要条件が適用されます。

		最小値	推奨値
CPU	Windows 10 (64 ビット)	デュアルコア CPU クライアント/シングルユーザーシステム 2.5 GHz	マルチコア CPU クライアント:2.7 GHz シングルユーザーシステム:2.7 GHz
	Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2016 / Windows Server 2019	デュアルコア CPU クライアント/シングルユーザーシステム/サーバー:2.5 GHz	マルチコア CPU シングルユーザーシステム/サーバー:3.5 GHz
ワークメモリ	Windows 10 (64 ビット)	クライアント:2 GB シングルユーザーシステム:4 GB	4 GB
	Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2016 / Windows Server 2019	4 GB	8 GB

		最小値	推奨値
ハードディスクの空き容量 - WinCC のインストール用 - WinCC と併用するために使用 1) 2)		インストール: ● クライアント:1.5 GB ● サーバー: > 1.5 GB WinCC での作業: ● クライアント:1.5 GB ● サーバー:2 GB	インストール: ● クライアント: > 1.5 GB ● サーバー:2 GB WinCC での作業: ● クライアント: > 1.5 GB ● サーバー:10 GB アーカイブデータベースには、追加メモリが必要なことがあります。
仮想ワークメモリ 3)		1.5 x RAM	1.5 x RAM
色の深度/色の質		256	最高(32 ビット)
分解能		800 * 600	1920*1080(フル HD)

1) プロジェクトのサイズおよびアーカイブやパッケージのサイズに依存します。

2) WinCC プロジェクトは圧縮ドライブまたはディレクトリに保存しないでください。

3) [選択したドライブのページングファイルサイズ]には、[すべてのドライブの総ページングファイルサイズ]の欄にある推奨値を使用します。[最大サイズ]フィールドのみでなく、[初期サイズ]フィールドにも推奨値を入力します。

注記

オンライン設定の場合は、推奨する必要条件は最低限の必要条件として有効です。

仮想化

以下の仮想化システムをテスト済みです。

- Microsoft Hyper-V 2012 R2 / 2016 / 2019
- VMware ESXi 6.5 / 6.7

必要条件

仮想コンピュータのパフォーマンスデータは、WinCC クライアントの最小必要条件を満たす必要があります。

WinCC を使用した仮想環境についての詳細は、以下の URL にアクセスしてください(エントリ ID=49368181)。

- インターネット: 仮想化についての FAQ (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/49368181)

下記も参照

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

WinCC のインストールのソフトウェア要件 (ページ 22)

1.1.6.3 WinCC のインストールのソフトウェア要件

はじめに

インストールには、オペレーティングシステムおよびソフトウェア設定に関する一定の必要条件を満たす必要があります。

注記

ドメインまたはワークグループの WinCC

WinCC は、ドメインまたはワークグループでの運用に対して使用できます。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、インストールできない場合があることに注意してください。こういった場合は、Microsoft メッセージキュー、Microsoft SQL Server および WinCC をインストールする前に、ドメインからコンピュータを削除します。このコンピュータに、ローカルに管理者権限でログオンします。インストールを実行します。インストールが成功した後、WinCC コンピュータを再度ドメインに登録することができます。ドメインのグループポリシーおよびドメインの制限がインストールを妨げない場合は、コンピュータをインストール中にドメインから削除しないようにします。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、運用できない場合があることにも注意してください。こういった制限に対処することができない場合は、ワークグループの WinCC コンピュータを操作します。必要に応じて、ドメイン管理者に連絡してください。

オペレーティングシステム

オペレーティングシステムの言語

以下のオペレーティングシステム言語にのみ対応する WinCC がリリースされています。

- ドイツ語
- 英語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- 中国語(簡体字、中国)
- 中国語(繁体字、台湾)
- 日本語
- 韓国語
- 多言語オペレーティングシステム(MUI バージョン)

設定

複数のサーバーを使用する場合、すべてのサーバーを同じオペレーティングシステムを使用して操作する必要があります。

いずれの場合も、Windows Server 2012 R2, 2016 または 2019、一様に、Standard または Datacenter エディション。

単一ユーザーのシステムおよびクライアント

オペレーティングシステム	設定	コメント
Windows 10 [1)]	Pro Enterprise	標準インストール 64 ビット Simatic Net を使用している場合は、Simatic Net の「readme」ファイル内の情報をよくお読みください。
Windows 10 [1)]	Enterprise LTSC (Long-Term Servicing Channel)	標準インストール 64 ビット Simatic Net を使用している場合は、Simatic Net の「readme」ファイル内の情報をよくお読みください。

1) 現在リリースされている Windows 10 のビルドバージョンは、「互換性ツール」に一覧表示されています。

Windows Server 2012 R2 / 2016 / 2019 で、シングルユーザーシステム、および WinCC マルチユーザーシステムのクライアントも実行できます。

WinCC サーバー

オペレーティングシステム	設定	コメント
Windows Server 2012 R2	Standard Datacenter	64 ビット
Windows Server 2016	Standard Datacenter	64 ビット
Windows Server 2019	Standard Datacenter	64 ビット

最大 3 台の WinCC クライアントを持つ WinCC サーバー

実行するクライアントが 3 つ以下の場合は、WinCC Runtime サーバーは Windows 10 でも動作可能です。

この設定では、WinCC サービスモードはリリースされていません。

注記

WinCC/WebNavigator 用の端末サーバーのみ可能

WinCC は、Microsoft 端末サーバーでの使用には適していません。

Microsoft 端末サーバーを使用できるのは、WinCC の Web クライアントと接続しているときのみです。WinCC/WebNavigator のインストール説明書に留意してください。

ウィルススキャナ

ウイルススキャナの使用および承認されているウイルススキャナバージョンに関する情報については、WinCC リリースノートの「操作上の注意点 (ページ 61)」を参照してください。

Microsoft Windows Patches / Updates:SIMATIC 製品との互換性

SIMATIC 製品の Microsoft パッチや更新との互換性に関する最新情報に注意してください。

- FAQ 18752994 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/18752994)

Windows コンピュータ名

コンピュータ名を変更しないでください。

WinCC のインストール後は、Windows のコンピュータ名を変更しないでください。

不正な文字

以下の文字はコンピュータ名では許可されません。

- . , ; : ! ? " ' ^ ´ ` ~ _
- + = / \ ¦ @ * # $ % & § °
- ( ) [ ] { } < >
- スペース文字

以下に注意してください。

- 関連する大文字のみ
- 先頭文字は英字である必要があります。

Microsoft メッセージキューサービス

WinCC では、Microsoft メッセージキューサービスが必要です。詳細情報は、「Microsoft メッセージキューのインストール (ページ 43)」のセクションを参照してください。

Microsoft .NET Framework

WinCC をインストールする前に、.Net Framework が有効になっていることを確認してください。

Windows 10 以降	このバージョンは、SQL Management Studio のインストールに必要である可能性があります。 Microsoft .NET Framework 3.5
Windows Server 2012 R2	Microsoft .NET Framework 4.6.2 [1)]
Windows 10 / Windows Server 2016 / Windows Server 2019	Microsoft .NET Framework 4.7

1) 必要に応じて、続けてこの.NET Framework のバージョンをインストールします。

Internet Explorer - 必要条件

それぞれのオプションに関するインストールの注意事項については、WinCC オプションのブラウザ要件で確認できます。

WinCC のオンラインヘルプを開くには Microsoft Internet Explorer が必要です。推奨バージョン:

- Microsoft Internet Explorer V11.0 (32 ビット)

WinCC の HTML ヘルプをフルに使用するには、Internet Explorer の[インターネットオプション]で JavaScript を使用できるようにする必要があります。

注記

Internet Explorer を無効にしないでください。

複数のネットワークアダプタを使った操作

サーバーで複数のネットワークアダプタを使用している場合は、WinCC 情報システムの[設定] > [分散システム] > [ランタイムでのシステム動作] > [複数のネットワークアダプタを備えたサーバーを使用した通信の特殊機能]の注記をお読みください。

セキュリティポリシーの適用

オペレーティングシステムで、署名のないドライバとファイルのインストールを許可する必要があります。詳細については、「Windows セキュリティポリシーの適用」のセクションを参照してください。

注記

WinCC が起動している場合はオペレーティングシステムの更新が禁じられています。オペレーティングシステムの更新後にコンピュータを再起動します。

「パス」環境変数の確認

WinCC を起動する前に、「パス」環境変数のエントリを確認する必要があります。

プログラムによっては、環境変数に引用符を含むパスが挿入されます。こうしたパスが設定された場合、WinCC が起動しなかったり、機能を制限されることがあります。パスに引用符が含まれることで、他メーカーのソフトウェアの動作が影響を受けることもあります。

コントロールパネルで[システムプロパティ]ダイアログを開きます。[拡張]タブの[環境変数]ボタンを使用して[環境変数]ダイアログを開き、「パス」システムタグの値を表示します。

「パス」システムタグに引用符付きのパスが含まれている場合、これらのパスが最後に呼び出されるように、エントリの順序を変更します。

Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)

次のコンポーネントやオプションをインストールする前に、Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)をまずインストールする必要があります。

- WinCC OPC XML DA サーバー
- WinCC/DataMonitor
- WinCC/WebNavigator
- WinCC/WebUX

WinCC/DataMonitor、WinCC/WebNavigator および WinCC/WebUX オプションの IIS 設定については、各インストールの注意事項で確認できます。

WinCC OPC XML DA サーバー:設定の構成

Windows Server 2012 R2 / 2016 / 2019 では、関連する役割サービスの「Webserver (IIS)」役割を使用して、サーバーマネージャの設定を構成します。

以下の設定を選択します。

- Web 管理ツール:
  - IIS 管理サービス
  - IIS 管理コンソール
  - IIS 管理スクリプトとツール
  - IIS Metabasis および IIS 6 システム設定との互換性
  - IIS6 用 WMI との互換性
- [WWW サービス] > [HTTP 共通機能]または[HTTP 共有機能]:
  - 標準マニュアル
  - 静的コンテンツ

- WWW サービス > アプリケーション開発機能:
  - .NET 拡張性
  - ASP
  - ASP.NET
  - ISAPI 拡張機能
  - ISAPI フィルタ
- WWW サービス > セキュリティ:
  - 要求のフィルタリング
  - 基本認証
  - Windows 認証

注記

Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)を常に ASP.NET および ASP と共にインストールする

Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)をインストールする際には、常に ASP.NET と ASP をインストールします。

WinCC OPC XML DA サーバー:ファイアウォールの設定

WinCC OPC XML DA サーバーの Web サービスがポート:80 (HTTP)上で通信を行います。

ファイアウォールルール[WWW サービス(HTTP)]が選択されており、必要なネットワークエリアに対して有効になっていることを確認します。

下記も参照

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)

WinCC のインストール (ページ 41)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 40)

Microsoft メッセージキューのインストール方法 (ページ 43)

WinCC のインストールのハードウェア要件 (ページ 20)

WinCC 用 Microsoft SQL Server (ページ 29)

操作上の注記 (ページ 61)

FAQ 18752994 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/18752994)

1.1.6.4 WinCC 用 Microsoft SQL Server

WinCC には 64 ビットバージョンの Microsoft SQL Server 2016 SP2 が必要です。

- Microsoft SQL Server 2016 SP2 64 ビット Standard エディション
- Microsoft SQL Server 2016 SP2 64 ビット Express エディション

SQL Server は、WinCC のインストール中に、自動的に含まれます。

Microsoft SQL Server 2016 SP2

SQL Server のデータにアクセスするには、対応するユーザー権限が設定されている必要があります。「オペレーティングシステムでのアクセス権の定義 (ページ 34)」のセクションにある注記をよくお読みください。

SQL Server のライセンスに関する情報は「ライセンスとライセンシング」に記載されています。

WinCC/Connectivity Pack をインストールするときは、必要な接続性コンポーネントが Microsoft SQL Server とともにインストールされます。

SQL Server インスタンス"WinCC"

インストール中に、必要な設定を持つ新しい「WinCC」インスタンスが Microsoft SQL Server で作成されます。

このインスタンスは常に英語でインストールされます。既存の SQL Server インスタンスをインストールした言語はこれに影響しません。Service Pack が既存のインスタンスに影響を及ぼすことはありません。

WinCC 削除後の"WinCC"インスタンス

WinCC を削除しても、"WinCC" SQL Server インスタンスは削除されません。ライセンスの理由から、手動で削除します。

SQL Server Express のインストール

SQL-Express は以下の場合にインストールします。

- 「WinCC クライアント」のインストール
- WinCC V7 デモバージョンのインストール

SQL-Express をインストールするための必要条件

インストールするユーザーの Windows ユーザー名には、空白文字を含めることができません。

SQL Server Management Studio (SSMS)

SQL Server Management Studio は SQL Server のインストールの一部ではなくなります。

SQL Server Management Studio をインストールするには、付属の DVD「Additional Content」を使用してください。

SQL Server ポート番号

Microsoft SQL Server の通信のためのポート番号を手動で設定できます。

詳細情報は、以下を参照してください。

- 「特定の TCP ポートをリッスンするようにサーバーを設定 (https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/configure-windows/configure-a-server-to-listen-on-a-specific-tcp-port?view=sql-server-2017)」

下記も参照

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)

WinCC のインストールのソフトウェア要件 (ページ 22)

特定の TCP ポートをリッスンするようにサーバーを設定 (https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/configure-windows/configure-a-server-to-listen-on-a-specific-tcp-port?view=sql-server-2017)

オペレーティングシステムのアクセス権 (ページ 34)

1.1.6.5 データとシステムのセキュリティに関する注

はじめに

WinCC を使用する場合に、簡単な方法によりシステムのセキュリティを高めることができます。

追加情報は、「WinCC リリースノート」>「操作上の注意点」>「Windows オペレーティングシステムに関する情報 (ページ 64)」を参照してください。

リモートアクセスに関する情報は、「WinCC リリースノート」 > 「WinCC の注意事項」 > 「リモートアクセスとリモートデスクトッププロトコル(RDP) (ページ 89)」を参照してください。

WinCC プロジェクトフォルダの書き込みアクセス権に関する情報は、「オペレーティングシステムのアクセス権」 > 「オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)」で参照できます。

WinCC リモート通信の有効化

WinCC システムでは、インストール後に、[SIMATIC Shell]ダイアログで、デフォルトでリモート通信が無効にされます。

次の状況の場合、参加しているコンピュータのリモート通信を有効にする必要があります。

- クライアントとサーバー間通信
- 冗長システム
- WinCC オプション[WebNavigator]
  WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、リモート通信が有効にされる必要があります。

リモートアクセスを有効化するには、次の手順に従います。

1. Windows エクスプローラで SIMATIC Shell のコンテキストメニューを使用して通信設定を開きます。
2. [リモート通信]オプションを選択します。
3. ネットワークで暗号化された通信を設定します。PSK キーとポートを選択します。
4. ネットワークアダプタを選択して、必要に応じてマルチキャスト設定を行います。

ファイアウォールの設定

CCAgent または CCEServer の着信ルールを制限するには、パラメータ「リモートアドレス」を「任意」から「ローカルサブネット」に変更できます。

[セキュリティ強化機能搭載 Windows ファイアウォール]ダイアログでファイアウォールルールを編集できます。

実行中のオペレーティングシステムレイヤへのアクセスを禁止

実行中の WinCC プロジェクトでウィンドウ選択のダイアログが開いている場合は、この機能を使って Windows のオペレーティングシステムにアクセスすることができます。たとえば、データをインポートしたりファイルを選択したりすると、ウィンドウ選択のダイアログが開きます。

ユーザー管理者経由で許可チェックを実行すれば、対応する機能がプロテクトされ、オペレーティングシステムに未許可でアクセスされるのを防ぐことができます。

Windows ツールバーへのアクセスを阻止する

コンピュータのプロパティを使用して、ランタイム中に Windows タスクバーが表示されないようにすることができます。[コンピュータのプロパティ]ダイアログの[パラメータ]タブを開き、[キーの無効化]エリアのすべてのショートカットキーを無効にします。

また、Windows の[タスクバーをほかのウィンドウの手前に表示する]設定を必ず無効にしてください。

ショートカットキーの無効化

ショートカットキーを無効化したい場合は、オペレーティングシステム管理のグループポリシーを調整する必要があります。

詳細については、SIMATIC カスタマオンラインサポートのエントリ ID「44027453」の FAQ を参照してください。

- インターネット: WinCC FAQ 44027453 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/44027453)

ショートカットキー <Ctrl+Esc>

<Ctrl+Esc>ショートカットキーを無効にする場合は、ランタイム時に以下のショートカットキーも無効になります。

キーボードショートカット	機能
<Windows キー+U>	システムユーティリティプログラムマネージャ
<Shift>キーを 5 回押す	機能のロック
<SHIFT 右>キーを 8 秒間押す	打鍵の遅延
<Alt left+Shift left+Num>	キーボードマウス
<Alt left+Shift left+Print>	ハイコントラスト

注記

上記の機能は[Windows コントロールパネル]を使用して設定することができます。

この機能を WinCC Runtime を有効にする前に[Windows コントロールパネル]で有効にすると、ランタイム中ロックされません。

プラグアンドプレイサービスを無効にする

プラグアンドプレイサービスが有効になっている場合、ドライバのスキャン時に WinCC Runtime でオペレーティングシステムのメッセージが表示されることがあります。これにより、オペレーティングシステムへのアクセスが可能になります。

Windows Services Manager で「プラグアンドプレイ」サービスを無効にします。IC カードリーダーなどへのアクセスが実際に必要な場合にのみサービスを有効にしてください。

技術的実装のチェックリスト

システムの設定に関する追加情報は、「Industry Online Support」の次のドキュメントで参照できます。

- WinCC Systems: Checklist for Technical Implementation (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/)

下記も参照

Windows オペレーティングシステムに関する情報 (ページ 64)

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 40)

WinCC のインストール方法 (ページ 44)

操作上の注記 (ページ 61)

リモートアクセスとリモートデスクトッププロトコル(RDP) (ページ 89)

インターネット: WinCC FAQ (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/10805583/133000)

インターネット: WinCC FAQ 44027453 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/44027453)

インターネット: WinCC Systems - Checklist for Technical Implementation (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/)

1.1.6.6 オペレーティングシステムのアクセス権

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義

はじめに

システム保護をサポートするため、WinCC は構造化されたユーザー管理を提供します。

- システムを未許可のアクセスから保護します。
- 必要な権限を各ユーザーに割り付けます。

WinCC で作業するために、特定のフォルダにネットワーク経由でのアクセスを有効にできます。セキュリティ上の理由から、認証されたユーザーだけにこれらのフォルダに対するアクセス権を割り付ける必要があります。Windows 標準ユーザーグループや、WinCC で作成したユーザーグループ経由でアクセス権を管理します。

WinCC で指定されるアクセス権

WinCC インストール後、WinCC は、Windows ユーザーとグループの管理に、以下のローカルグループを自動的に確立します。

- 「SIMATIC HMI」
  すべてのユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。これらのメンバは、ローカルプロジェクトを作成し、このローカルプロジェクトをリモートで処理、開始、アクセスすることができます。WinCC データベースへのアクセスは、必要な最小権限(読み取り/書き込み)に限定されます。デフォルトでは、WinCC のインストールを実行するユーザー、およびローカル管理者は、このグループのメンバです。追加のメンバは、管理者が手動で追加する必要があります。
- 「SIMATIC HMI Viewer」
  このメンバには、WinCC データベースの設定データおよびランタイムデータへの読み取りアクセス権限のみがあります。このグループは主に、WinCC WebNavigator を操作するための Web 公開サービス、たとえば IIS (インターネットインフォメーションサービス)アカウント用のアカウントに使用します。
- "<インストールディレクトリ>/WinCC/aplib"フォルダにアクセスします
  インストール後、"SCRIPTFCT"という名前の"インストレーションディレクトリ/WinCC/aplib"ディレクトリで"SIMATIC HMI"ユーザーグループに対するロックが解除されます。このディレクトリには、プロジェクトスクリプト機能用の中央ライブラリが含まれます。

WinCC フォルダ共有

フォルダ共有によるアクセスでは、WinCC プロジェクトのフォルダは一般的には読み取り専用です。

Windows によるネットワークからの WinCC プロジェクトフォルダとプロジェクトデータへのアクセスは、読み取り専用です。

書き込みアクセスのためのリリースプロジェクトフォルダ

次の場合、「SIMATIC HMI」ユーザーグループには、サーバーのプロジェクトフォルダへのフルアクセスが必要です。

- WinCC/ODK を使用する場合など、スクリプトまたはオープンインターフェースによるアクセス
- マルチユーザーエンジニアリングによるアクセス
- 独自のプロジェクトのあるクライアントのアクセス
- 統合プロジェクト(SIMATIC Manager)

WinCC プロジェクトフォルダへのフルアクセスを有効にするには、[プロジェクトプロパティ]ダイアログで以下のオプションを無効にします。

- プロジェクトディレクトリが書き込み保護アクセス用にのみ共有されていること。

フルアクセスが必要なユーザーグループまたはユーザーに制限されていることを確認します。

ランタイムを有効にしている際は、オプションを変更できます。

変更はすぐに適用されます。

ユーザーグループとユーザー権限

以下の概要で、アクセス権限のある異なるユーザーグループのタスクと、これらのアクセス権を割り付けるために必要な指示が示されます。

WinCC インストール

- タスク:WinCC インストール
- 役割:設定エンジニア、管理者
- オーソリゼーション:Windows 管理者権限

- 手順:
  インストール前に、コンピュータに対するローカル管理者権限があることを確認します。
- 説明:
  WinCC のインストールにはローカル管理者権限が必要です。

操作準備

- タスク:WinCC へのアクセス
- 役割:設定エンジニア、管理者
- オーソリゼーション:パワーユーザー権限、管理者権限
- 手順:
  インストール後、管理者またはパワーユーザーとして管理設定を行います。
- 説明:
  パワーユーザー権限は、ファイル権限のオーソリゼーションやプリンタドライバ設定といった管理設定に対する最低要件になります。
  WinCC プロジェクトを完全に削除するには、少なくともパワーユーザー権限が必要です。

WinCC 操作時のローカルユーザー権限

- タスク:ランタイムのオペレータ入力、設定
- 役割:WinCC ユーザー(オペレータ、設定エンジニア)
- オーソリゼーション:
  - Windows グループ"ユーザー"
  - ユーザーグループ"SIMATIC HMI"
- 手順:
  "SIMATIC HMI"ユーザーグループにユーザーを追加します。少なくとも Windows"ユーザー"ユーザーグループにユーザーを追加します。
- 説明:
  WinCC を操作するため、あるいはクライアントおよびサーバーで WinCC プロジェクトにリモートアクセスするためには、ユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。

分散システムに対するアクセス

- タスク:分散システムに対するアクセス
- 役割:WinCC ユーザー(オペレータ、設定エンジニア)
- オーソリゼーション:すべてのコンピュータに対するユーザーグループを均一化します。
- 手順:
  同一グループ内のすべてのコンピュータに WinCC ユーザーを入力します。
  すべてのユーザーに同一パスワードを割り付けます。
- 説明:
  分散システムへのアクセスでは、クライアントサーバーに同一ユーザーグループを作成する必要があります。

ローカルプロジェクトに対するアクセス権

- タスク:以下のように作成したプロジェクトに対するアクセス:
  - 手動コピー
  - 複製
  - 検索
  - 移行
- 役割:WinCC ユーザー(オペレータ、設定エンジニア)
- オーソリゼーション: SIMATIC HMI, SIMATIC HMI Viewer
- 手順:
  "SIMATIC HMI"グループのプロジェクトフォルダにフルアクセス権を割り付けます。そのためには、管理者またはパワーユーザーとして作成後にプロジェクトを 1 度開きます。または、Windows Computer Management でアクセス権を指定できます。
  Project Duplicator を使ってプロジェクトをコピーするする場合も、適当な権限が必要になります。使用されたフォルダに対するアクセスを認めるか、メインユーザーとしてフォルダを複製する必要があります。
- 説明:
  ローカルプロジェクトが新たに作成されると、ユーザーグループ"SIMATIC HMI"および"SIMATIC HMI Viewer"のメンバはプロジェクトディレクトリに対する必要なアクセス権を自動的に受け取ります。
  ただし、プロジェクトがコピー、ログイン、あるいは移行される場合、ローカルオーソリゼーションは転送されないため、再度割り付ける必要があります。

システム情報へのアクセス権

- タスク:WinCC チャンネル"システム情報"を使用したシステム情報へのアクセス
- 役割:オペレータ
- オーソリゼーション:システムモニタユーザー
- 手順:
  Windows グループ"システムモニタユーザー"に、WinCC チャンネル"システム情報"の以下のシステム情報を
  必要とするすべてのユーザーを受け入れます。
  – CPU 負荷
  – エクスポートファイルのステータス
- 説明:

Windows の標準的なユーザー権限を有するユーザーには、特定のシステム情報へのアクセス権限はありません。

下記も参照

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 40)

WinCC のインストール方法 (ページ 44)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 18)

"SIMATIC HMI"ユーザーグループにユーザーを含める

はじめに

WinCC にアクセスが許可されるログインのローカルユーザーを、[SIMATIC HMI]グループに含めます。そうするには、最初にローカルユーザーを作成する必要があります。ドメインのユーザーを、ユーザーグループ[SIMATIC HMI]に直接含めることもできます。

WinCC/WebNavigator:Web クライアントのユーザー

WebNavigator クライアントを WinCC パーソナルコンピュータにインストールするときは、Web クライアントのユーザーもユーザーグループ[SIMATIC HMI]または[SIMATIC HMI VIEWER]に含める必要があります。

手順

1. Windows のワークステーション管理を開きます。
2. [ローカルユーザーとグループ>ユーザー]エントリをナビゲーションウィンドウで選択します。すべてのローカルユーザーがデータウィンドウに表示されます。
3. ショートカットメニューから[新規ユーザー]ダイアログを開きます。
WinCC へのアクセス権限のある各ユーザーと同じログインのユーザーアカウントを作成します。
4. [ローカルユーザーとグループ>グループ]エントリをナビゲーションウィンドウで選択します。すべてのグループがデータウィンドウに表示されます。
[SIMATIC HMI]グループを選択します。
5. ショートカットメニューを使用し、[メンバの追加]ダイアログを開き、上記のユーザーを[SIMATIC HMI]ユーザーグループのメンバとして含めます。

"SIMATIC HMI"ユーザーグループに、ドメインのグローバルユーザーグループを含める

はじめに

ドメインの操作中に、追加のドメインのグローバルユーザーグループを作成し、"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバとして含めることもできます。

必要条件

- ドメイン管理者が、ドメインのグローバルユーザーグループを作成します。
- ドメイン内で、ドメイン管理者が、ログインすると WinCC へのアクセスが許可されるドメインのユーザーを含めます。

手順

1. Windows のワークステーション管理を開きます。
2. ナビゲーションウィンドウで、[ローカルユーザーとグループ|グループ]エントリを選択します。 データウィンドウに、グループがすべて表示されます。 グループ"SIMATIC HMI"を選択します。
3. ポップアップメニューを使用し、[メンバの追加]ダイアログを開き、ドメイングローバルユーザーグループを"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバとして含めます。

"SIMATIC HMI"ユーザーグループの既存のプロジェクトをリリースします。

はじめに

ユーザーグループ"SIMATIC HMI"に既存のユーザーグループへのアクセス権がある場合は、最初にプロジェクトの既存のリリースを削除する必要があります。 WinCC Explorer を開いたときに、プロジェクトは再度リリースされます。

手順

1. Windows のワークステーション管理を開きます。
2. ナビゲーションウィンドウで、エントリ[共有フォルダ|共有]を選択します。 データウィンドウに、ロックされていないディレクトリがすべて表示されます。
3. それぞれのプロジェクトディレクトリを選択し、[共有のキャンセル]ポップアップメニューによって有効を削除します。
4. ここで、WinCC にこのプロジェクトを開くと、"SIMATIC HMI"ユーザーグループに対して自動的にプロジェクトディレクトリのロックが解除され、そのディレクトリへのアクセスがユーザーグループのすべてのメンバに許可されます。

注記

WinCC でロックされていないディレクトリの有効な名前は変更する必要はありません。

1.1.6.7 Windows セキュリティポリシーの適合方法

はじめに

WinCC をインストールする前に、以下のオペレーティングシステム設定を検査します。

- システムで、署名のないドライバとファイルのインストールを許可する必要があります。

手順

1. Windows 入力フィールドを開くには、[Windows システム]プログラムグループの[ファイル名を指定して実行]エントリを選択します。
2. 入力ボックスに"gpedit.msc"と入力します。
   [ローカルグループポリシーエディタ]ダイアログボックスが開きます。

3. [ローカルコンピュータのポリシー]のウィンドウの左のセクションで、[コンピュータの設定] > [管理テンプレート] > [システム] > [デバイスのインストール] > [デバイスのインストール制限]を選択します。
4. 以下のセキュリティポリシーの設定を確認します。
   – [ポリシーによってインストールが阻止された場合にカスタムメッセージを表示する(バルーンテキスト)]
   – [ポリシーによってインストールが阻止された場合にカスタムメッセージを表示する(バルーンタイトル)]

   [未設定]が、ポリシーに設定されている必要があります。

下記も参照

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)

WinCC のインストールのソフトウェア要件 (ページ 22)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 18)

1.1.7 WinCC のインストール

1.1.7.1 WinCC のインストール

はじめに

このセクションでは WinCC のインストールについて説明します。

WinCC をインストールする前に MS メッセージキューをインストールします。

WinCC ファイルサーバーのインストール

プロジェクトデータのアーカイブ専用として使用する WinCC サーバーを設定する場合には、インストールが必要なのは WinCC ファイルサーバーのみです。WinCC 情報システムでより多くの情報が「設定 > ファイルサーバー」のセクションに記述されています。

注記

管理者権限でのみ使用

ファイルサーバーを使用する場合は、管理者権限が必要です。

ファイルサーバーのインストール必要条件

WinCC V7 と WinCC ファイルサーバー V7 を、1 台のコンピュータに同時にインストールすることはできません。

WinCC オプションのインストール

WinCC DVD には次のオプションがあります。

- WinCC/Connectivity Pack / Connectivity Station
- WinCC/DataMonitor
- WinCC/WebNavigator
- WinCC/WebUX

これらのオプションには独自のライセンスが必要です。

後日 WinCC オプションを購入する場合は、必要なライセンスが記述されているライセンスデータキャリアを受け取ります。インストール DVD は供給されません。インストール用 WinCC DVD を使用します。

下記も参照

WinCC のアップグレード (ページ 56)

追加コンポーネントを後でインストールする方法 (ページ 49)

WinCC のインストール方法 (ページ 44)

Microsoft メッセージキューのインストール方法 (ページ 43)

WinCC のインストールのハードウェア要件 (ページ 20)

1.1.7.2 Microsoft メッセージキューのインストール方法

はじめに

WinCC は、Microsoft のメッセージキューサービスを実行します。これはオペレーティングシステムのコンポーネント部分です。

ただし、MS メッセージキューは、標準の Windows インストールに含まれていないため、必要に応じて別途インストールする必要があります。

注記

WinCC は、ドメインまたはワークグループでの運用に対して使用できます。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、インストールできない場合があることに注意してください。この場合は、Microsoft メッセージキュー、Microsoft SQL Server 2016 および WinCC をインストールする前に、ドメインからコンピュータを削除します。このコンピュータに、ローカルに管理者権限でログオンします。インストールを実行します。インストールが成功した後、WinCC コンピュータを再度ドメインに登録することができます。ドメインのグループポリシーおよびドメインの制限がインストールを妨げない場合は、コンピュータをインストール中にドメインから削除しないようにします。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、運用できない場合があることにも注意してください。こういった制限に対処することができない場合は、ワークグループの WinCC コンピュータを操作します。

必要に応じて、ドメイン管理者に連絡してください。

手順 - Windows 10

1. [コントロールパネル] > [プログラムと機能]の順に選択します。
2. 左側のメニューバーで[Windows の機能の有効化または無効化]ボタンをクリックします。
   [Windows の機能]ダイアログが開きます。
3. [Microsoft メッセージキュー(MSMQ)サーバー]コンポーネントを有効化します。
   [Microsoft メッセージキュー(MSMQ)サーバーコア]エントリが選択されます。
   サブコンポーネントは無効にされたままになります。
4. [OK]で確認します。

手順 Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2016 / Windows Server 2019

1. サーバーマネージャーを起動します。
2. [役割と機能の追加]をクリックします。
   [役割と機能の追加]ウィザードウィンドウが開きます。

3. ナビゲーションエリアで[サーバーの選択]をクリックします。
   現在のコンピュータが選択されていることを確認します。
4. ナビゲーションエリアで[機能]をクリックします。
5. 以下のオプションを選択します。
   – [メッセージキュー]
   – 下の[メッセージキューサービス]オプション
   – 下の[メッセージキューサーバー]オプション
6. [インストール]をクリックします。

下記も参照

WinCC のインストール方法 (ページ 44)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 18)

1.1.7.3 WinCC のインストール方法

はじめに

このセクションでは、WinCC のインストール方法と実行方法について説明します。

既にインストールされているコンポーネントが、セットアップ中に表示されます。以下のシンボルを使用します。

シンボル	意味
✔	現在のプログラムバージョンがインストールされています。
↗	プログラムが更新されています。
⚠	プログラムのセットアップ条件が満たされていません。詳細については、シンボルをクリックしてください。
☐	プログラムを選択できます。
☑	インストール用に選択されたプログラム。
▢	プログラムが選択できません(他のプログラムに依存するため)。
☑	インストール用に選択されたプログラム(選択解除できません)。

インストールの範囲

WinCC のカスタムインストール時に次のオプションを選択できます。

標準	• WinCC Runtime • WinCC CS • 基本プロセスコントロール • SQL Server
完全	「標準」には次が含まれます: • OPC サーバー • SmartTools
エキスパートモード	カスタムインストール: 「WinCC Expert」で個別のコンポーネントの選択または選択解除ができます。
ファイルサーバー	• WinCC ファイルサーバー • SQL Server
WinCC クライアント 1)	• WinCC Runtime • WinCC CS • 基本プロセスコントロール • SQL Express

1) 「WinCC クライアント」をインストールするとき、「RT クライアント」または「RC クライアント」のクライアントライセンスが必要です。

後でコンポーネントや言語をインストールまたは削除することもできます。詳細については、「追加コンポーネントを後でインストールする方法 (ページ 49)」および「追加言語をインストールするには (ページ 50)」のセクションを参照してください。

必要なドライブ容量はインストールしたコンポーネントによって異なります。見積り値がステータスバーに表示されます。

WinCC リモート通信

デフォルトでは、インストール後はリモートアクセスが無効になります。

冗長システムまたはクライアント-サーバーシステムを使用する場合、例えば、SIMATIC Shell 設定でリモート通信を有効にします。

追加情報は、「データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)」を参照してください。

WinCC オプションのインストール

WinCC 自体のインストール中に、必要なオプションをインストールできます。

オプションに関する資料の中には、関連するオプションパッケージをインストールした場合のみ使用できるものもあります。

以前のバージョンの WinCC プロジェクトが開かれた際の自動移行

WinCC V7.5 SP1 以前で作成されたプロジェクトを開いているときに、設定データとランタイムデータが自動的に移行されます。

画像やライブラリは、プロジェクトマイグレータを使用し変換するか、WinCC エクスプローラを使用して手動で変換します。

移行の詳細情報については、WinCC 情報システムの「はじめに」 > 「移行」を参照してください。

必要条件

- Windows 更新など、コンピューター上で同時に他のセットアップが実行されていないことを確認してください。
- WinCC のインストールにはローカル管理者権限が必要です。
  WinCC の操作に必要なユーザー権限の情報は、「データとシステムのセキュリティに関する指示」のセクションを参照してください。
- コンピュータ名に含めることができるのは文字のみです。
- Windows コンポーネント"MS メッセージキュー"サービスがインストールされている必要があります。
- Windows セキュリティポリシーを適用します。
- "WinCC"の名前付きで手動作成された SQL Server エンティティはインストールされない場合があります。
- ライセンス付き記憶媒体は、まだインストールコンピュータに接続されていません。
- WinCC から OPC-XML-DA-Server を使用する場合、OPC-XML-DA-Server のインストール前に Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)をインストールします。

以下のオペレーティングシステム言語に対応する WinCC がリリースされています。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、中国語(簡体字、中華人民共和国)、中国語(繁体字、台湾)、日本語、韓国語および多言語オペレーティングシステム。

注記

インストールの必要条件に達しない場合

管理者権限無しで WinCC セットアップを実行したり、他のセットアップ条件が満たされない場合には、エラーメッセージが出力されます。

エラーメッセージに関する詳細情報は、「WinCC インストールの前提条件 (ページ 18)」を参照してください。

手順

1. WinCC 製品 DVD を起動します。
   - オペレーティングシステムで自動実行が有効化されている場合は、DVD が自動的に起動します。
   - 自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. 画面の指示に従います。
   ライセンス契約とオープンソースライセンス契約を読んでください。
3. インストールする言語を選択します。
   後で別の言語をインストールすることもできます。
4. セットアップタイプとして[インストール]を選択します。
   古い WinCC バージョンが見つかった場合、[更新]セットアップタイプを有効にすることもできます。ただし、これはどんな追加の製品をインストールすることも許可しません。
5. セットアップのモードを選択します。
6. [パッケージのインストール]で、プログラムパッケージ[WinCC のインストール]を選択します。
   - WinCC オプションもインストールする場合、対応するプログラムパッケージを選択します。
   - WinCC クライアントのみをインストールする場合は、[WinCC クライアントのインストール]を選択してください。
   - [ユーザー定義インストール]でインストールの範囲を選択します。

   セットアップでインストールするコンポーネントがハイライトされます。
   表示されたシンボルの説明については、ヘルプをクリックします。[Readme]をクリックして、情報システムを開きます。
7. Microsoft SQL Server のライセンス契約を読みます。
8. インストールする前に、WinCC に適用したセキュリティ設定が[システム設定]ダイアログに表示されます。ファイアウォールは、自動的に設定されます。
   システム設定への変更を確定します。

9. インストールを開始します。
   表示されているダイアログでインストール状況を追跡できます。現在のコンポーネントのインストールをキャンセルするには、[キャンセル]を選択します。
10. コンポーネントをインストールした後で、製品のライセンスキーを転送できます。
    転送するには、[ライセンスキーの転送]をクリックします。
    ライセンスキーが既に転送されている場合やライセンスキーを後でインストールする場合は、[次へ]を選択します。

    注記

    ライセンスの転送

    ライセンスキーは、自動的には転送されません。不足しているライセンスキーは、インストール中またはインストール後に、Automation License Manager を使用して転送する必要があります。

11. コンピュータを再起動し、インストールを完了します。

「Siemens Automation」プログラムグループでのエントリ

WinCC をインストールすると、「Siemens Automation」プログラムグループに新しいエントリが作成されます。

- WinCC エクスプローラの起動:
  - WinCC Explorer
- WinCC で動作するエディタおよびツール:
  - Autostart
  - Channel Diagnosis
  - Cross Reference Assistant
  - Dynamic Wizard Editor
  - Project Duplicator
  - Project Migrator
  - WinCC Documentation Viewer
  - WinCC TAG Simulator
- WinCC 内の文書:
  - Documentation > Manuals

  WinCC およびインストール済みの WinCC オプションのオンラインヘルプを開くには、言語フォルダで[WinCC Information System]リンクをクリックします。
  印刷バージョンの WinCC 情報システム:
  - PDF ファイルは、「WinCC > Documents」下のインストールパスにあります。

- ライセンスの管理:
  - Automation License Manager
  - License Analysis
- カスタマイズセキュリティ設定表示用のセキュリティコントローラ
  - Security Controller
- インストールされた SIMATIC ソフトウェアとコンポーネントの概要:
  - Inst. Software
- 提供された WinCC オプションで動作するエディタおよびツール:
  - PdlPad
  - PublishingWizard
  - WebConfigurator
  - WinCC Archive Connector
  - WinCC DataMonitor Configurator Export
  - WinCC WebUX Configuration manager
  - WinCCViewerRT

  エントリは、インストールされたオプションによって異なります。

下記も参照

WinCC のアップグレード (ページ 56)

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 34)

Microsoft メッセージキューのインストール方法 (ページ 43)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 40)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 18)

1.1.7.4 追加コンポーネントを後でインストールする方法

はじめに

WinCC のインストールを完了すれば、追加コンポーネントやオプションは後日インストールできます。

WinCC オプションのインストール

WinCC DVD には以下の WinCC オプションがあります。

- WinCC/Connectivity Pack / Connectivity Station
- WinCC/DataMonitor
- WinCC/WebNavigator
- WinCC/WebUX

これらのオプションには独自のライセンスが必要です。

後日 WinCC オプションを購入する場合は、必要なライセンスが記述されているライセンスデータキャリアを受け取ります。インストール DVD は供給されません。

インストール用 WinCC DVD を使用します。

手順

1. WinCC 製品 DVD を起動します。
   自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. 個別のコンポーネントやオプションをインストールするかどうかを指定します。すでにインストールされているコンポーネントが表示されます。
3. 画面の指示に従います。

スマートツールのインストールパス

WinCC DVD の以下のパスから、スマートツールのセットアップを実行します：

- "Instdata\Smarttools\Setup\Setup.exe"

下記も参照

WinCC インストールの前提条件 (ページ 18)

WinCC のインストール方法 (ページ 44)

1.1.7.5 追加言語をインストールするには

はじめに

WinCC をインストールした後で、追加の言語をインストールできます。

手順

1. [コントロールパネル]で[プログラムと機能]エントリを開きます。
2. [SIMATIC WinCC Runtime V7.5 SP1]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。
   WinCC セットアッププログラムが開きます。
3. 希望する言語を選択します。
4. プロンプトに従って、WinCC 製品 DVD を DVD ドライブに挿入します。
   自動実行機能により DVD の開始ページが開くので、[終了]をクリックしてウィンドウを閉じます。
5. 画面に表示される指示に従ってください。
6. WinCC CS をインストールしたら、[SIMATIC WinCC Configuration V7.5 SP1]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。
   WinCC CS について手順 3～5 を繰り返します。
   この手順を、追加してインストールされるあらゆるコンポーネントおよびオプションに対して繰り返します。

1.1.7.6 WinCC の自動インストールの設定

「集中型インストール」機能

自動インストールの設定

WinCCon を複数のパーソナルコンピュータにインストールするときは、集中型インストールを実行します。

集中型セットアップストレージ:パスの長さに注意

セットアップを中央に保存し、ネットワークドライブから起動するとき、フォルダ名はできるだけ短くしてください。

ドライブ名、ファイルフォルダおよびセットアップファイルのパス長は最大で 255 文字です。

レコード機能

レコード機能は、同一オプションの異なるコンピュータ上に存在する複数のインストールに対応します。

セットアップ中、レコード機能は設定を記録し、インストール手順をサポートする「Ra_Auto.ini」インストールファイルを作成します。

以前はインストール毎にすべてのセットアップダイアログを確認する必要がありましたが、今では「Ra_Auto.ini」コントロールファイルでセットアップを開始するのみです。

レコード機能の使用条件

- 集中型インストールは、そのとき利用可能な各セットアップバージョンでのみ実行できます。
  WinCC の集中型インストールは、後続の更新またはオプションのインストールに影響しません。
- インストールの[エキスパートモード]の範囲は、自動インストールに使用することはできません。
  エキスパートモードでは、レコード機能を使用してインストール設定を保存してある場合でも、各製品に対してインストールダイアログが開きます。

手順の概要

集中型インストールには、以下のステップが必要です。

1. レコード機能を呼び出し、「Ra_Auto.ini」コントロールファイルを作成します。
2. 集中型インストールを開始します。

中央インストールのレコード機能の呼び出し

集中型インストールのすべての情報を含む"Ra_Auto.ini"コントロールファイルを作成するには、レコードファンクションを使用します。

オペレーティングシステムへの依存性

それぞれのオペレーティングシステムバージョンのために別々に集中型インストールを実行します。

コントロールファイルは、同じオペレーティングシステムのバージョンが実行されているパーソナルコンピュータのみで実行できます。WinCC のインストール中に、インストールするオペレーティングシステムに依存する、Microsoft アップデートがインストールされます。

自動インストールのインストール範囲

インストールの[エキスパートモード]の範囲は、自動インストールに使用することはできません。

他の使用可能なインストール方法のいずれかを選択します。例、[標準]または[WinCC クライアント]。

必要条件

- ご使用のパーソナルコンピュータには管理者権限が必要です。

手順

1. Windows 入力フィールドを開くには、[Windows システム]プログラムグループの[ファイル名を指定して実行]エントリを選択します。
2. 以下のコマンド行を入力します。
   – `<Path for the installation data>\setup.exe /record`
   インストールファイルのパスとして、DVD ドライブまたはインストールデータがコピーされている集中型パーソナルコンピュータを選択します。
   設定が起動されます。
3. 希望する言語を選択し、[OK]をクリックします。
   [レコードファンクション]ダイアログが表示されます。
4. レコードファンクションを有効にします。
5. "Ra_Auto.ini"コントロールファイルを作成するパスを選択し、[次へ]をクリックして確認します。
6. 必要なコンポーネントとインストール設定を選択します。
   設定が完了したり、「レコーディング完了」メッセージが表示されます。

結果

"Ra_Auto.ini"コントロールファイルが作成され、選択したパスに保存されます。

集中型インストールおよび"Ra_Auto.ini"ファイルの作成には、同じセットアップバージョンを使用する必要があります。

集中型インストールの開始

WinCC システムをパーソナルコンピュータに集中型インストールを行うには、自動インストールを起動します。

"Ra_Auto.ini"コントロールファイルの設定がプロセスに適用されます。

必要条件

- レコードファンクションを使用して、"Ra_Auto.ini"ファイルを作成していること。
  "Ra_Auto.ini"ファイルが既存の設定バージョンで作成されていること。
- 同じオペレーティングシステムがパーソナルコンピュータにインストールされていること。

手順

1. 必要に応じて、設定を集中型サーバーまたはパーソナルコンピュータにコピーします。
2. "Ra_Auto.ini"ファイルをインストールするパーソナルコンピュータの"C:\Windows"フォルダにコピーします。
3. 以下の自動インストールを呼び出すことで集中型インストールを開始します:
   – `<Path for the installation data>\setup.exe /silent`
   集中型インストールが問題なく完了した場合は、メッセージが表示されます。

   注記

   インストール中にエラーまたは不一致が発生した場合は、確認が必要なメッセージが表示されます。

4. 必要な各コンピュータについて、この処理を繰り返します。

別の手順

"Ra_Auto.ini"ファイルが"C:\Windows"フォルダで見つからない場合は、以下の呼び出しで集中型インストールを開始します:

- `<Path for the installation data>\setup.exe /silent=<storage path>\Ra_Auto.ini`

1.1.8 WinCC のアンインストール

はじめに

コンピュータ上で、WinCC を完全に削除することも、個々のコンポーネントだけを削除することもできます。個々の言語を削除することはできません。

WinCC 製品 DVD を使って削除するか、オペレーティングシステムのコントロールパネルから削除することができます。

手順:WinCC 製品 DVD を介するアンインストール

1. WinCC 製品 DVD を起動します。
   オペレーティングシステムで自動実行が有効化されている場合は、DVD が自動的に起動します。
   自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. 画面の指示に従います。
3. セットアップタイプとして[削除]を選択します。
4. 削除するコンポーネントを選択します。

その他の手順:コントロールパネルを介するアンインストール

1. Windows のコントロールパネルで、[プログラムのアンインストールと変更]ダイアログを開きます。
2. 目的のエントリを選択します。
   インストールされている WinCC コンポーネントには、必ず「SIMATIC WinCC」が先頭に付いています。
3. ショートカットメニューから、[アンインストール]または[変更]オプションを選択します。
   WinCC バージョンを削除する前にインストールされた WinCC オプションを削除してください。

Microsoft SQL Server 2016

WinCC のアンインストール後、「WinCC」SQL サーバーインスタンスも削除する必要があります。

[プログラムのアンインストールと変更]ダイアログで、削除する[Microsoft SQL Server 2016]エントリを選択します。

Microsoft SQL Server 2016 を使用できるのは、有効なライセンスを所有している場合に限られます。

Automation License Manager / MS Update

WinCC を削除しても、他の SIMATIC 製品で必要になる可能性のある以下のプログラムはインストールされたままです。

- Automation License Manager
- MS Update V1.0 SP1

WinCC の削除後、WinCC の以前のバージョンをインストールするには、これらのプログラムも削除する必要があります。

[プログラムのアンインストールと変更]ダイアログで、削除する対応エントリを選択します。

WebNavigator クライアントがインストールされている時の削除

WebNavigator クライアントがインストールされているコンピュータから WinCC を削除する場合、削除後に WebNavigator クアイアントを再インストールする必要があります。

Windows イベントビューアの設定の変更

WinCC をインストールすると、WinCC セットアッププログラムにより Windows イベントビューアの設定が変更されます。

- 最大ログサイズ(システムログ/ユーザーログ):
  1028 KB
- ログの延長(システムログ/ユーザーログ):
  [イベントを上書き]
  (初期設定:7 日より古いイベントを上書きする)

WinCC を削除しても、設定はリセットされません。

Windows イベントビューワを使えば、この設定を自分で変更することができます。

1.1.9 WinCC のアップグレード

1.1.9.1 WinCC のアップグレード

はじめに

アップグレードインストールを使用して、バージョン WinCC V6.2 SP3 から WinCC V7.5 SP1 以降にアップグレードすることができます。

「インストールのアップグレード」のセクションに従って実行します。

注記

アップグレードをインストールする前に、パーソナルコンピュータを再起動してください。

WinCC V7.5 SP1 へのアップデートのインストールを開始する前に PC を再起動します。

アップグレードの必要条件

V7.0 SP3 以前の WinCC のバージョンからアップグレードする場合は、オペレーティングシステムの要件およびハードウェアの要件を順守してください。

WinCC バージョン V4 以降の移行に関する追加情報は、以下の URL (エントリ ID=44029132)に記載されています。

- インターネット:V4 から V7 への移動に関する FAQ (https://support.industry.siemens.com/cs/de/en/view/44029132)

プロジェクトの移行に関する情報

WinCC V7.5 SP1 で以前のバージョンのプロジェクトを開くと、移行するように求められます。ただし、単一ステップで複数の WinCC プロジェクトを移行するには、WinCC プロジェクトマイグレータを使用することもできます。

移行後にいくつかのプロジェクト設定を行う必要があります。

プロジェクトの移行に関する詳細については、「移行」のセクションを参照してください。

注記

WinCC ユーザーは、"SQLServerMSSQLUser$<COMPUTER NAME>$WINCC"ユーザーグループのメンバーである必要がなくなりました

WinCC V7.2 より前のバージョンで作成されたプロジェクトを移行する場合、このグループから WinCC ユーザーを削除します。

WinCC V7.2 より前の WinCC プロジェクトでは、"SQLServer2005MSSQLUser $<COMPUTER NAME>$WINCC"の名前の下にユーザーグループがあります。

ライセンスに関する注記

V7.5 以前の WinCC ライセンスを現バージョンにアップグレードする必要があります。

ライセンスは遡及的に更新できます。詳細については、WinCC 情報システムのトピック「ライセンス」を参照してください。

下記も参照

アップグレードインストールの実行方法 (ページ 57)

インターネット:V4 から V7 への移動に関する FAQ (https://support.industry.siemens.com/cs/de/en/view/44029132)

1.1.9.2 アップグレードインストールの実行方法

はじめに

現在 WinCC V6.2 SP3 以降がシステムにインストールされていれば、アップグレードインストールを実行できます。

アップグレードインストールを始める前に、既存プロジェクトの移行を行う必要があります。

必要条件

以前のバージョンのハードウェア設定は、ほとんどの場合 WinCC V7.5 SP1 のアップグレードインストールに十分です。

ただし、データの量が増大しすぎるとパフォーマンスが低下します。データ量が増えることが予想される場合は、適当な時期にハードウェアをアップグレードします。

注記

アップグレードをインストールする前に、パーソナルコンピュータを再起動してください。

WinCC V7.5 SP1 へのアップデートのインストールを開始する前に PC を再起動します。

アップグレードの必要条件

V7.0 SP3 以前の WinCC のバージョンからアップグレードする場合は、オペレーティングシステムの要件およびハードウェアの要件を順守してください。

WinCC バージョン V4 以降の移行に関する追加情報は、以下の URL (エントリ ID=44029132)に記載されています。

- インターネット:V4 から V7 への移動に関する FAQ (https://support.industry.siemens.com/cs/de/en/view/44029132)

アップグレードの準備

注記

WinCC プロジェクトのバックアップ

WinCC をアップグレードする前に、プロジェクトのバックアップコピーを行ってください。

アップグレードをインストールする前に、パーソナルコンピュータを再起動してください。

WinCC V7.5 SP1 へのアップデートのインストールを開始する前に PC を再起動します。

追加ステップおよび設定の調整

WinCC 情報システムの[移行]にある注意事項もよくお読みください。

特殊文字の点検

WinCC のアップグレードインストールを実行する場合には、まずアーカイブ名、アーカイブタグ名、トレンド名、トレンドウィンドウ名、列名およびテーブルウィンドウ名に使用されている特殊文字に関して、既存のプロジェクトを検査します。許可されている特殊文字の表については、「WinCC での作業｜プロジェクトでの作業｜参照」の章を参照してください。

場合によっては、WinCC V6.2 SP3 または V7.0 では、タグロギングを使用して名前から所定の特殊文字を削除する必要があります。

通知
許可されない特殊文字を使用したアーカイブの転送 アーカイブの転送時、アーカイブに使用不可能な特殊文字が含まれていると、ランタイムアーカイブが失われることがあります。

変更済み標準ファンクション(ANSI-C)

修正済みの標準関数(ANSI-C)を使用している場合は、アップグレードインストールを行う前に、ファンクションのバックアップコピーを作成します。

これらのファンクションは、WinCC のインストールの過程で、供給される標準関数によって上書きされます。

手順

1. 移行する既存の WinCC プロジェクトを準備します。
   許可されない特殊文字がないかどうか、使用されている名前を確認します。
2. WinCC V7.5 SP1 をインストールします。「WinCC のインストール方法」のセクションの説明に従って実行します。
   WinCC V7.5 SP1 のライセンスを含む記憶媒体が必要です。以前の WinCC バージョンのアップグレードしたライセンスは失われます。
3. 既存の WinCC プロジェクトを移行します。
   WinCC 情報システムの対応する[最初の情報] > [移行]のセクションを参照してください。

下記も参照

WinCC のインストール方法 (ページ 44)

インターネット:V4 から V7 への移動に関する FAQ (https://support.industry.siemens.com/cs/de/en/view/44029132)

1.1.10 概要:操作に関する注記

はじめに

問題のない操作および最適な WinCC パフォーマンスのため、Windows での操作に関する注意事項および設定に関する注意事項を順守してください。

この情報は、WinCC 情報システムの以下のセクションを参照してください。

- [リリースノート] > [操作上の注意点]
  このセクションには、ウィルススキャナの互換性および使用に関する情報が含まれています。
- [リリースノート] > [WinCC に関する注記] > [リモートアクセスとリモートデスクトッププロトコル(RDP)]
  セクションにはリモート通信に関する情報が含まれます。
- [WinCC での作業] > [プロジェクトでの作業] > [ランタイムの設定] > [ランタイムでの外部アプリケーションの影響]
  このセクションには、システムリソースに影響する可能性のあるアプリケーションに関する情報が含まれています。
- [WinCC での作業] > [プロジェクトでの作業] > [ランタイムの設定] > [パフォーマンスタグでのシステム診断]
  このセクションでは、タグの読み取りや書き込み中の時間動作を分析するシステムタグなどに関する情報が示されています。
- [WinCC での作業] > [設定の推奨事項]
  このセクションには、プロセス画像の高特性設定、ならびに画像オブジェクトおよびコントロールの最適なダイナミック化に関する情報が含まれています。
- [設定] > [マルチユーザーシステム] > [数量構造および特性]
  このセクションの設定に関する注意事項は、すべてのプロジェクトタイプに適用されます。

1.2 WinCC リリースノート

1.2.1 リリースノート

内容

このリリースノートには重要な情報が記載されています。

このリリースノートの情報は、法的な有効性においてマニュアルおよびオンラインヘルプの情報より優先度が高くなっています。

有意義な情報が含まれていますので、リリースノートはよく読んでください。

1.2.2 操作上の注記

1.2.2.1 操作上の注記

一般情報

外部アプリケーションからの負荷を避ける

同じコンピュータ上で複数のプログラムを同時に実行すると、コンピュータが高い負荷レベルの条件にさらされる可能性があります。

確実に問題なく WinCC を操作するため、PC 上のリソースクランチを引き起こす可能性のあるアプリケーションを実行しないでください。したがって、WinCC を起動する前に不要なプログラムを閉じておく必要があります。追加情報については、「プロジェクトでの作業 > ランタイムの設定 > 外部アプリケーションのランタイムに対する影響」のセクションを参照してください。

パフォーマンスタグでのシステム診断

[パフォーマンス]タググループのシステムタグで、データの読み取りおよび書き込み中などの時間動作を分析できます。

互換性

互換性に関する情報は、インターネットの FAQ 番号 64847781 を参照してください。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/64847781 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/64847781)
- オートメーションおよびドライブテクノロジー用互換性ツール: (https://support.industry.siemens.com/kompatool/index.html?lang=en)

ウィルススキャナの使用

以下のウィルススキャナが、WinCC V7.5 以降で使用するためにリリースされています。

- Trend Micro "OfficeScan" Client-Server Suite V12.0
- Symantec Endpoint Protection V14 (Norton Antivirus)
- McAfee VirusScan Enterprise V8.8
- McAfee ePolicy Orchestrator (ePO) V5.3.1
- McAfee Agent V5.5
- McAfee Application Control V8.1 (Whitelisting)
- Kaspersky Anti-Virus 2018
- Windows Defender (im Betriebssystem enthaltene Version)

承認されているウイルススキャナに関する更新情報は、互換性ツールの[他の製品] > [ウイルススキャナ]で参照できます。

基本原則

ウィルススキャナの使用によって、設備の運転や工程がが妨げられないように、十分な注意を図ること。

ローカルウィルススキャナのルール(ウィルススキャンクライアント)

- ウィルススキャナの統合されたファイアウォール
  WinCC V7.x は、ローカル Windows ファイアウォールが SIMATIC セキュリティコントロールを介してプログラムできます。ウィルススキャナが統合されたファイアウォールをインストールまたは有効化することはできません。
- 手動スキャン
  ランタイムで手動スキャンを実行できません。定期保守時などにすべてのシステム PC で定期的にこのスキャンを実行します。

- 自動スキャン
  自動スキャンは、受信データトラフィックのスキャンのみで十分です。
- スケジュール済みスキャン
  ランタイムでスケジュール済みスキャンを実行できません。
- パターンアップデート
  ウィルススキャンクライアント(ウィルスチェックの行われるシステム PC)のパターンアップデートは、高レベルのウィルススキャンサーバー(ウィルススキャンクライアントを一元管理しているシステム PC)によって行われます。
- ダイアログ
  プロセスモードへの干渉を回避するために、ダイアログメッセージはウィルススキャンクライアントに表示されてはなりません。
- ドライブ
  ネットワークドライブの重複スキャンを避けるため、ローカルドライブのみがスキャンされます。
- E メールを受信する WinCC Engineering Station 以外の電子メールスキャンを無効にすることができます。

それ以外はデフォルト設定に従ってください。

それによって以下のような安全が守られる

受信データのウィルスチェックが行われます。このプロセスモードへの影響は最小限に抑えられます。

注記

ウィルススキャナを使用する場合、コンピュータに十分なシステムリソースがあるか確認してください。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを実行すると、プロセッサ処理に時間がかかり、システムに過度の負荷をかけることがあります。スクリーンセーバーはワークメモリの部分を解放しないため、使用可能なワークメモリは徐々に減少します。

Windows の「ログオンスクリーンセーバー」は使用できます。

下記も参照

WinCC のインストールのソフトウェア要件 (ページ 22)

https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/64847781 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/64847781)

オートメーションおよびドライブテクノロジー用互換性ツール: (https://support.industry.siemens.com/kompatool/index.html?lang=en)

1.2.2.2 Windows オペレーティングシステムに関する情報

Microsoft のセキュリティ更新およびパッチ

Microsoft の最新のパッチとセキュリティ更新がすべて、お使いのコンピュータにインストールされていることを確認してください。

詳細情報については、SIMATIC カスタマーオンラインサポートの FAQ を参照してください。

- SIMATIC カスタマーオンラインサポート: FAQ 検索 (http://support.automation.siemens.com/WW/llisapi.dll?query=WinCC+Microsoft&func=cslib.cssearch&content=adsearch%2Fadsearch.aspx&lang=en&siteid=csius&objaction=cssearch&searchinprim=&nodeid99=)

一般情報

WinCC インターフェースおよび 64 ビットのオペレーティングシステム

WinCC のパブリックインターフェースは、ネイティブの 64 ビットをサポートしていません。これは主に、ODK、VBS、および WinCC OLEDB プロバイダに影響します。64 ビットのオペレーティングシステムで WinCC のインターフェースを使用するには、以下の規則に従う必要があります。

- ダブルクリックだけで VB スクリプトを起動することはできません。"syswow64\wscript.exe"の下で 32 ビットバージョンを明示的に使用する必要があります。
- WinCC API を使用する.NET アプリケーションは、32 ビットアプリケーションとして明示的にコンパイルしなければなりません。"AnyCPU"ではなく、"x86"で使用。
- C++アプリケーションは、64 ビットアプリケーションとしてコンパイルすることができません。

ランタイム時の Windows へのアクセスを禁止

ランタイム中のオンラインヘルプの表示

システム上で、ユーザーが工場でオペレーティングシステムレベルにアクセスできないようにするには、すべてのコントロールでオンラインヘルプを無効にします。これにより、Windows 選択ダイアログが開けなくなります。

この操作を行うには、[オプション]タブの[プロジェクトプロパティ]ダイアログで[ランタイムで使用可能なヘルプ]オプションを無効化します。

ランタイム中の Windows タスクバーの表示

コンピュータのプロパティを使用して、ランタイム中に Windows タスクバーが表示されないようにすることができます。

- [コンピュータのプロパティ]ダイアログの[パラメータ]タブを開き、[キーの無効化]領域の[オペレーティングシステムにアクセスするショートカットキーを無効にする]オプションを無効にします。
- また、Windows の[タスクバーをほかのウィンドウの手前に表示する]設定を必ず無効にしてください。

<CTRL+ESC>ショートカットキーを無効にする場合は、ランタイム時に以下のショートカットキーも無効になります。

キーボードショートカット	機能
<Windows キー+U>	システムユーティリティプログラムマネージャ
<SHIFT>キーを 5 回押す	機能のロック
<SHIFT 右>キーを 8 秒間押す	打鍵の遅延
<ALT left+SHIFT left+NUM>	キーボードマウス
<ALT left+SHIFT left+PRINT>	ハイコントラスト

上記の機能は[Windows コントロールパネル]を使用して設定することができます。

この機能を WinCC Runtime を有効にする前に[Windows コントロールパネル]で有効にすると、ランタイム中ロックされません。

また、[オペレーティングシステムにアクセスするショートカットキーを無効にする]オプションを有効にすることで、操作を簡単にするショートカットキーを無効にすることもできます。

Windows で有効になっている[スクリーンキーボード]を使用しないでください

ランタイム時に Windows タスクバーが表示されないようにするには、Windows で有効になっている[スクリーンキーボード]の代わりに、WinCC で提供されるスクリーンキーボードを使用してください。

標準の印刷としてファイルへの印刷を指定しないでください

Windows オペレーティングシステムの標準的な印刷手順としてファイルへの印刷を設定しないでください。

これにより、WinCC から印刷する際に、ファイルを保存するための Windows ダイアログが開かないようにできます。

WinCC WebBrowser Control:ショートカットメニューの無効化

次のようにランタイム中に WinCC WebBrowser Control のショートカットメニューを制限できます。

- [前方]および[後方]の操作のショートカットメニューを減らすには、グラフィックデザイナのオブジェクトプロパティ[UseSimpleContextMenu]を有効にします。
- ショートカットメニューを完全に制限するには、Windows グループガイドラインを無効にします。
  Microsoft の[グループポリシーオブジェクトエディタ]を開くには、検索フィールドに「Gpedit.msc」と入力します。
  グループポリシーの「ユーザーの設定\管理用テンプレート\Windows コンポーネント\Internet Explorer\ブラウザーのメニュー」でショートカットメニューを無効にします。

DCOM 設定の警告

"Dcomcnfg.exe"プログラムの起動中に、WinCC コンポーネントの AppID が登録されていないことについて警告が表示される場合があります。

この動作は、ソフトウェアの機能には影響ありません。警告は無視することができます。

画面設定の変更

色のパレットの変更

Windows のコントロールパネルで色パレットを変更すると、色が変更され、テキストが読みにくくなります。

したがって、プロジェクトの作成時に、ランタイムで使用される色パレットと同じものを必ず使用してください。

解像度の変更

目的のシステムで異なる解像度を使用するには、画像およびウィンドウに対して[画像の調整]または[サイズの調整]機能を使用します。

これらの設定を使用すると、ランタイム中に表示がぼやけ、システムの負荷が増加する可能性があります。

多言語がインストールされたオペレーティングシステムメッセージボックスの言語が正しくない

ユーザーに「はい/いいえ」、「OK/キャンセル」などで返答を要求するメッセージボックスの場合、CS と RT の両ボタンに常に英語のラベルが付けられます。

この特性は、オペレーティングシステムの言語設定と WinCC の言語とは関係ありません。

Novell Netware クライアント

WinCC は、Novell クライアントソフトウェアと同じシステムにインストールしないでください。

WinCC をインストールすると、Novell システムにログオンできなくなったり、ランタイム中にキーボードがロックされるなどの影響が出ることがあります。

Netware クライアントソフトウェアを使用しないか、Microsoft client for Netware を使用することをお勧めします。

Internet Explorer の注記

Web クライアント:Internet Explorer での ActiveX コントロールの表示

デフォルトでは、Internet Explorer で ActiveX コントロールは無効です。この理由により、現在 WinCC コントロールは Web クライアントの Internet Explorer に正しく表示されません。

WinCC コントロールを正しく表示するには、Web サーバーを信頼済み Web サイトとして追加し、[信頼済みサイト]のゾーンに対してのみ ActiveX コントロールを有効にします。

異質な ActiveX コントロールから引き続き Internet Explorer を保護するには、変更した後、制限されたセキュリティの設定が他のゾーンに引き続き適用されていることを確認します。

詳細情報については、以下の文書を参照してください:

- WinCC/WebNavigator:[WinCC/WebNavigator インストールノート] > [WebNavigator クライアントのインストール] > [Internet Explorer での設定]
- WinCC/DataMonitor:[WinCC/DataMonitor ドキュメント] > [DataMonitor システムの設定] > [DataMonitor クライアントの操作] > [Internet Explorer のセキュリティ設定の設定]

Internet Explorer:インターネット接続せずに WinCC の設定

インターネット接続のないコンピュータ上で WinCC を操作する場合、インターネットオプションの[詳細設定]タブの[発行元証明書の取り消しを確認する]オプションを無効にします。

下記も参照

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

SIMATIC カスタマーオンラインサポート: FAQ 検索 (http://support.automation.siemens.com/WW/llisapi.dll?query=WinCC

+Microsoft&func=cslib.cssearch&content=adsearch%2Fadsearch.aspx&lang=en&siteid=csius&objaction=cssearch&searchinprim=&nodeid99=)

インターネット: WinCC FAQ (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/10805583/133000)

1.2.2.3 データベースシステムに関する情報

DB.dll に関する情報

DB.dll は、C API ファンクションによりデータベースにアクセスするための ODK コンポーネントです。この機能は WinCC での使用がサポートされなくなりました。WinCC のデータベースアクセスレイヤ DB.dll を使って新しいアプリケーションを作成しないでください。

代わりに、Microsoft が提供する以下の機能を使用します。

- .NET ベースのアプリケーションでは ADO.NET を使用します。.NET Framework のデータベースインターフェースは、オブジェクト指向であり、拡張可能なアプリケーション用に設計されています。このインターフェースもファイアウォールを通したデータ通信に適しています。
- C++ベースのアプリケーションで OLE DB を使用することができます。Microsoft は、このために Visual Studio でテンプレートを提供しています。これにより、一般的に使用される多くの OLE DB インターフェースを実装する
クラスを持つ OLE DB データベース技術の利用が容易になります。
- また、ODBC C++ベースのアプリケーションを使用することもできます。Microsoft はこのためにクラスを提供しており、プログラミングが容易になっています。

これに関する詳細情報および例は、Microsoft の Web サイトにあります。

Microsoft SQL Server についての注意

システム実行中にサーバーの電源が切れた場合の SQL マスタデータベースへのアクセスのエラー

ランタイム中にサーバーに不測の障害が発生(電源異常や電源プラグの切断)した場合、WinCC インストールが壊れ、再起動後に SQL Server が SQL マスタデータベースにアクセスできなくなることがあります。アクセスするには WinCC インスタンスを再インストールする必要があります。

WinCC インスタンスを再インストールするには、WinCC と SQL Server の両方をアンインストールし、再インストールする必要があります。

WinCC データベースに対する強化されたアクセス保護

アクセス保護を強化する目的のため、ユーザー名"WinCCAdmin"および"WinCCConnect"が WinCC データベースから削除されています。これらのユーザー名を使用して WinCC データベースにアクセスすることは、できなくなりました。パスワードを設定した独自の SQL ユーザー名を使用するアプリケーションには、影響しません。

SQL Server のユーザー"SA" (system administrator:システム管理者)は、インストールの間、無効になります。

WinCC プロジェクトデータベースの手動での切り離し

Microsoft SQL Server のシステムプロパティが原因で、WinCC プロジェクトデータベースを切り離す際に、NTFS オーソリゼーションが変更されることがあります。

WinCC プロジェクトを閉じた後に WinCC データベースが接続され続けているか、WinCC データベースを手動で接続した場合、CCCleaner を使用して常にデータベースを切り離す必要があります。「CCCleaner」プログラムは、WinCC インストールディレクトリの「bin」フォルダーにあり、管理者として起動する必要があります。

1.2.2.4 ネットワークテクノロジと USP に関する情報

ネットワークに関する情報

WinCC は、端末バスに関して TCP/IP ネットワークプロトコルのみをサポートしています。

ネットワークサーバーの操作

ネットワークサーバー上で WinCC を操作することは許可されていません(例：ドメインコントローラ、ファイルおよび名前のユーティリティサーバー、ルーター、ソフトウェアファイアウォール、メディアサーバー、Exchange サーバーなど)。

Windows クラスタ技術によるシステムでの操作

Windows クラスタ技術を実装しているシステム上では、WinCC を使用することはできません。

冗長サーバーの使用

冗長サーバーペアを実装しているときは、マスタサーバーとスタンバイサーバーを同じ IP/サブネット帯域で操作する必要があります。

省電力モードのあるネットワークアダプタ

省電力モードがあるネットワークアダプタを使用する場合は、この省電力モードを有効にしないでください。

複数のネットワークアダプタを使った操作

複数のネットワークアダプタのある PC 上で WinCC を使用する場合は、以下の事項に従ってください。

他の WinCC ステーションとの通信に、WinCC で使用する IP アドレスを選択します。Windows Explorer で、"Simatic Shell"ディレクトリを選択します。[SIMATIC Shell]ダイアログのナビゲーションウィンドウをクリックし、ショートカットメニューから[設定...]を選択します。次に表示される[設定]ダイアログで、使用する IP アドレスを選択します。

このような設定にもかかわらず、設定およびプロジェクト管理に問題が生じる場合、DHCP サーバーによる WinCC ステーションへの IP アドレスの割り付けが遅すぎることが原因の可能性があります。この場合、ネットワーク管理者が、問題の WinCC ステーションのネットワークアダプタごとに、IP アドレスを定義する必要があります。

これには、Windows の[スタート]ボタンを押し、[設定|コントロールパネル]を選択します。[ネットワーク接続]フォルダを開き、次いで[LAN 接続]ダイアログを開きます。[プロパティ]ダイアログボックスの[全般]タブをクリックします。[LAN 接続のプロパティ]ダイアログを開き、[全般]タブのリストから、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]エレメントをダブルクリックして選択します。インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティにある[次の IP アドレスを使う]オプションボタンを使用して、IP アドレスを定義します。

以下の章の情報に従ってください。「複数のネットワークアダプタのあるサーバーとの通信のための特殊機能」

ネットワーク環境とネットワークドライブ

不要なネットワークドライブ接続がないことを確かめます。

分散したシステムを再起動した後に遅延が起こることのないように、マルチユーザープロジェクトを最初に開始します。これは、マスタブラウザサービス(オペレーティングシステムにおけるネットワーク環境を表示する機能)の動作と、ドメインおよびワークグループの管理によるものです。

TCP/IP プロトコルでの操作

TCP/IP プロトコルがインストールされている場合、IP アドレスを有効にして、ランタイム操作中には変更しないようにします。

以下のことに注意する必要があります。

1. TCP/IP プロトコルをインストールした後にネットワークアダプタを取り外したり無効にしたりすると、IP アドレスは無効になります。
2. IP アドレスが初期化されていない可能性があります。これは、たとえば、DHCP サーバーから提供された IP アドレスで TCP/IP プロトコルがインストールされている場合に起こります。コンピュータがネットワークに接続されると、コンピュータが基本初期化を行い、その間に IP アドレスが転送されます。この IP アドレスは、コンピュータの接続をネットワークから外した後も有効なままです。ただし、リース期間が終了した後、別の理由で無効になったり変更されることがあります。

コンピュータがネットワークに接続されていない場合、ユーザーはこのコンピュータにローカルに設定されているユーザーを経由してログオンする必要があります。このユーザーは、ランタイム操作および設定を行うローカルパワーユーザー権限を保持している必要があります。

IP アドレスにある先行ゼロ

マルチユーザーモードを使用していて、"hosts"および"lmhosts"を経由して名前を付ける場合、"hosts"ファイルに先行のゼロを入力しないでください。先行ゼロのある IP アドレスは、10 進数の代わりに 8 進数で解釈されます。

例:

- Computer_1 199.99.99.020 は、199.99.99.16 として解釈されます(10 進数)。
- Computer_2 199.99.99.026 は、199.99.99.22 として解釈されます(10 進数)。

また、仕様は 16 進数の形式で作成することも可能です。

- Computer_1 の 199.99.99.0x10

複数のドメインでの WinCC の使用

WinCC の正しい操作が保証されるのは、マルチユーザーシステムのすべてのコンピュータが 1 つの共有ドメインまたはワークグループに置かれている場合のみです。WinCC が異なるドメインまたはワークグループで使用されている場合、アクセス権および/または名前サービスの設定が正しくないと問題が生じることがあります。

1 つのワークグループでユーザ管理を実現する場合、WinCC のすべてのユーザーがマルチユーザシステムのすべてのコンピュータに設定されていて、必要なアクセス権を保持している必要があります。

ドメイン内での WinCC の使用

Windows ドメインにアクセスして問題が発生した場合、WinCC の正しい機能は保証されません。したがって、"サーバーに保存されたユーザプロファイル"に加えて、ローカルユーザープロファイルおよび WinCC に必要な権限のあるローカルユーザーを設定する必要があります。ドメインログオンでのアクセス問題がある場合は、WinCC を終了し、ローカルユーザープロファイルを使って再度ログオンしてください。

ルーターおよびファイアウォールの使用に関する情報

ルーターの使用

WinCC V7 を使用すると、ルーター経由で WinCC クライアントを WinCC サーバーに接続することもできます。

独自のプロジェクトのない WinCC クライアントは、ルーターを使用する設定に使用することはできません。WinCC Runtime にのみ使用できます。独自のプロジェクトを持つ WinCC クライアントには、制限はありません。

ルーターを使用するには以下の必要条件があります。

- WinCC で WinCC ステーションの正しい IP アドレスを使用していること。
- 各 WinCC ステーションが WinCC プロジェクトの他のコンピュータの物理コンピュータ名(NETBIOS 名)を解決できること。
- 各 WinCC ステーションが TCP/IP および ICMP 経由で問題なく相互に接続できること。Ping を使用して接続をテストする際、コンピュータに即座にアクセスできる必要があります。
- サーバーとクライアント間のネットワークルーターにマルチキャスト転送を有効にします。

ネットワーク接続の速度

低速のネットワーク接続の場合は、以下のことを推奨します。

- 複雑な画像を転送しないなどして、転送するデータ量を制限します。
- WinCC クライアントのローカルページ記述言語のキャッシュを使用します。

- WinCC クライアントの ISDN ルーターをマルチリンクモード(チャンネルバンドリング)で使用します。128 Kbps よりも狭い帯域幅では、不十分なことが実証されています。
- それぞれ追加の ISDN チャンネルには 1 つの WinCC クライアントのみ統合します。
- ISDN ルーター経由の WinCC の操作は、ISDN ネットワークの安定性と可用性に左右されます。
- WinCC 用に最大の接続帯域幅を用意します。

注記

ISDN 経由の接続および低速接続を使用した操作は、ローカルプロジェクトを持たないクライアントでは許可されていません。

中央のファイアウォールを使用したオフィスネットワークへの接続

ネットワークの設定によっては、ファイアウォールの負荷が増加することがあります。

このような不具合は、すべての WinCC ステーションに独自の IP アドレスを割り付けることで避けることができます。

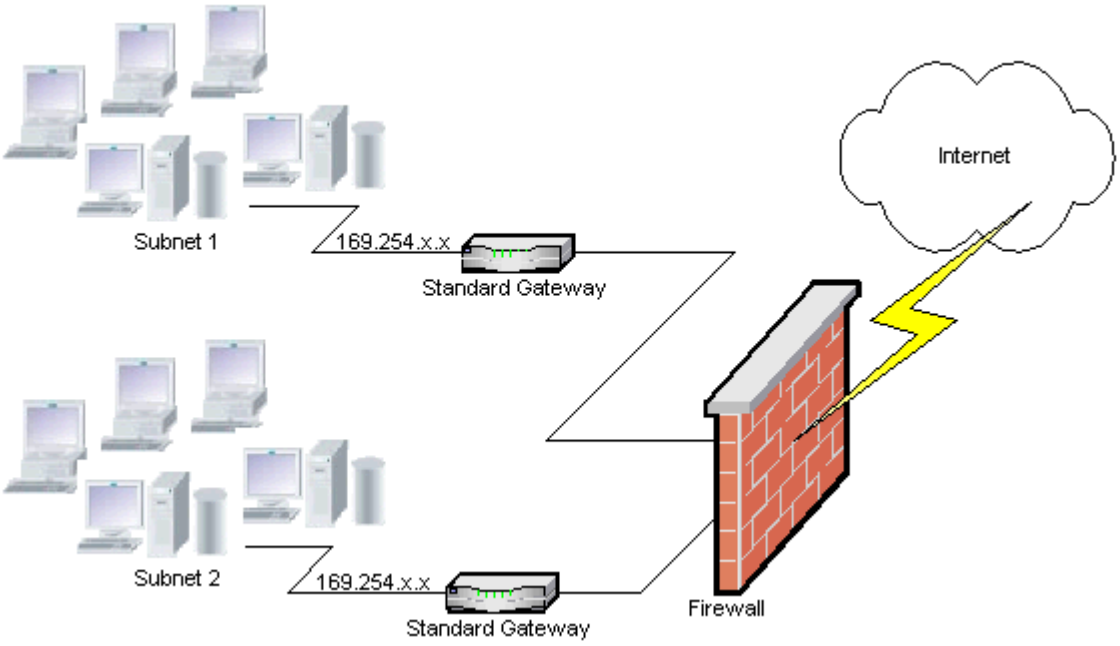
システムの基本特性

- Windows の標準インストールでは、コンピュータには DHCP サーバーからのランダムな IP アドレスが割り付けられます。

必要条件

以下の条件では、WinCC が操作中に望ましくない動作をすることがあります。

- 端末ネットワークで使用される IP アドレス帯域が APIPA アドレス帯域(169.254.x.x)よりも高い。
- IP アドレスがデフォルトゲートウェイ経由でルートされる。
- APIPA 帯域からの IP アドレスがファイアウォールにルートされる。



ファイアウォールで負荷が増加する原因

システム起動の後、各 WinCC テーションからネットワーク内の他のすべての WinCC ステーションに対して IP アドレスが一度送信されます。WinCC ステーションは、IP アドレスが最も小さい WinCC ステーションをプロジェクトの可用性を調整するサーバーとして定義します。

WinCC ステーションが DHCP サーバーからアドレスを受け取らず、APIPA プロセスに入れない場合は、そのステーションが調整サーバーになります。その結果、他のすべての WinCC ステーションは、このサーバーに周期的にアクセスしてプロジェクトを発行しようとします。

ただし、APIPA 帯域からの IP アドレスは自動的にファイアウォールに転送されるため、統合サーバーをアドレス指定することはできません。これも、中央のファイアウォールでネットワークの負荷が増加する原因になります。

解決法

この動作は、各 WinCC ステーションに独自の IP アドレスを割り付けることで避けることができます。

無停電電源システムに関する情報

停電中のファイル破損の回避

WinCC システムが有効で Windows システムの使用中に停電が発生した場合、ファイルが破損したり失われることがあります。NTFS ファイルシステムを使用して操作すると、安全性が高まります。

安全で継続的な操作を保証するには、無停電電源装置(UPS)を使用するしかありません。

クライアントサーバーシステムの無停電電源装置

クライアントサーバーシステムのサーバーを UPS システムによりバッファリングするには、UPS は 30 分までの停電に対処できる必要があります。この値は、コンピュータ、特にマルチユーザーシステムの設定と数によって異なります。設定にはかなりの時間を要します。

1.2.3 WinCC に関する注意点

1.2.3.1 WinCC および設定に関する一般情報

一般情報

WinCC デモプロジェクト

WinCC V7.5 の WinCC デモプロジェクトは、ZIP ファイルとして、インターネットからダウンロードできます。

- インターネット:WinCC デモプロジェクト (https://support.industry.siemens.com/cs/products?search=demo&dtp=ExampleOfUse&o=DefaultRankingDesc&pnid=14867&lc=en-WW)

WinCC パスワード:WinCC プロジェクトの移行

バージョン V7.2 以降の WinCC では、パスワードの暗号化が強化されています。

V7.2 以前の WinCC で作成されたプロジェクトの移行について：

- [WinCC サービスモード]操作モードのユーザー名とパスワードを、もう一度入力する必要があります。
- 強化された暗号化によって WinCC のセキュリティを向上させるために、ユーザー管理者のパスワードを、もう一度入力する必要があります。

WinCC パスワードが、標準的なセキュリティガイドラインを満たしていることを確認してください。

ユーザー管理者で、最低限の複雑性を定義します。例えば、特殊文字の必要な文字数など。

UNC パスのみを使用した WinCC プロジェクトのリモートな移行

WinCC プロジェクトをリモートに移行する場合は、UNC パスのみを使用します。プロジェクトパスやその上にあるフォルダは解除してください。この UNC パスを WinCC プロジェクトマイグレータのプロジェクトディレクトリとして使用します。

WinCC 起動時のオペレーティングシステム更新不可

WinCC が起動している場合はオペレーティングシステムの更新が禁じられています。オペレーティングシステムの更新後にコンピュータを再起動します。

WinCC 文書:WinCC 情報システム

オンラインヘルプの情報は、印刷可能な PDF ファイルの情報より新しくなっています。

開放性およびシステム安定性

WinCC を使用すると、完全なファンクションや、個々のコンポーネントから独立したグローバルアクションスクリプトに至るまで、個々のグラフィックオブジェクトに高パフォーマンスのアクションをプログラムすることができます。

C スクリプト

WinCC および Windows の API 関数は、アクションスクリプトで呼び出すことができます。さらに、統合されたスクリプトプログラミングには、C インタープリタおよび多数の ANSI-C 標準関数が含まれています。

システムの開放性のため、継続ループや正しく初期化されていないポインタなどによって、システムをブロックしたり、ランタイム時にシステムをクラッシュするアクションを書く可能性がある点に注意してください。割り付けられたメモリの可用性に注意してください。

VB スクリプト

VBScript(VBS)を使用すると、ランタイム中にグラフィカルランタイムシステムのタグおよびオブジェクトにアクセスできます。VBS の標準関数や定数に加えて、Windows Scripting Host や MS Automation インターフェースを使用して Windows 環境をダイナミック化することもできます。

Windows 環境への適用に関する VBS の機能性については、保証や WinCC サポートはありません。

詳細は WinCC 情報システムの以下のセクションを参照してください。

- 「ファンクションとアクションを作成するための ANSI-C」
- 「プロシージャおよびアクションを作成するための VBS」
- 「プロセス画像のダイナミック化」

時刻の同期化

以下が正しく機能するためには、サーバーとオートメーションシステムの間の時間の同期化が不可欠です。

- 冗長の同期化
- 時系列順メッセージ
- タイムコードを使用した規準の検索およびソート
- 1 つのドメインでのマルチユーザープロジェクトの操作

詳細は WinCC 情報システムの以下のセクションを参照してください。

- 「冗長システム」
- 「時系列レポート」
- 「マルチユーザーシステム」
- 「時刻の同期化」

冗長システムの完全ダウンロード

ターゲットシステムにデータの不整合が生じるため、"ターゲットシステム/オブジェクトのコンパイルとダウンロード"機能を使って SIMATIC Manager で冗長システムへの完全ダウンロードプロセスを実行しないでください。

代わりに、オペレーティングシステムのコンテキストメニューの SIMATIC Manager から[ダウンロード]オプションを選択します。

WinCC システムへの OPC XML DA サーバーのインストール

WinCC システムに OPC XML DA サーバーのインストールを追加する場合は、WinCC 製品 DVD を使用してください。アプリケーションは、Windows のコントロールパネルでインストールしないでください。

マルチユーザーシステムに関する情報

マルチユーザーシステムで独自のプロジェクトなしクライアント

マルチユーザーシステムの場合は、独自のプロジェクトなしクライアントの場合、冗長性の切り替え後に最初の画像の選択で遅延する場合があります。

マルチユーザーシステムで独自のプロジェクトがないクライアントのランタイム言語を変更するには、クライアントで WinCC を終了し、サーバーで WinCC プロジェクトを終了する必要があります。その後でのみ言語が変更されます。

独自のプロジェクトがないクライアントからのリモートアクセス

独自のプロジェクトがないクライアント上の WinCC エクスプローラでは、サーバーデータエディタは使用できません。

タグロリングおよびアラームロギングで"アーカイブ設定"エントリを使用することはできません。

SIMATIC Manager への統合に関する注記

シンボルデータブロック名:最大長 16 文字

タグをデータブロックから WinCC に転送する場合、シンボル名が 16 文字を超えてはなりません。

DCF ファイルの作成

DCF ファイルが移行後に読み取ることができない場合は、欠陥のあるファイルに関するメッセージが移行ログファイルに書き込まれます。

別の DCF ファイルを作成するには、以下を実行します。必ずこの順序どおりに実行してください。

1. 設定モードでプロジェクトを開きます。
2. 後のエクスポートで必要となる、独自のシンボリックコンピュータ名(サーバー接頭辞)を覚えておきます。
3. インポートしたサーバーデータの保存場所を記憶しておきます。
4. 優先サーバーとデフォルトサーバーを覚えておきます。
5. 独自のサーバーデータおよびインポートしたサーバーデータを削除します。
6. プロジェクトを閉じます。
7. プロジェクトディレクトリで DCF ファイル(一般的には ProjectName.dcf)を削除します。
8. 設定モードでプロジェクトを再度開きます。
9. 元のシンボリックコンピュータ名(サーバー接頭辞)(手順 2 参照)を維持しながら、独自のサーバーデータを作成します。
10. インポートしたすべてのパッケージを再びインポートします(手順 3 参照)。
11. 優先サーバーとデフォルトサーバーを再設定します(手順 4 参照)。
12. プロジェクトを閉じます。

CPU 負荷

サーバーからクライアントに転送されたデータを同じ速度で処理できない場合、このクライアントのデータフレームは、指定された閾値から破棄されます。

次のプロセスコントロールメッセージが、メッセージとともに表示されます。

- 1000200:「WCCRT:ステータス」

このメッセージのコメントまたはログファイル「WinCC_Sys_<x>.log」に、以下の追加情報が記載されています。

- 1000200,4,,<コンピュータ名>、DataManager Runtime、RPC の呼び出しでは 5000 ミリ秒以上かかる場合があります。
  (クライアントはデータの処理に長時間かかります)
- 1000200,4,,<コンピュータ名>、DataManager Runtime、クライアント「<クライアント名>」の更新データの消失、
  (クライアントのメッセージフレームはサーバーで破棄されます)

クライアントではデータが失われることがあります。

下記も参照

インターネット:WinCC デモプロジェクト (https://support.industry.siemens.com/cs/products?search=demo&dtp=ExampleOfUse&o=DefaultRankingDesc&pnid=14867&lc=en-WW)

http://support.automation.siemens.com/WW/view/de/109482515 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109482515)

1.2.3.2 WinCC CS に関する情報

一般情報

数個の WinCC エディタの使用

複数の WinCC エディタが同じ WinCC コンポーネントにアクセスできるため、複数のエディタを同時に使用しないでください。例えば、"テキストディストリビュータ"と"相互参照"エディタの使用やグラフィックデザイナがインターフェースから同時にアクセスされているときに相互参照の自動更新を行うなどです。

数個の WinCC エディタを並行して使用したい場合は、WinCC プロジェクトの[マルチユーザーエンジニアリング]機能を起動させます。

グラフィックデザイナに関する情報

カスタムの ActiveX コントロール(SIMATIC WinCC/ODK)

カスタムの ActiveX コントロール(SIMATIC WinCC/ODK)については、WinCC 基本システム、WebNavigator サーバーおよび WebNavigator クライアントとの互換性を検証する必要があります。

これは、ActiveX コントロールの WinCC、Web サーバーまたは Web クライアントをインストールしたコンピュータへの直接インストール、および Web クライアントなどのプラグインを使用したインストールの両方に当てはまります。

- このため直接インストールの場合、ActiveX コントロールを、WinCC 基本システム、Web サーバーまたは Web クライアントよりも前にインストールする必要があります。このステップ後、カスタム ActiveX コントロールがエラーなしで機能しない場合は、互換性がありません。
- カスタム ActiveX コントロールがプラグインにパッケージされて、ダウンロードによってインストールされた場合、WinCC 基本システム、Web サーバーまたは Web クライアントのアップグレードでも、この ActiveX コントロールを使った新しいプラグインを生成する必要があります。
  プラグインを生成する際には、互換バイナリ(DLL、OCX など)を使用するように注意する必要があります。

「GraCS/SVGLibrary」フォルダを変更しない

プロジェクトフォルダの「GraCS/SVGLibrary」にプロセス画像またはフェイスプレートタイプを保存しないでください。

「SVGLibrary」フォルダは、SVG ライブラリにのみ使用されます。

「日付/時刻」のデータ形式は、WinCC < V7.3 からコピーした I/O フィールドには使用できません

WinCC < V7.3 で作成した I/O フィールドをコピーしても、「日付/時刻」のデータ形式を、貼り付けた I/O フィールドには使用できません。

透明領域のある画像：アルファチャンネルのあるファイル形式の使用

透明領域が含まれている Direct2D 表示でグラフィックを使用する場合、アルファチャンネルのあるグラフィック形式（たとえば、BMP または PNG）のみ使用してください。

ロギングシステムに関する情報

バーコードの印刷:「Code 39 Logitogo」フォント

「Code 39 Logitogo」フォントは言語依存です。

レイアウトでこのフォントを使用している場合、すべての言語で正しく印刷されるわけではありません。

ソリューション

バーコードを印刷するには、「Version for MS Dynamics German + English」フォントを使用します。

このフォントは言語依存ではありません。バーコードは、コンピュータで異なる言語設定が使用されている場合でも印刷されます。

追加情報は、製品サポートのエントリ ID 109750328 で参照できます。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/ja/view/109750328 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109750328)

VBA に関する情報

VBA アップデート

VBA のセキュリティ更新のインストールは、ユーザーの責任で行ってください。

VBA に対応するセキュリティ更新は、Microsoft のダウンロードページで使用可能になります。Siemens では、Microsoft からセキュリティ更新を提供しません。

WinCC のインストール後に VBA のセキュリティ更新をインストールしてください。

チャンネルに関する注記

国別の文字を使用したチャンネルの名前

「SIMATIC S7 Protocol Suite」チャンネル、特に「指定の接続」チャンネルユニットに国別の文字を使用した名前を入力するとき、オペレーティングシステムの言語オプションで対応するコードページを設定しなければなりません。

下記も参照

https://support.industry.siemens.com/cs/ww/ja/view/109750328 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109750328)

1.2.3.3 WinCC Runtime に関する情報

マルチユーザーシステムに関する情報

ターミナルバスでの大容量データのコピー

ターミナルバスに接続されたコンピュータ上で大容量のデータをコピーすると、マルチユーザーシステムの通信に影響を与える可能性があります。原因の 1 つとして、データスループットが小さいハブを使用していることが考えられます。

タグロギング/アラームロギングに関する情報

以前保存したアーカイブデータの編集

データの安全性と整合性のため、以前保存したアーカイブされた測定値/メッセージは変更できず、変更するべきではありません。

OPC に関する情報

SIMATIC WinCC OPC サーバー:DCOM 権限の自動割り付け

OPC サーバーの操作に必要な DCOM 権限は、自動的に割り付けられます。インストール中に設定されます。WinCC の操作モードに応じて、さらに詳細な設定が行われます。

これらの設定を手動で編集しないでください。

OPC チャンネルを使用するときは、SIMATIC WinCC OPC サーバーをアンインストールしないでください

OPC チャンネルを使用する際、SIMATIC WinCC OPC DA サーバーを削除しないでください。

OPC タグ:アラームロギングおよびタグロギングのタイムスタンプ

メッセージが OPC タグによって始動する場合、OPC サーバーはメッセージのタイムスタンプを使用し、ほぼ時系列のレポートを出力します。

タグロギングでは、タグロギングサーバーでタイムスタンプが生成されます。

OPC Data Access

WinCC クライアントにおける OPC DA サーバーの操作中:

OPC クライアントの接続の確立中、OPC クライアントがデータの交換を行う WinCC サーバーはランタイム中でなければなりません。

WinCC サーバーが実行中でない場合、項目のプロパティの一部が提供されません。

OPC Item Manager におけるデータタイプ表示には時間がかかるので、必要ない限り表示をオフに切り替えてください。

OPC XML Data Access

新しく作成されたタグの表示

WinCC プロジェクトのランタイムで新しいタグを用いて新しいタグフォルダを作成する場合、OPC クライアントシステムで WinCC Runtime を再起動しなければタグフォルダとタグは OPC クライアント上で表示されません。

OPC クライアント上で"OPCTags"が開かれないように確認します。

タグの追加

OPC Item Manager でタグを追加するのであれば、OPC サーバーで WinCC Runtime を有効にする必要があります。

オーソリゼーション方法

オーソリゼーション方法"統合された Windows オーソリゼーション"で WinCC セットアップを使用し、XML DA Webservice をインストールします。WinCC OPC XML クライアントではこの方法がサポートされます。これを実行するには、OPC クライアントを実行しているユーザーアカウントを XML サーバーコンピュータが認識している必要があります。

アップグレードインストール:WinCC OPC XML サーバーの設定

[コンピュータの管理]で「インターネットインフォメーションサービス（IIS）マネージャ」の「アプリケーションプール」の下にある「WinCC-OPC-XML」に対してアップグレードインストール後、Microsoft .Net Framework バージョンを V2.0 から V4.0 に変更する必要があります。

OPC Historical Data Access

アーカイブアクセス中の戻り値「OPC_E_MAXEXCEEDED」

OPC クライアントが、同期または非同期読み取り中に 2000 を超える値のデータを要求する場合、呼び出しがエラーメッセージ OPC_E_MAXEXCEEDED が生成され拒否されます。

この制限値により、コンピュータの負荷および呼び出しの期間が制限されます。

時間範囲全体が読み取られる場合、この制限は適用されません。

OPC Alarm&Event

バウンディング値の使用の回避

WinCC-OPC-A&E サーバーから履歴アラームを読み込む場合は、バウンディング値の使用を避けてください。

使用すると、アーカイブのサイズによっては、読み取りアクセス要求の処理に時間がかかることがあります。

ユーザーテキストブロックで、形式指示を使うときのメッセージのフィルタ

メッセージの OPC ソースは、ユーザーテキストブロックに表示されます。これは、デフォルト設定のユーザーテキストブロック 2 です。

このユーザーテキストブロックで形式指示を使用する場合は、フィルタ設定にワイルドカードを使用する必要があります。

これにより、OPC ソースがランタイムで動的に作成されたときに正しいフィルタ作業が行われます。

1.2.3.4 スマートツールに関する情報

WinCC Configuration Studio:SmartTools の差し替え

従来の WinCC バージョンと比較して、WinCC Configuration Studio では、エディタによって次の SmartTools が差し替えられました。

SmartTool	WinCC Configuration Studio
タグのエクスポート/インポート	[タグ管理]および[タグロギング]エディタのエクスポート/インポート機能
WinCC ConfigurationTool	
WinCC Archive ConfigurationTool	
タグシミュレータ	WinCC タグシミュレータ

WinCC 設定ツール/WinCC アーカイブ設定ツール

WinCC V7.3 では、WinCC Configuration Studio 経由で WinCC データをインポートおよびエクスポートするために使用します。

既に存在するファイルを WinCC 設定ツール/WinCC アーカイブ設定ツールから、WinCC Configuration Studio へインポートするには、WinCC Configuration Studio でメニューコマンド[インポート]を使用します

ファイル名に加えて、ファイル選択ダイアログで、[ConfigTool file (*.xlsx)]または[Archive Config Tool file (*.xlsx)]エントリを選択します。

WinCC 設定ツールでメッセージタイプの色を構成した場合、色は設定ツールから WinCC Configuration Studio にインポートされません。WinCC プロジェクトを WinCC V7.3 以降に移行する前に WinCC プロジェクトでメッセージの色を作成するか、または WinCC Configuration Studio にインポートした後、手動でメッセージの色を設定する必要があります。

タグのエクスポート/インポート

タグを WinCC プロジェクトからエクスポートしたり、WinCC プロジェクトにインポートするには、WinCC Configuration Studio を使用します。

互換性の理由で、このツールは、依然として「uTools」インストールパスに格納されています。

ダイナミックウィザードエディタに関する情報

ダイナミックウィザードエディタを開きます。

ダイナミックウィザードエディタとグラフィックデザイナは同時に開かないでください。

1.2.3.5 プロセス通信に関する情報

WinCC「SIMATIC S7 Protocol Suite」チャンネルに関する情報

S7DOS 設定:IPv4 プロトコルの有効化

S7DOS を使用している場合、バージョン「S7DOS V9」の IPv4 プロトコルが必要です。

したがって、ネットワークアダプタや SIMATIC Ethernet CP の Ethernet プロパティで IPv4 プロトコルを有効化した状態のままにします。

この方法で、S7DOS のモジュール検出が TCP、RFC1006、ISO のプロトコルで機能することを保証します。

S7 オートメーションシステムでの AR_SEND を使用した時間の変更

たとえば時間の同期化後に AS 上で時間をリセットする場合、AR_SEND を使用して S7-AS から WinCC に転送されたアーカイブデータは無視されます。アーカイブには既にリセット時間が含まれています。

WinCC「WinCC-OPC-UA」チャンネルに関する情報

OPC UA:インポートされた OPC UA タグの表示

V7.4 以前の WinCC バージョンで作成されたタグは、Configuration Studio の「シンボル」ビューにインポート済みとして表示されます。

しかし、この場合、「未処理データ」タイプタグはインポート済みとして表示されません。これらのタグはタグ管理で正しく作成されていますが、列「アクセス」は使用できません。

これらのタグを再インポートし、Configuration Studio で誤って表示されたタグを削除します。

WinCC「三菱製 Ethernet」チャンネルに関する情報

誤ったデータタイプを使用したビットアドレス指定

ビットアドレス指定に正しいデータタイプがあることを確認してください。

誤ったアドレス指定のために、誤ったデータタイプが書き込まれることがあり、その結果隣接ビットが影響を受けることがあります。

例えば、データタイプ WORD を使用して BOOL アドレスのアドレス指定をすると、アドレス指定されたビットの隣接ビットが上書きされることがあります。

WinCC「SIMATIC S5 PROFIBUS DP」チャンネルに関する情報

PROFIBUS DP および SIMATIC Net V14

SIMATIC Net V14 を備える"PROFIBUS DP"チャンネルを使用するには、SIMATIC Net V14 の通信設定で、"DP"プロトコルの"OPC UA"プロパティを無効にする必要があります。

WinCC「SIMATIC 505 TCPIP」チャンネルに関する情報

LMode および LStatus データタイプ

LMode および LStatus データタイプにより、チャンネルが拡張されました。

- LMode(ループモード) : 符号なし 16 ビット値(ビット配列);アクセス:書き込みおよび読み取り
- LStatus(ループステータス):符号なし 16 ビット値(ビット配列);アクセス:読み取り専用

アドレス指定中に指定するオフセットにより、モードまたはステータスが要求されるループが識別されます。

1.2.3.6 リモートアクセスとリモートデスクトッププロトコル(RDP)

WinCC ステーションへのリモートアクセス

最新のリモートアクセスに関する説明は、次の FAQ で確認できます。

- エントリー ID 78463889(https://support.industry.siemens.com/cs/de/de/view/78463889) (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/78463889)

また、リモート設定に関する詳細は、WinCC 情報システムの[設定] > [マルチユーザーシステム] > [リモート設定]を参照してください。

承認済みのシナリオ

次のシナリオはテスト済みです。

- 単一ユーザーシステムとしての WinCC
- 分散システムとしての WinCC
- 冗長モードの WinCC
- WinCC/WebUX サーバー

承認済みのシナリオで OPC を介する通信も使用できます。

RealVNC の使用

インターネット上の以下のカスタマーサポートページでインターネット上に「RealVNC」の使用の詳細が記載されています。

- エントリー ID 55422236 （http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236） (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236)

「RealVNC」によるキーボードロックなし

キーボードロックは、「RealVNC」に対応していません。キーボードロックは、リモートデスクトッププロトコル接続でのみ有効です。

RDP での WinCC システムのリモートメンテナンス

リモートデスクトッププロトコル(RDP)の使用は、WinCC サーバーまたは単一ユーザーシステムが WinCC ServiceMode で実行されているときのみ許可されます。

RDP を使用する場合の制限

以下の制限を順守してください。

- ローカル[SIMATIC HMI]ユーザーグループのメンバーであるユーザーが WinCC プロジェクトを起動します。
  これは、リモートコンソールで操作している場合、すべてのサービスが起動することを意味しています。
  詳細情報については、「設定」 > 「WinCC サービスモード」を参照してください。
- SIMATIC Manager での統合操作の使用は許可されていません。

通知
リモートデスクトップ接続の中断後のデータ損失 たとえば、ネットワークケーブルがリモートデスクトップクライアントのコンピュータから取り外された場合などリモートデスクトップ接続が中断された場合、アーカイブおよび OPC サーバーなどの設備はデータマネージャから値を受信しなくなります。 接続が復旧するか、約 35 秒のタイムアウトが経過するまで、この状態が継続します。

リモートデスクトップの起動

コンソールセッション経由でリモートデスクトップクライアントのある WinCC システムにアクセスすることができます。

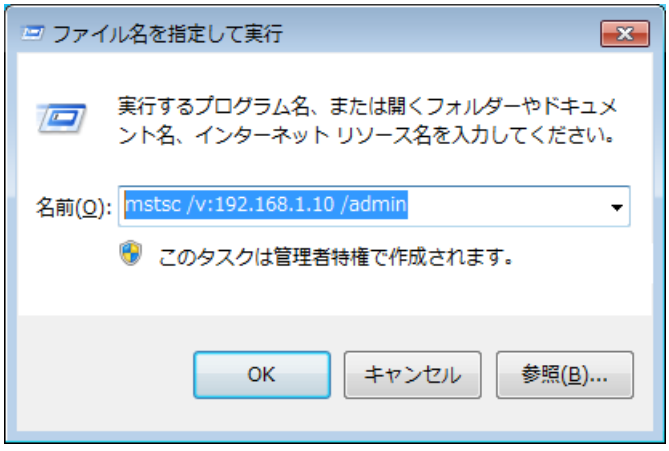
リモートデスクトッププロトコル経由でのアクセスは同じユーザーから引き継いだコンソールまたは最初のログインでのみ取得できます。

ユーザーグループとアクセス権限

すべての「リモートデスクトップ」ユーザーはターゲットパソコンの「SIMATIC HMI」ユーザーグループのメンバである必要があります。

手順

1. コンソールセッションを起動するには、たとえば、<Windows ボタン+R>で[実行]ダイアログを開きます。
2. 以下のコマンドを入力します。
   - `mstsc /v:<サーバー> /admin`
   コンピュータの名前または IP アドレスをサーバーとして入力します。



   追加パラメータの情報のために、以下のコマンドを入力します。
   - `mstsc /?`

移行:UNC パスのみを使用した WinCC プロジェクトのリモートな移行

WinCC プロジェクトをリモートに移行する場合は、UNC パスのみを使用します。

プロジェクトパスやその上にあるフォルダは解除してください。

この UNC パスを WinCC プロジェクトマイグレータのプロジェクトディレクトリとして使用します。

下記も参照

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 30)

https://support.industry.siemens.com/cs/de/de/view/78463889 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/78463889)

http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236)

1.2.4 WinCC 冗長性に関する注記

冗長システムに関する注記

二重障害の場合の冗長性の動作

冗長性では二重障害には対応できません。

二重障害は、たとえば、サーバー 2 が起動していないときにサーバー 1 の端末バスが引き抜かれたときに起こります。

アーカイブのスワップアウトの遅延

冗長パートナが利用できないか、起動していない場合は、アーカイブのスワップに遅延が発生します。パートナが再び使用可能になりアーカイブの同期化が完了するまで、アーカイブのスワップは開始または継続しません。

タグロギングおよびアラームロギングの循環バッファのメモリ容量には限度があるため、冗長パートナで長期間障害が発生した場合、データが失われることがあります。

ネットワーク障害発生後のメッセージの再ロードなし

ネットワーク障害後メッセージの再ロードは冗長システムで許可されていません。

標準ゲートウェイの構成

冗長性のある場合、障害シナリオを正しく検出するために標準ゲートウェイを構成することをお勧めします。この場合、両方の冗長サーバーに標準ゲートウェイを正しく構成する必要があります。これは、手動でまたは DHCP 経由で実行できます。

構成された標準ゲートウェイに接続することができるのみでなく、"ping"を使用してアクセスできることも確認してください。

DHCP の使用:有効なネットワーク接続があるコンピュータのみを起動

ターミナルバスネットワークカードで DHCP を使用している場合、冗長システムで以下に注意します。

コンピュータは、起動中に DHCP サーバーから有効な IP アドレスを取得する必要があります。

IP アドレスを取得しなかった場合、冗長ステータスは常に[障害]と表示されます。このステータスをリセットするには、必ずコンピュータを再起動する必要があります。

冗長システムでのメッセージシーケンスレポート

メッセージシーケンスレポートをクライアントで出力する場合、冗長パートナに切り替えるときのロギング中に問題が発生する可能性があります。

1.2.5 プロセスコントロールオプションに関する注記

新しいプロジェクトの作成

新しいプロジェクトを手動で作成する場合、まず OS プロジェクトエディタを実行する必要があります。

PCS7 エンジニアリングステーションを使用して OS を作成している間に、プロジェクトは自動的にバックグラウンドで呼び出され、デフォルト設定を使用して初期化されます。

移行前に不必要な「@*.PDL」画像の削除

OS プロジェクトエディタが WinCC プロジェクトを処理すると、基本プロセスコントロールの"@*.PDL"の画像がグラフィックデザイナにインストールされます。

移行後にこれらの画像が必要でない場合は、移行前に"*@.PDL"の画像だけでなく、"PAS"ファイルと"SSM.cfg"も削除してください。

移行後は、基本プロセスコントロールのファイルは追加されません。

複数言語

WinCC 情報システムのオンライン文書は、英語、フランス語、ドイツ語および中国語(簡体字)のみです。

フランス語、英語またはドイツ語バージョンの Windows コンピュータで作業しながら OS とは別の言語をインストールする場合、WinCC が Windows と同じ言語で動作している場合でも、WinCC で使用する用語をこの別の言語で表示できます。

特に多言語バージョンの Windows で使用される種々のボタンは、言語設定および WinCC の言語とは関係なく、英語のラベルが付いています。このことは、特にユーザーが[はい/いいえ]、[OK/キャンセル]などで対応する必要があるダイアログボックスに影響します。

@接頭辞付きのタグ

プロジェクトエンジニアは、@接頭辞が付くタグは作成できません。WinCC PCS7 ソフトウェアだけが作成できます。

これらのシステムタグを操作することは許可されていません。

システムタグは、本製品が適切に作動するために必要なものです。

ライフビート監視を使用して AS 監視および OS 監視を設定するとき、デバイス名は、画像ツリーのエリア名や"@"名前接頭辞付き内部タグと異なっている必要があります。

アラームロギングおよび画像ツリーのエリア名

アラームロギンブおよび画像ツリーのエリア名は、その最初と最後のいずれにも空白文字を使用できません。

分散システムのエリア名

分散システムでは、そのエリアに応じたメッセージのフィルタおよび表示を確実に正確にするため、種々の WinCC サーバーのプロジェクトのエリア名は、一意であることが必要です。

プラント表示内のプロセス画像:レベル 16 は非表示

プラント表示の SIMATIC Manager や WinCC エクスプローラで新しいプロセス画像を作成する場合、レベル 16 は常に非表示です。

PCS 7 ASSET を使用している場合、この設定を変更しないでください。非表示レベルには、診断に使用される「@RTBehaviourParams」オブジェクトがあります。

画像描画時間

画像描画時間を最適化するには、WinCC プロジェクトプロパティで[WinCC Classic]デザインを設定します。

"No. 8 アーカイブの管理"ユーザーオーソリゼーション

User Administrator のユーザーオーソリゼーション[No. 8 アーカイブの管理]はシステムで使用されなくなりました。

WinCC ServiceMode でのオーソリゼーション確認

オーソリゼーション確認によりランタイム動作に影響を与える ServiceMode の WinCC には、以下の 3 つのシナリオがあります。

- Windows ユーザーがログオンしていない。
  ユーザーが、WinCC User Administrator で「サービスコンテキストのユーザー」として定義されている。
  サービスコンテキストでのこのユーザーのオーソリゼーションは、ランタイムで確認されます。この設定は信号デバイスのトリガオーソリゼーションに影響を与えます。
- Windows ユーザーがログオンしていない。
  ユーザーが、WinCC User Administrator で「サービスコンテキストのユーザー」として定義されていない。
  信号デバイスは常にランタイムで有効にされます。
- Windows ユーザーがログオンしている。インタラクティブユーザーの入力が可能です。
  ユーザーがサービスで定義されていれば、コンテキストはランタイムに影響を与えません。
  ログオンした WinCC ユーザーのオーソリゼーションは、ランタイムで確認されます。

1.3 WinCC/接続性パックのインストールノート

1.3.1 Connectivity Pack ライセンス

はじめに

WinCC/接続性パックにより、WinCC のオンラインおよびアーカイブデータにライセンスを受けてアクセスできます。

接続性パックには以下を利用したアクセスのライセンスが含まれています。

- WinCC OPC XML DA サーバー
- WinCC OPC-DA サーバー
- WinCC OPC HDA サーバー
- WinCC OPC A&E サーバー
- WinCC OPC UA サーバー

WinCC/接続性パック V7.0 から起動する場合、WinCC クライアントアクセスライセンス(WinCC/CAL)は必要なくなりました。

1.3.2 Microsoft メッセージキューのインストール方法

はじめに

WinCC は、Microsoft のメッセージキューサービスを実行します。これはオペレーティングシステムのコンポーネント部分です。

ただし、MS メッセージキューは、標準の Windows インストールに含まれていないため、必要に応じて別途インストールする必要があります。

注記

WinCC は、ドメインまたはワークグループでの運用に対して使用できます。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、インストールできない場合があることに注意してください。この場合は、Microsoft メッセージキュー、Microsoft SQL Server 2016 および WinCC をインストールする前に、ドメインからコンピュータを削除します。このコンピュータに、ローカルに管理者権限でログオンします。インストールを実行します。インストールが成功した後、WinCC コンピュータを再度ドメインに登録することができます。ドメインのグループポリシーおよびドメインの制限がインストールを妨げない場合は、コンピュータをインストール中にドメインから削除しないようにします。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、運用できない場合があることにも注意してください。こういった制限に対処することができない場合は、ワークグループの WinCC コンピュータを操作します。

必要に応じて、ドメイン管理者に連絡してください。

手順 - Windows 10

1. [コントロールパネル] > [プログラムと機能]の順に選択します。
2. 左側のメニューバーで[Windows の機能の有効化または無効化]ボタンをクリックします。
   [Windows の機能]ダイアログが開きます。
3. [Microsoft メッセージキュー(MSMQ)サーバー]コンポーネントを有効化します。
   [Microsoft メッセージキュー(MSMQ)サーバーコア]エントリが選択されます。
   サブコンポーネントは無効にされたままになります。
4. [OK]で確認します。

手順 Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2016 / Windows Server 2019

1. サーバーマネージャーを起動します。
2. [役割と機能の追加]をクリックします。
   [役割と機能の追加]ウィザードウィンドウが開きます。
3. ナビゲーションエリアで[サーバーの選択]をクリックします。
   現在のコンピュータが選択されていることを確認します。
4. ナビゲーションエリアで[機能]をクリックします。

5. 以下のオプションを選択します。
   - [メッセージキュー]
   - 下の[メッセージキューサービス]オプション
   - 下の[メッセージキューサーバー]オプション
6. [インストール]をクリックします。

1.3.3 接続性パックサーバーのインストール

はじめに

接続性パックサーバーのインストールには、以下のコンポーネントが含まれています。

- WinCC OLE DB Provider
- SQL Server 2016 SP2 64 ビット
- WinCC ライセンス管理の"Automation License Manager"
- WinCC アーカイブコネクタ
- WinCC DataConnector
- WinCC 基本コンポーネント
- 文書
- 例

必要条件

- ハードウェア要件:
  WinCC サーバーの WinCC V7.5 SP1 ハードウェア要件に従ってください。
- オペレーティングシステム:
  - Windows 10 Pro / Enterprise / Enterprise LTSC (最大 3 クライアント) 64 ビット
  - Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット
  - Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット
  - Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット
- Microsoft メッセージキューをインストールする必要があります。
- V11.0 (32 ビット)以降の Microsoft Internet Explorer
- WinCC RT アーカイブにアクセスするには、WinCC V7.5 SP1 がインストールされている必要があります。

注記

4 クライアント以上を使用するには、サーバーバージョンをインストールする必要があります。

ワークステーションバージョンでは、最大 3 クライアントまで使用できます。

手順

1. コンピュータを接続性パックサーバーとして設定するには、コンピュータ上で接続性パックサーバーセットアップを実行します。
2. [プログラムパッケージ]ダイアログで、WinCC 製品 DVD の[接続性パック-サーバー]エントリを選択します。

ライセンシング

接続性パックサーバーを操作するには、WinCC 接続性パックオプションのライセンスが必要です。

アクセス権

WinCC/Connectivity Pack のすべてのユーザーを Windows ユーザーグループ「SIMATIC HMI」に含める必要があります。

接続性パッククライアントのリモートアクセスを可能にするには、ユーザーが接続性パックサーバー上の「SIMATIC HMI」ユーザーグループのメンバーでなければなりません。

1.3.4 接続性パッククライアントのインストール

はじめに

接続性パッククライアントのインストールには、以下のコンポーネントが含まれています。

- WinCC OLE DB Provider
- WinCC DataConnector
- SQL 接続ツール
- 文書

注記

SQL 接続ツールをインストールするには、コンピュータの管理者権限が必要です。

必要条件

- オペレーティングシステム:
  - Windows 10 Pro / Enterprise / Enterprise LTSC 64 ビット
  - Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット
  - Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット
  - Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット
- Microsoft メッセージキューをインストールする必要があります。
- V11.0 (32 ビット)以降の Microsoft Internet Explorer

手順

1. コンピュータを接続性パッククライアントとして設定するには、コンピュータ上で接続性パッククライアントを設定します。
2. [プログラムパッケージ]ダイアログで、WinCC 製品 DVD の[接続性パック-クライアント]エントリを選択します。
3. WinCC V7.5 SP1 が既にクライアントにインストール済みの場合は、接続性パッククライアントの追加のインストールは必要ありません。

アクセス権

WinCC/Connectivity Pack のすべてのユーザーを Windows ユーザーグループ「SIMATIC HMI」に含める必要があります。

接続性パッククライアントのリモートアクセスを可能にするには、ユーザーが接続性パックサーバー上の「SIMATIC HMI」ユーザーグループのメンバーでなければなりません。

1.4 WinCC/接続性パックのリリースノート

1.4.1 接続性パックに関する情報

コンテンツ

このリリースノートには重要な情報が記載されています。

これらのリリースノートの記述は、マニュアルおよびオンラインヘルプの情報より優先します。

リリースノートには有用な情報が多数含まれているため、必ず熟読してください。

OPC クライアントと接続ステーションの間での OPC UA 経由のデータ交換

OPC UA サーバーは、アドレス"opc.tcp://[ホスト名]:[ポート]"で使用できる接続ステーションに搭載されています。

ホスト名	コンピュータ名のプレースホルダであり、自動的に挿入されます。
ポート	ポート番号。デフォルトは「4864」です。

WinCC OLEDB Provider の使用制限

WinCC V7.2 以降では、[WinCC OLEDB Provider]インターフェースを介した[インポート]機能を MS Office Excel で実行することはできません。

1.5 WinCC/DataMonitor インストールノート

1.5.1 DataMonitor のインストールの必要条件

はじめに

インストールするには、特定のハードウェアおよびソフトウェアの設定条件を満たす必要があります。

注記

DataMonitor サーバーは、それ自体のプロジェクトがなければ WinCC クライアントで操作できません。

DataMonitor サーバーは、WinCC ServiceMode で作動していないコンピュータでのみ使用します。

ハードウェア要件

WinCC/DataMonitor を効率的に使用するために、最適な設定として推奨される仕様のシステムをお使いください。

DataMonitor サーバー

		最小値	推奨値
10 以上のクライアント用の WinCC サーバー上の DataMonitor サーバー	CPU	デュアルコア CPU、2.5 GHz	マルチコア CPU、3.5 GHz
	ワークメモリ	4 GB	8 GB
ランタイムで WinCC プロジェクトを使用する WinCC サーバー上の DataMonitor サーバー	CPU	デュアルコア CPU、2.5 GHz	マルチコア CPU、3.5 GHz
	ワークメモリ	4 GB	8 GB
WinCC サーバーの DataMonitor サーバー	CPU	デュアルコア CPU、2.5 GHz	マルチコア CPU、3.5 GHz
	ワークメモリ	4 GB	> 4 GB
WinCC シングルユーザーシステムでの DataMonitor サーバー、または固有プロジェクトがある WinCC クライアント	CPU	デュアルコア CPU、2.5 GHz	マルチコア CPU、3.5 GHz
	ワークメモリ	4 GB	> 4 GB

DataMonitor クライアント

	最小値	推奨値
CPU	デュアルコア CPU、2 GHz	マルチコア CPU、3 GHz
ワークメモリ	1 GB	2 GB

ソフトウェア要件

インストールには、オペレーティングシステムおよびソフトウェア設定に関する一定の必要条件を満たす必要があります。

Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)

DataMonitor サーバーをインストールする前に、インターネットインフォメーションサービス(IIS)をまずインストールする必要があります。

WinCC サーバーの DataMonitor サーバー

オペレーティングシステム	ソフトウェア
Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット	V11.0 (32 ビット)以降の Internet Explorer WinCC Basic System V7.5 SP1 または WinCC Fileserver V7.5 SP1

イントラネット情報を発行する場合は、次のものが必要になります。

- LAN 接続を使用してネットワークに接続された PC
- コンピュータ名を IP アドレスに変換するシステム。この手順を使用すれば、サーバーとの接続時にユーザーは IP アドレスではなく"エイリアス名"を使用できます。

インターネットで情報を発行する場合、次のものが必要になります。

- インターネット接続、およびインターネットサービスプロバイダ(ISP)の IP アドレスインターネット上で情報を発行できるのは、ISP により提供されたインターネットに接続している場合に限ります。
- インターネットとの接続に適切なネットワークアダプタ
- IP アドレスの DNS 登録この手順を使用すれば、サーバーとの接続時にユーザーは IP アドレスではなく"エイリアス名"を使用できます。

WinCC シングルユーザーシステムでの DataMonitor サーバー、または固有プロジェクトがある WinCC クライアント

オペレーティングシステム	ソフトウェア
Windows 10 Pro / Enterprise / Enterprise LTSC 64 ビット(最大 3 クライアント) Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット	V11.0 (32 ビット)以降の Internet Explorer WinCC Basic System V7.5 SP1 または WinCC Fileserver V7.5 SP1 コンポーネント「Excel ワークブックウィザード」と「Excel ワークブック」について: • Microsoft Office 2013 SP1 32 ビットバージョン/64 ビットバージョン • Microsoft Office 2016 32 ビットバージョン/64 ビットバージョン

さらに、イントラネット/インターネットへのアクセス、または Web クライアントとの TCP/IP 接続が必要です。

DataMonitor クライアント

オペレーティングシステム	ソフトウェア
Windows 7 SP1 Professional / Enterprise / Ultimate 32 ビット/64 ビット Windows 8.1 Pro / Enterprise 32 ビット/64 ビット Windows 10 Pro / Enterprise / Enterprise LTSC 64 ビット Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット MS ターミナルサービスを介して他のオペレーティングシステム	V11.0 (32 ビット)以降の Internet Explorer コンポーネント「Excel ワークブックウィザード」と「Excel ワークブック」について: • Microsoft Office 2013 SP1 32 ビットバージョン/64 ビットバージョン • Microsoft Office 2016 32 ビットバージョン/64 ビットバージョン

さらに、イントラネット/インターネットへのアクセス、または Web サーバーとの TCP/IP 接続が必要です。

1.5.2 DataMonitor クライアントをインストールするユーザー権限

はじめに

以下のとおり、DataMonitor クライアントをインストールできます。

- 製品 DVD からのインストール
  この場合、オペレーティングシステムによっては、特定の Windows ユーザー権限が必要です。
- イントラネット/インターネットによるインストール
  この場合、オペレーティングシステムによっては、特定の Windows ユーザー権限が必要です。
- ネットワークで、グループポリシーに基づくソフトウェア配布を使用したインストール
  ユーザーが介入したり、現在のユーザーの Windows ユーザー権限を実装する必要はありません。

クライアントのインストールおよび初回のログオンに必要な Windows ユーザー権限

オペレーティングシステムによっては、DataMonitor クライアントをイントラネット/インターネット経由でインストールするために、特定の最小限のユーザー権限が必要です。

インストールした後、クライアントは、DataMonitor サーバーの初期登録用の以下に示すユーザー ID でログインする必要があります。

- そのインストールに与えられたユーザー ID によって定義された Windows ユーザー権限より高いか同等の権限を持つユーザー ID。

この接続を正しく確立させる必要があります。その後のログインは、権限が制限されたさまざまな Windows ユーザー権限で実行することができます。

必要最小限のユーザー権限:

- 管理者

制限された Windows ユーザー権限での DataMonitor クライアントのインストール

Microsoft Windows インストーラテクノロジ(MSI)を使用して、「パワーユーザー」または「管理者」権限を保有していなくても、制限された Windows ユーザー権限で DataMonitor クライアントをインストールできます。

この手順は、ネットワーク内でグループポリシーベースのソフトウェア配布を使用するインストール中に設定することができます。

DataMonitor クライアントのアドインおよびプラグインも、このようにしてインストールできます。上述の最小限必要なユーザー権限は、WinCC Plug-In Builder で作成されたプラグインをインストールするためにも必要です。

MSI テクノロジを使用すれば、構成されたユーザーまたはコンピュータのグループに DataMonitor クライアントをインストールすることもできます。

ユーザーまたはコンピュータの設定済みグループのインストール

Microsoft Systems Management Server またはドメインコントローラのグループポリシーを使用することで、次が可能になります:

- 管理者が設定したユーザーまたはコンピュータのグループのインストール
  - これを実行するには、"WinCCDataMonitorClient.msi" MSI ファイルをドメインコントローラで発行し、ユーザーグループにリリースします。定義したユーザーのログイン時またはコンピュータの起動時に、グループポリシーベースのソフトウェア配布の設定に応じてインストールが実行されます。
  - Microsoft Systems Management Server を使用した場合、インストールは管理者により設定され、関連するコンピュータの起動時にトリガおよび実行されます。Microsoft Systems Management Server の詳細については、インターネットの Microsoft ホームページを参照してください。

グループポリシーベースのソフトウェア配布

ソフトウェアのインストールは、通常現在の Windows ユーザーのアクセス権を使用して実行されます。MSI テクノロジを使用すると、高いレベルの権限を保有したオペレーティングシステムサービスによりインストールが実行されます。これにより、Windows ユーザーが権限を所持していない場合にも、インストールを実行できます。より高いレベルの権限によるインストールが必要なアプリケーションは、MSI テクノロジで「特権インストール」と呼ばれます。「常により高い特権によるインストール」権限が Windows ユーザーに割り付けられると、これらのアプリケーションのインストールが可能になります。

グループポリシーに基づくソフトウェア配布を使用するには、ドメインコントローラでグループポリシーを作成し、配布ソフトウェアに割り付けるか、Active Directory を使用して発行します。

- 割り付け:ソフトウェア配布をユーザーまたはコンピュータに割り付けることができます。この場合、配布されるソフトウェアは、ユーザーのログイン時またはコンピュータ起動時に自動的にインストールされます。
- 発行:シングルユーザーにソフトウェア配布を発行できます。この場合、ユーザーがクライアントコンピュータにログオンすると、配布されるソフトウェアがダイアログ内に表示され、インストール用に選択できるようになります。

1.5.3 インターネットインフォメーションサービス(IIS)のインストール

設定

DataMonitor サーバーをインストールする前に、インターネットインフォメーションサービス(IIS)をまずインストールする必要があります。インストール中に、DataMonitor サーバーの設定を指定します。

以下の設定を選択します。

- Web 管理ツール:
  - IIS 管理サービス
  - IIS 管理コンソール
  - IIS 管理スクリプトとツール
  - IIS Metabasis および IIS 6 システム設定との互換性
  - IIS6 用 WMI との互換性
- [WWW サービス] > [HTTP 共通機能]または[HTTP 共有機能]:
  - 標準マニュアル
  - 静的コンテンツ
  - HTTP エラー
- WWW サービス > アプリケーション開発機能:
  - .NET 拡張性
  - ASP
  - ASP.NET
  - ISAPI 拡張機能
  - ISAPI フィルタ
- WWW サービス > セキュリティ:
  - 要求のフィルタリング
  - 基本認証
  - Windows 認証

注記

IIS のロギング機能を有効にした場合、ログファイルをモニタして、必要に応じて削除する必要があります。ログファイルが大きくなりすぎないように、イベント表示を設定しなければなりません。

必要条件

- この作業を実行するには、管理者権限を持つ必要があります。

手順

1. [コントロールパネル]で[プログラムと機能]を選択します。
2. [Windows の機能の有効化または無効化]または[Windows コンポーネントの追加/削除]をクリックします。
3. 上記で指定した設定を有効にします。
   また、[スタート|ファイル名を指定して実行|コマンド]でコマンドラインを起動して、IIS コンポーネントをインストールすることもできます。
   pkgmgr.exe /iu:IIS-WebServerRole;IIS-WebServer;IIS-CommonHttpFeatures;IIS-StaticContent;IIS-DefaultDocument;IIS-HttpErrors;IIS-ASPNET;IIS-ASP;IIS-ISAPIExtensions;IIS-ISAPIFilter;IIS-BasicAuthentication;IIS-WindowsAuthentication;IIS-ManagementConsole;IIS-ManagementService;IIS-IIS6ManagementCompatibility;IIS-Metabase;IIS-WMICompatibility
4. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。必要なデータが転送され、IIS がそれに従って設定されます。

Windows Server 2012 R2 / 2016 / 2019 用の手順

関連する役割サービスの「Webserver (IIS)」役割を使用して、サーバーマネージャの設定を構成します。

1.5.4 DataMonitor のインストール

はじめに

この章では、DataMonitor サーバーおよび DataMonitor クライアントのインストールについて説明します。

DataMonitor クライアントのインストールは、使用する DataMonitor ツールによって異なります。

DataMonitor サーバーのインストール範囲

DataMonitor サーバーをインストールし、WinCC/DataMonitor を使用できるようにする Web サーバーとしてセットアップします。

このインストールによって、[Trends & Alarms]を用いて WinCC Runtime アーカイブにアクセスできるようになります。

他のコンポーネントが WinCC Runtime を必要とするため、たとえばアーカイブサーバーとして使用される WinCC ファイルサーバーがインストールされているコンピュータに、「Webcenter」および「Trends & Alarms」のみがインストールされます。「Webcenter」および「Trends & Alarms」はプロセスに必要なすべてのコンポーネントをインストールします。

Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)

DataMonitor サーバーをインストールする前に、インターネットインフォメーションサービス(IIS)をまずインストールする必要があります。

DataMonitor クライアントのインストール条件

"Webcenter"および"Trends and Alarms"のみを使用する場合は、DataMonitor クライアントをインストールする必要はありません。

"Reports"の DataMonitor スタートページにある"Reports/ダウンロードエリア"で、Excel アドイン"ExcelWorkbook Wizard"および"Excel Workbook"を個別にインストールできます。

"Microsoft Excel"は"Excel Workbook"に必要です。次の Office バージョンが承認されています。

- Microsoft Office 2013 SP1
- Microsoft Office 2016

オペレーティングシステムによっては、DataMonitor クライアントをインストールするために、特定のユーザー権限が必要なことがあります。詳細については、「DataMonitor クライアントをインストールするユーザー権限」を参照してください。

注記

クライアントセットアップのダウンロード

クライアント設定をクライアントコンピュータに保存するには、クライアントソフトウェアを DataMonitor サーバーからダウンロードする際に[保存]オプションを選択します。セットアップファイルを保存するようにお勧めします。クライアントコンピュータを再起動する必要がある場合に、セットアップファイルを再度ダウンロードする必要がなくなるためです。

DataMonitor クライアントが DVD からすでにインストールされており、クライアントの更新バージョンをイントラネット/インターネット経由でインストールする場合、クライアント設定をターゲットコンピュータに保存する必要があります。

DataMonitor クライアントが 64 ビットコンピュータである場合、イントラネット/インターネットを介したインストール中に、"Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ"をインストールするための追加リンクが表示されます。DataMonitor クライアントで必須であるため、このインストールをまず実行する必要があります。加えて、"Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ"は"msi"パケットとしても使用可能である必要があります。64 ビットコンピュータの DataMonitor クライアントがドメイングループポリシーに統合されている場合、クライアントのユーザーは自分で"DataMonitorClient_x64_AddOn.msi"をインストールする必要があります。

Excel ワークブックウィザードでは Microsoft .Net Framework が必要

Excel ワークブックウィザードを使用するには、.Net Framework が DataMonitor クライアントにインストールされていることを確認してください。

クライアントの DataMonitor サーバー上へのインストール

DataMonitor クライアントまたは WebNavigator クライアントを DataMonitor サーバーにインストールする場合も、以下の手順を実行します。

1. Windows のサービスマネージャを使用して「CCArchiveConnMon」サービスの起動タイプを手動に設定します。
2. コンピュータを再起動します。
3. クライアントをインストールします。
   インストール中に、WebNavigator クライアントまたは DataMonitor クライアントがサーバーにアクセスしないことを確認します。
4. 「CCArchiveConnMon」サービスの起動タイプを切り替えて自動に戻します。

必要条件

- DataMonitor サーバーには、インターネットインフォメーションサービス(Internet Information Service (IIS) (ページ 107)が必要です。
- DataMonitor サーバーには WinCC 設定データが必要です。
- DataMonitor サーバーをインストールするには、Windows の"管理者"権限が必要です。

手順

1. WinCC DVD を DVD ドライブに挿入します。
2. 自動実行ファイルの自動実行機能が有効であれば、数秒後にセットアッププログラムが自動的に起動します。
   ネットワークドライブの場合、または自動実行機能が無効になっている場合には、手動で設定プログラムを起動すれば、インストールを実行できます。
   設定プログラムが起動します。
3. インストールするには、[ソフトウェアのインストール]をクリックします。
4. 以下のダイアログで、[DataMonitor Server]または[DataMonitor Client]のコンポーネントを選択します。
5. 設定プログラムの指示に従います。

下記も参照

インターネットインフォメーションサービス(IIS)のインストール (ページ 107)

1.5.5 DataMonitor のライセンス

DataMonitor クライアント

コンピュータ上の DataMonitor クライアントにはライセンスは不要です。

DataMonitor クライアントは DataMonitor サーバーでライセンスされています。
DataMonitor サーバー上のサーバーへのクライアントアクセスのためにライセンスキーをインストールします。

DataMonitor サーバー

WinCC 基本システムの必要条件として、WinCC RT 基本ライセンスが必要になります。

DataMonitor サーバーに同時にアクセスできるクライアント数 1 台、3 台、10 台、30 台に対応したライセンスをご利用いただけます。ライセンスは累加的です。

DataMonitor クライアントによるログイン試行中にライセンスされているクライアント数を超えると、メッセージが表示されます。以後のログインはできません。

注記

ユーザーが[ログオフ]ボタンでログオフせずに DataMonitor 開始ページを閉じると、DataMonitor サーバーへの接続が維持されます。
ライセンスは割り当てられたままになり、約 20 分後にようやく解放されます。

ライセンス数

DataMonitor は以下の機能グループを区別します:

- Excel Workbooks
  各 DataMonitor クライアントのサーバーコンピュータで"WinCC DataMonitor"ライセンスが必要になります。
- Webcenter, Trends & Alarms, Reports
  [Webcenter]ファンクショングループのライセンスカウントに関係するのは、クライアントの数ではなく、接続の数です。

以下の表に、ファンクショングループに基づくライセンスごとのクライアントまたは接続の最大数を示します。ファンクショングループ内だけで値は有効です。

ライセンス	Excel Workbooks [1)]	Webcenter, Trends & Alarms, Reports [1)]
1 台のクライアント	1	3
3 台のクライアント	3	6

ライセンス	Excel Workbooks 1)	Webcenter, Trends & Alarms, Reports 1)
10 台のクライアント	10	20
30 台のクライアント	30	60

1)ライセンスを累加している場合でも同じ値が適用されます。

以下の例では、2 つのライセンスが DataMonitor サーバーにインストールされています:「1 台のクライアント」+「3 台のクライアント」。

選択されたファンクショングループによって、以下の累加値が適用されます。

例: Excel Workbooks

インストール済みライセンス	ファンクショングループ	最大ログオンユーザー数
「1 台のクライアント」+「3 台のクライアント」	Excel Workbooks	4 人のユーザー

例: Webcenter, Trends & Alarms, Reports

インストール済みライセンス	ファンクショングループ	最大ログオンユーザー数
「1 台のクライアント」+「3 台のクライアント」	Webcenter, Trends & Alarms, Reports	8 人のユーザー

有効なライセンスキーを使用しない操作なし

使用できるライセンスがない場合は、DataMonitor にライセンスがないことを示すページが表示されます。

既存のライセンスを確認します。必要に応じて、必要なライセンスをインストールします。

V7.4 以前の DataMonitor バージョンの使用

V7.3 までの DataMonitor バージョンは、DataMonitor V7.4 以降からのライセンスを認識しません。

現在の DataMonitor ライセンスをコンピュータにインストールすると、バージョン V7.4 以前の DataMonitor のインストールはライセンスされなくなります。

これは、アップグレードライセンスを介して新しい累加的ライセンスにアップグレードした場合にも当てはまります。アップグレードしたライセンスは、もはや DataMonitor V7.3 以前のバージョンから認識されなくなります。

DataMonitor V7.4 以降へのアップグレードを元に戻すことはできません。

1.6 WinCC/DataMonitor リリースノート

1.6.1 DataMonitor についての注記

DataMonitor についての注記

このリリースノートには重要な情報が記載されています。

これらのリリースノートの記述は、マニュアルおよびオンラインヘルプの情報より優先します。

リリースノートには有用な情報が多数含まれているため、必ず熟読してください。

HTTPS による安全な接続の使用

通信のセキュリティを強化するには、HTTPS 接続のみがサポートされるように DataMonitor サーバーを構成します。

このためには、DataMonitor サーバーのデジタル証明書が必要です。また DataMonitor クライアントで SSL 証明書を使用します。

詳細な情報は、Microsof サポートの「IIS で HTTPS サービスを設定する方法」(http://support.microsoft.com/kb/324069/EN-US (http://support.microsoft.com/kb/324069))にあります。

大容量データがあるシステムのロード

大容量データを返す SQL クエリは、システムの機能に影響を与えることに注意してください。

有益な方法でデータの容量を制限できるフィルタ基準を選択してください。

インターネットに接続していないコンピュータ上で Excel ワークブックを開く

インターネットに接続していないコンピュータ上で DataMonitor クライアントを使用する場合、認証チェックを無効にする必要があります。この操作を実行するには、以下のステップに従ってください。

- Internet Explorer を開きます。
- [ツール]メニューの[インターネットオプション]コマンドを選択します。

- [詳細]をクリックします。
- [セキュリティ]セクションで、[発行元証明書の取り消しを確認する]の設定を無効にしてください。

WinCC Runtime を無効化、有効化した後の Excel ワークブックの機能と印刷ジョブ

WinCC Runtime を無効にしてから再度有効にする場合、Web アプリケーションを再起動する必要があります。

Excel ワークブック:アーカイブ値の要求されたデータの量

[データ解像度]プロパティの要求されたデータ量は制限できますが、定義した期間のデータは最初すべて内部で使用されます。これは、内部システムの制限に達する原因となる可能性があります。データ量を制限するには、圧縮アーカイブを使用します。

Web クライアント:Internet Explorer での ActiveX コントロールの表示

デフォルトでは、Internet Explorer で ActiveX コントロールは無効です。この理由により、現在 WinCC コントロールは Web クライアントの Internet Explorer に正しく表示されません。

WinCC コントロールを正しく表示するには、Web サーバーを信頼済み Web サイトとして追加し、[信頼済みサイト]のゾーンに対してのみ ActiveX コントロールを有効にします。

異質な ActiveX コントロールから引き続き Internet Explorer を保護するには、変更した後、制限されたセキュリティの設定が他のゾーンに引き続き適用されていることを確認します。

詳細情報については、以下の文書を参照してください:

- WinCC/DataMonitor:[WinCC/DataMonitor ドキュメント] > [DataMonitor システムの構成] > [DataMonitor クライアントの操作] > [Internet Explorer のセキュリティ設定の構成]

DataMonitor サーバー:WinCC ファイルサーバーへのリモートアクセス

1 台の DataMonitor サーバーから WinCC ファイルサーバーへのリモートアクセスが可能なのは、WinCC ファイルサーバーでファイアウォールが無効化されている場合だけです。

Excel ワークブック:DataMonitor クライアントおよび DataMonitor サーバーのローカル時間

アーカイブデータを要求するときには、サーバーとクライアントのローカル時間が、たとえば自動同期化ができないためなどで十分に同期化されていない場合に、相違することがあることに注意してください。

DataMonitor クライアントは、アーカイブデータが要求されたときに、DataMonitor サーバーの現在の時間を確立しようとします。成功した場合、クエリはサーバーの時間を基準として行われます。Excel の表内のデータの表示では、タイムスタンプはクライアントのローカル時間帯で表したサーバー時間を示しています。

サーバー時間のクエリが正常に行われなかった場合、DataMonitor クライアントはクエリの基準時間として自己のローカル時間を使用します。DataMonitor クライアントの Windows イベント表示にも入力されます。Excel テーブル内のデータの表示では、タイムスタンプはクライアント時間を示しています。

Excel ワークブック:端末サーバー上のクライアント

端末サーバーで操作する場合、Excel ワークブックのクライアントが端末サーバーのセッションで実行されます。Excel ワークブックのクライアントを操作できるのは、最大 10 個です。そうしないと、MS Excel によってコンピュータに過度の負荷がかかります。

トレンドおよびアラーム:プロジェクトのコピー後のアーカイブデータの表示

コンピュータ間で WinCC プロジェクトをコピーし、ターゲットコンピュータのプロジェクトのアーカイブデータを「トレンドおよびアラーム」に表示するには、まず WinCC Project Duplicator を使用してプロジェクトをコピーする必要があります。

Project Duplicator ではなく Windows Explorer を使ってプロジェクトをコピーすると、ランタイムデータがターゲットコンピュータに適用されません。アーカイブの選択で「トレンドおよびアラーム」に表示されるのは、ターゲットコンピュータではなくソースコンピュータの名前です。ターゲットコンピュータのコンピュータ名は、アーカイブが Alarm Logging と Tag Logging でリセットされてからはじめて選択フィールドに表示されます。

下記も参照

http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

1.7 WinCC/WebNavigator インストールノート

1.7.1 WebNavigator インストールに関する一般情報

納品範囲

WinCC DVD には WinCC/WebNavigator 用の以下のコンポーネントがあります:

- WebNavigator サーバー
- WebNavigator クライアント
- WinCCViewerRT
- WebNavigator 診断クライアント
- Web View Publisher
- WebNavigator Plug-In Builder
- 文書
- リリースノート

注記

WinCC/WebNavigator V7.5 SP1 のインストールは、WinCC V7.5 SP1 のみに基づいてリリースされています。

V7.5 SP1 より古い WinCC バージョンがインストールされているコンピュータでは、バージョン V7.5 SP1 の WebNavigator サーバー/クライアントをインストールできません。

また、バージョン V7.5 SP1 より古い WebNavigator サーバー/クライアントは、WinCC V7.5 SP1 がインストールされているコンピュータにインストールできません。

ヨーロッパバージョンとアジアバージョンの WinCC および WebNavigator を混合して使用することは、この設定では許可されていないことに注意してください。

1.7.2 WebNavigator インストールの必要条件

1.7.2.1 WebNavigator のハードウェアとソフトウェア要件

はじめに

このセクションでは、WinCC/WebNavigator のハードウェアおよびオペレーティングシステムの必要条件について説明します。

ソフトウェア要件に関する注記

Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)

WebNavigator サーバーをインストールする前に、インターネットインフォメーションサービス(IIS)をまずインストールする必要があります。

注記

WebNavigator サーバーは、それ自体のプロジェクトがないと、WinCC クライアントで操作できません。

Internet Explorer 11

Internet Explorer 11 を使用している場合、次の設定を調整します。

1. [ツール] > [アドオンの管理]メニューコマンドを選択します。
2. [ツールバーと拡張機能]で、"Adobe Systems"パブリッシャーのアドオン、例えば、"Shockwave Flash Object"や Adobe Acrobat アドオンを無効にします。

これらのアドオンは、Internet Explorer 11 の安定性に悪影響を及ぼすことがあります。

WebNavigator クライアント

ハードウェア

	最小値	推奨値
CPU	デュアルコア CPU、2 GHz	マルチコア CPU、3 GHz
ワークメモリ	1 GB	2 GB

ソフトウェア

オペレーティングシステム	Windows 7 SP1 Professional / Enterprise / Ultimate 32 ビット/64 ビット Windows 8.1 Pro / Enterprise 32 ビット/64 ビット Windows 10 Pro / Enterprise 64 ビット Windows 10 Enterprise LTSC 64 ビット Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット MS ターミナルサービスを介して他のオペレーティングシステム Windows Embedded Standard 7 (SP1 を含む)の、SIMATIC IPC 4x7D および SIMATIC IPC 4x7E との組み合わせ
ソフトウェア	V11.0 (32 ビット)以降の Internet Explorer WebNavigator クライアント:Intranet/Internet を介してインストールするには、Internet Explorer の最新の累加的セキュリティアップデートをインストールする必要があります。追加情報は、Microsoft Update KB3072449 で参照できます。
その他の	イントラネット/インターネットへのアクセス、 または WebNavigator サーバーへの TCP/IP 接続

WinCC シングルユーザーシステムでの WebNavigator サーバー

ハードウェア

	最小値	推奨値
CPU	デュアルコア CPU、2.5 GHz	マルチコア CPU、3.5 GHz
ワークメモリ	2 GB	> 4 GB

ソフトウェア

オペレーティングシステム	Windows 10 Pro / Enterprise 64 ビット Windows 10 Enterprise LTSC 64 ビット Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット
ソフトウェア	V11.0 (32 ビット)以降の Internet Explorer WinCC Basic System V7.5 SP1
その他の	イントラネット/インターネットへのアクセス、 または WebNavigator クライアントへの TCP/IP 接続

独自プロジェクトのある WinCC サーバー上または WinCC クライアント上の WebNavigator サーバー

ハードウェア

	最小値	推奨値
CPU	デュアルコア CPU、2.5 GHz	マルチコア CPU、3.5 GHz
ワークメモリ	4 GB	8 GB

ソフトウェア

オペレーティングシステム	Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット
ソフトウェア	V11.0 (32 ビット)以降の Internet Explorer WinCC Basic System V7.5 SP1
その他の	イントラネット/インターネットへのアクセス **イントラネット**で発行する場合、コンピュータ名を IP アドレスに変換するシステムが必要です。この手順を使用すると、サーバーとの接続時にユーザーは IP アドレスではなくエイリアス名を使用できます。 **イントラネット**で発行する場合、IP アドレスの DNS 登録が必要です。この手順を使用すると、サーバーとの接続時にユーザーは IP アドレスではなくエイリアス名を使用できます。

WebNavigator 診断クライアント

ソフトウェア

オペレーティングシステム	Windows 7 SP1 Professional / Enterprise / Ultimate 32 ビット/64 ビット Windows 8.1 Pro / Enterprise 32 ビット/64 ビット Windows 10 Pro / Enterprise 64 ビット Windows 10 Enterprise LTSC 64 ビット Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット
ソフトウェア	V11.0 (32 ビット)以降の Internet Explorer
その他の	イントラネット/インターネットへのアクセス

下記も参照

インターネットインフォメーションサーバー(IIS)のインストール (ページ 128)

1.7.2.2 WebNavigator のライセンス

WebNavigator クライアント

WebNavigator クライアントが動作している PC では、サーバーライセンスを WebNavigator サーバーで使用できるため、ライセンスは必要ありません。

WebNavigator サーバー

WinCC 基本システムの必要条件として、WinCC RT 基本ライセンスが必要になります。ただし、ローカル WinCC クライアントを操作する必要がない場合は、WinCC サーバーライセンスは必要ありません。WinCC クライアントを専用 Web サーバーとして操作している場合でも、WinCC クライアントに WinCC サーバーライセンスは必要ありません。

クライアント数 1 台、3 台、10 台、30 台または 100 台に対応したライセンスをご利用いただけます。V7.4 以前の WebNavigator バージョンをアップグレードした場合は、5 台、25 台、50 台、または 150 台に対応したライセンスもご利用いただけます。

パッケージは、バージョンに依存せず、互いに組み合わせることができます。最大 150 台のクライアントは、WebNavigator サーバーに同時にアクセスできます。

WebNavigator クライアントによるログイン試行中にライセンスされているクライアント数を超えると、メッセージが表示されます。以後のログインはできません。

WinCC/WebUX クライアント

WinCC システムで WinCC/WebUX オプションも使用する場合、WebUX クライアントは WebNavigator ライセンスも使用できます。これにより使用可能な WebNavigator ライセンス数が減少します。

WinCC/WebUX の説明書に詳細情報が記載されています。

テストモード

WebNavigator ライセンスがないかまたはライセンスを削除した場合、WebNavigator サーバーはテストモードで実行されます。

テストモードではインストールから最大 30 日間実行できます。インストールから 30 日が経過した後、WebNavigator サーバーは、インストール済みのライセンスが存在する場合のみ起動できます。

WebNavigator 診断クライアント

診断クライアント用のクライアントコンピュータでは、"診断クライアント"ライセンスが必要です。

診断クライアントは以下の場合に WebNavigator サーバーにアクセスする場合があります。

- WebNavigator サーバーで同時アクセスの最大操作回数を超過したとき。
- WebNavigator サーバー上にインストールされた WebNavigator ライセンスが存在しないとき。

対応するライセンスのない診断クライアント

対応するライセンスなしで診断クライアントがインストールされている場合、各コンピュータを起動してからおよそ 1 時間後にメッセージが表示されます。

診断クライアントライセンスをインストールするか、診断クライアントソフトウェアを削除します。

RDP を介したアクセス不許可

リモートデスクトッププロトコル(RDP)を介したアクセスは、診断クライアントには有効ではありません。

注記

WinCC 基本システムを装備したコンピュータと診断クライアント

WinCC 基本システムを装備したコンピュータに診断クライアントをインストールする場合、WinCC を削除した後に診断クライアントを再インストールする必要があります。

WebNavigator サーバーおよびクライアントのライセンスの概要

WebNavigator と診断ライセンスを組み合わせることができます。

サーバー	クライアントにライセンスがない [1]	クライアントに診断クライアントライセンスがある [1]
WinCC ライセンスがない WebNavigator ライセンスがない	テストモードでのクライアント ライセンス数無制限	テストモードでのクライアント ライセンス数無制限
WinCC のライセンス WebNavigator ライセンスがない	テストモードでのクライアント ライセンス数無制限	診断クライアント 診断クライアントごとにライセンス 1 つ
WebNavigator ライセンス WinCC ライセンスがない	テストモードでのクライアント ライセンス数無制限	テストモードでのクライアント ライセンス数無制限
WebNavigator ライセンス + WinCC ライセンス	WebNavigator クライアント サーバーライセンスの最大数まで	診断クライアント 診断クライアントごとにライセンス 1 つ

サーバー	クライアントにライセンスがない 1)	クライアントに診断クライアントライセンスがある 1)
WebNavigator ライセンス + WinCC ライセンス +「ロードバランシング」ライセンス	WebNavigator クライアント サーバーライセンスの最大数まで	診断クライアント 診断クライアントごとにライセンス 1 つ
WebNavigator ライセンス + WinCC ライセンス + WinCC の冗長性ライセンス +「ロードバランシングステップアップ」ライセンス	WebNavigator クライアント サーバーライセンスの最大数まで	診断クライアント 診断クライアントごとにライセンス 1 つ

1) テストモードでの動作に注意が必要です。テストモードではインストールから最大 30 日間実行できます。

ライセンス変更後の WebNavigator クライアントの再起動

WebNavigator サーバーの WebNavigator ライセンスが変更された場合(クライアントの数の変更など)、接続されている Web クライアントごとに Internet Explorer を再起動し、WebNavigator クライアントが再びログインする必要があります。そうしないと、WebNavigator クライアントがデモモードに切り替わります。これは WebNavigator クライアントの自動再接続にも当てはまります。

V7.4 以前の WebNavigator バージョンの使用

V7.3 までの WebNavigator バージョンは、WebNavigator V7.4 以降からのライセンスを認識しません。

現在の WebNavigator ライセンスをコンピュータにインストールすると、バージョン V7.4 以前の WebNavigator のインストールはライセンスされなくなります。

これは、アップグレードライセンスを介して新しい累加的ライセンスにアップグレードした場合にも当てはまります。アップグレードしたライセンスは、もはや WebNavigator V7.3 以前のバージョンから認識されなくなります。

WebNavigator V7.4 以降へのアップグレードを取り消すことはできません。

1.7.2.3 ターミナルサービス使用の要件

Windows 端末サービスに対応した WebNavigator クライアントがリリースされています。

端末サーバーごとに最大 150 個のセッションを使用できます。

端末サーバー

ハードウェア

	最小値	推奨値
CPU	デュアルコア CPU、2 GHz	マルチコア CPU、3 GHz
ワークメモリ	1 GB	2 GB

注記

各端末クライアントにより、メモリ要件とプロセッサ負荷が増加します。したがって、端末サーバーに適切なメモリ容量とプロセッサ負荷容量があることを確認する必要があります。

ソフトウェア

オペレーティングシステム	Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2016 Standard / Datacenter 64 ビット Windows Server 2019 Standard / Datacenter 64 ビット クライアントで実行されるアプリケーションを、繰り返し呼び出して実行できる必要があります。
その他:	サーバーに多数のユーザーがアクセスする場合、高性能ネットワークカードを使用する必要があります。

端末クライアント

最低必要条件:	TCP/IP を使用するネットワークアダプタ 端末クライアント RDP 5.0 ディスプレイまたはモニタ ポインティングデバイス

注記

Windows Server CAL と同様に、以下の 2 つの異なる CAL 端末サービスがあります。

- TS デバイス CAL では、ユーザーに依存しない Windows セッションを、デバイスによって Windows Server で実行することができます。
- TS ユーザー CAL では、デバイスに依存しない Windows セッションを、ユーザーが Windows Server で実行できます。

Windows Server 端末サーバー CAL「TS CAL」がすべてのユーザーまたはすべてのデバイスに必要になります。

詳細については、"http://www.microsoft.com/resources/sam/lic_cal.mspx"にアクセスしてください。

下記も参照

http://www.microsoft.com/resources/sam/lic_cal.mspx (http://www.microsoft.com/resources/sam/lic_cal.mspx)

1.7.3 WebNavigator サーバーのインストール

1.7.3.1 概要:WebNavigator サーバーのインストール

必要条件

- Windows オペレーティングシステムのソフトウェア必要条件が満たされている。
- ローカル管理者権限。
- WinCC 基本システムがインストールされていること。

通知
WebNavigator サーバー:HTTPS による安全な接続の使用 通信のセキュリティを強化するには、HTTPS 接続のみがサポートされるように WebNavigator サーバーを構成します。このためには、WebNavigator サーバーのデジタル証明書が必要です。詳細については、Microsoft サポートの「IIS での HTTPS サービスを設定する方法」を参照してください: • http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

インストールの概要

1. インターネットインフォメーションサーバー(IIS)のインストール
2. WebNavigator サーバーのインストール。

注記

WinCC オプションが以前にインストールされている場合

WinCC/WebNavigator をインストールする前に他の WinCC オプションをインストールしている場合、これらのオプションを再インストールする必要があることがあります。

下記も参照

インターネットインフォメーションサーバー(IIS)のインストール (ページ 128)

WebNavigator サーバーのインストール (ページ 130)

http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

1.7.3.2 インターネットインフォメーションサーバー(IIS)のインストール

設定

WebNavigator サーバーをインストールする前に、インターネットインフォメーションサービス(IIS)をまずインストールする必要があります。インストール中に WebNavigator サーバーの設定を指定します。

以下の設定を選択します。

- Web 管理ツール:
  - IIS 管理サービス
  - IIS 管理コンソール
  - IIS 管理スクリプトとツール
  - IIS Metabasis および IIS 6 システム設定との互換性
  - IIS6 用 WMI との互換性
- [WWW サービス] > [HTTP 共通機能]または[HTTP 共有機能]:
  - 標準マニュアル
  - 静的コンテンツ

- WWW サービス > アプリケーション開発機能:
  - .NET 拡張性
  - ASP
  - ASP.NET
  - ISAPI 拡張機能
  - ISAPI フィルタ
- WWW サービス > セキュリティ:
  - 要求のフィルタリング
  - 基本認証
  - Windows 認証

注記

IIS のロギング機能を有効にした場合、ログファイルをモニタして、必要に応じて削除する必要があります。ログファイルが大きくなりすぎないように、イベント表示を設定しなければなりません。

必要条件

- 管理者権限
- 登録データベースの書き込みアクセス

手順

1. [コントロールパネル]で[プログラムと機能]を選択します。
2. [Windows の機能の有効化または無効化]または[Windows コンポーネントの追加/削除]をクリックします。
3. 上記で指定した設定を有効にします。
4. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。必要なデータが転送され、IIS がそれに従って設定されます。

別の手順

あるいは、[スタート] > [ファイル名を指定して実行]を選択し、「cmd」を実行してコマンドラインを起動し、インストールデータ媒体にある IIS コンポーネントをインストールすることもできます:

pkgmgr.exe /iu:IIS-WebServerRole;IIS-WebServer;IIS-CommonHttpFeatures;IIS-StaticContent;IIS-DefaultDocument;IIS-HttpErrors;IIS-ASPNET;IIS-ASP;IIS-ISAPIExtensions;IIS-ISAPIFilter;IIS-BasicAuthentication;IIS-WindowsAuthentication;IIS-

ManagementConsole;IIS-ManagementService;IIS-IIS6ManagementCompatibility;IIS-Metabase;IIS-WMICompatibility

Windows Server 2012 R2 / 2016 / 2019 用の手順

関連する役割サービスの「Webserver (IIS)」役割を使用して、サーバーマネージャの設定を構成します。

下記も参照

WebNavigator のハードウェアとソフトウェア要件 (ページ 119)

1.7.3.3 WebNavigator サーバーのインストール

必要条件

- ローカル管理者権限
- インターネットインフォメーションサービスがインストールされている。

手順

1. WinCC DVD をドライブに挿入します。
   オペレーティングシステムで自動実行が有効化されている場合は、DVD が自動的に起動します。
   自動実行機能が無効になっている場合は、DVD の Setup.exe プログラムを起動します。
2. [インストールの種類]ダイアログで、[パッケージインストール]を選択します。
3. [WebNavigator Server]インストールを選択します。
4. インストールする前に、WinCC に適用したセキュリティ設定が[システム設定]ダイアログに表示されます。
   ファイアウォールは、自動的に設定されます。
   システム設定に行った変更を確定します。
5. インストールを開始します。
   表示されているダイアログでインストール状況を追跡できます。
   インストールをキャンセルするには、[キャンセル]を選択します。

6. WebNavigator サーバーをインストールした後で、製品のライセンスキーを転送できます。転送するには、[ライセンスキーの転送]をクリックします。
ライセンスキーが既に転送されている場合やライセンスキーを後でインストールする場合は、次へを選択します。

注記

ライセンスキーは、自動的には転送されません。

不足しているライセンスキーは、インストール中またはインストール後に、"Automation License Manager" "を使用して転送する必要があります。

7. セットアップによって指示されたら、コンピュータを再起動します。

結果

WebNavigator サーバーがインストールされ、WinCC Explorer のナビゲーションウィンドウに表示されます。

1.7.4 WebNavigator クライアントのインストール

1.7.4.1 WebNavigator クライアントのインストール

はじめに

以下のとおり、WebNavigator クライアントをインストールできます。

- WinCC 製品 DVD からのインストール
この場合、オペレーティングシステムによっては、特定の Windows ユーザー権限が必要です。
- イントラネット/インターネットによるインストール。
この場合、オペレーティングシステムによっては、特定の Windows ユーザー権限が必要です。
- ユーザーが介入しないインストール:
  - 現在のユーザーの Windows ユーザー権限の使用
  - あるいは、ネットワークでの、グループポリシーベースのソフトウェア配布の使用

さらに、WebNavigator クライアントを WebNavigator サーバーにインストールすることもできます。

たとえば、Internet Explorer で、WinCC プロジェクトをサーバーでローカルに確認する場合に便利です。

リモート通信

WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、両方のコンピュータの[SIMATIC Shell]ダイアログでリモート通信を有効にします。

注記

WebNavigator クライアント上の.NET コントロール

WebNavigator クライアント上で.NET コントロールを使用する場合、WinCC 製品 DVD からクライアント上に.Net Framework 4.0 以降をインストールする必要があります。

.Net コントロールは、Windows フォルダ「Common Files」にコピーされるべきではありません。その代わり、次のパスを使用します。

- <インストールディレクトリ>WinCC\WebNavigator\Client\bin

WinCCViewerRT

WebNavigator クライアントをインストールすると、Web ビューア"WinCCViewerRT"がインストールされます。

手順

1. Internet Explorer でクライアントコンピュータの設定を入力し、確認します。
2. WebNavigator クライアントのインストール。

   注記

   DVD からインストールしている場合、あるいはグループポリシーに基づくソフトウェア配布を使用している場合、最初に古いクライアントを削除する必要なしに、古いバージョンの WebNavigator クライアントを直接アップグレードできます。

   WebNavigator クライアントの後で WebNavigator サーバーを PC にインストールすると、クライアントを再度インストールする必要があります。

   プラグインの再インストール

   WebNavigator クライアント V7.0 以降には、インストールすると、プラグイン「ユーザーアーカイブコントロール」、「ファンクショントレンドコントロール」、「ハードコピー」、「Web クライアント」がすでに統合されています。

   WebNavigator クライアント V7.0 以降が V7.0 より古い WebNavigator サーバー(例: V6.2 SP3)に接続されている場合、Web Navigation ユーザーインターフェースのダウンロードエリアでのインストール用に、これらのプラグインが提供されます。

   これらのプラグインはすでにインストールされていますこれらのプラグインを再インストールしないでください。

WebNavigator クライアントのセットアップおよびインストールに関する情報:

- WebNavigator クライアントに新しいバージョンをダウンロードしてインストールする前に、クライアントおよび接続されているサーバーにインストールされている言語を確認します。
  ダウンロードによってクライアントをインストールした後のクライアントコンピュータでは、接続されているサーバーの言語だけが使用できます。
- ローカルの WinCC プロジェクトが開いているか、または PC が最後に再起動して以来開いたままの場合、WebNavigator クライアントのセットアップは、エラーメッセージ[WinCC が有効です]によって中断されます。
  コンピュータを再起動します。
  WinCC が自動起動ディレクトリに含まれているか確認します。
  必要に応じてエントリを削除し、その後コンピュータを再起動して WebNavigator クライアントのインストールを実行します。
- WebNavigator クライアントをインストールするには、 ローカルハードディスクに 70 MB 以上の空きメモリスペースが必要です。
  メモリスペースが不足する場合、MSI セットアップは対応するエラーメッセージを表示してインストールをキャンセルします。
- WebNavigator クライアントをイントラネット/インターネットからダウンロードしてインストールする場合、セットアップファイルの[開く]または[保存]のどちらかを選択できます。
  WebNavigator クライアントの初回インストール時に選択した手順は、プラグインや ActiveX コントロールの後続インストールでも選択する必要があります。選択しない場合、"MSI インストーラ"サービスはエラーメッセージ"エラー 1316"を出力します。
- ダウンロードを介してインストールする前に、Internet Explorer の最新の累加的セキュリティアップデートをインストールする必要があります。
  追加情報は、Microsoft Update KB3072449 (https://support.microsoft.com/en-us/kb/3072449)で参照できます。

- WebNavigator サーバーへの接続を確立する前に、Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージが 64 ビットコンピュータの WebNavigator クライアントにインストールされている必要があります。
  クライアントが 64 ビットコンピュータである場合、イントラネット/インターネットを介したインストール中に、「Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ」をインストールするための追加リンクが表示されます。
  Web クライアントで必須であるため、このインストールをまず実行する必要があります。

  注記

  ドメイン環境での Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージのインストール

  加えて、"Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ"は"msi"パケットとしても使用可能である必要があります。

  - 64 ビットコンピュータの WebNavigator クライアントが DVD を介して最新のバージョンにアップグレードされない場合、"Webnavigatorclient.msi"および"WebNavigatorClient_x64_AddOn.msi"をドメインコントローラを介してユーザーに利用可能にすることができます。
  - 64 ビットコンピュータの WebNavigator クライアントがドメイングループポリシーに統合されている場合、クライアントのユーザーは自分で"WebNavigatorClient_x64_AddOn.msi"をインストールする必要があります。

- Web Navigation ユーザーインターフェースのダウンロードエリアに、インストール可能なプラグインが表示されます。
  これらのプラグインをインストールするには、WebNavigator クライアントのインストールと同じ最小限のユーザー権限が必要です。
  Web Navigation ユーザーインターフェースでプラグインを選択すると、WebNavigator クライアントのセットアップが開始します。選択したプラグインを再度確認する必要があります。

以前のバージョンの WebNavigator クライアントのアップグレード

www.wincc.de (https://www.wincc.de/)で、「WinCC/WebNavigator」デモアクセスを介してデモプロジェクトをダウンロードおよびインストールできます。

WebNavigator クライアントの最新バージョンがインストールされているかどうかが点検されます。

古いバージョンが存在する場合は、デモプロジェクトにアクセスするときに、WebNavigator クライアントもアップグレードされます。

WinCC V6.2 SP3 からのアップグレード

WinCC V6.2 SP3 からのアップグレードをした後、修復インストールを実行します。

コントロールパネルの[プログラムのアンインストールと変更]から WinCC/WebNavigator クライアントのインストールを開始して、[修復]を選択します。

そうしない場合、操作中にコントロールが再インストールされる場合があります。

コンピュータを再起動します。

WebNavigator クライアントの Windows Server でのインストール

グループポリシーのデフォルト設定では、"管理者"よりも低いユーザーオーソリゼーションで、WebNavigator クライアントを Windows サーバー環境にインストールすることはできません。

以下によって、グループポリシーでの WebNavigator クライアントのインストールを可能にします。

- ソフトウェアの割り付けと公開
- あるいは、[管理テンプレート] > [Windows コンポーネント] > [Windows インストーラ]で設定[常に高い権限を使用してインストールする]を有効にする。
  [Windows インストーラの無効化]オプションの[決してしない]を有効にする必要があります。

下記も参照

https://support.microsoft.com/en-us/kb/3072449 (https://support.microsoft.com/en-us/kb/3072449)

https://www.wincc.de (https://www.wincc.de/)

1.7.4.2 WebNavigator クライアントのユーザー権限およびユーザーグループ

WebNavigator クライアントのインストールおよび初回の登録に必要な Windows ユーザー権限

WebNavigator クライアントを、イントラネット/インターネットを介して、または製品 DVD を使用してインストールするには、「管理者」権限が必要です。WebNavigator サーバーでのクライアントの初期登録は、インストール中に使用したユーザー ID を使用して、同等または高位の Windows ユーザー権限で実行する必要があります。この接続を正しく確立させる必要があります。以降のすべてのログインは、さまざまな Windows ユーザー権限で実行することができますが、より厳しく制限を受けることもあります。

Windows ユーザーグループ「SIMATIC HMI」/「SIMATIC HMI VIEWER」

WinCC インストール後、WinCC は、Windows ユーザーとグループの管理に、以下のローカルグループを自動的に確立します。

SIMATIC HMI	これらのメンバは、ローカルプロジェクトを作成し、このローカルプロジェクトをリモートで処理、開始、アクセスすることができます。WinCC データベースへのアクセスは、必要な最小権限(読み取り/書き込み)に限定されます。
SIMATIC HMI Viewer	これらのメンバには、WinCC データベースの設定およびランタイムデータへの読み取りアクセス権限のみがあります。

以下の場合は、WebNavigator クライアントのユーザーを Windows ユーザーグループに追加する必要があります:

- WinCC がすでにインストールされているパーソナルコンピュータに、WebNavigator クライアントがインストールされている:
  Web クライアントのユーザーはユーザーグループ「SIMATIC HMI VIEWER」または「SIMATIC HMI」のメンバである必要があります。
- WebNavigator クライアントが、「リモートデスクトップ」ユーザーとして WebNavigator サーバーにアクセスします:
  Web クライアントのユーザーはユーザーグループ「SIMATIC HMI VIEWER」のメンバである必要があります。

制限された Windows ユーザー権限での WebNavigator クライアントのインストール

使用されている MSI テクノロジにより、制限された Windows ユーザー権限でも WebNavigator クライアントをインストールできます。この手順は、ネットワーク内でグループポリシーベースのソフトウェア配布を使用するインストール中に設定することができます。

WebNavigator クライアント用のアドインおよびプラグインもインストールできます。WinCC Plug-In Builder で作成されたプラグインをインストールするには、「管理者」権限が必要です。

ユーザーまたはコンピュータの設定済みグループのインストール

Microsoft System Management Server またはドメインコントローラのグループポリシーを使用すれば、管理者が設定したユーザーまたはコンピュータのグループをインストールできます。

- これを行うには、MSI ファイル"WinCCWebNavigatorClient.msi"をドメインコントローラで発行し、ユーザーグループに対して有効にします。グループポリシーに基づくソフトウェア配布の設定に応じて、定義したユーザーのログイン時またはコンピュータの起動時に、インストールが実行されます。
- Microsoft Systems Management Server を使用した場合、インストールは管理者により設定され、関連するコンピュータの起動時にトリガおよび実行されます。

グループポリシーに基づくソフトウェア配布

ソフトウェアは、通常は現在の Windows ユーザーのアクセス権を使用してインストールされます。MSI テクノロジを使用すると、高いレベルの権限を保有したオペレーティングシステムサービスによりインストールが実行されます。これにより、Windows ユーザーが必要な権限を所持していないインストールを、実行できます。インストールに高いレベルの権限を必要とするアプリケーションは、MSI テクノロジで「特権インストール」と呼ばれます。「常により高い特権によるインストール」権限が Windows ユーザーに割り付けられると、これらのアプリケーションのインストールが可能になります。

グループポリシーに基づくソフトウェア配布を使用するために、グループポリシーがドメインコントローラで作成されます。次に、アクティブディレクトリを使用して、配布するソフトウェアが割り付けられるか、公開されます。

- 割り付け:ソフトウェア配布を、ユーザーまたはコンピュータに割り付けることができます。配布されるソフトウェアは、ユーザーのログイン時またはコンピュータの起動時に自動的にインストールされます。
- 発行:個々のユーザーにソフトウェア配布を発行できます。ユーザーがクライアントコンピュータにログオンすると、配布されるソフトウェアがダイアログに表示され、インストール用に選択できます。

1.7.4.3 Internet Explorer の設定(WebNavigator クライアント)

はじめに

WebNavigator クライアントの全機能を活用するために、Internet Explorer のセキュリティ設定を適用する必要があります。

手順

1. Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション]をクリックします。
2. [セキュリティ]タブを選択します。
   対応するゾーン(たとえば[ローカル イントラネット]または[インターネット])を選択します。
3. [レベルのカスタマイズ...]をクリックします。
4. [スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールのスクリプトの実行]オプションおよび[署名された ActiveX コントロールのダウンロード]オプションを有効にします。
5. [スクリプト]で、[アクティブ スクリプト]を有効にします。
6. [OK]をクリックします。 次のダイアログで、修正を加えます。
7. [信頼済みサイト]アイコンをクリックします。
   [サイト...]ボタンをクリックして、[信頼済みサイト]ダイアログを開きます。
8. WebNavigator サーバーのアドレスを、[この Web サイトをゾーンに追加する]フィールドに入力します。 使用できる形式とワイルドカードには、"*://157.54.100 - 200"、"ftp://157.54.23.41"、"http://*.microsoft.com"が含まれます。
   [このゾーンのすべてのサイトに対してサーバーの検証(https:)を要求する]オプションを無効にします。
   [追加]をクリックします。[OK]をクリックします。
9. [信頼済みサイト]アイコンをクリックします。
   [既定のレベル]ボタンをクリックしてから、[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。
   [スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行]を有効にします。[OK]をクリックします。
10. [全般]タブをクリックします。
    [インターネット一時ファイル]ボタンの[設定]エリアをクリックします。
    [保存しているページの新しいバージョンの確認]で[自動的に確認する]オプションを有効にします。
    [OK]をクリックします。
11. [OK]をクリックして[インターネット オプション]ダイアログを閉じます。

下記も参照

WebNavigator のハードウェアとソフトウェア要件 (ページ 119)

1.7.4.4 DVD からのインストール(WebNavigator クライアント)

必要条件

- WebNavigator クライアントのインストールおよび使用には、「Internet Explorer の設定 (WebNavigator クライアント) (ページ 137)」の情報が適用されます。
- オペレーティングシステムによっては、WebNavigator クライアントをインストールするために、特定の最小限のユーザー権限が必要です(「WebNavigator クライアントのユーザー権限およびユーザーグループ (ページ 135)」を参照)。

手順

1. WinCC DVD をドライブに挿入します。
   オペレーティングシステムで自動実行が有効化されている場合は、DVD が自動的に起動します。 自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. [インストールの種類]ダイアログで、[パッケージインストール]を選択します。
3. [WebNavigator クライアント]プログラムパッケージを選択します。
4. インストールする前に、WinCC に適用したセキュリティ設定が[システム設定]ダイアログに表示されます。 ファイアウォールは、自動的に設定されます。 システム設定に行った変更を確定します。
5. インストールを開始します。 表示されているダイアログでインストール状況を追跡できます。 インストールをキャンセルするには、[キャンセル]を選択します。
6. セットアップによって指示されたら、コンピュータを再起動します。

結果

これで WebNavigator クライアントがインストールされ、機能として WinCC Explorer のナビゲーションウィンドウに追加されました。

1.7.4.5 イントラネット/インターネットによるインストール(WebNavigator クライアント)

必要条件

- WebNavigator クライアントのインストールおよび使用には、「Internet Explorer の設定 (WebNavigator クライアント) (ページ 137)」の情報が適用されます。
- オペレーティングシステムによっては、WebNavigator クライアントをインストールするために、特定の最小限のユーザー権限が必要です(「WebNavigator クライアントのユーザー権限およびユーザーグループ (ページ 135)」を参照)。

- WebNavigator サーバーがコンピュータにインストールされている必要があります。インターネットインフォメーションサーバーが、WinCC Web Configurator で構成されている必要があります。ユーザーが WinCC ユーザー管理者に登録されている必要があります。WinCC プロジェクトがランタイムである必要があります。
- Internet Explorer の最新の累加的セキュリティアップデートをインストールする必要があります。これは、インストールされているすべての Internet Explorer のバージョンに適用されます。
  以下の Microsoft の記事を参照してください。
  – https://support.microsoft.com/en-us/kb/3072449 (https://support.microsoft.com/en-us/kb/3072449)
- WebNavigator サーバーへの接続を確立する前に、Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージが 64 ビットコンピュータの WebNavigator クライアントにインストールされている必要があります。

手順

1. Internet Explorer のアドレスバーへ移動し、WebNavigator サーバーの URL "http://www.<サーバー名>"を入力します。仮想ディレクトリでのインストールの場合は、アドレスを"http://www.<サーバー名>/WebNavigator/"のようにすることができます。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. 初めて WebNavigator サーバーにアクセスすると、WebNavigator クライアントをインストールするように促されます。
   クライアントが 64 ビットコンピュータである場合、"Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ"をインストールするための追加リンクが表示されます。Web クライアントで必須であるため、このインストールをまず実行する必要があります。
4. リンク[ここをクリックして WebNavigator クライアントをインストール]をクリックします。[ファイルのダウンロード]ダイアログの[保存]ボタンをクリックし、ターゲットコンピュータにクライアントのセットアップファイルを保存します。セットアップファイルを保存するようにお勧めします。クライアントコンピュータを再起動する必要がある場合に、セットアップファイルを再度ダウンロードする必要がなくなるためです。

注記

"Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ"をインストールせずに WebNavigator クライアントをインストールした場合、後で、"MainControl.asp"のナビゲーションユーザーインターフェースのダウンロードエリアにある[Web Navigator およびシステム更新]メニューからこのソフトウェアをインストールすることもできます。

WebNavigator クライアントがすでにインストールされており、イントラネット/インターネットを介してより最新のバージョンをインストールする場合は、直接クライアントセットアップを開きます。インストールファイルをターゲットコンピュータに保存する必要はありません。新しいインストールファイルを保存する場合は、古いインストールファイルを削除します。あるいは、新しいバージョンのファイルを別のディレクトリに保存できます。

---

5. Internet Explorer を開いたまま、Windows エクスプローラを開きます。セットアップファイルが保存されているディレクトリに移動します。ファイルをダブルクリックしてセットアップを開始します。
6. 画面に表示される説明に従い、必要な情報と設定を入力します。WebNavigator のクライアント側コントロールがインストールされます。[セットアップ]ダイアログを閉じます。

結果

インストールが正常に終了すると、WebNavigator クライアントは、現在ランタイムの WinCC プロジェクトに接続されます。

注記

オンスクリーンキーボードを使用するには、.net 4.0 以降をインストールする必要があります。WinCC DVD から WebNavigator クライアントをインストールすると、.net 4.0 はすでに含まれています。

下記も参照

https://support.microsoft.com/en-us/kb/3072449 (https://support.microsoft.com/en-us/kb/3072449)

1.7.5 WebNavigator 診断クライアントのインストール

はじめに

WebNavigator 診断クライアントのソフトウェアは、DVD からクライアントコンピュータにインストールされます。

必要条件

- この作業を実行するには、管理者権限を持つ必要があります。
- リモートデスクトッププロトコル(RDP)を介したアクセスは、診断クライアントには有効ではありません。

手順

1. WinCC DVD をドライブに挿入します。
   オペレーティングシステムで自動実行が有効化されている場合は、DVD が自動的に起動します。
   自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. [インストールの種類]ダイアログで、[カスタムインストール]を選択します。
3. 「Web Navigator」プログラムグループで、「Diagnose Client」プログラムを選択します。
4. インストールする前に、WinCC に適用したセキュリティ設定が[システム設定]ダイアログに表示されます。ファイアウォールは、自動的に設定されます。
   システム設定への変更を確定します。
5. インストールを開始します。
   表示されているダイアログでインストール状況を追跡できます。
   インストールをキャンセルするには、[キャンセル]を選択します。
6. セットアップによって指示されたら、コンピュータを再起動します。

結果

これで WebNavigator 診断クライアントがインストールされました。

1.7.6 WebNavigator デモプロジェクト

はじめに

WinCC デモプロジェクトは、自己解凍 ZIP ファイルとして、下記からダウンロードできます。

- インターネット:WinCC デモプロジェクト (https://support.industry.siemens.com/cs/products?search=demo&dtp=ExampleOfUse&o=DefaultRankingDesc&pnid=14867&lc=en-WW)

インストール

プロジェクトをインストールするには、このファイルをローカルのターゲットディレクトリにコピーし、ダブルクリックして解凍します。

以下のログインが既にデモプロジェクトに設定されています。

WinCC	ログオン	パスワード
デモユーザー(ドイツ語)	winccd	winccpass
デモユーザー(英語)	wincce	winccpass

下記も参照

はじめての Web プロジェクト
(ページ 175)

インターネット:WinCC デモプロジェクト (https://support.industry.siemens.com/cs/products?search=demo&dtp=ExampleOfUse&o=DefaultRankingDesc&pnid=14867&lc=en-WW)

1.7.7 WebNavigator のアンインストール

はじめに

WebNavigator サーバーおよび WebNavigator クライアントは、Windows と同様の通常の方法で削除できます。

手順:WinCC 製品 DVD を介するアンインストール

1. WinCC 製品 DVD を起動します。
   オペレーティングシステムで自動実行が有効化されている場合は、DVD が自動的に起動します。
   自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. 画面の指示に従います。
3. セットアップタイプとして[削除]を選択します。
4. 削除するコンポーネントを選択します。

その他の手順:コントロールパネルを介するアンインストール

1. Windows のコントロールパネルで、[プログラムのアンインストールと変更]ダイアログを開きます。
2. WebNavigator サーバーまたはクライアントを選択し、[削除]をクリックします。
   画面に表示される指示に従ってください。

結果

これで WebNavigator サーバーまたは WebNavigator クライアントがコンピュータから削除されました。

1.8 WinCC/WebNavigator リリースノート

1.8.1 WebNavigator について

はじめに

このリリースノートには重要な情報が記載されています。

これらのリリースノートの記述は、マニュアルおよびオンラインヘルプの情報より優先します。

リリースノートには有用な情報が多数含まれているため、必ず熟読してください。

セキュリティ情報

Siemens 製品およびソリューションの安全な稼動を確実にする為、適切な予防処置(例えば、セルプロテクションコンセプト)を行うことや、最先端の総合的な産業セキュリティコンセプトに各構成要素を組み入れることも必要です。使用されている可能性がある第三者製品についても同様に考慮する必要があります。産業セキュリティに関する詳細については、以下をご参照ください。http://www.siemens.com/industrialsecurity (http://www.siemens.com/industrialsecurity)。

WebNavigator クライアントでのセキュリティ制限

通知
Internet Explorer のセキュリティ制限と応答時間 WebNavigator クライアントを使用する場合、インターネット固有のセキュリティ制限に注意してください。WebNavigator クライアントでは、WebNavigator サーバーのダウンや通信障害を認識するために、通常の WinCC クライアントよりかなり長い時間(20 秒を超える)がかかることがあります。

HTTPS による安全な接続の使用

通信のセキュリティを強化するには、HTTPS 接続のみがサポートされるように WebNavigator サーバーを設定します。

このためには、WebNavigator サーバーのデジタル証明書が必要です。WebNavigator クライアントで SSL 証明書を使用します。

詳細な情報は、Microsof サポートの「IIS で HTTPS サービスを設定する方法」(http://support.microsoft.com/kb/324069/EN-US (http://support.microsoft.com/kb/324069))にあります。

プロキシサーバー経由の通信

プロキシサーバーを使用する通信では、以下を注意してください。

- WebNavigator クライアントは、サーバードメインのメンバである必要があります。
- WebNavigator クライアントで登録されているユーザーにプロキシサーバーへのアクセス権がない場合、NTLM 認証によるプロキシサーバーへのログオンは以下のとおりです。
  1.プロキシサーバーのログオンダイアログが表示されます。
  2.WinCC ユーザーのログオンダイアログが表示されます。
  3.プロキシサーバーのログオンダイアログが再度表示されます。

WebNavigator のためのクロスサイトリクエストフォージェリの回避

クロスサイトリクエストフォージェリは、クロスサイトスクリプト(XSS、クロスサイトスクリプティング)により引き起こされる脆弱性に似ています。

認証されたユーザーが悪質なリンクをクリックしたときに、攻撃がトリガされます。スクリプトがブラウザで無効になっている場合でも、この脆弱性が存在します。

Siemens は以下のことを推奨します。

- インターネットに関連しているその他のアプリケーションやサービスを使用して作業しないでください。
- WebNavigator を必要としないときにはログオフしてください

深い防御

Siemens の Web サイトで「産業セキュリティ」についての注意事項を参照してください。

- http://www.industry.siemens.com/topics/global/en/industrial-security/concept/Pages/defense-in-depth.aspx (http://www.industry.siemens.com/topics/global/en/industrial-security/konzept/Seiten/defense-in-depth.aspx)

WebNavigator に関する一般的な情報

WinCC のアンインストール:WebNavigator クライアントは後でインストールする必要がある

WinCC をアンインストールすると、WebNavigator クライアントをポストインストールする必要があります。

Internet Explorer でのセキュリティ設定:SSL 接続を介したインストール

SSL 接続経由で ASP ポータルから WebNavigator をダウンロードする場合、特定の条件下ではダウンロードできないことに注意してください。これは、以下のいずれかを設定することによって、修正できます。

- Internet Explorer の[インターネット]オプションの[詳細]タブで[Do not save encrypted pages to disk]を無効にします。
- [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] > [Windows コンポーネント]の[Internet Explorer Enhanced Security Configuration]オプションを無効にします。

プラグインのインストール後のメッセージ

プログラム互換性ウィザードは、プラグインのインストール中にメッセージを発生させる可能性があります。プラグインは正しくインストールされています。したがって、このメッセージは「プログラムは正しくインストールされました。」で承認します。

プロジェクト変更

プロジェクトの変更に続いて、インターネットインフォメーションサービス(IIS)の突発的動作不良が発生することがあります。この場合、コンピュータを再起動する必要があります。

WebNavigator サーバー:標準ポート"80"以外のポートの設定

WinCC Web Configurator でポートを設定する場合、標準ポート"80"ではなく、"8080"等を使用します。

WebNavigator サーバー:Internet Explorer での仮想フォルダの表示

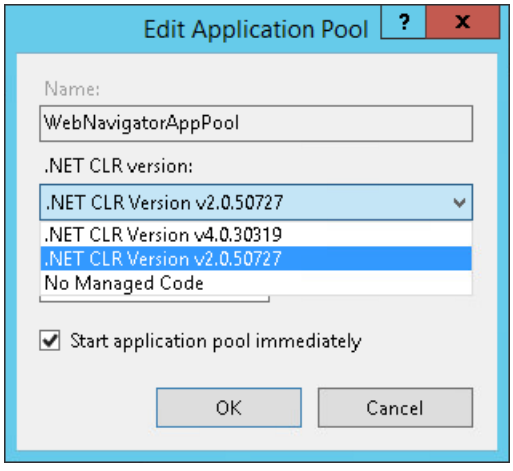
WebNavigator ブラウザとして Internet Explorer を使用している場合、以下の点に注意してください。

既存のウェブサイトに仮想フォルダを追加するには、このウェブサイトをドライブのサブディレクトリで作成します。

ウェブサイトがルートディレクトリに作成されると(例、D:\)、Internet Explorer が仮想フォルダのコンテンツを表示しないことがあります。

常にコンテンツを表示するには、IIS で.NET 設定を変更します。

1. [インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ]を開きます。
2. ナビゲーションで、[アプリケーションプール]エントリをクリックします。
3. [WebNavigatorAppPool]のコンテキストメニューで、[基本設定]エントリを選択します。
4. [.NET CLR バージョン]リストで、.NET バージョン[v2]を選択します。例:



WebNavigator クライアント:Windows Server 2012 での Internet Explorer 設定

WebNavigator クライアントで Windows Server 2012 に開始画面をロードできるようにするには、Internet Explorer の[ツール] > [インターネットオプション] > [詳細]で[暗号化されたページをディスクに保存しない]の設定を無効にする必要があります。

WebNavigator クライアント:Internet Explorer での ActiveX コントロールの表示

デフォルトでは、Internet Explorer で ActiveX コントロールは無効です。この理由により、現在 WinCC コントロールは WebNavigator クライアントの Internet Explorer に正しく表示されません。

WinCC コントロールを正しく表示するには、Web サーバーを信頼済み Web サイトとして追加し、[信頼済みサイト]のゾーンに対してのみ ActiveX コントロールを有効にします。

異質な ActiveX コントロールから引き続き Internet Explorer を保護するには、変更した後、制限されたセキュリティの設定が他のゾーンに引き続き適用されていることを確認します。

詳細情報については、以下の文書を参照してください:

- WinCC/WebNavigator:[WinCC/WebNavigator インストールノート] > [WebNavigator クライアントのインストール] > [Internet Explorer での設定]

WebNavigator クライアント:WinCC コントロールから印刷するためのファイアウォール設定

クライアント上で印刷できるようにするには、使用しているプロファイルで次のファイアウォール設定を定義する必要があります。

1. [コントロールパネル] > [システムとセキュリティ] > [Windows ファイアウォール]を開きます。
2. ナビゲーションバーで、[Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]をクリックします。
3. [許可されたプログラムおよび機能:]一覧で、該当するプロファイルについてエントリ[ファイルとプリンターの共有]を有効にします。
4. [Windows ファイアウォール]のスタートページに戻ります。
5. ナビゲーションバーで[Windows ファイアウォールの有効化または無効化]をクリックします。
6. ファイアウォールが有効になったら、[許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする]設定を無効にします。

WebNavigator クライアント:「基本プロセスコントロール」を備えた WinCC コンピュータ

WinCC 基本プロセスコントロールがインストールされているコンピュータにクライアントが接続されている場合、「WinCC 基本プロセスコントロール」プラグインを WebNavigator クライアントでインストールする必要があります。このプラグインがないと、WinCC 基本プロセスコントロールの機能を、WebNavigator クライアントで使用できません。たとえば、関連する ActiveX コントロールやグループ表示を使用できません。

プラグインは、WebNavigator サーバーの「<wincc_installationpath>\WebNavigator\Server\Web\Install\Custom」ディレクトリにあります。プラグインを、WebNavigator ナビゲーションユーザーインターフェースを介して、ダウンロードエリアからダウンロードできます。

サポートされているファンクションとサポートされていないファンクションについての説明は、WinCC 情報システムの[プロセスコントロールのオプション] > [システム概要のプロセスコントロールオプション] > [PCS 7 環境の設定] > [Web クライアント]にあります。

WinCC 基本プロセスコントロールがインストールされている専用 Web サーバーに WebNavigator クライアントをインストールする場合、「WinCC 基本プロセスコントロール」プラグインを、WebNavigator クライアントのインストールの直後に、インストールする必要があります。プラグインのダウンロードページが表示されます。プロセス画像表示用のプラグインをインストールしないと、このページを終了できません。

PCS7 OS へ接続した場合にサポートされる WebNavigator クライアントの機能の詳細については、PCS7 のマニュアルを参照してください。

WebNavigator クライアント:フェイスプレート付き画像の更新

フェースプレート付き画像の変更更新を有効にするには、Internet Explorer のインターネット一時ファイルの設定で[Web ページを表示する毎に]を有効にする必要があります。

WebNavigator クライアント:ODK ファンクション「PWRTCheckPermissionOnPicture」

WebNavigator クライアントの ODK ファンクション「PWRTCheckPermissionOnPicture」を使用するには、プラグイン「WinCC 基本プロセスコントロール」と「高度なプロセスコントロール」をインストールしてください。

WebNavigator クライアント:WinCC ServiceMode の WebNavigator サーバー上の WinCC Alarm Control

初期状態

WebNavigator クライアントが、WinCC ServiceMode で作動している WebNavigator サーバーと接続されている。

動作

サーバーの接頭辞を使用して接続されている WinCC V7 を使用するより前に、WinCC AlarmControl を使用している場合、選択ダイアログを開くことはできません。

ソリューション

WinCC V7 以降に提供されている WinCC AlarmControl を使用します。

WebNavigator クライアント:診断ファイル"WebNavReconnnect.log"

WebNavigator クライアントのインストール後、診断ファイル「WebNavReconnnect.log」は「<ユーザー>\\Application Data\LocalLow\Siemens\SIMATIC.WinCC\WebNavigator\Client」ディレクトリに保存されます。

診断ファイルは、ユーザーに管理者権限が必要でなくなるように、各ユーザープロファイルに保存されます。

WebNavigator クライアント:"GCreateMyOperationMsg"ファンクションの "FLAG_COMMENT_DIALOG"

WebNavigator クライアントは、「GCreateMyOperationMsg」ファンクションの「FLAG_COMMENT_DIALOG」パラメータをサポートしません。

端末サーバー:ユーザーの証明書でログイン

次のグループポリシーは、ユーザーの証明書によるユーザーのログオンの動作に影響を及ぼします。

ローカルユーザーグループポリシー	設定
[コンピューター設定] > [Windows 設定] > [セキュリティ設定] > [ローカルポリシー] > [セキュリティオプション:] 「システム暗号化:コンピュータに保存されるユーザーキーのキー保護を強にするように強制」	キーを使用する度にユーザーがパスワードを入力する必要がある

この設定により、ユーザー証明書のパスワードプロンプトが、端末でセッションが確立されるときに、別のログオンユーザーのセッションに表示されることがあります。

修正処置

Windows のこの動作を回避するには、端末サーバーとして使用されているシステムで初期設定の「定義しない」を使用します。

この動作は、このユーザーグループポリシーが選択済みになっているときのみに発生します。

カスタムの ActiveX コントロール(Industrial X)

カスタム ActiveX コントロール(Industrial X)を使用する場合、WinCC および WebNavigator サーバーまたは WebNavigator クライアントとの互換性が保証される必要があります:

- ActiveX コントロールを、WinCC および WebNavigator サーバーまたはクライアントをインストールしたコンピュータに直接インストール。WinCC および WebNavigator サーバーまたはクライアントをインストールする前に、ActiveX コントロールをインストールする必要があります。このステップ後、ActiveX コントロールがエラーなしで機能しない場合は、互換性がありません。
- WebNavigator クライアントでの Web Navigation ユーザーインターフェースによるプラグインとしてのインストール。ActiveX コントロールがプラグインにパッケージされて、ダウンロードによってインストールされた場合、WinCC、WebNavigator サーバーまたはクライアントのアップグレードでも、この ActiveX コントロールを使った新しいプラグインの生成が必要です。プラグインを生成する際は、必ず互換バイナリ(DLL、OCX など)を使用する必要があります。

下記も参照

http://support.microsoft.com/hotfix/KBHotfix.aspx?kbnum=959658 (http://support.microsoft.com/hotfix/KBHotfix.aspx?kbnum=959658)

http://support.microsoft.com/kb/959658 (http://support.microsoft.com/kb/959658)

http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

http://www.siemens.com/industrialsecurity (http://www.siemens.com/industrialsecurity)

http://www.industry.siemens.com/topics/global/de/industrial-security/konzept/Seiten/defense-in-depth.aspx (http://www.industry.siemens.com/topics/global/en/industrial-security/konzept/Seiten/defense-in-depth.aspx)

1.9 WinCC/WebUX

1.9.1 WebUX のライセンス

統合された WinCC WebUX Monitor ライセンスを使用する WinCC/WebUX 基本パッケージは、WinCC に含まれています。

WebUX クライアント

WebUX クライアントは WebUX サーバーでライセンスされています。

コンピュータ上の WebUX クライアントにはライセンスは不要です。

WebUX サーバー

WebUX サーバーは WinCC システム上にインストールされます。WinCC 基本システムには、少なくとも WinCC 基本 RT ライセンスが必要です。

ライセンスキーは、以下で説明されているとおりに区別され、WinCC/WebUX サーバー上で並列に実行されます。

ライセンス [1]	機能	コメント
WinCC WebUX Monitor	ユーザーは読み取りアクセス権限だけを持っています。	オーソリゼーションレベル 1002「Web アクセス ー モニタリングのみ」がユーザー管理者の中でユーザーのために設定されています。 使用可能な「Monitor」ライセンスが割り付けられている場合は、「Operate」ライセンスも WebUX クライアントに読み取りアクセスのために割り付けられます。
WinCC WebUX Operate	ユーザーは読み取りおよび書き込みアクセス権限を持っています。	
WinCC/ WebNavigator	ユーザーの認証により、読み取りアクセスに加えて、書き込みアクセスが可能かどうかが決定されます。	

1) WinCC/WebNavigator ライセンスも WinCC システムにインストールされている場合は、WebNavigator ライセンスも WebUX クライアントに割り付けることができます。

これを行うには、WebNavigator ダイアログ[WinCC Web 設定]で次のオプションを選択済みにする必要があります。

- [WebUX が WebNavigator ライセンスを使用することを許可する]。

しかしながら、最初にすべての使用可能な WebUX ライセンスが使用されます。

ライセンスパッケージ

ライセンスパッケージは、1、3、10、30 および 100 クライアントのものがあります。

WebUX V7.3 からアップグレードする場合は、5/25/50/150 クライアントのライセンスもあります。

ライセンスされているクライアントの数が WebUX クライアントによるログイン試行中に超過した場合は、それ以上のログインは許可されません。

パッケージはバージョンに依存せず、組み合わせることができます。

WebUX デモライセンス

WinCC/WebUX を使用すると、WebUX サーバーにアクセスするためのデモライセンスも受け取ります。

これにより、有効な WebUX ライセンスまたは WebNavigator ライセンスのない最大 1 ユーザーにプロジェクトの読み取りアクセス権を付与できます。

予約済みライセンス

予約済み WebUX ライセンスにより、WebUX サーバーへのアクセスがユーザーに保証されます。

ユーザーのために接続は予約されたままになります。自由に使用可能な WebUX ライセンスの数は、設定された予約済みライセンスごとに減少します。

用途

可能な用途には、以下が含まれています。

- リモートオペレータアクセス:
  WebUX サーバーへの接続が読み取り専用アクセスにより専有されている場合は、接続は操作のために予約されたままになります。
- セントラル表示:
  セントラルクライアントステーションは、たとえば、WinCC システムの状態を表示するために、常に接続されています。

WebUX ライセンスの予約

ユーザー管理者で、使用可能なライセンスの 1 つを予約ライセンスとして WebUX ユーザーに割り付けます。

こうするには、ユーザーのために[WebUX ライセンスの予約]オプションを有効にします。[予約済み WebUX ライセンスの数]フィールドに、予約で割り付けられた WebUX ライセンスの数が表示されます。

予約済みライセンスは、個別のユーザーのみに設定され、ユーザーグループには設定されません。

WebUX サーバーで使用可能な数を超えて、より多くのライセンスが設定されている場合は、ログオンした最初のユーザーのライセンスが使用されます。

WebNavigator ライセンスの使用

WebUX クライアントの WebNavigator ライセンスも使用できます。

WebUX クライアントのライセンスを有効にするには、WinCC エクスプローラの[WebNavigator]エディタのコンテキストメニューで[WinCC Web 設定]ダイアログを開きます。

[ランタイム]タブで、[WebUX が WebNavigator ライセンスを使用することを許可する]オプションを有効にします。

ランタイムでのクライアントの管理

無効なクライアントを特定し、それらを切断するには、必要に応じてページ「http://<サーバー名>/status.html」を使用します。

詳細情報については、次の場所にある WinCC/WebNavigator オプションのドキュメントを参照できます。

- WinCC/WebNavigator ドキュメント > WinCC プロジェクトの操作 > 「Status.html」による接続の診断

1.9.2 通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書

通信のセキュリティを向上するために、WebUX は HTTPS 接続のみをサポートしています。

WebUX サーバーのデジタル SSL 証明書が必要です。

通知
インフラストラクチャの保護 Web サーバーを設定することで、プラントインフラストラクチャへのアクセスが有効になります。 このため、Web サーバーがインストールされているコンピュータを保護してください。以下の規則に従ってください。 ● コンピュータはセキュア接続経由でのみアクセス可能であること。 ● ソフトウェアベンダにより提供されるチェック機構を有効にし、いかなる状況でもバイパスできないこと。

SSL 証明書のインストール

WebUX Web サイトを設定するとき以下のオプションがあります。

- 既存の証明書を選択します
- 自己署名証明書の作成
- 証明書を設定後にインストールします

新しい証明書の作成

1. [新しい証明書の作成]オプションを有効にします。
2. 選択した項目の名前を入力します。

設定が完了したら、自己署名した証明書が作成されます。証明書は 1 年間有効です。

注記

制限付き認証

WebUX Web サイト自体を設定するときに作成する証明書は、公式な認証団体から検証されません。ブラウザの設定によっては、Web サイトにアクセスするときに警告メッセージが表示されます。

サーバー認証をよりセキュアにするために、公的認証機関の証明書をインストールしてください。

セキュアデータソースのみの表示

Web ページおよび外部ファイルを表示するために、以下の条件のいずれかを満たす必要があります。

- HTTPS 接続経由での呼び出し
- 信頼されるサイトの呼び出し

IIS での SSL の有効化

SSL を使用するには、インターネットインフォメーションサービス(IIS)で SSL アクセスを設定します。

必要条件

- WebUX サーバーの管理者権限があること。

手順

1. [インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ]を開きます。
2. [接続]ナビゲーションエリアの[サイト]でウェブページを選択します。
3. [操作]領域で[結合]をクリックします。
   [サイト結合]ダイアログが開きます。
4. 設定を構成するには、[追加]をクリックします。
   [サイト結合の追加]ダイアログが開きます。
5. ウェブサイトのタイプ、IP アドレスおよびポートを選択します。
   SSL 証明書の設定用フィールドを開くには、[https]タイプを選択します。
6. リストから SSL 証明書を選択するか、[選択]をクリックします。
7. [OK]で確定してダイアログを閉じます。
   [サイト結合]ダイアログで他のエントリを削除できます。
8. [閉じる]で設定を終了します。
9. [デフォルトウェブサイトホーム]データ領域で、[IIS]の下にある[SSL 設定]を選択します。
10. [SSL が必要]オプションを有効にしてから、クライアント証明書の設定を選択します。

詳細な情報は、Microsof サポートの「IIS で HTTPS サービスを設定する方法」にあります。

- http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

下記も参照

http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

1.9.3 WebUX のインストール

ソフトウェア要件

インストールには、オペレーティングシステムおよびソフトウェア設定に関する一定の必要条件を満たす必要があります。

WebUX サーバー:オペレーティングシステム

ソフトウェア	設定	コメント
Windows 10	Pro Enterprise	標準インストール 64 ビット 接続できる数には制限があります。最大 3 つの WebUX クライアントが WebUX サーバーに接続できます。
Windows 10	Enterprise LTSC (Long-Term Servicing Channel)	標準インストール 64 ビット 接続できる数には制限があります。最大 3 つの WebUX クライアントが WebUX サーバーに接続できます。
Windows Server 2012 R2	Standard Datacenter	64 ビット
Windows Server 2016	Standard Datacenter	64 ビット
Windows Server 2019	Standard Datacenter	64 ビット

追加のソフトウェア要件

	バージョン/設定	対象	コメント
Web ブラウザ	ブラウザは HTML5 に対応している必要があります。	WebUX クライアント/端末	WebUX はあらゆるブラウザで使用可能です。 画面は Chrome ブラウザ向けに最適化されています。
WinCC バージョン	WinCC V7.5 SP1	WebUX サーバー	WebUX サーバーは WinCC システムにインストールされます。
SIMATIC Logon バージョン(オプション)	SIMATIC Logon V1.6	WebUX サーバー	一元的ユーザー管理のために SIMATIC Logon を使用する場合のみ対象。
インストールに必要なユーザー権限	管理者権限	WebUX サーバー	WebUX サーバーのインストールに必要な権限。

	バージョン/設定	対象	コメント
操作に必要なユーザー権限	初期ユーザー設定	WebUX クライアント WebUX サーバー	WebUX サーバーおよび WebUX クライアント上で必要な権限。
Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)	[WWW サービス] > [HTTP 共通機能]または[HTTP 共有機能]: ● 標準マニュアル ● 静的コンテンツ WWW サービス > パフォーマンス機能: ● 動的コンテンツの圧縮 ● 静的コンテンツの圧縮 WWW サービス > アプリケーション開発機能: ● ASP.NET	WebUX サーバー	WebUX サーバーは Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)が必要です。 IIS の設定リストを有効にします。

WebUX クライアント(端末)

WebUX サーバーにアクセスする端末に必要なのは Chrome、Firefox、Internet Explorer または Safari など、HTML5 対応の Web ブラウザのみです。

注記

ブラウザ依存の表現

ブラウザのバージョンが異なると、表示と動作が異なる可能性があります。

設定された文字セットを表示するには、例えば、これがブラウザやデバイスでも使用可能になる必要があります。

WebUX サーバーのインストール

WinCC のインストール時に WinCC/WebUX をインストールすることができます。

WebUX サーバーを後でインストールする場合は、次の手順を実行します。

1. WinCC インストール DVD を起動します。
2. インストールタイプで「カスタムインストール」を選択します。

3. [プログラム]ダイアログで、[WinCC]グループの[WinCC WebUX]エントリを選択します。
4. WebUX ライセンスを転送します。詳細情報は、以下を参照してください。
   – WebUX のライセンス (ページ 153)

インストールしパーソナルコンピュータを再起動したあと、WinCC WebUX コンフィグレータが開きます。

WebUX の設定に関する情報は、以下を参照してください。

- WebUX Web サイトの構成 (ページ 160)

下記も参照

WebUX のライセンス (ページ 153)

WebUX Web サイトの構成 (ページ 160)

1.9.4 WebUX Web サイトの構成

WebUX クライアントと通信するために、WebUX サーバーで WebUX Web サイトおよび HTTPS を介する接続を構成します。

WinCC WebUX コンフィグレータ

WinCC および WinCC/WebUX をインストールしたあと、WinCC WebUX コンフィグレータが開きます。

後で変更するには、[Siemens Automation]プログラムグループの中に WinCC WebUX コンフィグレータがあります。

WebUX コンフィグレータを使用して、WebUX を使用するための標準設定を設定します。

- Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)の設定
- Web サーバーの設定
- HTTPS 接続用の SSL 証明書
- 仮想フォルダ

デジタル証明書に関する情報をお読みください:

- 通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書 (ページ 155)

仮想フォルダの作成

初期設定中に、新規デフォルト Web サイトまたは新規仮想ディレクトリを作成するか指定します。

Web サイトを仮想ディレクトリとして設定する場合、SSL 暗号化が有効になった少なくとも 1 つの Web サイトがパーソナルコンピュータ上に存在しなければなりません。この基準を満たす Web サイトは[より高いレベルの Web サイトを選択する]選択リストに表示されます。

手順:仮想フォルダの使用

1. 設定
   より高いレベルの Web サイトを選択します。
   WebUX コンフィグレータは、IIS 設定からポート番号および SSL の設定を取得します。
2. ターミナルからのアクセス(WebUX クライアント):
   Web サイトにアクセスするには、ブラウザの URL に仮想ディレクトリの名前を追加します。

必要条件

- Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)がインストールされていること。
- WinCC 基本システムがインストールされていること。
- [WinCC WebUX]プログラムパッケージがインストールされていること。
- [WinCC WebUX]ライセンスがインストールされていること。

手順

WinCC/WebUX をインストールしパーソナルコンピュータを再起動したあと、WinCC WebUX コンフィグレータが開きます。

1. [構成の適用]をクリックします。
   標準構成が設定されます。
   [IIS 構成]ダイアログが開きます。
2. Web サイトの名前を入力します。
3. サーバーで WebUX Web ページを操作するだけの場合、[Web サイトの新規作成]オプションを選択します。
   仮想フォルダで作業する場合は、ステップ 6 に進んでください。
4. アクセスで使用するポートの番号を、[ポート]フィールドに入力します。
   デフォルトでは、HTTPS 標準ポート「443」が設定されています。
   異なるポート番号を選択する場合は、アドレスは WebUX クライアントに適合させる必要があります:ターミナルにログオンするときは、この番号がブラウザのアドレスバーでサーバー名の後に追加されます。
5. サーバーのデジタル証明書の設定を選択します。

6. Web サイトを仮想ディレクトリとして設定する場合は、より高レベルの Web サイトを選択します。
   WebUX コンフィグレータは、IIS 設定からポート番号および SSL の設定を取得します。
7. [OK]で確認します。
8. 構成が設定されたら、[終了]をクリックします。
9. コンピュータを再起動します。

結果

WebUX サーバーが構成され、WebUX Web サイトが設定されています。

WebUX サーバーにアクセスするには、WinCC プロジェクトをランタイムで有効化する必要があります。

下記も参照

通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書 (ページ 155)

http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

1.10 サービスとサポート

1.10.1 警告

セキュリティ機能に関する情報

警告事項

このマニュアルには、ご自身の安全を確保し、物的損害を避けるために遵守する必要がある注意事項が含まれています。ユーザーの安全に関する注意事項は、安全警告サインで強調表示されています。このサインは、物的損害に関する注意事項には表示されません。下記に示す警告通知は、危険度に応じて段階付けされています。

⚠ 危険
予防措置を正しく取らないと、死亡事故または重度の傷害を引き起こすことになることを示します。

⚠ 警告
予防措置を正しく取らないと、死亡事故または重度の傷害を引き起こす可能性のあることを示します。

⚠ 注意
予防措置を正しく取らないと、軽度の傷害を引き起こす可能性のあることを示します。

通知
予防措置を正しく取らないと、物的損害を引き起こす可能性があることを示します。

注記

製品とその使用に関する重要情報または特別な注意を払う必要があるマニュアルの関連部分を示します。

複数の危険度が存在する場合、もっとも高い危険度を示す警告通知が使用されます。安全警告サイン付きの傷害を警告する通知にはまた、物的損害に関する警告も含まれます。

有資格者

本書が対象とする製品/システムは必ず有資格者が取り扱うものとし、各操作内容に関連するドキュメント、特に安全上の注意および情報が遵守されなければなりません。有資格者とは、訓練内容及び経験に基づきながら当該製品/システムの取り扱いに伴う危険性を認識し、発生し得る危害を事前に回避できる者をいいます。

正しい使用

以下に注意してください。

⚠ 警告

シーメンス製品を正しくお使いいただくために

シーメンス製品は、カタログおよび付属の技術説明書の指示に従ってお使いください。他社の製品または部品との併用は、弊社の推奨もしくは許可がある場合に限ります。製品を正しく安全にご使用いただくには、適切な運搬、保管、組み立て、据え付け、配線、始動、操作、保守を行ってください。ご使用になる場所は、許容された範囲を必ず守ってください。付属の技術説明書に記述されている指示を遵守してください。

商標

®が付いた名称はすべて Siemens AG の登録商標です。本書内の他の名称も登録商標の場合があり、第三者が自己の目的において使用した場合、所有者の権利を侵害することになります。

セキュリティ機能に関する情報

シーメンスは、セキュアな環境下でのプラント、システム、機械およびネットワークの運転をサポートする産業用セキュリティ機能を有する製品およびソリューションを提供します。

プラント、システム、機械およびネットワークをサイバー脅威から守るためには、総体的かつ最新の産業用セキュリティコンセプトを実装し、それを継続的に維持することが必要です。シーメンスの製品とソリューションは、そのようなコンセプトの 1 要素を形成します。

お客様は、プラント、システム、機械およびネットワークへの不正アクセスを防止する責任があります。システム、機械およびコンポーネントは、企業内ネットワークのみに接続するか、必要な範囲内かつ適切なセキュリティ対策を講じている場合にのみ（例：ファイアウォールやネットワークセグメンテーションの使用など）インターネットに接続することとするべきとシーメンスは考えます。

産業用セキュリティ対策に関する詳細な情報は、https://www.siemens.com/industrialsecurity をご覧下さい。

- https://www.siemens.com/industrialsecurity (https://www.siemens.com/industrialsecurity)

シーメンスの製品とソリューションは、セキュリティをさらに強化するために継続的に開発されています。シーメンスは、利用可能になったらすぐ製品の更新プログラムを適用し、常に最新の製品バージョンを使用することを強くお勧めします。サポートが終了した製品バージョンを使用すること、および最新の更新プログラムを適用しないことで、お客様はサイバー脅威にさらされる危険が増大する可能性があります。

製品の更新プログラムに関する最新情報を得るには、https://www.siemens.com/industrialsecurity からシーメンス産業セキュリティ RSS フィードを購読してください。

- https://www.siemens.com/industrialsecurity (https://www.siemens.com/industrialsecurity)

免責事項

当社では、本書に記載されたハードウェアおよびソフトウェアの整合性を確保するために、その内容を見直しています。内容不一致の完全な排除は不可能なため、完全な整合性の保証はできません。ただし、本書の情報は定期的に見直され、必要な補正がその後の版に含まれることになります。改善のご意見があれば是非お寄せください。

オンライン文書の情報は、マニュアルや PDF ファイルの記述よりも拘束力のあるものになっています。

リリースノートおよびインストールに関する注意事項に従ってください。リリースノートおよびインストールに関する注意事項の情報は、マニュアルやオンラインヘルプの情報よりも拘束力のあるものになっています。

Copyright © Siemens AG 2019

All rights reserved

この文書またはその内容の複製、転送または使用は、明示された文書によって承認されていない限り、許可されていません。違反者は、損害に対する支払いを行う責任を問われることがあります。特許許可または用途や設計に関する登録によって確立された権限を含め、すべての権限を留保しています。

Siemens AG

Division Digital Factory

SIMATIC Human Machine Interfaces

P.O.Box 4848

D-90026 Nuremberg, Germany

下記も参照

https://www.siemens.com/industrialsecurity (https://www.siemens.com/industrialsecurity)

1.10.2 GDPR - 一般情報保護規定

Siemens takes data privacy principles, such as the privacy by design and default principle, into account when developing its products and services.

For this product SIMATIC WinCC V7.5 incl. Options this means the following:

Personal data processed by the Application

This product collects and processes the following personal data:

- User names, i. e. Login, which may directly contain or establish a reference to the family name and/or first name
- Timestamps:date / time of login, logoff and access
  In the WinCC "Option for Process Control" application "Split Screen Manager", the login timestamp and user name are saved without encryption with the picture management data.
  In the WinCC/WebNavigator diagnostic page, logged in users and timestamps are saved without encryption.
- Location data (time zone)
- Computer name
- IP addresses
- MAC addresses
- E-mail addresses (WinCC Options)
- In case of using UMC, additional personal data can be added in the tool, e. g. telephone numbers or addresses.
  This data is not needed for the product functionality and should not be stored on the same medium.

If the user links the above mentioned data with other data, e. g. shift plans, or stores personal data on the same medium, e. g. hard disk, and thus establishes a personal reference, the user must ensure compliance with data protection regulations.

Purposes

The above data is required for the following purposes:

- Access protection and security measures (e. g. Login, IP address)
- Process synchronization and integrity (e. g. time zone information, IP addresses)
- Archiving system for traceability and verification of processes (e. g. access timestamps)
- Message system for traceability and availability (e. g. e-mail notification)

The storage of data is appropriate and limited to what is necessary, as it is essential to identify the authorized operators and process events.

Data configuration

The customer may configure the data collected via the product as follows:

- Display data in process pictures
- Data output in form of reports, e. g. for printing or display as electronic file
- Data collection and evaluation in form of graphics, e. g. for KPI analysis

Deletion policy

The product does not provide an automatic deletion of the above data.

If necessary, these can be deleted manually if desired.To do this, please refer to the product documentation or contact customer support.

Securing of data

The above data will not be stored anonymously or pseudonymized, because the purpose of access and event identification cannot be achieved otherwise.

The above data is secured by adequate technical measures, such as:

- Encryption of log data
- Storing the process data in access-protected SQL databases
  The user must ensure the access protection as part of their process configuration.

1.10.3 カスタマサポート

カスタマサポート、技術サポート

以下のテーブルで指定した時間に SIMATIC ホットラインに連絡することができます。SIMATIC ホットラインの職員はドイツ語と英語を話します。委任ホットラインでは、ドイツ語や英語に加えて、フランス語、イタリア語、スペイン語の顧客サポートを提供します。

技術サポート

技術サポートは平日 24 時間電話で受け付けています。

技術サポートの現在の連絡先情報と概要は以下の URL で確認できます。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/4868 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/4868)

Siemens Industry Service Card

「Siemens Industry Service Card」を利用すると、「Priority Call-Back」経由のすばやい応答などの技術サポートを追加で受けることができます。追加情報については、次の URL を参照してください。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/4869 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/4869)

SIMATIC カスタマーオンラインサポート

サービスとサポート

製品サポート提供の概要は以下の URL で得ることができます。

- https://support.industry.siemens.com/ (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/)
- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/93906404 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/93906404)

製品サポートでは、ファームウェア更新、サービスパック、役立つアプリケーションなどをダウンロードできます。

オンラインヘルプを利用すれば提供されるサポートをうまく活用できます。オンラインヘルプは、インターネットページのボタンまたは次の URL から開きます。

- https://support.industry.siemens.com/cs/helpcenter/en/index.htm (https://support.industry.siemens.com/cs/helpcenter/en/index.htm)

モバイルでの Siemens サポートにアプリを使用できます。

- https://support.industry.siemens.com/cs/sc/2067 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/2067)

WinCC FAQ

FAQ（よくある質問）に関する情報のある WinCC オンラインサポートは以下の URL でも参照することができます。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/14866/faq (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/14866/faq)

技術フォーラム

技術フォーラムは、他の SIMATIC ユーザとの情報交換をサポートします。技術フォーラムは以下の URL で利用できます。

- https://support.industry.siemens.com/tf/ (https://support.industry.siemens.com/tf/ww/en/)

SIMATIC 製品技術文書

各 SIMATIC 製品およびシステムの技術文書ガイドは、以下の URL で入手できます。

- http://www.siemens.com/simatic-tech-doku-portal (http://www.siemens.com/simatic-tech-doku-portal)

ローカルパートナデータベース

ローカルパートナにお問い合わせいただくには、次の URL で弊社ローカルパートナデータベースを検索してください。

- http://w3.siemens.com/aspa_app/ (http://w3.siemens.com/aspa_app/?lang=en)

製品情報

SIMATIC WinCC

WinCC に関する全般的な情報については、次の URL にアクセスしてください。

- http://www.siemens.com/wincc (http://www.siemens.com/wincc)

SIMATIC 製品

SIMATIC 製品に関する全般的な情報については、次の URL にアクセスしてください。

- http://www.siemens.com/simatic (http://www.siemens.com/simatic)

下記も参照

インターネット:エラーレポート (https://support.industry.siemens.com/My/ww/en/requests)

インターネット:技術サポート (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/4868)

Internet: Siemens Industry Service Card (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/4869)

インターネット:サービスとサポート (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/)

インターネット:オンラインサポートにおける SIMATIC WinCC (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/93906404)

インターネット:オンラインヘルプのサポート (https://support.industry.siemens.com/cs/helpcenter/en/index.htm)

インターネット:サポートアプリ経由でのモバイル利用 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/2067)

インターネット:WinCC FAQ (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/14866/faq)

インターネット:技術フォーラムのサポート (https://support.industry.siemens.com/tf/ww/en/)

インターネット:SIMATIC 製品技術文書 (http://www.siemens.com/simatic-tech-doku-portal)

インターネット:お問合せ先データベース (http://w3.siemens.com/aspa_app/?lang=en)

インターネット:WinCC に関する情報 (http://www.siemens.com/wincc)

インターネット:SIMATIC 製品 (http://www.siemens.com/simatic)

1.10.4 サポートリクエスト

お客様へ

迅速で効果的なサポートを提供させていただくために、"Support Request"様式をインターネット上でオンラインにてご記入ください。できるだけ詳細をご説明ください。エラーを

再現し、回答時間を短縮するために、プロジェクトデータをできるだけすべてご提供ください。

サポートリクエストに記入する前に、お客様の設定された量的構造が、テスト済みの量的構造の範囲内にあるかどうかを確認してください(トピックの「パフォーマンスデータ」を参照)。

サポートリクエスト様式

サポートリクエスト様式は以下の URL で利用できます。

- https://support.industry.siemens.com/my/WW/en/requests (https://support.industry.siemens.com/My/ww/en/requests)

レポートへの記入時は、いくつかの手順を通してご案内します。技術サポートに必要なデータは、FAQ 16607894 で説明されています。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/16607894 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/16607894)

サポートリクエストに関する詳細な説明は、以下の URL を参照してください。

- https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/2100 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/2100)

手順

1. インターネットのリンクを利用して"Support Request"フォームを開きます。ステップ 1 "製品選択"が表示されます。
2. [製品/注文番号]ボックスにプロジェクト名を入力します。大文字/小文字は関係ありません。製品名の一部を検索するか、完全な製品名を正しい順序で入力します。たとえば、次のような言葉で検索します。
   - "WinCC Runtime V7"
   - "wincc editor"
   - "WinCC DataMonitor"
   - "wincc webnav"
   - "Connectivity"

   見つかった製品が[製品選択]フィールドに表示されます。
   ライセンスに関する質問がある場合、製品選択フィールドで[SIMATIC 認証/ライセンスの問題]を有効にします。
3. 希望する製品を選択して[次へ]をクリックし、ステップ 2 [状況の選択]に切り替えます。使用事例を選択します。

4. [次へ]を押して、ステップ 3 "お勧めするソリューション"に移ります。
   選択したキーワードに関して推奨されるソリューションと FAQ が一覧表示されます。
   ご自分の問題に合った推奨ソリューションが見つかったら、ブラウザでフォームを閉じることができます。
   適用可能な推奨ソリューションが見つからなかった場合、[次へ]を押してステップ 4 [問題の説明]に移ります。
5. [トピック]フィールドの問題の簡単な説明を明確に説明します。
6. [詳細]フィールドに、問題をできるだけ正確に記述してください。以下の質問とコメントに特に注意してください。
   また以下に関する WinCC インストールおよび設定をチェックしてください。
   エラーの原因が思い当たる場合は、お知らせください。重要とは思われないような小さなことでも、もらさずに説明してください。
   - 設定データは古い WinCC バージョンで作成されましたか？
   - どのようにすればエラーが再現されますか？
   - 他のプログラムは WinCC と同時に稼動していますか？
   - スクリーンセーバー、ウィルスチェック、電源管理機能を無効にしましたか？
   - コンピュータでログファイル(WinCC\Diagnose*.log、drwatson.log、drwtsn32.log)を検索してください。
     これらのログファイルがエラー分析に必要です。そのため、これらのログファイルも必ず送信してください。
   - コンピュータおよびその他のデバイスから診断およびシステム情報を収集するには、「SIMATIC Assessment Suite - Data Collector」(SAS-DC)診断ツールを使用します。
     追加情報は、サポートエントリ 65976201 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/65976201)で参照できます。
7. [検索]ボタンを使用して、影響のあるプロジェクトとログファイル(例えば Zip ファイルで)をサポートリクエストにアップロードしてください。
   [次へ]を押して、ステップ 5 [連絡先データの指定]に移ります。
8. お客様の連絡先情報を入力してください。
   [次へ]を押して、ステップ 6 "要約および送信"に移ります。
9. サポートリクエストを印刷したい場合には、[印刷]ボタンを押します。
   リクエストのコピーを電子メールで受け取るには、サマリでこのオプションを有効化します。
   [送る]ボタンをクリックして、サポートリクエストを閉じます。
   データがカスタマサポートに転送され、そこで処理されます。

ご協力ありがとうございます。問題解決のお手伝いができれば幸いです。

WinCC チーム

下記も参照

インターネット:エラーレポート (https://support.industry.siemens.com/My/ww/en/requests)

インターネット:技術サポートの仕様 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/16607894)

インターネット:サポートリクエストの概要 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/sc/2100)

インターネット:SIMATIC Assessment Suite - Data Collector (SAS-DC) (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/65976201)

WinCC/WebNavigator 2

2.1 WinCC/WebNavigator のご使用にあたって

2.1.1 はじめての Web プロジェクト

はじめに

WinCC/WebNavigator は、イントラネットおよびインターネットを経由して、オートメーションシステムのオペレータコントロールやモニタのソリューションを提供します。

WinCC/WebNavigator は、WinCC プロジェクトのオペレータコントロールやモニタの機能を簡単かつ効率的に実装する方法を提供します。

WinCC/WebNavigator コンポーネント

オプションの「WinCC/WebNavigator」パッケージは、WebNavigator サーバーでインストールされるサーバーコンポーネントで構成されます。

WinCC 基本システムの場合のように、表示されるプロセス画像をコントロールおよびモニタするために使用しているコンピュータに、WebNavigator クライアントのコンポーネントが必要です。このため、Internet Explorer またはクライアントの"WinCCViewerRT" Web ビューアを使用します。

WebNavigator 診断クライアント

WinCC/WebNavigator には、「WebNavigator 診断クライアント」のコンポーネントも含まれています。この診断クライアントの機能は、WebNavigator クライアントの機能と同じです。

診断クライアントは、診断目的の 1 つまたは複数の WebNavigator サーバーへの、費用対効果が高く信頼性の高いアクセスを提供します。

概要

この「スタートガイド」は、WinCC デモプロジェクトに基づいています。このサンプルプロジェクトでは、同じコンピュータに WinCC、WebNavigator サーバーおよび WebNavigator クライアントがインストールされています。

WebNavigator サーバーで WinCC プロジェクトを編集します。Internet Explorer または "WinCCViewerRT"でプロジェクトにアクセスする場合、WebNavigator クライアントを使用します。

必要条件

- WinCC 基本システムがインストールされている。
- WinCC デモプロジェクトがインストールされている。
  - インターネット:WinCC デモプロジェクト (https://support.industry.siemens.com/cs/products?search=demo&dtp=ExampleOfUse&o=DefaultRankingDesc&pnid=14867&lc=en-WW)

  「WebNavigator デモプロジェクト (ページ 142)」の「WinCC/WebNavigator のインストールに関する注意事項」セクションの、「WinCC インストールに関する注意事項/リリースノート」にある追加情報を参照してください。
- WebNavigator サーバーがインストールされている。
  詳細については、「概要: WebNavigator サーバーのインストール (ページ 127)」の「WinCC/WebNavigator のインストールに関する注意事項」セクションの、「WinCC インストールに関する注意事項/リリースノート」を参照してください。
- リモート通信を有効にする必要があるかどうかを確認します。
  WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、両方のコンピュータの[SIMATIC Shell]ダイアログでリモート通信を有効にします。

手順

最初の Web プロジェクトに、以下のステップを実行します。

- WinCC プロジェクトを設定
  - Web アクセス用 WinCC プロセス画像を発行する
  - WebNavigator クライアントのユーザーの管理
- WebNavigator サーバーの設定
  - WebNavigator の Web ページを設定
  - ファイアウォールを設定
  - 有効化した Web ページを確認

- WinCC プロジェクトの操作
  - Internet Explorer の設定を設定
  - WebNavigator クライアントをインストールし、Internet Explorer を使用して WinCC プロジェクトを操作します
  - WinCCViewerRT をセットアップし、WinCCViewerRT を使用して WinCC プロジェクトを操作します
- 新規プロセス画像の作成およびその WebNavigator クライアントでの表示

下記も参照

新規プロセス画像の作成 (ページ 198)

WebNavigator クライアントのインストール (ページ 192)

WebNavigator クライアントのユーザーの管理 (ページ 183)

デモプロジェクトの起動 (ページ 185)

WebNavigator デモプロジェクト (ページ 142)

概要:WebNavigator サーバーのインストール (ページ 127)

インターネット:WinCC デモプロジェクト (https://support.industry.siemens.com/cs/products?search=demo&dtp=ExampleOfUse&o=DefaultRankingDesc&pnid=14867&lc=en-WW)

2.1.2 WinCC プロジェクトの設定

2.1.2.1 プロセス画像の発行

はじめに

WebNavigator クライアントで WinCC プロセス画像を表示する場合、最初にそれらの画像を発行する必要があります。 画像を発行するには、Web View Publisher を使用します。 Web View Publisher は、自動的にプロジェクトデータに必要な調整を実行します。

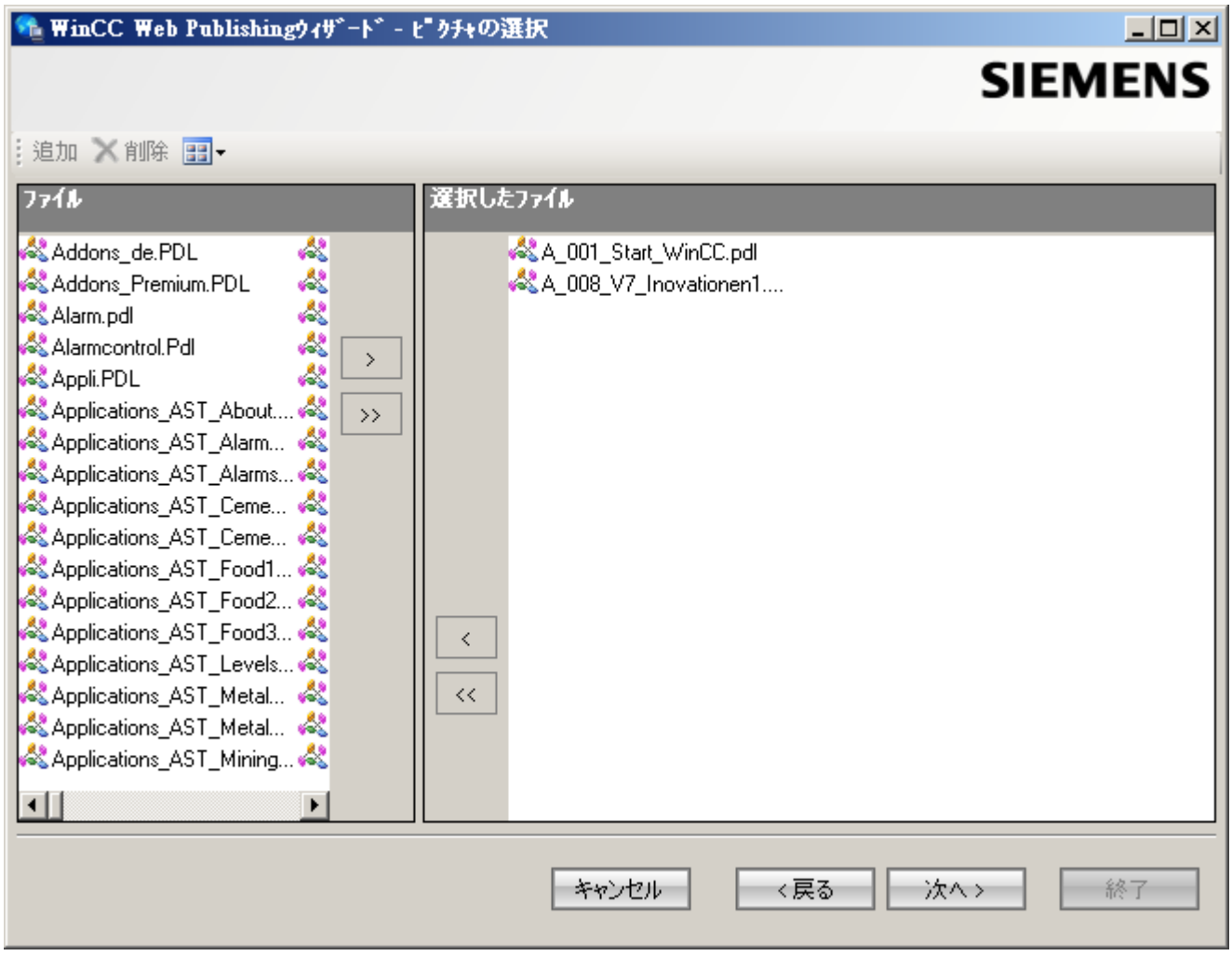
手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[WebNavigator]を選択します。ショートカットメニューで[Web View Publisher]コマンドを選択します。 これで WinCC Web 発行ウィザードが起動しました。

2. [次へ]をクリックします。

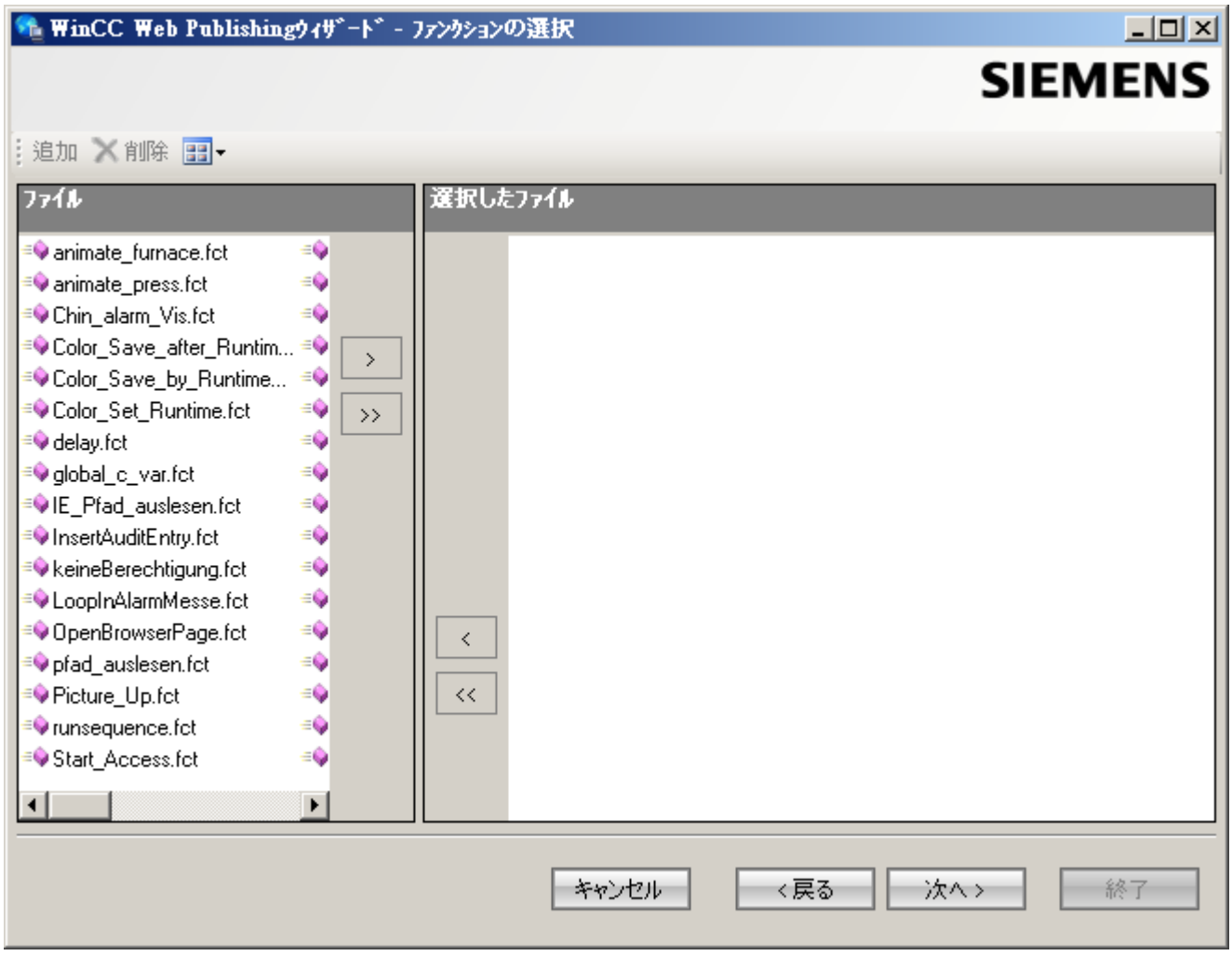
3. [WinCC プロジェクトへのパス]で、WinCC プロジェクトフォルダを選択します。
   [WinCC Web の発行フォルダ]で、発行されている画像のターゲットフォルダを選択します。
   WinCC プロジェクトフォルダ内の提案フォルダを受け入れます。
   [次へ]をクリックします。

4. [選択されたファイル]リストに、発行する画像を移動します。



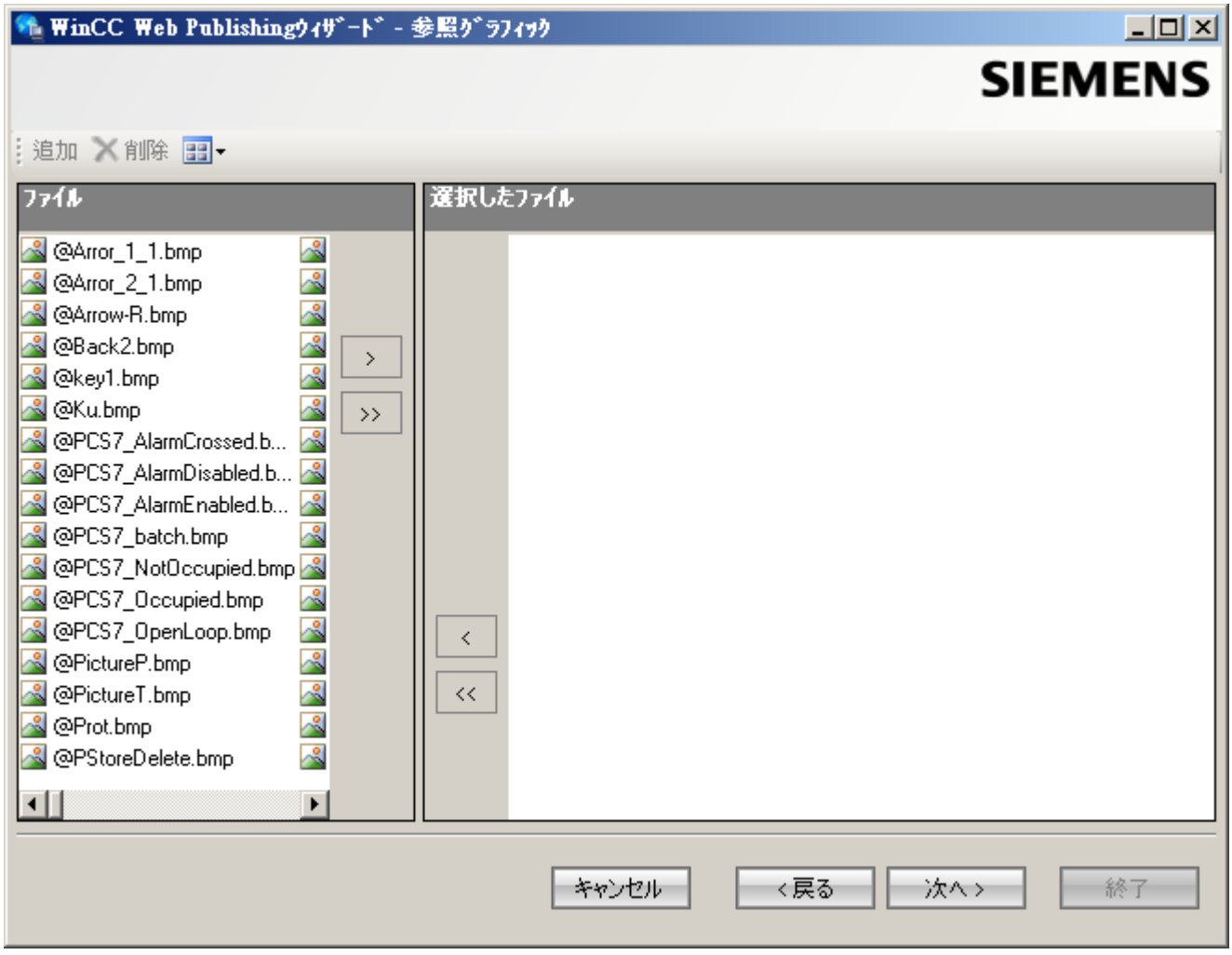
[次へ]をクリックします。

5. 必要な C プロジェクト関数を[選択されたファイル]リストに移動します。



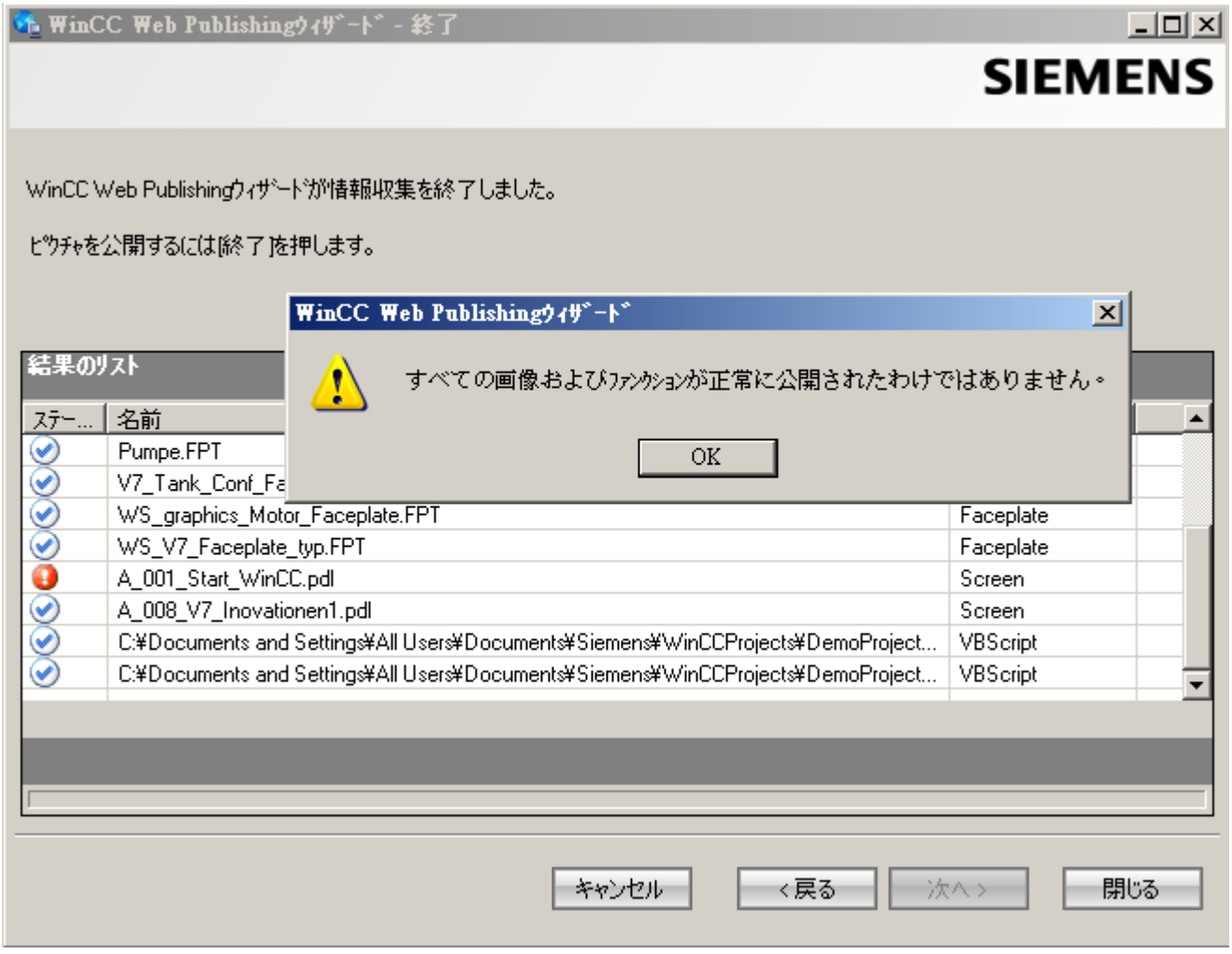
[次へ]をクリックします。

6. プロセス画像で使用されたグラフィックを、[選択されたファイル]リストに移動します。参照されたファイルは、"GraCS"フォルダまたは"GraCS"のサブフォルダにあります。



[次へ]をクリックします。

7. 画像の発行を開始するには、[終了]をクリックします。



結果

結果リストに、すべての発行オブジェクトのステータスが表示されます。 オブジェクトをクリックして、追加のオブジェクト情報を表示することができます。

画像および関数が、正常に発行されました。

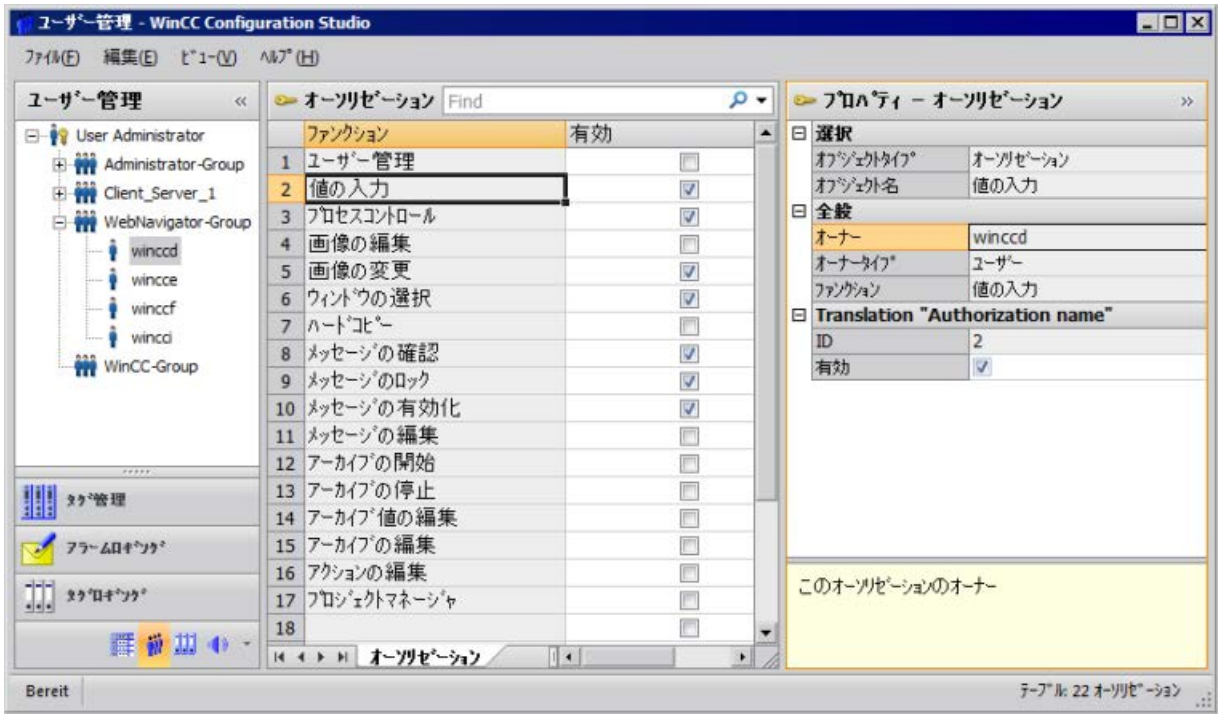
2.1.2.2 WebNavigator クライアントのユーザーの管理

はじめに

ユーザーが WebNavigator クライアントを介して WinCC プロジェクトにアクセスできるようにするため、WinCC ユーザー管理者で、ユーザーに適切なオーソリゼーションを割り当てる必要があります。 各ユーザに対して、異なる開始画像とランタイム言語を選択できます。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[ユーザー管理者]を右クリックします。 ショートカットメニューから[開く]コマンドを選択します。



2. Web プロジェクトの既存のユーザーを使用できます。 たとえばログイン「winccd」、パスワード「winccpass」を割り当てられている「winccd」という名前のユーザーを選択するか、このテンプレートに基づく新しいユーザーを作成します。
3. 新しいユーザーを作成したい場合、ナビゲーション領域のグループのショートカットメニューから[新しいユーザー]コマンドを選択します。
4. [パスワード]列で新しいユーザーのパスワードを指定します。
5. ユーザー管理者のテーブルウィンドウで、新しいユーザーを選択します。
6. データウィンドウで[WebNavigator]チェックボックスを選択します。
7. ドロップダウンリストから[Web の開始画像]の[winccPic.pd_]など、ユーザーの開始画像を選択します。 開始画像として選択できるのは、発行されている画像だけです。
8. ドロップダウンリストから[Web 言語]のユーザーのランタイム言語を選択します。 テキストライブラリで作成された言語は、選択用に使用できます。
9. ユーザー管理者のナビゲーションウィンドウで、新しいユーザーを選択します。 テーブルウィンドウの[オーソリゼーション]列をクリックして、必要なユーザー権限を選択します。 システムオーソリゼーション「Web アクセス - モニタリングのみ」が有効である場合、ユーザーが WinCC プロジェクトをモニタできるのは、WebNavigator クライアントとして動作する場合だけです。
10. ユーザー管理者を閉じます。

2.1.3 WebNavigator サーバーの設定

2.1.3.1 デモプロジェクトの起動

はじめに

WinCC デモプロジェクトがコンピュータにコピーされています。

このステップで、WebNavigator サーバーおよび WebNavigator クライアントの両方として動作するコンピュータに、Web プロジェクトをセットアップします。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで WinCC エクスプローラを起動します。
2. WinCC デモプロジェクトを開きます。
3. 次のダイアログで[ローカル形式でサーバーを起動]をクリックします。
   この WinCC プロジェクトを実行できるのは、コンピュータリストに使用可能なサーバーとしてコンピュータが入力されている場合に限ります。
4. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[コンピュータ]を右クリックして、[プロパティ...]を選択します。
5. ダイアログの[プロパティ]ボタンをクリックします。
6. [コンピュータ名]フィールドに、コンピュータ名を入力します。
7. [OK]をクリックします。プロジェクトを再起動し、変更を有効にします。
8. [ファイル] > [終了]を選択してプロジェクトを閉じます。
9. デモプロジェクトを再び開き、WebNavigator サーバーを設定します。

下記も参照

WebNavigator Web ページの設定 (ページ 185)

はじめての Web プロジェクト
(ページ 175)

2.1.3.2 WebNavigator Web ページの設定

はじめに

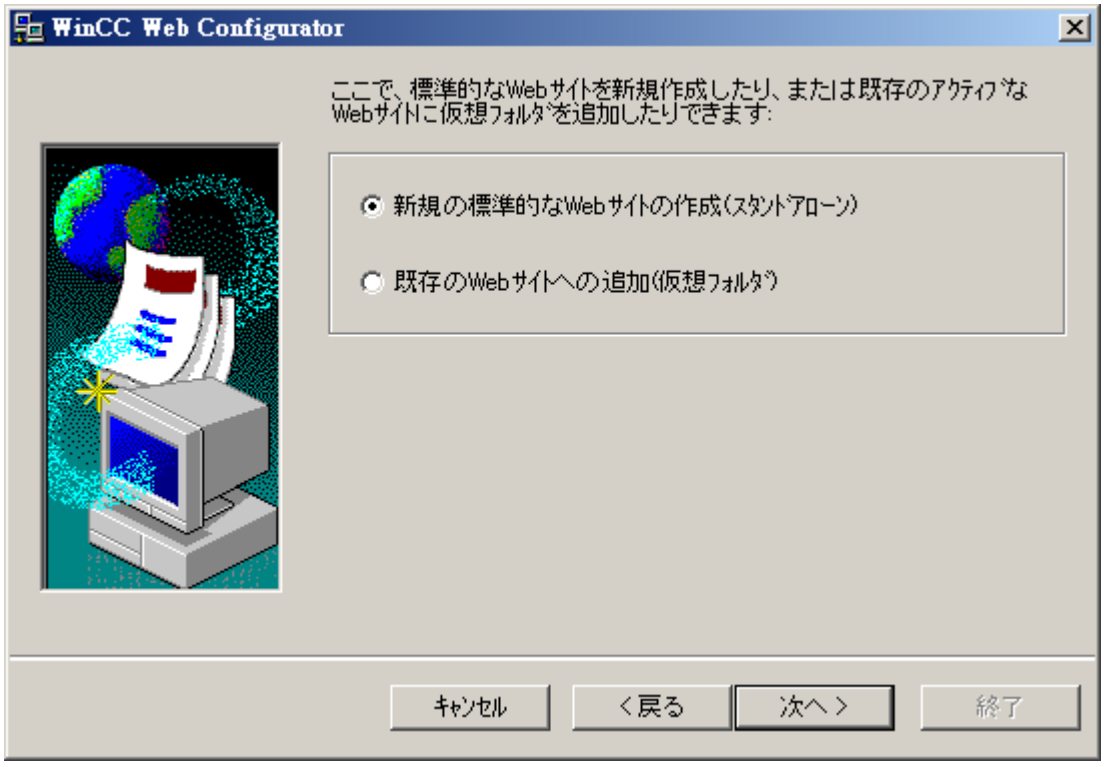
WinCC Web コンフィグレータは、Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS)のセットアップおよび管理に使用します。 このステップでデフォルトの Web ページを作成します。

必要条件

- WebNavigator サーバーがインストールされている。
- Windows の「インターネット インフォメーション サービス」コンポーネントがインストールされている。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[WebNavigator]を選択します。
   ショートカットメニューで[Web コンフィグレータ]コマンドをクリックします。
   スタートページの[次へ]をクリックします。



2. [標準 Web ページ(スタンドアロン)の新規作成]オプションを有効にして、[次へ]をクリックします。

3. Web ページの名前「WebNavigator」を入力します。
4. [ポート]フィールドで、デフォルトのポート[80]を選択します。
5. [IP アドレス]を選択します。 選択リストで使用できるアドレスだけを使用します。
   [すべて割り付けない]を選択すると、イントラネットおよびインターネットでコンピュータにアクセスできます。
6. デフォルトの Web ページとして、[WebClient.asp]を選択します。
7. ファイアウォールを起動していない場合、[終了]をクリックします。
   ファイアウォールがすでにインストールされている場合、[次へ]をクリックします。

結果

Web フォルダが作成されており、Web ページが有効になっています。

2.1.3.3 ファイアウォールの設定

はじめに

このセクションでは、例として Windows Server 2016 を使用した「HTTP」と「HTTPS」サービスを有効にする方法を説明します。

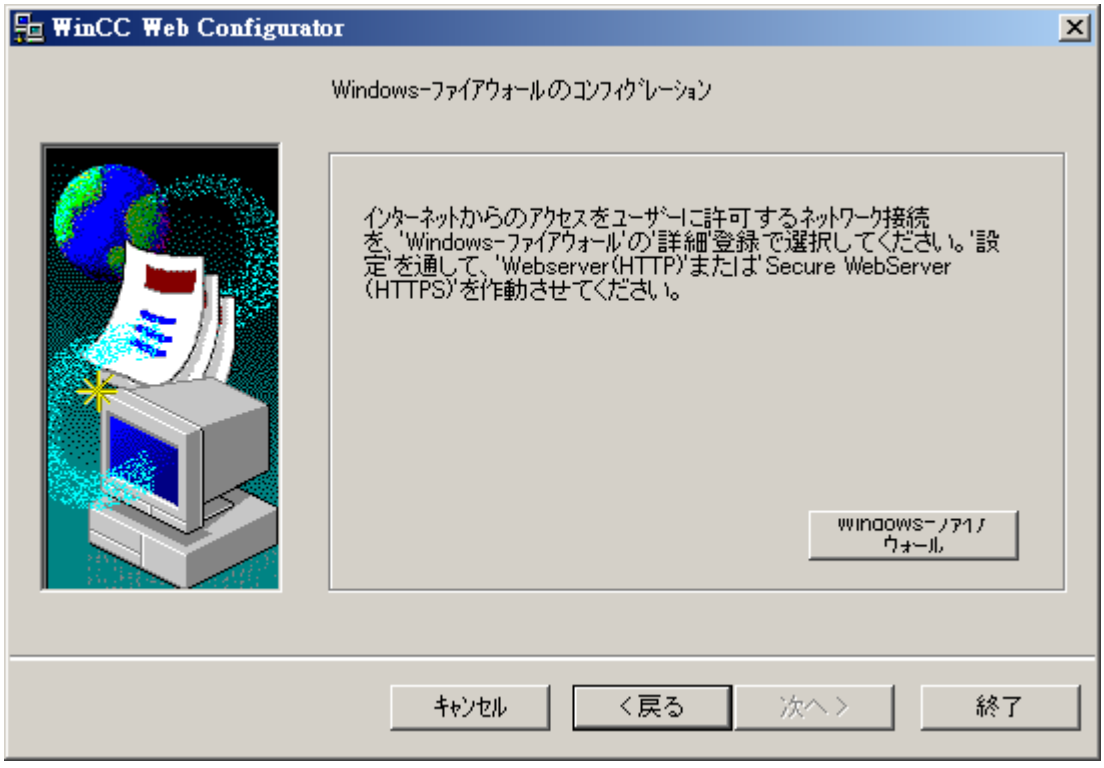
高度なセキュリティで、または別のポートに Windows ファイアウォールをセットアップする場合、ネットワーク管理者にご相談ください。

必要条件

- Web Configurator を使用してデフォルトの Web ページが作成されている。
- ファイアウォールが起動されている。
- ログオンしているユーザーが Windows 管理者権限を持っている。
- WebNavigator に HTTPS サービスを使用している場合、IIS で HTTPS サービスをセットアップする必要があります。
  詳細については、「IIS での HTTPS サービスのセットアップ (http://support.microsoft.com/kb/324069)」を参照してください。

デフォルトのポートの手順

1. [WinCC Web Configurator]の[Windows ファイアウォールの設定]ページへ切り替えます。
2. [Windows ファイアウォール]ボタンをクリックします。

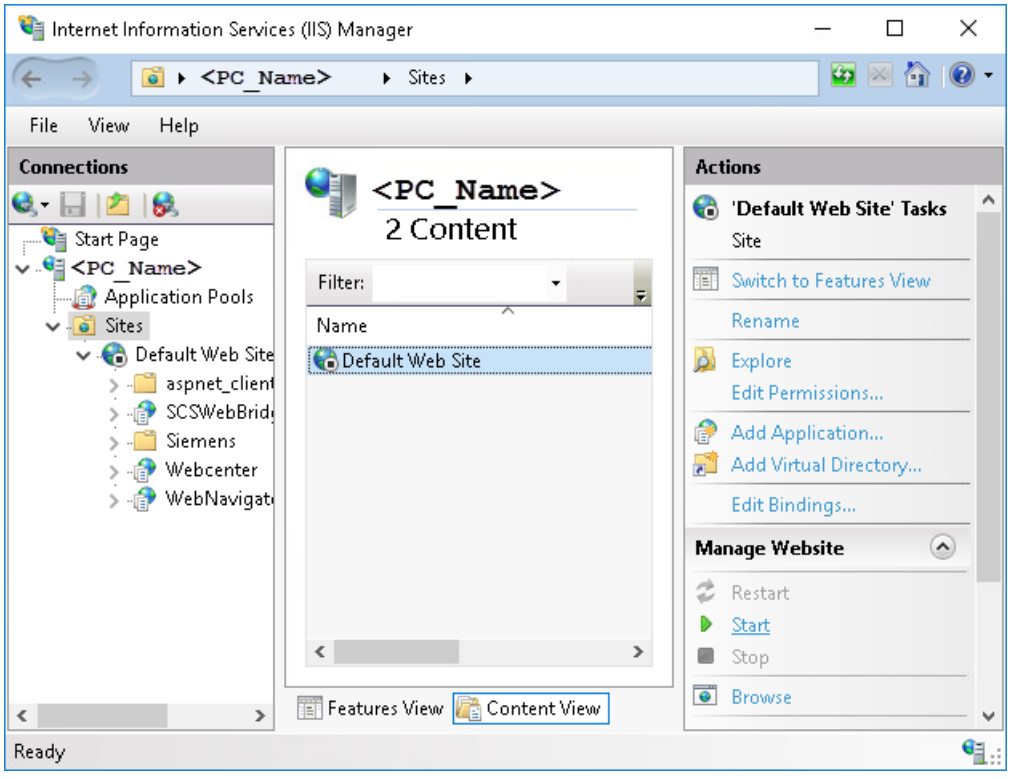


   [Windows ファイアウォール]ダイアログが開きます。
3. [Windows ファイアウォールを介してアプリが通信することを許可する]をクリックします。
4. [World Wide Web サービス(HTTPS)を保護]を有効にします。
5. [OK]を押してすべての Windows ダイアログを閉じます。
6. Web Configurator の[終了]をクリックします。
   サーバー設定が完了します。

2.1.3.4 有効化した Web ページの確認

手順

1. [管理ツール]プログラムグループで、エントリ[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]を選択します。



2. [接続]フィールドのコンピュータ名をダブルクリックします。
3. エントリ[デフォルト Web サイト]を表示します。
4. Web ページが[開始]と表示されていることを確認します: 。
5. ステータス[停止]が表示されている場合、Web ページを起動します: 。
   Web サイトのコンテキストメニュー、あるいは[Web サイトの管理]の[アクション]で、[開始]コマンドを選択します。
6. [インターネット インフォメーション サービス (IIS)マネージャ]を閉じます。
   Web ページが有効になりました。

2.1.4 WinCC プロジェクトの操作

2.1.4.1 Internet Explorer での WinCC プロジェクトの操作

Internet Explorer の設定(WebNavigator クライアント)

はじめに

WebNavigator クライアントの全機能を活用するために、Internet Explorer のセキュリティ設定を適用する必要があります。

手順

1. Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション]をクリックします。
2. [セキュリティ]タブを選択します。
   対応するゾーン(たとえば[ローカル イントラネット]または[インターネット])を選択します。
3. [レベルのカスタマイズ...]をクリックします。
4. [スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールのスクリプトの実行]オプションおよび[署名された ActiveX コントロールのダウンロード]オプションを有効にします。
5. [スクリプト]で、[アクティブ スクリプト]を有効にします。
6. [OK]をクリックします。 次のダイアログで、修正を加えます。
7. [信頼済みサイト]アイコンをクリックします。
   [サイト...]ボタンをクリックして、[信頼済みサイト]ダイアログを開きます。
8. WebNavigator サーバーのアドレスを、[この Web サイトをゾーンに追加する]フィールドに入力します。 使用できる形式とワイルドカードには、"*://157.54.100 - 200"、"ftp://157.54.23.41"、"http://*.microsoft.com"が含まれます。
   [このゾーンのすべてのサイトに対してサーバーの検証(https:)を要求する]オプションを無効にします。
   [追加]をクリックします。[OK]をクリックします。
9. [信頼済みサイト]アイコンをクリックします。
   [既定のレベル]ボタンをクリックしてから、[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。
   [スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行]を有効にします。[OK]をクリックします。
10. [全般]タブをクリックします。
    [インターネット一時ファイル]ボタンの[設定]エリアをクリックします。
    [保存しているページの新しいバージョンの確認]で[自動的に確認する]オプションを有効にします。
    [OK]をクリックします。
11. [OK]をクリックして[インターネット オプション]ダイアログを閉じます。

WebNavigator クライアントのインストール

はじめに

この章では、イントラネット/インターネットを使用して WebNavigator クライアントを WebNavigator サーバーにインストールする方法について、説明します。

必要条件

- WebNavigator サーバーがインストールされている。
- 「WinCC WebNavigator」ライセンスがインストールされている。
- WinCC プロジェクトがランタイムである。
- WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
- WebNavigator クライアントのユーザーが、WinCC に作成されている。
- Internet Explorer

手順

1. Internet Explorer のアドレスバーへ移動し、WebNavigator サーバーの URL「http://www.<サーバー名>」を入力します。
2. ユーザー名とパスワード(たとえば「winccd」)を入力します。
   はじめて WebNavigator サーバーにアクセスすると、WebNavigator クライアントをインストールするように促されます。 リンク"Click here to install"をクリックします。
3. [ファイルのダウンロード]ダイアログの[保存]をクリックし、クライアントのセットアップをターゲットコンピュータに保存します。 クライアントコンピュータにクライアントのセットアップを保存することにより、クライアントコンピュータを再起動する必要がある場合に、データを再度ダウンロードする手間を省略できます。
4. 次のダイアログで、WebNavigator クライアントのセットアップファイルの保存先フォルダを選択します。
5. Internet Explorer を閉じずに、Windows Explorer を開きます。 セットアップファイルが保存されているフォルダに移動します。 [setup.exe]をダブルクリックして、セットアップを起動します。
6. 画面に表示される説明に従い、必要なエントリと設定を作成します。
7. [セットアップタイプ]ダイアログで[完全]オプションを選択し、クライアントのすべてのコンポーネントをインストールします。[次へ]をクリックします。
8. 次のダイアログで[インストール]をクリックします。
9. [インストールウィザードの完了]ダイアログで[終了]をクリックします。

結果

インストールが正常に終了すると、WebNavigator クライアントは、現在ランタイムの WinCC プロジェクトに接続されます。 標準 Web ページが、ユーザー管理者のユーザーに指定した画像によって表示されます。

WebNavigator クライアントのインストール時に、"WinCCViewerRT" Web ビューアもインストールされます。"WinCCViewerRT"は、WinCC プロジェクトを視覚化するために Internet Explorer の代わりに使用できる表示プログラムです。

2.1.4.2 WinCCViewerRT を使用した WinCC プロジェクトの操作

WinCCViewerRT の設定

はじめに

WinCCViewerRT は、WinCC プロジェクトを表示するためのプログラムです。

WinCCViewerRT を、WebNavigator サーバーおよびグラフィックランタイムで動作するように、設定できます。

プロジェクト設定を使用

[プロジェクト設定を使用]オプションを選択すると、次の設定が WebNavigator サーバーにより適用されます。

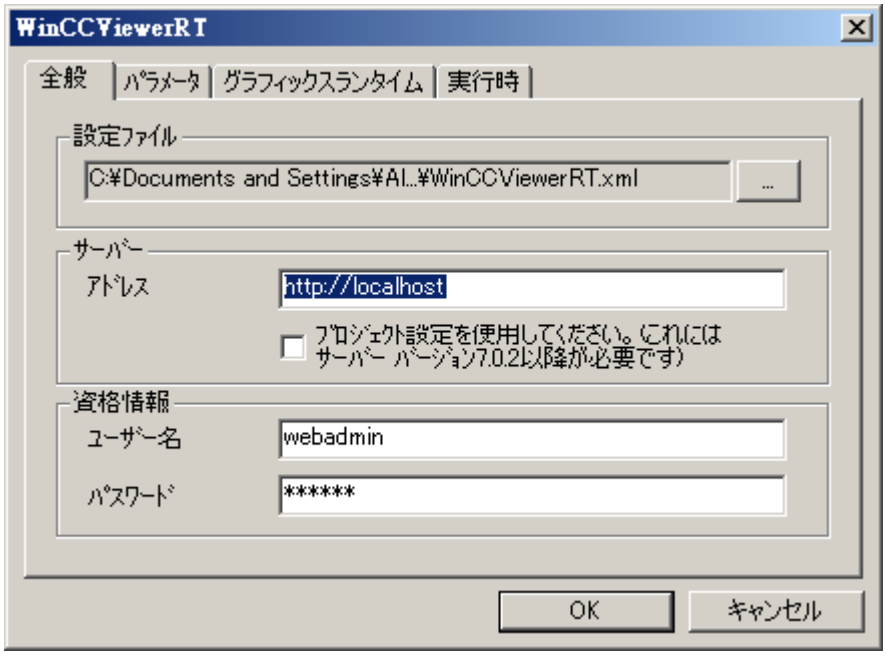
- ユーザー管理者:
  - 自動ログオフ
- コンピュータプロパティ:
  - ランタイム言語
  - ランタイムのデフォルト言語
  - 開始画像
  - メニューとツールバーの初期設定
  - ハードウェアアクセラレーテッドグラフィック表現(Direct2D):

必要条件

- サーバーに
  - WebNavigator サーバーがインストールされている。
  - WinCC/WebNavigator ライセンスがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
- クライアントに
  - WebNavigator クライアントがインストールされている。

手順

1. [Webnavigator\Client\bin]インストールフォルダで、リンク[WinCCViewerRT.exe]をダブルクリックします。
   WinCCViewerRT を再設定すると、[設定]ダイアログが開きます。
   WinCCViewerRT がすでにセットアップされている場合、WinCCViewerRT が開きます。
   <Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを使用して、WinCCViewerRT の設定ダイアログを開きます。



2. ログインデータを[全般]タブで入力します。
   - サーバーアドレス:"http://<Servername>"または"http://<IP-Adresse>"
   - プロジェクト設定を使用:WebNavigator サーバーの設定を適用
   - ユーザー名とパスワード(ログインダイアログにデフォルトユーザーを指定する場合)。

3. [パラメータ]タブでランタイム言語を指定します。
   必要であれば、ユーザーが他のプログラムに切り替えるキーの組み合わせを無効にします。
   必要な場合、WinCCViewerRT 設定ダイアログを開くために使用する事前に設定されている<Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを、変更できます。
   ユーザーがログオフでき、新規ユーザーがログオンできるキーの組み合わせを定義します。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが[全般]タブで設定されていない場合のみ、使用できます。
4. [グラフィックランタイム]タブで、WinCC Runtime プロパティを指定します:
   – 開始画像
   – ユーザー定義のメニューおよびツールバーの設定ファイル
   – ウィンドウ属性
   – 容認されないユーザー操作

5. [ランタイム]タブで、追加のユーザー操作を指定します:
   – スクリーンキーボードの有効化
   – スクリーンキーボードを介してタスクマネージャまたはオペレーティングシステムに切り替えることができるようにする<Ctrl+Alt+Del>キーの組み合わせ。
   – 自動ログオフ設定
   – グラフィックス表示をスピードアップする Direct2D の実行。
   – 設定済みの印刷ジョブを使用して WinCC コントロールから印刷できるプリンタの指定。
     または、「RPTJobPrint」機能を使用して、印刷ジョブを印刷することができます。
     「RPTJobPreview」経由のプレビューは、Web クライアントでは不可能です。
6. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。

結果

WinCCViewerRT が設定されます。

WebNavigator サーバーへの接続は、ダイアログを閉じた後にセットアップされます。

設定は、"WinCCViewerRT.xml"設定ファイルに保存されます。設定ファイルの設定は、WinCCViewerRT の次の起動で使用されます。

WinCCViewerRT が、WinCC からのユーザーインターフェース言語を適用します。

設定ファイルは、オペレーティングシステムに応じて次のフォルダに保存されます。

- <User>\AppData\LocalLow\Siemens\SIMATIC.WinCC\WebNavigator\Client

ファイル名を、たとえば「User1.xml」に変更できます。

また、ユーザー固有の設定ファイル(たとえば"WinCCViewerRT.exe User1.xml")を使用してコマンドラインによって WinCCViewerRT を起動することもできます。この手順により、ログオンしているユーザーによって異なる設定ができるようになります。

"WinCCViewerRT.xml"を削除または名前変更すると、WinCCViewerRT 設定ダイアログが起動時に開きます。WinCCViewerRT を再設定するか、または他の設定ファイルを選択します。

注記

WinCCViewerRT は、ショートカットを無効にするか、または[閉じる]ボタンを非表示にすると、スクリプト関数によってのみ閉じることができます。

C スクリプトの関数:DeactivateRTProject、VBScript の関数:HMIRuntime.Stop。

WinCC プロジェクトの操作

必要条件

- サーバーに
  - WebNavigator サーバーがインストールされている。
  - 「WinCC WebNavigator」ライセンスがインストールされている。
  - 必要に応じて、リモート通信が有効にされている。[1)]
  - WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
  - ユーザーが WinCC で作成されている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムであること。
- クライアントに
  - WinCCViewerRT が設定されている。
  - 必要に応じて、リモート通信が有効にされている。[1)]

1) WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、[SIMATIC Shell]ダイアログでリモート通信が有効にされる必要があります。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ「WinCCViewerRT」を選択します。
2. WebNavigator サーバーにログオンします:
   - ユーザー名とパスワードが"WinCCViewerRT"設定ダイアログに事前に設定されている場合、ログインダイアログは表示されません。
     保存されているログインデータで自動的にログオンされます。
   - ユーザー名とパスワードが"WinCCViewerRT"設定ダイアログに設定されていない場合、ログインダイアログが表示されます。
     WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
     パスワードは、大文字と小文字を区別します。
     [OK]をクリックします。
3. ユーザーを変更するには、"WinCCViewerRT"のログイン/ログオフ用の指定されたキーの組み合わせを使用します。
   前のユーザーがログオフされます。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが設定されていない場合のみ使用できます。
4. ログインダイアログで、新しい WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
   パスワードは、大文字と小文字を区別します。
   [OK]をクリックします。

結果

WinCCViewerRT が、有効な WinCC プロジェクトに自動的に接続されます。ユーザー用に設定された開始画像が表示されます。

ユーザーは、オーソリゼーションに応じて、プロジェクトを操作またはモニタします。ユーザー管理でシステムオーソリゼーション番号 1002「Web Access - monitoring only(モニタ限定)」が割り付けられているユーザーは、WinCC プロジェクトをモニタできるだけです。

「表示専用カーソル」は、プロセス関連の操作ができないことを示します。

WinCC OnlineTrendControl の[プロパティ]ダイアログを開くような、特定の操作はできます。

必要であれば、ユーザー自身のカーソルアイコンを、「表示専用カーソル」として使用することもできます。詳細については、「ランタイム設定の設定 (ページ 228)」を参照してください。

<F5>キーは WinCCViewerRT の再選択をトリガします。

2.1.5 新規プロセス画像の作成およびそのクライアントでの表示

2.1.5.1 新規プロセス画像の作成

はじめに

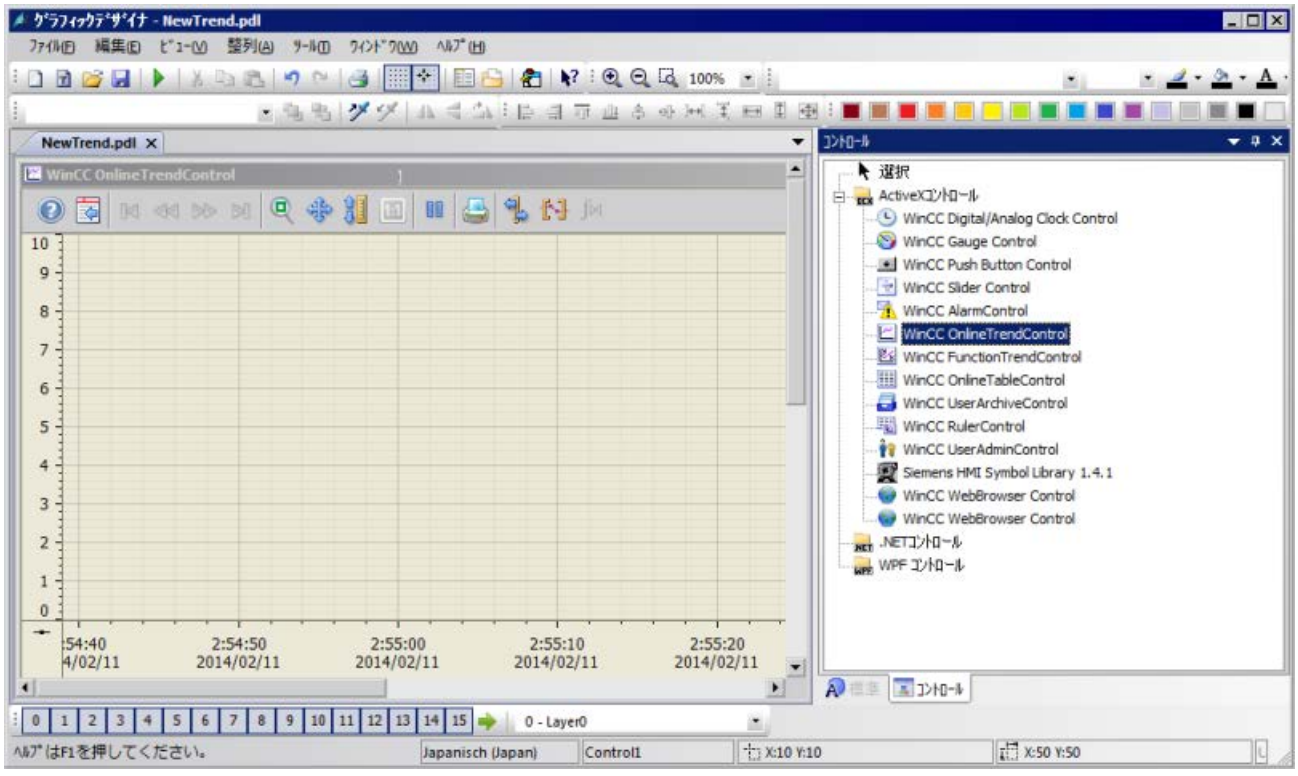
Web プロジェクトの新規プロセス画像を、サーバーに設定します。 WinCC デモプロジェクトのアーカイブからの測定値を表示するトレンドウィンドウを、作成します。

必要条件

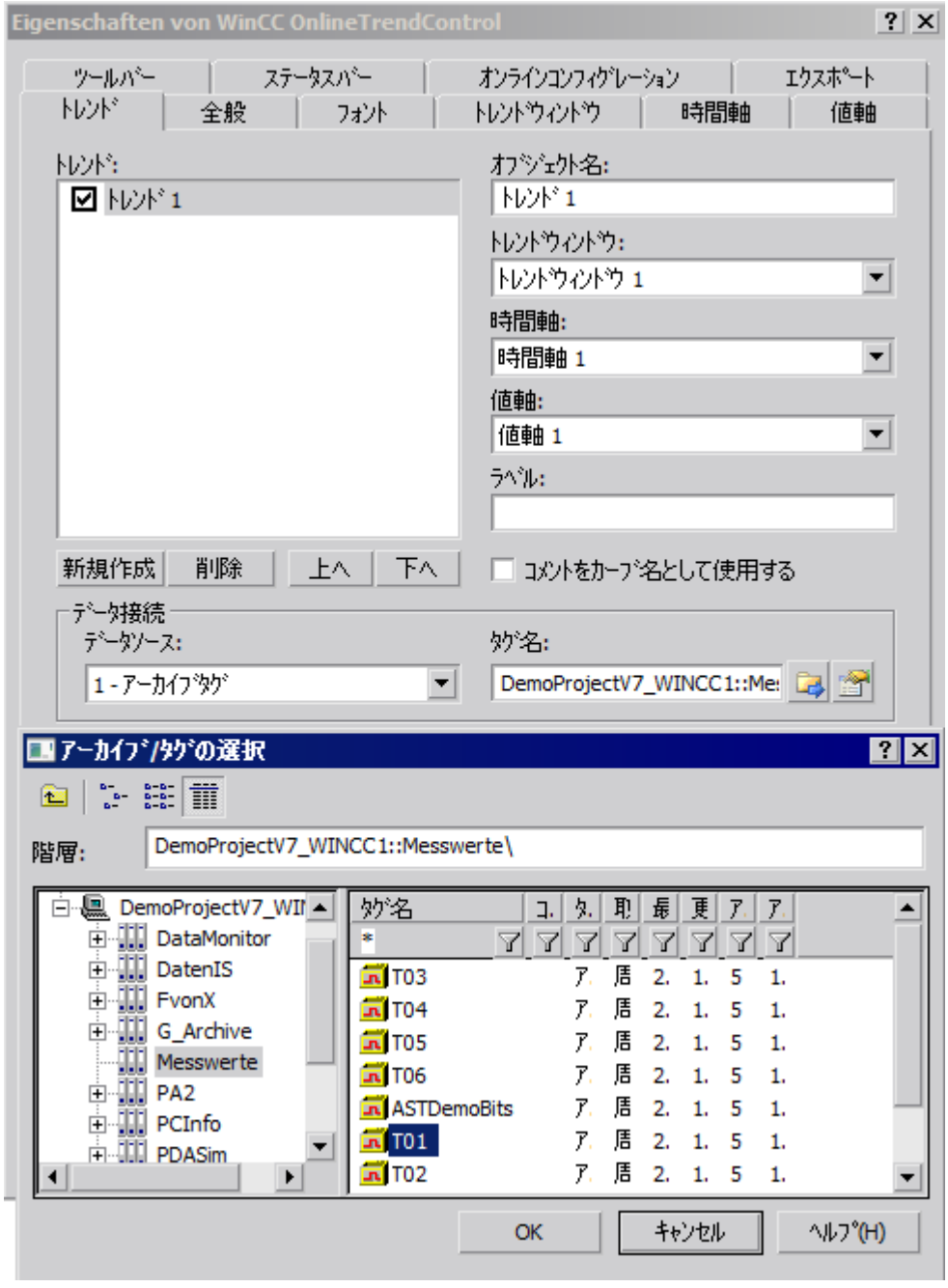
- WinCC デモプロジェクトが開いている。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[グラフィックデザイナ]をクリックします。 データウィンドウで右クリックし、[新規画像]メニューコマンドを選択します。
2. グラフィックデザイナのオブジェクトパレットで、[コントロール]タブの[WinCC OnlineTrendControl]をダブルクリックします。 コントロールが画像に挿入され、設定ダイアログが開きます。



3. [トレンド]タブをクリックします。 [データ接続]フィールドのタグ名で、をクリックします。 [測定値]アーカイブ、および[アーカイブ/タグの選択]ダイアログの[T01]タグを選択します。



4. [OK]をクリックします。 [T01]からの測定値は、トレンドにリンクされます。
5. 必要な場合、トレンドまたはコントロールのその他のプロパティを設定します。
6. 名前「NewTrend.pdl」でコントロールを保存し、グラフィックデザイナを閉じます。

結果

WebNavigator サーバーの画像に、トレンドウィンドウが正常に作成されました。 トレンドウィンドウを WebNavigator クライアントに表示するには、画像を発行し、ユーザーに開始画像として割り当てる必要があります。

下記も参照

新規プロセス画像の Web への設定 (ページ 201)

2.1.5.2 新規プロセス画像の Web への設定

はじめに

トレンドウィンドウを WebNavigator クライアントに表示するには、画像を発行し、ユーザーに開始画像として割り当てる必要があります。

必要条件

- WinCC デモプロジェクトが開いている。
- WebNavigator サーバーの画像に、トレンドウィンドウが正常に作成されました。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[WebNavigator]を右クリックします。 ショートカットメニューで[Web View Publisher]コマンドを選択します。
2. 発行ウィザードの[画像の選択]ダイアログの[ファイル]フィールドで、新規[NewTrend.pdl]画像を選択します。 ファイルを[選択されたファイル]リストに移動します。
3. さらに発行ウィザードの指示に従います。 画像は、ウィザード完了後に発行されます。
4. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[ユーザー管理者]を右クリックし、ショートカットメニューから[開く]コマンドを選択します。
5. ユーザー管理者のナビゲーションウィンドウから、新規トレンドウインドウを表示するユーザーを選択します。
6. テーブルウィンドウで[WebNavigator]チェックボックスを選択します。[Web オプション]エリアが表示されます。
7. [...]をクリックして、[NewTrend.pd_]開始画像を選択します。
8. ユーザー管理者を閉じます。

結果

WebNavigator クライアントで視覚化するトレンドウィンドウを含む画像が、正常に設定されました。

下記も参照

WebNavigator クライアントでのプロセス画像の表示 (ページ 202)

WebNavigator クライアントのユーザーの管理 (ページ 183)

プロセス画像の発行 (ページ 177)

2.1.5.3 WebNavigator クライアントでのプロセス画像の表示

はじめに

WebNavigator クライアントに新規プロセス画像を表示しようとしています。この例には、"WinCCViewerRT" Web ビューアを使用します。

必要条件

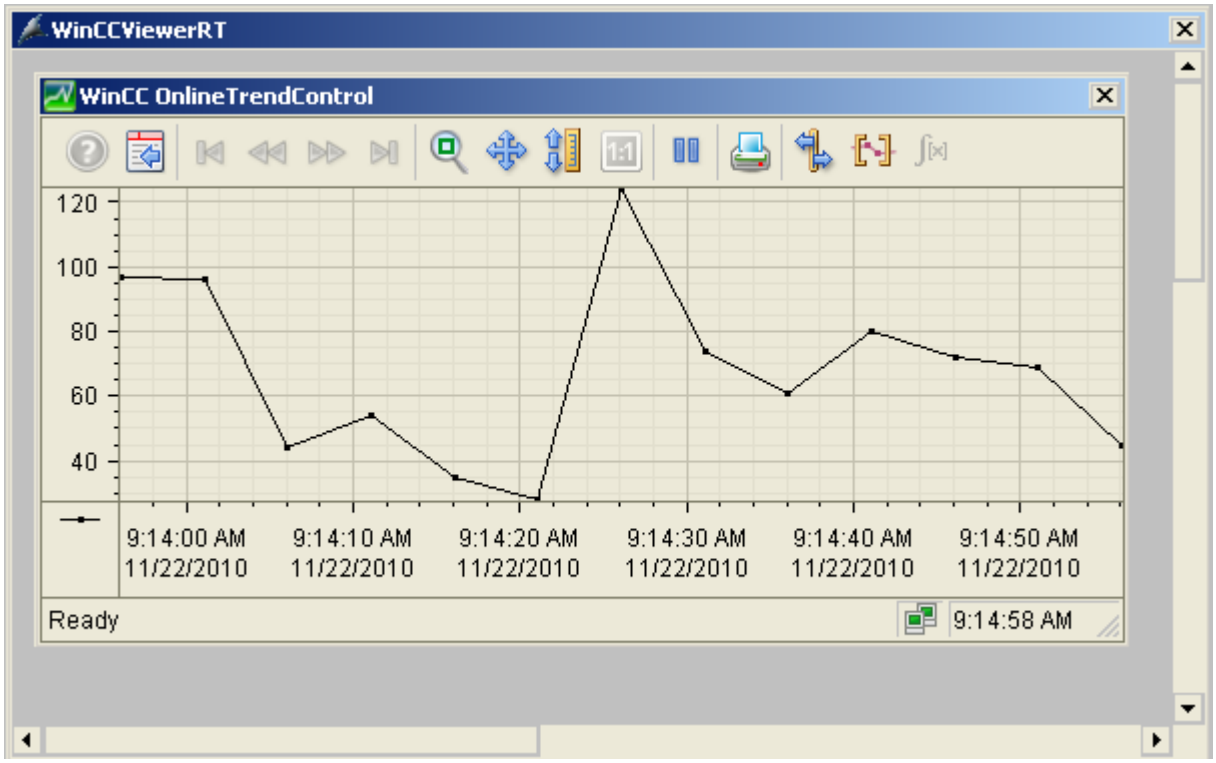
- WebNavigator サーバーおよび「WinCC WebNavigator」ライセンスがインストールされている。
- ユーザーが WinCC で作成されている。
- プロセス画像が WinCC で作成されている。
- プロセス画像が発行され、ユーザーに開始画像として割り付けられている。
- WinCC プロジェクトがランタイムである。
- WinCCViewerRT が設定されている。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ「WinCCViewerRT」を選択します。
2. WebNavigator サーバーにログオンします:
   - ユーザー名とパスワードが"WinCCViewerRT"設定ダイアログに設定されている場合、ログインダイアログは表示されません。保存されているログインデータで自動的にログオンされます。
   - ユーザー名とパスワードが"WinCCViewerRT"設定ダイアログに設定されていない場合、ログインダイアログが表示されます。
     [全般]タブでユーザー名とパスワードを入力します。[OK]をクリックします。
3. 事前に設定された<Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを使用して、ユーザーを変更できます。
   "WinCCViewerRT"設定ダイアログが開きます。
   [全般]タブでユーザー名とパスワードを入力します。[OK]をクリックします。

結果

トレンドウィンドウが"WinCCViewerRT" Web ビューアで表示されます。トレンド値がアーカイブからロードされます。



下記も参照

WinCCViewerRT の設定 (ページ 193)

WinCC プロジェクトの操作 (ページ 197)

2.2 WinCC/WebNavigator 文書

2.2.1 機能の概要

はじめに

WinCC/WebNavigator は、イントラネットおよびインターネットを経由して、オートメーションシステムのオペレータコントロールやモニタのソリューションを提供します。WinCC/WebNavigator は、WinCC プロジェクトのオペレータコントロールやモニタの機能を簡単かつ効率的に実装する方法を提供します。

最新のインターネットセキュリティ方式がサポートされています。SSL 暗号化を使用して、インターネットセキュリティを強化しています。

オプションの「WinCC/WebNavigator」パッケージは、以下のコンポーネントで構成されています。

- WebNavigator サーバー
- WebNavigator クライアント
- WebNavigator 診断クライアント

WebNavigator サーバー

WebNavigator クライアントで表示されるすべての必要な WinCC 画像およびファンクションは、WebNavigator サーバーに保存されています。Web View Publisher は、Web に必要なプロジェクトデータに必要な適応を自動的に行います。これによって、可能な最高のパフォーマンスが確保されます。

WebNavigator サーバーは、WebNavigator クライアントとの通信に、Microsoft インターネット インフォメーション サービス(IIS)を必要とします。IIS は、WinCC Web コンフィグレータを使用してセットアップし、管理します。

「ロードバランシング」ファンクションによって、それぞれのサーバーのライセンスに応じて、WebNavigator クライアントを種々の WebNavigator サーバーへ自動的に均等に配布することができます。

WebNavigator クライアント

WebNavigator クライアントは、ActiveX コントロールを有効にした Internet Explorer によって起動されます。最新の WinCC プロジェクトは、WinCC 基本システム全体をコンピュータにインストールしなくても、操作およびモニタできます。

WebNavigator クライアントへのアクセスは、ユーザー管理でコントロールします。それぞれのユーザーに対して、異なる起動画像や言語を選択できます。ユーザー権限を割り当てることで、個別のユーザーに対して、種々のプロジェクトエリアおよびファンクションへの拡張性のあるアクセスを可能にできます。

「WinCCViewerRT」Web ビューアプログラムは、Web プロジェクトの表示のみに使用します。このプログラムを Internet Explorer の代わりに、WinCC プロジェクトを表示するために使用できます。

WebNavigator 診断クライアント

WebNavigator 診断クライアントは、特に以下のアクティビティに有用です。

- 複数の無人の WinCC ステーションをリモートで診断およびオペレータコントロールする。
- 診断クライアントを使用する中央リモート保守で、複数の WebNavigator サーバーをモニタする。
- サーバーへのアクセスがいつでも保証されている必要があるパワーユーザー。

この診断クライアントの機能は、WebNavigator クライアントの機能と同じです。ただし、診断クライアントでは、WebNavigator サーバーへのいつでも保証されたアクセスが提供されます。アクセスは、すでに WebNavigator サーバーへログオンしているユーザーの数とは無関係です。

診断クライアントのライセンシングによって、1 つまたは少数の WebNavigator クライアントを使用して多数の WebNavigator サーバーにアクセスする、費用対効果の高いソリューションが提供されます。WebNavigator と診断ライセンスを組み合わせることができます。

2.2.2 WinCC/WebNavigator の使用可能なアプリケーション

2.2.2.1 WinCC サーバー上の WebNavigator サーバー

インターネット/LAN による WebNavigator クライアントと WinCC プロジェクトのリンク

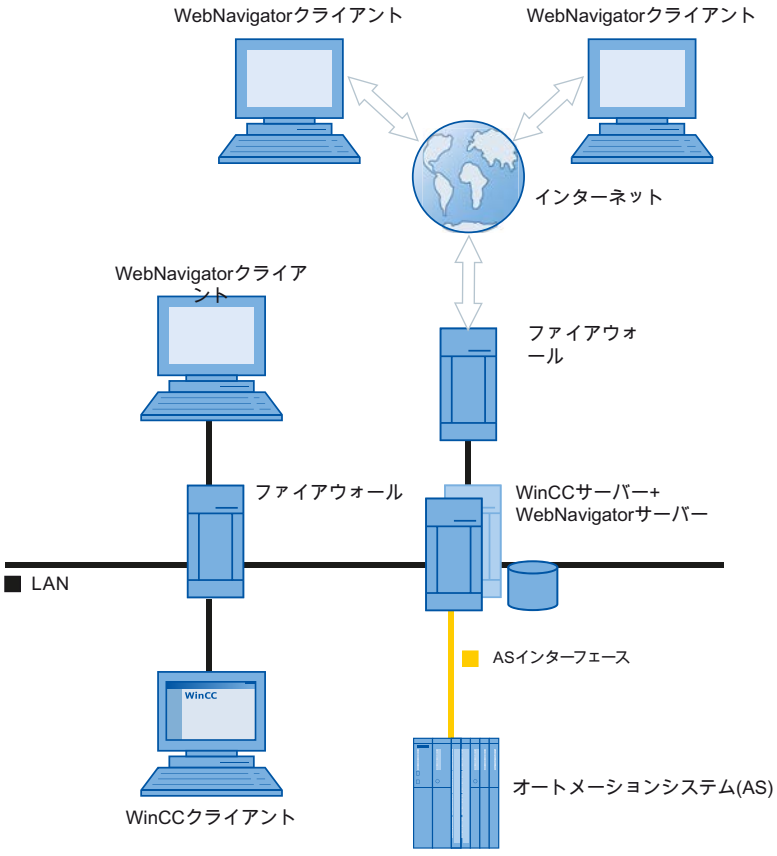
WinCC サーバー、および WebNavigator のサーバーコンポーネントを、同じコンピュータにインストールします。 WebNavigator クライアントは、分離ソリューションでイントラネット/LAN を通して現在のサーバープロジェクトを操作および/またはモニタします。

このコスト効果に優れたソリューションにより、例えばモニタリングや保守のために、コンピュータステーションをセットアップできます。 これらのコンピュータに WinCC システム一式をインストールする必要はありません。

インターネットやイントラネットによる WebNavigator クライアントと WinCC プロジェクトのリンク

WinCC サーバー、および WebNavigator のサーバーコンポーネントを、同じコンピュータにインストールします。 WebNavigator クライアントは、インターネットやイントラネットを介して、現在のサーバープロジェクトを操作および/またはモニタできます。

インターネットからの悪意のある攻撃から保護するため、ファイアウォールを 2 つ使用します。 第 1 のファイアウォールは、WebNavigator サーバーをインターネットからの攻撃から保護します。 第 2 のファイアウォールは、イントラネットに対する追加セキュリティを提供します。



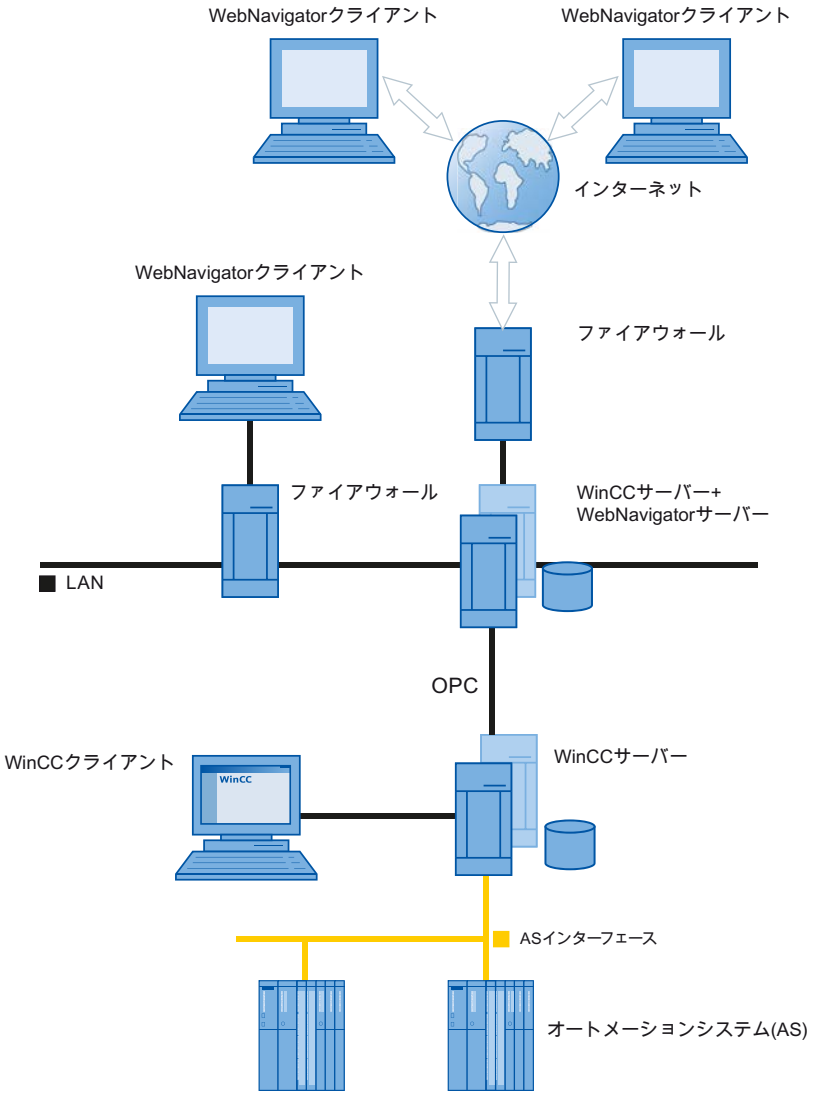
2.2.2.2 WinCC と WebNavigator サーバーの分離

チャンネルによる通信

WinCC サーバーには、オートメーションシステムのグループが割り当てられます。プロジェクトには、プログラム、設定データ、およびその他の設定など、データがすべて含まれています。 WinCC サーバーおよび WinCC WebNavigator サーバーが装備されたコンピュータでは、WinCC プロジェクトは 1:1 でミラーリングされ、オートメーションシステムとはネットワーク化されません。

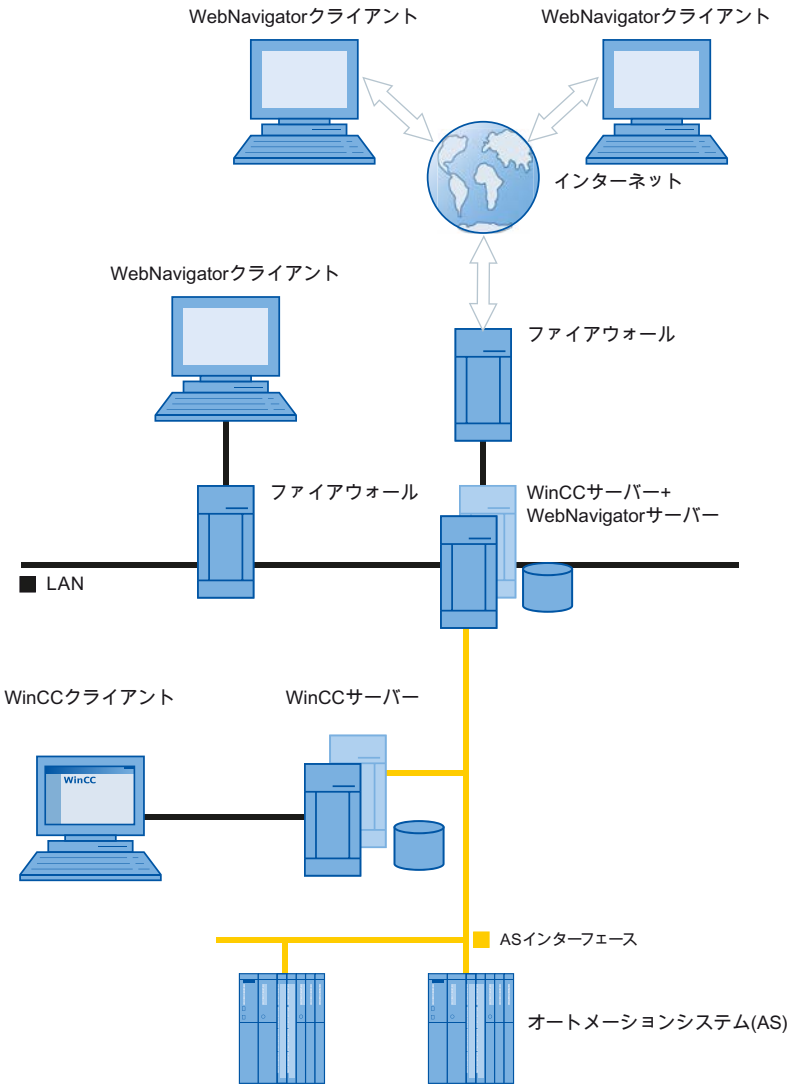
データは OPC チャンネルを介して同期化されます。 この目的のため、WinCC WebNavigator サーバーには、OPC タグの数に対するライセンスが必要です。

ファイアウォールを 2 つ使用して、システムを不正アクセスから保護します。 第 1 のファイアウォールは、WebNavigator サーバーをインターネットからの攻撃から保護します。第 2 のファイアウォールは、イントラネットに対する追加セキュリティを提供します。


WebNavigatorクライアント
WebNavigatorクライアント
インターネット
WebNavigatorクライアント
ファイアウォール
ファイアウォール
WinCCサーバー+
WebNavigatorサーバー
LAN
OPC
WinCCクライアント
WinCC
WinCCサーバー
ASインターフェース
オートメーションシステム(AS)

プロセスバスによる通信

WinCC および WinCC WebNavigator サーバーが装備されたコンピュータでは、WinCC プロジェクトは 1:1 でミラーリングされます。 データはプロセスバスを介して同期化されます。 ファイアウォールを 2 つ使用して、システムを不正アクセスから保護します。



2.2.2.3 専用 Web サーバー

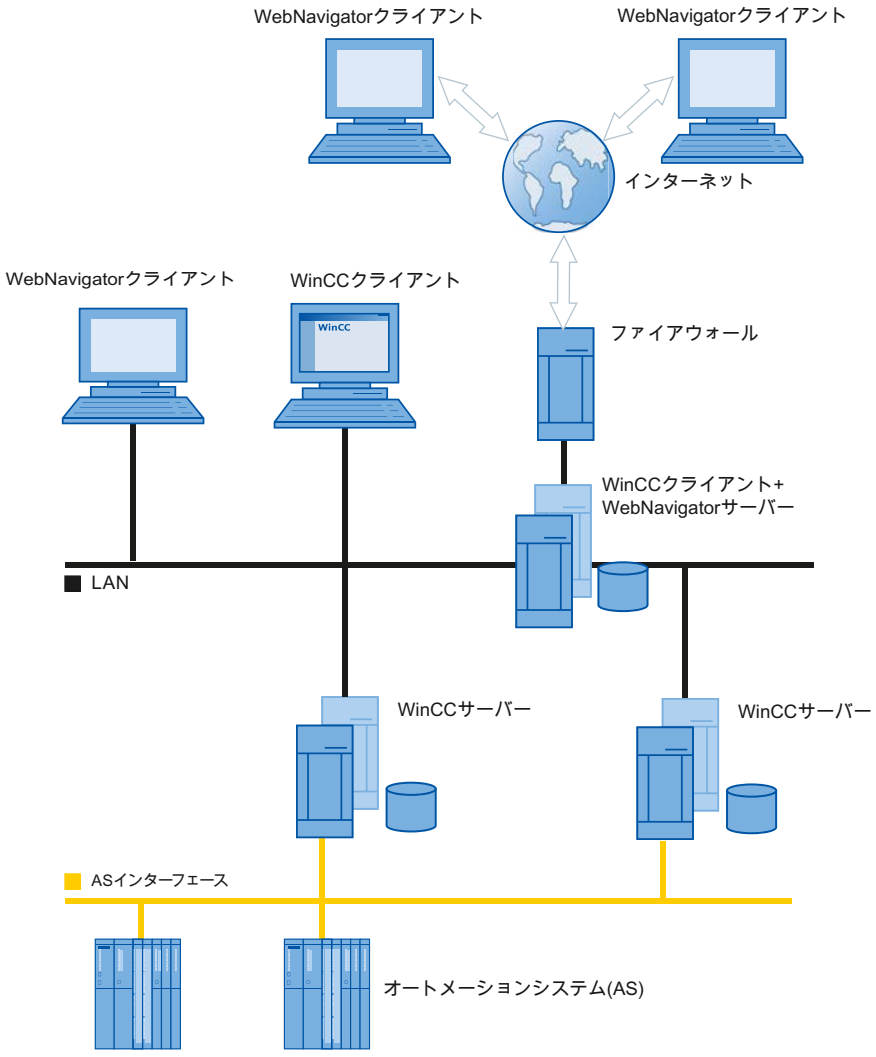
はじめに

WebNavigator クライアントに中央からデータを供給する大規模システムでは、専用 Web サーバーをインストールすると便利です。 専用 Web サーバーは、クライアントのアクセスを処理および最適化し、WinCC サーバーのプロキシとしてクライアントで使用できます。

WebNavigator サーバーを WinCC クライアントにインストールすると、専用 Web サーバーの機能を使用できます。

専用 Web サーバーを使用することの利点

- 複数の専用 Web サーバーに負荷を分散できるため、システム全体のパフォーマンスが向上します。
- 専用 Web サーバーと WinCC サーバーが、異なるコンピュータに物理的に分離されているため、セキュリティが向上します。
- 別々のステーションでサーバーを操作することで、例えばプラントサポートと IT 部門の、操作機能を分離することもできるようになります。
- 専用 Web サーバーは、複数の下位 WinCC サーバーに同時にアクセスすることも、可能にすることができます。 専用 Web サーバーにログオンしたユーザーは、各プロジェクトに対して個別にログオンする必要なしに、複数の WinCC プロジェクトにアクセスできます。
- 専用 Web サーバーは、WinCC 冗長性を使用して、2 台の下位 WinCC サーバー間の冗長性切り替えをサポートします。



2.2.2.4 WinCCViewerRT

概要

WebNavigator クライアントで、Internet Explorer の代わりに[WinCCViewerRT.exe]アプリケーションを実行します。WinCCViewerRT は、WebNavigator クライアントでインストールします。

WinCCViewerRT の例として、ブラウザを必要としません。このため、ウイルスやトロイの木馬(Trojan)による攻撃からシステムが保護されます。

ビューアは、Web アクセス用に設定し、WebNavigator サーバーで発行した画像のみを表示します。ユーザーは、オーソリゼーションに応じて、プロジェクトを操作またはモニタします。WinCC でオーソリゼーション 1002「Web Access - monitoring only(モニタ限定)」

が付与されているユーザーは、プロジェクトをモニタできるだけです。このため、WebNavigator クライアントは、いわゆる「表示専用クライアント」です。

「表示専用カーソル」は、プロセス関連の操作ができないことを示します。WinCC OnlineTrendControl の[プロパティ]ダイアログを開くといった、特定の操作はできます。

WinCCViewerRT は、端末サービスアプリケーションとして使用することもできます。詳細については、「WebNavigator サーバーの端末サービスの設定」を参照してください。

下記も参照

WebNavigator の端末サービスの設定 (ページ 284)

2.2.2.5 WebNavigator 診断クライアント

概要

WebNavigator 診断クライアントは、複数の WebNavigator サーバーへの費用対効果が高いアクセスを提供します。

複数の診断クライアントと標準クライアントを同時に使用できます。

ライセンシング

このプロセスは、WebNavigator サーバーの追加ライセンスを要求しません。ライセンシングは診断クライアントで処理されます。

WebNavigator サーバーへの同時ログインの最大数に達しているかどうかに関わらず、診断クライアントは WebNavigator サーバーに常にアクセスできます。

診断クライアントから WebNavigator サーバーへのアクセスは、常に保証されています。

RDP を介したアクセス不許可

リモートデスクトッププロトコル(RDP)を介したアクセスは、診断クライアントには有効ではありません。

用途

可能なアプリケーションには、以下が含まれています。

- リモート保守:
  診断クライアントは、サービスや保守の目的で種々の WinCC システムに連続アクセスするために使用されます。
- 中央保守:
  診断クライアントは、複数のサーバーに同時アクセスするために使用されます。

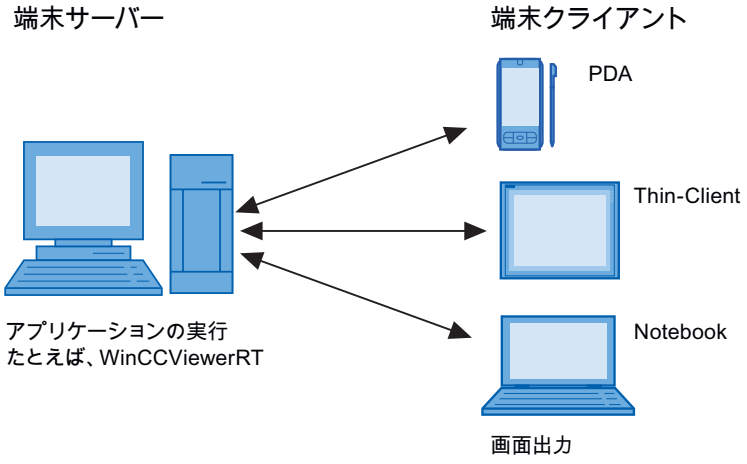
2.2.2.6 端末サービスと WebNavigator

はじめに

Windows サーバーオペレーティングシステムの端末サービスにより、Windows サーバーのデスクトップへのアクセスが提供されます。 端末クライアントは、WinCCViewerRT などのアプリケーションが端末サーバーで有効である場合に、画面出力を提供します。

端末サービスは、アプリケーションのユーザーインターフェースをクライアントに転送するだけです。 各クライアントのキーボード入力とマウス操作は、サーバーに戻されます。

端末サービスを使用した冗長システム設定については、該当する Microsoft のマニュアルを参照してください。



端末サービスの利点

- たとえば、ほこりっぽい環境でのファンやハードディスクがない、低メモリ要件の頑丈なハードウェアのクライアントとしての使用。
- 限られた消費電力の移動性クライアント(携帯端末、パームトップ、PDA など)としての使用。
- アプリケーションはすべて、安全な環境下のサーバーに配置されます。
- 単純な中央管理とシステム保守。
- Windows CE、Windows 95 などの種々のオペレーティングシステムのサポート。

2.2.3 WebNavigator システムの設定

2.2.3.1 設定ステップの概要

必要条件

- サーバーとクライアントが TCP/IP で相互接続されている。
- サーバーに
  - インターネット インフォメーション サービスがインストールされている。
  - WebNavigator サーバーがインストールされている。
  - ライセンスキーがインストールされている。
  - WinCC がインストールされている。
- クライアントに
  - Internet Explorer がインストールされている。
    または
  - WinCCViewerRT がインストールされている。

注記

リモート通信

WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、[SIMATIC Shell]ダイアログの設定を確認します。

リモート通信は、Web クライアントと Web サーバーの両方で有効にされる必要があります。

基本手順

WebNavigator システムをセットアップするために、以下の設定を完了する必要があります。

1. WinCC プロジェクトの設定。
   - Web アクセス用 WinCC プロセス画像を発行する
   - Web 設定を設定する
   - WebNavigator クライアントのアクセス用ユーザーを作成および管理します。
2. WebNavigator サーバーの設定。
   - WebNavigator Web ページを設定します。
   - 必要に応じて、"Load Balancing"ファンクションを設定します。
3. WinCC 基本システムと比較した相違および制限の考慮。

2.2.3.2 WinCC プロジェクトの設定

WinCC プロセス画像の発行

WinCC プロセス画面の発行

はじめに

WinCC プロセス画像を WebNavigator クライアントまたは DataMonitor クライアントで表示する場合、画像を発行する必要があります。発行するには、Web View Publisher を使用します。Web View Publisher は、自動的にプロジェクトデータに必要な調整を実行します。

概要

Web View Publisher によって、以下の発行タイプを使用できます。

- ローカルコンピュータでの発行。
  現在の WinCC プロジェクトフォルダがソースフォルダです。
  ターゲットフォルダは、[Projectname/WebNavigator/Pictures]などのサブフォルダです。
- サーバー接頭辞を使用した専用 Web サーバーでの発行。
  ソースフォルダは、サーバー接頭辞で定義される別の WinCC コンピュータ上の WinCC プロジェクトフォルダです。
  ターゲットフォルダは、WinCC クライアントの WinCC プロジェクトのサブフォルダ[.../WebNavigator/Pictures]に配置されます。独自のプロジェクトの画像が名前[<画像名>.PD_]で保存されるのに対し、他のプロジェクトの画像は名前[<サーバー接頭辞>_ _<画像名>.PD_]で保存されます。
- リモート発行。
  ソースフォルダおよびターゲットフォルダを、同じまたは異なる Web サーバーに配置できます。
  Web View Publisher は、ソースフォルダおよびターゲットフォルダがある Web サーバー上でも、まったく別の Web サーバー上でも起動できます。
- 専用 Web サーバー、または別のリモートステーションからの WinCC クライアントでの、リモート発行。
  WinCC プロジェクトのロジェクトフォルダは、専用 Web サーバーまたは WinCC クライアントの Windows でリリースする必要があります。リモートコンピュータの専用 Web サーバー/WinCC クライアントの WinCC プロジェクトを開くことで、Web View Publisher をリモートで起動できます。リモートステーションで、WinCC 画像を他の WinCC サーバーから専用 Web サーバーに発行します。

Web View Publisher は以下の調整を実行します。

- インターネットでのパフォーマンスを最適化するためのデータの圧縮。
- 操作に不必要なプロジェクト固有データを削除。
- 画面ウィンドウを ActiveX コンポーネントに変換。
- クライアントで実行できるようにスクリプトを変換。

発行されている画像を Internet Explorer で開く

発行されている画像を直接開くには、ウェブサイトが既に設定されている必要があります。

1. WinCC エクスプローラで、WebNavigator のテーブルエリアで発行されている画像を 1 つ選択します。
2. ショートカットメニューから[URL をクリップボードにコピー]コマンドを選択します。
3. クリップボードからのリンクを Internet Explorer のアドレスバーに貼り付けます。

画像と一緒にファイルが Internet Explorer で開かれます。

欠陥スクリプトによる画像の発行

発行中に警告またはエラーが発生すると、Web 発行ウィザードの出力フィールドで、影響を受けたプロセス画像にマークが付きます。スクリプトのエラーがある画像は、エラーにもかかわらず発行されます。ただし、エラーはランタイムでも発生することがあり、WebNavigator クライアントによってレポートされます。

「PdlPad」ツールを Web View Publisher で直接起動して、発行する画像で使用されるスクリプトをチェックし、必要に応じて修正できます。

Project ファンクションなしの発行

プロジェクト関数なしの発行は、エラーの追加ソースとなることがあります。Web View Publisher で発行すると、選択された project ファンクションが常に発行されます。プロジェクト関数なしで発行すると、画像にはプロジェクト関数がまったく含まれなくなります。前回使用した発行プロセスのプロジェクト関数は、発行済み画像、したがってクライアントで、常に使用できます。

Publisher 内のプロジェクト関数の選択は、同じプロセスで発行された画像とは無関係です。たとえば、選択されたプロジェクト関数を修正するがそれらのインターフェースを修正しない場合、必要なプロジェクト関数をすべて発行する必要があります。この場合、画像を発行する必要はありません。

グラフィックデザイナでのプロセス画像の変更

WebNavigator サーバーのグラフィックデザイナの、ランタイムで編集するプロセス画像を、再び発行する必要があります。これは、WebNavigator クライアントで表示されるプロセス画像に必要です。

専用 Web サーバーを使用するとき、WebNavigator クライアントに変更を転送するために、リモートステーションからそのサーバーで WinCC プロジェクトを開きます。完了すると、

変更した画像をグラフィックデザイナで開いて保存します。専用 Web サーバーで Web View Publisher を使用して、次のステップで画像を発行します。

多数の画像を変更した場合、このプロセスを簡略化することができます。このため、グラフィックデザイナのショートカットメニューで、[画像の変換]機能を呼び出します。完了すると、画像をもう一度発行する必要があります。

下記も参照

Web View Publisher を使って WinCC プロセス画像を発行する方法 (ページ 220)

画像発行の必要条件 (ページ 219)

画像発行の必要条件

一般要件

- 画像名に二重アンダースコア(たとえば"__furnace_overview.pdl")を含めることはできません。二重アンダースコアの前の文字列が、サーバー接頭辞と見なされます。
- パッケージ名および/またはシンボルコンピュータ名には、二重下線を含めないようにしてください。
- パッケージ名および/またはシンボルコンピュータ名は、二重下線を末尾にしないようにしてください。
- さらに、基本プロセスコントロールを使用している場合、名前をシングルアンダースコアで始めることはできません。画像ツリーを使用するとき、上位画像の名前文字列に接頭辞"@PTN_"が付きます。アンダースコアが先行する場合、画像名に二重アンダースコアを使用します。
- WinCC のプロジェクトパスとインストールパスに、同じ名前の 2 つのヘッダーファイルがある場合、Web View Publisher はインストールパスにあるヘッダーファイルを使用します。

専用 Web サーバーでの発行の必要条件

- Web Navigator サーバーが WinCC クライアントにインストールされている。
- WinCC クライアントがアクセスできる WinCC サーバーすべての C スクリプトと VB スクリプトが、WinCC クライアントにコピーされている。

- WinCC クライアントがアクセスできる WinCC サーバーパッケージが、WinCC クライアントにロードされている。
- 他のコンピュータのプロジェクトを発行する場合、Web View Publisher を起動する前に、これらのコンピュータが、ネットワークドライブによってリンクされている必要があります。この手順により、プロジェクトを Publisher の選択ダイアログで表示できるようになります。パスを直接入力することはできません。

リモート発行の必要条件

- ターゲットフォルダおよびソースフォルダへのアクセスが、Web View Publisher に対して有効である。
  WinCC は、これらの Windows イネーブルを、デフォルトで設定します。これらのイネーブルが制限されていない(たとえば特定のユーザーのみが有効)ことを確認します。
- 他のコンピュータのプロジェクトを発行する場合、Web View Publisher を起動する前に、これらのコンピュータが、ネットワークドライブによってリンクされている必要があります。この手順により、プロジェクトを Publisher の選択ダイアログで表示できるようになります。パスを直接入力することはできません。

下記も参照

WinCC プロセス画面の発行
(ページ 216)

Web View Publisher を使って WinCC プロセス画像を発行する方法 (ページ 220)

Web View Publisher を使って WinCC プロセス画像を発行する方法

はじめに

Web View Publisher を使用して、グラフィックデザイナに作成したプロセス画像を発行します。発行中、WinCC Web 発行ウィザードがサポートします。

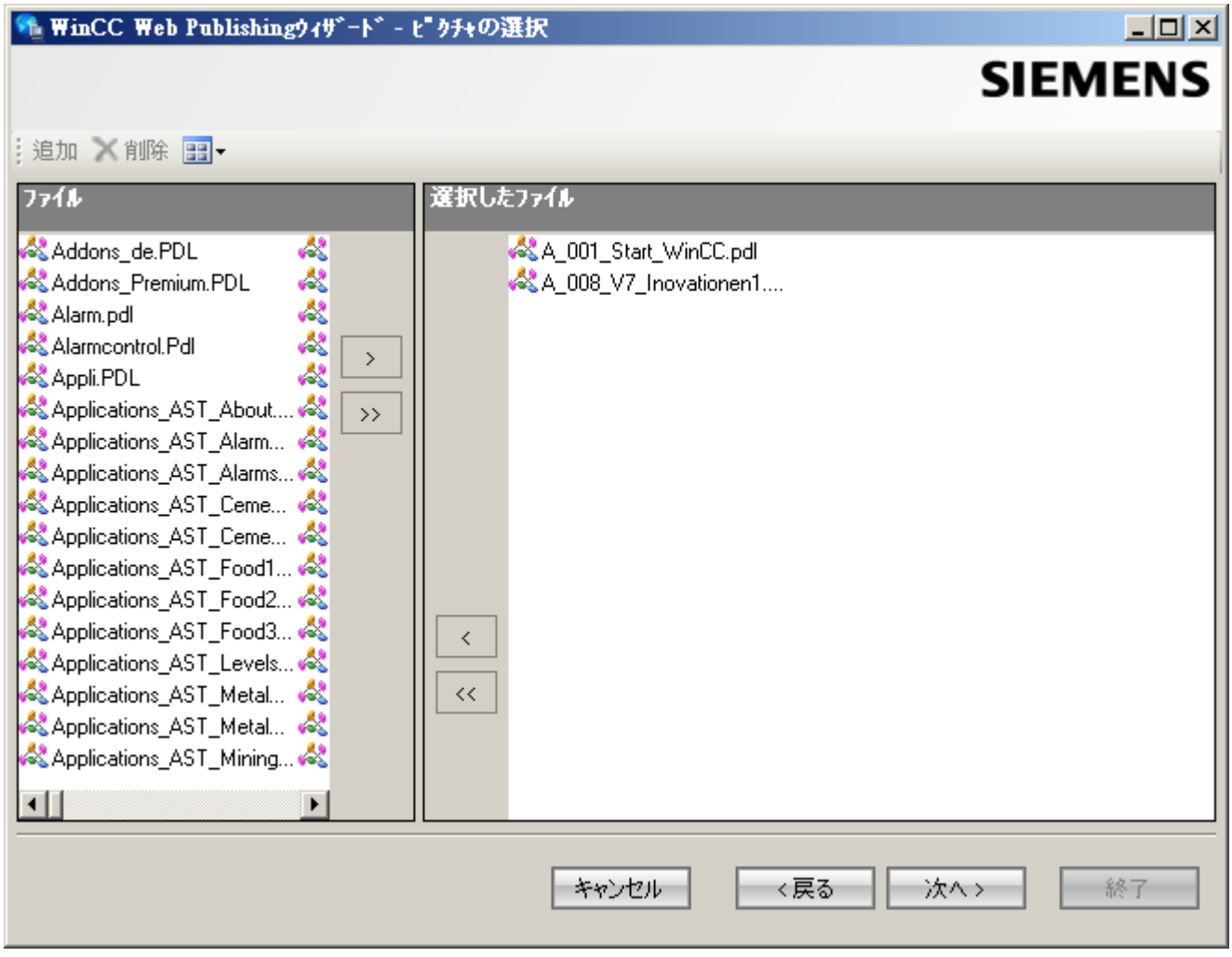
手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで"Web Navigator"を選択します。
   ショートカットメニューで"Web View Publisher"コマンドを選択します。
   これで WinCC Web 発行ウィザードが起動しました。

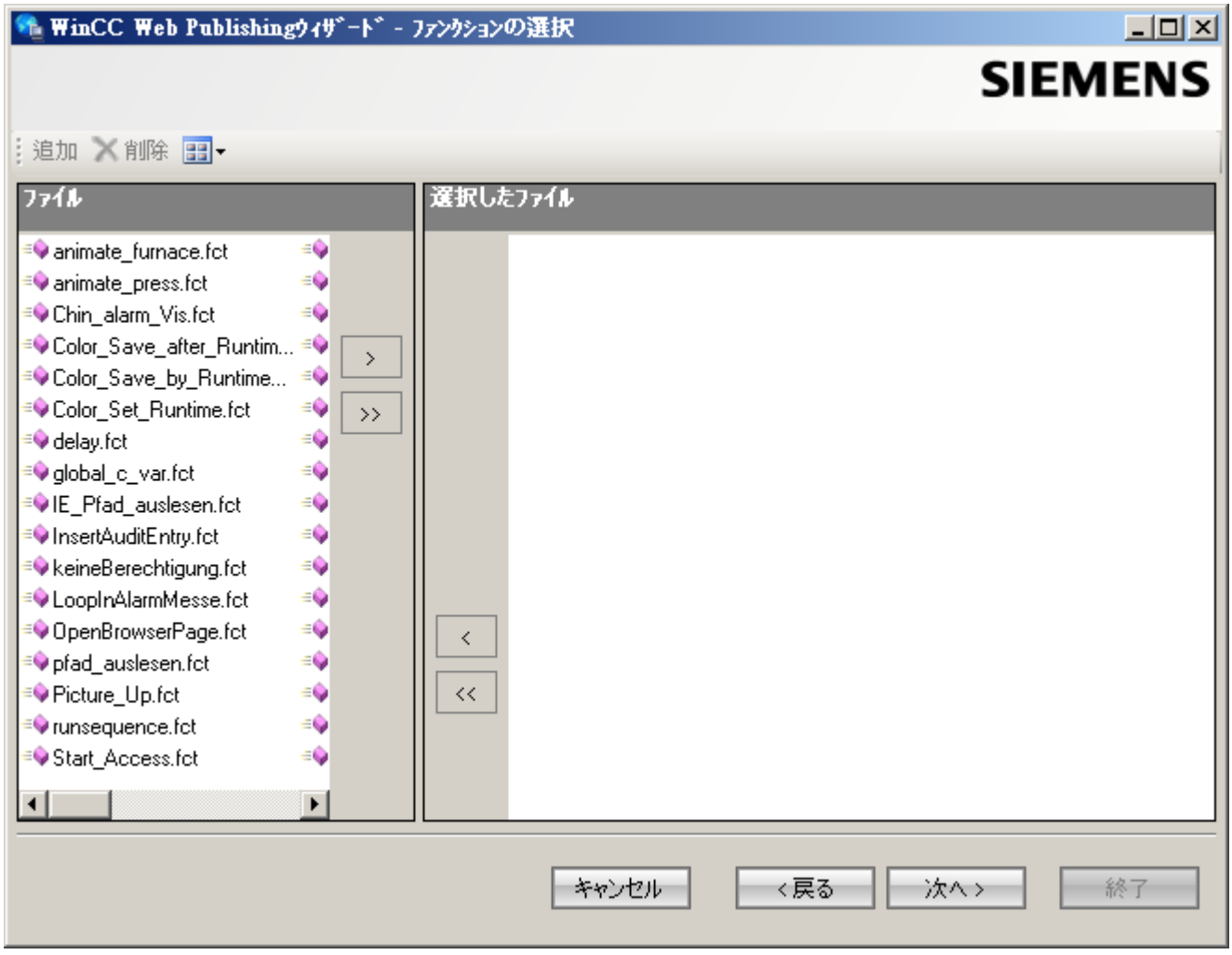
2. [次へ]をクリックします。

3. 専用 Web サーバーで画像を発行する場合、[サーバー接頭辞]オプションを有効にします。
   WinCC プロジェクトを含む WinCC サーバーの接頭語を、選択リストから選択します。
   WinCC クライアントにパッケージがロードされているサーバーの接頭辞が、リストに表示されます。
   選択肢から接頭辞を削除すると、その下の各フィールドに表示されたパスが変更されます。
4. [WinCC プロジェクトへのパス]で、発行する画像を含む WinCC プロジェクトフォルダを選択します。
   フォルダは、専用 Web サーバーで発行するため、以下の形式です。
   "\\<servername>\<serverprefix>_ _<projectname>".
   リモートステーションから発行する場合、画像を含むソースプロジェクトを選択します。
   ソースプロジェクトは、他の WinCC サーバーでのイネーブル名で表示されます。
   フォルダには、以下の形式があります。
   「\\<コンピュータ名>\<イネーブル名>」。

5. [WinCC Web の発行フォルダ]で、発行されている画像のターゲットフォルダを選択します。
   WinCC プロジェクトフォルダ内の提案フォルダを受け入れます。
   画像をたとえば他のプロジェクトに転送する場合を除き、パスの仕様を変更しないでください。この場合、これに対応して、接頭辞選択リストが拡張されます。
   発行画像のリモート発行中の保存先である指定されたターゲットプロジェクトを、確認します。
   パスの定義は、ソースプロジェクトを選択すると更新されます。
   ターゲットプロジェクトが別の WinCC サーバー上に配置されている場合、対応するプロジェクトを選択します。
6. [非表示オブジェクトを表示]オプションを選択し、自動的に発行された非表示オブジェクトを、結果リストに表示します。
7. [次へ]をクリックします。[選択されたファイル]リストに、発行する画像を移動します。

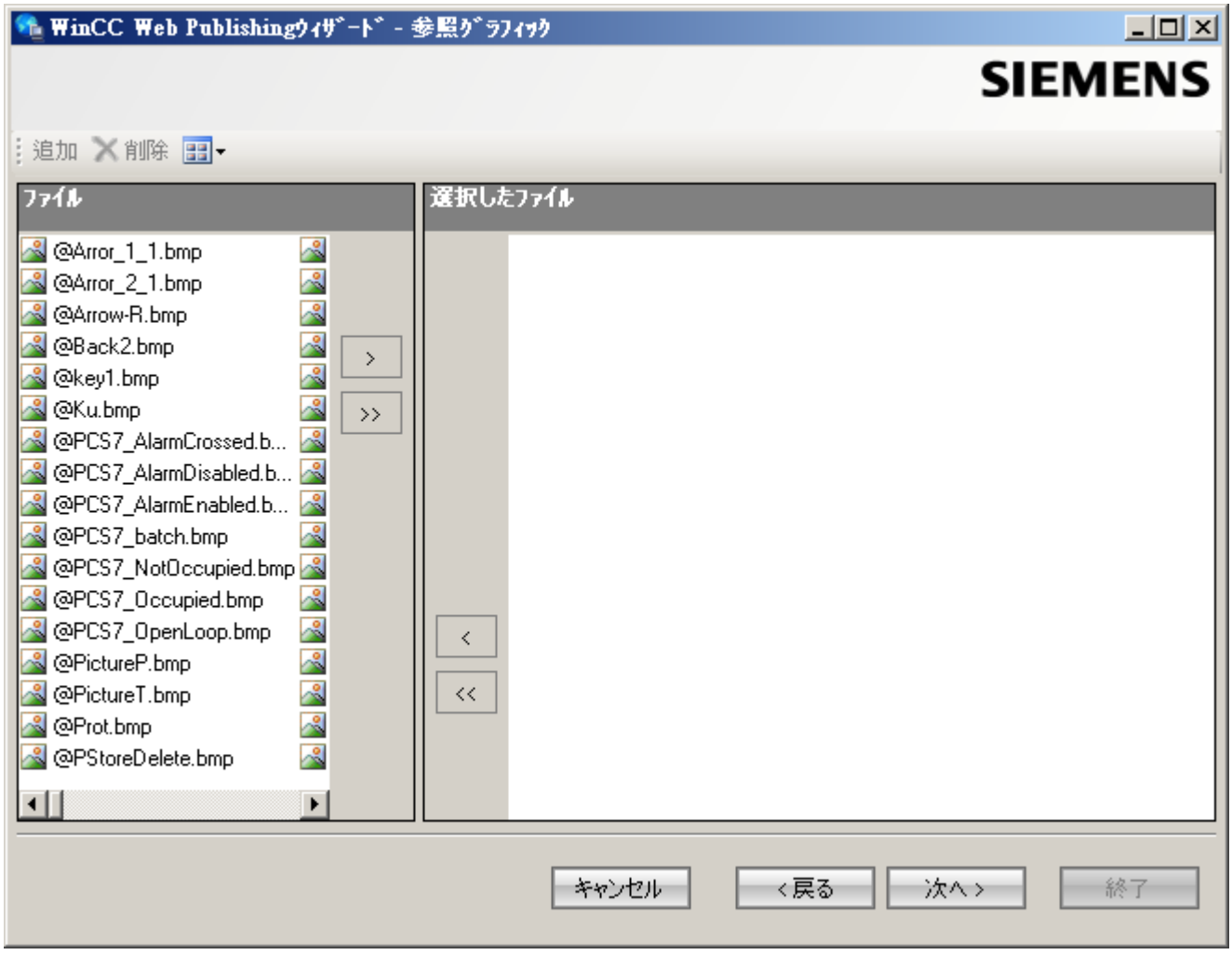


8. [次へ]をクリックします。発行された画像で使用する C プロジェクト関数を、[選択されたファイル]リストに移動します。VB スクリプトを個々に発行することはできません。



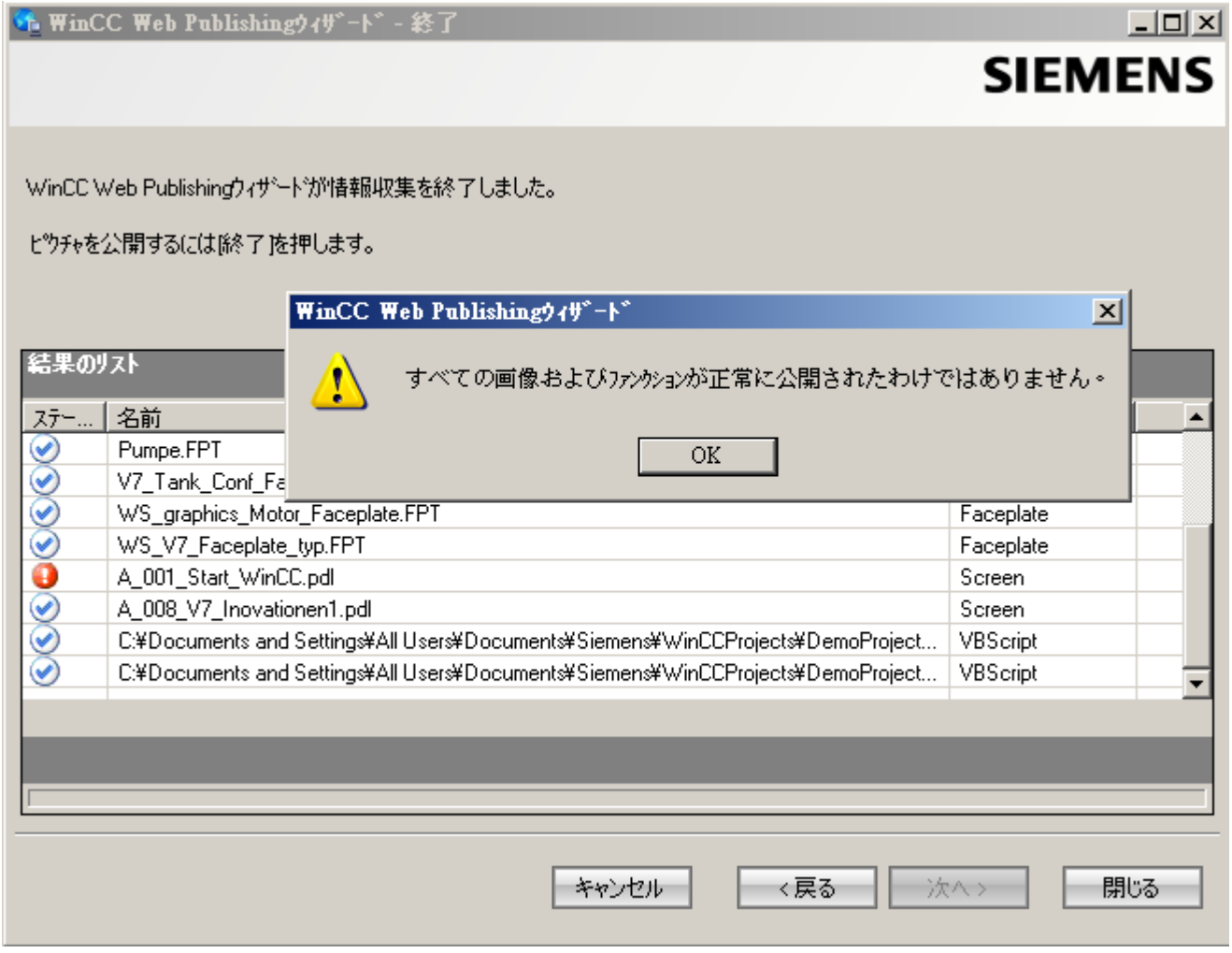
[次へ]をクリックします。

9. [選択されたファイル]リストに、発行する参照グラフィックを移動します。参照されたファイルは、"GraCS"フォルダまたは"GraCS"のサブフォルダにあります。



[次へ]をクリックします。

10. [終了]をクリックして画像の発行を開始します。



結果

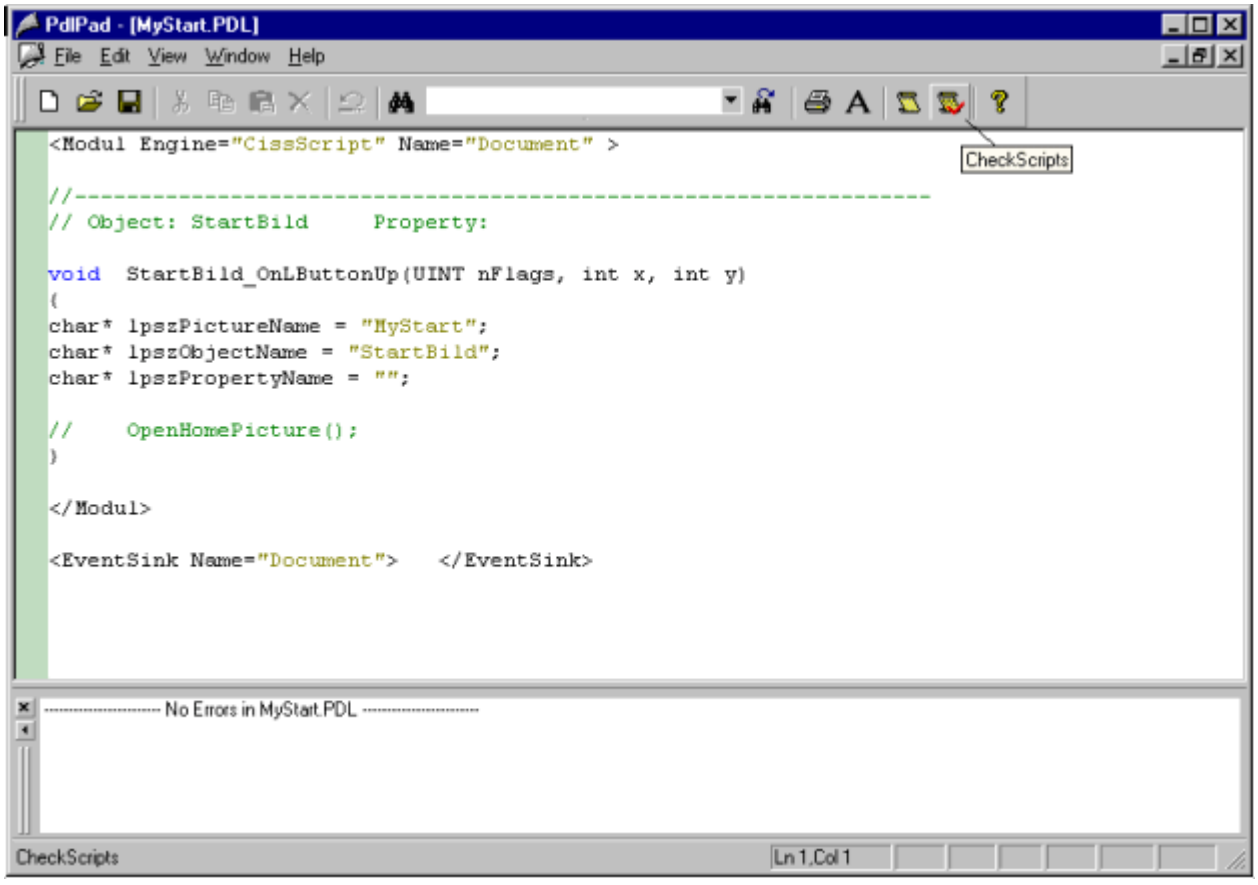
画像および関数が、正常に発行されました。結果リストに、すべての発行オブジェクトのステータスが表示されます。オブジェクトをクリックして、追加のオブジェクト情報を表示することができます。

「<プロジェクトフォルダ>\WebNavigator\WizardLog.txt」ファイルを使用して、発行を追跡できます。

"PdlPad"を使用したスクリプトの確認

"WizardLog.txt"ログファイルには、使用するスクリプトのエラーの情報が含まれています。"PdlPad"デバッガを使用しても、エラーを見つけることができます。

1. Web View Publisher の結果リストで、影響を受けるオブジェクトをダブルクリックして、"PdlPad"を開きます。発行画像のスクリプトが表示されます。



2. スクリプトを確認するには、をクリックします。
3. 一時的にスクリプトを変更して保存できます。これらの修正は発行する画像にのみ保存され、WinCC プロジェクトのプロセス画像には保存されません。

または、「Siemens Automation」プログラムグループで「PdlPad」を開きます。

下記も参照

WinCC プロセス画面の発行
(ページ 216)

画像発行の必要条件 (ページ 219)

Web 設定の構成

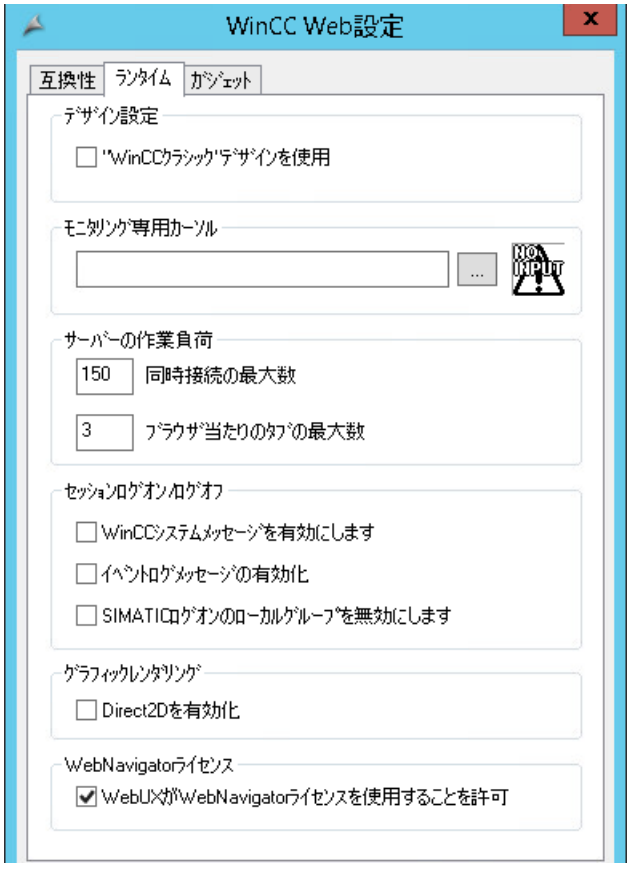
ランタイム設定の設定

はじめに

ランタイムでの動作を、[WinCC Web 設定]ダイアログで構成できます。

ダイアログを開く

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[WebNavigator]を選択します。
2. ショートカットメニューで[Web 設定]コマンドを選択します。
3. [WinCC Web 設定]ダイアログの[ランタイム]タブに変更します。



4. 必要な設定を選択します。
5. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。

[WinCC クラシック]デザインを使用

このオプションを選択すると、WebNavigator クライアントのパフォーマンスが向上します。

これで、WinCC V6 の元のスタイルが使用されます。

[モニタリングのみ]カーソル

デフォルトのカーソルに、WebNavigator クライアントのユーザーはランタイムを操作できないことが表示されます。

ユーザーには、WinCC ユーザー管理者でシステムオーソリゼーション番号 1002 - 「Web アクセス - モニタリングのみ」が割り付けられています。

ユーザー自身のカーソルを使用する場合は、そのパスとファイル名を入力します。[...]ボタンを使用して、選択したカーソルのファイルまで移動することもできます。

サーバー負荷

同時接続最大数

WebNavigator サーバーの最大負荷を指定します。

- サーバーへの同時アクセスの最大接続数を指定します。
  構成されたガジェットの数はカウントに含まれます。

たとえばブラウザのウィンドウで複数のタブが開いている場合、同時接続の数が、WebNavigator ライセンスの数を超える場合があります。

サーバーは通常の操作で負荷の追加なしに最大 50 接続を保証しているため、「50」の制限が必要です。この値は、WebNavigator ライセンスの実際数より小さくないことが必要です。

ブラウザ当りのタブの最大数

ブラウザのウィンドウ当りのタブの最大数を指定します。

ブラウザのウィンドウに複数のタブがある場合は、1 つの WebNavigator ライセンスとしてカウントされます。

セッションログオン/ログオフ

WinCC システムメッセージの有効化

システムメッセージ「番号 1012400」または「番号 1012401」が、WebNavigator クライアントのログイン/ログオフ時に出力およびアーカイブされます。

イベントログメッセージを有効にする

セッションのログインまたはログアウトが正常に実行されると、Windows のイベントビューアに記録されます。

SIMATIC Logon のローカルグループを無効にする

WebNavigator サーバーにアクセスできるのは、同じドメインのグループのみです。

ハードウェアアクセラレーテッドグラフィック表現

Direct2D の表現は、WebNavigator クライアント上で、プロジェクト全体に対して有効化されています。

WebNavigator ライセンス

[WebUX が WebNavigator ライセンスを使用することを許可する]オプションは、負荷分散の改善を可能にします。

WebUX ライセンスが使用されているとき、ユーザーは WebNavigator ライセンスを使用して WebUX サーバーにログオンできます。

ガジェットとしての WinCC 画像

概要

ガジェットは、Windows のサイドバー用のミニアプリケーションです。 WebNavigator クライアントで、発行されている WinCC プロセス画像をガジェットで表示できます。

ガジェットに表示する WinCC 画像を指定します。 ランタイムで、WebNavigator サーバーはそれぞれの画像の周期スナップショットイメージ「pdlImage.jpg」を連続的に生成します。 ファイルは、"\WinCC\Webnavigator\Server\Web\image_gadget"フォルダに保存されます。 ガジェットは周期的間隔でファイルにアクセスし、最新の生成された画像を表示します。

以下のオブジェクトは、ガジェットに表示されません。

- グローバルスクリプト診断ウィンドウ
- WinCC メディアコントロール
- WinCC V7.0 より前のバージョンによってインストールされている移行プロジェクトからの WinCC コントロール

注記

表示される画像に、ユーザーの介入を含めることはできません。 これには、たとえばファンクションによるログインダイアログまたは通知ダイアログの呼び出しが含まれます。

ガジェットに表示する画像は操作できません。

通知

更新サイクルが短いと、WebNavigator システムへの負荷が大きくなります

アラームコントロールを表示するか、トレンド表示の多数のプロセス値をガジェットで更新する場合は、十分に長い更新サイクルを設定してください。

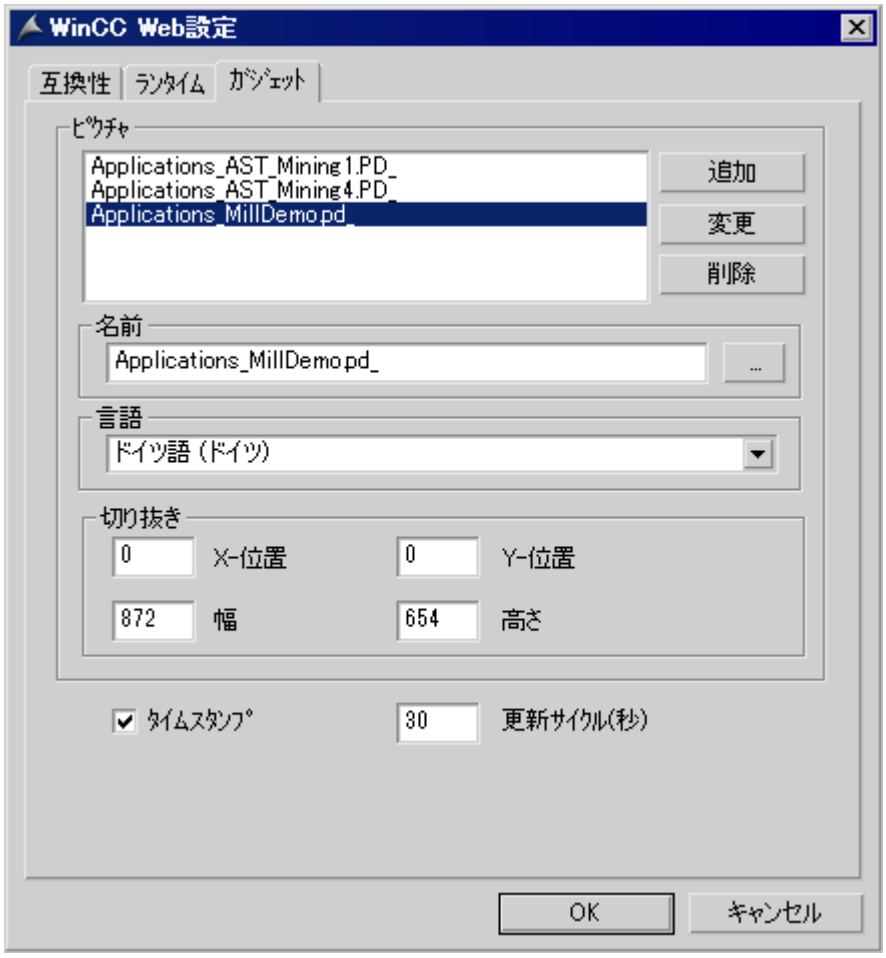
スナップショットの時点で、プロセス値がまだコントローラから読み取られていないと、ガジェットは実際のプロセス値の代わりに開始値を表示します。

必要条件

- Windows オペレーティングシステムが、ガジェットの使用をサポートする必要があります。
- ガジェットの設定を有効にするため、WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーにインストールされている必要があります。

WebNavigator サーバーでのガジェットの設定

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[WebNavigator]を選択します。 ショートカットメニューで[Web 設定]コマンドを選択します。
2. [WinCC Web 設定]ダイアログの[ガジェット]タブに変更します。



3. [...]ボタンを使用して、発行されている画像を[名前]で選択します。
4. 選択した画像のランタイム言語を指定します。
5. ガジェットに表示する、選択した画像のクリッピングを定義します。 一般に、プロセス画像は、ガジェットで表示するには大きすぎます。 クリッピングがガジェットと同じ幅および高さであるか、少なくとも幅と高さの比率が同じであることを確認します。 そうでないと、画像がガジェットで歪んで表示されるか、または黒枠付きで表示されます。
6. [追加]をクリックします。 画像は[画像]リストに挿入されます。 追加の画像に対して手順 3～6 を繰り返します。

7. 言語またはクリッピングを変更する画像を、リストから選択します。 設定を編集して、[変更]をクリックします。
8. [更新サイクル]フィールドで、「pdlImage.jpg」に表示される画像の周期的更新にサーバーが使用する時間間隔を指定します。
新しい画像は、時間間隔の開始時点でアクセスされます。 最新のプロセス値はコントローラから読み取られます。 時間間隔の終りにスナップショットが作成され、"pdlImage.jpg"に保存されます。
以下の例に、更新サイクル「10 秒」の 2 つのプロセス画像を示します。

時間[s]	イメージ
10	Process_Picture_1 -> pdlImage.jpg
20	Process_Picture_2 -> pdlImage.jpg
30	Process_Picture_1 -> pdlImage.jpg
40	Process_Picture_2 -> pdlImage.jpg

1. 画像を生成した日付と時間をガジェットに表示する場合は、[タイムスタンプ]オプションを選択します。
2. [OK]を押してダイアログを閉じます。

WebNavigator クライアントでのガジェットの表示

WinCC 画像を表示する事前に設定されたガジェットは、WebNavigator クライアントの[\WinCC\Webnavigator\GADGET]のインストールフォルダにあります。

WebNavigator クライアントでガジェットにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. [\WinCC\Webnavigator\GADGET]のインストールフォルダで、[WebNavigator.gadget]をダブルクリックします。 ガジェットが Windows のサイドバーにインストールされます。
2. ガジェットが WebNavigator サーバーから画像をロードする更新サイクルを指定します。
3. WebNavigator サーバーのアドレスを入力します。 ガジェットが WebNavigator サーバーとの接続を確立します。
4. 必要に応じてガジェットを、デスクトップにドラッグアンドドロップします。

互換性のための Web 設定

移行したプロジェクトの操作

V6.2 より前の WinCC/Web Navigator では、C スクリプトに以下の制限がありました。以下のパラメータおよびファンクションは、完全なパスと画像名ではなく、WebNavigator クライアントの画像名のみを返しました。

- "lpszPictureName"パラメータ
- "GetParentPicture"関数
- "GetParentPictureWindow"関数

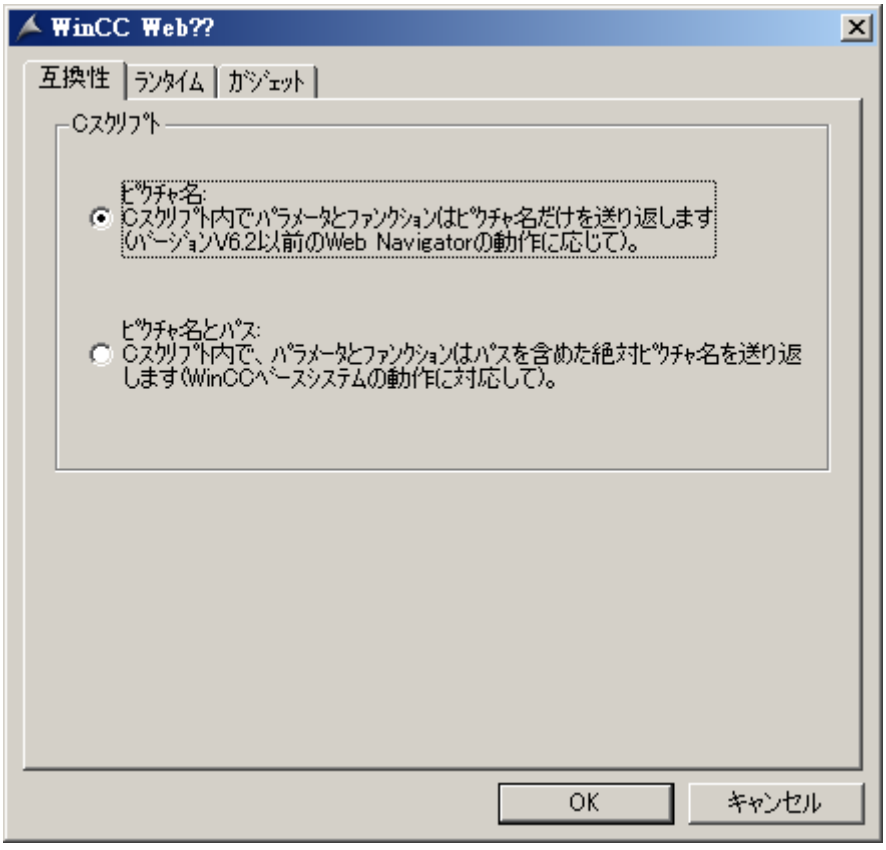
WinCC/WebNavigator V6.2 では、必要な場合は、絶対アドレス指定を有効化し、WebNavigator クライアントでのこの制限をなくすことができます。

C スクリプトの実行に対して、必要な応答を選択します:

- 画像名: デフォルトでは、絶対アドレス指定は無効になっています。 ファンクションやパラメータは、画像名のみを返します。 古いバージョンの WebNavigator クライアントや、これらに対して作成した C スクリプトの互換性は、維持されます。
- 画像名とパス: 絶対画像名が、完全なパスと共に返されます。
  この応答は、WinCC 基本システムに対応します。 WebNavigator クライアントでの実行のために、WinCC 基本システムで使用する C スクリプトを変更する必要はありません。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[WebNavigator]を選択します。 ショートカットメニューで[Web 設定]コマンドを選択します。
2. [WinCC Web 設定]ダイアログの[互換性]タブに変更します。



3. C スクリプトの必要な応答を有効にします。
4. [OK]を押してダイアログを閉じます。

WebNavigator クライアントのユーザーの管理

はじめに

WebNavigator クライアントと同様に、WinCC プロジェクトへのアクセスをオペレータコントロールおよびモニタするユーザーに、オーソリゼーションを割り付けます。

それぞれのユーザーに対して、開始画像とランタイム言語を選択できます。

[自動ログアウト]ファンクションを使用して、WebNavigator クライアントの WinCC プロジェクトへのアクセスに関するタイムアウトを指定します。すると、ユーザーは自動的にログオフされます。

自動ログアウト

自動ログアウトは、WebNavigator システムで以下の利点を提供します。

- WebNavigator クライアントから WinCC プロジェクトへのアクセスは、タイムアウトの影響を受けます。
  この機能により、特に WebNavigator サーバーにアクセスする無人のクライアントを使用する場合に、システムのセキュリティが強化されます。
- クライアントが使用するライセンスは、自動ログアウト後に再びリリースされます。
- 自動ログアウトすると、WebNavigator サーバーの現在の負荷が軽減されます。

WebNavigator サーバーに接続されているクライアントのステータスを「http://<サーバー名>/status.html」ページで表示できます。

ODK ファンクション「PWRTLogout」を使用した手動ログアウト

ODK ファンクション「PWRTLogout()」を使用して WebNavigator クライアントからユーザーをログオフさせることもできます。

[ODK ユーザー管理者] > [RT のファンクション] > [ログイン/ログアウトのためのファンクション]の下にある ODK 文書で、このファンクションの説明を参照できます。

WinCCViewerRT/Internet Explorer:異なる動作

手動ログオフ後、WebNavigator は[ログオン]および[閉じる]オプションを使用してページに変更されます。

[ログオン]ボタンがクリックされると、ブラウザは異なる応答をします。

- WinCCViewerRT:
  ユーザー名およびパスワードが WinCCViewerRT で設定済みの場合、保存されたユーザーが自動的にログオンされます。
- Internet Explorer:
  ユーザー名およびパスワードを入力するためのログオンダイアログが開きます。

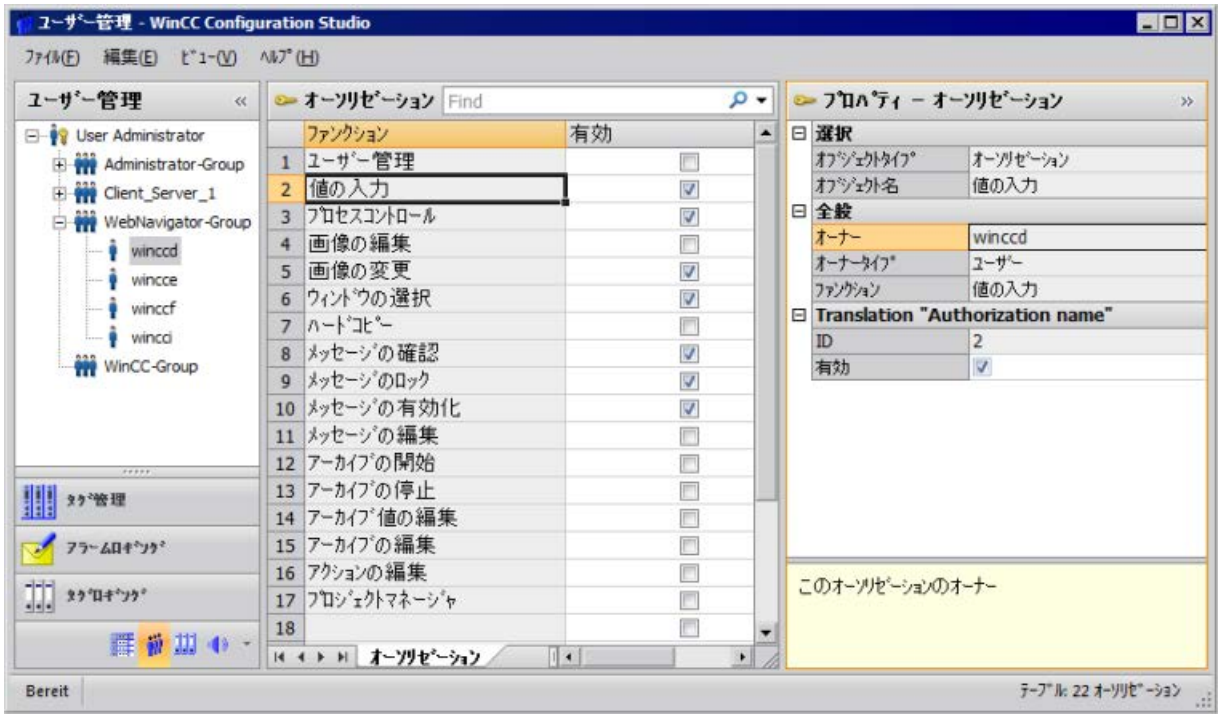
必要条件

- WinCC プロセス画像が、Web View Publisher を使用して発行されている。
- WinCC ユーザー管理者が開いている。
- ユーザーが作成されている。

- ユーザーのシステムオーソリゼーションが指定されている。
- WinCC のオプション[基本プロセスコントロール]を使用する場合、ドメイン固有のオーソリゼーションが指定されている。

手順

1. ナビゲーションウィンドウで必要なユーザーを選択します。



2. ユーザーの操作オーソリゼーションが、テーブルウィンドウに表示されます。
システムオーソリゼーション「Web アクセス - モニタリングのみ」が有効である場合、ユーザーが WinCC プロジェクトをモニタできるのは、WebNavigator クライアントとして動作する場合だけです。
このシステムオーソリゼーションが無効である場合、ユーザーに割り付けられている他の操作オーソリゼーションが有効です。この理由から、他のオーソリゼーションの設定を確認します。

3. 該当する場合、ユーザープロパティの[ログアウト]フィールドで、自動ログアウトするまでの時間を指定します。
   プロパティに移動するには、ナビゲーションウィンドウのユーザーグループを選択してから、テーブルウィンドウのユーザーを選択します。
   – [なし]を入力した場合、自動ログアウトが無効になります。
   – [絶対]オプションを選択している場合、自動ログアウトに構成した時間はログオンした時から始まります。
     時間は、ユーザーのアクションとは無関係に、終了します。
   – [非アクティブ]オプションを選択すると、構成した時間は、ユーザーが最後にキーボードまたはマウスを操作した時から始まります。
     この非アクティブな期間の後、ユーザーは自動的にログアウトされます。
   「自動ログアウト:サーバーから接続解除されました」というメッセージが、自動ログアウト後に表示されます。
   [F5]を押してページを更新し、WebNavigator サーバーと再接続できます。
4. ユーザーのプロパティで、[WebNavigator]オプションを有効にできます。
5. ドロップダウンリストから[Web の開始画像]のユーザーに対する開始画像を選択します。
   開始画像として選択できるのは、発行されている画像だけです。
6. ドロップダウンリストから[Web 言語]のユーザーのランタイム言語を選択します。
   テキストライブラリで構成された言語は選択可能です。
7. ユーザー管理者を閉じます。

SIMATIC Logon を使用する場合の制限

WebNavigator サーバーは、SIMATIC Logon をサポートします。ただし、以下の制約が適用されます。

- ユーザーが複数のユーザーグループのメンバである場合、開始画像が構成されているグループがランダムに選択されます。
  どのグループを選択するかを構成することはできません。
  ユーザーがメンバであるすべてのグループのオーソリゼーションが、考慮されます。
- Internet Explorer のログオンダイアログで、ユーザー名に以下のドメイン接頭辞を追加する必要があります。「**<**ドメイン**>\<**ユーザー名**>**」。
- クライアントのセッション中にパスワードが期限切れになっても、WebNavigator クライアントの操作可能性には影響しません。
- WebNavigator サーバーでパスワードを変更できるだけです。
- SIMATIC Logon を WebNavigator サーバーで使用する場合、WebNavigator クライアントは以下のファンクションをサポートしません。
  – ODK ファンクション
  – ユーザー管理者

下記も参照

"Status.html"による接続の診断 (ページ 276)

2.2.3.3 WebNavigator サーバーの設定

WebNavigator Web ページの設定

WinCC Web コンフィグレータ

はじめに

WinCC Web コンフィグレータは、Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS)のセットアップおよび管理に使用します。

必要条件

- WebNavigator サーバーがインストールされている。
- Windows の「インターネット インフォメーション サービス」コンポーネントがインストールされている。

WinCC Web コンフィグレータの起動

- WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[WebNavigator]を選択します。ショートカットメニューで[Web コンフィグレータ]コマンドをクリックします。
- デスクトップで[Web コンフィグレータ]ショートカットをクリックすることもできます。

WinCC Web コンフィグレータを使用した初期コンフィグレーション

初期コンフィグレーション中に、新規デフォルト Web ページまたは新規仮想フォルダを作成するか指定します。

サーバーで Web Navigator Web ページを操作するだけの場合、[標準 Web ページ(スタンドアロン)の新規作成]オプションを選択します。

WebNavigator Web ページを既存の Web ページのサブフォルダとして追加する場合、[既存の Web ページ(仮想フォルダ)への追加]確認オプションを選択します。 現在のデフォルト Web ページをアクティブなままにしておく必要がある場合や、オペレーティングシステムが 1 つの Web ページの操作のみをサポートしている場合に、このオプションが必要になる場合があります。

注記

64 ビットオペレーティングシステムのデフォルト Web ページ

64 ビットオペレーティングシステム上でデフォルト Web ページを操作する場合、IIS Manager の[デフォルト Web サイト]の詳細設定にある[DefaultAppPool]アプリケーションプールで 32 ビットアプリケーションを許可する必要があります。

WinCC Web コンフィグレータのコンフィグレーションの管理

IIS が既に構成されている場合、Web コンフィグレータを使用して、既存の Web サーバーまたは仮想フォルダの設定を編集します。

Web コンフィグレータは、すでに構成されているかどうかを自動的に検出します。 既存のコンフィグレーションが見つかると、コンフィグレーションを編集するダイアログが開きます。

注記

Web フォルダが変更または削除されている

Web フォルダを削除している場合、新しい Web フォルダを Web コンフィグレータで作成する前にコンピュータを再起動してください。

以下に注意してください。

- Web フォルダを変更した後、Web 通信が失敗する場合、Web コンフィグレータは設定を調整しようとします。
- このアクションが正常に実行されない場合は、以下の手順を実行します。
  1. IIS コンソールを終了します。
  2. WebNavigator Web ページを削除するには、[実行]ウィンドウで以下のコマンドラインを入力します。
  "<wincc_installationpath>\WebNavigator\Server\bin\WinCCWebConfigurator.exe" deinstall="yes"。
  3. IIS コンソールで、標準 Web ページなどの必要な Web ページを起動します。

新しいデフォルト Web ページの作成

はじめに

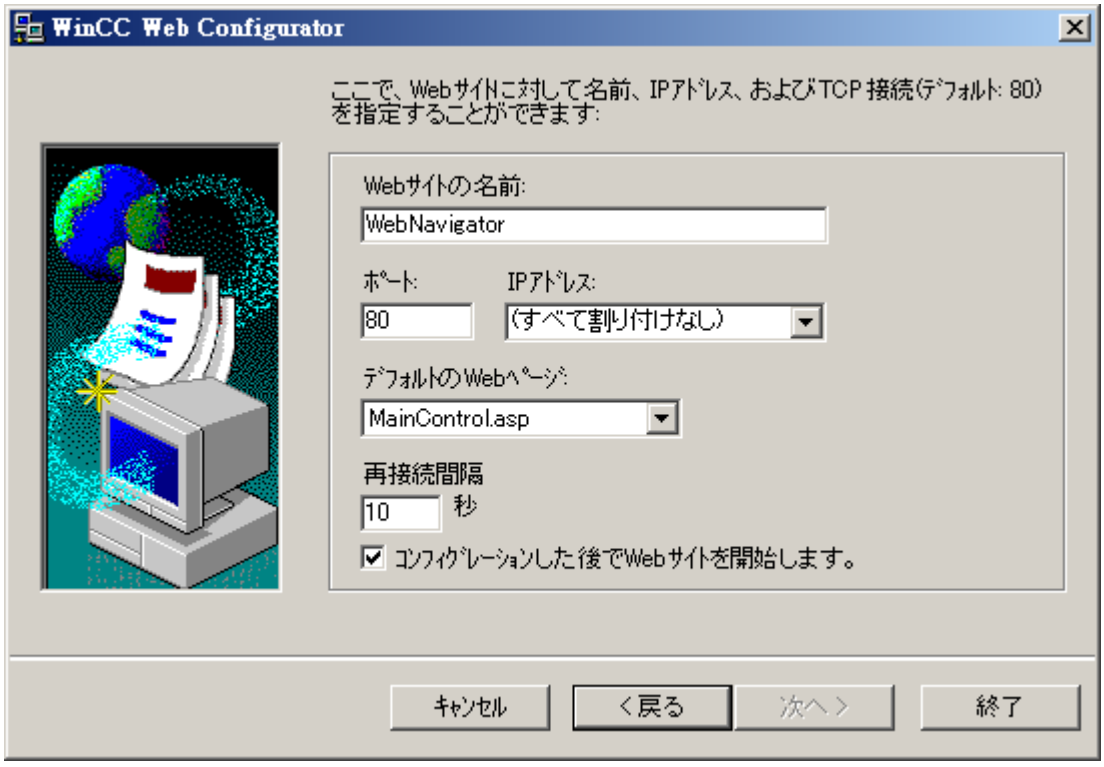
WinCC Web コンフィグレータを使用して標準 Web ページを作成できます。

必要条件

- WebNavigator サーバーがインストールされている。
- Windows の「インターネット インフォメーション サービス」コンポーネントがインストールされている。
- WinCC Web コンフィグレータが起動している。

手順

1. [標準 Web ページ(スタンドアロン)の新規作成]オプションを選択して、[次へ]をクリックします。



2. [Web ページの名前]を選択して、名前を入力します。
3. アクセスで使用するポートの番号を、[ポート]フィールドに入力します。 デフォルトでは、HTTP ポート「80」が設定されています。
   別のポート番号を選択すると、WebNavigator クライアントがログオンする際に、Internet Explorer のアドレスバーでサーバー名にその番号を追加する必要があります。たとえば "http://<サーバー名>:<ポート番号>"。
4. [IP アドレス]で、コンピュータをイントラネットまたはインターネットまたは両方のネットワークで使用できるかを指定します。
   選択リストで使用できるアドレスだけを使用します。
   [すべて割り付けない]を選択すると、イントラネットおよびインターネットでコンピュータにアクセスできます。
5. Web サーバーを選択した後、WebNavigator クライアントに表示するデフォルトの Web ページを選択します。
   - MainControl.asp
     WinCC Web ナビゲーションインターフェースとユーザー管理で指定した開始画像が開きます。 たとえばプラグインをダウンロードするために、Web ナビゲーションインターフェースが必要です。
   - WebClient.asp
     ユーザー管理で指定した開始画像が開きます。

6. 接続障害後の自動接続セットアップの、時間間隔を指定します。
   時間設定が[0]であると、[自動再接続]ファンクションが無効になります。
7. 設定が完了したら、Web ページを起動するかどうかを指定します。
8. ファイアウォールを起動していない場合、[終了]をクリックします。 ファイアウォールがすでにインストールされている場合、[次へ]をクリックします。

結果

Web フォルダが正常に作成されており、Web ページが有効になっています。

仮想フォルダの作成

はじめに

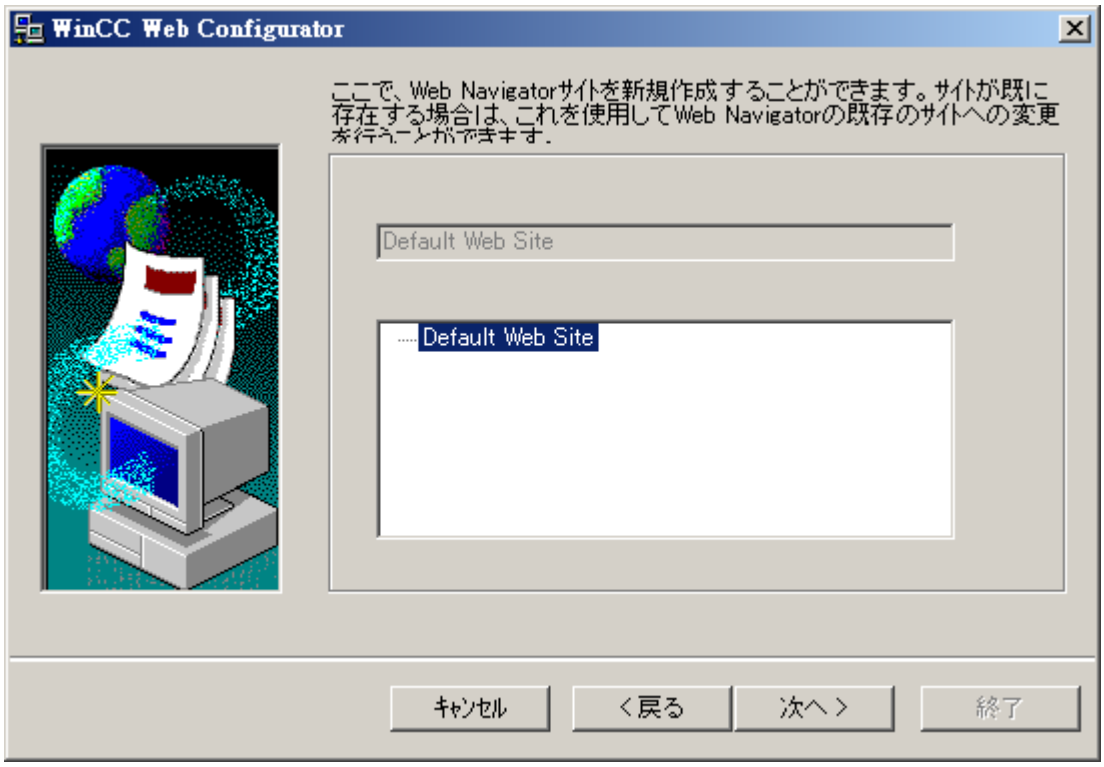
WinCC Web コンフィグレータを使用して、仮想フォルダを作成できます。

必要条件

- WebNavigator サーバーがインストールされている。
- Windows の「インターネット インフォメーション サービス」コンポーネントがインストールされている。
- WinCC Web コンフィグレータが起動している。

手順

1. [既存の Web (仮想フォルダ)に追加]を有効にします。[次へ]をクリックします。
2. 仮想フォルダを追加する有効な Web ページを選択します。



3. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。
   次のダイアログで[次へ]をクリックします。

4. [Web ページの名前]を選択して、名前を入力します。
5. Web コンフィグレータによって、ポート番号および IP アドレスとして IIS 設定が適用されます。
6. Web サーバーを選択した後、WebNavigator クライアントに表示するデフォルトの Web ページを選択します。
   - MainControl.asp
     WinCC Web ナビゲーションインターフェースとユーザー管理で指定した開始画像が開きます。 たとえばプラグインをダウンロードするために、Web ナビゲーションインターフェースが必要です。
   - WebClient.asp
     ユーザー管理で指定した開始画像が開きます。
7. 接続障害後の自動接続セットアップの、時間間隔を指定します。
   時間設定が[0]であると、[自動再接続]ファンクションが無効になります。
8. 設定が完了したら、Web ページを起動するかどうかを指定します。
9. [完了]ボタンをクリックして設定を完了します。

結果

仮想 Web フォルダが作成されており、Web ページが有効になっています。

WebNavigator クライアントで、仮想 Web フォルダの名前を URL に追加して、[http://WebServer/WebNavigator]などの Web ページへのアクセスを有効にします。

有効な Web ページない

有効な Web ページが見つからない場合、Web コンフィグレータが終了し、メッセージが表示されます。

Web コンフィグレータを再起動する前に、Web ページを有効にします。 詳細については、「有効な Web ページの確認」を参照してください。

下記も参照

有効化した Web ページの確認 (ページ 248)

ファイアウォールの設定

はじめに

このセクションでは、例として Windows Server 2016 を使用した「HTTP」と「HTTPS」サービスを有効にする方法を説明します。

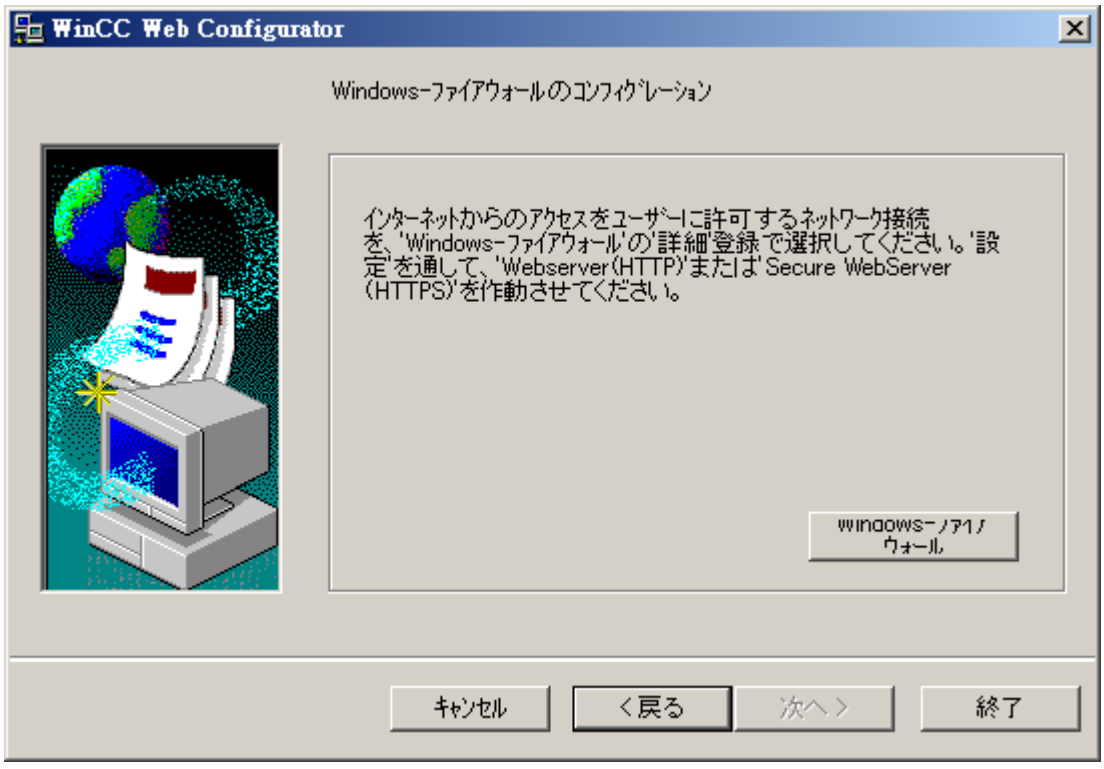
高度なセキュリティで、または別のポートに Windows ファイアウォールをセットアップする場合、ネットワーク管理者にご相談ください。

必要条件

- Web Configurator を使用してデフォルトの Web ページが作成されている。
- ファイアウォールが起動されている。
- ログオンしているユーザーが Windows 管理者権限を持っている。
- WebNavigator に HTTPS サービスを使用している場合、IIS で HTTPS サービスをセットアップする必要があります。
  詳細については、「IIS での HTTPS サービスのセットアップ (http://support.microsoft.com/kb/324069)」を参照してください。

デフォルトのポートの手順

1. [WinCC Web Configurator]の[Windows ファイアウォールの設定]ページへ切り替えます。
2. [Windows ファイアウォール]ボタンをクリックします。



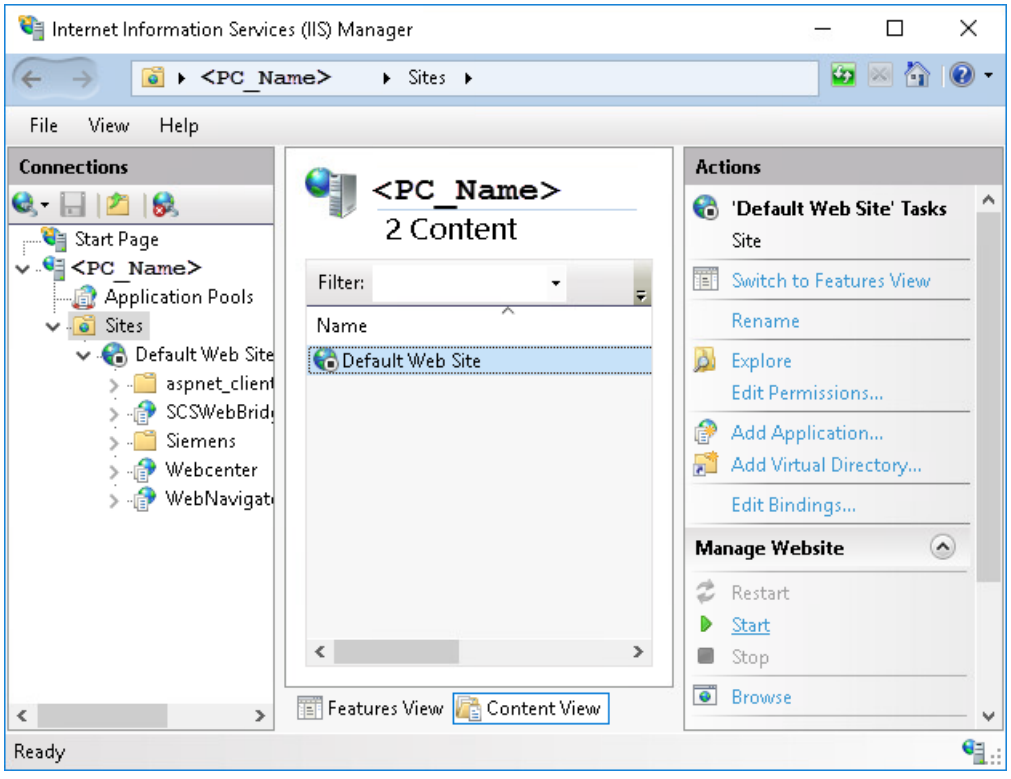
[Windows ファイアウォール]ダイアログが開きます。

3. [Windows ファイアウォールを介してアプリが通信することを許可する]をクリックします。
4. [World Wide Web サービス(HTTPS)を保護]を有効にします。
5. [OK]を押してすべての Windows ダイアログを閉じます。
6. Web Configurator の[終了]をクリックします。
   サーバー設定が完了します。

有効化した Web ページの確認

手順

1. [管理ツール]プログラムグループで、エントリ[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]を選択します。



2. [接続]フィールドのコンピュータ名をダブルクリックします。
3. エントリ[デフォルト Web サイト]を表示します。
4. Web ページが[開始]と表示されていることを確認します: 。
5. ステータス[停止]が表示されている場合、Web ページを起動します: 。
   Web サイトのコンテキストメニュー、あるいは[Web サイトの管理]の[アクション]で、[開始]コマンドを選択します。
6. [インターネット インフォメーション サービス (IIS)マネージャ]を閉じます。
   Web ページが有効になりました。

[ロードバランシング]ファンクションを使用した負荷分散

WebNavigator サーバーでのロードバランシング

概要

[ロードバランシング]ファンクションによって、WebNavigator クライアントを種々の WebNavigator サーバーに自動的に均等に配布することができます。すべての WebNavigator サーバーは、それぞれのサーバーライセンスを使用してロードバランシングに参加することができます。

WebNavigator サーバーは、ロードバランシングサーバーとして、あるいは単に参加 WebNavigator サーバーとして、役割を果たすことができます。

次いで、それぞれの WebNavigator サーバーは、[ロードバランシング設定]ダイアログで次のように設定されます。

- WebNavigator サーバーは、参加 WebNavigator サーバーのみになります。

- WebNavigator サーバーは、ロードバランシングサーバーです。

ロードバランシングサーバーは、自動的に参加 WebNavigator サーバーにもなります。

複数のロードバランシングサーバーを、参加 WebNavigator サーバーのグループで設定できます。

ロードバランシングシーケンス

WebNavigator クライアントのログイン後、ロードバランシングサーバーは、最少の負荷で参加 WebNavigator サーバーにクライアントを転送します。

クライアントは[LBConfig.xml]ファイルを使って割り付けられます。このファイルは[プロジェクトフォルダ/WebNavigator]で使用できます。

最小数のクライアントがロードバランシングサーバーにログオンしている場合、新しいクライアントはこのサーバーに接続されたままです。

参加 WebNavigator サーバーが故障した場合、この Webserver が再び使用可能になるまで、ログオンしているクライアントは再接続画面に表示されたままになります。

WebNavigator サーバーのアドレスは、ロードバランシングサーバーとして有効になっているかには関係しません。

ライセンシング

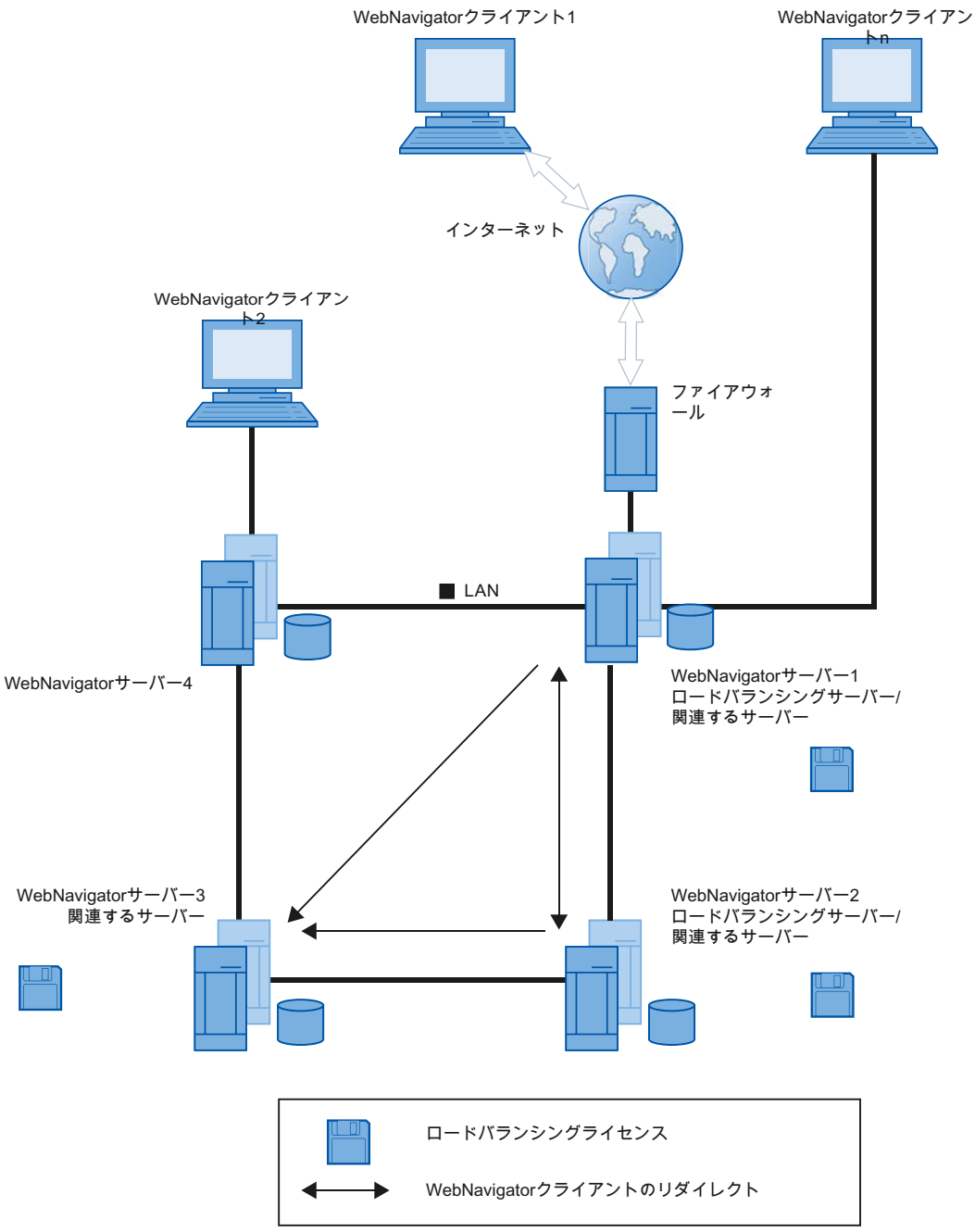
"ロードバランシング"ファンクションは、最大 32 の相互接続された WebNavigator サーバーをサポートします。

すべての参加 WebNavigator サーバーおよびロードバランシングサーバーには、"ロードバランシング"ライセンスが必要です。

WebNavigator クライアントには、ライセンスは不要です。

WinCC 冗長性を備えた WinCC コンピュータを使用する場合、ロードバランシングサーバーまたは参加 WebNavigator サーバーを、"WinCC 冗長性"ライセンスと"ロードバランシングステップアップ"ライセンスを使って操作できます。

例



図では、WebNavigator サーバー 1～3 が「ロードバランシング」に参加しています。"ロードバランシング"ライセンスが WebNavigator サーバーにインストールされています。

WebNavigator サーバー 1 と 2 はロードバランシングサーバーとして設定されています。

WebNavigator クライアント 1 が WebNavigator サーバー 1 または 2 にログオンすると、負荷が最小のサーバーに自動的に接続されます。

接続されている WebNavigator サーバーが故障すると、クライアント 1 は、残りの WebNavigator サーバーの 1 つに再接続されます。

WebNavigator サーバー 3 が「ロードバランシング」に参加しますが、ロードバランシングサーバーとしては設定されません。

高負荷時またはサーバー 1 やサーバー 2 が故障した場合、WebNavigator クライアントはサーバー 3 に再ルーティングできます。WebNavigator サーバー 3 が故障すると、アクティブな接続とは関係なくクライアントはサーバー 1 または 2 に再接続できません。

WebNavigator サーバー 4 は「ロードバランシング」に参加しません。このサーバーへの WebNavigator クライアント 2 のログオンは、このサーバーで負荷限界を超えるため、たぶん失敗します。WebNavigator サーバー 4 が故障すると、アクティブな接続とは関係なくクライアントは WebNavigator サーバー 1～3 の 1 つに再接続できません。

プロキシサーバを使用するための設定

プロキシサーバーを使用することにより、参加 WebNavigator サーバーまたはロードバランシングサーバーのターゲットアドレス"http://<サーバー名>"が"http://<サーバー名.プロキシ名>"に置き換えられる場合があります。

アドレス指定された WebNavigator サーバーが見つからなくなります。このため、他のすべての参加サーバーの、関係するサーバーでのターゲットアドレスを Internet Explorer に入力する必要があります。アドレスを[ツール] > [インターネットオプション] > [接続] > [LAN 設定] > [詳細]、[例外]フィールドに入力します。

下記も参照

["ロードバランシング"ファンクションの設定 (ページ 252)

["ロードバランシング"ファンクションの設定

はじめに

関連する WebNavigator サーバーおよびロードバランシングサーバーのそれぞれについて、ライセンスが必要です。

すべてのロードバランシングサーバーおよび関連する WebNavigator サーバーは、ロードバランシングサーバーのリストに含まれています。

リストされている関連するサーバーすべての順番は、すべてのロードバランシングサーバーで同一の必要があります。

問合わせ間隔をセットアップし、[ロードバランシングサーバー]ファンクションを有効にします。

WebNavigator クライアントでは、設定は不要です。

注記

関連する WebNavigator サーバーの同一のリスト

WebNavigator サーバーに障害が発生しても、一定の機能を確保できるように、ロードバランシングサーバーおよびすべての関連する WebNavigator サーバーのリストは、同一である必要があります。

移行したプロジェクトの設定

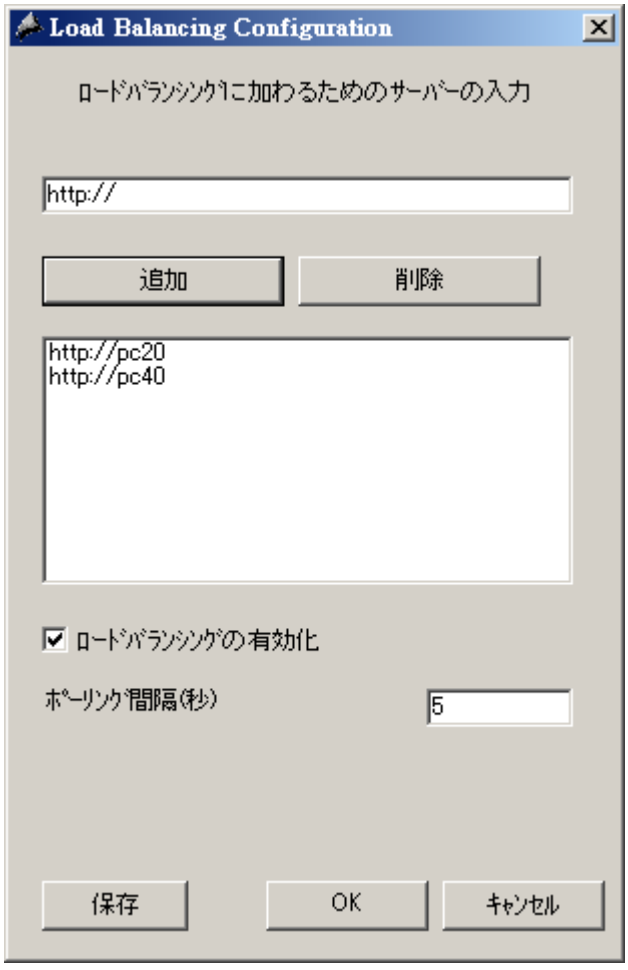
[ロードバランシング]設定は、それぞれ個別のプロジェクトに保存されます。移行したプロジェクトでは、設定を有効にするために、再度設定を保存する必要があります。設定ダイアログを起動し、[OK]をクリックして設定を確定します。

必要条件

- WinCC 基本システム、WebNavigator サーバー、および「ロードバランシング」ライセンスがインストールされている。
- 同じユーザーが、すべての関連する WebNavigator サーバーおよびロードバランシングサーバーで設定されている。
- WebNavigator のデフォルト Web ページが、WebNavigator サーバーで「スタンドアロン」として作成されている。

手順

1. WinCC エクスプローラで、[WebNavigator]ショートカットメニューから[ロードバランシング]コマンドを選択します。[ロードバランシング設定]ダイアログが開きます。
2. 一番上のフィールドで、「ロードバランシング」に関連する WebNavigator サーバーのアドレスを入力します。[追加]をクリックし、アドレスをサーバーのリストに含めます。
「ロードバランシング」に関連する WebNavigator サーバーごとに、このプロセスを繰り返します。ロードバランシングサーバーの名前をリストに付加します。
いつでもリストからサーバー名を削除できます。リストから名前を選択して、[削除]をクリックします。



3. [ロードバランシングの有効化]チェックボックスを有効にし、ローカル WebNavigator サーバーをロードバランシングサーバーとして有効にします。
関連する WebNavigator サーバーのチェックボックスは、無効のままです。
チェックボックスをクリアしても、サーバーのリストは保持されます。
4. [ポーリング間隔]フィールドで、他の関連する WebNavigator サーバーをポーリングする時間間隔を選択します。時間間隔は、ロードバランシングサーバーのみに関連します。
5. [保存]をクリックします。

6. [OK]を押してダイアログを閉じます。
7. 関連する WebNavigator サーバーおよびロードバランシングサーバーすべてについて、この手順を繰り返します。
   WinCC ランタイムの再起動後に変更が有効になります。

2.2.3.4 WinCC 基本システムとの相違

機能制限

はじめに

WebNavigator には、WinCC 基本システムと比べて、特定の機能制限があります。このため、WinCC プロジェクトのこれらの制限を確認し、必要に応じてプロジェクトの設定を調整する必要があります。

概要

プロジェクトでサポートされていないファンクションを使用すると、対応するメッセージがランタイムで生成され、この事実に注意を促します。

以下の制限が、WebNavigator クライアントに適用されます。

- クライアントは、実行中の WinCC プロジェクトのビューのみを提供します。
  WinCC サーバーのプロジェクトを設定することはできません。
- マニュアルで明確に指定されている場合、WinCC オプションと WinCC アドオンのみを使用できます。
- すべての「ランタイム API ファンクション」がサポートされるわけではありません。サポートされるファンクションのリストは、[サポートされるファンクション (ページ 291)]にあります。
- 基本プロセスコントロールとの組み合わせでの制限については、WinCC 情報システムの「プロセスコントロールのオプション > プロセスコントロールシステムのオプションの概要 > PCS 7 環境での設定 > Web クライアント」を参照してください。
- 操作および監視できるのは、メッセージアーカイブとメッセージシステムのみです。
- WinCC V7 以前の WinCC コントロール:プロセス値の表示では、アーカイブやタグの選択を変更できません。選択のボタンが無効です。

- WinCC AlarmControl:メッセージの[アクションのトリガ]プロパティはサポートされません。
  メッセージブロックを正しく表示するには、[プロジェクト設定の適用]オプションを有効にしないでください。このオプションは、[WinCC アラームコントロール]プロパティダイアログの[メッセージブロック]タブにあります。
- WinCC アラームコントロール:ユーザー定義された選択が作成されていると、[選択編集の認証]はサポートされません。
- WinCC で設定されているホットキーは、サポートされません。
  タブキーを使用するオペレータコントロールはサポートされます。
- WinCC 共有ライブラリの[グローバルライブラリ/操作/操作パネル]フォルダにある以下のオブジェクトはサポートされません。
  - 1_Slider
  - 2_Slider
  - 4_Slider
- プロセス画像または参照グラフィックの名前の国固有の特殊文字は、インターネットでサポートされません。
- プロセス画像のオーバーラップロックはサポートされません。
- 拡張ズームファンクションを無効にすることはできません。拡張ズームファンクションを使用しない場合は、ホイールマウスをクライアントで、[自動スクロール]設定で使用しないでください。
- 冗長化スイッチがサポートされているのは、専用 Web サーバー上のみです。

下記も参照

[ハードコピー]ファンクションの使用 (ページ 274)

スクリプトの使用

WebNavigator 専用で実行されるスクリプト

スクリプトを WebNavigator のみに実行するには、スクリプトでプリプロセッサ定義「RUN_ON_WEBNAVIGATOR」を使用します。たとえば、

```
void OnOpenPicture (char* lpszPictureName, char* lpszObjectName,
char* lpszPropertyName)
{
#ifdef RUN_ON_WEBNAVIGATOR
// WebNavigator でのみ実行されるコードをここに入力
```

```
#else
// WinCC 基本システムでのみ実行されるコードをここに入力
#endif
}
```

Visual Basic スクリプト

VBS を使用する場合、サポートされないファンクションによる制限が少しだけあります。これらのファンクションのリストは、[サポートされないファンクション (ページ 304)]にあります。

グローバルスクリプト

このスクリプトは、サーバープロジェクトの WinCC サーバーで設定します。

グローバルスクリプトは、WebNavigator クライアントでは実行できません。 サーバー上のグローバルスクリプトはサポートされています。

ダイナミックウィザードを使用して生成したスクリプトには、サポートされないファンクションを含めることができないので、WebNavigator クライアントでは実行できません。 必要に応じて、スクリプトを確認して、修正します。 たとえば、以下の条件を追加します。 "#ifdef RUN_ON_WEBNAVIGATOR"。

トリガタグ付きスクリプト

WebNavigator は、「1 秒」の周期的間隔でタグを照会します。 トリガタグ[変更時]の更新サイクルも 1 秒です。

このため、AS と WinCC サーバーの間の通信負荷が増大することがあります。 AS と WinCC サーバーの間の通信が負荷の限界で行われている場合は、負荷の増大を考慮します。

タグトリガスクリプトが文字列関数を使用して生成された名前の追加タグを要求する場合、たとえば不明なタグを同期形式のみで読み取ることができます。 選択回数の増加を避けるには、使用するタグ名をトリガリストに入力します。

画像を選択および選択解除するスクリプト

基本システムとは対照的に、WebNavigator を使用すると、画像は非同期モードでダウンロードされます。 画像の変更を伴うスクリプトを使用する場合、この事実を考慮します。

画像ウィンドウの画像の選択がスクリプト内で開始される場合、その後同じスクリプト内の新しい画像のオブジェクトにアクセスできません。 この時点では、画像はまだロードされていません。 スクリプトおよび Internet Explorer が待機しているので、「Sleep(2000)」

などの時間遅れは役に立ちません。 画像がロードされた後にトリガされる[OpenPicture]ファンクションの次のスクリプトエレメントを、実行する必要があります。

画像の選択解除に続くスクリプトで呼び出されるその他のファンクションは、エラー付きで実行されるか、あるいはまったく実行されません。 画像の選択解除によって、画像のコンテキストは失われます。

同期スクリプト関数

同期スクリプト関数はシステムに高い負荷を与えます。

このため、周期スクリプトでの[SetTagxxx]ファンクションの使用を控える必要があります。 たとえば 1 秒またはそれ以下の高速サイクルで、多くのクライアントが[SetTagxxx]ファンクションを呼び出すと、サーバーが過負荷になります。

以下のスクリプト関数や呼び出しは、サーバーへ同期転送されることに注意してください。

- 同期モードでタグを書き込み、結果を待つファンクション（たとえば「xxxWait」）。
- C-API 呼び出し

これらのスクリプト関数や呼び出しを頻繁に使用すると、WebNavigator クライアントのパフォーマンスにマイナスの影響を与えます。 インターネット接続の場合、これらの呼び出しの期間は秒の範囲になることすらあります。

クライアントとサーバーの間ではデータトラフィックが発生しないので、表示される画像のオブジェクトを操作するスクリプト関数では、このようなことはありません。

画像イン画像法と周期スクリプト

画像で多くの同期呼び出しがあると、たとえば以下の場合にパフォーマンスが低下することがあります。

- 画像ウィンドウで、11 以上のウィンドウが設定されている。
- [SetTagxxx]などの同期呼び出しがある周期スクリプトを、ウィンドウで使用する。

特定のスクリプトの実行が、タイムアウトによって失敗することがあります。

以下のエレメントは、ウィンドウでサポートされます。

- 周期スクリプトがある 16 のウィンドウ。
- 周期スクリプトがない 31 のウィンドウ。

タグの使用

コンピュータローカルタグ

WebNavigator クライアントは、以下の制限付きで、コンピュータローカルタグをサポートします。

- 専用 Web サーバーを使用する場合、クライアントで使用できるのはそのサーバーのコンピュータローカルタグのみです。 クライアントのタグは、独自の値を持つことはできません。
- 下位の WinCC サーバーのコンピュータローカルタグは、クライアントで独自の値を持つことはできません。
- コンピュータローカルテキストタグの開始値は、タグ名で使用できる文字だけを含むことができます。 たとえば、テキストタグの開始値にコロンが含まれている場合、そのタグはクライアントで認識されません。
- ユーザーアーカイブを使用する場合、コンピュータローカルタグはクライアントでサポートされません。その理由は、ユーザーアーカイブはサーバーのローカルタグだけを認識し、WebNavigator クライアントのタグは認識しないからです。

画像ローカルスクリプトタグの定義

画像固有のデータがスクリプトに保存されている場合、WebNavigator に WinCC タグを使用しないでください。

スクリプトでのデータの読み取りや書き込みにより、常にサーバーへのデータトラフィックを発生します。 これが、通信に負荷を与えます。

画像固有のデータは、以下のように保存できます。

- 「非表示」グラフィックオブジェクトを、そのプロパティを画像固有のタグとして使用できるように、設定します。 保存された値が変更されると、アクションがオブジェクトのプロパティで実行されます。
- たとえば、非表示の「静的テキスト」オブジェクトが作成されています。 「テキスト」プロパティはテキストの保存に使用され、色プロパティは色の保存に使用されます。 プロパティはスクリプトを使用して読み取りおよび/または書き込みされ、サーバーとの間での往復を必要とせずに画像ステータスに影響します。

2.2.4 WinCC プロジェクトの操作

2.2.4.1 WebNavigator クライアントの全般プロパティ

接続障害後の自動接続セットアップ

WebNavigator クライアントと WebNavigator サーバーの間の通信が機能しなくなると、メッセージはクライアントのユーザーに出力されます。

クライアントは、接続の自動確立を実行します。 接続が正常にセットアップされると、WinCC プロジェクトの開始ページが選択されます。 Web Configurator で接続のセットアップを試みる時間間隔を指定します。

クライアント/サーバー間の通信でファイアウォールまたはプロキシサーバーを使用する場合、クライアントのログオンは正常に実行されるが、自動再接続は機能しないことがあります。 再接続を試みる場合、クライアントは「ICMP Ping」を使用しますが、これはファイアウォールまたはプロキシサーバーによってブロックされることがあります。 この場合、再接続するために、クライアントによる「ICMP-Ping」の使用を無効にします。 [再接続] > [ICMP Ping の無効化]の設定は、Web Navigation インターフェースの[設定] > [WebClient のプロパティ]で、または[ClientConfig.asp]ページ経由で使用できます。

アドレスバーの内容

解釈できず、ユーザーに関係しない文字列が、Internet Explorer のアドレスバーに表示されます。 たとえば、[loadbalancing=no]というエントリが表示されることがありますが、これはロードバランシングに関連するサーバーのステータス表示ではありません。

ログオンする際にアドレスバーに文字を入力して、サーバー名とポートを確認します。

Internet Explorer に直接入力することによるログイン

Internet Explorer 用 Microsoft セキュリティパッチでは、アドレスバーにユーザー名とパスワードを入力することによる WebNavigator クライアントへのログインを、現在では阻止しています。

進行状況バーの[自動入力]エントリおよびリンク

Internet Explorer では、アドレスバーのエントリが進行状況バーのリンクとして表示されるか、または後続入力の[自動入力]エントリとして表示されます。 ただし、WebNavigator クライアントがロードバランシングを行っている WebNavigator サーバーにログオンしている場合は、これらの機能を確認なしで使用することはできません。

ロードバランシングを行っているサーバーに最初にログインした際に、クライアントはルートが二次サーバーに切り替わります。 Internet Explorer は進行状況バーに、あるいは[自動入力]エントリとして、二次サーバーのアドレスを表示します。 進行状況バーまたは[自動入力]エントリのリンクは、次にクライアントがログインする時に、確認なしで適用されます。 クライアントは二次サーバーにログオンします。

複数のパワーユーザーがいる WebNavigator クライアント

パワーユーザーが WebNavigator クライアントの新しいバージョンをコンピュータにインストールすると、このコンピュータのすべての他のパワーユーザーも、新しいバージョンにアップグレードする必要があります。

パワーユーザーが使用するバージョンの不一致は、問題の原因になることがあります。

これは、古いバージョンの WebNavigator をホストしているサーバーにパワーユーザーが接続する場合にも当てはまります。

ランタイムの持続性

画像およびオブジェクトの持続性データは、どの場合も、WebNavigator クライアントに保存されます。 サーバーで、同じ名前の画像やオブジェクトを含む複数のプロジェクトを作業する場合、以下の点に注意します。

ランタイムでプロジェクト画像の持続性を作成する場合、その持続性は他のプロジェクトの同じ名前の画像にも適用されます。

専用 Web サーバーでサーバー画像に対して定義した持続性の設定は、それぞれの WebNavigator クライアントに適用されます。

WinCC コントロールの持続性

WinCC V7 またはそれ以降のコントロールの場合、[オンラインコンフィグレーション]タブのコントロールプロパティの設定をリセットします。

WinCC V7 より前のコントロールの持続性ファイルは、WebNavigator クライアントの [Documents and Settings/User/Application Data/Siemens/SIEMENS.WINCC/WebNavigator/Client]フォルダにあります。

ランタイム持続性を有効にしたコントロールの設定を元に戻すには、以下のオプションがあります。

- コントロールの個別の設定をリセットする。
- ファイルを削除する。

テキストライブラリのテキストの変更

ランタイムでテキストライブラリのテキストを変更しても、WebNavigator クライアントは自動的に検出しません。 表示されている画像を更新するには、[更新]アイコンまたは[F5]キーを使用して Internet Explorer の画像を再ロードする必要があります。

テキスト参照としての言語に依存するテキスト

テキスト参照を経由した言語に依存するテキストは、[ユーザー管理者]エディタで現在設定されている言語で、WebNavigator クライアントに表示されます。

WinCC スライダコントロール

WinCC スライダコントロールを使用する場合は、[Continuous_Update]プロパティを[いいえ]に設定します。 このプロパティを[はい]に設定すると、位置がごくわずか変わるだけでイベントトリガが生成されます。 この設定により、WebNavigator クライアントに大きな通信負荷が発生します。

ProTool/Pro ソフトウェアの削除

WebNavigator クライアントで ProTool/Pro ソフトウェアを削除すると、HMI シンボルライブラリのコントロールの登録が取り消されます。 コントロールへのアクセスを回復するには、WebNavigator クライアントを再インストールします。

WebNavigator クライアントから WinCC flexible Sm@rt サーバーへのアクセス

WebNavigator クライアントは、Web Navigation インターフェースを使用して[サーバーの変更]ファンクションを呼び出し、WinCC flexible Sm@rt サーバーにアクセスすることができます。

2.2.4.2 WebNavigator クライアントのプロセス画像

専用 Web サーバーでの画像の変更

サーバー接頭辞が指定された画像を専用 Web サーバーにロードすると、その後、サーバー接頭辞が指定されていないローカル WinCC プロジェクトの画像を表示できません。

ローカルクライアントプロジェクトの画像を表示するには、アドレス指定に、たとえば「@local::picture123.pdl」のように、サーバー接頭辞「@local」を使用します。

実行すると、OpenPicture()関数により、専用 Web サーバーで実行中のオブジェクトの高レベル画像が開きます。

画像でのプロジェクト関数

開始画像がロードされた後にプロジェクトを初めて選択すると、プロジェクト関数がロードされます。

この理由から、開始画像の初期表示とオペレータアクションの実行の間に遅延が生じることがあります。画像は表示されますが、約 1 秒の遅延が経過するまで操作できません。

WebNavigator クライアントの画像ウィンドウ

画像ウィンドウの画像の名前を変更すると、画像ウィンドウの[オブジェクトの変更]イベントが、WebNavigator クライアントで数回実行されます。

WinCC Basic System では、このイベントが実行されるのは 1 回だけです。

インターネット接続の非同期操作原理により、画像ウィンドウオブジェクトの複数の更新がトリガされる場合があるため、クライアントでのこの応答は、システムに関連しています。この応答は、機能性には関係ありません。

WebNavigator クライアントの WinCC Web ブラウザ OCX

- Internet Explorer の[インターネットオプション]の[セキュリティ]タブで、[ActiveX コントロールを許可]チェックボックスを有効にする必要があります。
- WinCC Web ブラウザを使用して WebNavigator クライアントでプロセス画像のリンクを選択すると、リンクされたページの初期表示の間、[戻る]ボタンが機能しません。そのページを 2 度目に呼び出すまで、この機能は正しく実行されません。プロセス画像の変更後も、間違った動作が続きます。
- WinCC Web ブラウザは、静的な Web コンテンツまたは CHM ドキュメントをプロセス画像に表示します。スクリプト機能によるコンテンツはサポートされていません。
- WinCC クライアントでショートカットメニューにアクセスしないように、WinCC Web ブラウザで右マウスボタンを無効する場合は、以下の手順を実行します。
  - Microsoft "Group Policy Object Editor" (Gpedit.msc)を使用します。
  - パス"\Windows Components\Internet Explorer\Browser menus"を選択し、ショートカットメニューを"Disabled"に設定します。

WinCC UserArchiveControl を使用する場合のパフォーマンス

ユーザーアーカイブを変更すると、表示されている WinCC UserArchiveControl の更新がトリガされます。以下の要因が、WebNavigator クライアントの WinCC UserArchiveControls のプロセス画像のパフォーマンスに影響します。

- ユーザーアーカイブに同時にアクセスする WinCC UserArchiveControls の数を、最小限度に減らします。
- ユーザーアーカイブの周期的変更の数は、必要以上に大きく構成しないでください。

2.2.4.3 Internet Explorer での WinCC プロジェクトの操作

Internet Explorer での WinCC プロジェクトの操作

必要条件

- サーバーに
  - WebNavigator サーバーがインストールされている。
  - 「WinCC WebNavigator」ライセンスがインストールされている。
  - 必要に応じて、リモート通信が有効にされている。[1)]
  - WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
  - WebNavigator クライアントのユーザーが、WinCC ユーザー管理者に作成されている。
  - ユーザー管理者に、ユーザーの開始画像が指定されている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムであること。
- クライアントに
  - WebNavigator クライアントがインストールされている。
  - Internet Explorer がインストールされている。
  - 必要に応じて、リモート通信が有効にされている。[1)]

1) WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、[SIMATIC Shell]ダイアログでリモート通信が有効にされる必要があります。

手順

1. Internet Explorer のアドレスバーへ移動し、WebNavigator サーバーのアドレス[http://www.<サーバー名>]を入力します。
   入力を確定します。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
   入力を確定します。

注記

パスワードは、大文字と小文字を区別します。

結果

デフォルトの Web ページが表示されます。

表示は、以下のように設定によって異なります。

- デフォルトの Web ページの設定が[WebClient.asp]の場合、WebNavigator クライアントは、ユーザーに対して指定されている開始画像で起動します。
- デフォルトの Web ページの設定が[MainControl.asp]の場合、WebNavigator クライアントは、ユーザーに対して指定されている開始画像と WinCC Web ナビゲーションインターフェースで起動します。

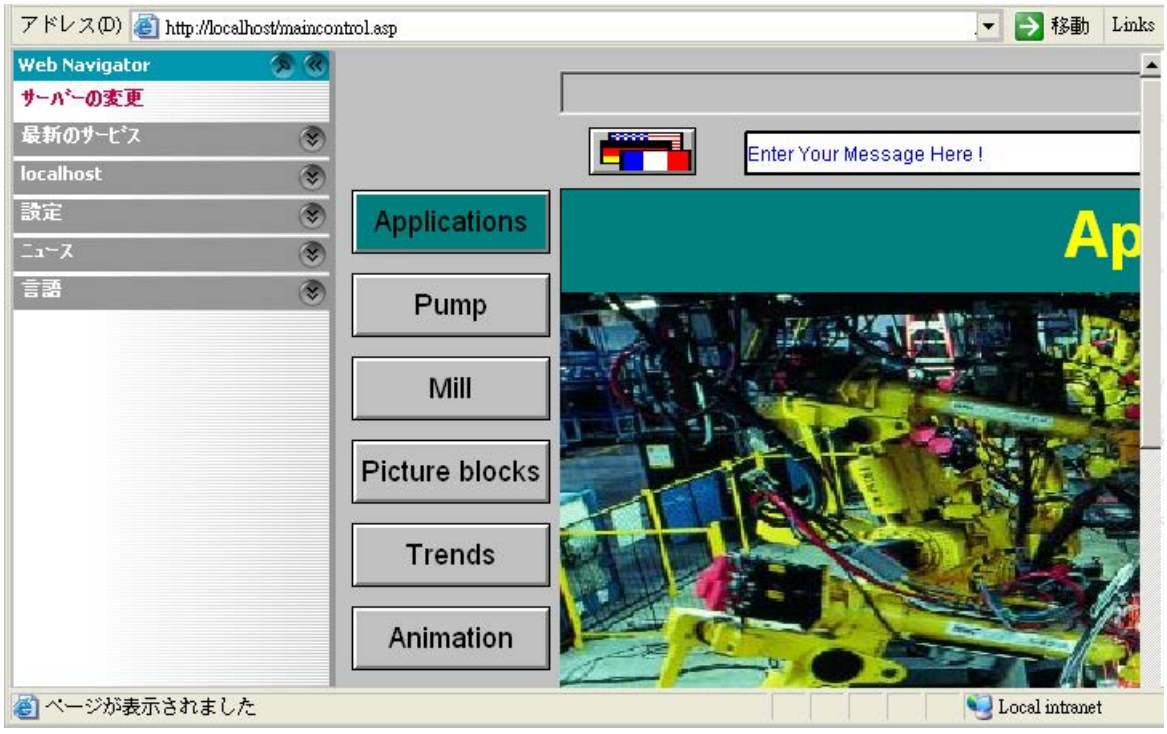
下記も参照

WebNavigator クライアントのユーザーの管理 (ページ 235)

WinCC Web ナビゲーションインターフェースの操作

WinCC Web Navigation インターフェースのメニュー

「MainControl.asp」がデフォルト Web ページとして設定されている場合、WebNavigator クライアントは、開始画像に加えて、WinCC Web Navigation インターフェースを表示します。



Web Navigation インターフェースは、そのメニューで以下の様々な Web ファンクションのコンパイルを提供します。

- [サーバーの変更]:別の WebNavigator サーバーに変更します。
- [使用したサーバー]:以前に使用した Web サーバーに移動します。
- 「<現在のサーバーの名前>」(例:「MyProject」または「localhost」):
  - プロセス画像:現在の WebNavigator サーバーの表示または画像のナビゲーション。
  - 診断:WinCC プロジェクトを診断する[Status.html]、および WebNavigator サーバーへの接続。
  - 追加ツール:ユーザーが拡張可能です(たとえば[DataMonitor])。
  - ダウンロード領域:WinCC Plug-In Builder を使用して作成された WebNavigator およびプラグインの拡張。
    プラグインは、WebNavigator サーバーのインストールフォルダの[WebNavigator/Server/Web/Install/Custom]にあります。

- [設定]:WebNavigator クライアントの設定(たとえばプロセス画像のサイズ)、画面キーボードの有効化。
  設定済みの印刷ジョブを使用して、WinCC コントロールから印刷できるプリンタを指定します。
  または、「RPTJobPrint」機能を使用して、印刷ジョブを印刷することができます。
  「RPTJobPreview」経由のプレビューは、Web クライアントでは不可能です。
- [現在]:「SIMATIC HMI」、「WinCC」、「WinCC flexible」などの Web ページへのリンク。
- [言語]:WinCC Web Navigation インターフェースに対する言語変更機能
  デフォルトでは 5 ヶ国語を使用できます。言語オプションは、[Menu.xml]ファイルでカスタマイズできます。
  言語は、WebNavigator サーバーの「_languages / <language_identifier>」サブフォルダに、CSV ファイル形式で保存されます。言語を追加するには、[mainControl.asp]ファイルの言語ファイルを参照してください。

WinCC Web ナビゲーションインターフェイスの拡張

はじめに

エントリとファンクションを追加することによって、Web ナビゲーションインターフェイスのメニューを拡張できます。

拡張は XML ファイルで設定します。 このファイルは、WebNavigator サーバーの[_custom_data]サブフォルダに保存されます。 拡張子「XML」のファイルはすべてこのフォルダで処理されるので、ファイルには任意の選択した名前を付けることができます。

例

以下の例では、[My Private Menu]サブメニューを[サーバー]メニューに追加します。 このサブメニューは[My Link]、[Relative Link]および[Run Script]の 3 つのエントリで構成されます。

コード	説明
<?xml version="1.0"?>	バージョン情報
<menu hook-on="server">	「menu hook-on」コマンドを使用して、Web ナビゲーションインターフェイスの[現在のサーバー]メニューを定義する名前「server」を参照します。
<caption><lng>My Private Menu</lng></caption>	空のエントリを定義します。

コード	説明
<command> <caption>My Link</caption> <open-url target="right">http://www.msdn.com</open-url> </command>	直接リンクで[My Link]エントリを定義します。
<command> <caption>Relative Link</caption> <open-url target="right">project.asp</open-url> </command>	相対リンクで[Relative Link]エントリを定義します。
<command> <caption>Run Script</caption> <run-script>alert("Hallo !")</run-script> </command>	スクリプトの起動に使用する[Run Script]エントリを定義します。
</menu>	メニューの終わりです。

2.2.4.4 WinCCViewerRT を使用した WinCC プロジェクトの操作

WinCCViewerRT の設定

はじめに

WinCCViewerRT は、WinCC プロジェクトを表示するためのプログラムです。

WinCCViewerRT を、WebNavigator サーバーおよびグラフィックランタイムで動作するように、設定できます。

プロジェクト設定を使用

[プロジェクト設定を使用]オプションを選択すると、次の設定が WebNavigator サーバーにより適用されます。

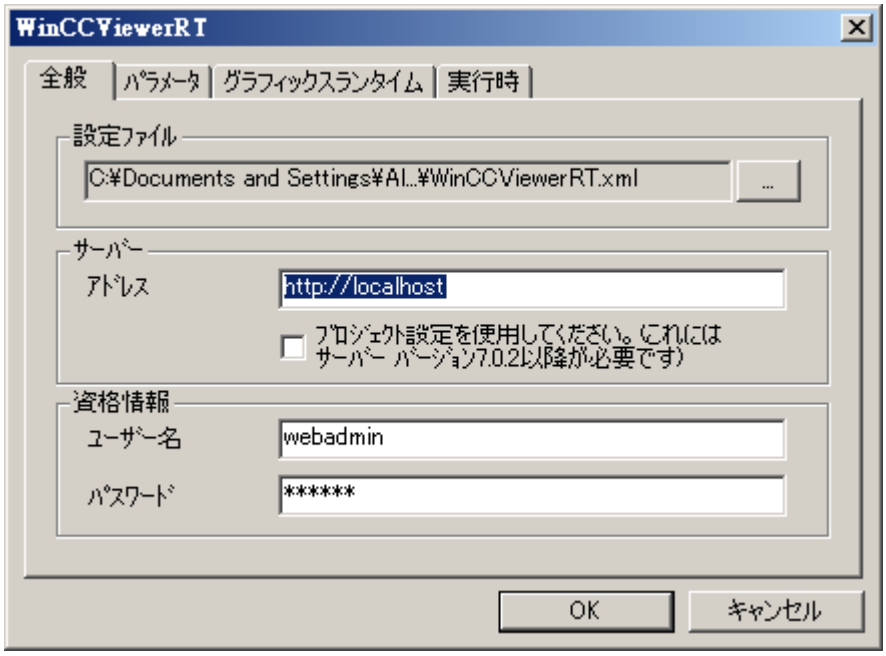
- ユーザー管理者:
  - 自動ログオフ
- コンピュータプロパティ:
  - ランタイム言語
  - ランタイムのデフォルト言語
  - 開始画像
  - メニューとツールバーの初期設定
  - ハードウェアアクセラレーテッドグラフィック表現(Direct2D):

必要条件

- サーバーに
  - WebNavigator サーバーがインストールされている。
  - WinCC/WebNavigator ライセンスがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
- クライアントに
  - WebNavigator クライアントがインストールされている。

手順

1. [Webnavigator\Client\bin]インストールフォルダで、リンク[WinCCViewerRT.exe]をダブルクリックします。
   WinCCViewerRT を再設定すると、[設定]ダイアログが開きます。
   WinCCViewerRT がすでにセットアップされている場合、WinCCViewerRT が開きます。
   <Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを使用して、WinCCViewerRT の設定ダイアログを開きます。



2. ログインデータを[全般]タブで入力します。
   – サーバーアドレス:"http://<Servername>"または"http://<IP-Adresse>"
   – プロジェクト設定を使用:WebNavigator サーバーの設定を適用
   – ユーザー名とパスワード(ログインダイアログにデフォルトユーザーを指定する場合)。
3. [パラメータ]タブでランタイム言語を指定します。
   必要であれば、ユーザーが他のプログラムに切り替えるキーの組み合わせを無効にします。
   必要な場合、WinCCViewerRT 設定ダイアログを開くために使用する事前に設定されている<Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを、変更できます。
   ユーザーがログオフでき、新規ユーザーがログオンできるキーの組み合わせを定義します。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが[全般]タブで設定されていない場合のみ、使用できます。

4. [グラフィックランタイム]タブで、WinCC Runtime プロパティを指定します:
   - 開始画像
   - ユーザー定義のメニューおよびツールバーの設定ファイル
   - ウィンドウ属性
   - 容認されないユーザー操作

5. [ランタイム]タブで、追加のユーザー操作を指定します:
   - スクリーンキーボードの有効化
   - スクリーンキーボードを介してタスクマネージャまたはオペレーティングシステムに切り替えることができるようにする<Ctrl+Alt+Del>キーの組み合わせ。
   - 自動ログオフ設定
   - グラフィックス表示をスピードアップする Direct2D の実行。
   - 設定済みの印刷ジョブを使用して WinCC コントロールから印刷できるプリンタの指定。
     または、「RPTJobPrint」機能を使用して、印刷ジョブを印刷することができます。「RPTJobPreview」経由のプレビューは、Web クライアントでは不可能です。
6. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。

結果

WinCCViewerRT が設定されます。

WebNavigator サーバーへの接続は、ダイアログを閉じた後にセットアップされます。

設定は、"WinCCViewerRT.xml"設定ファイルに保存されます。設定ファイルの設定は、WinCCViewerRT の次の起動で使用されます。

WinCCViewerRT が、WinCC からのユーザーインターフェース言語を適用します。

設定ファイルは、オペレーティングシステムに応じて次のフォルダに保存されます。

- <User>\AppData\LocalLow\Siemens\SIMATIC.WinCC\WebNavigator\Client

ファイル名を、たとえば「User1.xml」に変更できます。

また、ユーザー固有の設定ファイル(たとえば"WinCCViewerRT.exe User1.xml")を使用してコマンドラインによって WinCCViewerRT を起動することもできます。この手順により、ログオンしているユーザーによって異なる設定ができるようになります。

"WinCCViewerRT.xml"を削除または名前変更すると、WinCCViewerRT 設定ダイアログが起動時に開きます。WinCCViewerRT を再設定するか、または他の設定ファイルを選択します。

注記

WinCCViewerRT は、ショートカットを無効にするか、または[閉じる]ボタンを非表示にすると、スクリプト関数によってのみ閉じることができます。
C スクリプトの関数:DeactivateRTProject、VBScript の関数:HMIRuntime.Stop。

WinCC プロジェクトの操作

必要条件

- サーバーに
  - WebNavigator サーバーがインストールされている。
  - 「WinCC WebNavigator」ライセンスがインストールされている。
  - 必要に応じて、リモート通信が有効にされている。[1)]
  - WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
  - ユーザーが WinCC で作成されている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムであること。
- クライアントに
  - WinCCViewerRT が設定されている。
  - 必要に応じて、リモート通信が有効にされている。[1)]

1) WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、[SIMATIC Shell]ダイアログでリモート通信が有効にされる必要があります。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ「WinCCViewerRT」を選択します。
2. WebNavigator サーバーにログオンします:
   – ユーザー名とパスワードが"WinCCViewerRT"設定ダイアログに事前に設定されている場合、ログインダイアログは表示されません。
     保存されているログインデータで自動的にログオンされます。
   – ユーザー名とパスワードが"WinCCViewerRT"設定ダイアログに設定されていない場合、ログインダイアログが表示されます。
     WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
     パスワードは、大文字と小文字を区別します。
     [OK]をクリックします。
3. ユーザーを変更するには、"WinCCViewerRT"のログイン/ログオフ用の指定されたキーの組み合わせを使用します。
   前のユーザーがログオフされます。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが設定されていない場合のみ使用できます。
4. ログインダイアログで、新しい WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
   パスワードは、大文字と小文字を区別します。
   [OK]をクリックします。

結果

WinCCViewerRT が、有効な WinCC プロジェクトに自動的に接続されます。ユーザー用に設定された開始画像が表示されます。

ユーザーは、オーソリゼーションに応じて、プロジェクトを操作またはモニタします。ユーザー管理でシステムオーソリゼーション番号 1002「Web Access - monitoring only(モニタ限定)」が割り付けられているユーザーは、WinCC プロジェクトをモニタできるだけです。

「表示専用カーソル」は、プロセス関連の操作ができないことを示します。

WinCC OnlineTrendControl の[プロパティ]ダイアログを開くような、特定の操作はできます。

必要であれば、ユーザー自身のカーソルアイコンを、「表示専用カーソル」として使用することもできます。詳細については、「ランタイム設定の設定 (ページ 228)」を参照してください。

<F5>キーは WinCCViewerRT の再選択をトリガします。

2.2.4.5 [ハードコピー]ファンクションの使用

はじめに

WebNavigator クライアントで、現在の表示をデフォルトのプリンタに出力できます。

設定可能なキーの組み合わせまたはスクリプトを使用して、スクリーンショットを生成できます。キーの組み合わせの定義、または印刷する画面エリアを、たとえばコマンドラインを使用して入力できます。

ランタイムデータを印刷ジョブで印刷するには、WinCC コントロールのボタンまたは「RPTJobPrint」機能を使用します。

注記

Web クライアントの制限された機能

Web クライアントの WinCC コントロールツールバーの[印刷]ボタンを使用して、[ハードコピー]機能を実行します。このボタンをクリックすると、Web サーバーのスクリーンショットが作成されます。

[印刷]ボタンの代わりに、「PrtScr.exe」アプリケーションを使用します。

ハードコピーアプリケーションの起動

たとえばコマンドラインでの入力やユーザー定義のファンクションによって、WebNavigator クライアントで[PrtScr.exe]アプリケーションを起動します。アプリケーションは、[...\Common Files\Siemens\BIN]フォルダに保存されています。

パラメータは、起動時に 1 回だけ転送されます。パラメータは、スペース文字で区切ります。大文字、小文字の区別に注意してください。

アプリケーションを終了してから、パラメータを編集します。パラメータを編集して、アプリケーションを再起動します。

以下のパラメータによって、スクリーンショットを印刷する手順が指定されます。

パラメータ	ファンクション
パラメータなし	WebNavigator クライアントでは使用できません。 代わりに「-infinit」を使用します。例:PrtScr.exe –infinit –hotkey="<ALT>+p"
-end	PrtScr.exe のアクティブインスタンスが終了します。

パラメータ	ファンクション
-hardcopy	PrtScr.exe を起動します。現在のビューのスクリーンショットを作成します。次に、ハードコピーファンクションは、プリンタへの出力のキーの組み合わせを待ちます。これを WebNavigator クライアントで使用する場合、組み合わせるのは[infinit]および[hotkey]パラメータだけです。
-nomcp	PrtScr.exe を起動します。スクリーンショットを作成し、現在のビューを印刷します。その後、PrtScr.exe が終了します。
-C= left;top;right;bottom	PrtScr.exe を起動します。ピクセルで指定された画面セクションのスクリーンショットが生成され、現在のビューが印刷されます。その後、PrtScr.exe が終了します。[-C=]の後には、必ずスペース文字を続けます。例:PrtScr.exe -C= 50;50;100;100
-l	横長フォーマットで印刷します。 パラメータは、どのパラメータの組み合わせにも追加できます。
-infinit	WinCC がないシステムで PrtScr.exe を起動するパラメータとして機能します。このパラメータは、必ず「hotkey」と組み合わせて使用します。
-hotkey="x"	プリンタへの出力を開始するキーの組み合わせを指定します。 以下の文字および組み合わせを使用できます。 <ALT>、<SHIFT>、<CTRL> + {0-9, A-Z, 0xXX} パラメータは大文字で書き込みます。<ALT>、<SHIFT>、および<CTRL>キーを組み合わせることはできますが、必須ではありません。 16 進入力[0xXX]を使用して、[XX]で「仮想キーコード」を指定することができます。「仮想キーコード」の詳細については、MSDN ライブラリを参照してください。 例: キーの組み合わせ「CTRL」と P: -hotkey=「<CTRL>+P」 印刷ボタン(「Print-Screen」): -hotkey=「0x2C」 キーの組み合わせ「ALT」と「Print-Screen」: -hotkey=「<ALT>+0x2C」

パラメータ組み合わせの例

キーの組み合わせによるハードコピーファンクションの起動	
PrtScr.exe –infinit –hotkey="<ALT>+p" 以下の文字列をコマンドラインで入力します。 "C:\Program Files\Common Files\Siemens\BIN\PrtScr.exe" –infinit –hotkey="<ALT>+p"	PrtScr.exe を起動して、[<ALT>+p]キーの組み合わせの入力を待ちます。キーの組み合わせを押すと、現在の画面表示がスクリーンショットとして印刷されます。
PrtScr.exe –infinit –hotkey="<ALT>+p" –C= 10;10;100;100	PrtScr.exe を起動して、[<ALT>+p]キーの組み合わせの入力を待ちます。キーの組み合わせを押すと、ピクセルで定義されている画面セクションだけが、スクリーンショットとして印刷されます。

スクリプトによるハードコピーファンクションの起動	
PrtScr.exe –nomcp	PrtScr.exe を起動します。スクリーンショットを作成し、現在のビューを印刷します。その後、PrtScr.exe が終了します。
PrtScr.exe –C= 10;10;100;100	PrtScr.exe を起動します。ピクセルで指定されたセクションのスクリーンショットが生成され、現在のビューが印刷されます。その後、PrtScr.exe が終了します。

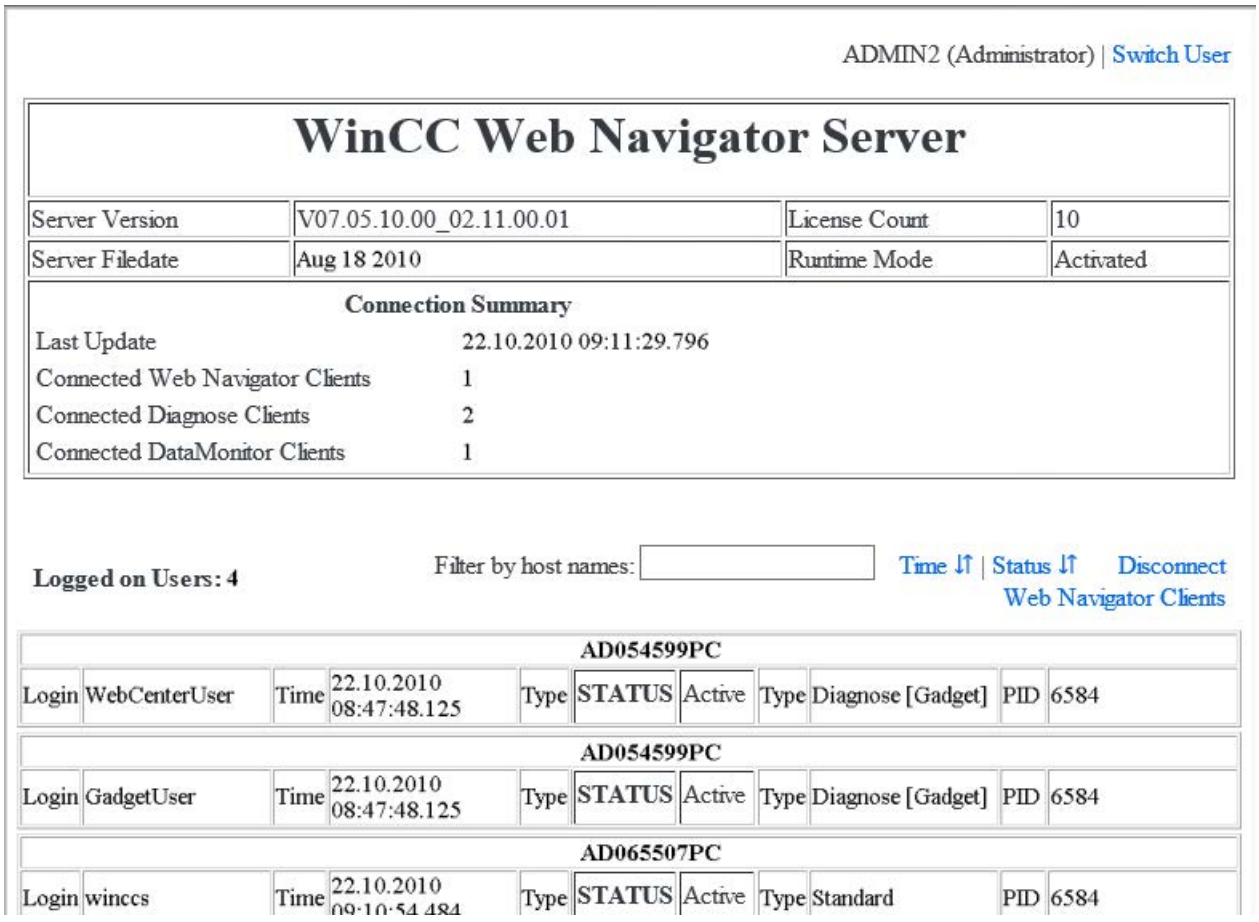
2.2.4.6 "Status.html"による接続の診断

概要

「Status.html」ページは、WebNavigator サーバーとこれに接続されているクライアントの診断に使用されます。

このページは、現在接続されている WebNavigator クライアントおよびそれらのステータスの概要を提供します。

このページへのアクセスは、ユーザー管理者で作成されたユーザーだけに制限されます。



ADMIN2 (Administrator) | Switch User

WinCC Web Navigator Server

Server Version	V07.05.10.00_02.11.00.01	License Count	10
Server Filedate	Aug 18 2010	Runtime Mode	Activated

Connection Summary

Last Update	22.10.2010 09:11:29.796
Connected Web Navigator Clients	1
Connected Diagnose Clients	2
Connected DataMonitor Clients	1

Logged on Users: 4

Filter by host names:

Time ⇵ | Status ⇵ Disconnect Web Navigator Clients

AD054599PC										
Login	WebCenterUser	Time	22.10.2010 08:47:48.125	Type	STATUS	Active	Type	Diagnose [Gadget]	PID	6584
AD054599PC										
Login	GadgetUser	Time	22.10.2010 08:47:48.125	Type	STATUS	Active	Type	Diagnose [Gadget]	PID	6584
AD065507PC										
Login	winccs	Time	22.10.2010 09:10:54.484	Type	STATUS	Active	Type	Standard	PID	6584

Status.html の呼び出し

診断ページを呼び出すには、次のアドレスをブラウザに入力します。

- デフォルト Web ページとして、WebNavigator が構成されます。
  「http://<サーバー名>/status.html」
- 仮想 Web ページとして、WebNavigator が構成されます。
  「http://<サーバー名>/<注文名>/status.html」
- ナビゲーションインターフェースを[MainControl.asp]を経由して使用できる場合、[診断]メニューで[ステータス]コマンドを選択します。

ステータス情報の保存

ページを保存するには、ブラウザで[名前を付けて保存]機能を選択します。

ファイルタイプ*.txt を選択します。

他のファイルタイプの場合(例、*.htm または*.html)、含まれているコンテンツは保存されません。

クライアントを WebNavigator サーバーからログオフする

[ユーザー管理者]オーソリゼーションレベルのユーザーは、個別のクライアントをログオフできます。

これは、使用されていないクライアントの WebNavigator ライセンスをリリースできることを意味しています。

クライアントへの接続が適切に終了されていない場合などに、このクライアントは使用されなくなりますが、ログオンされたままになり、ライセンスを使用します。ライセンスをリリースするには、WebNavigator サーバー上でこのクライアントをログオフします。

操作エレメント

青色テキストは、クリック可能なリンクに対応しています。

クリック中に、追加のダイアログが開くか、対応するアクションが実行されます(ソートなど)。

フィールド	説明
Switch User	現在のユーザーの切り換え
Filter by host names	WebNavigator クライアントのリストでコンピュータ名を検索 入力中に、リストにフィルタがかけられます。 コンピュータ名に入力した文字列が含まれるクライアントのみが表示されます。
Time	接続が確立された時間またはクライアントがログインした時間で、WebNavigator クライアントのリストをソートします。
Status	ステータスで WebNavigator クライアントのリストをソートします。
Disconnect WebNavigator Clients	WebNavigator クライアントのログオフ テキストをクリックすると、チェックボックスが各 WebNavigator クライアントの横に表示されます。 希望するクライアントのチェックボックスを選択し、[Disconnect] をクリックします。 この機能は、ログオンしたユーザーが[ユーザー管理者]オーソリゼーションを持っている場合にのみ使用可能です。

WebNavigator サーバーの診断情報

フィールド	説明
<名前> (Administrator) / (Non-Administrator)	現在のユーザーのユーザー名 [ユーザー管理者]オーソリゼーションレベルのユーザーは、「Administrator」として表示されます。 他のすべてのユーザーは、「Non-Administrator」として表示されます。
Server Version	WebNavigator サーバーのバージョン
Server Filedate	サーバーバージョンの日付
License Count	WebNavigator サーバーのライセンスの数
Runtime Mode	WinCC Runtime のステータス
Last Update	最後に表示を更新した日付と時刻
Connected WebNavigator-Clients	接続されている WebNavigator クライアントの数
Connected Diagnose-Clients	接続されている診断クライアントの数
Connected DataMonitor-Clients	接続されている DataMonitor クライアントの数
Connected WebUX-Clients	接続されている WebUX クライアントの数

接続されたクライアントの診断情報

診断情報は、関連するクライアントの名前で始まります。

フィールド	説明
Logged on Users	ログオンユーザー数
<コンピュータ名>	WebNavigator クライアントが実行されている PC の名前
Login	現在のユーザーのログイン名
Time	現在のユーザーのログイン時間、または最新の自動接続セットアップ時間。

フィールド	説明
Status	WebNavigator クライアントのアクティビティステータス 使用されていないすべての接続されているクライアントを特定するには、ステータスでリストをソートします。 活動がない期間が表示されます。例: ● "Inactive since 2 minute(s)"
Type	クライアントのタイプ（たとえば標準、DataMonitor）
PID	このクライアントと通信している Web サーバーでの WebNavigatorRT.exe のインスタンスのプロセス ID。

下記も参照

WebNavigator クライアントのユーザーの管理 (ページ 235)

トラブルシューティング (ページ 287)

WebUX のライセンス (ページ 513)

2.2.5 WinCC Plug-In Builder のインストール

2.2.5.1 WinCC Plug-In Builder の概要

はじめに

WebNavigator Plug-In Builder を使用して、WebNavigator-Clients に追加のコンポーネント(例:カスタム作成の ActiveX-Controls.)をダウンロードするために MSI セットアッププログラムを作成します。Plug-Ins は、Web Navigator インターフェース経由などで、ユーザーによってダウンロードでき、WebNavigator 環境でのみ使用できます。

Plug-In Builder を使用するには、セットアップ技術の知識は必要ありません。どのファイルがセットアッププログラムによってインストールされ、登録されているかを知っているだけで十分です。

作成された Plug-In セットアップは、自己解凍の"EXE"の形式をとります。ファイルは、WebNavigator-Server のフォルダからクライアントへダウンロードできます。

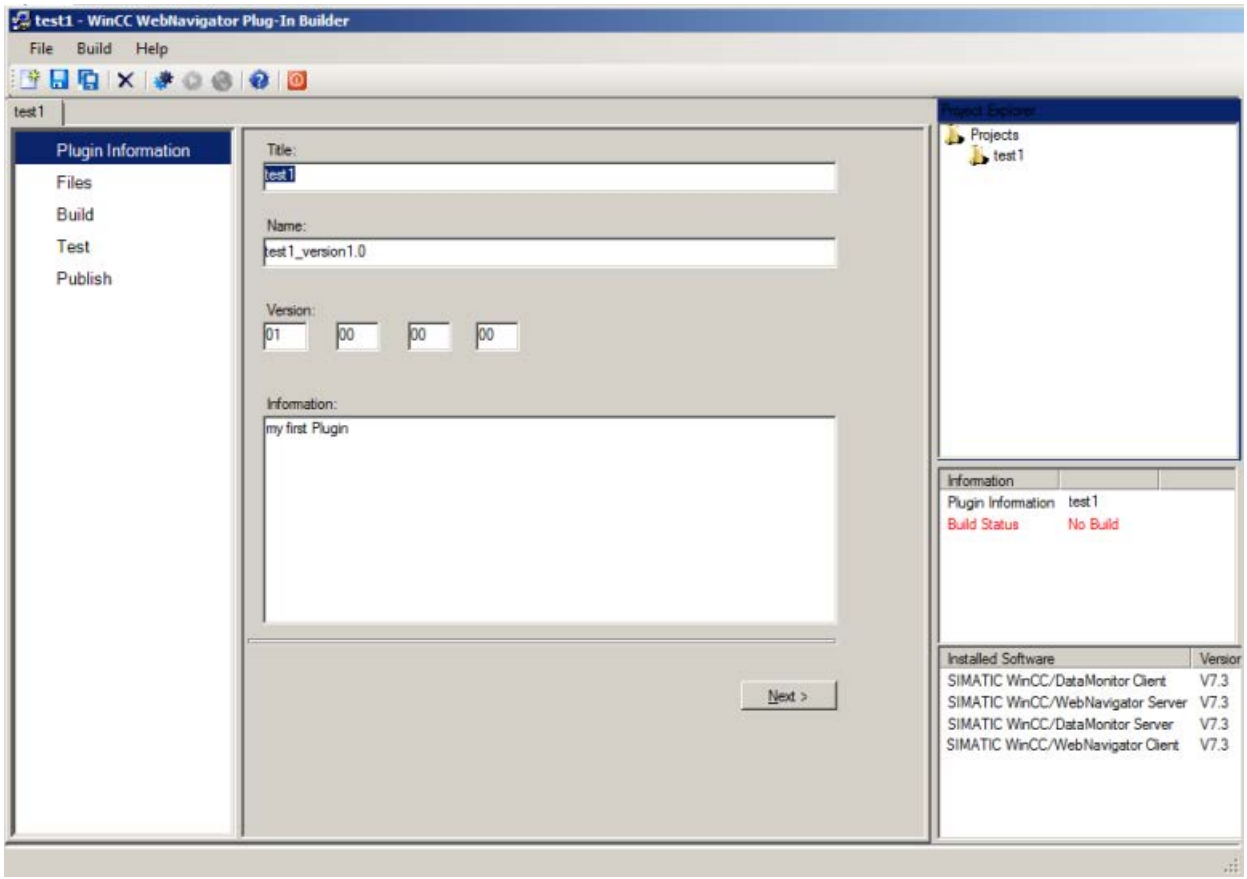
WebNavigator Plug-In は、以前にインストールされた WebNavigator-Client と統合されると同時に、この Client で再度アンインストールされます。

WinCC Plug-In Builder のユーザーインターフェース

WinCC-DVD から WebNavigator Plug-In Builder をインストールします。

Plug-In Builder を開くには、「Siemens Automation」プログラムグループのエントリ[Web Navigator Plug-In Builder]を選択します。

Plug-In Builder は、既存の Plug-In プロジェクトの概要とステータスを表示します。古い Plug-Ins が再度生成される場合があります。



- Plug-In を作成する機能は、ナビゲーションエリア、メニューコマンドおよびツールバーから使用できます。
- すべての開かれている PlugIn プロジェクトは、プロジェクトエクスプローラに一覧表示されます。
- [Information]エリアで、選択された PlugIn プロジェクトのプロジェクトステータスを確認します。
- "Installed Software"エリアに、インストールされているか、依然としてコンピュータで必要とされている WebNavigator コンポーネントが表示されます。Plug-In のテストと発行の機能は、特定の WebNavigator コンポーネントでのみ利用できます。

2.2.5.2 プラグインを公開する方法

はじめに

ローカルの WebNavigator-Server に Plug-In を発行できます。 結果として、Plug-In がインストールのためにすべての Clients で利用できます。

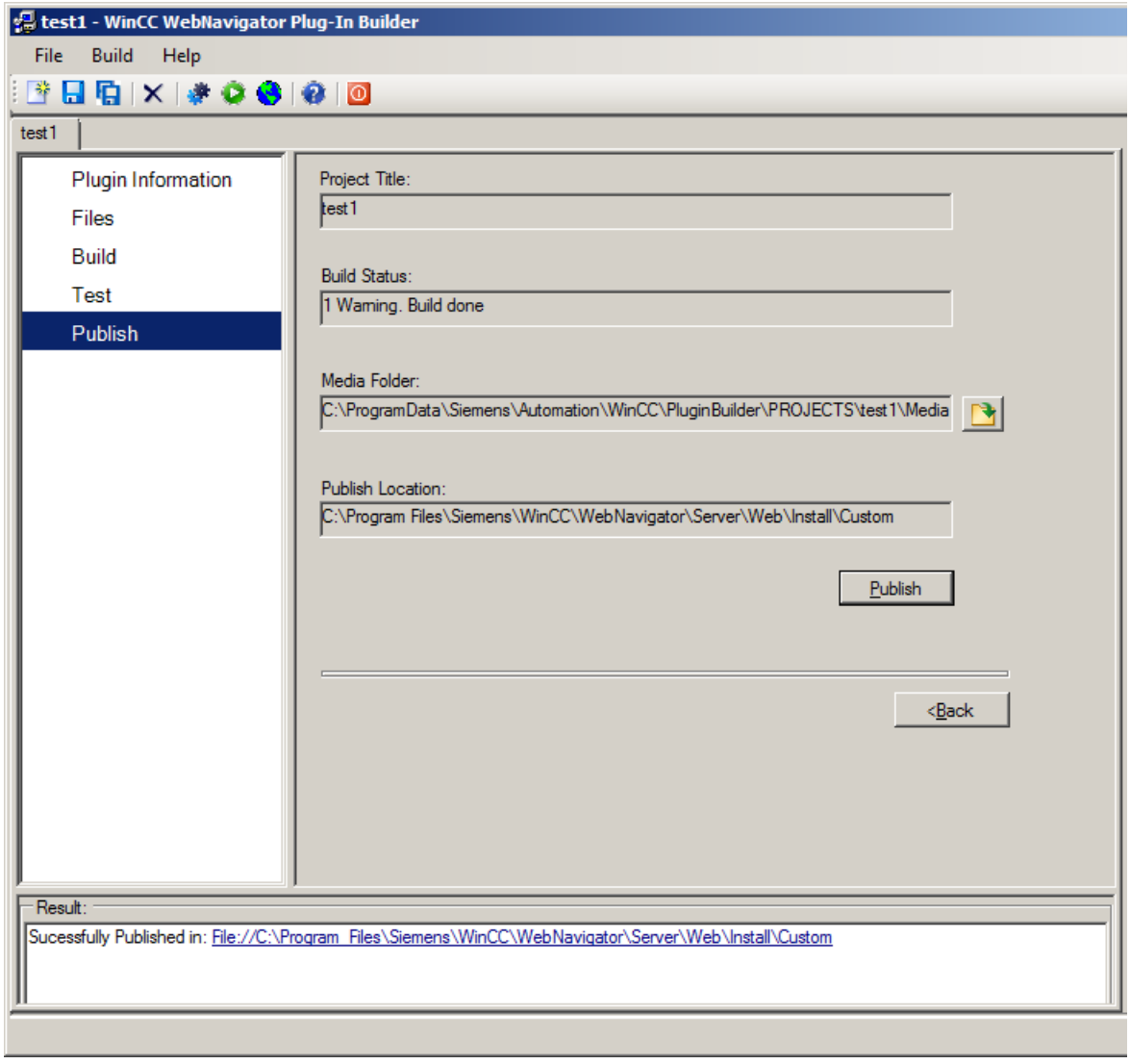
WebNavigator-Server と Plug-In Builder が同じコンピュータにある場合、Plug-In を直接 WebNavigator-Server にエクスポートできます。 Plug-In Builder が別のコンピュータにある場合、手動で Plug-In を WebNavigator-Server に移動しなければなりません。

必要条件

- Plug-In が正常に生成されています。
- 発行では、 WebNavigator-Server が必要です。

手順

1. ナビゲーション領域で、[Publish]をクリックするか、[Next]を使って、[Test]からこのダイアログを取得します。

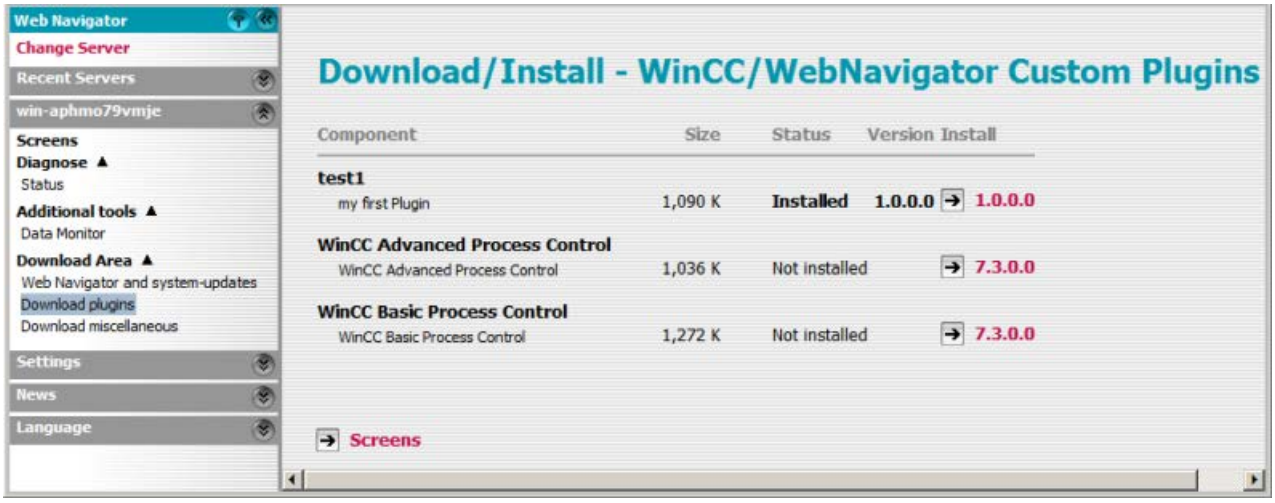


2. または[Publish]ボタンをクリックします。 作成された Plug-In は、次のインストールフォルダにある WebNavigator-Server に格納されます。 "WebNavigator/Server/Web/Install/Custom".
3. "Publish Plugin" 結果ウィンドウで、発行ステータスに関する情報を受け取ります。 リンクをクリックして、直接保存場所に移動します。
4. メニューコマンド[File > Close]を使用してプロジェクトを閉じるか、 を使って Plug-In Builder を閉じます.

プラグインの WebNavigator クライアントへのインストール

WebNavigator-Client 上で Plug-In Builder を使用して作成されたプラグインをインストールするには、Windows 管理者の権限が必要です。 使用される Plug-In Builders と WebNavigator-Clients のバージョンは同一でなければなりません。

Plug-In をインストールするために Web Navigator インターフェースを使用します。 [ダウンロード領域/ダウンロードプラグイン]メニューで、必要な Plug-In を選択します。



2.2.6 WebNavigator の端末サービスの設定

2.2.6.1 端末サービスを使用する通信

WebNavigator クライアントおよび WinCC クライアントから WebNavigator サーバーへのアクセス

端末サービス経由の WebNavigator クライアント、および WinCC クライアントが WebNavigator サーバーにアクセスする場合、端末クライアントとして動作している WebNavigator クライアントは、セッションで Windows デスクトップを開いてはなりません。

セッションの最初に WebNavigator クライアントが Windows デスクトップを開かないようにするには、以下のオプションがあります。

- すべてのユーザーを、直接端末サービスの設定で入力する。
- [コンピュータの管理]で、それぞれのユーザーの起動プログラムとして Internet Explorer を入力する。

2.2.6.2 端末サービスのセットアップ

はじめに

以下の章では、WebNavigator クライアントに関して、端末サービスをセットアップする方法を示します。

必要条件

- WinCC 基本システムと WebNavigator サーバーが、端末サービスで実行されない。
- 以下の設定ステップで端末サービスを有効にする前に、WinCC 基本システムと WebNavigator サーバーがサーバーにインストールされていなければなりません。

設定手順

1. 端末サーバーで端末サービスを有効にします
2. アプリケーションを、WebNavigator クライアントなどの端末サーバーにインストールします。 アプリケーションのインストールについては、該当するマニュアルやオンラインヘルプを参照してください。
3. 端末サーバーで、端末サービスを介してアクセスするユーザーを作成します。
4. 端末クライアントでアプリケーションを実行します。

詳細については、Microsoft オンラインヘルプの「端末サービス」を参照してください。

2.2.6.3 Windows サーバーで端末サービスを有効にする

はじめに

WebNavigator クライアントなどの実際のアプリケーションをインストールする前に、サーバーで端末サービスを有効にします。

コントロール パネルの[プログラムの追加と削除]ダイアログを使用して、サーバーにアプリケーションをインストールします。 これによって、すべてのユーザーがアプリケーションを設定できるようになります。 アプリケーションを他の方法でインストールする場合、アプリケーションを実際にインストールしたユーザーだけが使用できます。

必要条件

- Windows 管理者権限
- Windows サーバー

手順

1. コントロール パネルを開いて、[ソフトウェア]をダブルクリックします。
2. [ソフトウェア]ダイアログで、[Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックします。 [Windows コンポーネントウィザード]が開きます。
3. [端末サーバー]と[端末サーバーのライセンシング]を有効にします。
4. [次へ]をクリックします。 指示に従います。

2.2.6.4 端末サーバーにアクセスするユーザーの作成

必要条件

- 端末サーバーがインストールされている。
- Windows ユーザーが作成されている。

手順

1. コントロール パネルで、[コンピュータの管理]を開きます。 [ローカルユーザーとグループ]を選択します。
2. [ユーザー]フォルダをダブルクリックします。
3. 端末サービスへのアクセスを付与されるユーザーをダブルクリックします。
4. [メンバーシップ]タブをクリックします。 [追加]をクリックします。 [グループの選択]ダイアログが開きます。
5. [リモートデスクトップユーザー]グループを追加します。[OK]をクリックして、開いているダイアログをすべて閉じます。
6. 他のグループのユーザーのメンバーシップを確認します。 必要な場合、必要なユーザーオーソリゼーションを割り当てるために、ユーザーを他のグループに追加します。
7. [コンピュータの管理]を終了します。

2.2.6.5 端末クライアントでの端末サーバーの起動

必要条件

- 端末サービスが Windows サーバーで起動している
- 端末サーバーで、アクセスするユーザーがすでに作成されている。

手順

1. ターミナルクライアントで、「Windows アクセサリ」プログラムグループのエントリ[リモートデスクトップ接続]を選択します。
   [リモートデスクトップ接続]ダイアログボックスが開きます。
2. 端末サーバーの名前を入力します。
3. [接続]をクリックします。端末サーバーへのアクセス用に作成したユーザーで、ログオンします。

結果

接続が確立されます。端末サーバーのデスクトップが表示されます。WebNavigator クライアントなどの端末サーバーのアプリケーションを、Internet Explorer を使用して起動します。

2.2.7 付録

2.2.7.1 トラブルシューティング

WebNavigator サーバーと WebNavigator クライアントの間の通信が動作しない

(関連するプロキシ、ファイアウォールの)プロバイダがインターネット接続で[コンテンツフィルタリング]を設定していると、WebNavigator が通信できなくなります。

内容のフィルタリング機能を使用すれば、HTML ページの特定の内容のみが許可されます。通信は、WinCC サーバーのアドレスなどの IP アドレスに定義されたポートを使用して経路指定されます。

修正処置

WebNavigator サーバーで、その IP アドレスのスマートフィルタを無効にします。

WinCC サーバーには HTML コンテンツがないので、どのような場合にもフィルタリングは特に有用ではありません。

SSL テクノロジを使用している場合、データは暗号化して転送されます。この場合、コンテンツのスマートフィルタリングはできません。

接続中止

インターネット環境で、接続エラー、遅延、通信変動が発生することがあります。

WebNavigator クライアントと WebNavigator サーバーの間の通信が機能しなくなると、メッセージは WebNavigator クライアントのユーザーに出力されます。

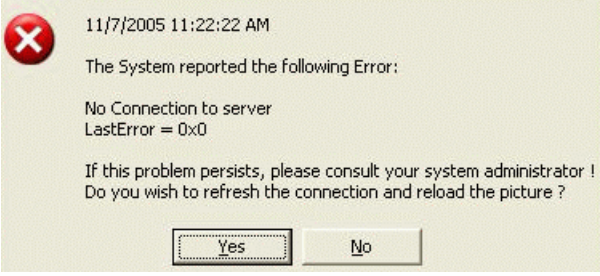
次に、WebNavigator クライアントは、接続を回復するために接続を自動的にセットアップしようと試みます。

修正処置

"Web Configurator"で接続試行の待機時間を設定します。

値を[0]に設定すると、WebNavigator クライアントは自動的に再接続しようとしません。

この場合、接続を再確立するかどうかを問い合わせるメッセージが WebNavigator クライアントに出力されます。



このプロンプトを確定して接続を再確立します。

画像は表示されません。

WebNavigator サーバーで、正しい Web ページが有効になっていることを確認します。

複数タブのブラウジング

Internet Explorer で複数タブのブラウジングを有効にするには、"ControlHost.exe"プロセスが必要です。

アドレスバーでサーバー名に"?inplacecontrol=no"を追加すると、WebNavigator クライアントは、ControlHost ではなく Internet Explorer でホストされます。

これは、複数タブのブラウジングができなくなり、「複数ビューアインスタンスが無効になりました」というメッセージが出力されることを意味します。

デモモード

WebNavigator サーバーに必要なライセンスが無い場合、このことと、WebNavigator クライアントがデモモードで実行されることを知らせるメッセージが表示されます。

このモードでは、WebNavigator クライアントは 30 日間完全に動作します。

30 日が経過すると、「まだサーバーにライセンスがありません。デモモードは期限切れです」というエラーメッセージが表示されます。WebNavigator クライアントは WebNavigator サーバーに接続できなくなります。

Internet Explorer 8 の場合のセキュリティレベル

Windows 7 の Internet Explorer 8 では、デフォルトで保護モードが有効です。

保護モードが有効であると、WebNavigator サーバーに接続できません。エラーメッセージ「低整合性レベルはサポートされていません。保護モードを無効にしてください」が表示されます。

[ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ]で、保護モードを無効にします。

Web クライアント上の Internet Explorer:互換性の設定

Internet Explorer の使用時に、Web クライアントで Web サーバーの表示に問題が発生することがあります。

Web クライアントで Web サーバーを正しく表示するには、Web クライアントで Internet Explorer の互換性表示を有効にします。

開始画像の間違い

グラフィックデザイナで画像を新たに編集します。

1. 新しい画像を登録するために Web View Publisher を起動します。
2. Internet Explorer で[ツール] > [インターネット オプション]を選択して、インターネット一時ファイルを削除します。
3. ユーザー管理で、各ユーザーに個別の開始画像を割り付けることができます。

WebNavigator サーバーに接続できない。

以下のセクションでは、WebNavigator クライアントから WebNavigator サーバーへの接続ができなくなる場合の、エラーメッセージと理由をリストします。

「WinCC サーバーは現在有効ではありません」:

ランタイムでサーバーが起動していません。

「ユーザー名またはパスワードが不明です」:

このエラーは、WinCCViewerRT でのみ発生することがあります。

保存または入力されたユーザーまたはパスワードが間違っていました。

Internet Explorer では、3 回までユーザー名およびパスワードを入力できます。その後、[HTTP エラー 401.1]エラーページが表示されます。

注記

パスワードは、大文字と小文字を区別します。

「最大ユーザー数に達しました」：

WebNavigator サーバーで、WinCC/WebNavigator のライセンスを超過しました。

「すべてのライセンスが使用中であるため、クライアントの最大同時接続数に達しました。」

使用できる WinCC/WebNavigator ライセンスが割り付けられます。

WinCC システムで WinCC/WebUX オプションも使用する場合、WebUX クライアントは WebNavigator ライセンスも使用できます。これにより使用可能な WebNavigator ライセンス数が減少します。

無効なクライアントを特定し、それらを切断するには、ページ「http://<サーバー名>/status.html」を使用します。

「サーバーの作業負荷が限度を超えています」：

同時接続の最大数を超えました。

WinCC エクスプローラの[WebNavigator] > [Web 設定] >[ランタイム]で、これを設定します。

サーバーに接続されているクライアントの数が、[http://<サーバー名>/status.html]ページに表示されます。

たとえばブラウザウィンドウで複数のタブが開いている場合、同時接続の数が、接続されているクライアントの数を超える場合があります。

「最大タブ数に達しました」：

ブラウザ当りのタブの最大数を超えました。

WinCC エクスプローラの[WebNavigator] > [Web 設定] >[ランタイム]で、これを設定します。

「サーバーに接続されていません」：

サーバーに到達できません。

エラーの正確な原因は不明です。

診断情報については、[http://<サーバー名>/status.html]ページを参照してください。

WebNavigator クライアントが WebNavigator サーバーと同じコンピュータ上で実行されていない場合、[SIMATIC Shell]ダイアログの設定を確認します。リモート通信は、Web クライアントと Web サーバーの両方で有効にされる必要があります。

注記

64 ビットパーソナルコンピュータ上の WebNavigator クライアント

WebNavigator クライアントが 64 ビットコンピュータである場合、"Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ"をコンピュータにインストールする必要があります。

接続が確立される前に、このインストールを実行する必要があります。

"MainControl.asp"のナビゲーションユーザーインターフェースのダウンロード領域にある[Web Navigator およびシステム更新]メニューからこのソフトウェアをインストールすることができます。

古い WebNavigator サーバーに接続している場合、リンクは使用可能になりません。次いで、"https://www.microsoft.com/en-in/download/details.aspx?id=14632"を介して、"Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ"をインストールすることができます。

「http://<サーバー名>/Pictures/For_example.PD_をロードできませんでした」:

設定されている開始画像にアクセスできませんでした。

WebNavigator サーバーのオーソリゼーションを確認します。発行されている画像が、サーバーで使用できなくなる可能性があります。

下記も参照

有効化した Web ページの確認 (ページ 248)

"Status.html"による接続の診断 (ページ 276)

2.2.7.2 ファンクション

サポートされているファンクション

はじめに

以下のリストは、WebNavigator がサポートするファンクションを示しています。

このリストに含まれていないファンクションは、WebNavigator で自動的に有効になりません。

ファンクション

WaitForDocumentReady	

Get_Focus	GetTagChar
GetAssignments	GetTagCharState
GetBasePicture	GetTagCharStateWait
GetFlashPicture	GetTagCharWait
GetFontName	GetTagMultiStateWait
GetInputValueChar	GetTagMultiWait
GetLastChange	GetText
GetOutputFormat	SetTagMultiWait
GetOutputValueChar	SetTagMultiStateWait
GetPictureName	SetTagRaw
GetPropChar	SetTagRawState
GetServerName	SetTagRawStateWait

AXC_OnBtnArcLong	AXC_OnBtnMsgNext
AXC_OnBtnArcShort	AXC_OnBtnMsgPrev
AXC_OnBtnComment	AXC_OnBtnMsgWin
AXC_OnBtnEmergAckn	AXC_OnBtnScroll
AXC_OnBtnInfo	AXC_OnBtnSelect
AXC_OnBtnLock	AXC_OnBtnSinglAckn
AXC_OnBtnLoop	AXC_OnBtnVisibleAckn
AXC_OnBtnMsgFirst	AXC_SetFilter
AXC_OnBtnMsgLast	

OnBtnArcLong	OnBtnMsgLast
OnBtnArcShort	OnBtnMsgNext
OnBtnComment	OnBtnMsgPrev

OnBtnEmergAckn	OnBtnMsgWin
OnBtnHornAckn	OnBtnPrint
OnBtnInfo	OnBtnScroll
OnBtnLanguage	OnBtnSelect
OnBtnLock	OnBtnSinglAckn
OnBtnLoop	OnBtnVisibleAckn
OnBtnMsgFirst	

TLGGetTemplateParameter	TlgTableWindowPressPrevButton
TLGPressToolbarButton	TlgTableWindowPressPrevItemButton
TlgGetColumnPosition	TlgTableWindowPressStartStopButton
TlgGetNumberOfColumns	TlgTrendWindowPressFirstButton
TlgGetNumberOfRows	TlgTrendWindowPressLastButton
TlgGetNumberOfTrends	TlgTrendWindowPressLinealButton
TlgGetRowPosition	TlgTrendWindowPressNextButton
TlgGetRulerArchivNameTrend	TlgTrendWindowPressNextItemButton
TlgGetRulerTimeTrend	TlgTrendWindowPressOneToOneButton
TlgGetRulerValueTrend	TlgTrendWindowPressOpenArchiveVariableSelectionDlgButton
TlgGetRulerVariableNameTrend	TlgTrendWindowPressOpenDlgButton
TlgGetTextAtPos	TlgTrendWindowPressOpenItemSelectDlgButton
TlgTableWindowPressFirstButton	TlgTrendWindowPressOpenTimeSelectDlgButton
TlgTableWindowPressLastButton	TlgTrendWindowPressPrevButton
TlgTableWindowPressNextButton	TlgTrendWindowPressPrevItemButton
TlgTableWindowPressNextItemButton	TlgTrendWindowPressStartStopButton
TlgTableWindowPressOpenArchiveVariableSelectionDlgButton	TlgTrendWindowPressZoomInButton
TlgTableWindowPressOpenItemSelectDlgButton	TlgTrendWindowPressZoomOutButton
TlgTableWindowPressOpenTimeSelectDlgButton	

GetLanguage	GetParentPicture
SetLanguage	GetParentPictureWindow
GetLink	GetServerTagPrefix
SetLink	OpenPicture
GetLinkedVariable	SetPictureDeactivated
GetLocalPicture	SetPictureDown
SetMultiLink	SetPictureUp
RPTJobPrint	

_makepath	fscanf	setvbuf
_splitpath	fsetpos	sprintf
abs	ftell	srand
abort	fwrite	sscanf
asctime	getc	strcat
atexit	getchar	strcmp
atof	getenv	strcpy
atoi	gets	strchr
atol	gmtime	strcspn
bsearch	labs	strerror
calloc	ldiv	strftime
clearerr	localtime	strlen
clock	malloc	strncat
ctime	memchr	strncmp
difftime	memcmp	strncpy
div	memcpy	strpbrk
exit	memmove	strrchr
fclose	memset	strspn
feof	mktime	strstr
ferror	perror	strtod
fflush	printf	strtok

fgetc	putc	strtol
fgetpos	putchar	strtoul
fgets	puts	SysMalloc
fopen	qsort	system
fprintf	rand	time
fputc	realloc	ungetc
fputs	remove	vfprintf
freopen	rename	vprintf
fread	rewind	vsprintf
free	scanf	
fseek	setbuf	

Check	ProgramExecute

GetActualPointLeft	GetExponent	GetPicDeactTransparent
GetActualPointTop	GetExtendedOperation	GetPicDeactUseTransColor
GetAdaptBorder	GetFillColor	GetPicDownReferenced
GetAdaptPicture	GetFilling	GetPicDownTransparent
GetAdaptSize	GetFillingIndex	GetPicDownUseTransColor
GetAlarmHigh	GetFillStyle	GetPicReferenced
GetAlarmLow	GetFillStyle2	GetPicTransColor
GetAlignment	GetFlashBackColor	GetPicUpReferenced
GetAlignmentLeft	GetFlashBorderColor	GetPicUpTransparent
GetAlignmentTop	GetFlashFlashPicture	GetPicUpUseTransColor
GetAssumeOnExit	GetFlashForeColor	GetPicUseTransColor
GetAssumeOnFull	GetFlashPicReferenced	GetPictureDeactivated
GetAverage	GetFlashPicTransColor	GetPictureDown
GetAxisSection	GetFlashPicUseTransColor	GetPictureUp
GetBackBorderWidth	GetFlashRateBackColor	GetPointCount
GetBackColor	GetFlashRateBorderColor	GetPosition

GetBackColor2	GetFlashRateFlashPic	GetPressed
GetBackColor3	GetFlashRateForeColor	GetProcess
GetBackColorBottom	GetFontBold	GetPropBOOL
GetBackColorTop	GetFontItalic	GetPropDouble
GetBackFlashColorOff	GetFontSize	GetPropLong
GetBackFlashColorOn	GetFontUnderline	GetPropWord
GetBasePicReferenced	GetForeColor	GetRadius
GetBasePicTransColor	GetForeFlashColorOff	GetRadiusHeight
GetBasePicUseTransColor	GetForeFlashColorOn	GetRadiusWidth
GetBitNumber	GetGrid	GetRangeMax
GetBorderBackColor	GetGridColor	GetRangeMin
GetBorderColor	GetGridHeight	GetReferenceRotationLeft
GetBorderColorBottom	GetGridWidth	GetReferenceRotationTop
GetBorderColorTop	GetHeight	GetRightComma
GetBorderEndStyle	GetHiddenInput	GetRotationAngle
GetBorderFlashColorOff	GetHotkey	GetRoundCornerHeight
GetBorderFlashColorOn	GetHysteresis	GetRoundCornerWidth
GetBorderStyle	GetHysteresisRange	GetScaleColor
GetBorderWidth	GetIndex	GetScaleTicks
GetBoxAlignment	GetInputValueDouble	GetScaling
GetBoxCount	GetItemBorderBackColor	GetScalingType
GetBoxType	GetItemBorderColor	GetScrollBars
GetButtonColor	GetItemBorderStyle	GetSelBGColor
GetCaption	GetItemBorderWidth	GetSelTextColor
GetCheckAlarmHigh	GetLanguageSwitch	GetSizeable
GetCheckAlarmLow	GetLayer	GetSmallChange
GetCheckLimitHigh4	GetLeft	GetStartAngle
GetCheckLimitHigh5	GetLeftComma	GetToggle
GetCheckLimitLow4	GetLimitHigh4	GetToleranceHigh
GetCheckLimitLow5	GetLimitHigh5	GetToleranceLow
GetCheckToleranceHigh	GetLimitLow4	GetTop
GetCheckToleranceLow	GetLimitLow5	GetTrend

GetCheckWarningHigh	GetLimitMax	GetTrendColor
GetCheckWarningLow	GetLimitMin	GetTypeAlarmHigh
GetClearOnError	GetListType	GetTypeAlarmLow
GetClearOnNew	GetLongStrokesBold	GetTypeLimitHigh4
GetCloseButton	GetLongStrokesOnly	GetTypeLimitHigh5
GetColorAlarmHigh	GetLongStrokesSize	GetTypeLimitLow4
GetColorAlarmLow	GetLongStrokesTextEach	GetTypeLimitLow5
GetColorBottom	GetMarker	GetTypeToleranceHigh
GetColorChangeType	GetMax	GetTypeToleranceLow
GetColorLimitHigh4	GetMaximizeButton	GetTypeWarningHigh
GetColorLimitHigh5	GetMin	GetTypeWarningLow
GetColorLimitLow4	GetMoveable	GetUnselBGColor
GetColorLimitLow5	GetNumberLines	GetUnselTextColor
GetColorToleranceHigh	GetOffsetLeft	GetUpdateCycle
GetColorToleranceLow	GetOffsetTop	GetVisible
GetColorTop	GetOnTop	GetWarningHigh
GetColorWarningHigh	GetOperation	GetWarningLow
GetColorWarningLow	GetOperationMessage	GetWindowBorder
GetCursorControl	GetOperationReport	GetWindowsStyle
GetDataFormat	GetOrientation	GetWidth
GetDirection	GetOutputValueDouble	GetZeroPoint
GetEditAtOnce	GetPasswordLevel	GetZeroPointValue
GetEndAngle	GetPicDeactReferenced	GetZoom

Set_Focus	SetEditAtOnce	SetPicDownUseTransColor
SetActualPointLeft	SetEndAngle	SetPicTransColor
SetActualPointTop	SetExponent	SetPicUpTransparent
SetAlarmHigh	SetExtendedOperation	SetPicUpUseTransColor
SetAlarmLow	SetFillColor	SetPicUseTransColor
SetAlignment	SetFilling	SetPictureName
SetAlignmentLeft	SetFillingIndex	SetPointCount

SetAlignmentTop	SetFillStyle	SetPosition
SetAssumeOnExit	SetFillStyle2	SetPressed
SetAssumeOnFull	SetFlashBackColor	SetProcess
SetAverage	SetFlashBorderColor	SetPropBOOL
SetAxisSection	SetFlashFlashPicture	SetPropDateTime
SetBackBorderWidth	SetFlashForeColor	SetPropChar
SetBackColor	SetFlashPicTransColor	SetPropDouble
SetBackColor2	SetFlashPicUseTransColor	SetPropLong
SetBackColor3	SetFlashRateBackColor	SetPropWord
SetBackColorBottom	SetFlashRateBorderColor	SetRadius
SetBackColorTop	SetFlashRateFlashPic	SetRadiusHeight
SetBackFlashColorOff	SetFlashRateForeColor	SetRadiusWidth
SetBackFlashColorOn	SetFontBold	SetRangeMax
SetBasePicTransColor	SetFontItalic	SetRangeMin
SetBasePicUseTransColor	SetFontName	SetRightComma
SetBitNumber	SetFontSize	SetReferenceRotationLeft
SetBorderBackColor	SetFontUnderline	SetReferenceRotationTop
SetBorderColor	SetForeColor	SetRotationAngle
SetBorderColorBottom	SetForeFlashColorOff	SetRoundCornerHeight
SetBorderColorTop	SetForeFlashColorOn	SetRoundCornerWidth
SetBorderEndStyle	SetHeight	SetScaleColor
SetBorderFlashColorOff	SetHiddenInput	SetScaleTicks
SetBorderFlashColorOn	SetHysteresis	SetScaling
SetBorderStyle	SetHysteresisRange	SetScalingType
SetBorderWidth	SetIndex	SetSelBGColor
SetBoxAlignment	SetItemBorderBackColor	SetSelTextColor
SetBoxCount	SetItemBorderColor	SetSmallChange
SetBoxType	SetItemBorderStyle	SetStartAngle
SetButtonColor	SetItemBorderWidth	SetText
SetCheckAlarmHigh	SetLeft	SetTop
SetCheckAlarmLow	SetLeftComma	SetTrend
SetCheckLimitHigh4	SetLimitHigh4	SetTrendColor

SetCheckLimitHigh5	SetLimitHigh5	SetToleranceHigh
SetCheckLimitLow4	SetLimitLow4	SetToleranceLow
SetCheckLimitLow5	SetLimitLow5	SetToggle
SetCheckToleranceHigh	SetLimitMax	SetTypeAlarmHigh
SetCheckToleranceLow	SetLimitMin	SetTypeAlarmLow
SetCheckWarningHigh	SetLongStrokesBold	SetTypeLimitHigh4
SetCheckWarningLow	SetLongStrokesOnly	SetTypeLimitHigh5
SetClearOnError	SetLongStrokesSize	SetTypeLimitLow4
SetClearOnNew	SetMarker	SetTypeLimitLow5
SetColorAlarmHigh	SetMax	SetTypeToleranceHigh
SetColorAlarmLow	SetMin	SetTypeToleranceLow
SetColorBottom	SetNumberLines	SetTypeWarningHigh
SetColorChangeType	SetOffsetLeft	SetTypeWarningLow
SetColorLimitHigh4	SetOffsetTop	SetUnselBGColor
SetColorLimitHigh5	SetOperation	SetUnselTextColor
SetColorLimitLow4	SetOperationMessage	SetVisible
SetColorLimitLow5	SetOperationReport	SetWarningHigh
SetColorToleranceHigh	SetOrientation	SetWarningLow
SetColorToleranceLow	SetOutputValueChar	SetWindowsStyle
SetColorTop	SetOutputValueDouble	SetWidth
SetColorWarningHigh	SetPasswordLevel	SetZeroPoint
SetColorWarningLow	SetPicDeactTransparent	SetZeroPointValue
SetCursorControl	SetPicDeactUseTransColor	SetZoom
SetDirection	SetPicDownTransparent	

GetTagBit	GetTagDateTime	GetTagByteStateQCWait
GetTagByte	GetTagDoubleWait	GetTagCharStateQC
GetTagDouble	GetTagDWordWait	GetTagCharStateQCWait
GetTagDWord	GetTagFloatWait	GetTagDoubleStateQC
GetTagFloat	GetTagRawWait	GetTagDoubleStateQCWait
GetTagRaw	GetTagSByteWait	GetTagDWordStateQC

GetTagSByte	GetTagSDWordWait	GetTagDWordStateQCWait
GetTagSDWord	GetTagSWordWait	GetTagFloatStateQC
GetTagSWord	GetTagWordWait	GetTagFloatStateQCWait
GetTagWord	GetTagBitStateWait	GetTagRawStateQC
GetTagBitState	GetTagByteStateWait	GetTagRawStateQCWait
GetTagByteState	GetTagDoubleStateWait	GetTagSByteStateQC
GetTagDoubleState	GetTagDWordStateWait	GetTagSByteStateQCWait
GetTagDWordState	GetTagFloatStateWait	GetTagSDWordStateQC
GetTagFloatState	GetTagRawStateWait	GetTagSDWordStateQCWait
GetTagRawState	GetTagSByteStateWait	GetTagSWordStateQC
GetTagSByteState	GetTagSDWordStateWait	GetTagSWordStateQCWait
GetTagSDWordState	GetTagSWordStateWait	GetTagValueStateQC
GetTagSWordState	GetTagWordStateWait	GetTagValueStateQCWait
GetTagWordState	GetTagBitStateQC	GetTagWordStateQC
GetTagBitWait	GetTagBitStateQCWait	GetTagWordStateQCWait
GetTagByteWait	GetTagByteStateQC	GetTagMultiStateQCWait

SetTagBit	SetTagFloatState	SetTagSWordWait
SetTagByte	SetTagRawState	SetTagWordWait
SetTagDouble	SetTagSByteState	SetTagBitStateWait
SetTagDWord	SetTagSDWordState	SetTagByteStateWait
SetTagFloat	SetTagSWordState	SetTagDoubleStateWait
SetTagRaw	SetTagWordState	SetTagDWordStateWait
SetTagSByte	SetTagBitWait	SetTagFloatStateWait
SetTagSDWord	SetTagByteWait	SetTagRawStateWait
SetTagSWord	SetTagDoubleWait	SetTagSByteStateWait
SetTagWord	SetTagDWordWait	SetTagSDWordStateWait
SetTagBitState	SetTagFloatWait	SetTagSWordStateWait
SetTagByteState	SetTagRawWait	SetTagWordStateWait
SetTagDoubleState	SetTagSByteWait	
SetTagDWordState	SetTagSDWordWait	

サポートされている ODK ファンクション

PWRTCheckPermission

PWRTCheckAreaPermission

PWRTCheckPermissionOnArea

PWRTCheckPermissionOnPicture // 「permlevel」パラメータのみが評価されます。

MSRTStartMsgService

MSRTStopMsgService

MSRTCreateMsg

MSRTCreateMsgInstanceWithComment

MSRTSetComment

PDLRTGetLink

PDLRTSetLink

PDLRTSetMultiLink

PDLRTGetPropEx // 読み取りのみがサポートされている。

PDLRTSetPropEx // 設定のみがサポートされている。

TXTRTConnect

TXTRTDisconnect

TXTRTGetInfoTextMC

サポートされているユーザーアーカイブファンクション

注記

ユーザーアーカイブファンクションは、必ず先頭に小文字の「ua」が付きます。

先頭に大文字の「UA」が付くファンクションは、ODK ファンクションです。これらの ODK ファンクションは、WebNavigator クライアントでサポートされません。

uaArchiveClose	uaArchiveGetName	uaArchiveSetFieldValueLong
uaArchiveDelete	uaArchiveGetSort	uaArchiveSetFieldValueString
uaArchiveExport	uaArchiveImport	uaArchiveSetFilter
uaArchiveGetCount	uaArchiveInsert	uaArchiveSetSort

uaArchiveGetFieldLength	uaArchiveMoveFirst	uaArchiveUpdate
uaArchiveGetFieldName	uaArchiveMoveLast	uaArchiveWriteTagValues
uaArchiveGetFields	uaArchiveMoveNext	uaArchiveWriteTagValuesByName
uaArchiveGetFieldType	uaArchiveMovePrevious	uaConnect
uaArchiveGetFieldValueDate	uaArchiveOpen	uaDisconnect
uaArchiveGetFieldValueFloat	uaArchiveReadTagValues	uaGetLastError
uaArchiveGetFieldValueDouble	uaArchiveReadTagValuesByName	uaGetLastHResult
uaArchiveGetFieldValueLong	uaArchiveRequery	uaQueryArchive
uaArchiveGetFieldValueString	uaArchiveSetFieldValueDate	uaQueryArchiveByName
uaArchiveGetFilter	uaArchiveSetFieldValueDouble	uaReleaseArchive
uaArchiveGetID	uaArchiveSetFieldValueFloat	

サポートされている MBCS ファンクション

_ismbcalnum	_mbscat	_mbsncmp
_ismbcalpha	_mbschr	_mbsncpy
_ismbcdigit	_mbscmp	_mbsnicmp
_ismbcgraph	_mbscpy	_mbspbrk
_ismbclower	_mbsdec	_mbsrchr
_ismbcprint	_mbsicmp	_mbsspn
_ismbcpunct	_mbsinc	_mbsstr
_ismbcspace	_mbslen	_mbstok
_ismbcupper	_mbscspn	_mbctolower
_mbclen	_mbsncat	_mbctoupper

WaitForDocumentReady

ファンクション

ファンクションは、指定された画像ウィンドウに画像がロードされているかを確認します。

プロセス画像のスクリプトまたはプロジェクトファンクションで、WinCC の環境と WebNavigator クライアントの環境の間に相違点を作る必要があります。この目的で、以下のコンパイラコマンドが存在します。

- #ifdef RUN_ON_WEBNAVIGATOR
- #ifndef RUN_ON_WEBNAVIGATOR

これによって、使用している設定で WinCC と WebNavigator クライアントを以下のように識別できます。

- "WaitForDocumentReady"によるスクリプト遅延
- 画像アドレス指定の相違
- コントロールシステムファンクションでのファンクション名の相違
- WebNavigator クライアントでサポートされないファンクション

ANSI-C の構文

int WaitForDocumentReady(LPCSTR lpszPictureWindow)

パラメータ

lpszPictureWindow

WebNavigator クライアントで開いている画像ウィンドウの名前のポインタ。

以下のアドレス指定構文が可能です。

- 現在の画面の画像ウィンドウ「xxx」：`./xxx`
- 子画面「xxx」の画像ウィンドウ「yyy」：`./xxx/yyy`
- 親画面の画像ウィンドウ「xxx」：`../xxx`
- 親画面の親画像にある画像ウィンドウ「xxx」：`../../xxx`
- WinCC に対応した絶対パス

戻り値

	値	説明
TRUE	0	画像ウィンドウが既に検索され、ステータスが確認されています。
FALSE	-1	画像ウィンドウが見つかっていません。

ANSI-C の例

```
#ifdef RUN_ON_WEBNAVIGATOR
SetPropChar("../", "View", "PictureName", szViewName);
WaitForDocumentReady("../View");
#else
SetPropChar(lpszParent, "View", "PictureName", szViewName);
#endif
```

注記

WebNavigator のコードセクションの構文は、WinCC スクリプトのコンパイル中には確認されず、画像が発行されるときのみ確認されます。

サポートされていない関数

以下のリストは、サポートされないファンクションだけを抽出したものです。リストには、サポートされないと明確に記されているファンクションが含まれています。

ファンクション

GetHWDiag	OnDeactivateExecute	ReportJob
GetHWDiagLevel	OnErrorExecute	RPTJobPreview
GetKopFupAwl	OnTime	RptShowError
GetKopFupAwlLevel	OpenPrevPicture	

VBScript 関数

- HMIRuntime.Stop:Internet Explorer と WinCCViewerRT を終了しますが、WinCC Runtime は終了しません。
- AlarmLogs Object
- DataLogs Object
- Logging Object
- Project Object

不要な関数：

- DeactivateRTProject:Internet Explorer と WinCCViewerRT を終了しますが、WinCC Runtime は終了しません。
- ExitWinCC

- FillDiagnoseInTags
- InquireLanguage
- TraceText
- TraceTime

その他の関数

以下のファンクションは、WebNavigator クライアントのコンパイルでエラーがないことを保証するために、ファンクション適用範囲に含まれます。これらのファンクションは、WebNavigator クライアントでサポートされません。

AXC_OnBtnHornAckn	GetCursorMode	GmsgFunction
AXC_OnBtnPrint	SetCursorMode	MSRTMsgWinCommand
AXC_OnBtnProtocol		TlgTableWindowPressHelpButton

WinCC/DataMonitor 3

3.1 WinCC/DataMonitor のご使用にあたって

3.1.1 DataMonitor

概要

イントラネット/インターネット経由で WinCC/DataMonitor を使用して、現在のプロセス状態および履歴データを、表示および評価できます。

WinCC/DataMonitor はサーバーコンポーネントとクライアントコンポーネントで構成されます。DataMonitor サーバーは、DataMonitor クライアントがデータの分析および表示にファンクションを使用できるようにします。アクセス権限は、そのファンクションへのアクセスを管理します。

- "WinCCViewerRT":
  WinCC プロジェクトのモニタ用プログラム。DataMonitor クライアントはいわゆる「表示専用クライアント」です。
- "Excel Workbook":
  Web 経由での評価および表示用に、またはレポート用印刷テンプレートとして、プロセス値およびアーカイブ値を Excel テーブルに表示
- "Reports":
  WinCC 印刷ジョブまたは発行されている Excel ワークブックからレポートを作成。これによって、特定のプロセスデータや履歴データを、統計処理および分析することもできます。レポートは PDF 形式で作成され、必要に応じて電子メールとして転送されます。
- "Webcenter":
  ユーザー固有の表示による WinCC データへのアクセスの、中央情報ポータル。
  Webcenter ページの読み取り、書き込みおよび作成への個々のユーザー権限を含む、明確に構造化された Webcenter ページ。
- "Trends & Alarms":
  アーカイブされたプロセス値およびアラームの表示と分析用。データは、予め定義された Webcenter ページの表と図に表示されます。

数量構造

WinCC/DataMonitor により、サーバーごとに最大 50 台のクライアントを、同時に操作できます。

端末サービスの使用

端末サービスサーバーにつき DataMonitor クライアント数 50 での設定を一般的なシナリオとして試験しました。

3.1.2 準備

はじめに

「ご使用にあたって」、DataMonitor サーバーがインストールされる WinCC シングルユーザーシステムを実装します。 DataMonitor クライアントを使ってデータにアクセスして表示するために、クライアントは DataMonitor サーバーで起動されます。

必要条件

WinCC および WinCC/DataMonitor のインストールノートに従ってください。

- インターネット インフォメーション サービスがインストールされている。
- WinCC がインストールされ、起動されている。
- DataMonitor サーバーがインストールされている。
- DataMonitor クライアントがインストールされている。
- WinCC/DataMonitor ライセンスがインストールされている。
- Internet Explorer がインストールされている。

設定手順

DataMonitor システムをセットアップするため、以下の設定ステップを完了する必要があります。

1. DataMonitor システムを設定します。
   - Windows ユーザーおよび Windows のアクセス権を定義します。
   - WinCC ユーザーおよび"WinCC User Administrator"での WinCCViewerRT および "Excel Workbook"へのアクセス権を定義します。
   - Web ページおよびファイアウォールをセットアップします。
   - WinCC 画像を発行します。
2. WinCC ランタイムを起動します。
3. DataMonitor クライアントをセットアップします。
   - Internet Explorer のセキュリティ設定を設定します。
4. DataMonitor クライアントを使用します。
   - Internet Explorer を起動して、DataMonitor サーバーのアドレスを入力します。
   - DataMonitor サーバーにログオンし、DataMonitor 機能にアクセスします。
5. WinCCViewerRT で WinCC プロジェクトをモニタします。
   - WinCCViewerRT をセットアップします。
   - 画像を表示します。

3.1.3 DataMonitor システムの構成

3.1.3.1 Windows のユーザーの定義

Windows のユーザーグループ

概要

DataMonitor サーバーをインストールすると、以下のユーザーグループが自動的に Windows に作成されます。

SIMATIC Report Administrators

特に設定目的に対する拡張権限には、ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーシップが必要です。 少なくとも 1 人のユーザーを作成し、"SIMATIC Report Administrators"ユーザーグループに割り当てる必要があります。

- "Webcenter"の"SIMATIC Report Administrators"として、以下も実行できます。
  - 接続を設定する
  - Webcenter ページのテンプレートの作成
  - パブリックおよびプライベートの Webcenter ページの作成と設定
- "Reports"の"SIMATIC Report Administrators"として、以下も実行できます。
  - WinCC 印刷ジョブまたは Excel ワークブックに基づきレポートを設定。

SIMATIC Report Users

ユーザーグループ"SIMATIC Report Users"またはユーザー自身のユーザーグループのメンバーシップが、"Webcenter"、"Trends & Alarms"および"Reports"に必要です。

- "Webcenter"の"SIMATIC Report Users"として、以下も実行できます。
  - Webcenter ページのセットアップおよび設定。 Webcenter ページは種々のディレクトリに保管されます。
  - パブリックページを開く
- "Reports"の"SIMATIC Report Users"として、以下も実行できます。
  - WinCC 印刷ジョブまたは Excel ワークブックに基づきレポートを開く。

Windows のユーザーおよびアクセス権の定義

はじめに

DataMonitor を使用するとき、ユーザーはさまざまな認証が必要です。

- すべてのユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。
- DataMonitor 経由で WinCC データベースにアクセスするには、"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループのメンバであり、パスワードを持っている Windows ユーザーである必要があります。

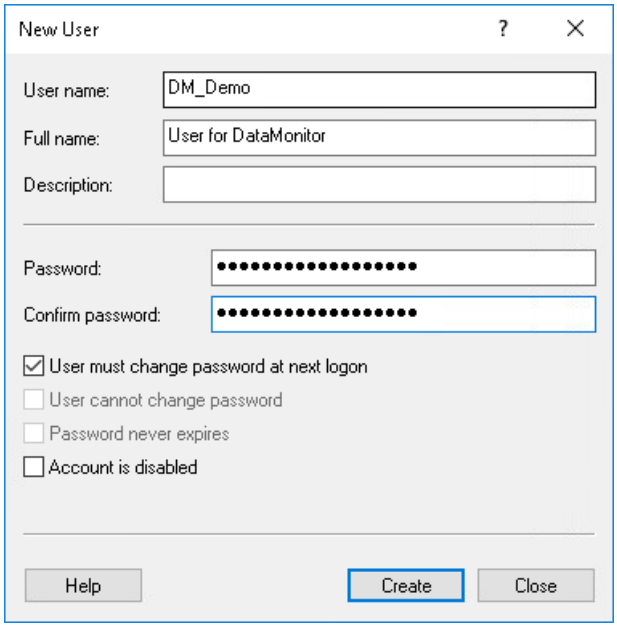
つまり、適合するユーザー権限があるユーザーを作成する必要があります。

必要条件

- WinCC がインストールされている。
- DataMonitor サーバーがインストールされている。

手順

1. Windows の[コンピュータの管理]を開きます。
2. [システムツール]で、[ローカルユーザーとグループ] > [ユーザー]に移動します。
   コンテキストメニューで、[新規ユーザー]エントリを選択します。



3. [ユーザー名]フィールドの[新しいユーザー]ダイアログボックスに、"DM_Demo"などの名前を入力します。
   [フルネーム]フィールドに「DataMonitor のユーザー」などの名前を入力します。
   [パスワード]フィールドに希望のパスワードを入力し、[パスワードの確認入力]フィールドに再度入力します。
   [作成]で、ユーザーを作成します。
   [新規ユーザー]ダイアログを閉じます。
4. テーブルウィンドウで、新しく作成したユーザーをクリックします。
   コンテキストメニューの[プロパティ]コマンドを選択します。
5. [メンバ]タブの[追加]をクリックします。
6. [グループの選択]ダイアログで[詳細]をクリックしてから[今すぐ検索]ボタンをクリックします。
7. 開かれたリストで、以下のエントリを選択します。
   - SIMATIC Report Administrators
   - SIMATIC HMI
   - SIMATIC HMI VIEWER

8. [OK]を 2 回クリックしてダイアログを閉じます。
   ユーザーのプロパティで、グループがリストに追加されています。
9. [OK]をクリックして、[コンピュータの管理]を閉じます。

結果

ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"、"SIMATIC HMI" および"SIMATIC HMI VIEWER"のメンバーシップがあるユーザー"DM_Demo"が設定されています。

これでユーザーは Webcenter でディレクトリを作成できるようになり、WinCC データベースに接続できます。

注記

リモートアクセス用のログイン

ユーザーが DataMonitor サーバー経由でリモートコンピュータにアクセスする場合、その Windows ユーザーは、DataMonitor サーバーとリモートサーバーで同じパスワードでセットアップされる必要があります。

3.1.3.2 DataMonitor に対するユーザーの管理

はじめに

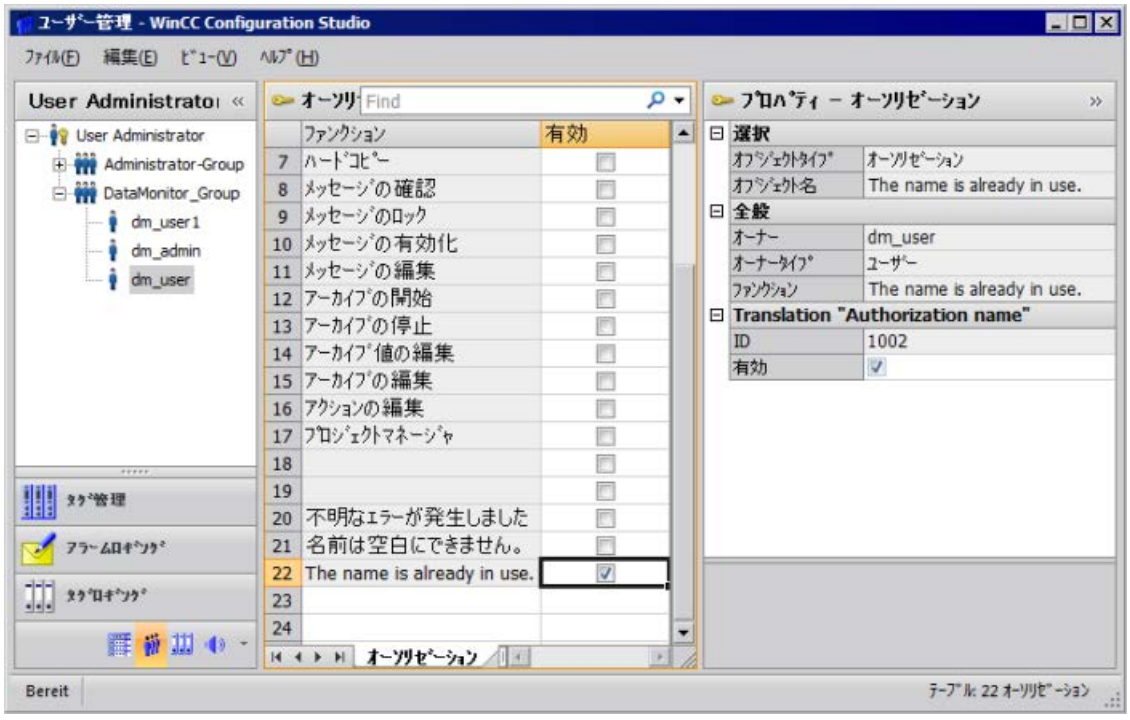
DataMonitor クライアントで特定の機能を使用するには、DataMonitor ユーザーとしての認証と WinCC ユーザーとしての認証が必要です。 "WinCCViewerRT"および"Excel Workbook"では 1 人の WinCC ユーザーを使用します。

DataMonitor クライアントで DataMonitor ユーザーおよび WinCC ユーザーとして作業する場合、2 回ログオンする必要があります。 1 回だけログオンするには以下の 2 つの方法があります。

- DataMonitor ユーザーと WinCC ユーザーの名前とパスワードを同一にします。
  ユーザーを Windows と WinCC で構成し、"SIMATIC HMI"および"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループに追加する必要があります。
- SIMATIC logon はユーザーの一元管理を可能にします。
  SIMATIC logon を DataMonitor と併用するには、DataMonitor ユーザーを"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループにも追加する必要があります。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[ユーザー管理者]エントリを選択します。 ショートカットメニューから[開く]コマンドを選択します。 [ユーザー管理者]エディタが開きます。



2. ナビゲーションウィンドウで、ユーザーを選択するか、ユーザーを新規作成します。
3. ユーザーグループを選択してから、ショートカットメニューを開きます。 [新規ユーザー]エントリを選択します。 ユーザーの名前は、<F2>ファンクションキーまたはショートカットメニューコマンド[名前の変更]を使って直接変更することができます。 ユーザーは、あらかじめこの目的で選択されている必要があります。
4. [ログイン]で、名前と最低 6 文字のパスワードを入力します。
   [OK]をクリックします。
5. テーブルウィンドウで、新たに作成されたユーザーを選択します。 ユーザーのプロパティが表示されます。
6. [WebNavigator]オプションを有効にします。 [Web の開始画像]の隣にあるドロップダウンリストから開始画像を選択します。
7. 選択された言語を確認し、必要な場合は[Web 言語]の隣にあるドロップダウンリストを使ってこの設定を変更します。 [WebNavigator]または[PureWebClient]のいずれか 1 つが有効な場合にのみ、ドロップダウンリストから新しい言語を選択することが可能です。 テキストライブラリで作成された言語は、選択用に使用できます。
8. ユーザーには、少なくともオーソリゼーション[Web アクセス - モニタリングのみ]が必要です。
   テーブルウィンドウの行で、[有効]列の該当するオーソリゼーションを有効にします。
9. ユーザー管理者を閉じます。

3.1.3.3 DataMonitor Web ページの設定

はじめに

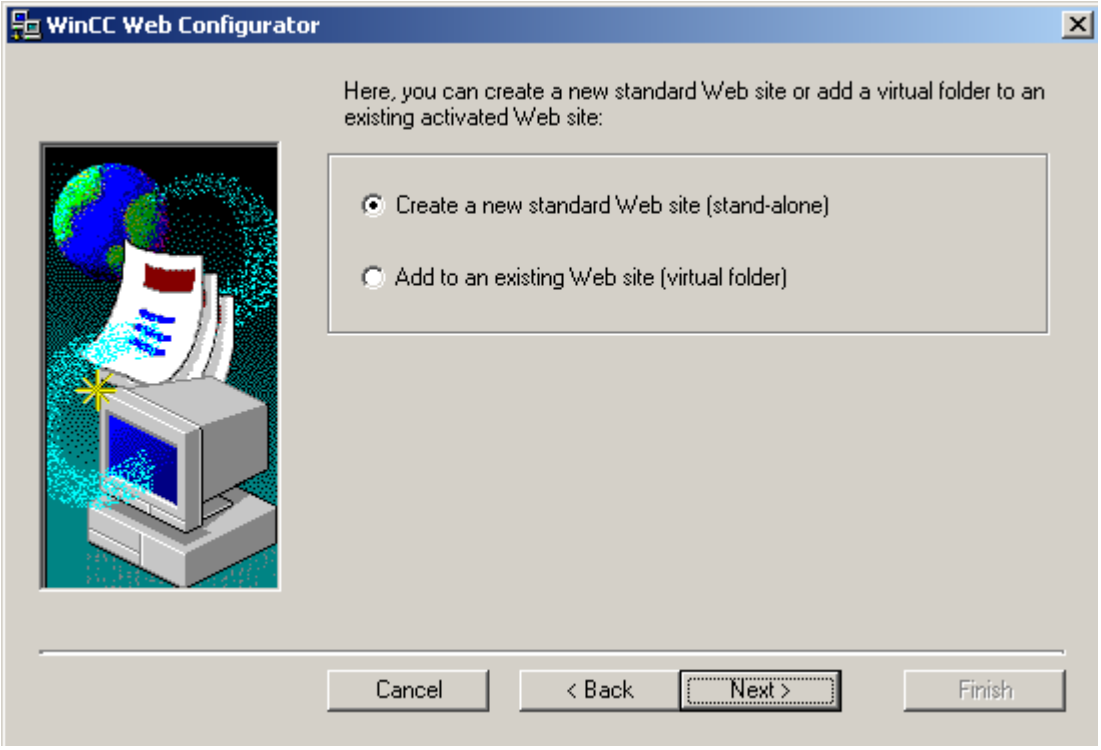
WinCC Web Configurator を使用して、DataMonitor Web ページを作成します。

必要条件

- DataMonitor サーバーがインストールされている。
- Windows の「インターネット インフォメーション サービス」コンポーネントがインストールされている。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで"Web Navigator"を選択します。ショートカットメニューで[Web Configurator]コマンドをクリックします。
   または「Siemens Automation」プログラムグループのエントリ[Web Configurator]を選択します。
2. Web Configurator は、すでに設定されているかどうかを検出します。
   – 設定が見つからない:[標準 Web サイト(スタンドアロン)の新規作成]を起動します。[次へ]をクリックします。



   – 設定が見つかった:[次へ]をクリックし、設定を確認します。

3. [Web ページの名前]を選択して、名前を入力します。

4. アクセスに使用するポートの番号を、[ポート]ボックスに入力します。
5. [IP アドレス]で、コンピュータをイントラネットまたはインターネットまたは両方のネットワークで使用できるかを指定します。
   選択リストで使用できるアドレスだけを使用します。
   [すべて割り付けない]を選択すると、イントラネットおよびインターネットでコンピュータにアクセスできます。
6. デフォルトの Web ページとして、[DataMonitor.asp]を選択します。
7. 接続エラーの場合は、DataMonitor クライアントが自動的に接続を再確立し始めるまでの時間間隔を、指定します。時間設定が[0 秒]であると、[自動再接続]ファンクションが無効になります。
8. 設定が完了したら、Web ページを起動するかどうかを指定します。
9. ファイアウォールを起動していない場合、[終了]をクリックします。
   ファイアウォールがすでにインストールされている場合、[次へ]をクリックします。ファイアウォールのセットアップ方法については、以下のページを参照してください。

結果

Web フォルダが作成されており、Web ページが有効になっています。ファイアウォールが有効になっている場合、Web Configurator を使用してその設定を設定します。

3.1.3.4 ファイアウォールの設定

はじめに

このセクションでは、例として Windows Server 2016 を使用した「HTTP」と「HTTPS」サービスを有効にする方法を説明します。

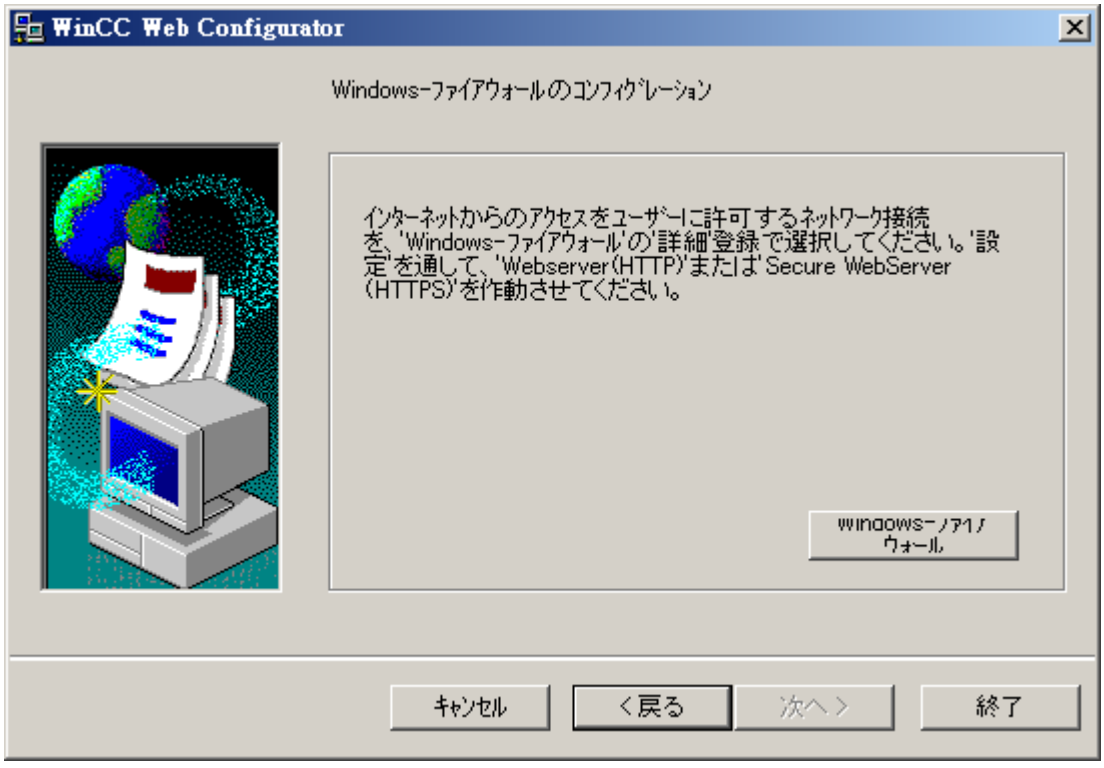
高度なセキュリティで、または別のポートに Windows ファイアウォールをセットアップする場合、ネットワーク管理者にご相談ください。

必要条件

- Web Configurator を使用してデフォルトの Web ページが作成されている。
- ファイアウォールが起動されている。
- ログオンしているユーザーが Windows 管理者権限を持っている。
- WebNavigator に HTTPS サービスを使用している場合、IIS で HTTPS サービスをセットアップする必要があります。
  詳細については、「IIS での HTTPS サービスのセットアップ (http://support.microsoft.com/kb/324069)」を参照してください。

デフォルトのポートの手順

1. [WinCC Web Configurator]の[Windows ファイアウォールの設定]ページへ切り替えます。
2. [Windows ファイアウォール]ボタンをクリックします。



[Windows ファイアウォール]ダイアログが開きます。

3. [Windows ファイアウォールを介してアプリが通信することを許可する]をクリックします。
4. [World Wide Web サービス(HTTPS)を保護]を有効にします。
5. [OK]を押してすべての Windows ダイアログを閉じます。
6. Web Configurator の[終了]をクリックします。
   サーバー設定が完了します。

3.1.3.5 Web View Publisher を使って WinCC プロセス画像を発行する方法

はじめに

Web View Publisher を使用して、グラフィックデザイナに作成したプロセス画像を発行します。発行中、WinCC Web 発行ウィザードがサポートします。

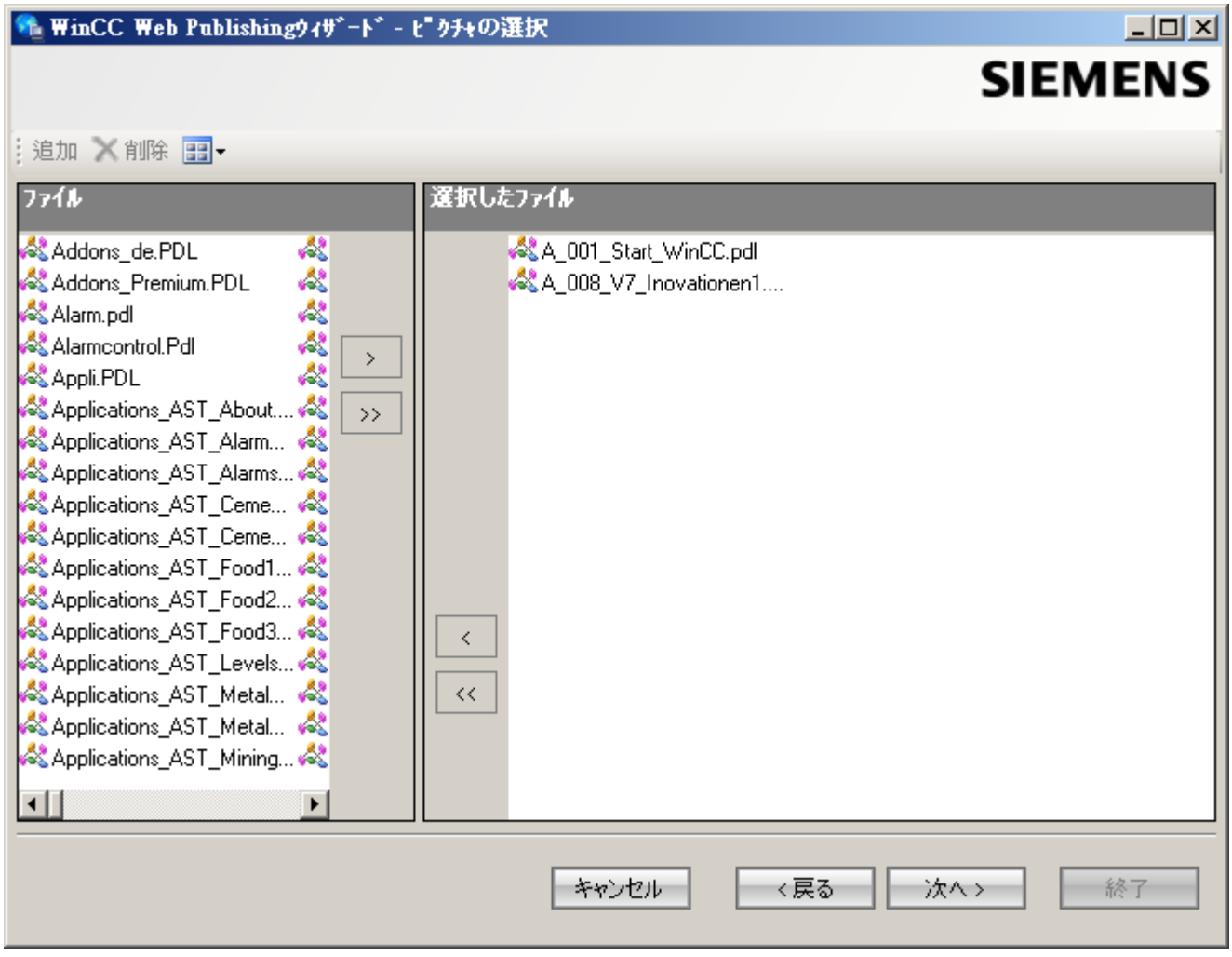
手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで"Web Navigator"を選択します。
   ショートカットメニューで"Web View Publisher"コマンドを選択します。
   これで WinCC Web 発行ウィザードが起動しました。

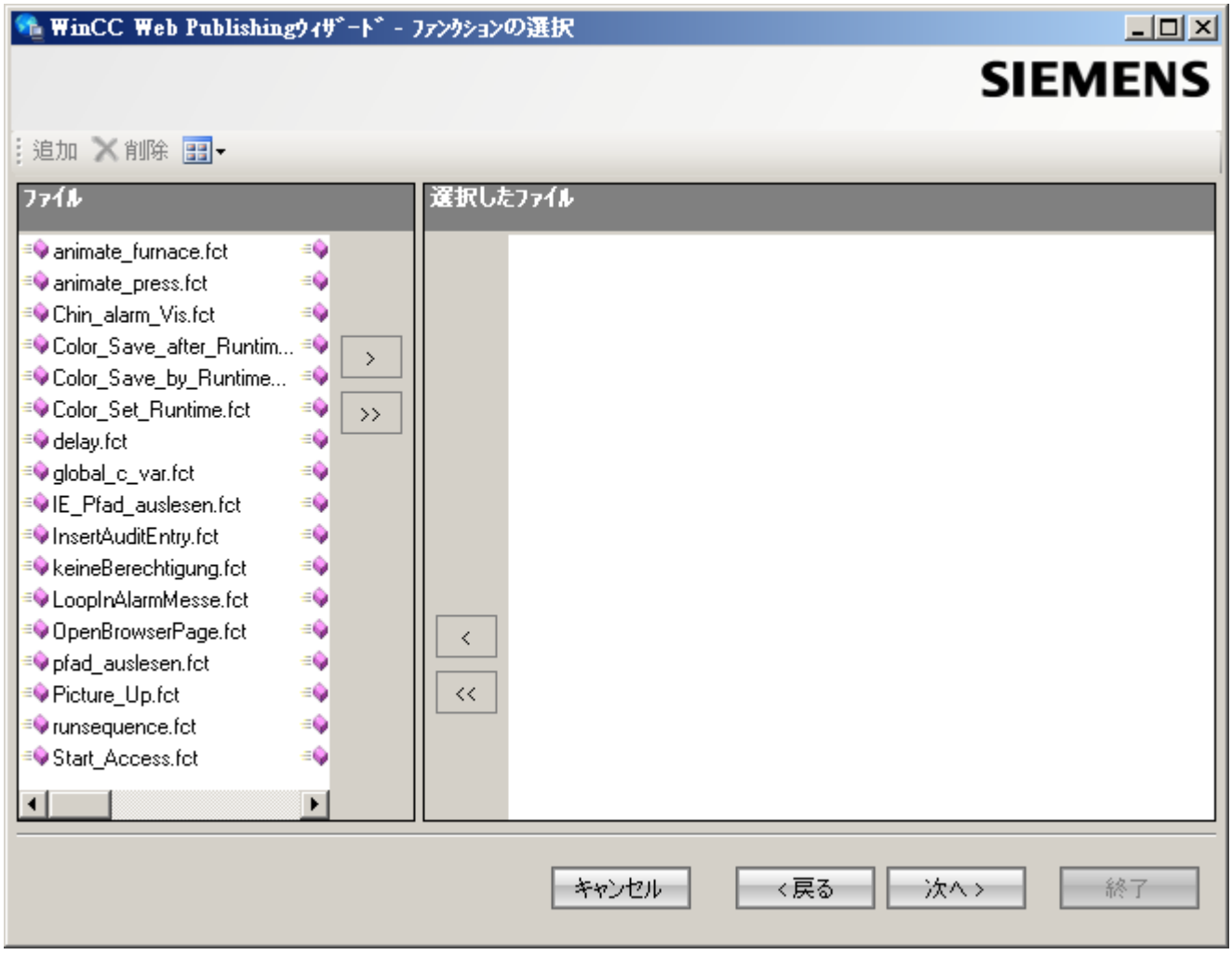
2. [次へ]をクリックします。

3. 専用 Web サーバーで画像を発行する場合、[サーバー接頭辞]オプションを有効にします。
   WinCC プロジェクトを含む WinCC サーバーの接頭語を、選択リストから選択します。
   WinCC クライアントにパッケージがロードされているサーバーの接頭辞が、リストに表示されます。
   選択肢から接頭辞を削除すると、その下の各フィールドに表示されたパスが変更されます。
4. [WinCC プロジェクトへのパス]で、発行する画像を含む WinCC プロジェクトフォルダを選択します。
   フォルダは、専用 Web サーバーで発行するため、以下の形式です。
   "\\<servername>\<serverprefix>_ _<projectname>".
   リモートステーションから発行する場合、画像を含むソースプロジェクトを選択します。
   ソースプロジェクトは、他の WinCC サーバーでのイネーブル名で表示されます。
   フォルダには、以下の形式があります。
   「\\<コンピュータ名>\<イネーブル名>」。

5. [WinCC Web の発行フォルダ]で、発行されている画像のターゲットフォルダを選択します。WinCC プロジェクトフォルダ内の提案フォルダを受け入れます。
   画像をたとえば他のプロジェクトに転送する場合を除き、パスの仕様を変更しないでください。この場合、これに対応して、接頭辞選択リストが拡張されます。
   発行画像のリモート発行中の保存先である指定されたターゲットプロジェクトを、確認します。
   パスの定義は、ソースプロジェクトを選択すると更新されます。
   ターゲットプロジェクトが別の WinCC サーバー上に配置されている場合、対応するプロジェクトを選択します。
6. [非表示オブジェクトを表示]オプションを選択し、自動的に発行された非表示オブジェクトを、結果リストに表示します。
7. [次へ]をクリックします。[選択されたファイル]リストに、発行する画像を移動します。

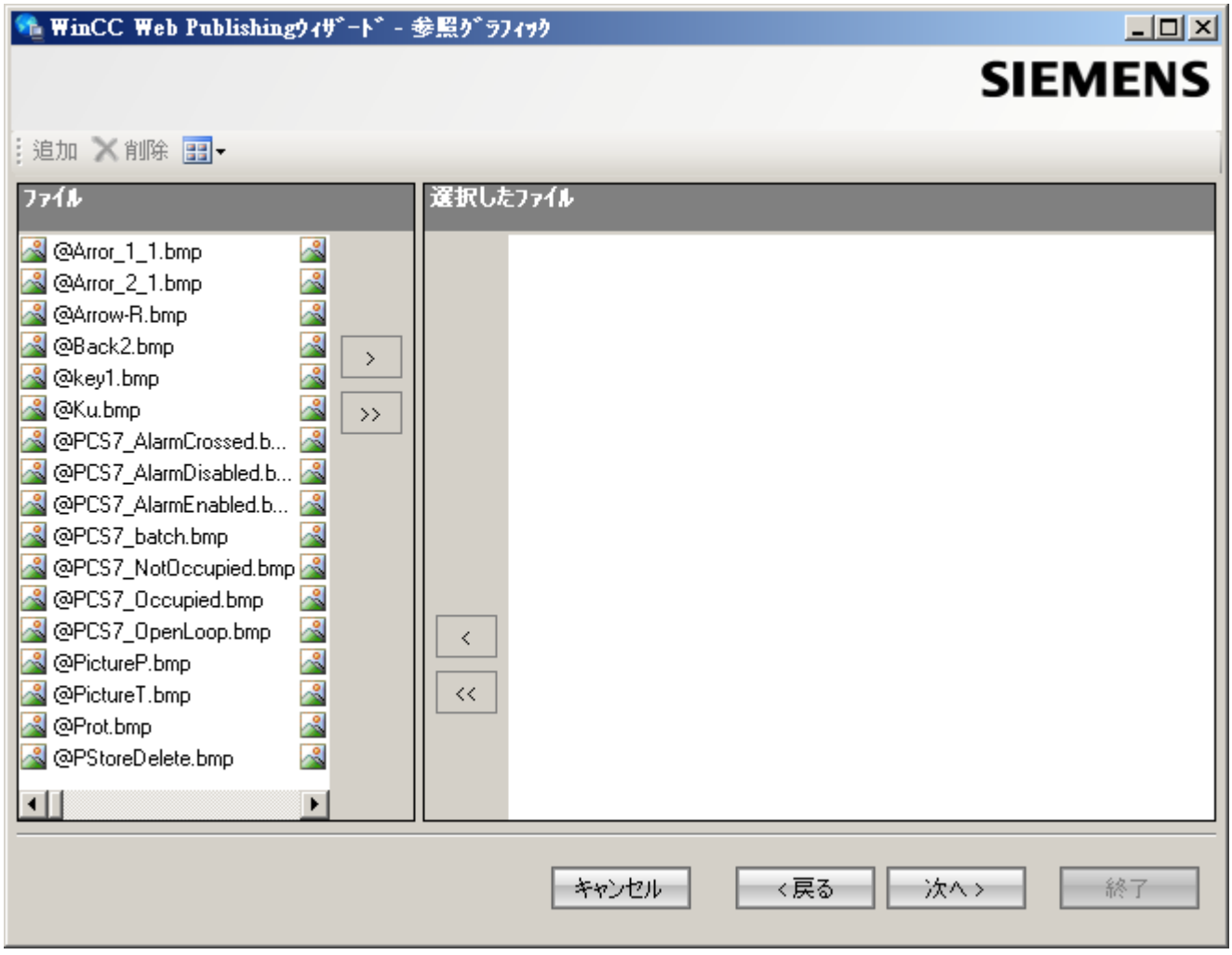


8. [次へ]をクリックします。発行された画像で使用する C プロジェクト関数を、[選択されたファイル]リストに移動します。VB スクリプトを個々に発行することはできません。



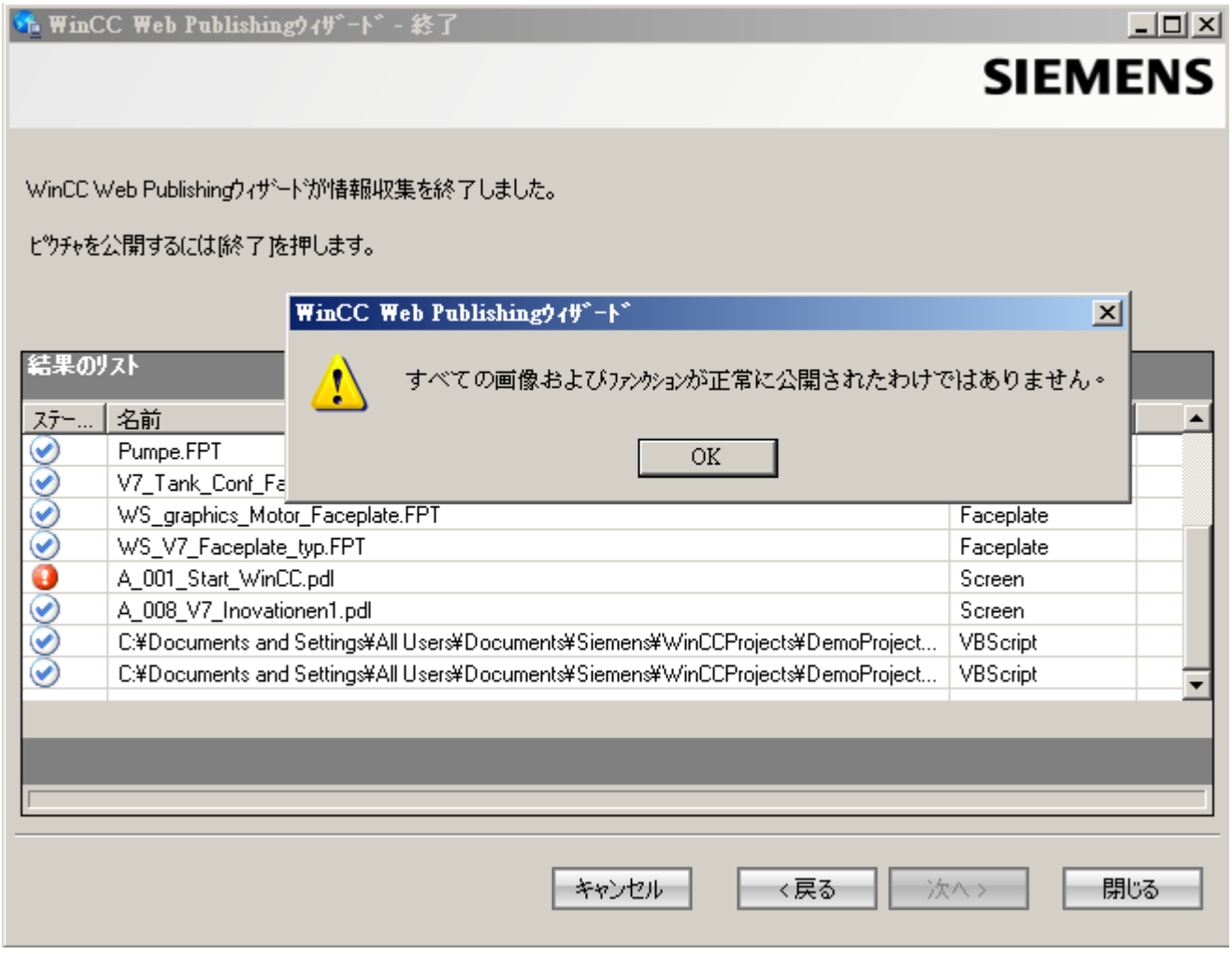
[次へ]をクリックします。

9. [選択されたファイル]リストに、発行する参照グラフィックを移動します。参照されたファイルは、"GraCS"フォルダまたは"GraCS"のサブフォルダにあります。



[次へ]をクリックします。

10. [終了]をクリックして画像の発行を開始します。



結果

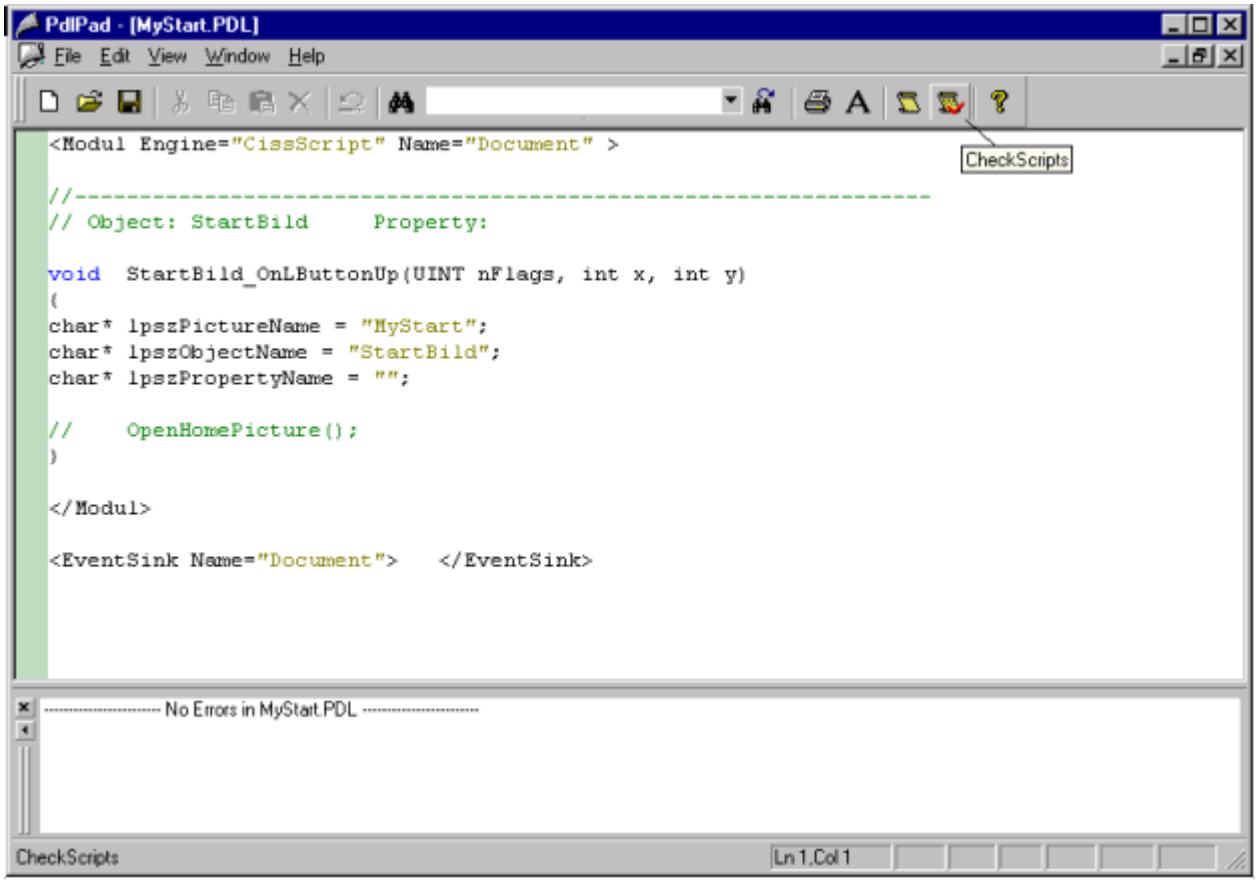
画像および関数が、正常に発行されました。結果リストに、すべての発行オブジェクトのステータスが表示されます。オブジェクトをクリックして、追加のオブジェクト情報を表示することができます。

「**<**プロジェクトフォルダ**>**\WebNavigator\WizardLog.txt」ファイルを使用して、発行を追跡できます。

"PdlPad"を使用したスクリプトの確認

"WizardLog.txt"ログファイルには、使用するスクリプトのエラーの情報が含まれています。"PdlPad"デバッガを使用しても、エラーを見つけることができます。

1. Web View Publisher の結果リストで、影響を受けるオブジェクトをダブルクリックして、"PdlPad"を開きます。発行画像のスクリプトが表示されます。



2. スクリプトを確認するには、をクリックします。
3. 一時的にスクリプトを変更して保存できます。これらの修正は発行する画像にのみ保存され、WinCC プロジェクトのプロセス画像には保存されません。

または、「Siemens Automation」プログラムグループで「PdlPad」を開きます。

3.1.4 DataMonitor クライアントでの作業

3.1.4.1 Internet Explorer のセキュリティ設定

はじめに

DataMonitor クライアントの全機能に対して、Internet Explorer のセキュリティ設定を適用します。

必要条件

- Internet Explorer がインストールされている。

手順

1. Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション]をクリックします。
   [インターネット オプション]ダイアログが開きます。
2. [セキュリティ]タブを選択します。
3. [信頼済みサイト]アイコンを選択して、[サイト]ボタンをクリックします。
   [信頼済みサイト]ダイアログが開きます。
4. DataMonitor サーバーのアドレスを[この Web サイトをゾーンに追加する]フィールドに入力します。
   使用できる形式とワイルドカードには、"*://157.54.100 - 200"、"ftp://157.54.23.41"、"http://*.microsoft.com"が含まれます。
5. [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする]チェックボックスをオフにします。
   [追加]をクリックします。
   [OK]をクリックし、エントリを確定します。
6. [信頼済みサイト]アイコンを選択します。
7. [デフォルトレベル]をクリックします。
   次のダイアログで[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
   [セキュリティ設定]ダイアログボックスが開きます。
   – [スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行]下の[有効にする]オプションをオンにします。
   – [OK]をクリックし、エントリを確定します。
8. [OK]をクリックして[インターネット オプション]ダイアログを閉じます。

結果

DataMonitor クライアントの Internet Explorer で必要な設定が、設定されます。

ユーザー認証:Internet Explorer での[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定が有効な場合

[ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ]タブ > [レベルのカスタマイズ]ボタン > [ユーザー認証]エントリ > [ログオン]で、[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定が Internet Explorer で有効になっている場合、以下の必要条件下で予期しない動作が発生することがあます。

必要条件

- Internet Explorer の[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定が有効である。
- ユーザーが、DataMonitor サーバーのユーザーグループで設定されていない WinCC ユーザーとして DataMonitor クライアントにログインしている。
- DataMonitor サーバーでユーザー名としてセットアップされている Windows ログオンを使って、ユーザーがコンピュータにログインしている。

動作

1. DataMonitor サーバーが、DataMonitor クライアントにログインしたことのあるユーザーとして WinCC ユーザーを認識しないため、ユーザー名が拒否されます。ユーザーにはこの動作は表示されません。
2. Internet Explorer は、現在の Windows ログインをユーザー名として使用し、自動的に新規ログインを開始します。
3. DataMonitor サーバーは、Windows ログインを DataMonitor ユーザー名として認識し、このユーザーに対してログインを許可します。
4. ユーザーはログインしていますが、ユーザーが入力した DataMonitor ユーザー名ではログインしていません。現在の DataMonitor ユーザーは表示されません。

推奨される操作

[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定を無効にします。

この設定を使用するのは、Windows ログインと DataMonitor のユーザー名が明らかに区別されている場合のみにしてください。

3.1.4.2 DataMonitor クライアントの DataMonitor スタートページ

概要

DataMonitor クライアントを、スタンドアロンコンピュータまたは DataMonitor サーバーで起動します。 DataMonitor のスタートページには、以下の DataMonitor の機能が要約されています。

- "Reports":
  印刷ジョブおよび発行されている Excel ワークブックの分析結果およびプロセスデータの作成と出力。
- "Webcenter":
  アーカイブデータを表示するための Webcenter ページの作成。
- "Trends & Alarms":
  アーカイブからのアラームおよびプロセス値の表や図での表示。
- "Administration"
  接続のコンフィグレーションおよびユーザー、アーカイブ、画像の管理。

必要条件

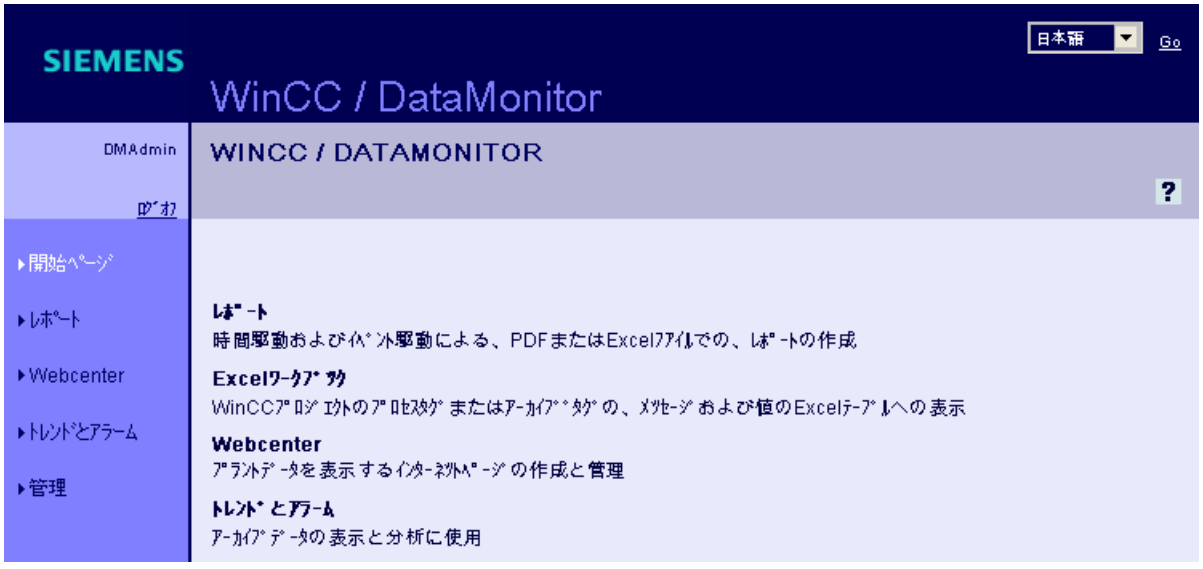
- ユーザーが WinCC で作成されている。
- ユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または "SIMATIC Report Users" のメンバである必要があります。
- DataMonitor サーバーで、WinCC プロジェクトがランタイムである。

手順

1. DataMonitor クライアントで Internet Explorer を起動します。
2. DataMonitor サーバーの名前を"http://<servername>"形式で URL に入力します。
   <Enter>キーを押してエントリを確定します。
   ログインダイアログが開きます。
3. Windows ユーザーの名前と関連するパスワードを入力します。 [OK]ボタンで確定します。

結果

DataMonitor 機能のスタートページが表示されます。 機能の使用はユーザーのアクセス権によって異なります。



DataMonitor クライアントの一般操作

- 必要なインターフェース言語を、ヘッダーの選択フィールドから選択します。
- 必要に応じて、"Webcenter"および"Trend & Alarms"のページのヘッダーを非表示にします。
  をクリックします。
  ヘッダー行を再表示するには、シンボルをクリックします。
- DataMonitor サーバーからログオフするには、[ログオフ]リンクをクリックします。
  Internet Explorer を終了して、使用したライセンスを直ちに解放します。

下記も参照

レポートの取り扱い (ページ 497)

トレンドおよびアラームでの作業 (ページ 461)

Webcenter での作業 (ページ 429)

3.1.5 WinCCViewerRT での作業

3.1.5.1 WinCCViewerRT の設定

はじめに

WinCCViewerRT は、WinCC プロジェクトを表示するためのプログラムです。

WinCCViewerRT を、DataMonitor サーバーおよびグラフィックランタイムで動作するように設定できます。

プロジェクト設定を使用

[プロジェクト設定を使用]オプションを選択すると、次の設定が DataMonitor サーバーにより適用されます。

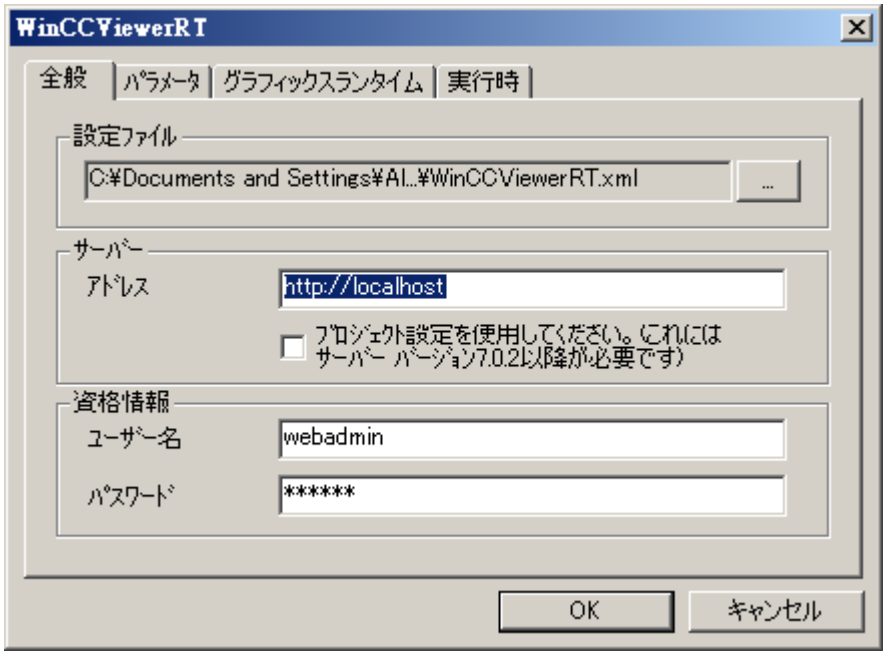
- ユーザー管理者:
  - 自動ログオフ
- コンピュータプロパティ:
  - ランタイム言語
  - ランタイムのデフォルト言語
  - 開始画像
  - メニューとツールバーの初期設定
  - ハードウェアアクセラレーテッドグラフィック表現(Direct2D):

必要条件

- サーバーに
  - DataMonitor サーバーがインストールされている。
  - WinCC/DataMonitor ライセンスがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
  - WinCC ユーザーには、オーソリゼーション番号 1002 - 「Web Access - monitoring only(モニタ限定)」が付与されていることが必要です。
- クライアントに
  - DataMonitor クライアントがインストールされている。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ「WinCCViewerRT」を選択します。
   WinCCViewerRT を再設定すると、[設定]ダイアログが開きます。
   WinCCViewerRT がすでにセットアップされている場合、WinCCViewerRT が開きます。
   <Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを使用して、WinCCViewerRT の設定ダイアログを開きます。



2. ログインデータを[全般]タブで入力します。
   – サーバーアドレス:"http://<Servername>"または"http://<IP-Adresse>"
   – プロジェクト設定を使用:DataMonitor サーバーの設定を適用
   – ユーザー名とパスワード(ログインダイアログにデフォルトユーザーを指定する場合)。
3. [パラメータ]タブでランタイム言語を指定します。
   必要であれば、ユーザーが他のプログラムに切り替えるキーの組み合わせを無効にします。
   必要な場合、WinCCViewerRT 設定ダイアログを開くために使用する事前に設定されている<Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを、変更できます。
   ユーザーがログオフでき、新規ユーザーがログオンできるキーの組み合わせを定義します。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが[全般]タブで設定されていない場合のみ、使用できます。

4. [グラフィックランタイム]タブで、WinCC Runtime プロパティを指定します:
   - 開始画像
   - ユーザー定義のメニューおよびツールバーの設定ファイル
   - ウィンドウ属性
   - 容認されないユーザー操作

5. [ランタイム]タブで、追加のユーザー操作を指定します:
   - スクリーンキーボードの有効化
   - スクリーンキーボードを介してタスクマネージャまたはオペレーティングシステムに切り替えることができるようにする<Ctrl+Alt+Del>キーの組み合わせ。
   - 自動ログオフの設定

6. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。

結果

WinCCViewerRT が設定されます。

DataMonitor サーバーへの接続は、ダイアログを閉じた後にセットアップされます。

設定は、"WinCCViewerRT.xml"設定ファイルに保存されます。設定ファイルの設定は、WinCCViewerRT の次の起動で使用されます。

WinCCViewerRT が、WinCC からのユーザーインターフェース言語を適用します。

設定ファイルは、オペレーティングシステムに応じて次のフォルダに保存されます。

- <User>\AppData\LocalLow\Siemens\SIMATIC.WinCC\WebNavigator\Client

ファイル名を、たとえば"User1.xml"に変更できます。

また、ユーザー固有の設定ファイル(たとえば"WinCCViewerRT.exe User1.xml")を使用してコマンドラインによって WinCCViewerRT を起動することもできます。この手順により、ログオンしているユーザーによって異なる設定ができるようになります。

"WinCCViewerRT.xml"を削除または名前変更すると、WinCCViewerRT 設定ダイアログが起動時に開きます。WinCCViewerRT を再設定するか、または他の設定ファイルを選択します。

注記

WinCCViewerRT は、ショートカットを無効にするか、または[閉じる]ボタンを非表示にすると、スクリプト関数によってのみ閉じることができます。

C スクリプトの関数:DeactivateRTProject、VBScript の関数:HMIRuntime.Stop。

3.1.5.2 画像の表示

必要条件

- DataMonitor サーバーで、WinCC/DataMonitor ライセンスがインストールされている。
- DataMonitor サーバーで、WinCC プロジェクトがランタイムである。
- WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
- WinCC ユーザーには、オーソリゼーション番号 1002 - 「Web Access - monitoring only(モニタ限定)」が付与されていることが必要です。
- WinCCViewerRT が DataMonitor クライアントで設定されている。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ「WinCCViewerRT」を選択します。
2. DataMonitor サーバーにログオンします:
   - ユーザー名とパスワードが WinCCViewerRT 設定ダイアログに設定されている場合、ログインダイアログは表示されません。保存されているログインデータで自動的にログオンされます。
   - ユーザー名とパスワードが WinCCViewerRT 設定ダイアログに設定されていない場合、ログインダイアログが表示されます。WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。[OK]をクリックします。
3. ユーザーを変更するには、「WinCCViewerRT」のログイン/ログオフ用の指定されたキーの組み合わせを使用します。前のユーザーがログオフされます。ログインダイアログで、新しい WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。[OK]をクリックします。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが設定されていない場合のみ使用できます。

結果

WinCCViewerRT が、有効な WinCC プロジェクトに自動的に接続されます。WinCC プロジェクトの画像が表示されます。

「表示専用カーソル」は、プロセス関連の操作ができないことを示します。

WinCC OnlineTrendControl の[プロパティ]ダイアログを開くような、特定の操作はできます。

必要であれば、ユーザー自身のカーソルアイコンを、「表示専用カーソル」として使用することもできます。詳細については、「ランタイム設定の設定 (ページ 410)」を参照してください。

<F5>キーは WinCCViewerRT の再選択をトリガします。

3.1.6 DataMonitor の使用

3.1.6.1 接続と言語設定

はじめに

DataMonitor クライアントのランタイムデータおよびアーカイブデータへのアクセスのため、"Webcenter"で WinCC データベースへの接続を設定します。

データソースごとに、接続を設定します(例: WinCC サーバーへの接続)。

Webcenter ページおよび"Trends & Alarms"の設定された接続が必要です。

必要条件

- ユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- DataMonitor 経由で WinCC データベースにアクセスするため、"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループのメンバでありパスワードを持っている Windows ユーザーが作成されている。

手順

1. スタートページの"Webcenter > Administration"をクリックします。
2. [接続管理]タブをクリックします。

3. [新規接続]オプションを選択します。
   新規にインストールした後は、接続がまだ設定されていないため、[接続]ボックスには選択できるものが表示されません。
4. サーバーの言語地域または[言語地域]でリンクされるアーカイブに対応する言語を、選択します。
   この設定により、国固有の特殊文字が、確実に正しく表示されます。
5. "WinCC1_Runtime"などの名前を、[接続名]ボックスに入力します。
   名前には、選択された接続タイプへの参照が含まれている必要があります。
   ブランクスペースまたは特殊文字を使用しないでください。
6. アーカイブのバックアップデータを保存するコンピュータ名を入力します。
   または、[検索]ボタンを使ってコンピュータの名前を選択します。
7. WinCC データベースとの接続用パスワードを持っている Windows ユーザーを入力します。

8. WinCC データへの接続タイプを選択します:
   - [スワップアウトされた WinCC アーカイブ]。
     スワップされたアーカイブのデータにアクセスするには、追加ステップが必要です。詳細については、「スワップされたアーカイブの接続または分割 (ページ 439)」を参照してください。
   - [WinCC Runtime]。
     ランタイムデータベースのオープンな単一セグメントのみが使用されます。
   - [WinCC Runtime + 全セグメント]。
     ランタイムデータベースのオープンな単一セグメントおよびその他の接続されたセグメントすべてが使用されます。
9. 以下の接続タイプのデータベースを選択します。
   - [スワップアウトされた WinCC アーカイブ]:
     [データベースを表示]をクリックするか、またはリストからアーカイブを選択します。
   - [WinCC Runtime]:
     有効な WinCC プロジェクトのランタイムデータベースを選択します。または、[検索]ボタンを使ってデータベースの名前を選択します。
   - [WinCC Runtime + 全セグメント]:
     "CC_ExternalBrowsing"が自動的にデータベースとして入力されます。
10. データベース名がセグメント変更中に接続管理で調整されるように、[RT データベースの自動適応]を有効にします。
11. [作成]ボタンをクリックします。

結果

データソースへの接続が作成され、接続管理の[接続]ボックスで選択できます。

3.1.6.2 "Trends and Alarms"経由のプロセス値とメッセージの表示

プロセス値をテーブルに表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、アーカイブされたプロセス値およびテキストをテーブルに表示します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [プロセス値テーブル]タブをクリックします。
   Webpart の[プロセス値テーブル]が表示されます。
3. をクリックします。Webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。[ツールヒント]フィールドにメモを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。
   この接続を通して、使用できるアーカイブタグが表示されます。
   必要に応じてタグの表示を制限します:
   – [アーカイブ選択]を使用して個々のアーカイブを選択します。
   – [タグフィルタ]を使用してフィルタ基準を設定します。
6. 必要なアーカイブタグに対して[追加]をクリックします。
7. [期間]領域で時間範囲を設定します。
   相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。
   入力する時間の詳細については、 をクリックしてください。
   [プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
8. [小数点の表示]領域で小数点以下の桁数を指定します。
9. [テーブルサイズ]領域で、表示ウィンドウのサイズを定義します。
   両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。サイズは Webpart のスペース要件によって決まります。
10. 使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。 をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに webpart を割り付けます。
11. [OK]をクリックして入力を確定します。

結果

アーカイブタグの値および品質コードは、プロセス値テーブルに出力されます。

ランタイム中にアーカイブ値を手動で入力できる場合、変更または新規に作成された値はそのように識別されます。アーカイブ値が手動で入力されたことを示すために、個別の列に「m」が表示されます。

操作:

	選択された時間範囲で、前方または後方スクロールに必要な絶対時間。
矢印ボタン	複数ページのテーブルで前方または後方にスクロール。
	CSV フォーマットでのアラームのエクスポート。
	Webpart の設定の変更。

プロセス値の図表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、アーカイブされたプロセス値をトレンドに表示します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

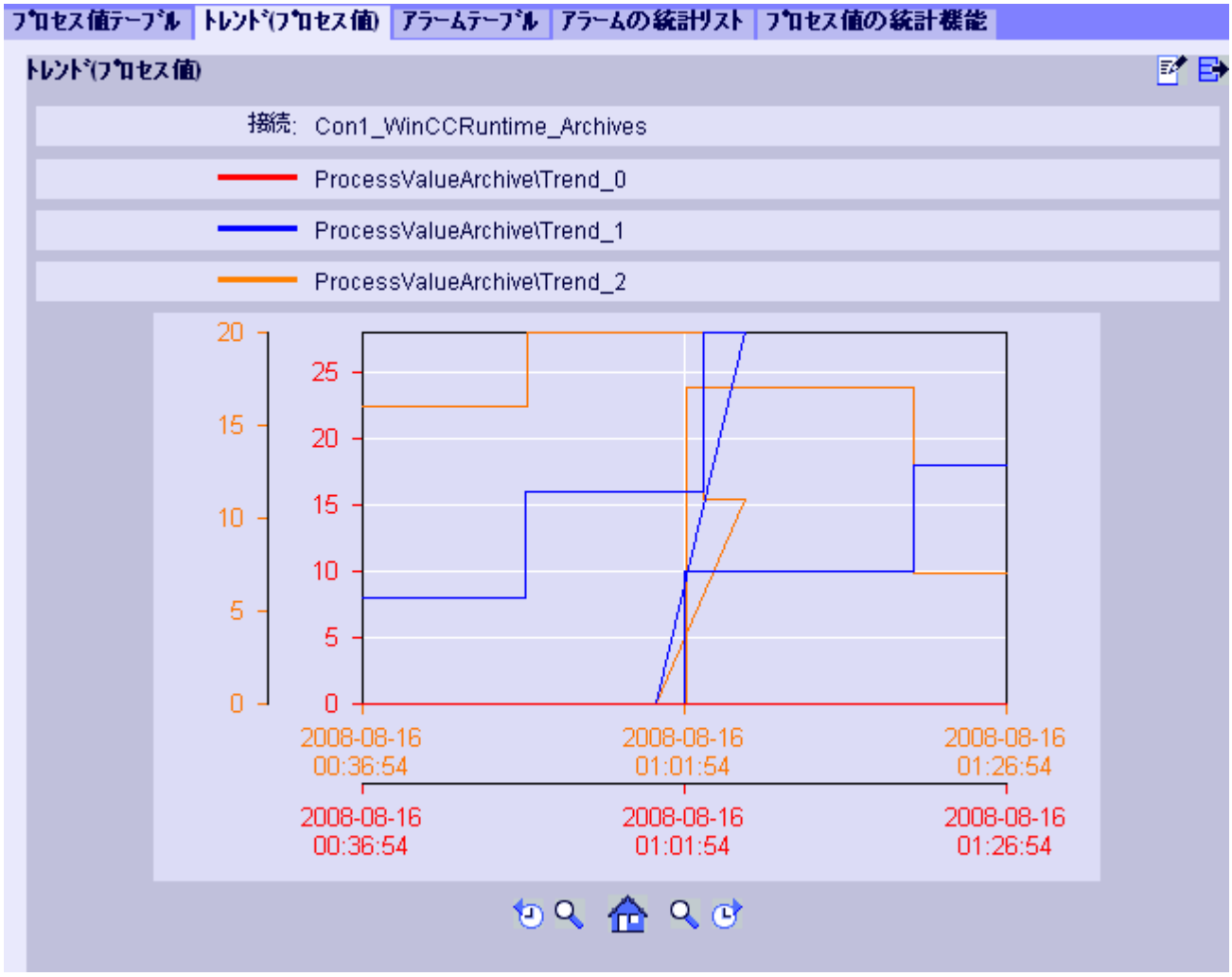
手順

1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [トレンド(プロセス値)]タブをクリックします。 Webpart の[トレンド(プロセス値)]が表示されます。
3. をクリックします。Webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。 [ツールヒント]フィールドにメモを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。この接続を通して、使用できるアーカイブタグが表示されます。
   必要に応じてタグの表示を制限します:
   – [アーカイブ選択]を使用して個々のアーカイブを選択します。
   – [タグフィルタ]を使用してフィルタ基準を設定します。
6. 必要なアーカイブタグ(「TREND_0」、「TREND_1」、「TREND_2」など)に対して[追加]をクリックします。
   アーカイブタグが[現在の選択]領域に一覧表示されます。
7. [現在の選択]セクションで、個々のアーカイブタグを指定します:
   – 時間軸および値軸の色
   – トレンド表示タイプ
8. [値軸エディタ]セクションで、さまざまな値軸の自動スケーリングを有効にすることや、各軸の最大値および最小値を割り付けることができます。
9. [期間]領域で時間範囲を設定します。
   相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。
   入力する時間の詳細については、 ? をクリックしてください。
   [プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
10. [図の設定]セクションで、表示ウィンドウのサイズを定義します。
    両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。 サイズは Webpart のスペース要件によって決まります。
11. [凡例の表示]オプションを有効にして、凡例を表示します。

12. 使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。 をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに Webpart を割り当てます。
13. [OK]をクリックして入力を確定します。

結果

選択されたプロセス値が図のトレンドとして表示されます。



凡例にはアーカイブタグへの色の割り付けが表示されます。

操作:

	選択された時間範囲で、前方または後方スクロールに必要な絶対時間。
	中心線の左または右の表示および図の範囲を、拡大します。
	元の表示を復元します。

	CSV フォーマットで表示された図の値のエクスポート
	Webpart の設定の変更。

メッセージをアラームテーブルに表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、アラームテーブルにアラームを表示します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

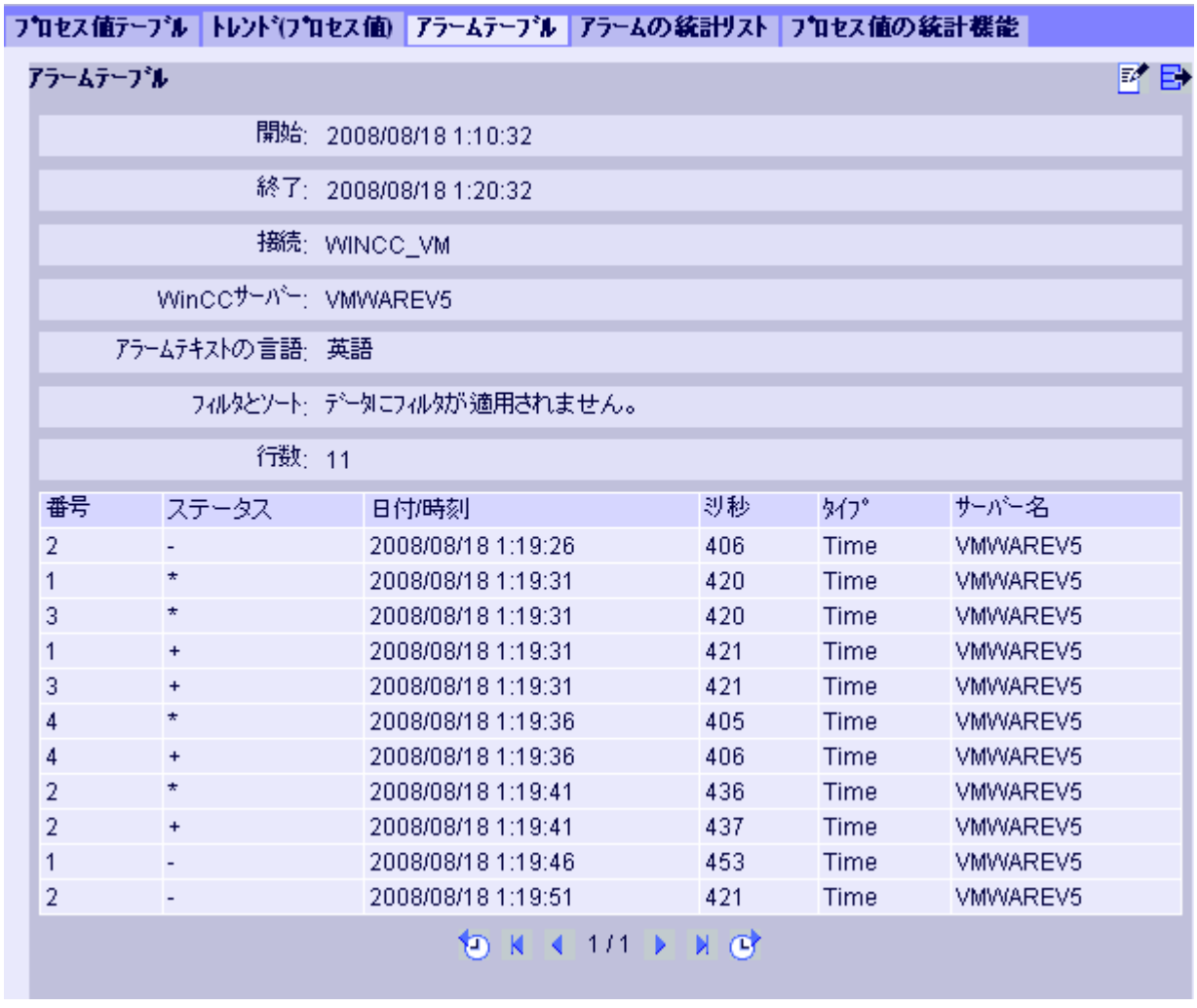
手順

1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [アラームテーブル]タブをクリックします。
webpart"アラームテーブル"が表示されます。
3. をクリックします。Webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。 [ツールヒント]フィールドにメモを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。
6. [期間]領域で時間範囲を設定します。
相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。
入力する時間の詳細については、 ? をクリックしてください。
[プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
7. [アラームテキストの言語]セクションで、アラームを表示する言語を選択します。
8. 必要に応じて、[WinCC サーバーの選択]を使用してそれぞれの WinCC サーバーを選択します。 複数の WinCC サーバーのアーカイブを含む、スワップされたアーカイブへの接続を選択する場合、この設定が必要です。
9. [フィルタの選択]セクションでは、予想される検索結果を SQL 構文で制限できます。
制限するための個々の欄のフィルタ条件を設定します。
すべての欄のフィルタ条件を、[拡張フィルタ]フィールドに入力します。
フィルタ条件の詳細については、 ? をクリックしてください。

10. データの表示に関して、以下を設定します。
    - ソート順: ソートの詳細については、?をクリックしてください。
    - 表示列: すべての列を表示するには、[すべて選択]をクリックします。
    - 小数点以下の桁数。
11. [テーブルサイズ]領域で、表示ウィンドウのサイズを定義します。
    両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。 サイズは Webpart のスペース要件によって決まります。
12. 使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。
    をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに Webpart を割り当てます。
13. [OK]をクリックして入力を確定します。

結果

結果がテーブルに出力されます。



番号	ステータス	日付/時刻	ﾐﾘ秒	ﾀｲﾌﾟ	ｻｰﾊﾞｰ名
2	-	2008/08/18 1:19:26	406	Time	VMWAREV5
1	*	2008/08/18 1:19:31	420	Time	VMWAREV5
3	*	2008/08/18 1:19:31	420	Time	VMWAREV5
1	+	2008/08/18 1:19:31	421	Time	VMWAREV5
3	+	2008/08/18 1:19:31	421	Time	VMWAREV5
4	*	2008/08/18 1:19:36	405	Time	VMWAREV5
4	+	2008/08/18 1:19:36	406	Time	VMWAREV5
2	*	2008/08/18 1:19:41	436	Time	VMWAREV5
2	+	2008/08/18 1:19:41	437	Time	VMWAREV5
1	-	2008/08/18 1:19:46	453	Time	VMWAREV5
2	-	2008/08/18 1:19:51	421	Time	VMWAREV5

操作:

	選択された時間範囲で、前方または後方スクロールに必要な絶対時間。
矢印ボタン	複数ページのテーブルで前方または後方にスクロール。
	CSV フォーマットでのアラームのエクスポート。
	Webpart の設定の変更。

3.1.6.3 Excel Workbook でのプロセス値の表示

Excel ワークブック

概要

Excel のアドイン"Excel Workbook"を使用して、DataMonitor クライアントの Excel ワークブックに、WinCC プロジェクトの以下のデータを表示できます。

- アラーム
- プロセスタグ値およびアーカイブタグ値
- その他の情報(タグのタイムスタンプや品質コードなど)

スワップされたアーカイブのデータは表示されません。

データは Excel によって評価され、たとえば平均値計算または図の表示として、グラフィックで表示されます。作成した Excel ワークブックは、"Reports"のテンプレートおよびレポートツールとして利用できるようになります。

必要条件

- "Reports"のダウンロード領域を使用して、Excel のアドイン"ExcelWorkbook Wizard"および"Excel Workbook"を DataMonitor クライアントにインストールします。
- 「リモートデスクトップ」ユーザーが、Windows ユーザーグループ「SIMATIC HMI Viewer」のメンバであること。

XML ファイルまたはオンラインによる構成

"Excel Workbook"を使用して、異なる WinCC サーバーのデータを、同時にオンラインでアクセスして処理することができます。これには、データを XML ファイルから取得するか、または Excel のアドイン"Excel Workbook Wizard" を使用して、設定中にローカル WinCC プロジェクトから取得する必要があります。XML ファイルを使用して、処理と評価を分離することができます。

- WinCC プロジェクトが DataMonitor サーバーで開きます。
  XML ファイルは、[設定データのエクスポート]機能で生成されます。
  次に Microsoft Excel を搭載したコンピュータに、XML ファイルを転送します。
  ワークブックのプロセスデータ表示を構成します。
  その後、プロセスデータをオンライン表示する DataMonitor クライアントに、ワークブックを転送します。
- WinCC プロジェクトのデータをオンラインで受け入れるには、直接 WinCC サーバーで構成するか、または対応する WinCC サーバーにオンライン接続されている WinCC クライアントで構成します。
- "Excel Workbook Wizard"を使用して、Excel ワークブックにデータをインポートします。
  次に、アラーム値およびタグ値の表示を構成します。

注記

Excel ワークブック内のテーブル名を変更すると、テーブルの設定データが失われます。

Excel ワークブックで最大 32,767 のプロセスタグとアーカイブタグを構成できます。"Excel Workbook"によるオンライン表示中、多数のタグがある場合、更新にかなりの遅延が発生することがあります。

Excel ワークブックの構成

WinCC プロジェクトからのデータの適用

はじめに

Excel ワークブックの設定には、WinCC 設定データが必要です。このため、"Excel Workbook Wizard" で設定中に、ローカル WinCC プロジェクトからデータを適用します。

必要条件

- サーバーコンピュータ
  - Microsoft Office がインストールされている。
  - Excel のアドイン"Excel Workbook"がインストールされている。
  - DataMonitor サーバーがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - ユーザーが WinCC で作成されている。
- 設定コンピュータ
  - Microsoft Office がインストールされている。
  - Excel のアドイン"Excel Workbook Wizard"がインストールされている。
- MS Office
  - 拡張子が"XLS"、"XLSX"、"XLSB"および"XLSM"の Excel ファイルのみ使用できます。

手順

1. 空の Excel ワークブックを開きます。
   [DataMonitor]メニューで"Excel Workbook Wizard"コマンドを選択します。
2. オプション[WinCC サーバーとの接続を確立する]を起動します。[WinCC サーバー]フィールドが表示されます。
3. 必要なサーバー名を入力して、[接続]をクリックします。ログインダイアログが表示されます。
4. WinCC ユーザーの名前とパスワードを入力します。
5. [次へ]をクリックします。[タグの追加/削除]ダイアログが開きます。

結果

プロセスデータの表示を設定するため、Excel ワークブックがセットアップされます。その後、ワークブックを発行します。ワークブックは、レポートツールまたは"Reports"用テンプレートとして、DataMonitor クライアントで使用できるようになります。

注記

Office パッケージ用言語と Windows 地域設定

Office パッケージ、「Microsoft Office の言語設定」および Windows の[地域と言語のオプション]に、同じ言語が設定されていることを確認します。

例:

- Office で[英語(英国)]言語を使用する場合、地域設定でも[英語(英国)]言語を選択します。
- Windows の地域と言語のオプションで[中国語(PRC)]を設定している場合、[Microsoft Office 言語設定]の主要な編集言語としても[中国語(PRC)]を選択する必要があります。

詳細については、以下の Microsoft サポートにお問い合わせください。http://support.microsoft.com/kb/320369/en (http://support.microsoft.com/kb/320369/ja)

下記も参照

タグ値の表示の設定 (ページ 349)

アーカイブタグの表示の設定 (ページ 352)

アラーム表示の設定 (ページ 356)

設定ファイルからのデータの適用

はじめに

WinCC サーバーに接続せずにレポートを作成することができます。

設定ステップ:

- サーバーに設定ファイルを作成します。
- 設定ファイルを使用してデータアクセスを設定します。
- 専用の Web サーバーや WinCC クライアントのデータアクセスも設定できます。

必要条件

- サーバーコンピュータ
  - DataMonitor サーバーがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトのオンラインタグが、1 つのタググループまたは 1 つの構造タイプの一部である。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - ユーザーが WinCC で作成されている。
- 設定コンピュータ
  - Microsoft Office がインストールされている。
  - Excel のアドイン"Excel Workbook Wizard"がインストールされている。
- MS Office
  - 拡張子が"XLS"、"XLSX"、"XLSB"および"XLSM"の Excel ファイルのみ使用できます。

サーバーでの設定ファイルの作成

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[WebNavigator]エントリを選択します。
   ショートカットメニューでメニューコマンド[設定データのエクスポート]を開きます。
2. [設定データのエクスポート]ダイアログで、エクスポートするデータを指定します。
   オンラインタグを 1 つのタググループあるいは 1 つの構造タイプで作成しない場合は、エクスポートの[構造無し(高速エクスポート)]オプションを使用します。
3. XML ファイルのパスと名前を指定します。
4. [エクスポート]をクリックします。XML ファイルが作成されます。
5. サーバーに Excel がインストールされていない場合、Excel と"Excel Workbook Wizard"がインストールされている別のコンピュータに、XML ファイルを転送します。

設定ファイルを使用したデータアクセスの設定

1. Excel がインストールされているコンピュータで、空の Excel ワークブックを開きます。
   [DataMonitor]メニューで"Excel Workbook Wizard"コマンドを選択します。
2. オプション[ファイルから設定データをロードする]を有効にします。[次へ]をクリックします。
3. 必要な XML ファイルに移動します。
4. [次へ]をクリックします。[タグの追加/削除]ダイアログが開きます。

結果

プロセスデータの表示を設定するため、Excel ワークブックがセットアップされます。その後、ワークブックを発行します。ワークブックは、レポートツールまたは"Reports"用テンプレートとして、DataMonitor クライアントで使用できるようになります。

専用の Web サーバーや WinCC クライアントのデータアクセスの、XML ファイルを使用した設定

専用 Web サーバーや WinCC クライアントからのプロジェクトデータを Excel ワークブックに表示する場合、Excel ワークブックを XML ファイルを使って設定するときに、以下の事項に従う必要があります。

- これで、XML ファイルには、DataMonitor サーバーにパッケージがある下部サーバーのデータも含まれるようになります。ロードされたパッケージの専用 DataMonitor サーバー/ WinCC クライアントへのエクスポートには、パッケージの大きさによって数分かかることがあります。
- この XML ファイルが Excel 設定コンピュータ上で使用できる必要があります。"Excel Workbook Wizard"の設定データをインポートする場合、サーバー接頭辞を入力します。
- WinCC プロジェクトの WinCC クライアントで Excel ワークブックのデータ表示を設定する場合、サーバー接頭辞を指定する必要はありません。サーバー接頭辞は、パッケージからのデータを挿入すると自動的に使用されます。

注記

Office パッケージ用言語と Windows 地域設定

Office パッケージ、「Microsoft Office の言語設定」および Windows の[地域と言語のオプション]に、同じ言語が設定されていることを確認します。

例:

- Office で[英語(英国)]言語を使用する場合、地域設定でも[英語(英国)]言語を選択します。
- Windows の地域と言語のオプションで[中国語(PRC)]を設定している場合、[Microsoft Office 言語設定]の主要な編集言語としても[中国語(PRC)]を選択する必要があります。

詳細については、以下の Microsoft サポートにお問い合わせください。http://support.microsoft.com/kb/320369/en (http://support.microsoft.com/kb/320369/ja)

下記も参照

タグ値の表示の設定 (ページ 349)

アーカイブタグの表示の設定 (ページ 352)

アラーム表示の設定 (ページ 356)

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

タグ値の表示の設定

はじめに

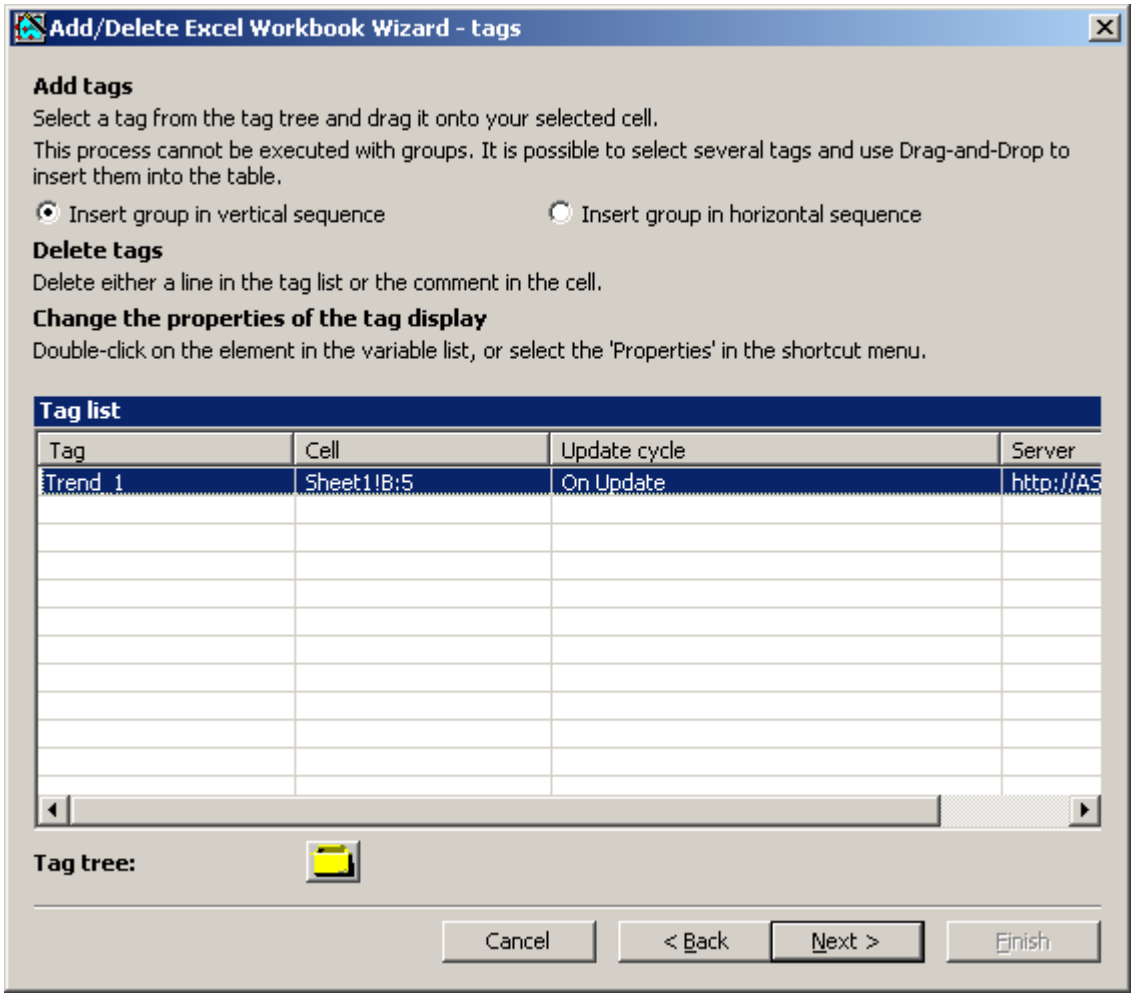
この章では、タグ値の表示の構成方法を説明します。

必要条件

- "Excel Workbook Wizard"が起動され、Excel ワークブックが構成されている。
- [タグの追加/削除]ダイアログが開いている。

手順

1. [タグの追加]領域でタググループの追加順序を確認します。

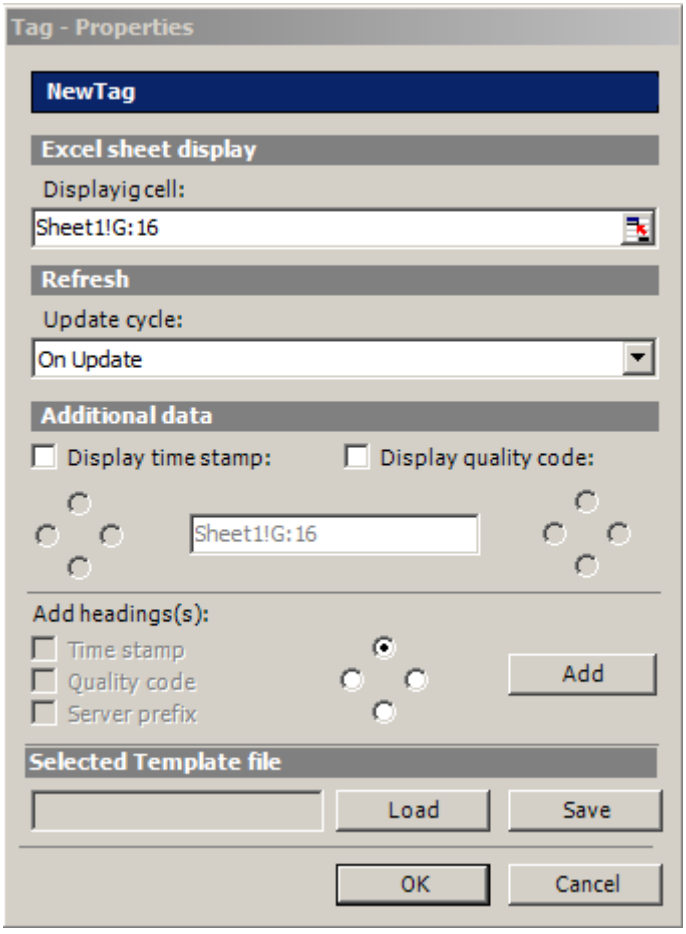


2. をクリックします。[タグの選択]ダイアログが開きます。

3. 必要なタグを選択し、ドラッグアンドドロップでタグを Excel テーブルのフィールドに移動します。
4. 選択ダイアログを閉じます。タグがタグリストに表示されます。
5. タグをタグリストで選択し、ショートカットメニューで[サーバー設定]エントリを選択します。

6. [サーバー設定]ダイアログに、WinCC ユーザーの名前とパスワードを入力します。
プロセスデータのオンライン表示中に追加のログインを回避するには、[自動ログインを有効にする]を有効にします。
[OK]で入力を確定します。

7. タグをタグリストで選択し、ショートカットメニューで[プロパティ]エントリを選択します。[タグのプロパティ]ダイアログが開きます。



8. テーブルで表示のプロパティを設定します。(例: 更新サイクル、またはタイムスタンプおよび品質コードの表示)。
9. 見出しの設定を指定します。
10. プロパティに設定を保存できます。その後設定をロードし、Excel を終了して再び開いた後に、それらを再度使用することができます。"xml"ファイルに設定を保存し、[保存]をクリックします。
11. [OK]で入力を確定します。必要に応じて、追加のオンラインタグに対して手順を繰り返します。プロパティの設定が再度使用されます。タグリストで複数のタグを選択することもできます。
12. [次へ]をクリックし、アーカイブタグおよびアラームを表示します。
詳細については、「アーカイブタグの表示の構成 (ページ 352)」および「アラームの表示の構成 (ページ 356)」を参照してください。

結果

タグ値の表示が Excel ワークブックに構成されます。プロパティを保存した後は、必要なときに設定を使用することができます。

各テーブルフィールドは、Excel ワークブックのショートテキストおよびコメントを受信します。

タグ値のショートテキスト「OV」は、オンラインタグを意味します。コメントで、表示値のソースが「WDWO_<番号>_<タグ名>」形式で示されます。

注記

Excel Workbook Wizard の再実行

以下の場合に、Excel Workbook Wizard を再び実行する必要があります。

- 設定データを使用してセルを削除または移動した後。
- Excel ワークブックで新規の行や列を削除または挿入した後。

設定データが確認され、自動的に結果として適用されます。[次へ]をクリックして、表示されているデータを確定します。ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

ローカルコンピュータのタグの更新はサポートされていません。

複数のステーションプロジェクトで、内部タグに対し、タグ管理の[コンピュータローカルな更新]オプションを有効にできます。どのようなタグの変更でも、この場合、ローカルコンピュータに影響があるだけです。この機能は、Excel Workbooks ではサポートされていません。

下記も参照

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

アーカイブタグの表示の設定

はじめに

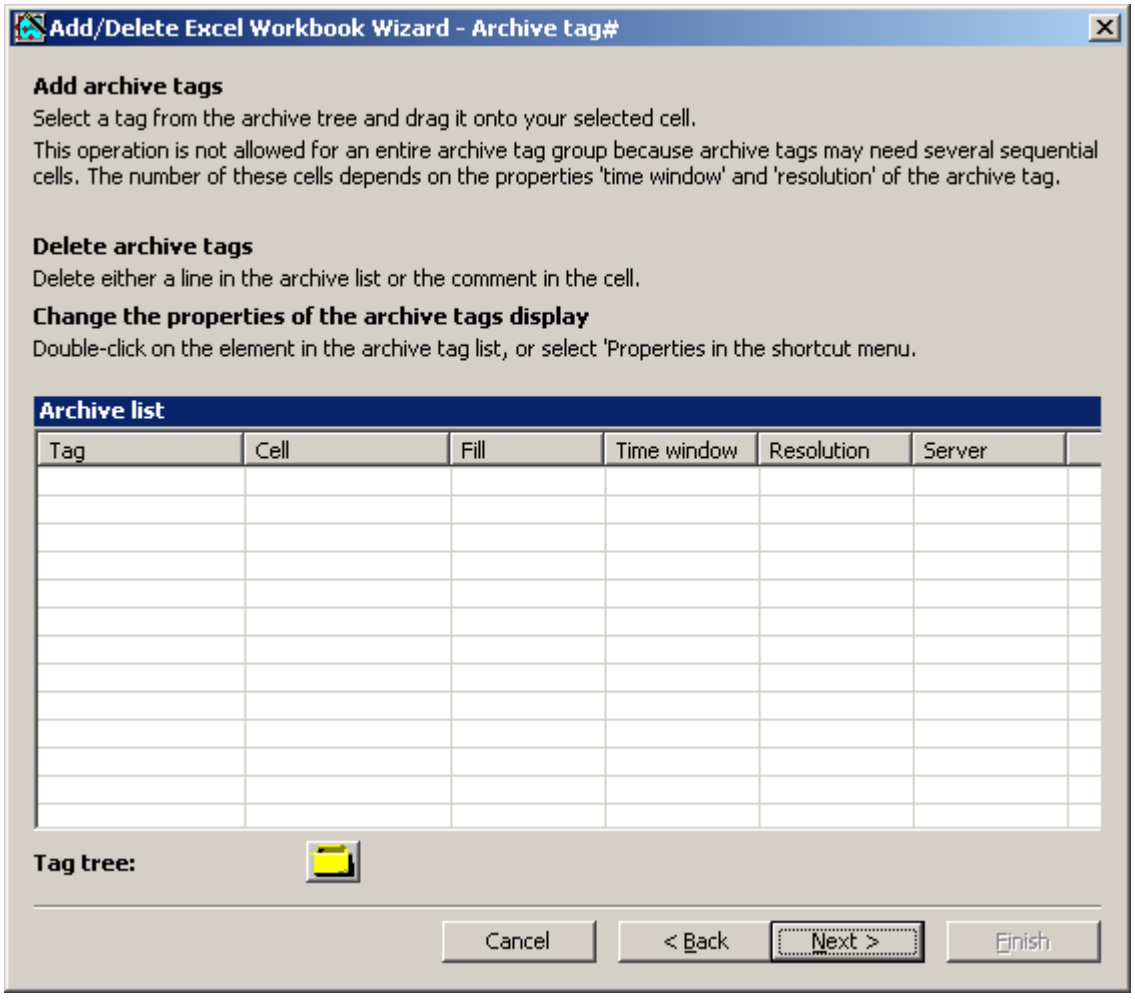
この章では、アーカイブタグの表示の構成方法を説明します。

必要条件

- "Excel Workbook Wizard"が起動され、Excel ワークブックが構成されている。
- [アーカイブタグの追加/削除]ダイアログが開いている。

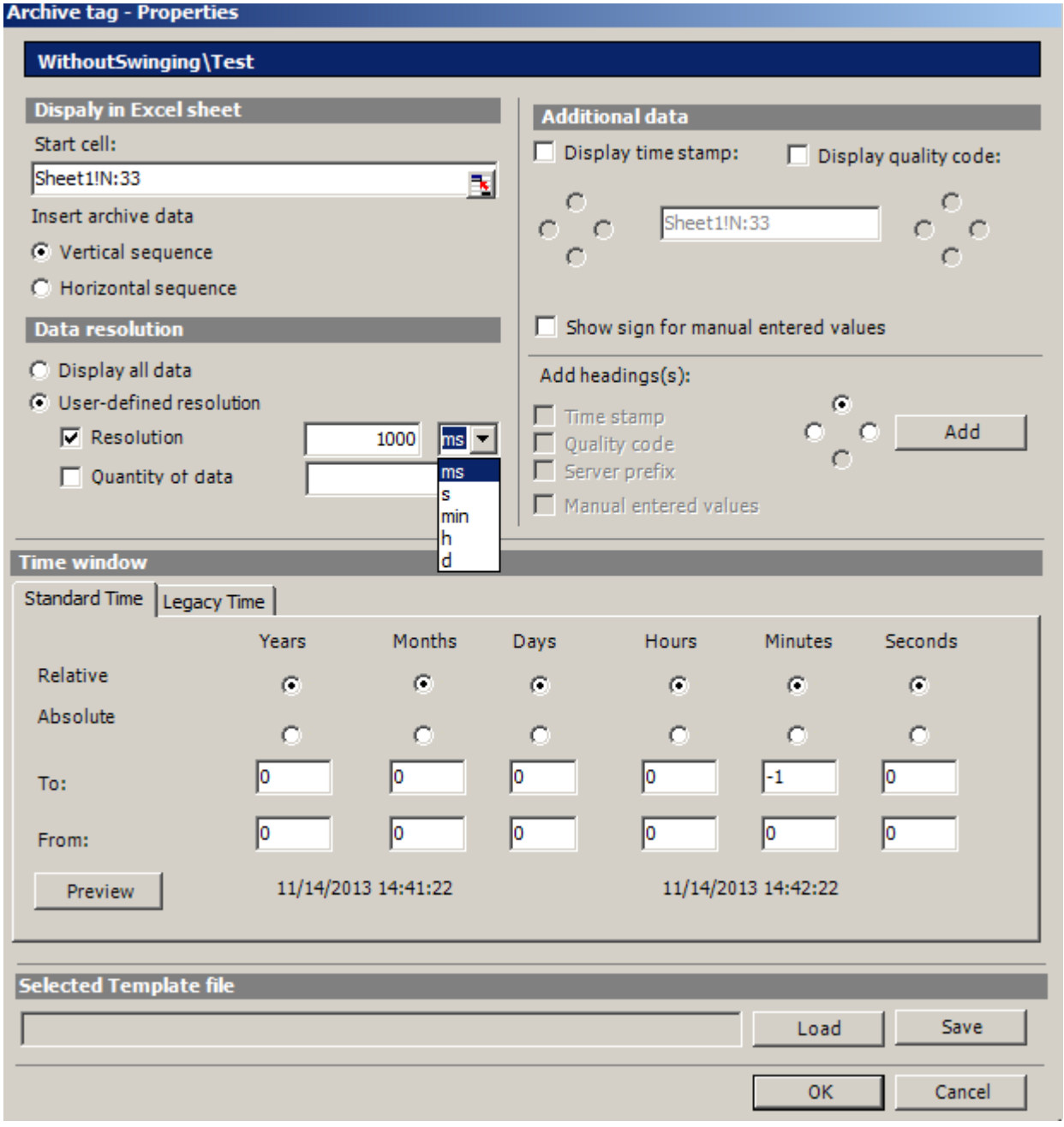
手順

1. [アーカイブタグの追加/削除]ダイアログでをクリックします。



2. [タグの選択]ダイアログが開きます。
   必要なアーカイブタグを選択します。
   タグを Excel テーブル内のセルに、ドラッグアンドドロップでドラッグします。
3. 選択ダイアログを閉じます。 タグがタグリストに表示されます。

4. アーカイブタグをタグリストで選択し、ショートカットメニューで、[プロパティ]エントリを選択します。
   [アーカイブタグのプロパティ]ダイアログが開きます。



5. 挿入順序と見出しの設定を指定します。

6. 表示するデータの分量を指定します。 ユーザー定義の解像度については、整数と時間の単位を指定するか、データの分量を指定してください。

注記

ユーザー定義のデータ解像度を「解像度」および「データ量」と組み合わせて使用している場合、抽出したデータの量を正しく決定できない場合があります。 これは、特定の状況では、表示された値と構成されたデータの量の不一致につながります。

[ユーザー定義の解像度]の[データ量]オプションを使用する場合、偶数値を入力ボックスに入力します。 偶数値はトレンドに合った表示を保証します。

7. [タイムウィンドウ]ボックスに、アーカイブタグを表示するタイムウィンドウを指定します。

- [標準時間]タグの時刻設定は、標準時間に基づいています。
  - 相対期間の設定は、現在の時間から始まる期間を示しています。 過去の期間のために、[開始]および[終了]行に正の値と負の値を入力することができます。 たとえば、12:00 (正午)となります。 最後の 10 分間の値を表示する必要があります。 [相対]の行で、すべての時間のオプションを有効にします。 [開始]行の[分]列に"-10"の値を入力します。
  - 絶対期間の設定では、[開始]と[終了]行および対応する列に、対応する時間パラメータを入力します。

  時間範囲セットを確認するには、[プレビュー]ボタンをクリックします。

- タイムウィンドウを自分で定義するか、[レガシー時間]タブで、一定の間隔(たとえば「先週」)を設定できます。 タイムウィンドウを自分で定義する場合は、次の設定が可能です。
  - 相対時間ウィンドウ: 開始点と期間を指定します。 1 分から数日の範囲の期間を指定することができます
  - 絶対時間ウィンドウ: タイムウィンドウの開始と終了を指定します。

1. [手動で入力した値を表示]オプションを選択する場合、追加の列が表示されます。 そして、アーカイブ値がランタイム中に手動で入力されていた場合、文字"m"が表示されます。
2. プロパティに設定を保存できます。 その後設定をロードし、Excel を終了して再び開いた後に、それらを再度使用することができます。 "xml"ファイルに設定を保存し、[保存]をクリックします。
3. [OK]で入力を確定します。
   必要に応じて、追加のアーカイブタグに対して手順を繰り返します。 プロパティの設定が再度使用されます。 タグリストで複数のタグを選択することもできます。
4. [次へ]をクリックしてアラームを表示します。 詳細については、「アラームの表示の構成 (ページ 356)」を参照してください。

結果

アーカイブタグ値の表示が Excel ワークブックに構成されます。 プロパティを保存した後は、必要なときに設定を使用することができます。

各テーブルフィールドは、Excel ワークブックのショートテキストおよびコメントを受信します。

タグ値のショートテキスト「AV」はアーカイブタグを意味します。 コメントには、「WDWA_<番号>_<タグ名>」の形式で表示値のソースが示されます。

注記

Excel Workbook Wizard の再実行

以下の場合に、Excel Workbook Wizard を再び実行する必要があります。

- コンフィグレーションデータを使用してセルを削除または移動した後
- Excel ワークブックで新規の行や列を削除または挿入した後

コンフィグレーションデータが確認され、自動的に結果として適用されます。 [次へ]をクリックして、表示されているデータを確定します。ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

下記も参照

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

アラーム表示の設定

はじめに

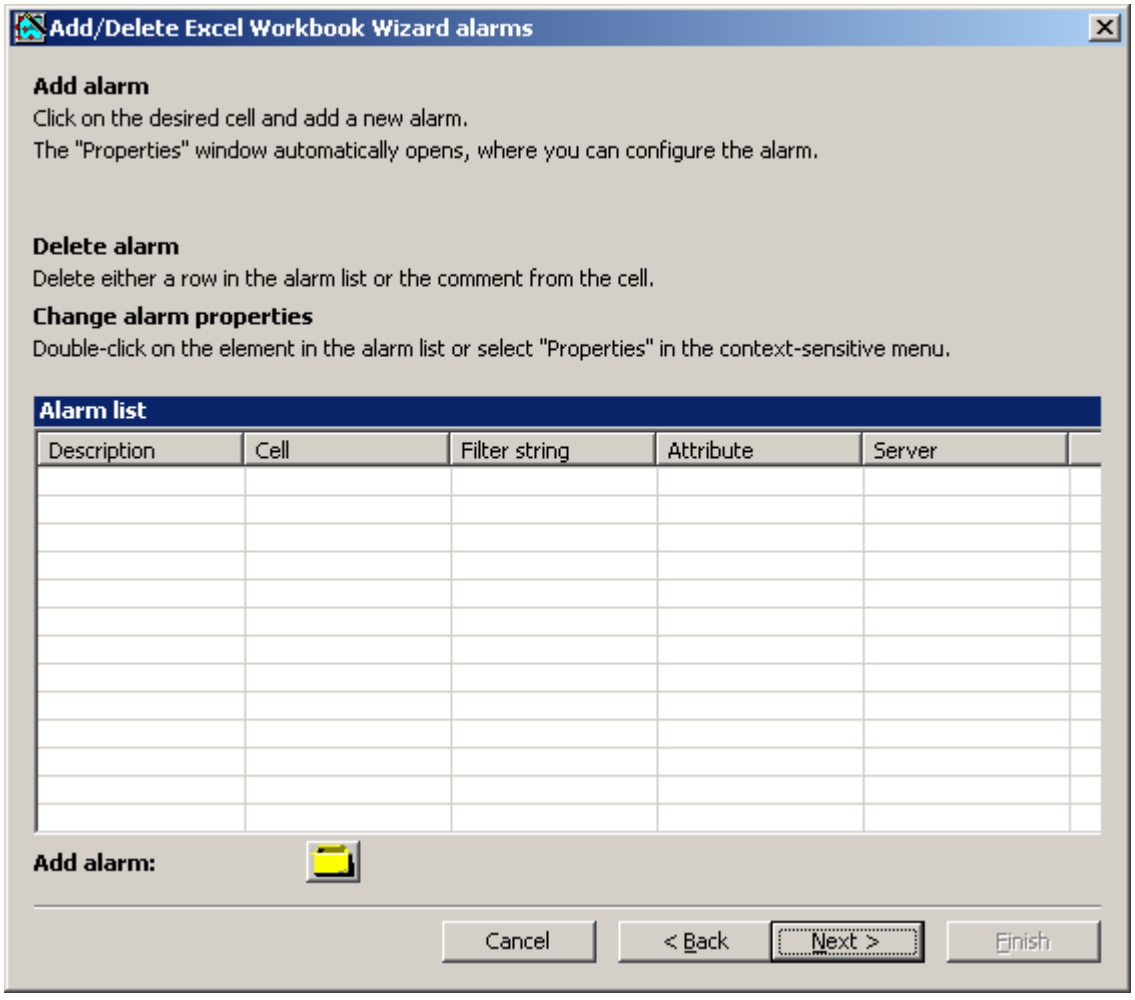
この章では、アラームの表示の構成方法を説明します。

必要条件

- "Excel Workbook Wizard"が起動され、Excel ワークブックが構成されている。
- [アラームの追加/削除]ダイアログが開いている。

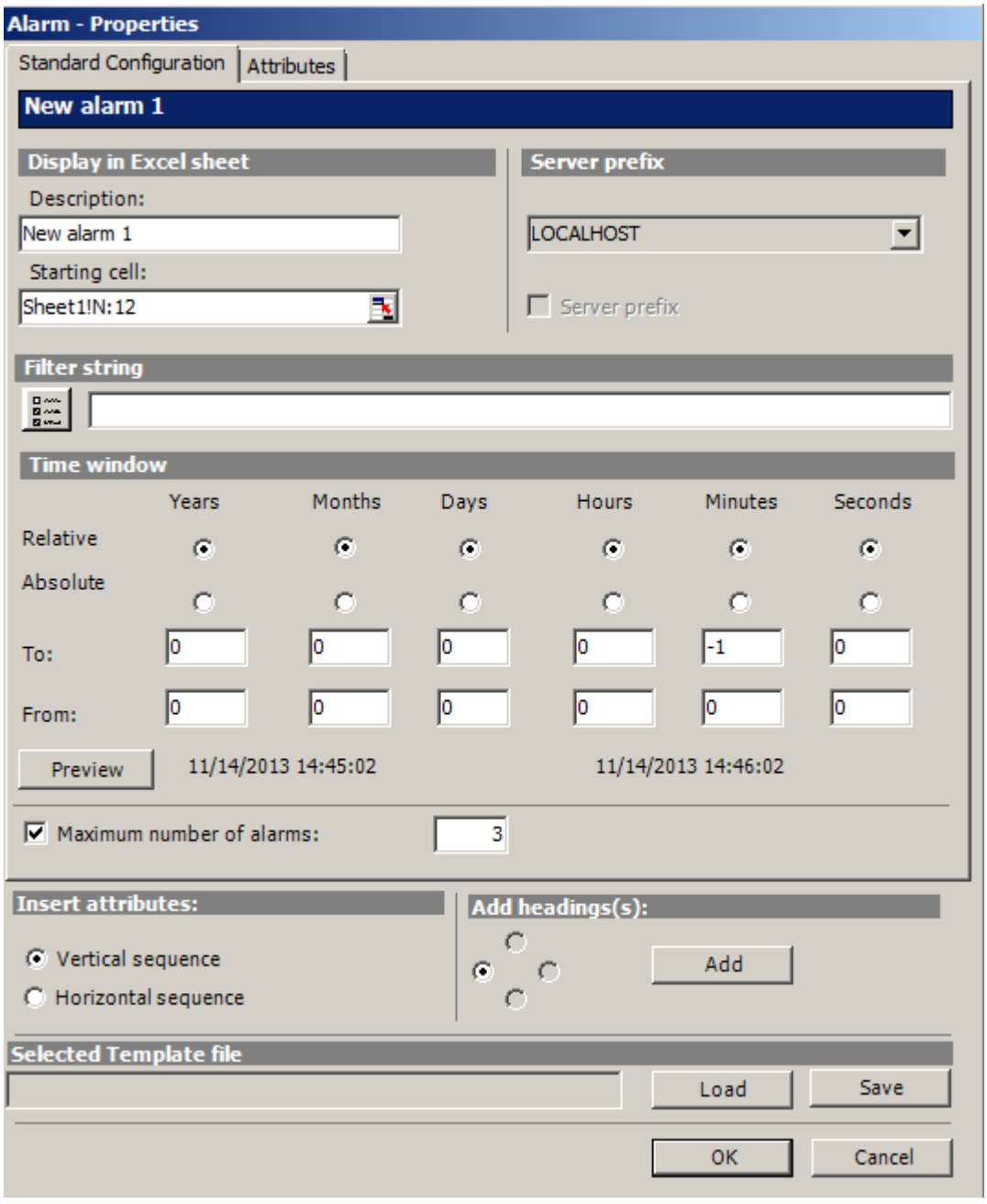
手順

1. [アラームの追加/削除]ダイアログでアラームを構成します。



2. Excel テーブルで必要なセルを選択します。

3. をクリックします。[アラーム ー プロパティ]ダイアログが開きます。

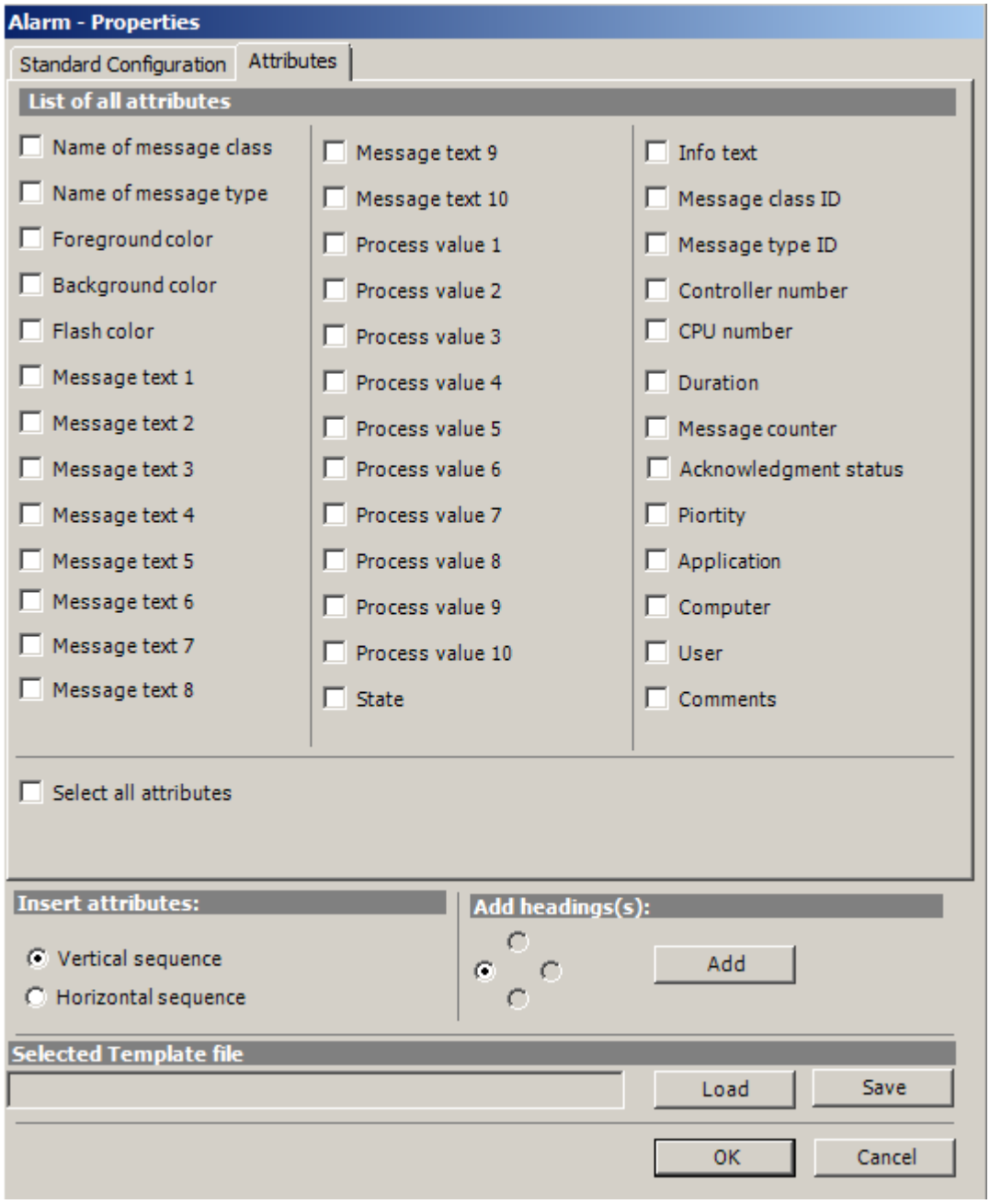


4. [標準設定]タブで、Excel テーブル内のアラームの表示オプションを定義します。
5. フィルタ条件を[フィルタ文字列]ボックスに入力するか、選択ダイアログを使用して、たとえば特定のアラームのみを表示するように、フィルタを定義します。フィルタに日付や時刻が含まれている場合は、[タイムウィンドウ]ボックスが無効になります。

6. [タイムウィンドウ]ボックスに、アラームを表示するタイムウィンドウを指定します。
   - 相対期間の設定は、現在の時間から始まる期間を示しています。過去の期間のために、[開始]および[終了]行に正の値と負の値を入力することができます。たとえば、ちょうど 12:00 にします。最後の 10 分間のアラームを表示する必要があります。[相対]の行で、すべての時間のオプションを有効にします。[開始]行の[分]列に"-10"の値を入力します。
   - 絶対期間の設定では、[開始]と[終了]行および対応する列に、対応する時間パラメータを入力します。

   時間範囲セットを確認するには、[プレビュー]ボタンをクリックします。
7. [アラームの最大数]オプションを使用し、最も新しいアラームの表示数を制限します。最大 1,000 メッセージ表示できます。

8. [属性]タブで、表示するアラームの必要な属性を選択します。
   詳細は、[アラームの詳細] (ページ 495)にあります。



9. 属性の挿入順序と見出しの設定を指定します。
10. プロパティに設定を保存できます。その後設定をロードし、Excel を終了して再び開いた後に、それらを再度使用することができます。"xml"ファイルに設定を保存し、[保存]をクリックします。
11. [OK]で入力を確定します。
    必要に応じて、追加のアラームに対して手順を繰り返します。プロパティの設定が再度使用されます。[アラームリスト]で複数のアラームを選択することもできます。

12.[次へ]をクリックします。[説明]ダイアログボックスが開きます。
13.必要に応じてコメントを入力できます。このコメントが表示されるのは、DataMonitor サーバーによってダウンロードするファイルを選択する場合です。

結果

アラームの表示が Excel ワークブックに構成されます。プロパティを保存した後は、必要なときに設定を使用することができます。

各テーブルフィールドは、Excel ワークブックのショートテキストおよびコメントを受信します。

アラームのショートテキストは「AL」です。コメントには、「WDWL_<番号>_<ボックス名>」の形式で表示アラームのソースが示されます。

注記

Excel Workbook Wizard の再実行

以下の場合に、Excel Workbook Wizard を再び実行する必要があります。

- 設定データを使用してセルを削除または移動した後
- Excel ワークブックで新規の行や列を削除または挿入した後

設定データが確認され、自動的に結果として適用されます。[次へ]をクリックして、表示されているデータを確定します。ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

下記も参照

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

Excel ワークブックの発行

はじめに

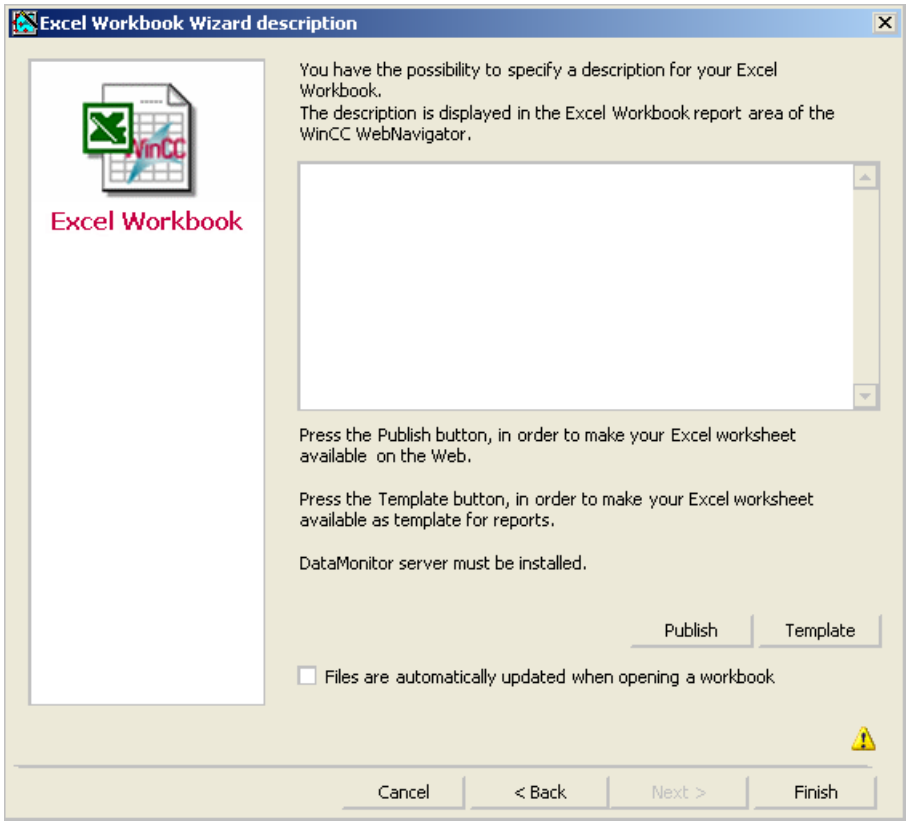
設定した Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントで使用できるようにします。ワークブックは、イントラネットやインターネットのレポートツールとして発行されるか、または"Reports"のテンプレートとして使用されます。

必要条件

- DataMonitor サーバーがコンピュータにインストールされている。
- タグ値、アーカイブ値、およびアラームの表示が設定されている。
- "Excel Workbook Wizard"で[説明]ダイアログが開いている。

手順

1. ワークブックを、[説明]ダイアログで使用できるようにします。



2. "Publish"をクリックすると、Excel ワークブックが、DataMonitor クライアントの"Reports"の[レポートツール]で使用できるようになります。
   [テンプレート]をクリックすると、Excel ワークブックが DataMonitor クライアントで、"Reports"の"Excel Workbooks"でテンプレートとして使用できるようになります。
3. Excel Workbook-Wizard を終了します。
4. ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

別の手順

Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントにアップロードします。 詳細については、「Excel ワークブックをテンプレートとして使用可能化 (ページ 497)」および「Excel ワークブックをレポートツールとして使用可能化 (ページ 499)」を参照してください。

結果

Excel ワークブックが、DataMonitor クライアントで以下のように使用できるようになります:

- ワークブックが[レポートツール]タブで使用できます。 ワークブックを使用して、ランタイムでプロセスデータを表示できます。 詳細については、「Excel ワークブックでのプロセスデータの表示 (ページ 492)」を参照してください。
- ワークブックをテンプレートとして使用して、時間管理またはイベント管理のレポートを作成できます。 詳細については、「Excel ワークブックを使用したレポートの作成 (ページ 502)」を参照してください。

下記も参照

タグ値の表示の設定 (ページ 349)

アーカイブタグの表示の設定 (ページ 352)

アラーム表示の設定 (ページ 356)

Excel ワークブックでのプロセスデータの表示

はじめに

使用可能な Excel Workbook にプロセス値またはアーカイブ値およびアラームを表示できます ワークブックを編集および保存できます。

必要条件

- Excel ワークブックがレポートツールとして使用できるようにになっている。
- MS Excel が Excel ワークブックでのオンライン表示に使用可能
- DataMonitor サーバーがインストールされている。
- WinCC プロジェクトがランタイムである。

- DataMonitor のスタートページが開いている。
- ユーザーが WinCC で作成されている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [レポートツール]をクリックします。
   Excel ワークブックが、Excel Workbook Wizard で発行されたか、またはレポートツールとして使用できるようになっていることを確認します。

3. ワークブックを選択します。
4. Excel ワークブックのアイコンをダブルクリックします。
5. 次に表示されるダイアログで、[開く]をクリックします。 ワークブックが開きます。
6. [DataMonitor]メニューで[Excel ワークブック]エントリを選択します。
7. ワークブックに構成されているプロセスデータが所属するサーバーの名前が、[WinCC サーバー]フィールドに表示されます。
   [WinCC サーバー]フィールドは以下の情報を含むことができます。
   - ドメイン経由アクセス: サーバー名およびドメイン名は、ネットワークドメイン外のアクセスのために一覧表示されます。
   - DataMonitor のスタートページはデフォルトの Web ページです: [WinCC サーバー]フィールドに含まれるのはサーバー名のみです。
   - DataMonitor のスタートページは仮想フォルダにあります: サーバー名および仮想フォルダ名が表示されます（たとえば"/webnavigator"）。
8. Excel シートのタグが複数のサーバーからのものである場合、[すべてのサーバー]を有効にします。 すべてのサーバーのタグ値は、オンライン表示で更新されます。

注記

すべてのサーバーへの接続を確立するには、接続を確立する前に[接続]で[すべてのサーバー]を有効にします。

---

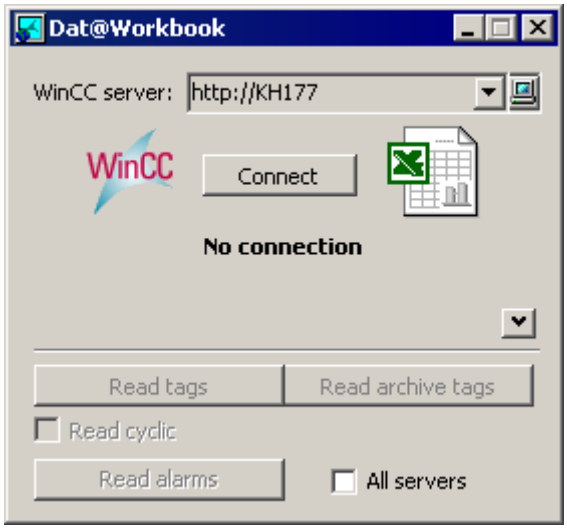
9. [接続]ボタンを使用し、WinCC プロジェクトとの接続を有効にします。 正しく接続されると、ログインダイアログが開きます。
ユーザー名と関連するパスワードを入力します。
サーバーが複数ある場合、それぞれのサーバーのログインダイアログが、次々と開きます。
接続が確立されていない場合は、対応するアラームが表示されます。 ダイアログをクリックすると、発生したエラーのその他の情報が表示されます。

注記

サーバーへの接続を確立するためのログインダイアログが開いているかぎり、"Excel Workbook"ダイアログを閉じないで下さい。

---

10. ダイアログに接続ステータスが表示されます。
[タグの読み取り]ボタン、[アーカイブタグの読み取り]ボタン、および[アラームの読み取り]ボタンをクリックし、それぞれの値または表示を更新します。



11. [サイクリックに読み取り]チェックボックスを有効にし、タグ値をサイクリックに更新します。
12. Excel での計算を終了すると、"Excel Workbook"ダイアログを閉じます。
13. [名前を付けて保存]メニューコマンドを使用して、ワークブックに結果を保存します。
14. Excel を閉じます。

結果

プロセスデータが Excel ワークブックに表示され、さらに処理することができます。

エラーが Excel ワークブックの表示中に発生するか、WinCC サーバーへの接続が確立されない場合、ログエントリはワークブックに表示されます。 そのエントリには、日付、影響を受けたタグまたはアラーム、サーバー、およびエラーメッセージが含まれます。

3.1.6.4 "Reports"を使用したデータの出力

レポート

はじめに

"Reports"を使用して、SCADA システムとは無関係に、時間管理またはイベント管理のレポートを作成します。WinCC 印刷ジョブおよび発行されている Excel ワークブックを使用して、分析結果とプロセスデータを出力します。レポートは PDF または XLS ファイルとして出力され、電子メールに添付できます。

必要条件

- PDF ファイルでの出力用に、PDF リーダーが必要です。PDF リーダーは、たとえば www.adobe.com から入手できます。
- XLS ファイルとしての出力(Excel ワークブック):
  - MS Excel がインストールされている。
    DataMonitor サーバーで Excel レポートの自動作成を使用するには、MS Excel がサーバーにインストールされている必要があります。
  - Excel ワークブックが、DataMonitor サーバーでテンプレートとして作成および発行されている。
- "Reports"のダウンロード領域を使用して、Excel のアドイン"ExcelWorkbook Wizard"および"Excel Workbook"をインストールします。

レポートの使用

レポートを作成する場合、DataMonitor サーバーで以下を決定します。

- 手動で使用(たとえばプラントオペレータによる)。
- イベント管理(たとえばタグ値が変化したとき)。
- 時間管理(たとえば毎日)。

作成されたレポートは、DataMonitor サーバーのディレクトリに一元的に保存されます。ユーザーは、DataMonitor クライアントからの適切な認証により、種々のフォルダにアクセスできます。

注記

作成時間は、常にサーバーのローカルタイムゾーンの時刻で、DataMonitor クライアントに表示されます。

Excel ワークブックをテンプレートとして使用可能化

はじめに

Excel ワークブックを、["Reports"]を作成するテンプレートとして使用できるようにすることができます。このためには、以下のオプションがあります。

- [テンプレート]ボタンを使用して"Excel Workbook Wizard" で、Excel ワークブックを WinCC サーバーに発行します。
- まだ発行されていない Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントにアップロードします。

このページには、DataMonitor クライアントでテンプレートを使用できるようにする方法についての説明が、含まれています。

必要条件

- Excel ワークブックが作成されている。
- Excel ワークブックのファイルサイズが 4MB 未満。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [テンプレートのアップロード]タブをクリックします。

3. [ターゲットディレクトリ]フィールドで、テンプレートを保管するディレクトリを選択します。
   ログインしているユーザーが「作成」アクセス権を持っているディレクトリのみを選択できます。
4. [選択されたテンプレート]の[検索]をクリックします。必要な Excel ワークブックに移動します。
5. [アップロード]ボタンをクリックします。

結果

ワークブックをテンプレートとして使用して、時間管理またはイベント管理のレポートを作成できます。

下記も参照

Excel Workbook を使用したレポートの表示 (ページ 372)

レポートツールとして、Excel ワークブックを使用できるようにする

はじめに

Excel ワークブックを、「"Reports"」でレポートツールとして一元的に使用できるようにすることができます。このためには、以下のオプションがあります。

- [発行]ボタンを使用して"Excel Workbook Wizard" で、Excel ワークブックを WinCC サーバーに発行します。
- まだ発行されていない Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントにアップロードします。

ここでは、まだ発行されていない Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントで使用できるようにする方法について説明します。

必要条件

- Excel ワークブックが作成されている。
- Excel ワークブックのファイルサイズが 4MB 未満。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [テンプレートのアップロード]タブをクリックします。

3. [Excel ワークブックのテンプレートのアップロード]の[検索]をクリックします。必要な Excel ワークブックに移動します。
4. [アップロード]ボタンをクリックします。

結果

ワークブックが[レポートツール]タブで使用できます。ワークブックを使用して、ランタイムでプロセスデータを表示できます。

下記も参照

Excel ワークブックでのプロセスデータの表示 (ページ 363)

レポートの設定

はじめに

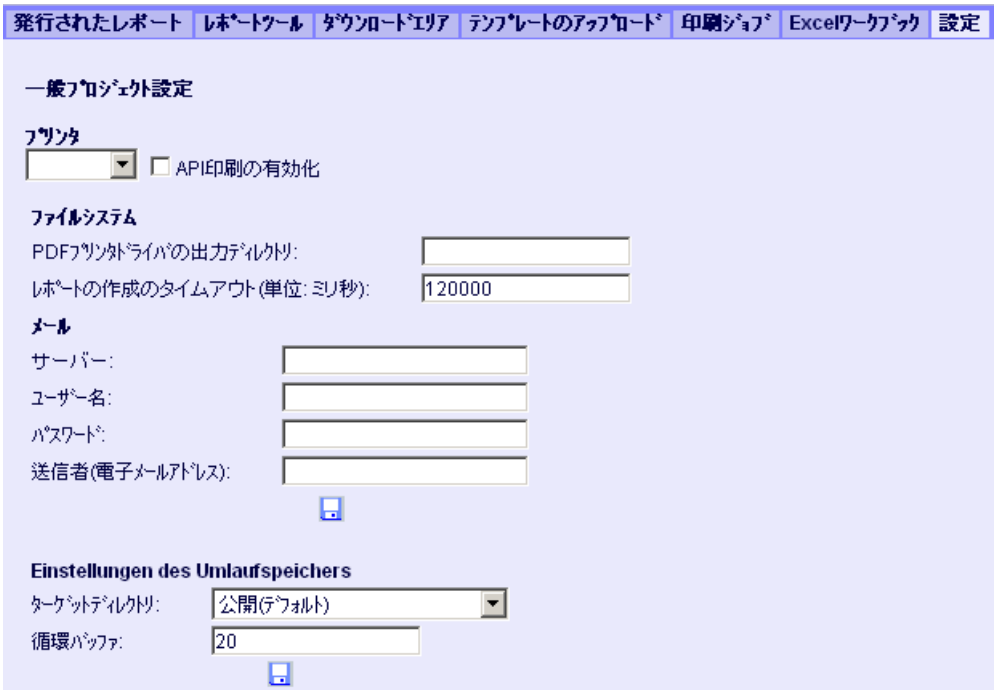
DataMonitor の"Reports"機能を使用するには、異なる設定が必要です。

必要条件

- PDF Reader がインストールされている。
- DataMonitor サーバーで WinCC プロジェクトが有効になっている。
- [ランタイムのレポート]オプションが、コンピュータのプロパティの WinCC プロジェクトで有効になっている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [設定]タブをクリックします。 [設定]ページが表示されます。



3. [プロジェクトの一般設定]セクションのエントリを確認します。
   これで、Web サーバーのプリンタを選択できます。 ファイルの印刷だけが可能です。
4. PDF ファイルへの出力を有効にするには、[API 印刷の有効化]オプションを起動します。
5. メールを送信するための以下のデータを、[メール]領域に入力します。
   - サーバー: 送信先のメールサーバー(SMTP)
   - ユーザー名: 送信者の名前
   - パスワード
   - 送信者: 電子メールの送信に使用する電子メールアカウント
6. [プロジェクトの一般設定]セクションでディスクアイコンをクリックし、設定を保存します。
7. [サークルバッファの設定]領域で、選択した宛先ディレクトリに保存する作成されたレポートの数を、定義できます。 ボックスには、事前に割り当てられた値の 20 が設定されています。同じタイプのレポートの最大数に達すると、「先入れ先出し」法が適用されます。 [アラームテーブル]タイプに関するレポートが 21 件作成された場合、最初に作成されたレポートは削除されます。
8. このセクションのディスクアイコンをクリックし、設定を保存します。

結果

"Reports"の設定が実施されました。

製品サポート - 例

インターネットの[製品サポート]にある FAQ "51334611"に詳細な例が示されています:

- http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/51334611

Excel Workbook を使用したレポートの表示

はじめに

"Reports"を使用して、Excel ワークブックからレポートを、または PDF 形式での印刷ジョブを作成します。以下に Excel ワークブックからのレポートの作成について説明します。

注記

イベント管理された"Excel Workbooks"に関する情報

イベント管理されたレポートが作成されるのは、タグが変化する期間が 1 分を超える場合のみです。

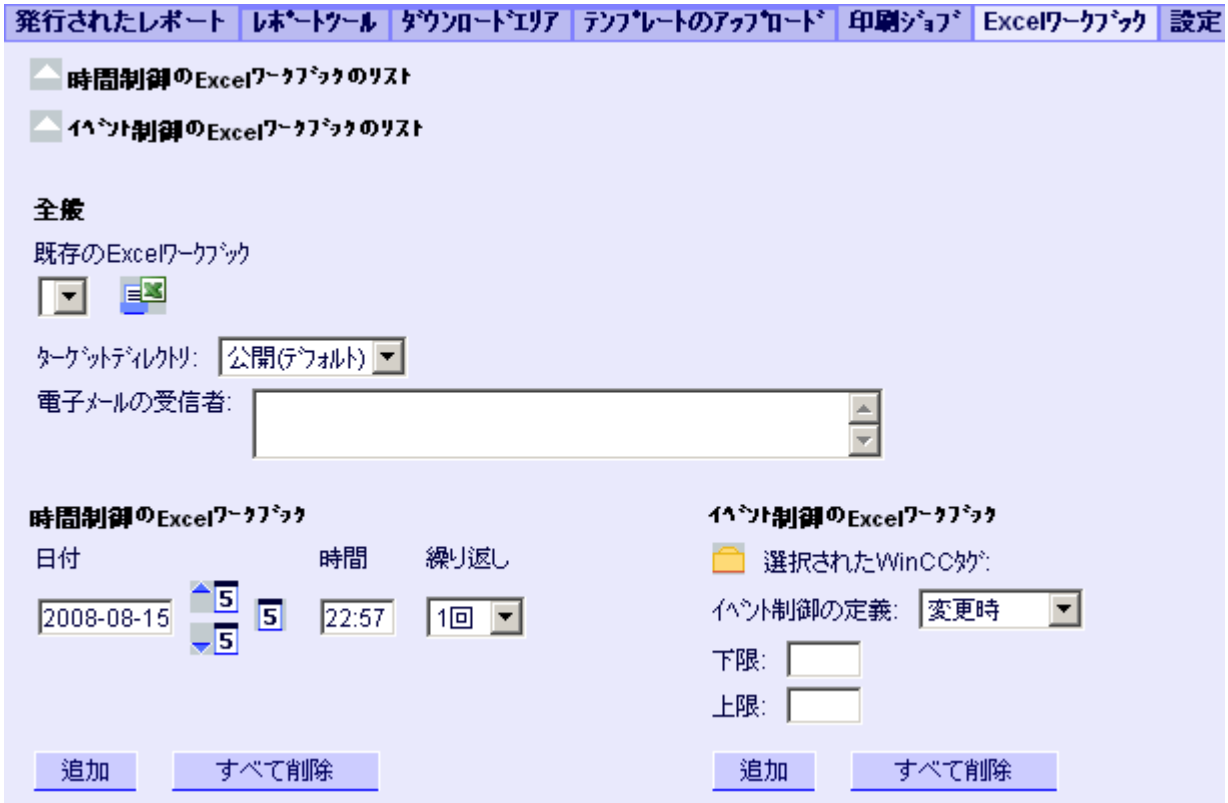
長時間にわたり 1 つ以上のイベント管理されたレポートを頻繁に作成すると、大量のメモリを消費し、貴重なリソースを使い尽くすことに、留意してください。この状況は、例えばイベント管理されたレポートをトリガするタグの信号の頻繁な変化のために発生することがあります。

必要条件

- DataMonitor サーバーで WinCC プロジェクトが有効になっている。
- [ランタイムのレポート]オプションが、コンピュータのプロパティの WinCC プロジェクトで有効になっている。
- 使用する Excel ワークブックを、すでに発行しているか、またはテンプレートとして使用できるようにしている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. "Excel Workbooks"タブをクリックします。
   "Excel Workbooks"ページが表示されます。
   [時間管理された Excel ワークブックのリスト]および[イベント管理された Excel ワークブックのリスト]の前のアイコンが、無効になっている。アイコンは、現在設定されたレポートがないことを示します。



3. [使用可能な Excel ワークブック]で使用できる Excel ワークブックを 1 つ選択します。
4. レポートを保存するターゲットディレクトリを選択します。
   ログインしているユーザーが「作成」アクセス権を持っているディレクトリのみを選択できます。
5. 電子メールとしてレポートを送る場合、[電子メールの受信者]フィールドに電子メールアドレスを入力します。任意の標準電子メールプログラムを使用して、必要なだけ複数の受信者を入力できます。
6. を使用して、即座にレポートを作成します。
7. レポートをすぐに作成しない場合、時間管理またはイベント管理されたレポートの作成を、以下のステップで設定します。

8. 時間管理されたレポートを設定するには、[時間管理された Excel ワークブック]領域で以下を入力します。
   - 日付:個別のフィールドに日付を入力するか、カレンダーを使用して日付を入力します。カレンダーを開くには、[カレンダー]アイコンをクリックします。
   - 時刻: レポートを作成する時刻を定義します。
   - 繰り返し:「1 回」、「毎週」など、繰り返す頻度を定義します。
9. [時間管理された Excel ワークブック]領域で[追加]をクリックします。
   レポートが[時間管理された Excel ワークブックリスト]に表示されます。
10. イベント管理されたレポートを設定するには、[イベント管理された Excel ワークブック]領域で以下を入力します。
    - 選択する WinCC タグ:
      をクリックします。選択ダイアログで、必要なタグを選択します。
      フィルタを使用して表示されるタグ数を制限します。
    - イベント管理の定義：
      トリガするイベント(たとえばタグの値が変わったとき)を設定します。
      イベント管理に[下限]、[上限]または[上下限の両方]を選択した場合、それぞれの限界値を入力します。
11. [イベント管理された Excel ワークブック]領域で[追加]をクリックします。
    [イベント管理された Excel ワークブックのリスト]にレポートが表示されます。

結果

時間管理されたまたはイベント管理されたレポートは、"Excel Workbook"として設定されます。

設定されたレポートは、"Excel Workbooks" のリストに表示されます。リストのレポートを編集または削除できます。

レポートを作成すると、選択したディレクトリの"Published Reports"タブでランタイムで使用できます。

印刷ジョブを使用したレポートを作成

はじめに

"Reports"を使用して、Excel ワークブックからレポートを、または PDF 形式での印刷ジョブを作成します。以下に、PDF 形式の印刷ジョブを使用したレポートの作成について説明します。

注記

Acrobat Reader を使用してアジア版 PDF ファイルを開く

[レポート]を使用して作成したアジア版 PDF ファイルを開くには、Adobe Acrobat Reader の各国版またはそれぞれのフォントパッケージが必要です。

4 つのアジア言語は、それぞれ 1 つのフォントに永久的に関連付けられています。つまり、レポートレイアウトのフォント設定は、アジア言語には影響しません。

イベント管理された印刷ジョブに関する情報

イベント管理された印刷ジョブが作成されるのは、タグが変化する期間が 1 分を超える場合のみです。

長時間にわたり 1 つ以上のイベント管理された印刷ジョブを頻繁に作成すると、大量のメモリを消費し、貴重なリソースを使い尽くすことに、留意してください。この状況は、例えばイベント管理された印刷ジョブをトリガするタグの信号の頻繁な変化のために発生することがあります。

必要条件

- PDF Reader がインストールされている。
- DataMonitor サーバーで WinCC プロジェクトが有効になっている。
- [ランタイムのレポート]オプションが、コンピュータのプロパティの WinCC プロジェクトで有効になっている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [印刷ジョブ]タブをクリックします。
   [印刷ジョブ設定]ページが表示されます。
   [時間管理された印刷ジョブのリスト]および[イベント管理された印刷ジョブのリスト]の前のアイコンは、無効になります。アイコンは、現在設定された印刷ジョブがないことを示します。

3. [使用可能な印刷ジョブ]で、必要な印刷ジョブを選択します。
4. レポートを保存するターゲットディレクトリを選択します。
   ログインしているユーザーが「作成」アクセス権を持っているディレクトリのみを選択できます。
5. 電子メールとしてレポートを送る場合、[電子メールの受信者]フィールドに電子メールアドレスを入力します。任意の標準電子メールプログラムを使用して、必要なだけ複数の受信者を入力できます。
6. を使用して、即座にレポートを作成します。
7. レポートをすぐに作成しない場合、時間管理またはイベント管理されたレポートの作成を、以下のステップで設定します。

8. 時間管理されたレポートを設定するには、[時間管理された印刷ジョブ]領域で以下を入力します。
   - 日付:個別のフィールドに日付を入力するか、カレンダーを使用して日付を入力します。カレンダーを開くには、[カレンダー]アイコンをクリックします。
   - 時刻:レポートを作成する時刻を定義します。
   - 繰り返し:「1 回」、「毎週」など、繰り返す頻度を定義します。
9. [時間管理された印刷ジョブ]領域で[追加]をクリックします。
   [時間管理された印刷ジョブのリスト]にレポートが表示されます。
10. イベント管理されたレポートを設定するには、[イベント管理された印刷ジョブ]領域で以下を入力します。
    - 選択する WinCC タグ:
      をクリックします。選択ダイアログで、必要なタグを選択します。
      フィルタを使用して表示されるタグ数を制限します。
    - イベント管理の定義：
      トリガするイベント(たとえばタグの値が変わったとき)を設定します。
      イベント管理に[下限]、[上限]または[上下限の両方]を選択した場合、それぞれの限界値を入力します。
11. [時間管理された印刷ジョブ]領域で[追加]をクリックします。
    レポートが[イベント管理された印刷ジョブのリスト]に表示されます。

結果

時間管理されたまたはイベント管理されたレポートは、PDF 形式で印刷ジョブとして設定されます。

設定されたレポートは、印刷ジョブのリストに表示されます。リストのレポートを編集または削除できます。

レポートは、WinCC 設定中に設定された言語で作成されます。WinCC Runtime 言語は、テーブルなどのダイナミックエレメントの表示には影響しません。

レポートを作成すると、PDF ファイルが、選択したディレクトリの"Published Reports"タブでランタイムで使用できます。

3.1.6.5 「Webcenter」での Webcenter ページの作成

Webcenter

概要

Webcenter は、イントラネット/インターネットを介して WinCC データへアクセスするための、中央情報ポータルです。 ユーザーは、Webcenter ページおよび webpart を使用して、WinCC データの表示をコンパイルおよび保存できます。 Webcenter ページはディレクトリに保管されます。

Webcenter ページはモジュール方式で保管されます。 モジュールはレイアウトテンプレートで定義されます。 ユーザーは、提供されたレイアウトテンプレートか、自分自身が作成したレイアウトテンプレートの、いずれかを使用できます。

webpart は、データを準備および表示する個別のブロックです。 1 つの画面表示に最大 15 の webpart を結合できます。 詳細については、「webpart の概要 (ページ 379)」を参照してください。

Webcenter ページでは、それぞれの webpart の設定が保存されており、いつでも再び呼び出せます。 同じ webpart を、別の設定で、複数回使用することもできます。 このようにして作成された Webcenter ページは、割り当てられた権限によって異なりますが、別のユーザーが同じ設定で開くことができます。

webpart の設定は、XML ファイルとしてエクスポートできます。

設定データを他のコンピュータへ転送するには、以下のフォルダをコピーします。

[\Siemens\WinCC\WebNavigator\DataMonitorServer\WebCenter\App_Data\WebCenter]

基本手順

1. Webcenter ページのディレクトリの作成
2. アクセス権の割り当て
3. WinCC データへの接続の確立
4. Webcenter の画像の発行
5. Webcenter ページのレイアウトテンプレートの作成
6. Webcenter ページの作成
7. Webcenter ページへの webpart の挿入
8. Webcenter ページでの webpart の設定

webpart の概要

概要

Webcenter ページを[Webcenter]の webpart からコンパイルします。

以下の webpart が使用できます。

- プロセス値テーブル
  使用可能なプロセス値が、定義された期間表示されます。
- テーブル（タイムステップ）のプロセス値
  アーカイブとタグのフルネームが、列ヘッダーにツールヒントとして表示されます。
  プロセス値は、定義された時間間隔の開始時間を始めとして組み合せられます。
  設定された集約タイプによって、インターバルイベントの間隔が表示されます。
  たとえば、プロセス値が 30 秒ごとにアーカイブされました。 60 秒間隔で「平均値」集約タイプが選択されています。 これにより、2 つの各アーカイブの値の平均値が決定され、平均間隔の最初のタイムスタンプを付けてテーブルに表示されます。
  補間なしの集約タイプを選択し、間隔内に値が存在しない場合、間隔結果は何も表示されません。 線形補間付きの集約タイプを選択した場合、間隔結果は各間隔ごとに表示されます。
- プロセス値の統計機能
  すべての使用可能なプロセス値は、たとえば平均値を計算して表示するために、定義された期間に対して使用されます。
- トレンドプロセス値
  プロセス値がトレンドで表示されます。
- トレンド（タイムステップ）
  集約関数(合計や平均など)で、トレンドの事前に圧縮した値の表示をクリアします。
- 棒グラフ(集約)
- 円グラフ(集約)
- アラームテーブル
  発生したアラームの表示。
- アラーム統計リスト
  アラームの統計情報の表示。
- Webcenter ページへのリンク
- リンク(外部)
  内部 Webcenter ページ、および株式市場ニュースなどの外部インターネットページにリンクします。

- 情報の表示
  たとえばニュースなど。
- 静的プロセス画像
  WinCC 画像は、インストール時のダウンロードなしで、Webcenter に統合されます。プロセス画像の JPG スクリーンショットは、定期的に DataMonitor サーバーで作成されます。
- グラフィックの表示
  会社ロゴなどの JPG スクリーンショット。
- 最新のレポート
  たとえば"Reports"で作成された PDF 形式の最新の印刷ジョブ 10 件など、最近作成されたレポートを表示します。

下記も参照

プロセス値をテーブルに表示 (ページ 461)

プロセス値の図表示 (ページ 464)

メッセージの統計リスト表示 (ページ 470)

メッセージをアラームテーブルに表示 (ページ 466)

プロセス値の統計機能の表示 (ページ 472)

Webcenter ページのレイアウトテンプレートの作成

はじめに

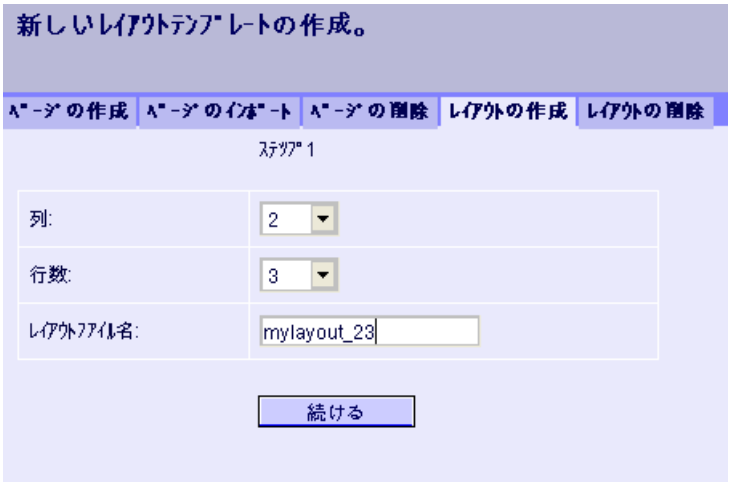
Webcenter ページを作成するには、レイアウトテンプレートが必要です。 あらかじめ定義されたレイアウトが、インストール時にインストールされています。 さらに、独自のレイアウトテンプレートを作成できます。

必要条件

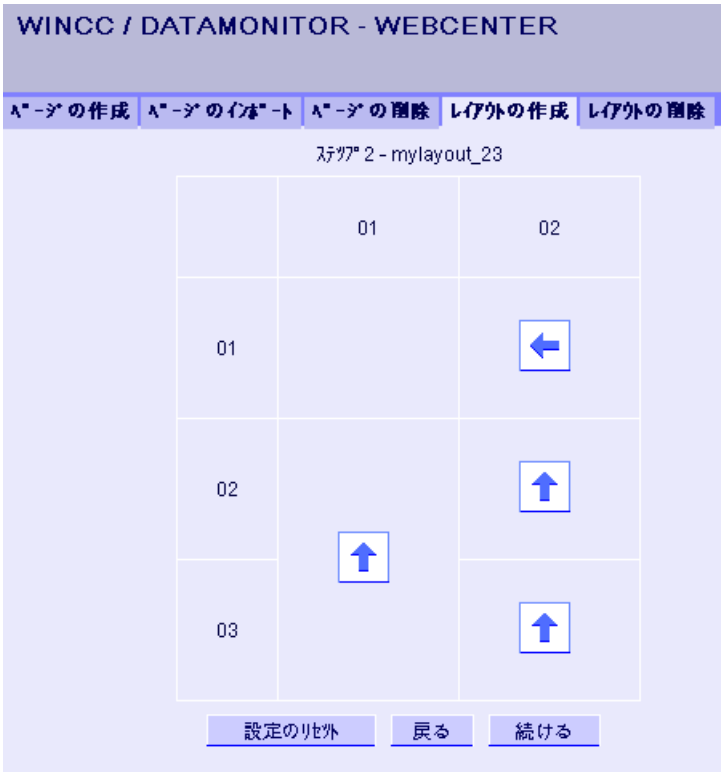
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

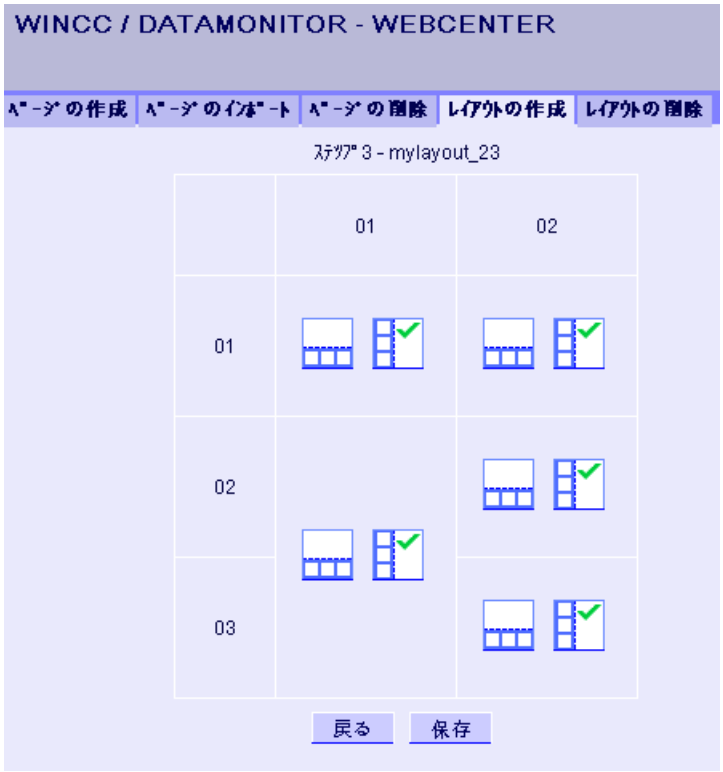
1. スタートページの[Webcenter] > [設定]をクリックします。
2. [レイアウトの作成]タブをクリックします。



3. 列数および行数を定義します。
4. [レイアウトファイルの名前]ボックスに、名前(たとえば「mylayout_23」)を入力します。 [次へ]をクリックします。
5. 必要に応じてテーブルフィールドを組み合わせます。 このためには、たとえば行 3/列 1 のような必要なフィールドで、[上矢印]のような必要な矢印シンボルをクリックします。変更されたビューが表示されます。



6. 元のテーブルレイアウトを復元するには、[設定のリセット]をクリックします。 [次へ]をクリックします。



7. テーブルフィールドで webpart を配置します。 必要に応じて、テーブルフィールドの各アイコンを有効にし、webpart を垂直または平行に配置できます。
8. [保存]をクリックします。

結果

レイアウトテンプレート「mylayout_23」が作成されます。 レイアウトテンプレートを、Webcenter ページを作成するテンプレートとして使用できます。

Webcenter ページの作成

はじめに

webpart を追加する Webcenter ページを作成します。 Webcenter ページはディレクトリに保管されます。 この例では、Webcenter ページは"myPart"ディレクトリに保存されます。

Windows ユーザーグループが[編集]または[作成]アクセス権を持っているディレクトリでのみ、Webcenter ページを変更または作成できます。

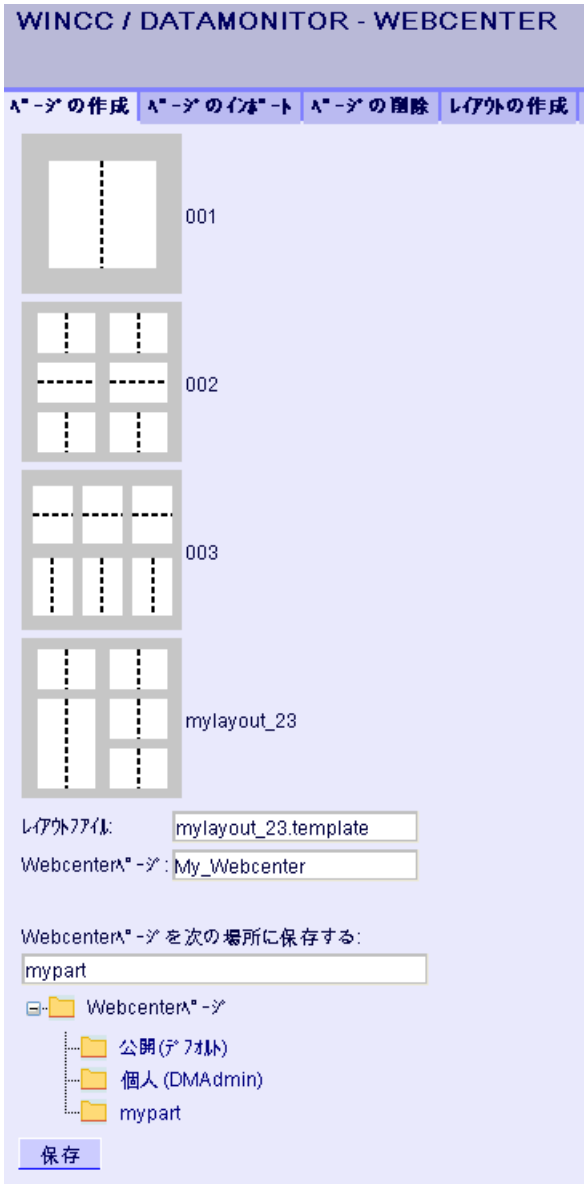
必要条件

- ディレクトリ「"myPart"」がセットアップされている。
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または"SIMATIC Report Users"のメンバである。
- Windows ユーザーグループは、このディレクトリの[編集]または[作成]アクセス権を持っている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの[Webcenter] > [コンフィグレーション]をクリックします。
2. [ページの作成]タブをクリックします。
3. 必要なレイアウトテンプレートをクリックします。 ファイル名が、[レイアウトファイル]ボックスに表示されます。
4. "My_Webcenter"などの名前を、[Webcenter ページ]ボックスに入力します。

5. Webcenter ページを保管するディレクトリを選択します。 選択されたディレクトリが、[Webcenter ページに名前を付けて保存]ボックスに表示されます。



6. [保存]をクリックします。

結果

Webcenter ページ"My_Webcenter"が、作成されて保存されます。

Webcenter ページへの webpart の挿入

はじめに

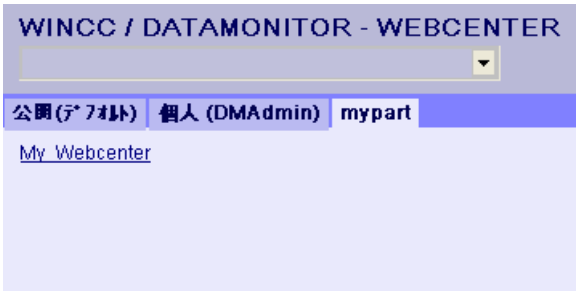
Webcenter ページの内容を webpart からコンパイルします。

必要条件

- ディレクトリ「"myPart"」がセットアップされている。
- Webcenter ページ"My_Webcenter"がディレクトリに保存されている。
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または"SIMATIC Report Users"のメンバである。
- Windows ユーザーグループは、このディレクトリの[編集]または[作成]アクセス権を持っている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

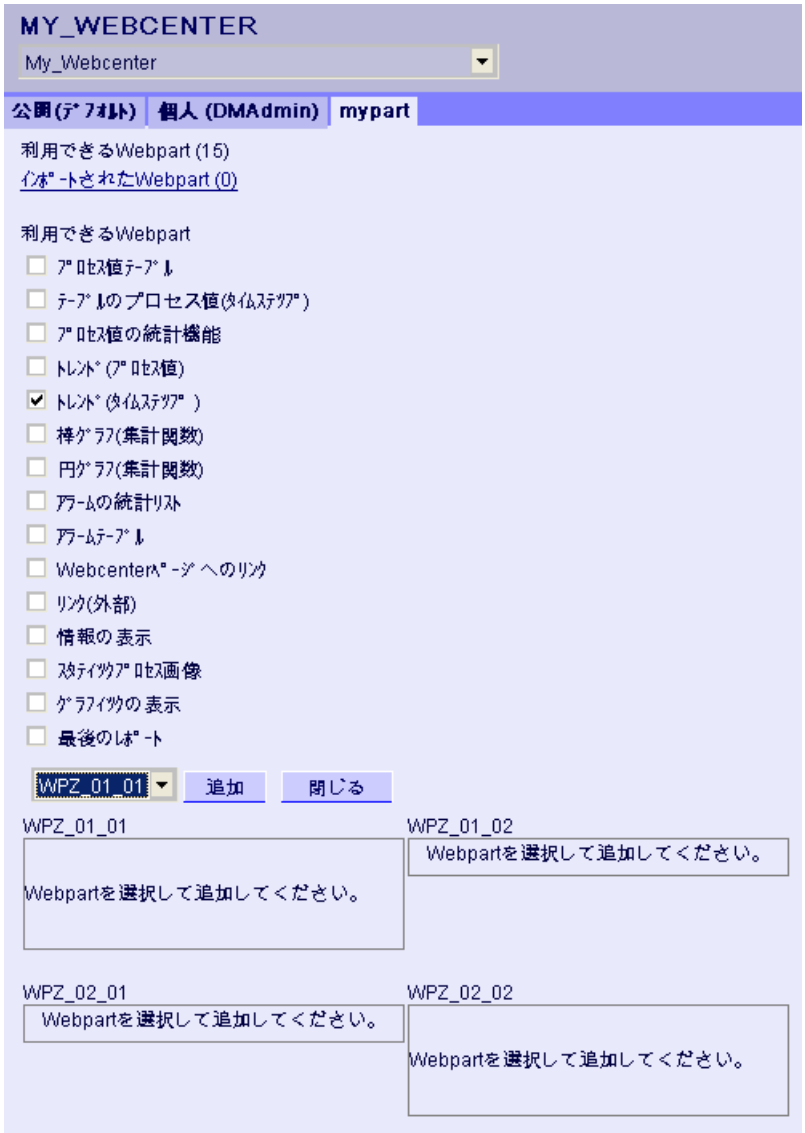
手順

1. スタートページの[Webcenter] > [ページ]をクリックします。
2. "myPart"タブをクリックします。



3. エントリ"My_Webcenter"をクリックします。

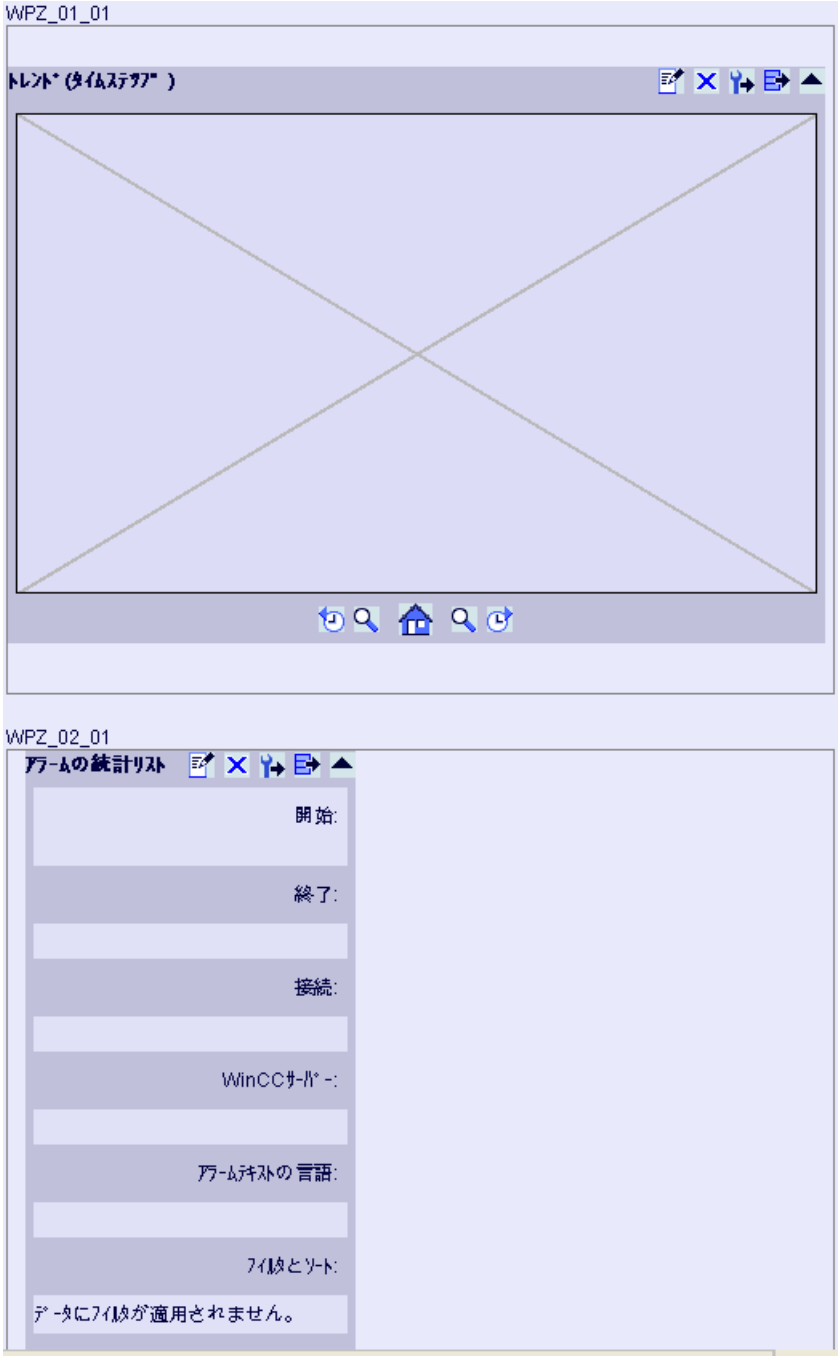
4. webpart を追加するには、ページの右上隅の✚をクリックします。 使用可能な webpart が一覧表示されます。
構成済みの webpart が既にエクスポートされている場合、[インポートされた webpart]に一覧表示されます。 必要に応じて、これらの webpart を、使用する Webcenter ページに挿入します。



5. エントリ[トレンド（タイムステップ)]を有効にします。
6. エントリ[WPZ_01_01]を選択して、[追加]をクリックします。
7. エントリ[アラームの統計リスト]を有効にします。
複数の webpart をテーブルフィールドに挿入する場合、webpart は垂直または水平に配置されます。 レイアウトテンプレートを作成するとき、配置を指定します。
8. エントリ[WPZ_02_01]を選択して、[追加]をクリックします。
9. [終了]をクリックします。

結果

データを表示するための webpart が、Webcenter ページ"My_Webcenter"に挿入されます。 Webcenter ページの現在のコンパイルが表示されます。



3.2 WinCC/DataMonitor マニュアル

3.2.1 基本原理

3.2.1.1 DataMonitor

概要

イントラネット/インターネット経由で WinCC/DataMonitor を使用して、現在のプロセス状態および履歴データを、表示および評価できます。

WinCC/DataMonitor はサーバーコンポーネントとクライアントコンポーネントで構成されます。DataMonitor サーバーは、DataMonitor クライアントがデータの分析および表示にファンクションを使用できるようにします。アクセス権限は、そのファンクションへのアクセスを管理します。

- "WinCCViewerRT":
  WinCC プロジェクトのモニタ用プログラム。DataMonitor クライアントはいわゆる「表示専用クライアント」です。
- "Excel Workbook":
  Web 経由での評価および表示用に、またはレポート用印刷テンプレートとして、プロセス値およびアーカイブ値を Excel テーブルに表示
- "Reports":
  WinCC 印刷ジョブまたは発行されている Excel ワークブックからレポートを作成。これによって、特定のプロセスデータや履歴データを、統計処理および分析することもできます。レポートは PDF 形式で作成され、必要に応じて電子メールとして転送されます。
- "Webcenter":
  ユーザー固有の表示による WinCC データへのアクセスの、中央情報ポータル。
  Webcenter ページの読み取り、書き込みおよび作成への個々のユーザー権限を含む、明確に構造化された Webcenter ページ。
- "Trends & Alarms":
  アーカイブされたプロセス値およびアラームの表示と分析用。データは、予め定義された Webcenter ページの表と図に表示されます。

数量構造

WinCC/DataMonitor により、サーバーごとに最大 50 台のクライアントを、同時に操作できます。

端末サービスの使用

端末サービスサーバーにつき DataMonitor クライアント数 50 での設定を一般的なシナリオとして試験しました。

3.2.1.2 WinCCViewerRT

概要

Web ビューア"WinCCViewerRT"は、DataMonitor クライアントにインストールされる WinCC プロジェクトの、単なる表示プログラムです。 そのため、DataMonitor クライアントは「View Only Client」です。

DataMonitor クライアントで、Internet Explorer の代わりに"WinCCViewerRT.exe"アプリケーションを実行します。

Web ビューアは、独自の通信を使用して DataMonitor サーバーにアクセスします。 こうして、ユーザーによるインターネットへのアクセスを防ぎ、システムをウィルスやトロイの木馬から保護します。

ビューアは、Web アクセス用に設定して DataMonitor サーバーで発行した画像のみを、表示します。

WinCC ユーザーには、オーソリゼーション番号 1002 - 「Web Access - monitoring only! (モニタ限定)」が付与されていることが必要です。 「表示専用カーソル」は、プロセス関連の操作ができないことを示します。 OnlineTrendControl の[プロパティ]ダイアログを開くなどの、特定の操作はできます。

WinCC ユーザーがオーソリゼーション番号 1002 を所有していない場合、ログオン後に WebNavigator クライアントはデモモードで実行されます。

3.2.1.3 Webcenter

概要

Webcenter は、イントラネット/インターネットを介して WinCC データへアクセスするための、中央情報ポータルです。 ユーザーは、Webcenter ページおよび webpart を使用して、WinCC データの表示をコンパイルおよび保存できます。 Webcenter ページはディレクトリに保管されます。

Webcenter ページはモジュール方式で保管されます。 モジュールはレイアウトテンプレートで定義されます。 ユーザーは、提供されたレイアウトテンプレートか、自分自身が作成したレイアウトテンプレートの、いずれかを使用できます。

webpart は、データを準備および表示する個別のブロックです。 1 つの画面表示に最大 15 の webpart を結合できます。 詳細については、「webpart の概要 (ページ 391)」を参照してください。

Webcenter ページでは、それぞれの webpart の設定が保存されており、いつでも再び呼び出せます。 同じ webpart を、別の設定で、複数回使用することもできます。 このようにして作成された Webcenter ページは、割り当てられた権限によって異なりますが、別のユーザーが同じ設定で開くことができます。

webpart の設定は、XML ファイルとしてエクスポートできます。

設定データを他のコンピュータへ転送するには、以下のフォルダをコピーします。

[\Siemens\WinCC\WebNavigator\DataMonitorServer\WebCenter\App_Data\WebCenter]

基本手順

1. Webcenter ページのディレクトリの作成
2. アクセス権の割り当て
3. WinCC データへの接続の確立
4. Webcenter の画像の発行
5. Webcenter ページのレイアウトテンプレートの作成
6. Webcenter ページの作成
7. Webcenter ページへの webpart の挿入
8. Webcenter ページでの webpart の設定

3.2.1.4 webpart の概要

概要

Webcenter ページを[Webcenter]の webpart からコンパイルします。

以下の webpart が使用できます。

- プロセス値テーブル
  使用可能なプロセス値が、定義された期間表示されます。
- テーブル（タイムステップ）のプロセス値
  アーカイブとタグのフルネームが、列ヘッダーにツールヒントとして表示されます。
  プロセス値は、定義された時間間隔の開始時間を始めとして組み合せられます。
  設定された集約タイプによって、インターバルイベントの間隔が表示されます。
  たとえば、プロセス値が 30 秒ごとにアーカイブされました。 60 秒間隔で「平均値」集約タイプが選択されています。 これにより、2 つの各アーカイブの値の平均値が決定され、平均間隔の最初のタイムスタンプを付けてテーブルに表示されます。
  補間なしの集約タイプを選択し、間隔内に値が存在しない場合、間隔結果は何も表示されません。 線形補間付きの集約タイプを選択した場合、間隔結果は各間隔ごとに表示されます。
- プロセス値の統計機能
  すべての使用可能なプロセス値は、たとえば平均値を計算して表示するために、定義された期間に対して使用されます。
- トレンドプロセス値
  プロセス値がトレンドで表示されます。
- トレンド（タイムステップ）
  集約関数(合計や平均など)で、トレンドの事前に圧縮した値の表示をクリアします。
- 棒グラフ(集約)
- 円グラフ(集約)
- アラームテーブル
  発生したアラームの表示。
- アラーム統計リスト
  アラームの統計情報の表示。
- Webcenter ページへのリンク
- リンク(外部)
  内部 Webcenter ページ、および株式市場ニュースなどの外部インターネットページにリンクします。

- 情報の表示
  たとえばニュースなど。
- 静的プロセス画像
  WinCC 画像は、インストール時のダウンロードなしで、Webcenter に統合されます。プロセス画像の JPG スクリーンショットは、定期的に DataMonitor サーバーで作成されます。
- グラフィックの表示
  会社ロゴなどの JPG スクリーンショット。
- 最新のレポート
  たとえば"Reports"で作成された PDF 形式の最新の印刷ジョブ 10 件など、最近作成されたレポートを表示します。

下記も参照

プロセス値をテーブルに表示 (ページ 461)

プロセス値の図表示 (ページ 464)

メッセージの統計リスト表示 (ページ 470)

メッセージをアラームテーブルに表示 (ページ 466)

プロセス値の統計機能の表示 (ページ 472)

3.2.1.5 トレンドおよびアラーム

概要

"Trends & Alarms"は、アーカイブされたプロセス値およびアラームの、表示と分析に使用されます。

あらかじめ定義された Web ページには、以下のコンテンツがあります。

- プロセス値をテーブルに表示 (ページ 461)
- 最大 3 個のプロセス値を図に表示プロセス値を図に表示 (ページ 464)
- プロセス値の統計機能の表示 (ページ 472)
- アラーム統計リストを表示 (ページ 470)
- アラームをアラームテーブルに表示 (ページ 466)

"Trends & Alarms"の機能は、webpart を使用して設定されます。 Webcenter ページに使用したものと同じ webpart を、この目的に使用します。

Trends & Alarms の中で、各ユーザーはそれぞれの webpart に対して設定を 1 つだけ作成できます。 設定はそのユーザー用に保存されます。 他のユーザーは、この webpart の設定に直接アクセスできません。

3.2.1.6 Excel ワークブック

概要

Excel のアドイン"Excel Workbook"を使用して、DataMonitor クライアントの Excel ワークブックに、WinCC プロジェクトの以下のデータを表示できます。

- アラーム
- プロセスタグ値およびアーカイブタグ値
- その他の情報(タグのタイムスタンプや品質コードなど)

スワップされたアーカイブのデータは表示されません。

データは Excel によって評価され、たとえば平均値計算または図の表示として、グラフィックで表示されます。作成した Excel ワークブックは、"Reports"のテンプレートおよびレポートツールとして利用できるようになります。

必要条件

- "Reports"のダウンロード領域を使用して、Excel のアドイン"ExcelWorkbook Wizard"および"Excel Workbook"を DataMonitor クライアントにインストールします。
- 「リモートデスクトップ」ユーザーが、Windows ユーザーグループ「SIMATIC HMI Viewer」のメンバであること。

XML ファイルまたはオンラインによる構成

"Excel Workbook"を使用して、異なる WinCC サーバーのデータを、同時にオンラインでアクセスして処理することができます。これには、データを XML ファイルから取得するか、または Excel のアドイン"Excel Workbook Wizard" を使用して、設定中にローカル WinCC プロジェクトから取得する必要があります。XML ファイルを使用して、処理と評価を分離することができます。

- WinCC プロジェクトが DataMonitor サーバーで開きます。
  XML ファイルは、[設定データのエクスポート]機能で生成されます。
  次に Microsoft Excel を搭載したコンピュータに、XML ファイルを転送します。
  ワークブックのプロセスデータ表示を構成します。
  その後、プロセスデータをオンライン表示する DataMonitor クライアントに、ワークブックを転送します。
- WinCC プロジェクトのデータをオンラインで受け入れるには、直接 WinCC サーバーで構成するか、または対応する WinCC サーバーにオンライン接続されている WinCC クライアントで構成します。
- "Excel Workbook Wizard"を使用して、Excel ワークブックにデータをインポートします。
  次に、アラーム値およびタグ値の表示を構成します。

注記

Excel ワークブック内のテーブル名を変更すると、テーブルの設定データが失われます。

Excel ワークブックで最大 32,767 のプロセスタグとアーカイブタグを構成できます。"Excel Workbook"によるオンライン表示中、多数のタグがある場合、更新にかなりの遅延が発生することがあります。

3.2.1.7 レポート

はじめに

"Reports"を使用して、SCADA システムとは無関係に、時間管理またはイベント管理のレポートを作成します。WinCC 印刷ジョブおよび発行されている Excel ワークブックを使用して、分析結果とプロセスデータを出力します。レポートは PDF または XLS ファイルとして出力され、電子メールに添付できます。

必要条件

- PDF ファイルでの出力用に、PDF リーダーが必要です。PDF リーダーは、たとえば www.adobe.com から入手できます。
- XLS ファイルとしての出力(Excel ワークブック):
  - MS Excel がインストールされている。
    DataMonitor サーバーで Excel レポートの自動作成を使用するには、MS Excel がサーバーにインストールされている必要があります。
  - Excel ワークブックが、DataMonitor サーバーでテンプレートとして作成および発行されている。
- "Reports"のダウンロード領域を使用して、Excel のアドイン"ExcelWorkbook Wizard"および"Excel Workbook"をインストールします。

レポートの使用

レポートを作成する場合、DataMonitor サーバーで以下を決定します。

- 手動で使用(たとえばプラントオペレータによる)。
- イベント管理(たとえばタグ値が変化したとき)。
- 時間管理(たとえば毎日)。

作成されたレポートは、DataMonitor サーバーのディレクトリに一元的に保存されます。ユーザーは、DataMonitor クライアントからの適切な認証により、種々のフォルダにアクセスできます。

注記

作成時間は、常にサーバーのローカルタイムゾーンの時刻で、DataMonitor クライアントに表示されます。

下記も参照

タグ値の表示の設定 (ページ 349)

Excel ワークブックをテンプレートとして使用可能化 (ページ 497)

Excel ワークブックの構成 (ページ 344)

3.2.2 DataMonitor システムの設定

3.2.2.1 設定ステップの概要

はじめに

WinCC DataMonitor を使用するために、データとプロセス画像が DataMonitor サーバーに用意されています。 DataMonitor クライアントは、使用可能なデータにアクセスして、データおよびプロセス画像を表示します。

必要条件

- サーバーとクライアントが相互接続されている。
- サーバーに
  - インターネット インフォメーション サービスがインストールされている。
  - DataMonitor サーバーがインストールされている。
  - WinCC/DataMonitor ライセンスがインストールされている。
  - WinCC がインストールされている。
- クライアントに
  - Internet Explorer がインストールされている。

設定手順

DataMonitor システムをセットアップするため、以下の設定ステップを完了する必要があります。

1. WinCC プロジェクトの設定。
   - WinCC 画像を発行します。
   - WinCCViewerRT および/または"Excel Workbook" を使用する場合、"WinCC User Administrator"でユーザーおよびアクセス権を定義します。
   - ランタイムの設定を設定します。
2. DataMonitor サーバーを設定します。
   - Web ページおよびファイアウォールをセットアップします。
   - "Trend & Alarms"、"Reports"および"Webcenter"を使用する場合、Windows でユーザーおよびアクセス権を定義します。
3. サーバーで WinCC ランタイムを起動します。

4. DataMonitor クライアントで DataMonitor 機能を使用します。
   - Internet Explorer のセキュリティ設定を確認します。
   - Internet Explorer を起動して、DataMonitor サーバーのアドレスを入力します。
   - DataMonitor サーバーにログオンし、DataMonitor 機能にアクセスします。
5. DataMonitor クライアントで、WinCC プロジェクトをモニタします。
   - WinCCViewerRT の設定
   - 画像の表示

下記も参照

DataMonitor Web ページの設定 (ページ 415)

Internet Explorer のセキュリティ設定 (ページ 419)

ランタイム設定の設定 (ページ 410)

Webcenter に対するスタティックプロセス画面の作成 (ページ 447)

Windows のユーザーの定義 (ページ 412)

3.2.2.2 WinCC プロジェクトを設定

WinCC プロセス画像の発行

WinCC プロセス画面の発行

はじめに

WinCC プロセス画像を WebNavigator クライアントまたは DataMonitor クライアントで表示する場合、画像を発行する必要があります。発行するには、Web View Publisher を使用します。Web View Publisher は、自動的にプロジェクトデータに必要な調整を実行します。

概要

Web View Publisher によって、以下の発行タイプを使用できます。

- ローカルコンピュータでの発行。
  現在の WinCC プロジェクトフォルダがソースフォルダです。
  ターゲットフォルダは、[Projectname/WebNavigator/Pictures]などのサブフォルダです。
- サーバー接頭辞を使用した専用 Web サーバーでの発行。
  ソースフォルダは、サーバー接頭辞で定義される別の WinCC コンピュータ上の WinCC プロジェクトフォルダです。
  ターゲットフォルダは、WinCC クライアントの WinCC プロジェクトのサブフォルダ[.../WebNavigator/Pictures]に配置されます。独自のプロジェクトの画像が名前[<画像名>.PD_]で保存されるのに対し、他のプロジェクトの画像は名前[<サーバー接頭辞>_ _<画像名>.PD_]で保存されます。
- リモート発行。
  ソースフォルダおよびターゲットフォルダを、同じまたは異なる Web サーバーに配置できます。
  Web View Publisher は、ソースフォルダおよびターゲットフォルダがある Web サーバー上でも、まったく別の Web サーバー上でも起動できます。
- 専用 Web サーバー、または別のリモートステーションからの WinCC クライアントでの、リモート発行。
  WinCC プロジェクトのロジェクトフォルダは、専用 Web サーバーまたは WinCC クライアントの Windows でリリースする必要があります。リモートコンピュータの専用 Web サーバー/WinCC クライアントの WinCC プロジェクトを開くことで、Web View Publisher をリモートで起動できます。リモートステーションで、WinCC 画像を他の WinCC サーバーから専用 Web サーバーに発行します。

Web View Publisher は以下の調整を実行します。

- インターネットでのパフォーマンスを最適化するためのデータの圧縮。
- 操作に不必要なプロジェクト固有データを削除。
- 画面ウィンドウを ActiveX コンポーネントに変換。
- クライアントで実行できるようにスクリプトを変換。

発行されている画像を Internet Explorer で開く

発行されている画像を直接開くには、ウェブサイトが既に設定されている必要があります。

1. WinCC エクスプローラで、WebNavigator のテーブルエリアで発行されている画像を 1 つ選択します。
2. ショートカットメニューから[URL をクリップボードにコピー]コマンドを選択します。
3. クリップボードからのリンクを Internet Explorer のアドレスバーに貼り付けます。

画像と一緒にファイルが Internet Explorer で開かれます。

欠陥スクリプトによる画像の発行

発行中に警告またはエラーが発生すると、Web 発行ウィザードの出力フィールドで、影響を受けたプロセス画像にマークが付きます。スクリプトのエラーがある画像は、エラーにもかかわらず発行されます。ただし、エラーはランタイムでも発生することがあり、WebNavigator クライアントによってレポートされます。

「PdlPad」ツールを Web View Publisher で直接起動して、発行する画像で使用されるスクリプトをチェックし、必要に応じて修正できます。

Project ファンクションなしの発行

プロジェクト関数なしの発行は、エラーの追加ソースとなることがあります。Web View Publisher で発行すると、選択された project ファンクションが常に発行されます。プロジェクト関数なしで発行すると、画像にはプロジェクト関数がまったく含まれなくなります。前回使用した発行プロセスのプロジェクト関数は、発行済み画像、したがってクライアントで、常に使用できます。

Publisher 内のプロジェクト関数の選択は、同じプロセスで発行された画像とは無関係です。たとえば、選択されたプロジェクト関数を修正するがそれらのインターフェースを修正しない場合、必要なプロジェクト関数をすべて発行する必要があります。この場合、画像を発行する必要はありません。

グラフィックデザイナでのプロセス画像の変更

WebNavigator サーバーのグラフィックデザイナの、ランタイムで編集するプロセス画像を、再び発行する必要があります。これは、WebNavigator クライアントで表示されるプロセス画像に必要です。

専用 Web サーバーを使用するとき、WebNavigator クライアントに変更を転送するために、リモートステーションからそのサーバーで WinCC プロジェクトを開きます。完了すると、

変更した画像をグラフィックデザイナで開いて保存します。専用 Web サーバーで Web View Publisher を使用して、次のステップで画像を発行します。

多数の画像を変更した場合、このプロセスを簡略化することができます。このため、グラフィックデザイナのショートカットメニューで、[画像の変換]機能を呼び出します。完了すると、画像をもう一度発行する必要があります。

画像発行の必要条件

一般要件

- 画像名に二重アンダースコア(たとえば"__furnace_overview.pdl")を含めることはできません。二重アンダースコアの前の文字列が、サーバー接頭辞と見なされます。
- パッケージ名および/またはシンボルコンピュータ名には、二重下線を含めないようにしてください。
- パッケージ名および/またはシンボルコンピュータ名は、二重下線を末尾にしないようにしてください。
- さらに、基本プロセスコントロールを使用している場合、名前をシングルアンダースコアで始めることはできません。画像ツリーを使用するとき、上位画像の名前文字列に接頭辞"@PTN_"が付きます。アンダースコアが先行する場合、画像名に二重アンダースコアを使用します。
- WinCC のプロジェクトパスとインストールパスに、同じ名前の 2 つのヘッダーファイルがある場合、Web View Publisher はインストールパスにあるヘッダーファイルを使用します。

専用 Web サーバーでの発行の必要条件

- Web Navigator サーバーが WinCC クライアントにインストールされている。
- WinCC クライアントがアクセスできる WinCC サーバーすべての C スクリプトと VB スクリプトが、WinCC クライアントにコピーされている。
- WinCC クライアントがアクセスできる WinCC サーバーパッケージが、WinCC クライアントにロードされている。
- 他のコンピュータのプロジェクトを発行する場合、Web View Publisher を起動する前に、これらのコンピュータが、ネットワークドライブによってリンクされている必要があります。この手順により、プロジェクトを Publisher の選択ダイアログで表示できるようになります。パスを直接入力することはできません。

リモート発行の必要条件

- ターゲットフォルダおよびソースフォルダへのアクセスが、Web View Publisher に対して有効である。
  WinCC は、これらの Windows イネーブルを、デフォルトで設定します。これらのイネーブルが制限されていない(たとえば特定のユーザーのみが有効)ことを確認します。
- 他のコンピュータのプロジェクトを発行する場合、Web View Publisher を起動する前に、これらのコンピュータが、ネットワークドライブによってリンクされている必要があります。この手順により、プロジェクトを Publisher の選択ダイアログで表示できるようになります。パスを直接入力することはできません。

Web View Publisher を使って WinCC プロセス画像を発行する方法

はじめに

Web View Publisher を使用して、グラフィックデザイナに作成したプロセス画像を発行します。発行中、WinCC Web 発行ウィザードがサポートします。

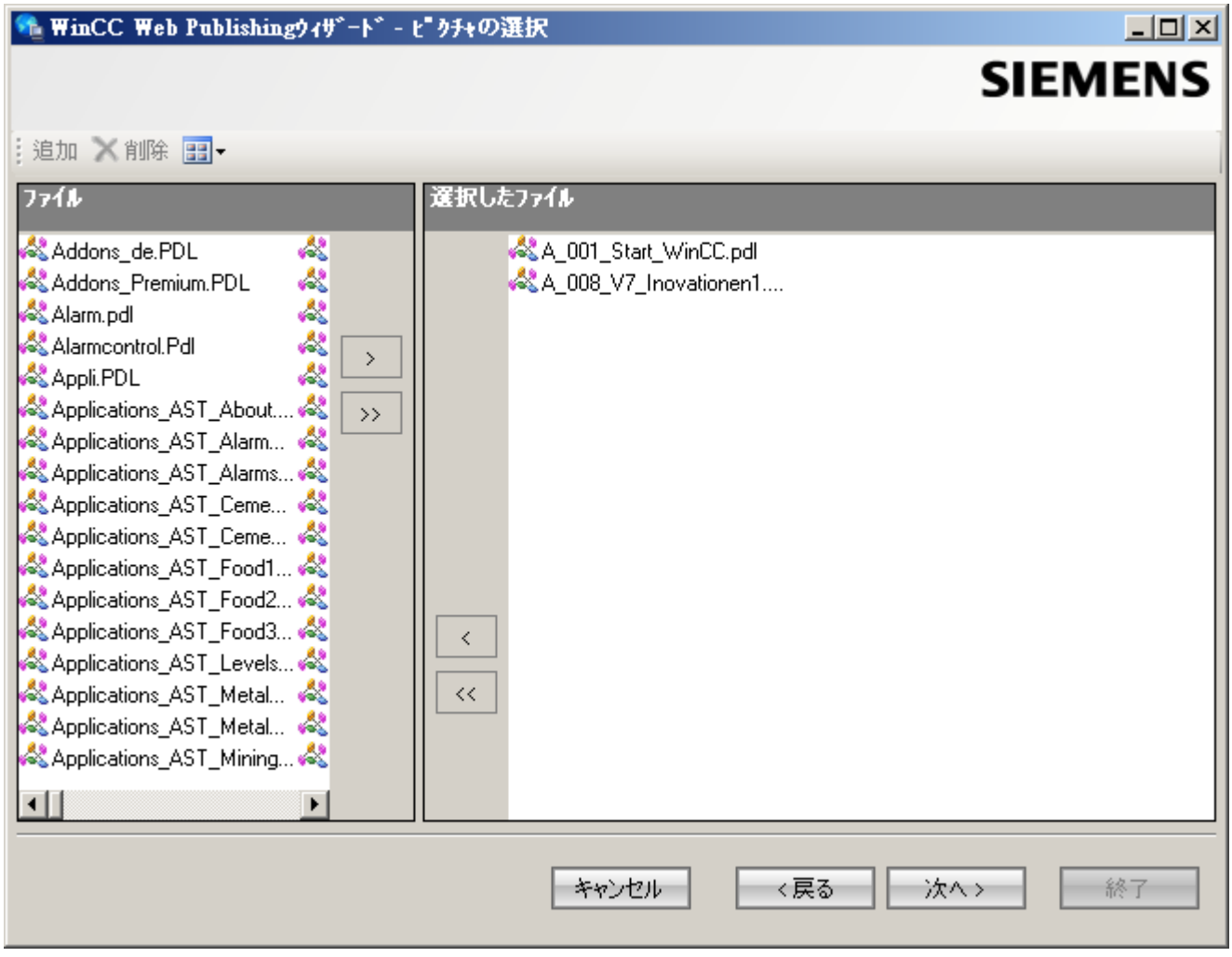
手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで"Web Navigator"を選択します。
   ショートカットメニューで"Web View Publisher"コマンドを選択します。
   これで WinCC Web 発行ウィザードが起動しました。

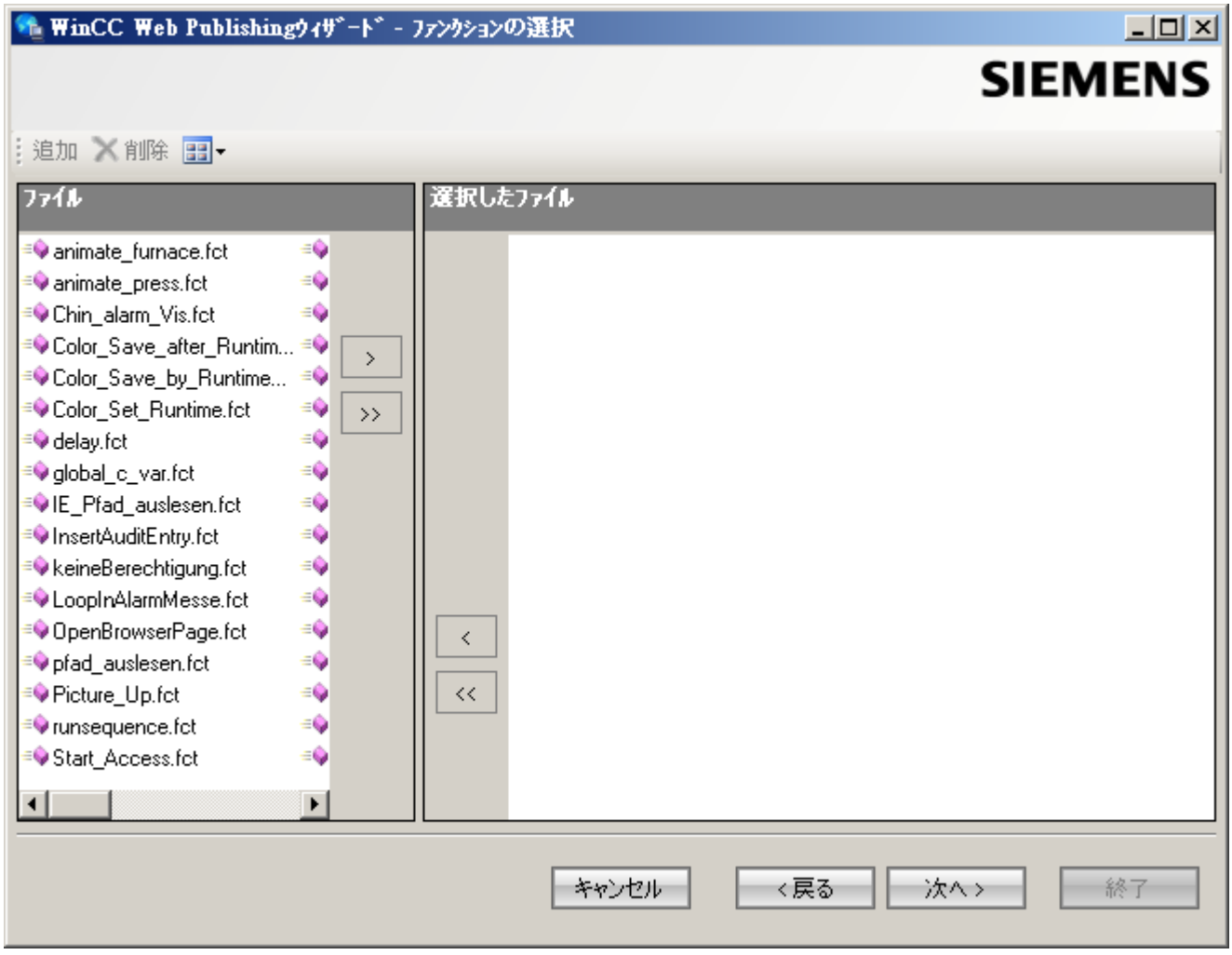
2. [次へ]をクリックします。

3. 専用 Web サーバーで画像を発行する場合、[サーバー接頭辞]オプションを有効にします。
   WinCC プロジェクトを含む WinCC サーバーの接頭語を、選択リストから選択します。
   WinCC クライアントにパッケージがロードされているサーバーの接頭辞が、リストに表示されます。
   選択肢から接頭辞を削除すると、その下の各フィールドに表示されたパスが変更されます。
4. [WinCC プロジェクトへのパス]で、発行する画像を含む WinCC プロジェクトフォルダを選択します。
   フォルダは、専用 Web サーバーで発行するため、以下の形式です。
   "\\<servername>\<serverprefix>_ _<projectname>".
   リモートステーションから発行する場合、画像を含むソースプロジェクトを選択します。
   ソースプロジェクトは、他の WinCC サーバーでのイネーブル名で表示されます。
   フォルダには、以下の形式があります。
   「\\<コンピュータ名>\<イネーブル名>」。

5. [WinCC Web の発行フォルダ]で、発行されている画像のターゲットフォルダを選択します。WinCC プロジェクトフォルダ内の提案フォルダを受け入れます。
画像をたとえば他のプロジェクトに転送する場合を除き、パスの仕様を変更しないでください。この場合、これに対応して、接頭辞選択リストが拡張されます。
発行画像のリモート発行中の保存先である指定されたターゲットプロジェクトを、確認します。
パスの定義は、ソースプロジェクトを選択すると更新されます。
ターゲットプロジェクトが別の WinCC サーバー上に配置されている場合、対応するプロジェクトを選択します。
6. [非表示オブジェクトを表示]オプションを選択し、自動的に発行された非表示オブジェクトを、結果リストに表示します。
7. [次へ]をクリックします。[選択されたファイル]リストに、発行する画像を移動します。

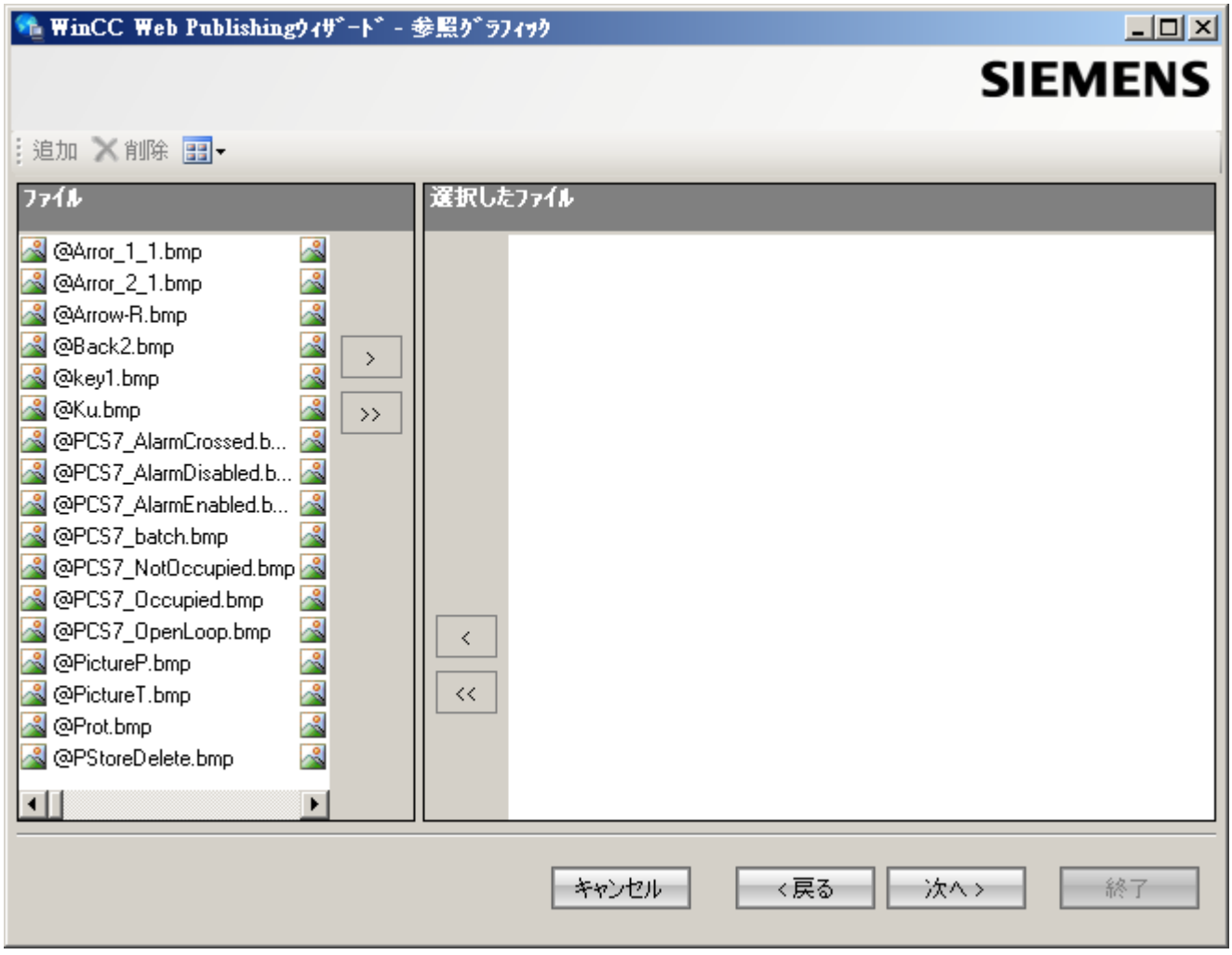


8. [次へ]をクリックします。発行された画像で使用する C プロジェクト関数を、[選択されたファイル]リストに移動します。VB スクリプトを個々に発行することはできません。



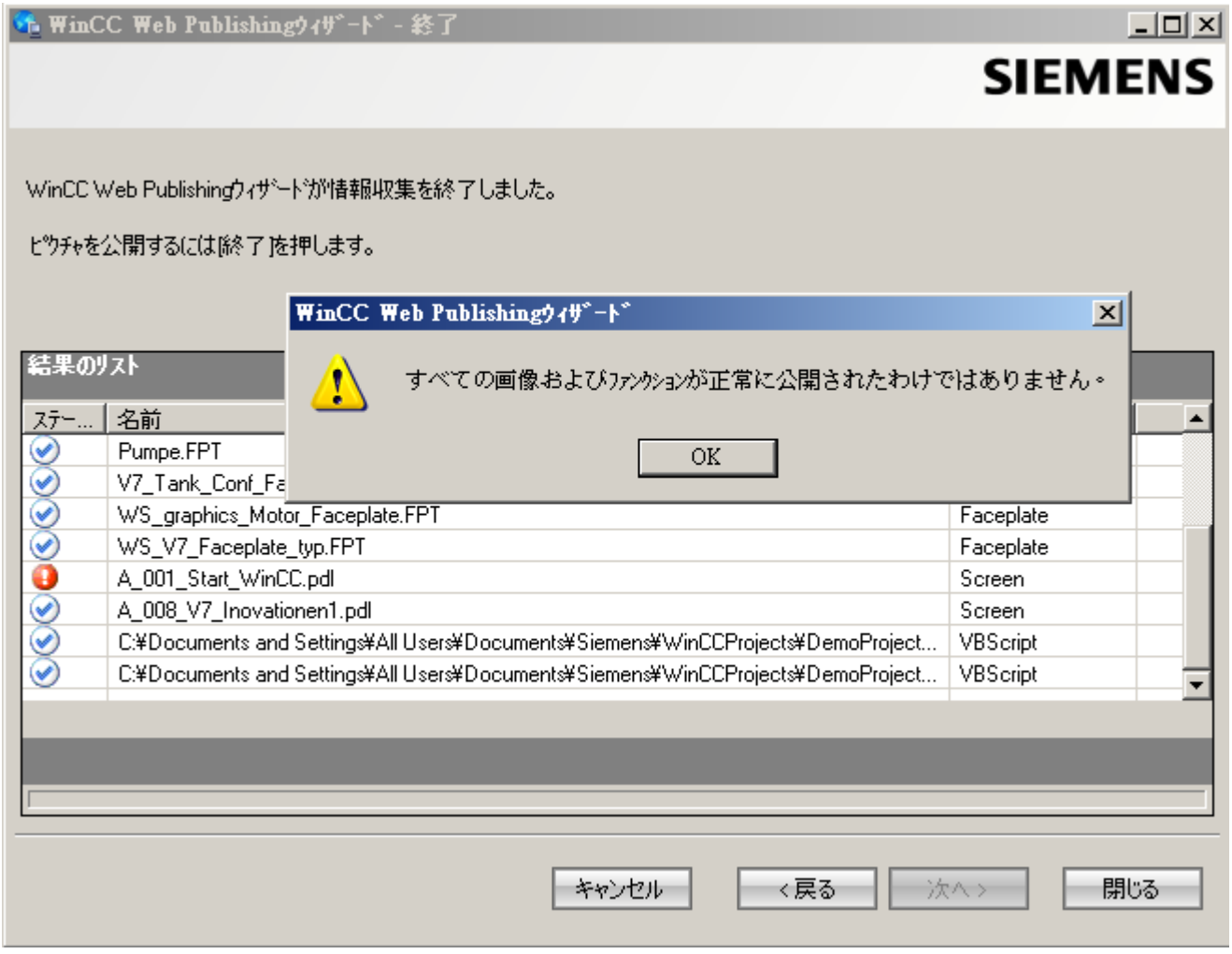
[次へ]をクリックします。

9. [選択されたファイル]リストに、発行する参照グラフィックを移動します。参照されたファイルは、"GraCS"フォルダまたは"GraCS"のサブフォルダにあります。



[次へ]をクリックします。

10. [終了]をクリックして画像の発行を開始します。



結果

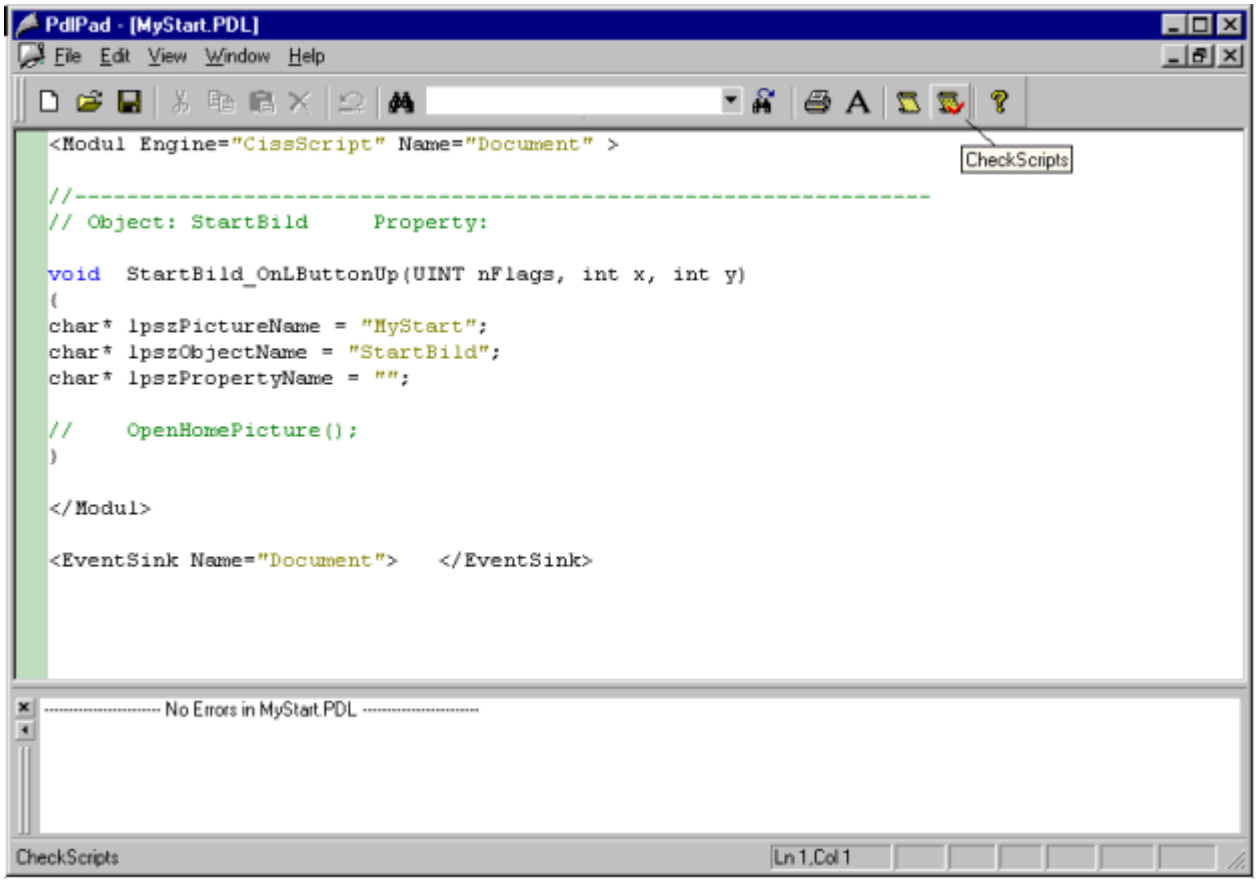
画像および関数が、正常に発行されました。結果リストに、すべての発行オブジェクトのステータスが表示されます。オブジェクトをクリックして、追加のオブジェクト情報を表示することができます。

「<プロジェクトフォルダ>\WebNavigator\WizardLog.txt」ファイルを使用して、発行を追跡できます。

"PdlPad"を使用したスクリプトの確認

"WizardLog.txt"ログファイルには、使用するスクリプトのエラーの情報が含まれています。"PdlPad"デバッガを使用しても、エラーを見つけることができます。

1. Web View Publisher の結果リストで、影響を受けるオブジェクトをダブルクリックして、"PdlPad"を開きます。発行画像のスクリプトが表示されます。



2. スクリプトを確認するには、をクリックします。
3. 一時的にスクリプトを変更して保存できます。これらの修正は発行する画像にのみ保存され、WinCC プロジェクトのプロセス画像には保存されません。

または、「Siemens Automation」プログラムグループで「PdlPad」を開きます。

DataMonitor に対するユーザーの管理

はじめに

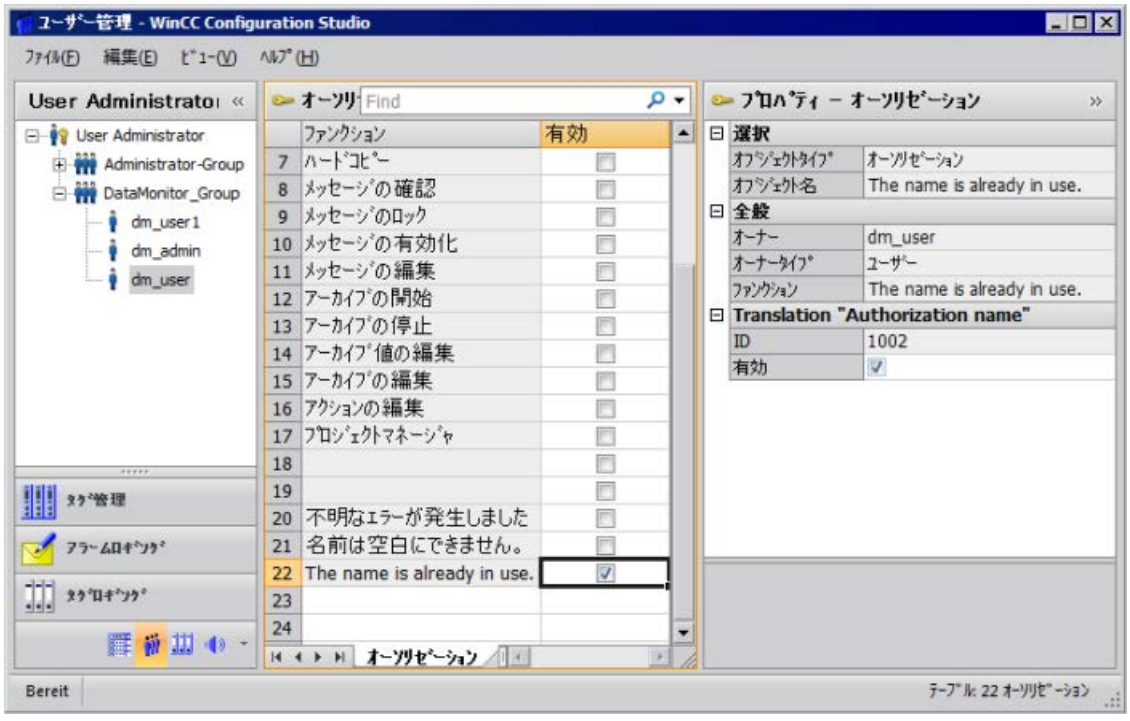
DataMonitor クライアントで特定の機能を使用するには、DataMonitor ユーザーとしての認証と WinCC ユーザーとしての認証が必要です。 "WinCCViewerRT"および"Excel Workbook"では 1 人の WinCC ユーザーを使用します。

DataMonitor クライアントで DataMonitor ユーザーおよび WinCC ユーザーとして作業する場合、2 回ログオンする必要があります。 1 回だけログオンするには以下の 2 つの方法があります。

- DataMonitor ユーザーと WinCC ユーザーの名前とパスワードを同一にします。
  ユーザーを Windows と WinCC で構成し、"SIMATIC HMI"および"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループに追加する必要があります。
- SIMATIC logon はユーザーの一元管理を可能にします。
  SIMATIC logon を DataMonitor と併用するには、DataMonitor ユーザーを"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループにも追加する必要があります。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[ユーザー管理者]エントリを選択します。 ショートカットメニューから[開く]コマンドを選択します。 [ユーザー管理者]エディタが開きます。



2. ナビゲーションウィンドウで、ユーザーを選択するか、ユーザーを新規作成します。
3. ユーザーグループを選択してから、ショートカットメニューを開きます。 [新規ユーザー]エントリを選択します。 ユーザーの名前は、<F2>ファンクションキーまたはショートカットメニューコマンド[名前の変更]を使って直接変更することができます。 ユーザーは、あらかじめこの目的で選択されている必要があります。
4. [ログイン]で、名前と最低 6 文字のパスワードを入力します。
   [OK]をクリックします。

5. テーブルウィンドウで、新たに作成されたユーザーを選択します。 ユーザーのプロパティが表示されます。
6. [WebNavigator]オプションを有効にします。 [Web の開始画像]の隣にあるドロップダウンリストから開始画像を選択します。
7. 選択された言語を確認し、必要な場合は[Web 言語]の隣にあるドロップダウンリストを使ってこの設定を変更します。 [WebNavigator]または[PureWebClient]のいずれか 1 つが有効な場合にのみ、ドロップダウンリストから新しい言語を選択することが可能です。 テキストライブラリで作成された言語は、選択用に使用できます。
8. ユーザーには、少なくともオーソリゼーション[Web アクセス - モニタリングのみ]が必要です。
   テーブルウィンドウの行で、[有効]列の該当するオーソリゼーションを有効にします。
9. ユーザー管理者を閉じます。

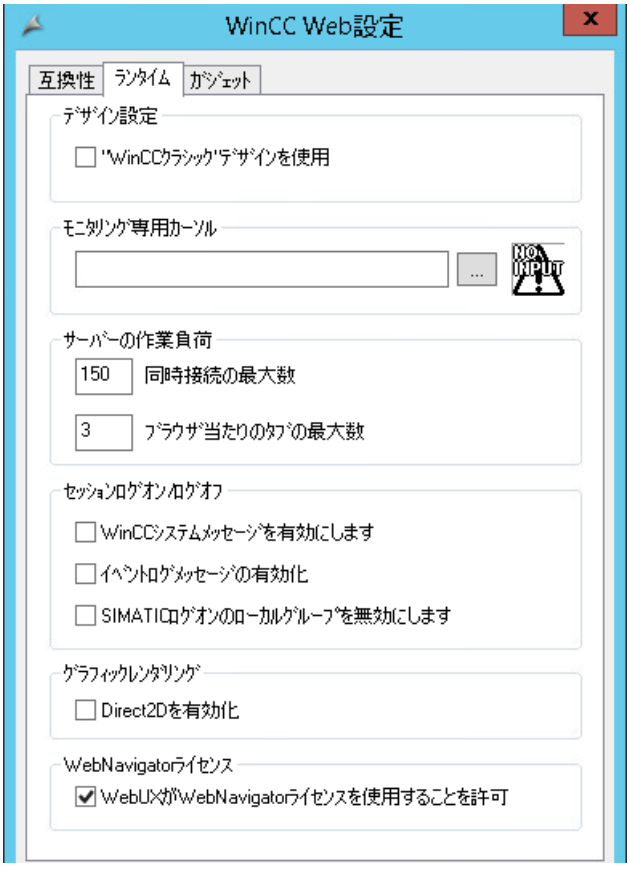
ランタイム設定の設定

はじめに

DataMonitor を使用する場合、ランタイムの動作の設定を定義します。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで[WebNavigator]を選択します。 ショートカットメニューで[Web 設定]コマンドを選択します。
2. [WinCC Web 設定]ダイアログの[ランタイム]タブに変更します。
   必要な設定を選択します。 [OK]を押してダイアログを閉じます。



[WinCC クラシック]デザインを使用

このオプションを有効にすると、DataMonitor クライアントのパフォーマンスが向上します。 これで、WinCC V6 の元のスタイルが使用されます。

[モニタリングのみ]カーソル

デフォルトのカーソルに、DataMonitor クライアントのユーザーはランタイムを操作できないことが表示されます。 ユーザーには、WinCC ユーザー管理者でシステムオーソリゼーション番号 1002 - 「Web アクセス - モニタリングのみ」が割り当てられています。

ユーザー自身のカーソルを使用する場合は、そのパスとファイル名を入力します。 [...]ボタンを使用して、選択したカーソルのファイルまで移動することもできます。

サーバー負荷

DataMonitor に、領域[サーバー負荷]の設定は必要ありません。

WinCC システムメッセージの有効化

システムメッセージ「番号 1012400」または「番号 1012401」が、DataMonitor クライアントのログイン/ログオフ時に出力およびアーカイブされます。

イベントログメッセージを有効にする

セッションのログインまたはログアウトが正常に実行されると、Windows のイベントビューアに記録されます。

SIMATIC Logon のローカルグループを無効にする

DataMonitor サーバーにアクセスできるのは、同じドメインのグループのみです。

ハードウェアアクセラレーテッドグラフィック表現

Direct2D の表現は、WebNavigator クライアント上で、プロジェクト全体に対して有効化されています。

3.2.2.3 DataMonitor システムの構成

Windows のユーザーの定義

Windows のユーザーグループ

概要

DataMonitor サーバーをインストールすると、以下のユーザーグループが自動的に Windows に作成されます。

SIMATIC Report Administrators

特に設定目的に対する拡張権限には、ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators" のメンバーシップが必要です。 少なくとも 1 人のユーザーを作成し、"SIMATIC Report Administrators"ユーザーグループに割り当てる必要があります。

- "Webcenter"の"SIMATIC Report Administrators"として、以下も実行できます。
  - 接続を設定する
  - Webcenter ページのテンプレートの作成
  - パブリックおよびプライベートの Webcenter ページの作成と設定
- "Reports"の"SIMATIC Report Administrators"として、以下も実行できます。
  - WinCC 印刷ジョブまたは Excel ワークブックに基づきレポートを設定。

SIMATIC Report Users

ユーザーグループ"SIMATIC Report Users"またはユーザー自身のユーザーグループのメンバーシップが、"Webcenter"、"Trends & Alarms"および"Reports"に必要です。

- "Webcenter"の"SIMATIC Report Users"として、以下も実行できます。
  - Webcenter ページのセットアップおよび設定。 Webcenter ページは種々のディレクトリに保管されます。
  - パブリックページを開く
- "Reports"の"SIMATIC Report Users"として、以下も実行できます。
  - WinCC 印刷ジョブまたは Excel ワークブックに基づきレポートを開く。

Windows のユーザーおよびアクセス権の定義

はじめに

DataMonitor を使用するとき、ユーザーはさまざまな認証が必要です。

- すべてのユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。
- DataMonitor 経由で WinCC データベースにアクセスするには、"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループのメンバであり、パスワードを持っている Windows ユーザーである必要があります。

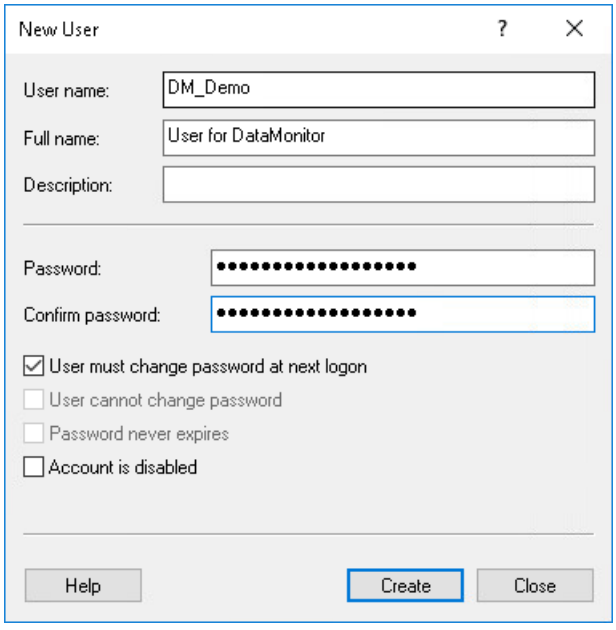
つまり、適合するユーザー権限があるユーザーを作成する必要があります。

必要条件

- WinCC がインストールされている。
- DataMonitor サーバーがインストールされている。

手順

1. Windows の[コンピュータの管理]を開きます。
2. [システムツール]で、[ローカルユーザーとグループ] > [ユーザー]に移動します。
   コンテキストメニューで、[新規ユーザー]エントリを選択します。



3. [ユーザー名]フィールドの[新しいユーザー]ダイアログボックスに、"DM_Demo"などの名前を入力します。
   [フルネーム]フィールドに「DataMonitor のユーザー」などの名前を入力します。
   [パスワード]フィールドに希望のパスワードを入力し、[パスワードの確認入力]フィールドに再度入力します。
   [作成]で、ユーザーを作成します。
   [新規ユーザー]ダイアログを閉じます。
4. テーブルウィンドウで、新しく作成したユーザーをクリックします。
   コンテキストメニューの[プロパティ]コマンドを選択します。
5. [メンバ]タブの[追加]をクリックします。
6. [グループの選択]ダイアログで[詳細]をクリックしてから[今すぐ検索]ボタンをクリックします。
7. 開かれたリストで、以下のエントリを選択します。
   - SIMATIC Report Administrators
   - SIMATIC HMI
   - SIMATIC HMI VIEWER
8. [OK]を 2 回クリックしてダイアログを閉じます。
   ユーザーのプロパティで、グループがリストに追加されています。
9. [OK]をクリックして、[コンピュータの管理]を閉じます。

結果

ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"、"SIMATIC HMI" および"SIMATIC HMI VIEWER"のメンバーシップがあるユーザー"DM_Demo"が設定されています。

これでユーザーは Webcenter でディレクトリを作成できるようになり、WinCC データベースに接続できます。

注記

リモートアクセス用のログイン

ユーザーが DataMonitor サーバー経由でリモートコンピュータにアクセスする場合、その Windows ユーザーは、DataMonitor サーバーとリモートサーバーで同じパスワードでセットアップされる必要があります。

DataMonitor Web ページの設定

はじめに

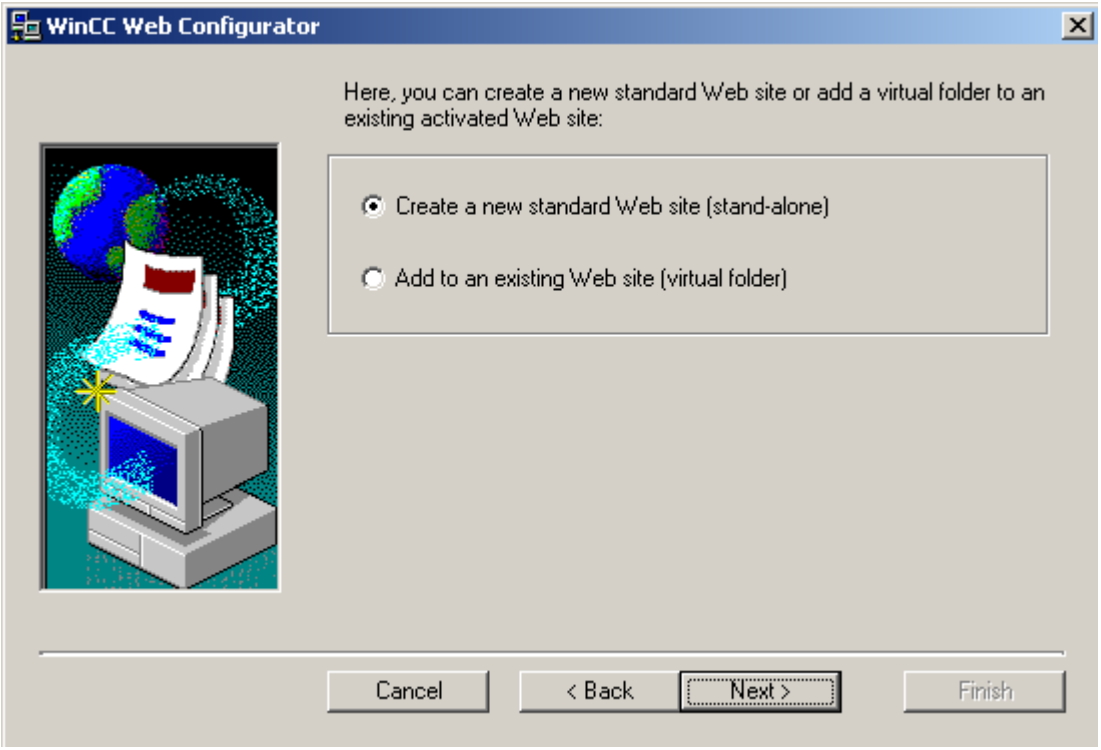
WinCC Web Configurator を使用して、DataMonitor Web ページを作成します。

必要条件

- DataMonitor サーバーがインストールされている。
- Windows の「インターネット インフォメーション サービス」コンポーネントがインストールされている。

手順

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで"Web Navigator"を選択します。ショートカットメニューで[Web Configurator]コマンドをクリックします。
   または「Siemens Automation」プログラムグループのエントリ[Web Configurator]を選択します。
2. Web Configurator は、すでに設定されているかどうかを検出します。
   – 設定が見つからない:[標準 Web サイト(スタンドアロン)の新規作成]を起動します。[次へ]をクリックします。



   – 設定が見つかった:[次へ]をクリックし、設定を確認します。

3. [Web ページの名前]を選択して、名前を入力します。

4. アクセスに使用するポートの番号を、[ポート]ボックスに入力します。
5. [IP アドレス]で、コンピュータをイントラネットまたはインターネットまたは両方のネットワークで使用できるかを指定します。
   選択リストで使用できるアドレスだけを使用します。
   [すべて割り付けない]を選択すると、イントラネットおよびインターネットでコンピュータにアクセスできます。
6. デフォルトの Web ページとして、[DataMonitor.asp]を選択します。
7. 接続エラーの場合は、DataMonitor クライアントが自動的に接続を再確立し始めるまでの時間間隔を、指定します。時間設定が[0 秒]であると、[自動再接続]ファンクションが無効になります。
8. 設定が完了したら、Web ページを起動するかどうかを指定します。
9. ファイアウォールを起動していない場合、[終了]をクリックします。
   ファイアウォールがすでにインストールされている場合、[次へ]をクリックします。ファイアウォールのセットアップ方法については、以下のページを参照してください。

結果

Web フォルダが作成されており、Web ページが有効になっています。ファイアウォールが有効になっている場合、Web Configurator を使用してその設定を設定します。

ファイアウォールの設定

はじめに

このセクションでは、例として Windows Server 2016 を使用した「HTTP」と「HTTPS」サービスを有効にする方法を説明します。

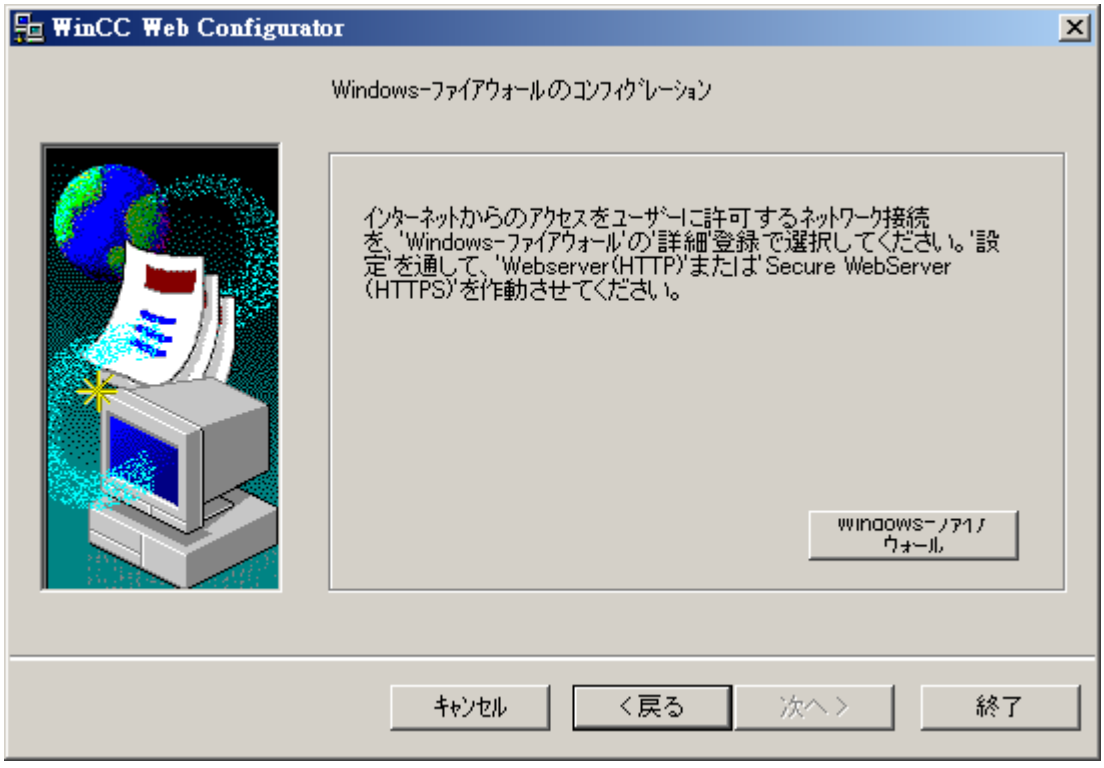
高度なセキュリティで、または別のポートに Windows ファイアウォールをセットアップする場合、ネットワーク管理者にご相談ください。

必要条件

- Web Configurator を使用してデフォルトの Web ページが作成されている。
- ファイアウォールが起動されている。
- ログオンしているユーザーが Windows 管理者権限を持っている。
- WebNavigator に HTTPS サービスを使用している場合、IIS で HTTPS サービスをセットアップする必要があります。
  詳細については、「IIS での HTTPS サービスのセットアップ (http://support.microsoft.com/kb/324069)」を参照してください。

デフォルトのポートの手順

1. [WinCC Web Configurator]の[Windows ファイアウォールの設定]ページへ切り替えます。
2. [Windows ファイアウォール]ボタンをクリックします。



[Windows ファイアウォール]ダイアログが開きます。

3. [Windows ファイアウォールを介してアプリが通信することを許可する]をクリックします。
4. [World Wide Web サービス(HTTPS)を保護]を有効にします。
5. [OK]を押してすべての Windows ダイアログを閉じます。
6. Web Configurator の[終了]をクリックします。
   サーバー設定が完了します。

3.2.2.4 DataMonitor クライアントでの作業

Internet Explorer のセキュリティ設定

はじめに

DataMonitor クライアントの全機能に対して、Internet Explorer のセキュリティ設定を適用します。

必要条件

- Internet Explorer がインストールされている。

手順

1. Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション]をクリックします。
   [インターネット オプション]ダイアログが開きます。
2. [セキュリティ]タブを選択します。
3. [信頼済みサイト]アイコンを選択して、[サイト]ボタンをクリックします。
   [信頼済みサイト]ダイアログが開きます。
4. DataMonitor サーバーのアドレスを[この Web サイトをゾーンに追加する]フィールドに入力します。
   使用できる形式とワイルドカードには、"*://157.54.100 - 200"、"ftp://157.54.23.41"、"http://*.microsoft.com"が含まれます。
5. [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする]チェックボックスをオフにします。
   [追加]をクリックします。
   [OK]をクリックし、エントリを確定します。
6. [信頼済みサイト]アイコンを選択します。
7. [デフォルトレベル]をクリックします。
   次のダイアログで[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
   [セキュリティ設定]ダイアログボックスが開きます。
   – [スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行]下の[有効にする]オプションをオンにします。
   – [OK]をクリックし、エントリを確定します。
8. [OK]をクリックして[インターネット オプション]ダイアログを閉じます。

結果

DataMonitor クライアントの Internet Explorer で必要な設定が、設定されます。

ユーザー認証:Internet Explorer での[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定が有効な場合

[ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ]タブ > [レベルのカスタマイズ]ボタン > [ユーザー認証]エントリ > [ログオン]で、[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定が Internet Explorer で有効になっている場合、以下の必要条件下で予期しない動作が発生することがあります。

必要条件

- Internet Explorer の[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定が有効である。
- ユーザーが、DataMonitor サーバーのユーザーグループで設定されていない WinCC ユーザーとして DataMonitor クライアントにログインしている。
- DataMonitor サーバーでユーザー名としてセットアップされている Windows ログオンを使って、ユーザーがコンピュータにログインしている。

動作

1. DataMonitor サーバーが、DataMonitor クライアントにログインしたことのあるユーザーとして WinCC ユーザーを認識しないため、ユーザー名が拒否されます。ユーザーにはこの動作は表示されません。
2. Internet Explorer は、現在の Windows ログインをユーザー名として使用し、自動的に新規ログインを開始します。
3. DataMonitor サーバーは、Windows ログインを DataMonitor ユーザー名として認識し、このユーザーに対してログインを許可します。
4. ユーザーはログインしていますが、ユーザーが入力した DataMonitor ユーザー名ではログインしていません。現在の DataMonitor ユーザーは表示されません。

推奨される操作

[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]設定を無効にします。

この設定を使用するのは、Windows ログインと DataMonitor のユーザー名が明らかに区別されている場合のみにしてください。

DataMonitor クライアントの DataMonitor スタートページ

概要

DataMonitor クライアントを、スタンドアロンコンピュータまたは DataMonitor サーバーで起動します。 DataMonitor のスタートページには、以下の DataMonitor の機能が要約されています。

- "Reports":
  印刷ジョブおよび発行されている Excel ワークブックの分析結果およびプロセスデータの作成と出力。
- "Webcenter":
  アーカイブデータを表示するための Webcenter ページの作成。

- "Trends & Alarms":
  アーカイブからのアラームおよびプロセス値の表や図での表示。
- "Administration"
  接続のコンフィグレーションおよびユーザー、アーカイブ、画像の管理。

必要条件

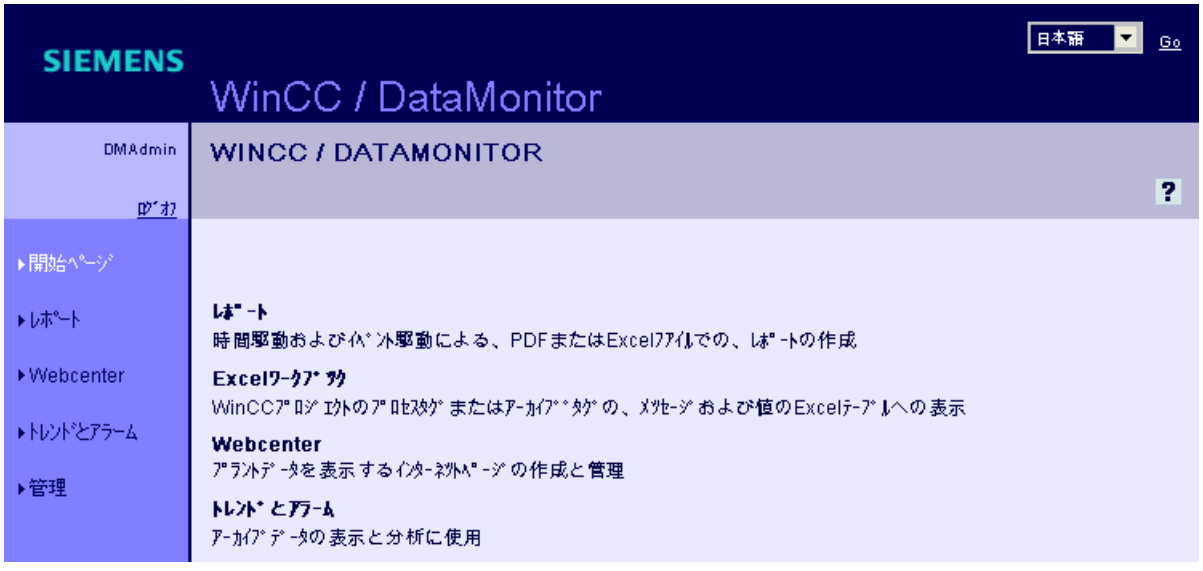
- ユーザーが WinCC で作成されている。
- ユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または "SIMATIC Report Users" のメンバである必要があります。
- DataMonitor サーバーで、WinCC プロジェクトがランタイムである。

手順

1. DataMonitor クライアントで Internet Explorer を起動します。
2. DataMonitor サーバーの名前を"http://<servername>"形式で URL に入力します。
   <Enter>キーを押してエントリを確定します。
   ログインダイアログが開きます。
3. Windows ユーザーの名前と関連するパスワードを入力します。 [OK]ボタンで確定します。

結果

DataMonitor 機能のスタートページが表示されます。 機能の使用はユーザーのアクセス権によって異なります。



DataMonitor クライアントの一般操作

- 必要なインターフェース言語を、ヘッダーの選択フィールドから選択します。
- 必要に応じて、"Webcenter"および"Trend & Alarms"のページのヘッダーを非表示にします。
  をクリックします。
  ヘッダー行を再表示するには、シンボルをクリックします。
- DataMonitor サーバーからログオフするには、[ログオフ]リンクをクリックします。
  Internet Explorer を終了して、使用したライセンスを直ちに解放します。

下記も参照

トレンドおよびアラームでの作業 (ページ 461)

レポートの取り扱い (ページ 497)

Webcenter での作業 (ページ 429)

3.2.3 WinCCViewerRT での作業

3.2.3.1 WinCCViewerRT の設定

はじめに

WinCCViewerRT は、WinCC プロジェクトを表示するためのプログラムです。

WinCCViewerRT を、DataMonitor サーバーおよびグラフィックランタイムで動作するように設定できます。

プロジェクト設定を使用

[プロジェクト設定を使用]オプションを選択すると、次の設定が DataMonitor サーバーにより適用されます。

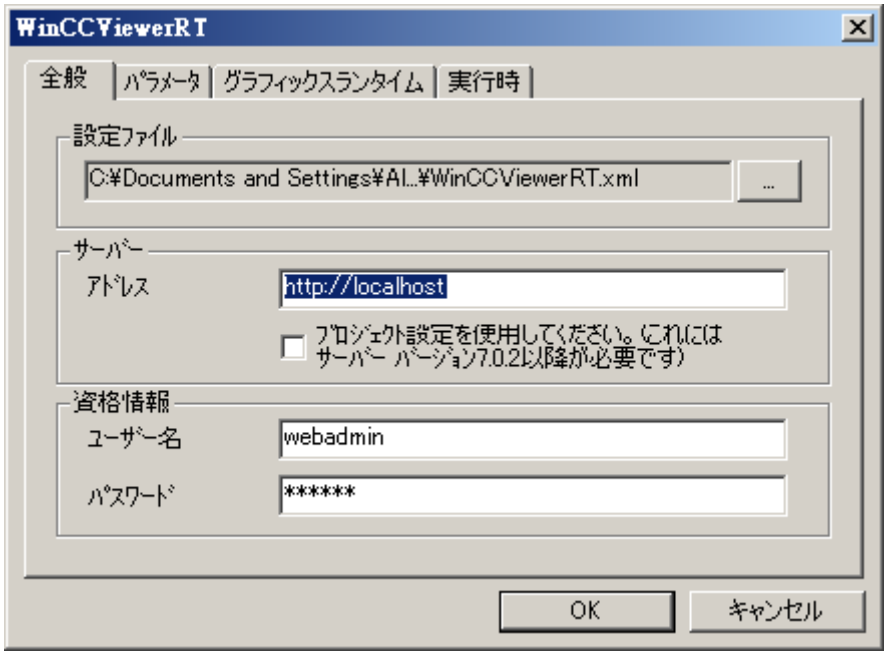
- ユーザー管理者:
  - 自動ログオフ
- コンピュータプロパティ:
  - ランタイム言語
  - ランタイムのデフォルト言語
  - 開始画像
  - メニューとツールバーの初期設定
  - ハードウェアアクセラレーテッドグラフィック表現(Direct2D):

必要条件

- サーバーに
  - DataMonitor サーバーがインストールされている。
  - WinCC/DataMonitor ライセンスがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
  - WinCC ユーザーには、オーソリゼーション番号 1002 - 「Web Access - monitoring only(モニタ限定)」が付与されていることが必要です。
- クライアントに
  - DataMonitor クライアントがインストールされている。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ「WinCCViewerRT」を選択します。
   WinCCViewerRT を再設定すると、[設定]ダイアログが開きます。
   WinCCViewerRT がすでにセットアップされている場合、WinCCViewerRT が開きます。
   <Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを使用して、WinCCViewerRT の設定ダイアログを開きます。



2. ログインデータを[全般]タブで入力します。
   – サーバーアドレス:"http://<Servername>"または"http://<IP-Adresse>"
   – プロジェクト設定を使用:DataMonitor サーバーの設定を適用
   – ユーザー名とパスワード(ログインダイアログにデフォルトユーザーを指定する場合)。
3. [パラメータ]タブでランタイム言語を指定します。
   必要であれば、ユーザーが他のプログラムに切り替えるキーの組み合わせを無効にします。
   必要な場合、WinCCViewerRT 設定ダイアログを開くために使用する事前に設定されている<Ctrl+Alt+P>キーの組み合わせを、変更できます。
   ユーザーがログオフでき、新規ユーザーがログオンできるキーの組み合わせを定義します。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが[全般]タブで設定されていない場合のみ、使用できます。

4. [グラフィックランタイム]タブで、WinCC Runtime プロパティを指定します:
   - 開始画像
   - ユーザー定義のメニューおよびツールバーの設定ファイル
   - ウィンドウ属性
   - 容認されないユーザー操作

5. [ランタイム]タブで、追加のユーザー操作を指定します:
   - スクリーンキーボードの有効化
   - スクリーンキーボードを介してタスクマネージャまたはオペレーティングシステムに切り替えることができるようにする<Ctrl+Alt+Del>キーの組み合わせ。
   - 自動ログオフの設定

6. [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。

結果

WinCCViewerRT が設定されます。

DataMonitor サーバーへの接続は、ダイアログを閉じた後にセットアップされます。

設定は、"WinCCViewerRT.xml"設定ファイルに保存されます。設定ファイルの設定は、WinCCViewerRT の次の起動で使用されます。

WinCCViewerRT が、WinCC からのユーザーインターフェース言語を適用します。

設定ファイルは、オペレーティングシステムに応じて次のフォルダに保存されます。

- <User>\AppData\LocalLow\Siemens\SIMATIC.WinCC\WebNavigator\Client

ファイル名を、たとえば"User1.xml"に変更できます。

また、ユーザー固有の設定ファイル(たとえば"WinCCViewerRT.exe User1.xml")を使用してコマンドラインによって WinCCViewerRT を起動することもできます。この手順により、ログオンしているユーザーによって異なる設定ができるようになります。

"WinCCViewerRT.xml"を削除または名前変更すると、WinCCViewerRT 設定ダイアログが起動時に開きます。WinCCViewerRT を再設定するか、または他の設定ファイルを選択します。

注記

WinCCViewerRT は、ショートカットを無効にするか、または[閉じる]ボタンを非表示にすると、スクリプト関数によってのみ閉じることができます。

C スクリプトの関数:DeactivateRTProject、VBScript の関数:HMIRuntime.Stop。

3.2.3.2 画像の表示

必要条件

- DataMonitor サーバーで、WinCC/DataMonitor ライセンスがインストールされている。
- DataMonitor サーバーで、WinCC プロジェクトがランタイムである。
- WinCC 画像が設定されており、Web アクセス用に発行されている。
- WinCC ユーザーには、オーソリゼーション番号 1002 - 「Web Access - monitoring only(モニタ限定)」が付与されていることが必要です。
- WinCCViewerRT が DataMonitor クライアントで設定されている。

手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ「WinCCViewerRT」を選択します。
2. DataMonitor サーバーにログオンします:
   - ユーザー名とパスワードが WinCCViewerRT 設定ダイアログに設定されている場合、ログインダイアログは表示されません。保存されているログインデータで自動的にログオンされます。
   - ユーザー名とパスワードが WinCCViewerRT 設定ダイアログに設定されていない場合、ログインダイアログが表示されます。WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。[OK]をクリックします。
3. ユーザーを変更するには、「WinCCViewerRT」のログイン/ログオフ用の指定されたキーの組み合わせを使用します。前のユーザーがログオフされます。ログインダイアログで、新しい WinCC ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。[OK]をクリックします。
   このキーの組み合わせは、デフォルトのユーザーが設定されていない場合のみ使用できます。

結果

WinCCViewerRT が、有効な WinCC プロジェクトに自動的に接続されます。WinCC プロジェクトの画像が表示されます。

「表示専用カーソル」は、プロセス関連の操作ができないことを示します。

WinCC OnlineTrendControl の[プロパティ]ダイアログを開くような、特定の操作はできます。

必要であれば、ユーザー自身のカーソルアイコンを、「表示専用カーソル」として使用することもできます。詳細については、「ランタイム設定の設定 (ページ 410)」を参照してください。

<F5>キーは WinCCViewerRT の再選択をトリガします。

3.2.4 Webcenter での作業

3.2.4.1 管理

ユーザーグループとディレクトリ

ユーザーグループとディレクトリ

概要

WebCenter ページとレポートは、DataMonitor サーバーのディレクトリに保管されます。

ディレクトリのその標準コンポーネントは、以下のとおりです。

- 「パブリック」
- "プライベート"ユーザー全員に"プライベート"ディレクトリがあります。 このディレクトリには、それぞれのユーザーのみがアクセス権を持っています。

ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のユーザーは、他のディレクトリを作成し、他のユーザーグループにこれらのディレクトリへの種々のアクセス権を割り当てることができます。

ディレクトリの設定の詳細については、「ディレクトリの設定 (ページ 432)」の章を参照してください。

Windows ユーザーグループ

DataMonitor サーバーがインストールされると、ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"および"SIMATIC Report Users"が作成されます。 これ以外のユーザーグループを作成できます。 ユーザーグループおよびユーザーの設定の詳細については、「Windows のユーザーおよびアクセス権の定義 (ページ 413)」の章を参照してください。

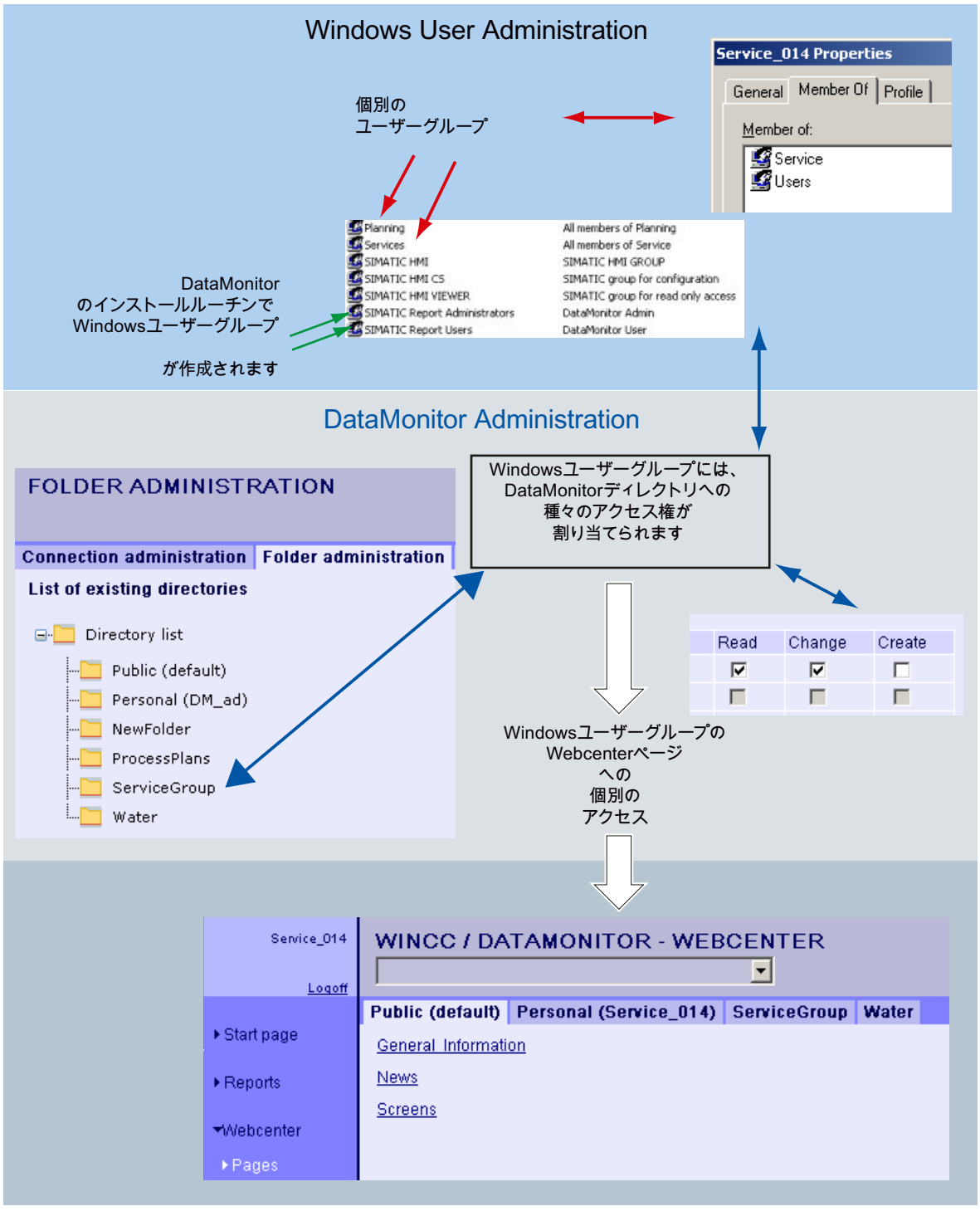
DataMonitor にアクセスするには、ユーザーグループのメンバー全員に、DataMonitor サーバーのディレクトリへの同じアクセス権を割り当てます。

以下のアクセスオーソリゼーションが可能です。

- 読み取り
- 変更
- 作成

ユーザーグループのメンバとしてのユーザーは、それぞれのユーザーグループがディレクトへのアクセス権を持っている場合のみ、そのディレクトリへのアクセス権があります。 これによって、ユーザーグループ固有のアクセス権を許可します。 アクセス権の割り当ての詳細については、「アクセス権の割り当て (ページ 433)」の章を参照してください。

以下の画面に、WebCenter の基本ユーザー管理が表示されます。


Windows User Administration
Service_014 Properties
General
Member Of
Profile
Member of:
Service
Users
個別の
ユーザーグループ
Planning
Services
SIMATIC HMI
SIMATIC HMI CS
SIMATIC HMI VIEWER
SIMATIC Report Administrators
SIMATIC Report Users
All members of Planning
All members of Service
SIMATIC HMI GROUP
SIMATIC group for configuration
SIMATIC group for read only access
DataMonitor Admin
DataMonitor User
DataMonitor
のインストールルーチンで
Windowsユーザーグループ
が作成されます
DataMonitor Administration
FOLDER ADMINISTRATION
Connection administration
Folder administration
List of existing directories
Directory list
Public (default)
Personal (DM_ad)
NewFolder
ProcessPlans
ServiceGroup
Water
Windowsユーザーグループには、
DataMonitorディレクトリへの
種々のアクセス権が
割り当てられます
Read
Change
Create
Windowsユーザーグループの
Webcenterページ
への
個別の
アクセス
Service_014
Logoff
WINCC / DATAMONITOR - WEBCENTER
Public (default)
Personal (Service_014)
ServiceGroup
Water
Start page
Reports
Webcenter
Pages
General Information
News
Screens

ディレクトリの作成

はじめに

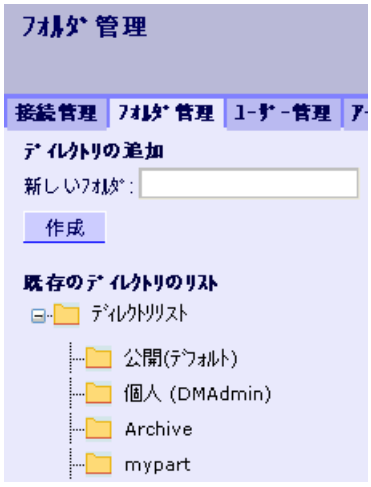
Webcenter ページをディレクトリに保管します。 デフォルトディレクトリは[パブリック]および[プライベート]です。

必要条件

- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの[Webcenter] > [管理]をクリックします。
2. [ディレクトリ管理]タブをクリックします。



3. "mypart"などの名前を[新しいディレクトリ]フィールドに入力します。
4. [作成]ボタンをクリックします。

結果

ディレクトリ[mypart]が作成されます。 ディレクトリはレイヤに作成されます。

アクセス権の割り当て

はじめに

たとえば Webcenter ページを保存する Webcenter で、ディレクトリが作成されます。Windows ユーザーグループに、個別のディレクトリへの異なるアクセス権を割り当てることができます。

以下のアクセスオーソリゼーションが可能です。

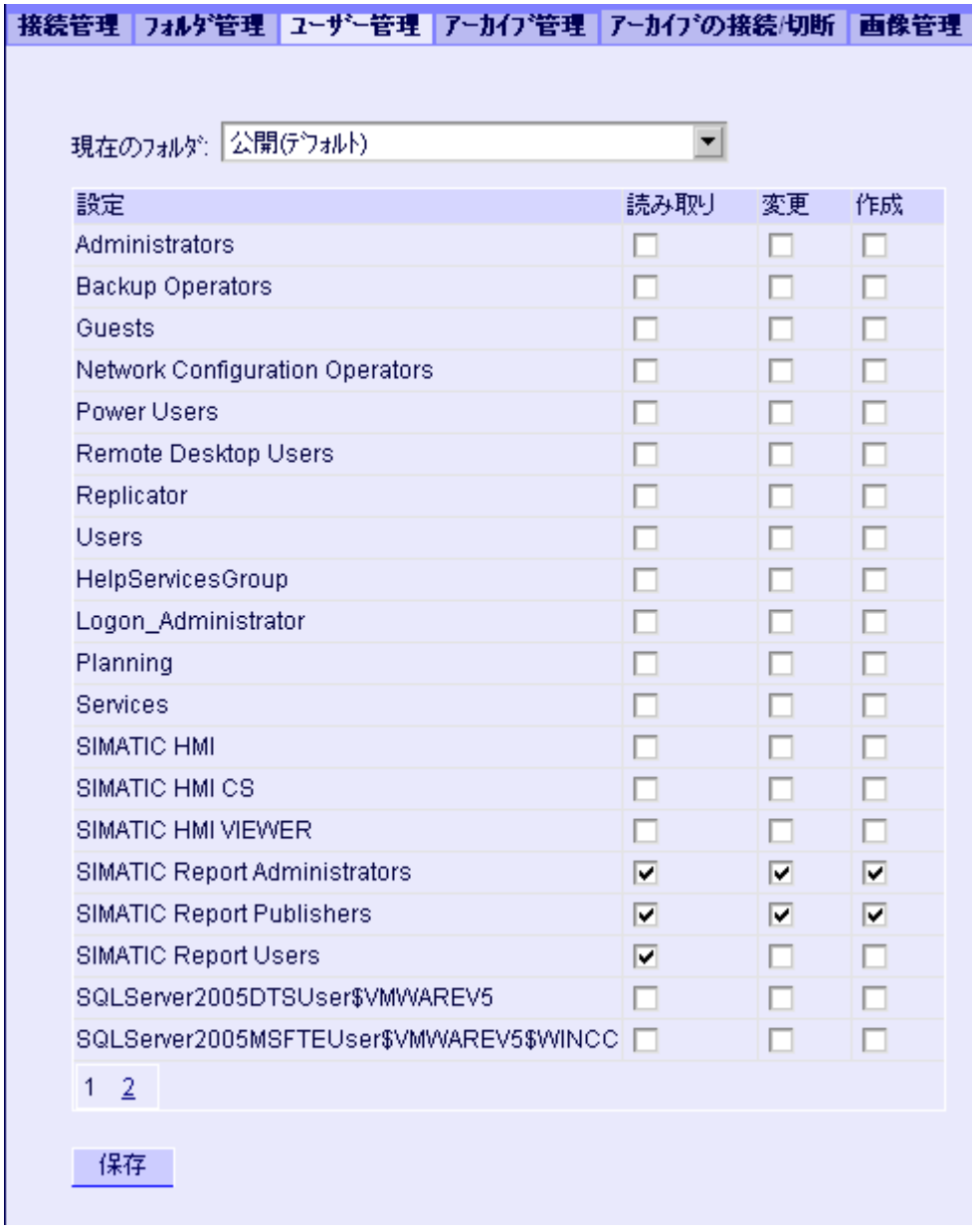
- 読み取り
- 変更
- 作成

必要条件

- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。

手順

1. スタートページの[Webcenter] > [管理]をクリックします。
2. [ユーザー管理]タブをクリックします。



3. [現在のディレクトリ]から希望するディレクトリを選択します。
   既存の Windows ユーザーグループすべてが、一覧表示されます。
4. 必要な Windows ユーザーグループの行のアクセス権を有効にします。
5. [保存]をクリックします。

結果

必要なディレクトリに対するアクセス権が設定されます。

下記も参照

ユーザーグループとディレクトリ (ページ 429)

例: ユーザーグループとディレクトリ

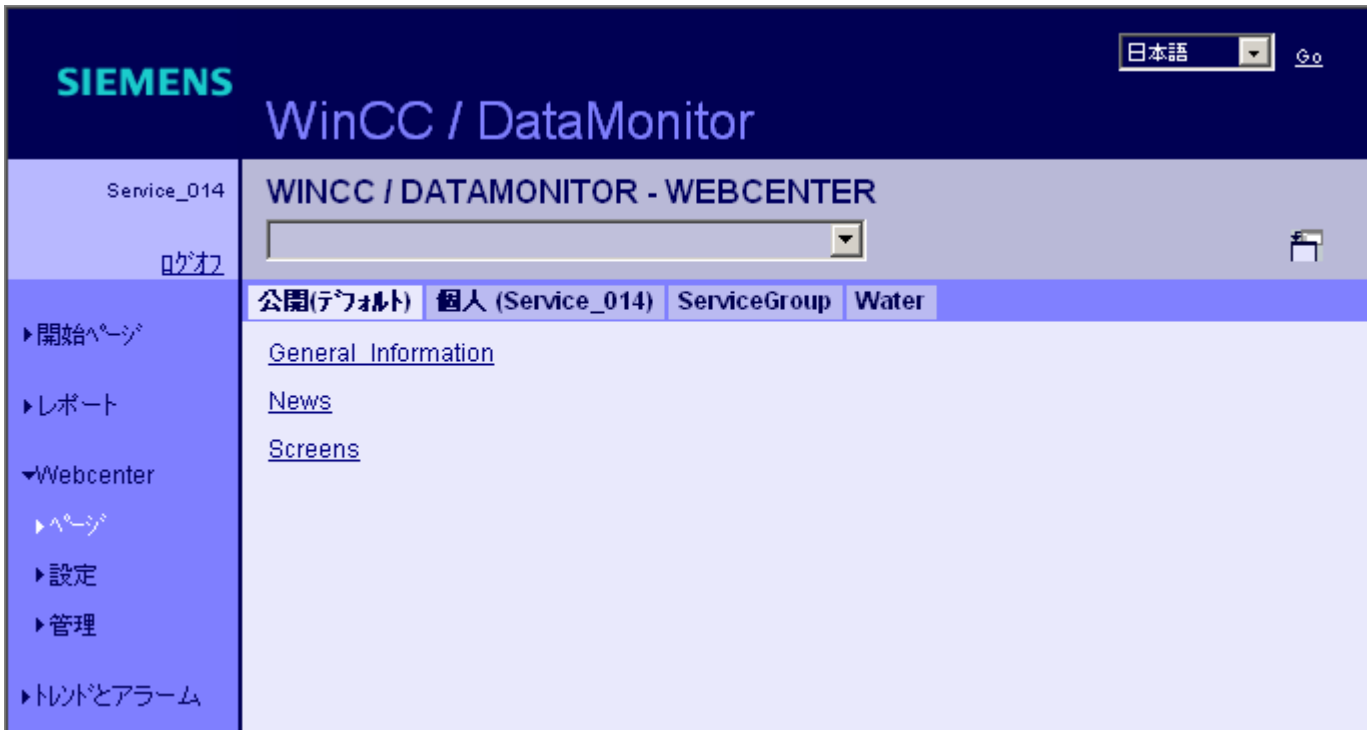
概要

ユーザーグループ"Service"および"Planning"が、以下の例に作成されています。 ディレクトリ"ServiceGroup"、"Water"、"ProcessPlans"が Webcenter に作成されます。

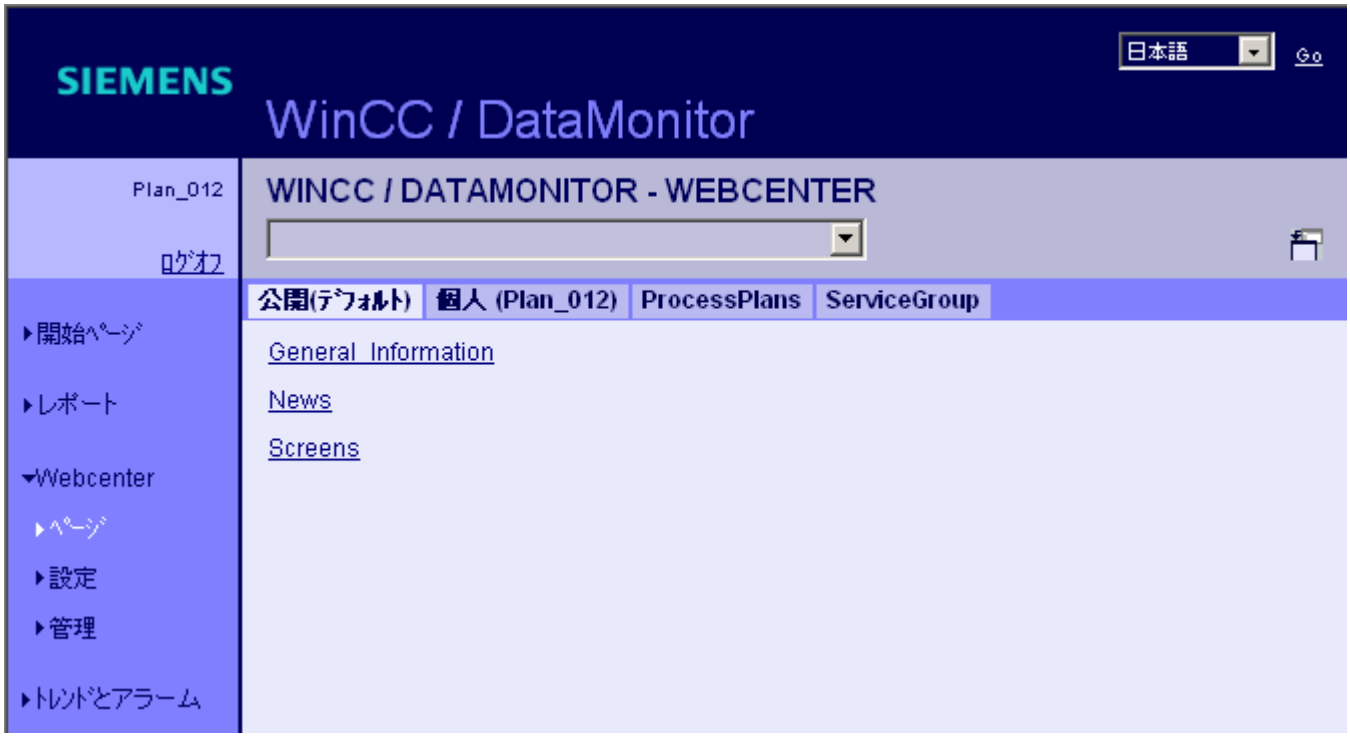
以下の表に、ユーザーグループ"Service"および"Planning"のメンバが以下のディレクトリに対して持っているアクセス権限を、示します。

ディレクトリ	ユーザーグループ "Service"	ユーザーグループ"Planning"
パブリック	● 読み取り	● 読み取り
プライベート	● 読み取り ● 変更 ● 作成	● 読み取り ● 変更 ● 作成
ServiceGroup	● 読み取り ● 変更 ● 作成	● 読み取り
Water	● 読み取り ● 変更	アクセスオーソリゼーションなし
ProcessPlans	アクセスオーソリゼーションなし	● 読み取り ● 変更

ユーザーグループ"Service"のメンバが、ログインして WebCenter の[ページ]をクリックすると、そのユーザーグループが少なくとも読み取りアクセス権を持っているタブとして、ディレクトリが表示されます。 [WebCenter] > [ページ]により、以下のようにユーザーグループ"Service"のメンバ"Service_014"が検索されます。



[WebCenter] > [ページ]により、以下のようにユーザーグループ"Planning"のメンバ"Plan_012"が検索されます。



接続と言語設定

はじめに

DataMonitor クライアントのランタイムデータおよびアーカイブデータへのアクセスのため、"Webcenter"で WinCC データベースへの接続を設定します。

データソースごとに、接続を設定します(例: WinCC サーバーへの接続)。

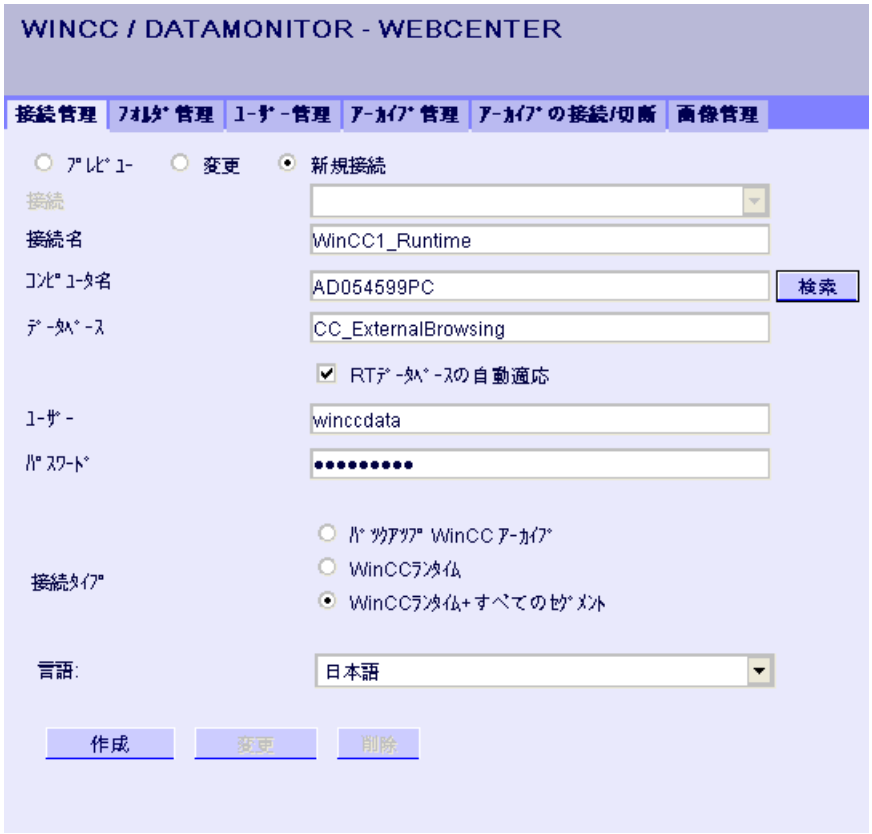
Webcenter ページおよび"Trends & Alarms"の設定された接続が必要です。

必要条件

- ユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- DataMonitor 経由で WinCC データベースにアクセスするため、"SIMATIC HMI VIEWER"ユーザーグループのメンバでありパスワードを持っている Windows ユーザーが作成されている。

手順

1. スタートページの"Webcenter > Administration"をクリックします。
2. [接続管理]タブをクリックします。



3. [新規接続]オプションを選択します。
   新規にインストールした後は、接続がまだ設定されていないため、[接続]ボックスには選択できるものが表示されません。
4. サーバーの言語地域または[言語地域]でリンクされるアーカイブに対応する言語を、選択します。
   この設定により、国固有の特殊文字が、確実に正しく表示されます。
5. "WinCC1_Runtime"などの名前を、[接続名]ボックスに入力します。
   名前には、選択された接続タイプへの参照が含まれている必要があります。
   ブランクスペースまたは特殊文字を使用しないでください。
6. アーカイブのバックアップデータを保存するコンピュータ名を入力します。
   または、[検索]ボタンを使ってコンピュータの名前を選択します。
7. WinCC データベースとの接続用パスワードを持っている Windows ユーザーを入力します。

8. WinCC データへの接続タイプを選択します:
   - [スワップアウトされた WinCC アーカイブ]。
     スワップされたアーカイブのデータにアクセスするには、追加ステップが必要です。詳細については、「スワップされたアーカイブの接続または分割 (ページ 439)」を参照してください。
   - [WinCC Runtime]。
     ランタイムデータベースのオープンな単一セグメントのみが使用されます。
   - [WinCC Runtime + 全セグメント]。
     ランタイムデータベースのオープンな単一セグメントおよびその他の接続されたセグメントすべてが使用されます。
9. 以下の接続タイプのデータベースを選択します。
   - [スワップアウトされた WinCC アーカイブ]:
     [データベースを表示]をクリックするか、またはリストからアーカイブを選択します。
   - [WinCC Runtime]:
     有効な WinCC プロジェクトのランタイムデータベースを選択します。または、[検索]ボタンを使ってデータベースの名前を選択します。
   - [WinCC Runtime + 全セグメント]:
     "CC_ExternalBrowsing"が自動的にデータベースとして入力されます。
10. データベース名がセグメント変更中に接続管理で調整されるように、[RT データベースの自動適応]を有効にします。
11. [作成]ボタンをクリックします。

結果

データソースへの接続が作成され、接続管理の[接続]ボックスで選択できます。

下記も参照

シンボルディレクトリの設定 (ページ 439)

WinCC アーカイブコネクタを使ってアーカイブを接続する (ページ 443)

スワップされたアーカイブの接続または切断

シンボルディレクトリの設定

はじめに

スワップアウトされた WinCC アーカイブのデータへアクセスするには、これらのアーカイブを SQL Server に再接続する必要があります。

ディレクトリのアーカイブバックアップファイルのすべてまたは個々を、SQL Server と接続できます。

アーカイブを含むディレクトリをシンボル名のリストから削除する場合、そこに含まれているすべてのアーカイブの接続を切断します。

アーカイブのステータスは、[アーカイブの接続/切断]タブに表示されます。

注記

交換可能な媒体で接続されているアーカイブ

ドライブの媒体を変更する前に、この媒体に接続されたアーカイブを切断する必要があります。

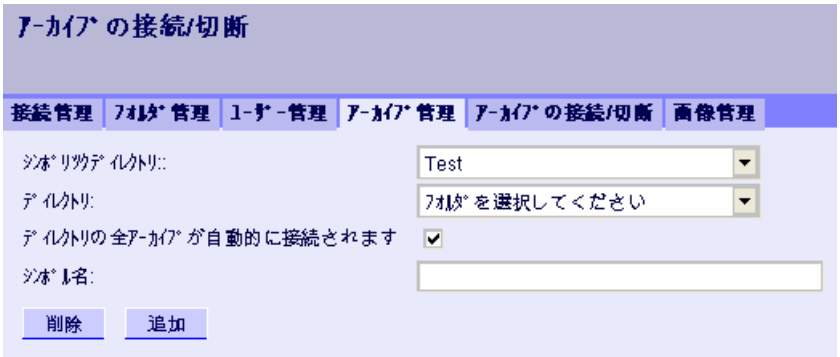
媒体を変更してから、新しい媒体にアーカイブが接続されているかどうかを確認します。

必要条件

- アーカイブバックアップファイルが書き込み保護されている。
  接続する前にファイルのバックアップコピーを作成し、コピーされたアーカイブバックアップファイルの書き込み保護を解除します。
- アーカイブバックアップファイルがローカルドライブに保管されている。
- アーカイブバックアップファイルが保管されているディレクトリがリリースされている。
  - DataMonitor サーバーを起動する前に、このディレクトリを Windows エクスプローラで共有設定する必要があります。
  - ディレクトリを後でリリースする場合、DataMonitor サーバーを再起動します。
- ユーザーグループ"SIMATIC HMI VIEWER"に、ディレクトリへの「完全アクセス権」がある。
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- "印刷オペレータ"グループに"ネットワークサービス"が追加されている。

手順

1. スタートページの[Webcenter] > [管理]をクリックします。
2. [アーカイブ管理]タブをクリックします。



3. [シンボル名]ボックスに、各ディレクトリの一意のシンボル名を入力します。
   名前に含めることができるのは、SQL 構文で許可された文字だけです。
   シンボル名を、DataMonitor クライアントを経由するアクセスに使用します。
4. アーカイブバックアップファイルを含むフォルダを選択します。
   リリースされているディレクトリだけを選択できます。
5. ディレクトリの既存のアーカイブバックアップファイルをすべて自動的に接続するには、[このディレクトリのアーカイブをすべて自動的に接続する]を有効にします。
6. ディレクトリの個々のアーカイブバックアップファイルを接続するには、[このディレクトリのアーカイブをすべて自動的に接続する]を無効にします。
7. [追加]をクリックします。

結果

シンボルディレクトリ[テスト]が作成されます。

[このディレクトリのアーカイブをすべて自動的に接続する]を無効にした場合、[アーカイブの接続/切断]タブでアーカイブバックアップファイルを指定します。

アーカイブの接続を切断するには、[アーカイブの接続/切断]タブの個々のアーカイブを無効にします。

アーカイブの接続または切断

はじめに

選択したアーカイブディレクトリのアーカイブはすべて、[アーカイブの接続/切断]タブに表示されます。 既存のアーカイブを接続または切断できます。

必要条件

- アーカイブバックアップファイルが書き込み保護されている。 接続する前にファイルのバックアップコピーを作成し、コピーされたアーカイブバックアップファイルの書き込み保護を解除します。
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- [テスト]などのシンボルディレクトリが作成されている。

手順

1. スタートページの[Webcenter] > [管理]をクリックします。
2. [アーカイブの接続/切断]タブをクリックします。

3. [テスト]などの[シンボルディレクトリ]からディレクトリを選択します。 使用可能なアーカイブが一覧表示されます。 [情報]列に以下のステータスが示されます。
   - 緑色:接続済み
   - 赤色:接続切断済み
4. 表示を制限するには、[フィルタ]をクリックします。
5. 列にフィルタ基準を入力し、をクリックします。 [開始]と[終了]でをクリックして、必要な期間を入力します。 次にをクリックします。

6. 個々のアーカイブに接続するには、[使用可能なアーカイブのリスト]で必要なアーカイブを有効にします。[保存]をクリックします。
7. 個々のアーカイブの接続を切断するには、[使用可能なアーカイブのリスト]で必要なアーカイブを無効にします。[保存]をクリックします。
8. 列ヘッダーの 1 つをクリックして、リストエントリをソートします。

別の手順

アーカイブバックアップファイルを接続するために、WinCC アーカイブコネクタを使用することもできます。 詳細については、「WinCC アーカイブコネクタを使ったアーカイブの接続 (ページ 443)」を参照してください。

結果

必要なスワップアウトされた WinCC アーカイブが接続されます。 スワップ後に変更された符号付きアーカイブを接続する場合、メッセージが出力されます。

WinCC アーカイブコネクタを使ってアーカイブを接続する

はじめに

アーカイブコネクタを使用して、スワップアウトされた WinCC アーカイブを SQL Server に再接続します。

アーカイブコネクタには以下の機能があります。

- 手動接続:ローカルデータベースを選択し、ローカル SQL Server に接続できます。
- 接続の手動切断:接続されているデータベースが SQL Server から切断されます。
- 自動接続:WinCC アーカイブをエクスポートしたローカルディレクトリを選択できます。モニタリングの起動後、ディレクトリに追加されたアーカイブはすべて自動的に SQL Server に接続されます。

注記

交換可能な媒体で接続されているアーカイブ

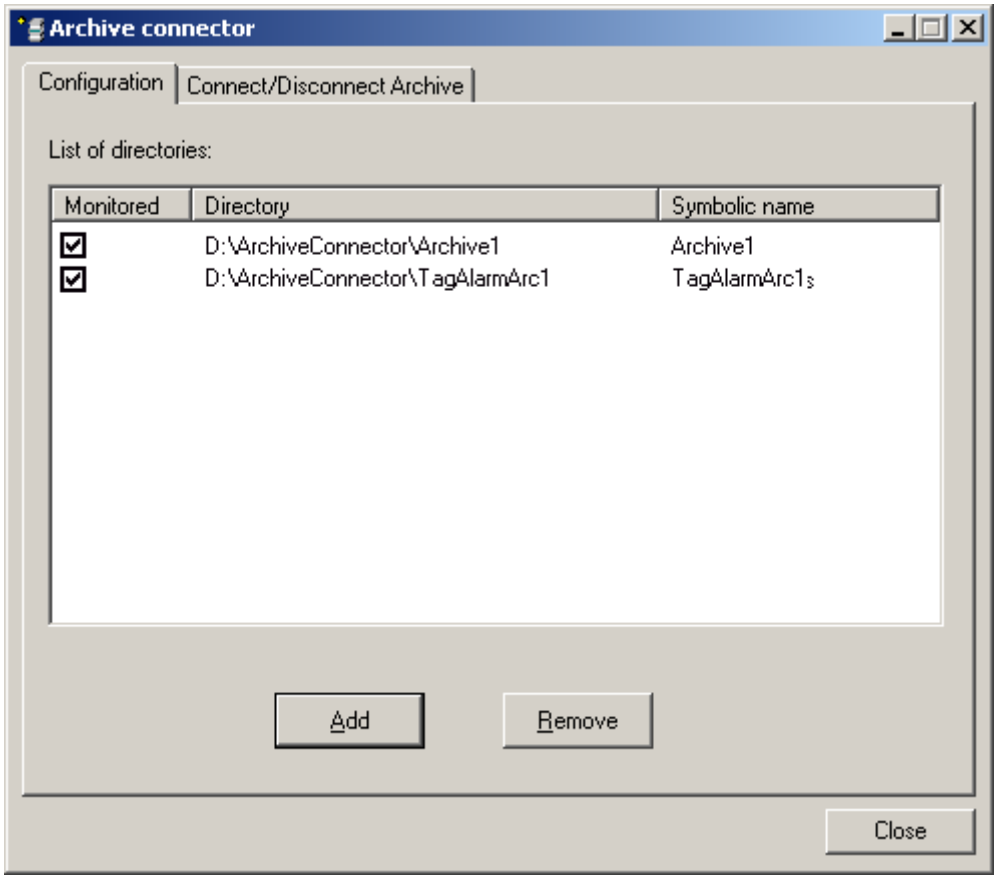
ドライブの媒体を交換する前に、この媒体に接続されたアーカイブをアーカイブコネクタを使って切断する必要があります。媒体を変更してから、アーカイブコネクタを使用し、新しい媒体でアーカイブが接続されているかどうかを確認します。

必要条件

- アーカイブコネクタは、ローカル SQL Server および WinCC/DataMonitor のライセンスでのみ動作する。
- アーカイブバックアップファイルが書き込み保護されている。接続する前にファイルのバックアップコピーを作成し、コピーされたアーカイブバックアップファイルの書き込み保護を解除します。
- アーカイブバックアップファイルがローカルドライブに保管されている。
- アーカイブバックアップファイルが保管されているディレクトリがリリースされている。
- ユーザーグループ"SIMATIC HMI VIEWER"に、ディレクトリへの「完全アクセス権」がある。
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。

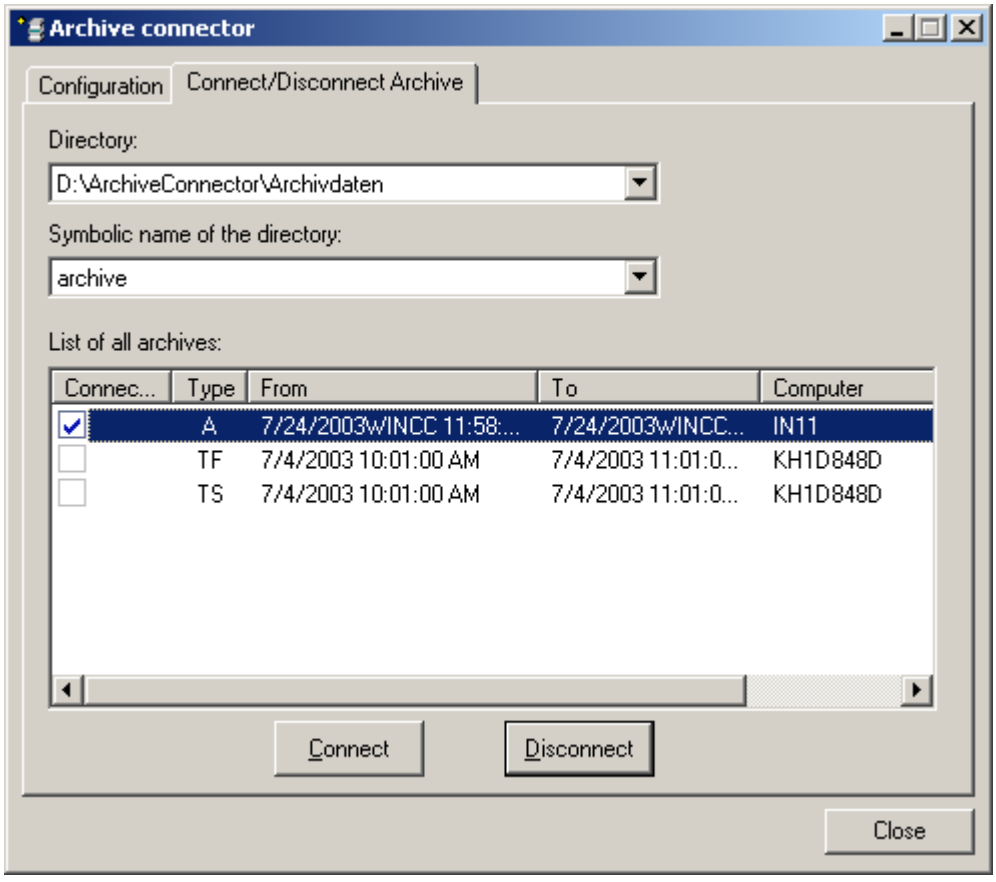
手順

1. 「Siemens Automation」プログラムグループで、エントリ[ArchiveConnector]を選択します。



2. [設定]タブの[追加]をクリックします。[新規ディレクトリ]ダイアログが開きます。
3. アーカイブバックアップファイルが保管されているディレクトリに移動します。
4. ディレクトリの一意のシンボル名を入力します。名前に含めることができるのは、SQL 構文で許可された文字だけです。シンボル名を、DataMonitor クライアントを経由するアクセスに使用します。
5. [OK]をクリックします。ディレクトリが[設定]タブに表示されます。
6. [モニタ対象]列のディレクトリのチェックボックスをオンにすると、オンにした時点以降にディレクトリに追加されたアーカイブがすべて、自動的に SQL Server に接続されます。
7. 必要に応じて、選択したディレクトリを再度削除します。ディレクトリのアーカイブは、すでに接続を切断されている必要があります。ディレクトリのアーカイブのステータスは、[接続対象]列の[アーカイブの接続/切断]タブで確認できます。

8. [アーカイブの接続/切断]タブをクリックします。選択したディレクトリのアーカイブはすべて[アーカイブの接続/切断]タブに表示されます。



9. ディレクトリのリストから、あるいはそのシンボル名によって、アーカイブのディレクトリを選びます。
10. 必要なアーカイブを選択して[接続]をクリックします。
11. 必要に応じて、選択したアーカイブの接続を切断します。

結果

接続が作成され、必要なアーカイブバックアップファイルが SQL Server と接続されます。

[アーカイブの接続/切断]タブに、各アーカイブの接続ステータスが表示されます。[開始]および[終了]列に、ローカルタイムゾーンのアーカイブ期間が含まれます。

[タイプ]列に、以下のアーカイブタイプの詳細が含まれます。

- A - アラームアーカイブ
- TF - タグロギング高速
- TS - タグロギング低速

スワップ後に変更された符号付きアーカイブを接続する場合、メッセージが出力されます。

3.2.4.2 Webcenter に対するスタティックプロセス画面の作成

はじめに

画像管理で、webpart [スタティックプロセス画像]に必要な画像を指定します。 プロセス画像は操作できません。

DataMonitor サーバーは、設定可能なサイクルで画像のコピーを作成します。 本サーバーにより、画像が DataMonitor クライアントのスタティックプロセス画像として使用できるようになります。

以下のオブジェクトは webpart [スタティックプロセス画像]で表示されません:

- グローバルスクリプト診断ウィンドウ
- WinCC メディアコントロール
- WinCC V7.0 より前のバージョンで作成された移行プロジェクトからの WinCC コントロール:

必要条件

- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- WinCC 画像が Web アクセス用に発行されている。 詳細については「WinCC プロセス画像の発行 (ページ 397)」を参照してください。
- DataMonitor のスタートページが開いている。
- [画像管理]タブが開いている。 発行されたプロセス画像がすべて一覧表示されている。

手順

1. 必要な画像を選択します。
   - 画像をすべて選択するには、列ヘッダーのチェックボックスをオンにします。
   - 個々の画像を選択するには、必要な画像の前にあるチェックボックスをオンにします。

2. 画像の一部だけを表示するには、以下を指定します。
   - X 位置: X 方向開始位置(ピクセル単位)
   - Y 位置: Y 方向開始位置(ピクセル単位)
   - 高さ: 画像の高さ(ピクセル単位)
   - 幅: 画像の幅(ピクセル単位)
3. 異なる言語で画像を構成して発行した場合、言語固有の画像を表示するために、リストから言語を選択します。
4. プロセス画像が DataMonitor サーバーによって作成された時間を出力するには、[スタンプ]を有効にします。 日付と時刻が画像に表示されます。
5. 更新サイクルを変更するには、希望する値を[更新時間間隔]に入力します。 このサイクルを、できるだけ大きく選択します。 サイクルが小さすぎると、パフォーマンスが制限されます。
6. [保存]をクリックします。

結果

DataMonitor サーバーが、選択した画像からスタティックプロセス画像を作成します。
webpart [スタティックプロセス画像]でスタティックプロセス画像を設定できます。

スタティックプロセス画像の削除

スタティックプロセス画像を削除するには、選択した画像名に対するチェックボックス[グラフィックの削除]を選択します。 [保存]をクリックして、スタティックプロセス画像かそのコピーを削除します。 webpart [スタティックプロセス画像]では、削除したプロセス画像を設定できなくなります。

画像名を探すか、または表示を制限する

フィルタを使って画像名を探すか、表示を特定の画像名に制限します。

[フィルタ]で をクリックすると、フィルタが表の上方に表示されます。 テキストフィールドに画像名を入力するか、<Enter>をクリックします。

フィルタを非表示にするには、 をクリックします。

3.2.4.3 Webcenter ページのレイアウトテンプレートの作成

はじめに

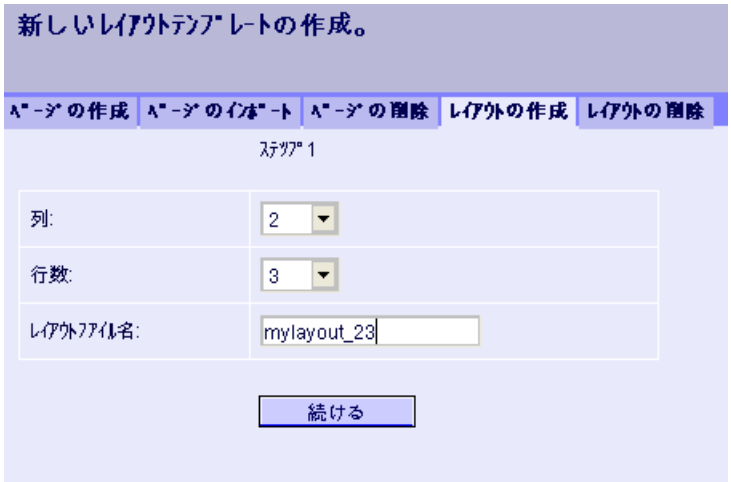
Webcenter ページを作成するには、レイアウトテンプレートが必要です。 あらかじめ定義されたレイアウトが、インストール時にインストールされています。 さらに、独自のレイアウトテンプレートを作成できます。

必要条件

- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

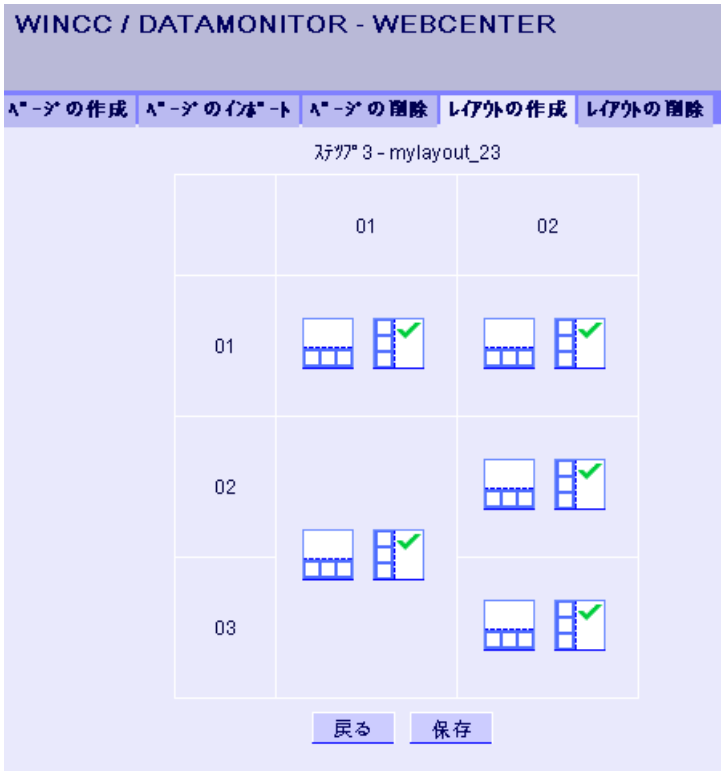
手順

1. スタートページの[Webcenter] > [設定]をクリックします。
2. [レイアウトの作成]タブをクリックします。



3. 列数および行数を定義します。
4. [レイアウトファイルの名前]ボックスに、名前(たとえば「mylayout_23」)を入力します。 [次へ]をクリックします。
5. 必要に応じてテーブルフィールドを組み合わせます。 このためには、たとえば行 3/列 1 のような必要なフィールドで、[上矢印]のような必要な矢印シンボルをクリックします。変更されたビューが表示されます。

6. 元のテーブルレイアウトを復元するには、[設定のリセット]をクリックします。 [次へ]をクリックします。



7. テーブルフィールドで webpart を配置します。 必要に応じて、テーブルフィールドの各アイコンを有効にし、webpart を垂直または平行に配置できます。
8. [保存]をクリックします。

結果

レイアウトテンプレート「mylayout_23」が作成されます。 レイアウトテンプレートを、Webcenter ページを作成するテンプレートとして使用できます。

3.2.4.4 Webcenter ページの作成

はじめに

webpart を追加する Webcenter ページを作成します。 Webcenter ページはディレクトリに保管されます。 この例では、Webcenter ページは"myPart"ディレクトリに保存されます。

Windows ユーザーグループが[編集]または[作成]アクセス権を持っているディレクトリでのみ、Webcenter ページを変更または作成できます。

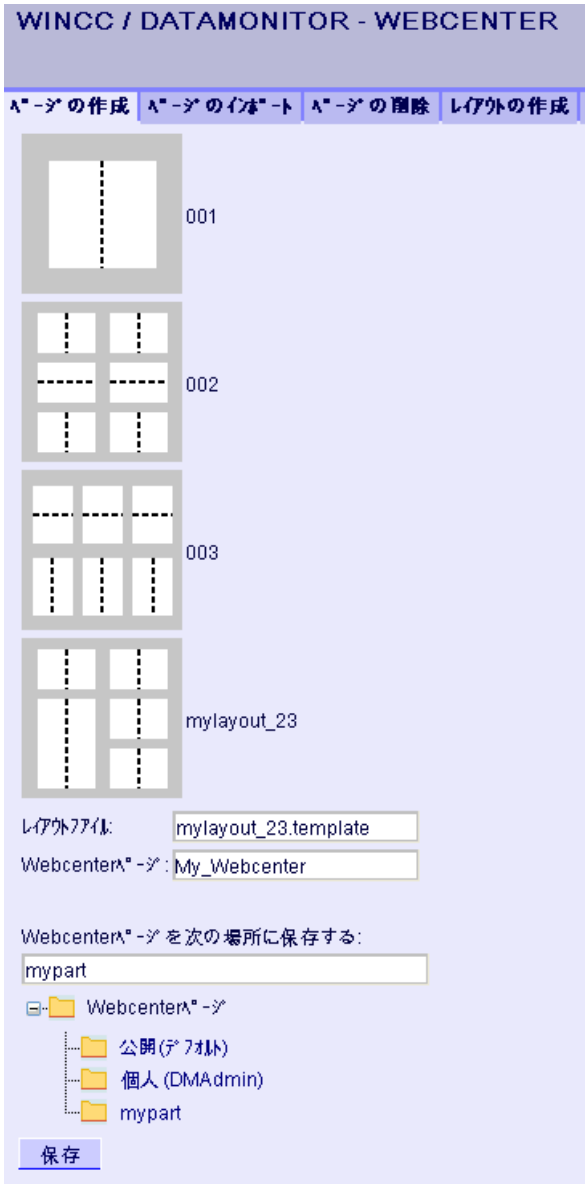
必要条件

- ディレクトリ「"myPart"」がセットアップされている。
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または"SIMATIC Report Users"のメンバである。
- Windows ユーザーグループは、このディレクトリの[編集]または[作成]アクセス権を持っている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの[Webcenter] > [コンフィグレーション]をクリックします。
2. [ページの作成]タブをクリックします。
3. 必要なレイアウトテンプレートをクリックします。 ファイル名が、[レイアウトファイル]ボックスに表示されます。
4. "My_Webcenter"などの名前を、[Webcenter ページ]ボックスに入力します。

5. Webcenter ページを保管するディレクトリを選択します。 選択されたディレクトリが、[Webcenter ページに名前を付けて保存]ボックスに表示されます。



6. [保存]をクリックします。

結果

Webcenter ページ"My_Webcenter"が、作成されて保存されます。

下記も参照

Webcenter ページへの webpart の挿入 (ページ 454)

Webcenter ページでの webpart の設定 (ページ 457)

3.2.4.5 Webcenter ページへの webpart の挿入

はじめに

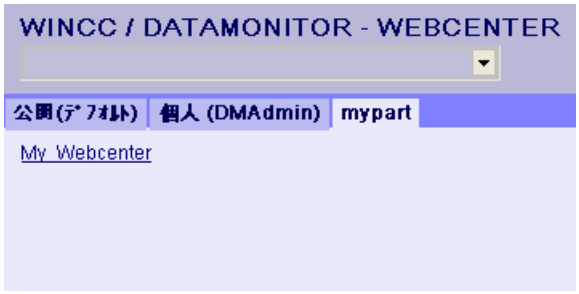
Webcenter ページの内容を webpart からコンパイルします。

必要条件

- ディレクトリ「"myPart"」がセットアップされている。
- Webcenter ページ"My_Webcenter"がディレクトリに保存されている。
- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または"SIMATIC Report Users"のメンバである。
- Windows ユーザーグループは、このディレクトリの[編集]または[作成]アクセス権を持っている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

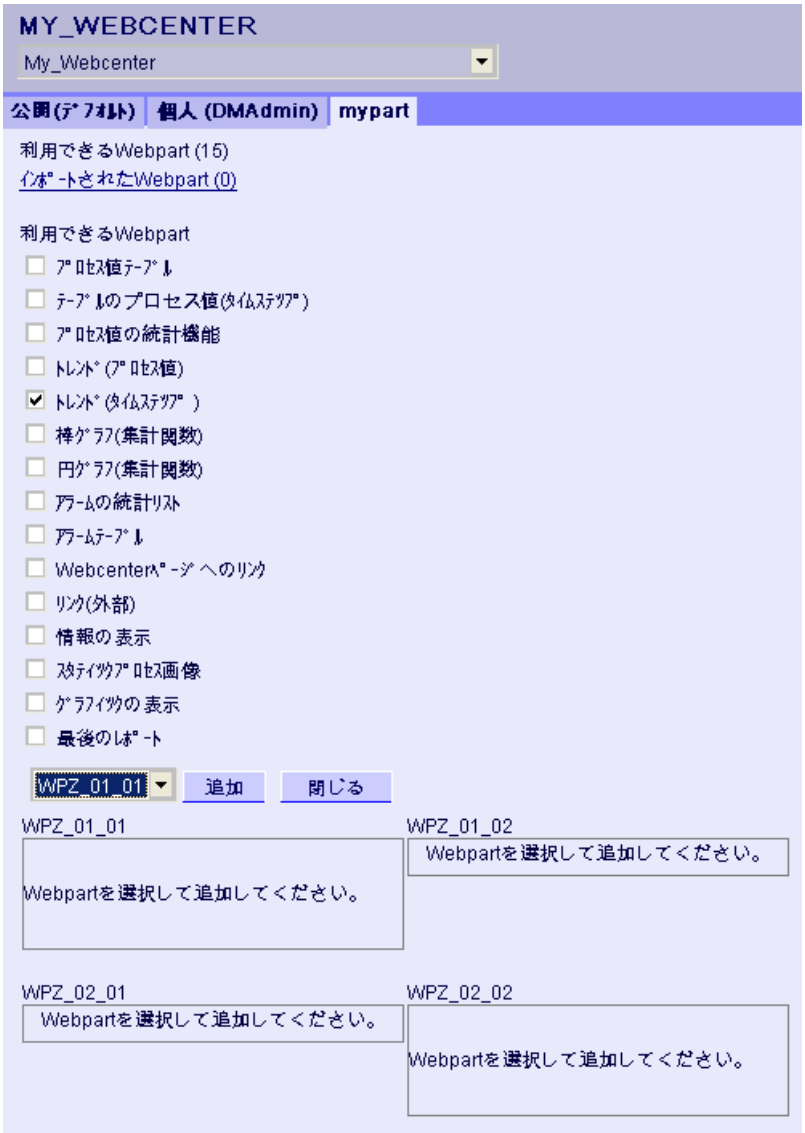
手順

1. スタートページの[Webcenter] > [ページ]をクリックします。
2. "myPart"タブをクリックします。



3. エントリ"My_Webcenter"をクリックします。

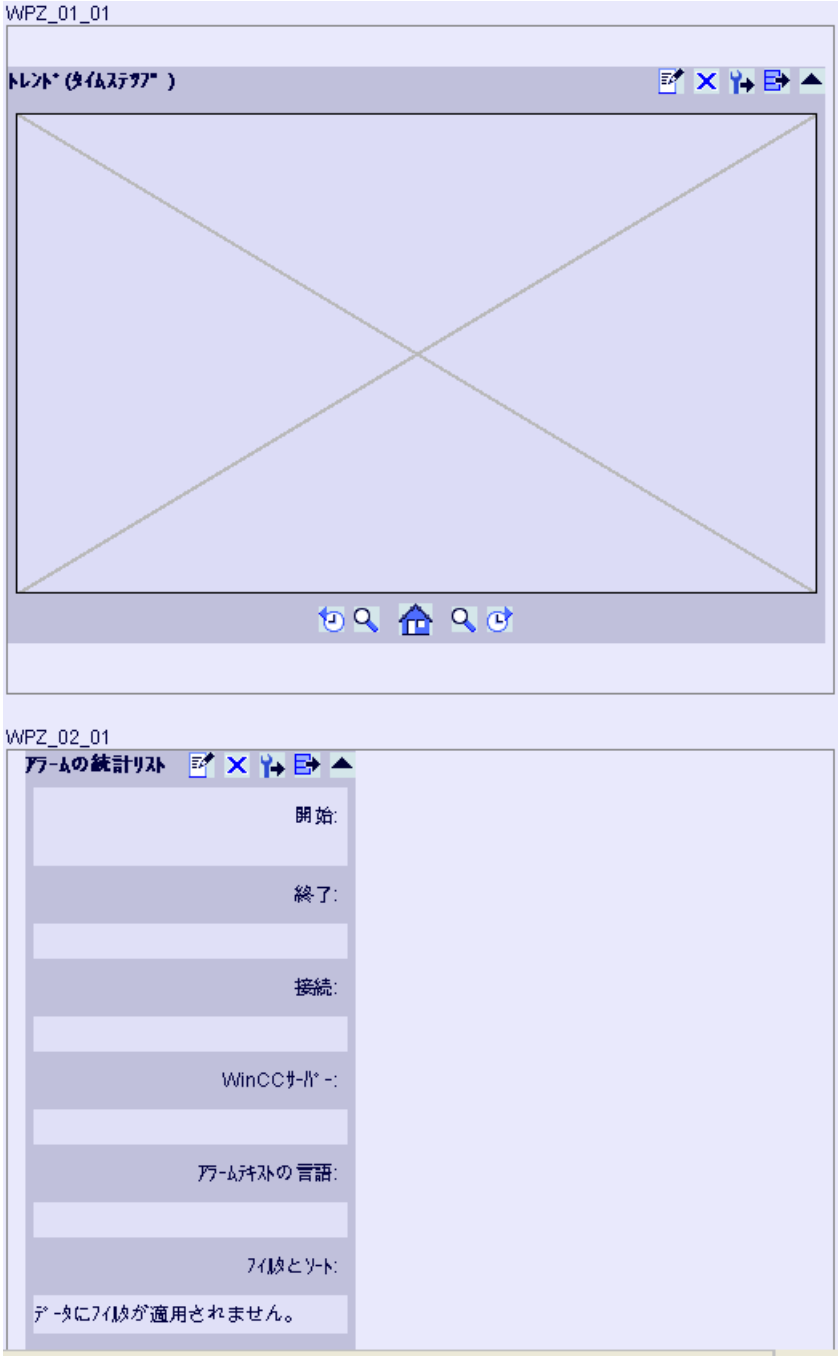
4. webpart を追加するには、ページの右上隅の✚をクリックします。 使用可能な webpart が一覧表示されます。
構成済みの webpart が既にエクスポートされている場合、[インポートされた webpart]に一覧表示されます。 必要に応じて、これらの webpart を、使用する Webcenter ページに挿入します。



5. エントリ[トレンド（タイムステップ)]を有効にします。
6. エントリ[WPZ_01_01]を選択して、[追加]をクリックします。
7. エントリ[アラームの統計リスト]を有効にします。
複数の webpart をテーブルフィールドに挿入する場合、webpart は垂直または水平に配置されます。 レイアウトテンプレートを作成するとき、配置を指定します。
8. エントリ[WPZ_02_01]を選択して、[追加]をクリックします。
9. [終了]をクリックします。

結果

データを表示するための webpart が、Webcenter ページ"My_Webcenter"に挿入されます。 Webcenter ページの現在のコンパイルが表示されます。



下記も参照

webpart の概要 (ページ 391)

Webcenter ページの作成 (ページ 451)

Webcenter ページでの webpart の設定 (ページ 457)

3.2.4.6 Webcenter ページでの webpart の設定

はじめに

WinCC Runtime またはアーカイブからデータを表示するには、webpart を設定する必要があります。

webpart の設定

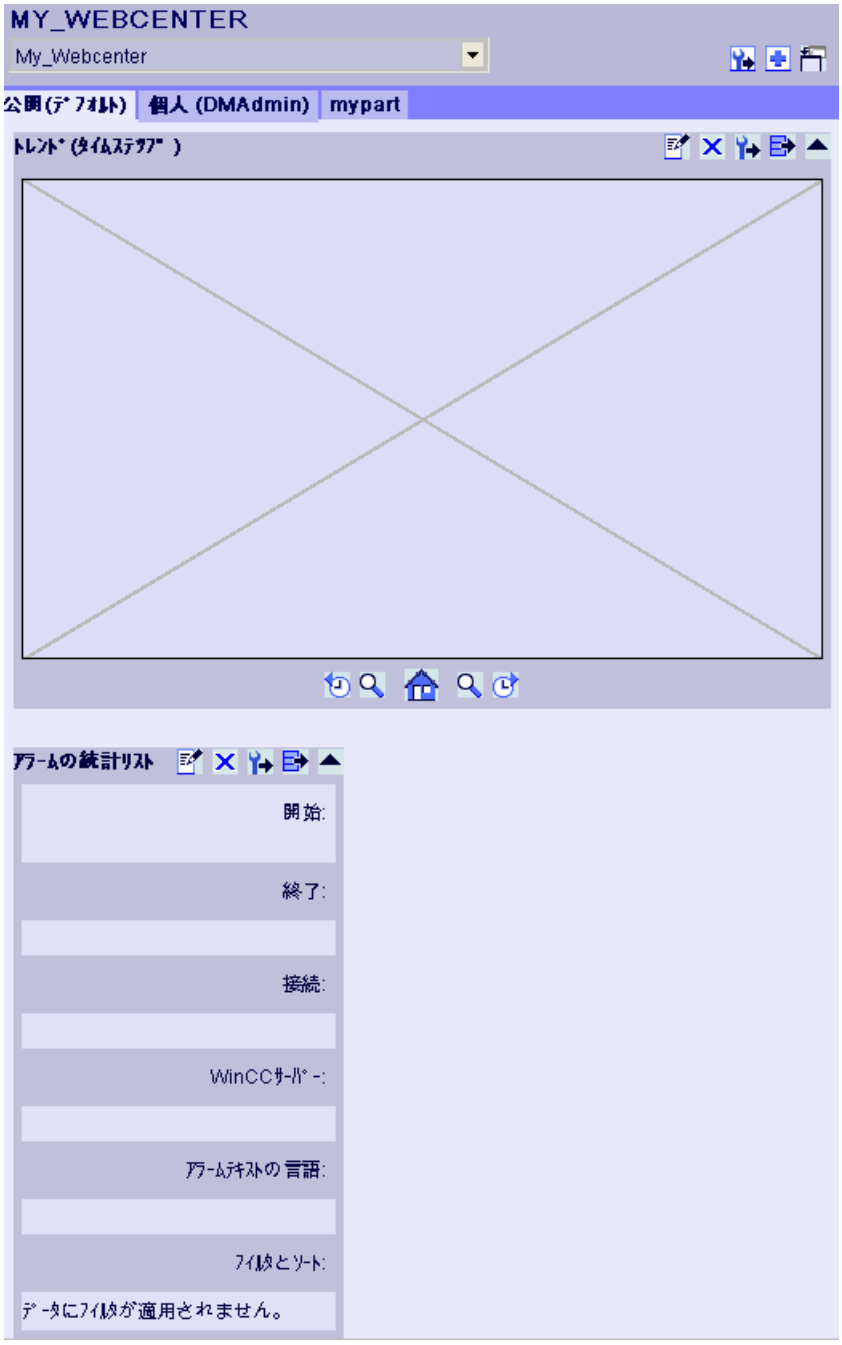
	webpart の設定ダイアログを開きます
	webpart の削除
	webpart の最小化
	webpart の最大化
	webpart のエクスポート
	webpart の設定を XML ファイルでエクスポート

必要条件

- ログインしているユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または"SIMATIC Report Users"のメンバである。
- Windows ユーザーグループは、このディレクトリの[編集]または[作成]アクセス権を持っている。
- Webcenter ページ"My_Webcenter"が開いている。
- WinCC プロジェクトがランタイムである。

手順

1. 必要な webpart の をクリックします。設定ダイアログが開きます。



2. webpart を設定します:
   - プロセス値をテーブルに表示 (ページ 461)
   - プロセス値を図に表示 (ページ 464)
   - アラーム統計リストを表示 (ページ 470)
   - アラームをアラームテーブルに表示 (ページ 466)

– プロセス値の統計ファンクションの表示 (ページ 472)

3. webpart の位置を変更するには、webpart を、マウスで希望する位置に移動します。

下記も参照

Webcenter ページの作成 (ページ 451)

Webcenter ページへの webpart の挿入 (ページ 454)

3.2.4.7 Webcenter ページとレイアウトテンプレートの削除

はじめに

必要ではなくなったレイアウトテンプレートと Webcenter ページを削除できます。

必要条件 - レイアウトテンプレートの削除

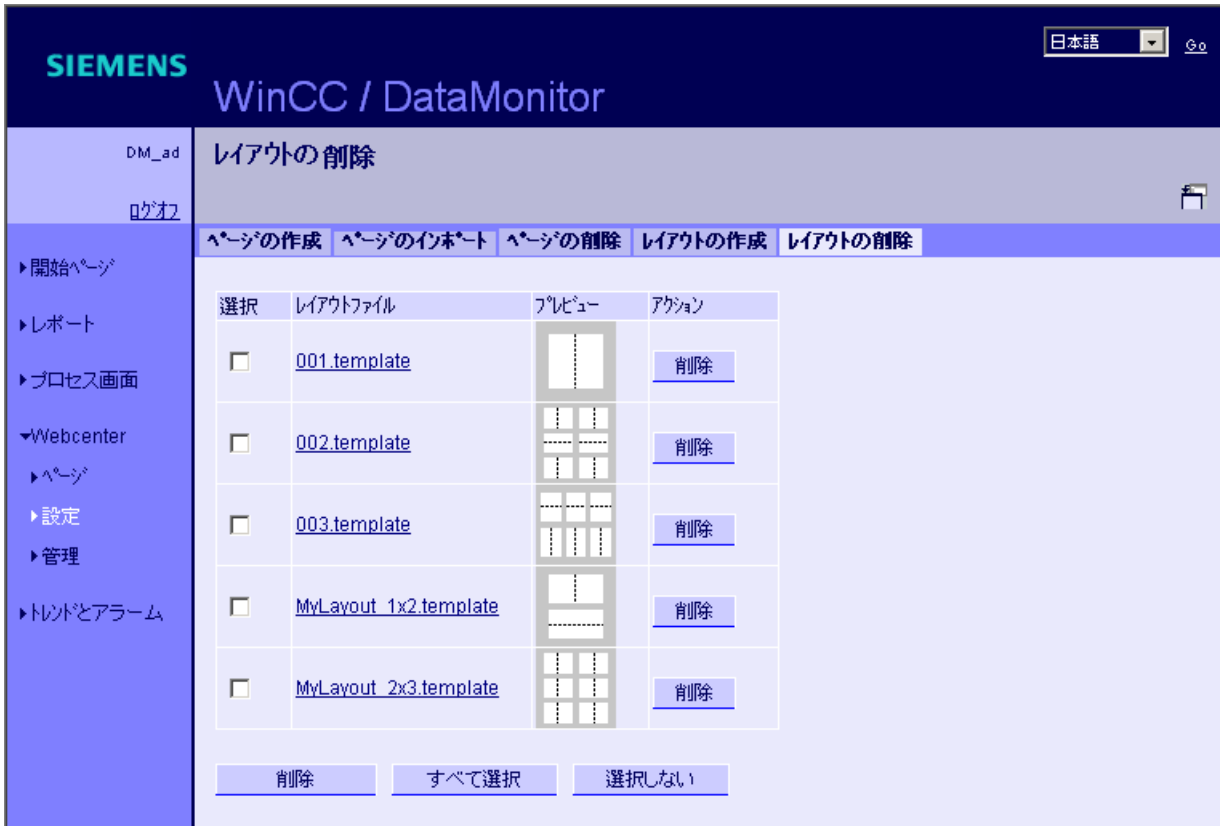
- ユーザーは、Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバである。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

必要条件 - Webcenter ページの削除

- ログインしたユーザーは、削除するページが保管されているディレクトリへの「作成」アクセス権を持っている必要があります。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

レイアウトテンプレートの削除

1. スタートページの[Webcenter] > [設定]をクリックします。
2. [レイアウトの削除]タブをクリックします。



3. 必要なレイアウトファイルの削除:
   - 複数のレイアウトファイルを削除するには、削除するファイルのチェックボックス[選択]をオンにします。[削除]をクリックします。
   - すべてのレイアウトファイルを削除するには、[すべて選択]をクリックします。[削除]をクリックします。
   - 個別のレイアウトファイルを削除するには、[アクション]列のそれぞれの[削除]ボタンをクリックします。

結果

選択したレイアウトファイルが削除されます。 提供されたレイアウトファイルも削除できます。 このレイアウトテンプレートを使っている既存の Webcenter ページは削除されません。 このレイアウトで新規 Webcenter ページは作成できません。

Webcenter ページの削除

1. スタートページの[Webcenter] > [設定]をクリックします。
2. [ページの削除]タブをクリックします。
3. それぞれのチェックボックスを有効にして、削除するページをマークします。
4. [削除]ボタンをクリックします。

結果

選択された Webcenter ページが削除されます。

3.2.5 トレンドおよびアラームでの作業

3.2.5.1 プロセス値をテーブルに表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、アーカイブされたプロセス値およびテキストをテーブルに表示します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [プロセス値テーブル]タブをクリックします。
   Webpart の[プロセス値テーブル]が表示されます。
3. をクリックします。Webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。[ツールヒント]フィールドにメモを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。
   この接続を通して、使用できるアーカイブタグが表示されます。
   必要に応じてタグの表示を制限します:
   – [アーカイブ選択]を使用して個々のアーカイブを選択します。
   – [タグフィルタ]を使用してフィルタ基準を設定します。

6. 必要なアーカイブタグに対して[追加]をクリックします。
7. [期間]領域で時間範囲を設定します。
   相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。
   入力する時間の詳細については、?をクリックしてください。
   [プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
8. [小数点の表示]領域で小数点以下の桁数を指定します。
9. [テーブルサイズ]領域で、表示ウィンドウのサイズを定義します。
   両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。サイズは Webpart のスペース要件によって決まります。
10. 使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに webpart を割り付けます。
11. [OK]をクリックして入力を確定します。

結果

アーカイブタグの値および品質コードは、プロセス値テーブルに出力されます。

ランタイム中にアーカイブ値を手動で入力できる場合、変更または新規に作成された値はそのように識別されます。アーカイブ値が手動で入力されたことを示すために、個別の列に「m」が表示されます。

操作:

	選択された時間範囲で、前方または後方スクロールに必要な絶対時間。
矢印ボタン	複数ページのテーブルで前方または後方にスクロール。
	CSV フォーマットでのアラームのエクスポート。
	Webpart の設定の変更。

3.2.5.2 プロセス値の図表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、アーカイブされたプロセス値をトレンドに表示します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

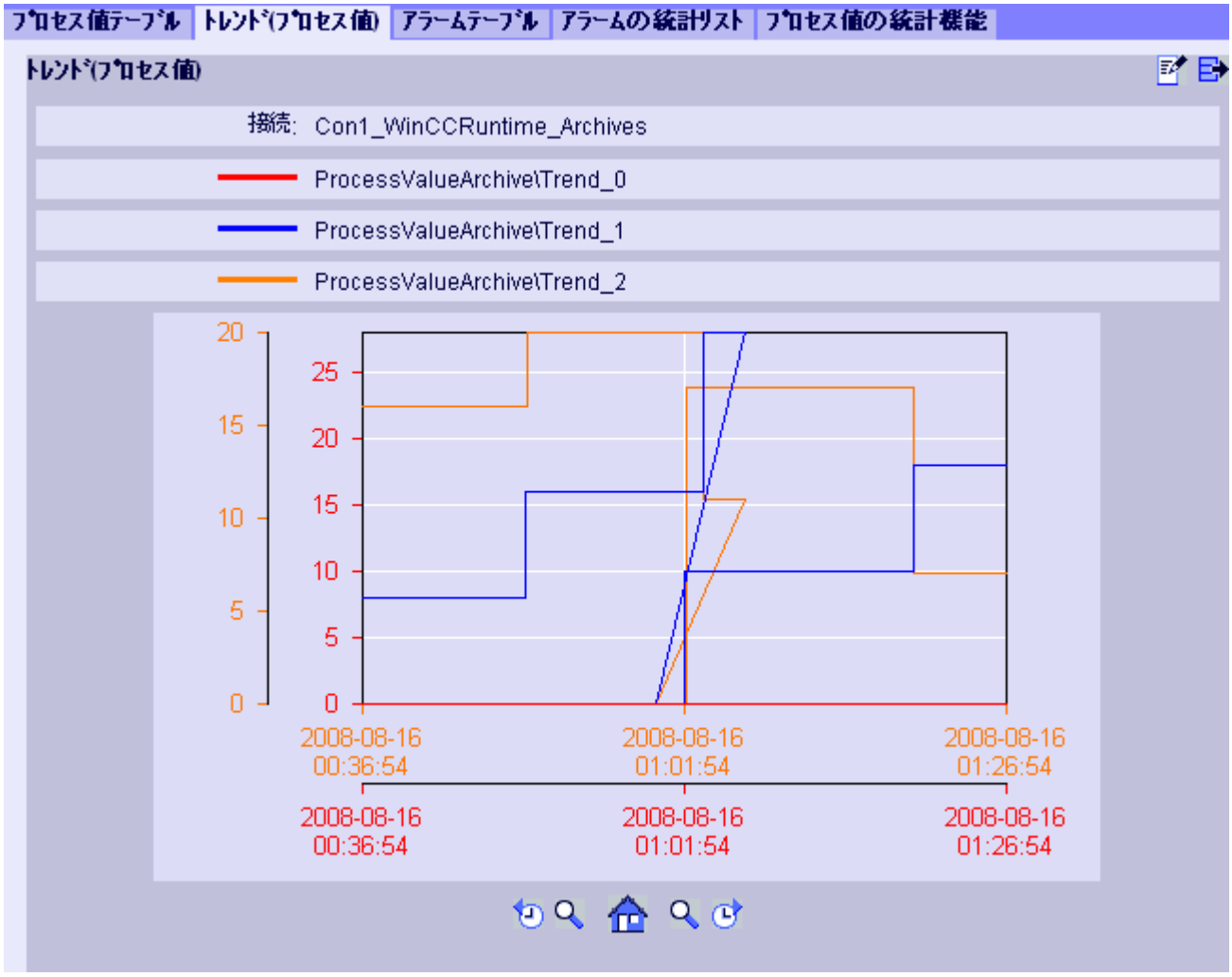
1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [トレンド(プロセス値)]タブをクリックします。 Webpart の[トレンド(プロセス値)]が表示されます。
3. をクリックします。Webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。 [ツールヒント]フィールドにメモを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。この接続を通して、使用できるアーカイブタグが表示されます。
   必要に応じてタグの表示を制限します:
   – [アーカイブ選択]を使用して個々のアーカイブを選択します。
   – [タグフィルタ]を使用してフィルタ基準を設定します。
6. 必要なアーカイブタグ(「TREND_0」、「TREND_1」、「TREND_2」など)に対して[追加]をクリックします。
   アーカイブタグが[現在の選択]領域に一覧表示されます。
7. [現在の選択]セクションで、個々のアーカイブタグを指定します:
   – 時間軸および値軸の色
   – トレンド表示タイプ
8. [値軸エディタ]セクションで、さまざまな値軸の自動スケーリングを有効にすることや、各軸の最大値および最小値を割り付けることができます。
9. [期間]領域で時間範囲を設定します。
   相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。
   入力する時間の詳細については、 ? をクリックしてください。
   [プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
10. [図の設定]セクションで、表示ウィンドウのサイズを定義します。
    両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。 サイズは Webpart のスペース要件によって決まります。
11. [凡例の表示]オプションを有効にして、凡例を表示します。

12.使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。 をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに Webpart を割り当てます。

13.[OK]をクリックして入力を確定します。

結果

選択されたプロセス値が図のトレンドとして表示されます。



凡例にはアーカイブタグへの色の割り付けが表示されます。

操作:

	選択された時間範囲で、前方または後方スクロールに必要な絶対時間。
	中心線の左または右の表示および図の範囲を、拡大します。
	元の表示を復元します。

	CSV フォーマットで表示された図の値のエクスポート
	Webpart の設定の変更。

3.2.5.3 メッセージをアラームテーブルに表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、アラームテーブルにアラームを表示します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

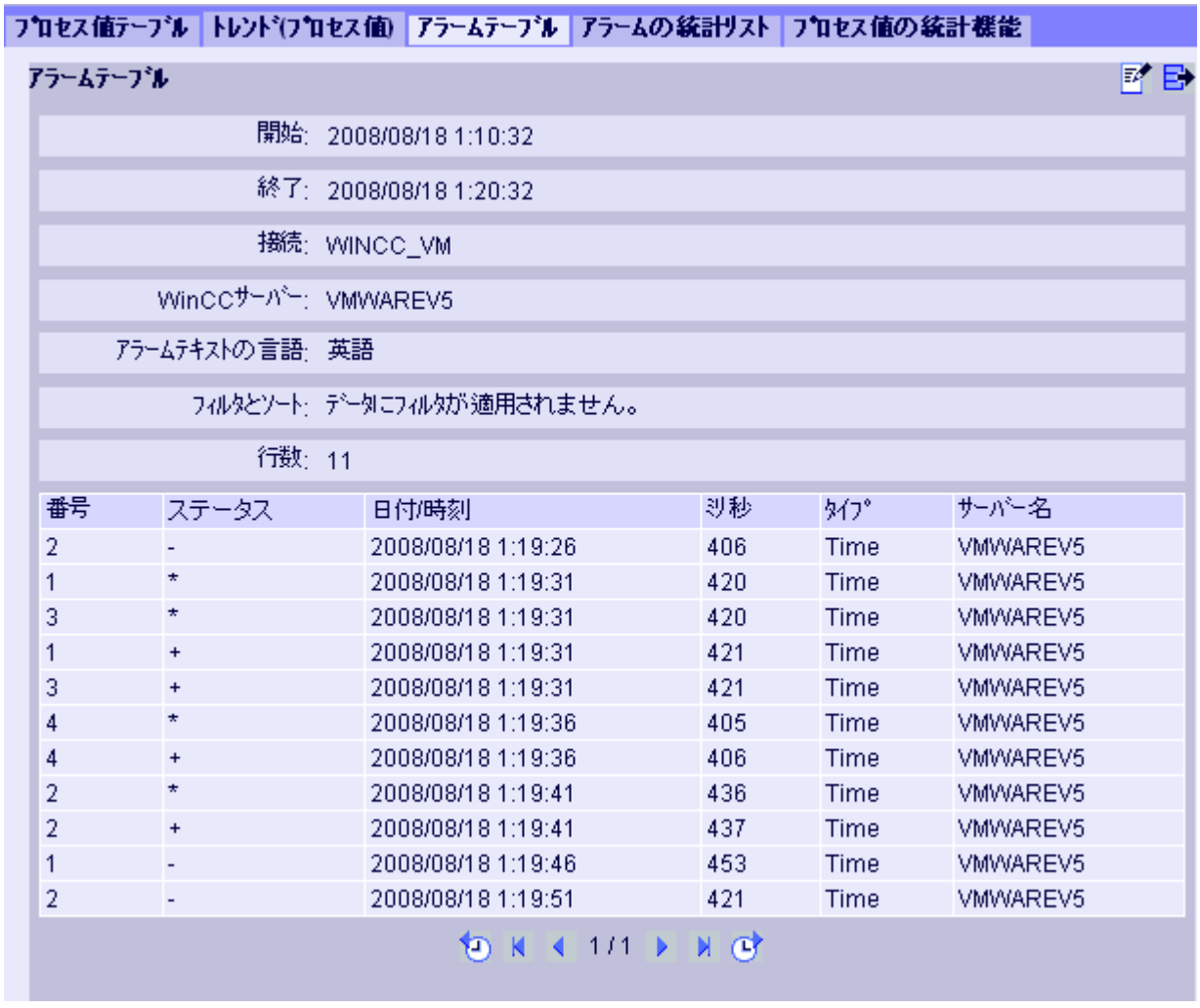
手順

1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [アラームテーブル]タブをクリックします。
   webpart"アラームテーブル"が表示されます。
3. をクリックします。Webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。 [ツールヒント]フィールドにメモを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。
6. [期間]領域で時間範囲を設定します。
   相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。
   入力する時間の詳細については、 をクリックしてください。
   [プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
7. [アラームテキストの言語]セクションで、アラームを表示する言語を選択します。
8. 必要に応じて、[WinCC サーバーの選択]を使用してそれぞれの WinCC サーバーを選択します。 複数の WinCC サーバーのアーカイブを含む、スワップされたアーカイブへの接続を選択する場合、この設定が必要です。
9. [フィルタの選択]セクションでは、予想される検索結果を SQL 構文で制限できます。
   制限するための個々の欄のフィルタ条件を設定します。
   すべての欄のフィルタ条件を、[拡張フィルタ]フィールドに入力します。
   フィルタ条件の詳細については、 をクリックしてください。

10. データの表示に関して、以下を設定します。
   - ソート順: ソートの詳細については、?をクリックしてください。
   - 表示列: すべての列を表示するには、[すべて選択]をクリックします。
   - 小数点以下の桁数。
11. [テーブルサイズ]領域で、表示ウィンドウのサイズを定義します。
   両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。 サイズは Webpart のスペース要件によって決まります。
12. 使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。
   をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに Webpart を割り当てます。
13. [OK]をクリックして入力を確定します。

結果

結果がテーブルに出力されます。



番号	ステータス	日付/時刻	ﾐﾘ秒	ﾀｲﾌﾟ	ｻｰﾊﾞｰ名
2	-	2008/08/18 1:19:26	406	Time	VMWAREV5
1	*	2008/08/18 1:19:31	420	Time	VMWAREV5
3	*	2008/08/18 1:19:31	420	Time	VMWAREV5
1	+	2008/08/18 1:19:31	421	Time	VMWAREV5
3	+	2008/08/18 1:19:31	421	Time	VMWAREV5
4	*	2008/08/18 1:19:36	405	Time	VMWAREV5
4	+	2008/08/18 1:19:36	406	Time	VMWAREV5
2	*	2008/08/18 1:19:41	436	Time	VMWAREV5
2	+	2008/08/18 1:19:41	437	Time	VMWAREV5
1	-	2008/08/18 1:19:46	453	Time	VMWAREV5
2	-	2008/08/18 1:19:51	421	Time	VMWAREV5

操作:

	選択された時間範囲で、前方または後方スクロールに必要な絶対時間。
矢印ボタン	複数ページのテーブルで前方または後方にスクロール。
	CSV フォーマットでのアラームのエクスポート。
	Webpart の設定の変更。

下記も参照

アラームログ列名 (ページ 468)

3.2.5.4 アラームログ列名

はじめに

[Trends & Alarms]にアラームを表示するときのアラームログ列を選択できます。

列名の概要

位置	名前	タイプ	コメント
1	MsgNo	整数(4 バイト)	メッセージ番号
2	ステータス	小さい整数(2 バイト)	アラームログステータス
3	DateTime	DataTime8 バイト	メッセージのタイムスタンプ(ミリ秒なしの日付/時間)
4	Ms	小さい整数(2 バイト)	メッセージのタイムスタンプ(ミリ秒)
5	インスタンス	VarChar (255)	アラームログのインスタンス名
6	Flags1	整数(4 バイト)	(内部使用のみ)
7	PValueUsed	整数(4 バイト)	プロセス値使用
8～17	PValue1～PValue10	真 8 バイト	数値プロセス値 1～10
18～27	PText1～PText10	VarChar (255)	プロセス値テキスト 1～10
28	ComputerName	VarChar (255)	コンピュータ名
29	アプリケーション	VarChar (255)	アプリケーション名
30	コメント	VarChar (255)	コメント
31	UserName	VarChar (255)	ユーザー名

位置	名前	タイプ	コメント
32	カウンタ	整数(4 バイト)	アラームメッセージカウンタの実行
33	TimeDiff	整数(4 バイト)	「着信」ステータスまでの時間差
34	ClassName	VarChar (255)	アラームクラス名
35	Type name	VarChar (255)	アラームタイプ名
36	クラス	小さい整数(2 バイト)	メッセージクラス ID
37	タイプ	小さい整数(2 バイト)	メッセージタイプ ID
38～47	Text1～Text10	VarChar (255)	メッセージテキスト 1～10
48	AG_NR	小さい整数(2 バイト)	PLC の番号
49	CPU_NR	小さい整数(2 バイト)	CPU の数
50	CrComeFore	整数(4 バイト)	「着信」ステータスの前景色
51	CrComeBack	整数(4 バイト)	「着信」ステータスの背景色
52	CrGoFore	整数(4 バイト)	「送信済み」ステータスの前景色
53	CrGoBack	整数(4 バイト)	「送信済み」ステータスの背景色
54	CrAckFore	整数(4 バイト)	「確認済み」ステータスの前景色
55	CrAckBack	整数(4 バイト)	「確認済み」ステータスの背景色
56	LocalID	整数(4 バイト)	アラームの場所
57	優先度	整数(4 バイト)	優先度
58	AP_type	整数(4 バイト)	アラームでのループ
59	AP_name	VarChar (255)	アラームでのループ機能名
60	AP_PAR	VarChar (255)	アラームでのループ画面
61	情報テキスト	VarChar (255)	情報テキスト
62	TxtCame	VarChar (255)	着信テキスト
63	TxtWent	VarChar (255)	発信テキスト
64	TxtCameNWent	VarChar (255)	発着信テキスト
65	TxtAck	VarChar (255)	確認済みテキスト
66	AlarmTag	整数(4 バイト)	メッセージタグ
67	AckType	小さい整数(2 バイト)	確認タイプ
68	Params	整数(4 バイト)	パラメータ

3.2.5.5 メッセージの統計リスト表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、アラームの統計リストをテーブルに表示します。

注記

統計リストへのアラームの表示には時間がかかり、CPU に負荷がかかることがあります。データ量が大きすぎる場合は、"Trends & Alarms"にメッセージが表示されます。

このメッセージを確認して、変更せずに続行します。 データ量を減らす場合は、プロセスを停止し、フィルタ基準を変更します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

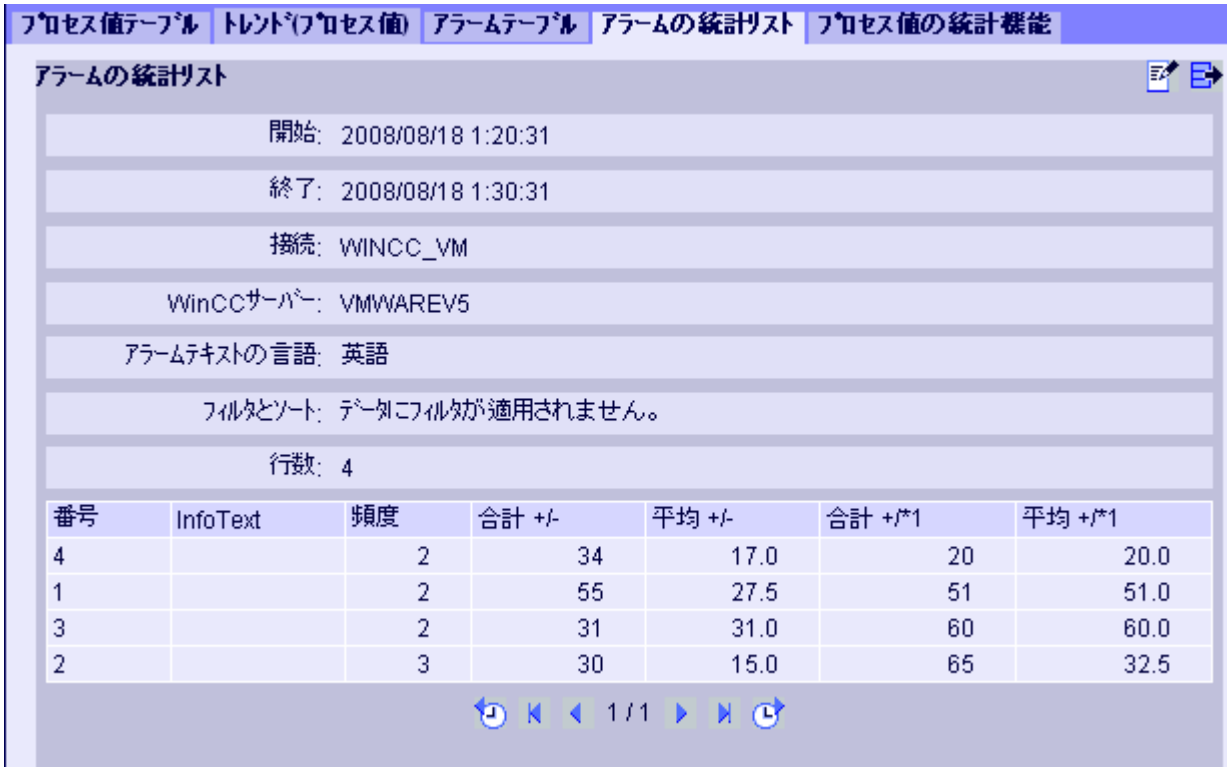
手順

1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [アラームの統計リスト]タブを選択します。 webpart"アラームの統計リスト"が表示されます。
3. をクリックします。 webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。 [ツールヒント]フィールドにショートメッセージを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。
6. [期間]領域で時間範囲を設定します。 相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。 入力する時間の詳細については、 ? をクリックしてください。
   [プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
7. [アラームテキストの言語]セクションで、アラームを表示する言語を選択します。
8. [WinCC サーバーの選択]を使用して、それぞれの WinCC サーバーを選択します。 複数の WinCC サーバーのアーカイブを含む、スワップされたアーカイブへの接続を選択する場合、この設定が必要です。
9. [フィルタの選択]セクションでは、予想される検索結果を SQL 構文で制限できます。
   制限するための個々の欄のフィルタ条件を設定します。 すべての欄のフィルタ条件を、[拡張フィルタ]フィールドに入力します。 フィルタ条件の詳細については、 ? をクリックしてください。

10. データの表示に関して、以下を設定します。
   - ソート順: ソートの詳細については、?をクリックしてください。
   - 表示列: すべての列を表示するには、[すべて選択]をクリックします。
   - 小数点以下の桁数。
11. [テーブルサイズ]領域で、表示ウィンドウのサイズを定義します。
   両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。 サイズは webpart のスペース要件によって決まります。
12. 使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。 をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに webpart を割り当てます。
13. [OK]をクリックして入力を確定します。

結果

アラームの分析値が統計リストに表示されます。



番号	InfoText	頻度	合計 +/-	平均 +/-	合計 +/*1	平均 +/*1
4		2	34	17.0	20	20.0
1		2	55	27.5	51	51.0
3		2	31	31.0	60	60.0
2		3	30	15.0	65	32.5

テーブルには、アラームの頻度など、設定済みデータおよび統計値が含まれます。

列ヘッダーの上にマウスを移動すると、説明がツールヒントに表示されます。

操作:

	選択された時間範囲で、前方または後方スクロールに必要な絶対時間。
矢印ボタン	複数ページのテーブルで前方または後方にスクロール。
	CSV フォーマットでのアラームのエクスポート。
	webpart の設定の変更。

3.2.5.6 プロセス値の統計機能の表示

はじめに

"Trends & Alarms"を使用して、プロセス値の統計機能をテーブルに表示します。

必要条件

- WinCC データへの接続が確立されている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

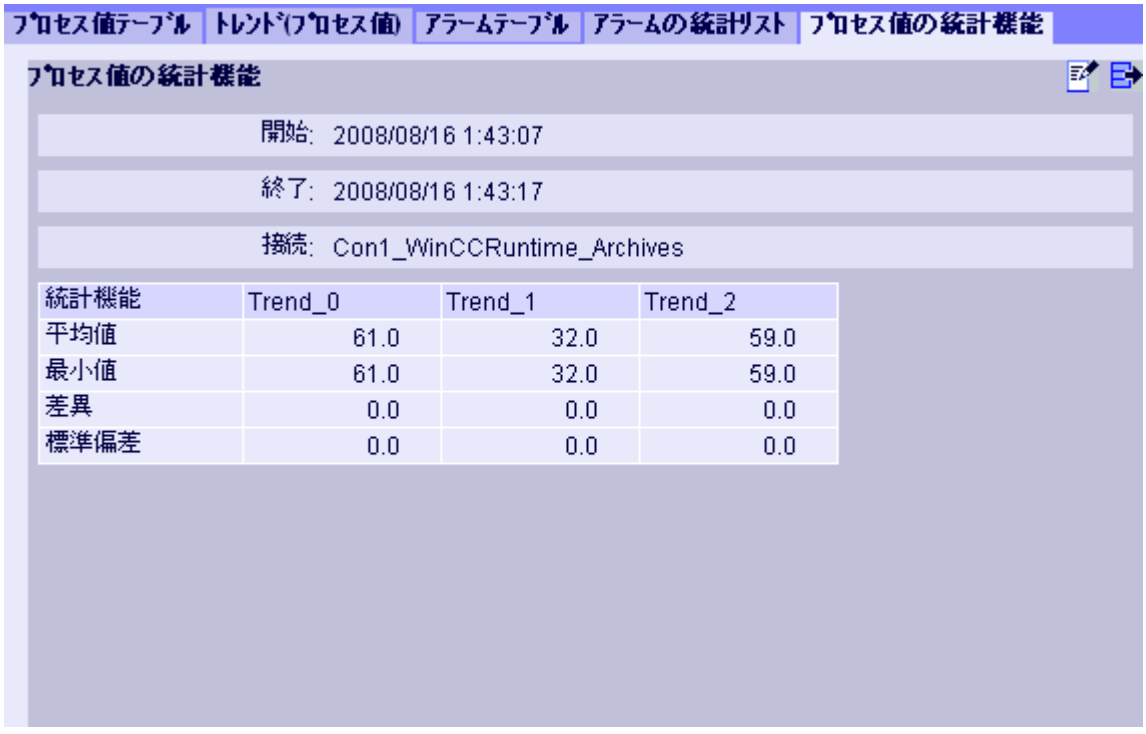
手順

1. スタートページの"Trends & Alarms"をクリックします。
2. [プロセス値の統計機能]タブをクリックします。webpart [プロセス値の統計機能]が表示されます。
3. をクリックします。 webpart の設定ダイアログが開きます。
4. [タイトル]フィールドでタイトルを変更します。
   [ツールヒント]フィールドにメモを入力します。
5. [接続]フィールドで、設定されている接続の 1 つを選択します。この接続を通して、使用できるアーカイブタグが表示されます。
   [アーカイブ選択]および[タグフィルタ]フィールドを使用して、表示されるタグの数を制限できます。
6. 必要なアーカイブタグに対して[追加]をクリックします。
7. [期間]領域で時間範囲を設定します。
   相対時間は、それぞれのフィールドに負の値を入力します。 入力する時間の詳細については、 ? をクリックしてください。
   [プレビュー]をクリックし、[プレビュー時間範囲]欄で設定時間範囲を確認します。
8. データの表示に関して、以下を設定します。
   – 小数点以下の桁数
   – 集約選択: プロセス値の分析機能を定義します。

9. [テーブルサイズ]領域で、表示ウィンドウのサイズを定義します。
   両方のフィールドで[0]が入力された場合、サイズは自動的に決定されます。 サイズは webpart のスペース要件によって決まります。
10. 使用可能な Webcenter ページが、[WebCenter ページへのリンク]領域に表示されます。 をクリックして、1 つまたは複数の Webcenter ページに webpart を割り当てます。
11. [OK]をクリックして入力を確定します。

結果

選択されたプロセス値の統計機能が実行され、テーブルに出力されます。



列ヘッダーの上にマウスを移動すると、アーカイブ名とタグ名がツールヒントに表示されます。

CSV フォーマットで表示されたテーブルを、アイコンを使用してエクスポートできます。

設定を変更するには、をクリックします。

3.2.6 Excel ワークブックでの作業

3.2.6.1 Excel ワークブックの構成

WinCC プロジェクトからのデータの適用

はじめに

Excel ワークブックの設定には、WinCC 設定データが必要です。このため、"Excel Workbook Wizard" で設定中に、ローカル WinCC プロジェクトからデータを適用します。

必要条件

- サーバーコンピュータ
  - Microsoft Office がインストールされている。
  - Excel のアドイン"Excel Workbook"がインストールされている。
  - DataMonitor サーバーがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - ユーザーが WinCC で作成されている。
- 設定コンピュータ
  - Microsoft Office がインストールされている。
  - Excel のアドイン"Excel Workbook Wizard"がインストールされている。
- MS Office
  - 拡張子が"XLS"、"XLSX"、"XLSB"および"XLSM"の Excel ファイルのみ使用できます。

手順

1. 空の Excel ワークブックを開きます。
   [DataMonitor]メニューで"Excel Workbook Wizard"コマンドを選択します。
2. オプション[WinCC サーバーとの接続を確立する]を起動します。[WinCC サーバー]フィールドが表示されます。
3. 必要なサーバー名を入力して、[接続]をクリックします。ログインダイアログが表示されます。
4. WinCC ユーザーの名前とパスワードを入力します。
5. [次へ]をクリックします。[タグの追加/削除]ダイアログが開きます。

結果

プロセスデータの表示を設定するため、Excel ワークブックがセットアップされます。その後、ワークブックを発行します。ワークブックは、レポートツールまたは"Reports"用テンプレートとして、DataMonitor クライアントで使用できるようになります。

注記

Office パッケージ用言語と Windows 地域設定

Office パッケージ、「Microsoft Office の言語設定」および Windows の[地域と言語のオプション]に、同じ言語が設定されていることを確認します。

例:

- Office で[英語(英国)]言語を使用する場合、地域設定でも[英語(英国)]言語を選択します。
- Windows の地域と言語のオプションで[中国語(PRC)]を設定している場合、[Microsoft Office 言語設定]の主要な編集言語としても[中国語(PRC)]を選択する必要があります。

詳細については、以下の Microsoft サポートにお問い合わせください。http://support.microsoft.com/kb/320369/en (http://support.microsoft.com/kb/320369/ja)

下記も参照

タグ値の表示の設定 (ページ 349)

アーカイブタグの表示の設定 (ページ 352)

アラーム表示の設定 (ページ 356)

設定ファイルからのデータの適用

はじめに

WinCC サーバーに接続せずにレポートを作成することができます。

設定ステップ:

- サーバーに設定ファイルを作成します。
- 設定ファイルを使用してデータアクセスを設定します。
- 専用の Web サーバーや WinCC クライアントのデータアクセスも設定できます。

必要条件

- サーバーコンピュータ
  - DataMonitor サーバーがインストールされている。
  - WinCC プロジェクトのオンラインタグが、1 つのタググループまたは 1 つの構造タイプの一部である。
  - WinCC プロジェクトがランタイムである。
  - ユーザーが WinCC で作成されている。
- 設定コンピュータ
  - Microsoft Office がインストールされている。
  - Excel のアドイン"Excel Workbook Wizard"がインストールされている。
- MS Office
  - 拡張子が"XLS"、"XLSX"、"XLSB"および"XLSM"の Excel ファイルのみ使用できます。

サーバーでの設定ファイルの作成

1. WinCC エクスプローラのナビゲーションウィンドウで、[WebNavigator]エントリを選択します。
   ショートカットメニューでメニューコマンド[設定データのエクスポート]を開きます。
2. [設定データのエクスポート]ダイアログで、エクスポートするデータを指定します。
   オンラインタグを 1 つのタググループあるいは 1 つの構造タイプで作成しない場合は、エクスポートの[構造無し(高速エクスポート)]オプションを使用します。
3. XML ファイルのパスと名前を指定します。
4. [エクスポート]をクリックします。XML ファイルが作成されます。
5. サーバーに Excel がインストールされていない場合、Excel と"Excel Workbook Wizard"がインストールされている別のコンピュータに、XML ファイルを転送します。

設定ファイルを使用したデータアクセスの設定

1. Excel がインストールされているコンピュータで、空の Excel ワークブックを開きます。
   [DataMonitor]メニューで"Excel Workbook Wizard"コマンドを選択します。
2. オプション[ファイルから設定データをロードする]を有効にします。[次へ]をクリックします。
3. 必要な XML ファイルに移動します。
4. [次へ]をクリックします。[タグの追加/削除]ダイアログが開きます。

結果

プロセスデータの表示を設定するため、Excel ワークブックがセットアップされます。その後、ワークブックを発行します。ワークブックは、レポートツールまたは"Reports"用テンプレートとして、DataMonitor クライアントで使用できるようになります。

専用の Web サーバーや WinCC クライアントのデータアクセスの、XML ファイルを使用した設定

専用 Web サーバーや WinCC クライアントからのプロジェクトデータを Excel ワークブックに表示する場合、Excel ワークブックを XML ファイルを使って設定するときに、以下の事項に従う必要があります。

- これで、XML ファイルには、DataMonitor サーバーにパッケージがある下部サーバーのデータも含まれるようになります。ロードされたパッケージの専用 DataMonitor サーバー/ WinCC クライアントへのエクスポートには、パッケージの大きさによって数分かかることがあります。
- この XML ファイルが Excel 設定コンピュータ上で使用できる必要があります。"Excel Workbook Wizard"の設定データをインポートする場合、サーバー接頭辞を入力します。
- WinCC プロジェクトの WinCC クライアントで Excel ワークブックのデータ表示を設定する場合、サーバー接頭辞を指定する必要はありません。サーバー接頭辞は、パッケージからのデータを挿入すると自動的に使用されます。

注記

Office パッケージ用言語と Windows 地域設定

Office パッケージ、「Microsoft Office の言語設定」および Windows の[地域と言語のオプション]に、同じ言語が設定されていることを確認します。

例:

- Office で[英語(英国)]言語を使用する場合、地域設定でも[英語(英国)]言語を選択します。
- Windows の地域と言語のオプションで[中国語(PRC)]を設定している場合、[Microsoft Office 言語設定]の主要な編集言語としても[中国語(PRC)]を選択する必要があります。

詳細については、以下の Microsoft サポートにお問い合わせください。http://support.microsoft.com/kb/320369/en (http://support.microsoft.com/kb/320369/ja)

下記も参照

タグ値の表示の設定 (ページ 349)

アーカイブタグの表示の設定 (ページ 352)

アラーム表示の設定 (ページ 356)

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

タグ値の表示の設定

はじめに

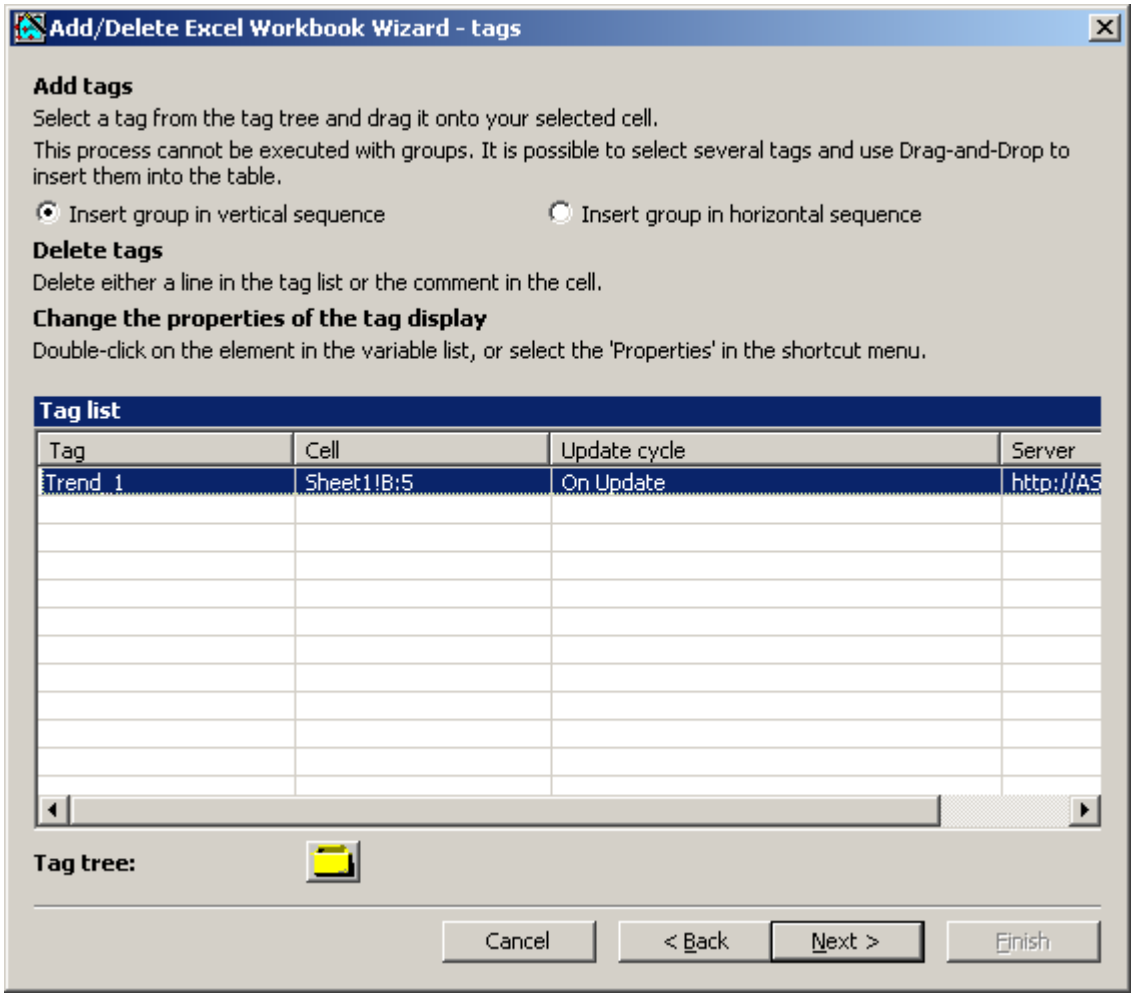
この章では、タグ値の表示の構成方法を説明します。

必要条件

- "Excel Workbook Wizard"が起動され、Excel ワークブックが構成されている。
- [タグの追加/削除]ダイアログが開いている。

手順

1. [タグの追加]領域でタググループの追加順序を確認します。

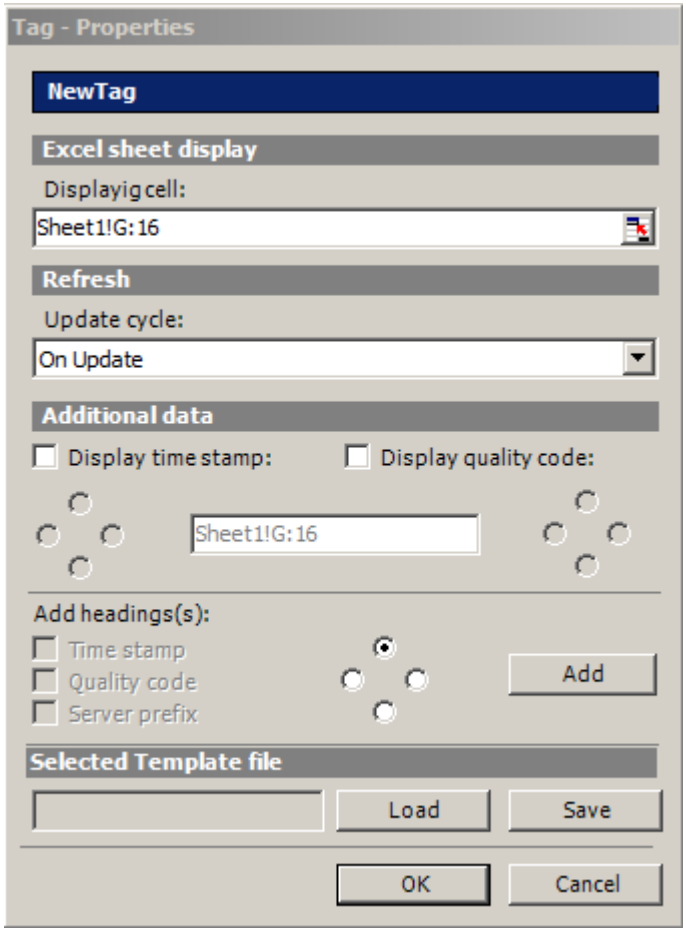


2. をクリックします。[タグの選択]ダイアログが開きます。

3. 必要なタグを選択し、ドラッグアンドドロップでタグを Excel テーブルのフィールドに移動します。
4. 選択ダイアログを閉じます。タグがタグリストに表示されます。
5. タグをタグリストで選択し、ショートカットメニューで[サーバー設定]エントリを選択します。

6. [サーバー設定]ダイアログに、WinCC ユーザーの名前とパスワードを入力します。
プロセスデータのオンライン表示中に追加のログインを回避するには、[自動ログインを有効にする]を有効にします。
[OK]で入力を確定します。

7. タグをタグリストで選択し、ショートカットメニューで[プロパティ]エントリを選択します。[タグのプロパティ]ダイアログが開きます。



8. テーブルで表示のプロパティを設定します。(例: 更新サイクル、またはタイムスタンプおよび品質コードの表示)。
9. 見出しの設定を指定します。
10. プロパティに設定を保存できます。その後設定をロードし、Excel を終了して再び開いた後に、それらを再度使用することができます。"xml"ファイルに設定を保存し、[保存]をクリックします。
11. [OK]で入力を確定します。必要に応じて、追加のオンラインタグに対して手順を繰り返します。プロパティの設定が再度使用されます。タグリストで複数のタグを選択することもできます。
12. [次へ]をクリックし、アーカイブタグおよびアラームを表示します。
詳細については、「アーカイブタグの表示の構成 (ページ 352)」および「アラームの表示の構成 (ページ 356)」を参照してください。

結果

タグ値の表示が Excel ワークブックに構成されます。プロパティを保存した後は、必要なときに設定を使用することができます。

各テーブルフィールドは、Excel ワークブックのショートテキストおよびコメントを受信します。

タグ値のショートテキスト「OV」は、オンラインタグを意味します。コメントで、表示値のソースが「WDWO_<番号>_<タグ名>」形式で示されます。

注記

Excel Workbook Wizard の再実行

以下の場合に、Excel Workbook Wizard を再び実行する必要があります。

- 設定データを使用してセルを削除または移動した後。
- Excel ワークブックで新規の行や列を削除または挿入した後。

設定データが確認され、自動的に結果として適用されます。[次へ]をクリックして、表示されているデータを確定します。ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

ローカルコンピュータのタグの更新はサポートされていません。

複数のステーションプロジェクトで、内部タグに対し、タグ管理の[コンピュータローカルな更新]オプションを有効にできます。どのようなタグの変更でも、この場合、ローカルコンピュータに影響があるだけです。この機能は、Excel Workbooks ではサポートされていません。

下記も参照

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

アーカイブタグの表示の設定

はじめに

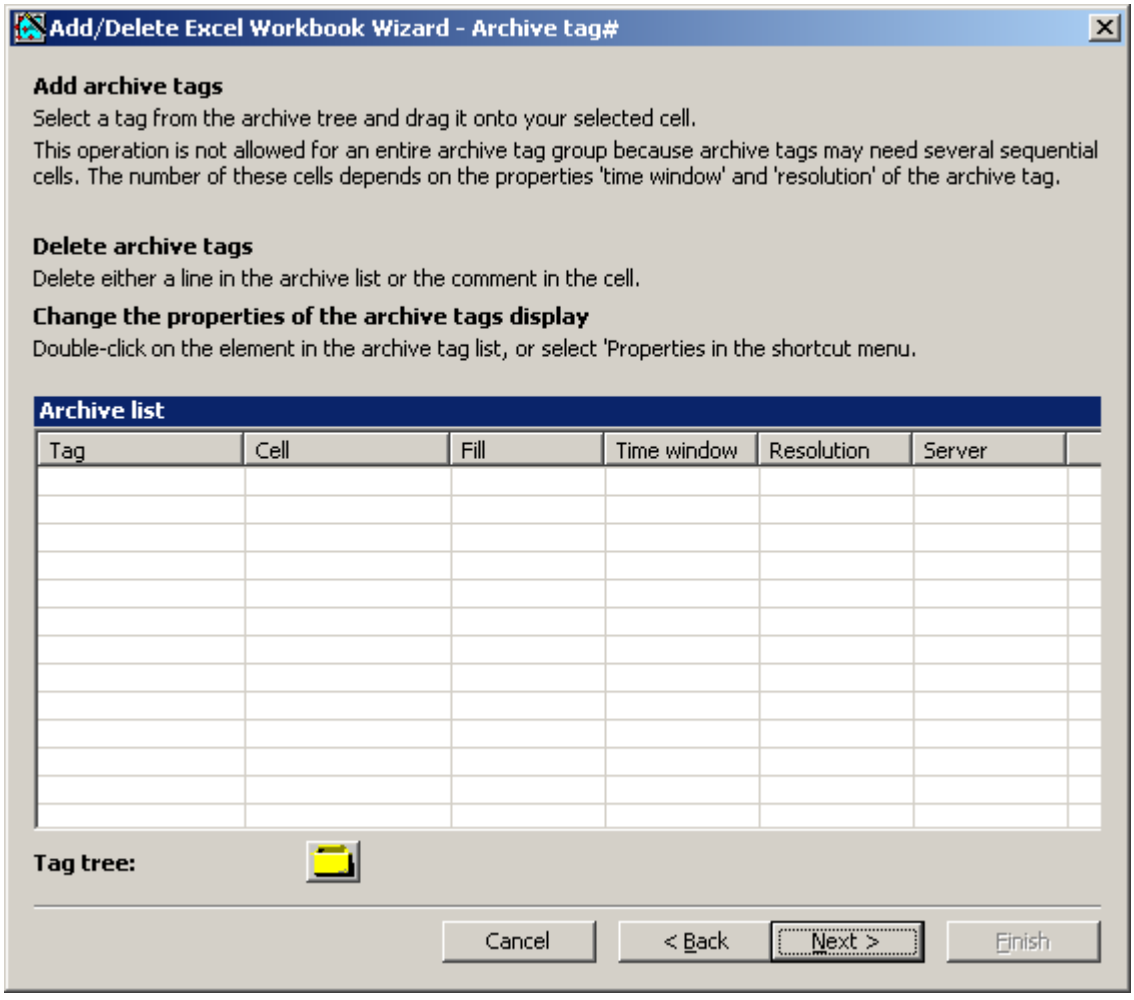
この章では、アーカイブタグの表示の構成方法を説明します。

必要条件

- "Excel Workbook Wizard"が起動され、Excel ワークブックが構成されている。
- [アーカイブタグの追加/削除]ダイアログが開いている。

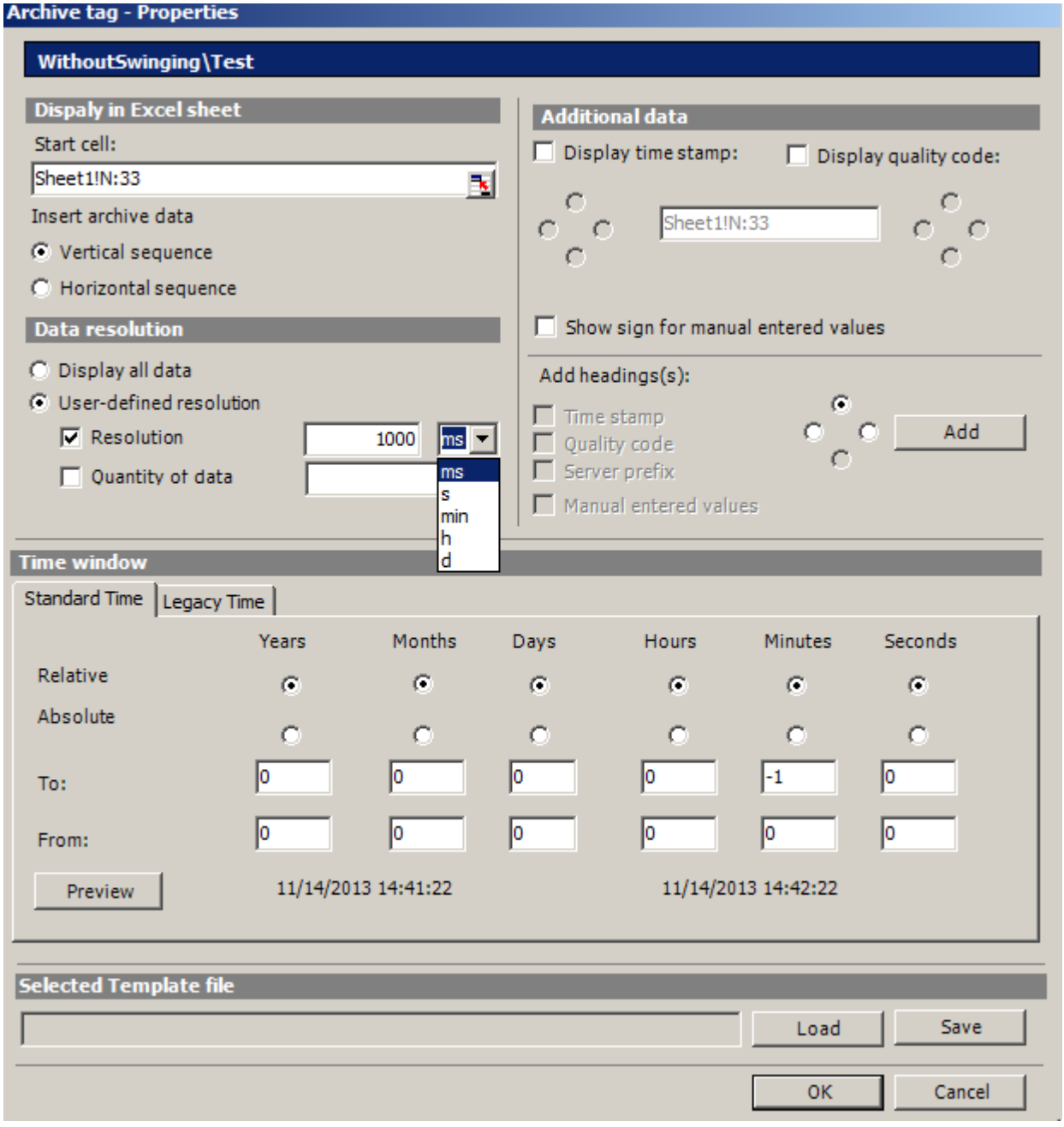
手順

1. [アーカイブタグの追加/削除]ダイアログでをクリックします。



2. [タグの選択]ダイアログが開きます。
   必要なアーカイブタグを選択します。
   タグを Excel テーブル内のセルに、ドラッグアンドドロップでドラッグします。
3. 選択ダイアログを閉じます。 タグがタグリストに表示されます。

4. アーカイブタグをタグリストで選択し、ショートカットメニューで、[プロパティ]エントリを選択します。
[アーカイブタグのプロパティ]ダイアログが開きます。



5. 挿入順序と見出しの設定を指定します。

6. 表示するデータの分量を指定します。 ユーザー定義の解像度については、整数と時間の単位を指定するか、データの分量を指定してください。

注記

ユーザー定義のデータ解像度を「解像度」および「データ量」と組み合わせて使用している場合、抽出したデータの量を正しく決定できない場合があります。 これは、特定の状況では、表示された値と構成されたデータの量の不一致につながります。

[ユーザー定義の解像度]の[データ量]オプションを使用する場合、偶数値を入力ボックスに入力します。 偶数値はトレンドに合った表示を保証します。

---

7. [タイムウィンドウ]ボックスに、アーカイブタグを表示するタイムウィンドウを指定します。

- [標準時間]タグの時刻設定は、標準時間に基づいています。
  - 相対期間の設定は、現在の時間から始まる期間を示しています。 過去の期間のために、[開始]および[終了]行に正の値と負の値を入力することができます。 たとえば、12:00 (正午)となります。 最後の 10 分間の値を表示する必要があります。 [相対]の行で、すべての時間のオプションを有効にします。 [開始]行の[分]列に"-10"の値を入力します。
  - 絶対期間の設定では、[開始]と[終了]行および対応する列に、対応する時間パラメータを入力します。

  時間範囲セットを確認するには、[プレビュー]ボタンをクリックします。

- タイムウィンドウを自分で定義するか、[レガシー時間]タブで、一定の間隔(たとえば「先週」)を設定できます。 タイムウィンドウを自分で定義する場合は、次の設定が可能です。
  - 相対時間ウィンドウ: 開始点と期間を指定します。 1 分から数日の範囲の期間を指定することができます
  - 絶対時間ウィンドウ: タイムウィンドウの開始と終了を指定します。

1. [手動で入力した値を表示]オプションを選択する場合、追加の列が表示されます。 そして、アーカイブ値がランタイム中に手動で入力されていた場合、文字"m"が表示されます。
2. プロパティに設定を保存できます。 その後設定をロードし、Excel を終了して再び開いた後に、それらを再度使用することができます。 "xml"ファイルに設定を保存し、[保存]をクリックします。
3. [OK]で入力を確定します。
   必要に応じて、追加のアーカイブタグに対して手順を繰り返します。 プロパティの設定が再度使用されます。 タグリストで複数のタグを選択することもできます。
4. [次へ]をクリックしてアラームを表示します。 詳細については、「アラームの表示の構成 (ページ 356)」を参照してください。

結果

アーカイブタグ値の表示が Excel ワークブックに構成されます。 プロパティを保存した後は、必要なときに設定を使用することができます。

各テーブルフィールドは、Excel ワークブックのショートテキストおよびコメントを受信します。

タグ値のショートテキスト「AV」はアーカイブタグを意味します。 コメントには、「WDWA_<番号>_<タグ名>」の形式で表示値のソースが示されます。

注記

Excel Workbook Wizard の再実行

以下の場合に、Excel Workbook Wizard を再び実行する必要があります。

- コンフィグレーションデータを使用してセルを削除または移動した後
- Excel ワークブックで新規の行や列を削除または挿入した後

コンフィグレーションデータが確認され、自動的に結果として適用されます。 [次へ]をクリックして、表示されているデータを確定します。ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

下記も参照

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

アラーム表示の設定

はじめに

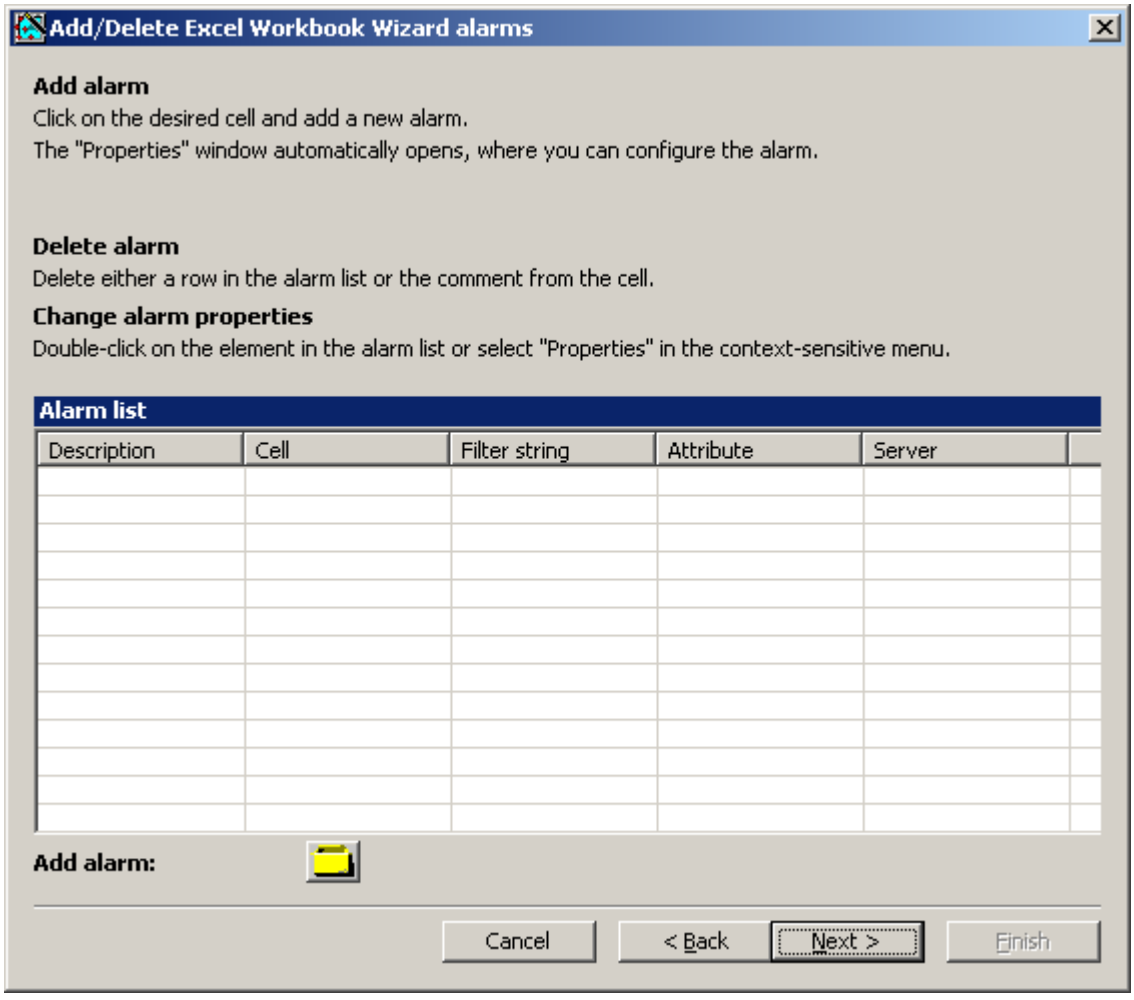
この章では、アラームの表示の構成方法を説明します。

必要条件

- "Excel Workbook Wizard"が起動され、Excel ワークブックが構成されている。
- [アラームの追加/削除]ダイアログが開いている。

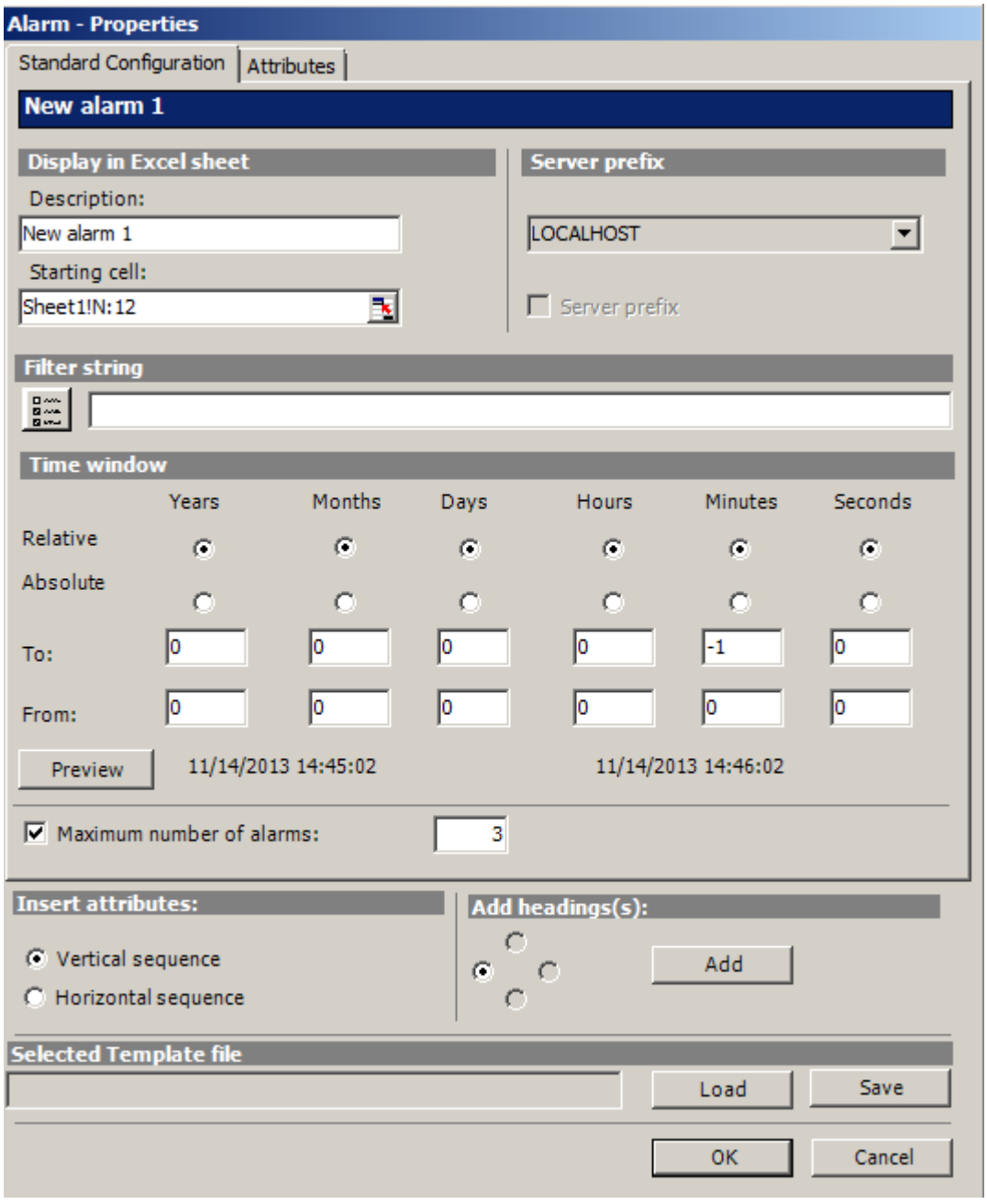
手順

1. [アラームの追加/削除]ダイアログでアラームを構成します。



2. Excel テーブルで必要なセルを選択します。

3. をクリックします。[アラーム ー プロパティ]ダイアログが開きます。

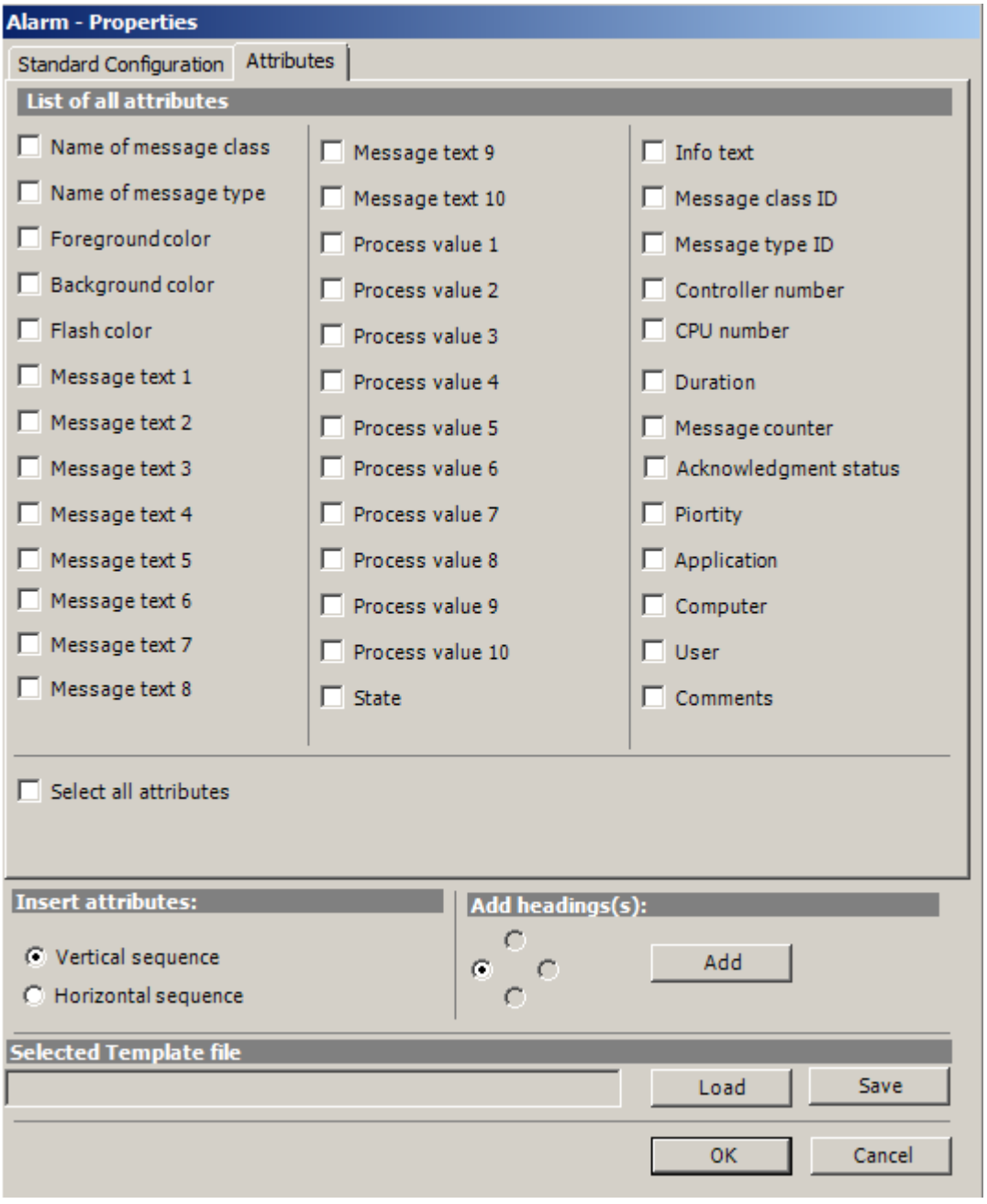


4. [標準設定]タブで、Excel テーブル内のアラームの表示オプションを定義します。
5. フィルタ条件を[フィルタ文字列]ボックスに入力するか、選択ダイアログを使用して、たとえば特定のアラームのみを表示するように、フィルタを定義します。フィルタに日付や時刻が含まれている場合は、[タイムウィンドウ]ボックスが無効になります。

6. [タイムウィンドウ]ボックスに、アラームを表示するタイムウィンドウを指定します。
   - 相対期間の設定は、現在の時間から始まる期間を示しています。過去の期間のために、[開始]および[終了]行に正の値と負の値を入力することができます。たとえば、ちょうど 12:00 にします。最後の 10 分間のアラームを表示する必要があります。[相対]の行で、すべての時間のオプションを有効にします。[開始]行の[分]列に"-10"の値を入力します。
   - 絶対期間の設定では、[開始]と[終了]行および対応する列に、対応する時間パラメータを入力します。

   時間範囲セットを確認するには、[プレビュー]ボタンをクリックします。
7. [アラームの最大数]オプションを使用し、最も新しいアラームの表示数を制限します。最大 1,000 メッセージ表示できます。

8. [属性]タブで、表示するアラームの必要な属性を選択します。
   詳細は、[アラームの詳細] (ページ 495)にあります。



9. 属性の挿入順序と見出しの設定を指定します。

10. プロパティに設定を保存できます。その後設定をロードし、Excel を終了して再び開いた後に、それらを再度使用することができます。"xml"ファイルに設定を保存し、[保存]をクリックします。

11. [OK]で入力を確定します。
    必要に応じて、追加のアラームに対して手順を繰り返します。プロパティの設定が再度使用されます。[アラームリスト]で複数のアラームを選択することもできます。

12.[次へ]をクリックします。[説明]ダイアログボックスが開きます。
13.必要に応じてコメントを入力できます。このコメントが表示されるのは、DataMonitor サーバーによってダウンロードするファイルを選択する場合です。

結果

アラームの表示が Excel ワークブックに構成されます。プロパティを保存した後は、必要なときに設定を使用することができます。

各テーブルフィールドは、Excel ワークブックのショートテキストおよびコメントを受信します。

アラームのショートテキストは「AL」です。コメントには、「WDWL_<番号>_<ボックス名>」の形式で表示アラームのソースが示されます。

注記

Excel Workbook Wizard の再実行

以下の場合に、Excel Workbook Wizard を再び実行する必要があります。

- 設定データを使用してセルを削除または移動した後
- Excel ワークブックで新規の行や列を削除または挿入した後

設定データが確認され、自動的に結果として適用されます。[次へ]をクリックして、表示されているデータを確定します。ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

下記も参照

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

Excel ワークブックの発行

はじめに

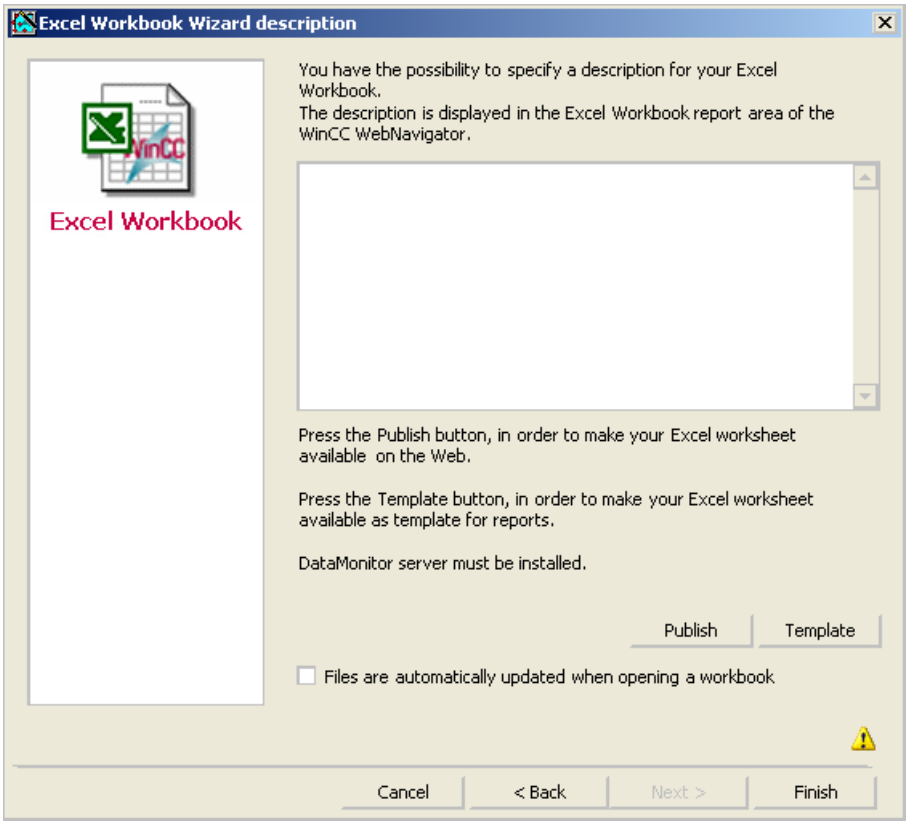
設定した Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントで使用できるようにします。ワークブックは、イントラネットやインターネットのレポートツールとして発行されるか、または"Reports"のテンプレートとして使用されます。

必要条件

- DataMonitor サーバーがコンピュータにインストールされている。
- タグ値、アーカイブ値、およびアラームの表示が設定されている。
- "Excel Workbook Wizard"で[説明]ダイアログが開いている。

手順

1. ワークブックを、[説明]ダイアログで使用できるようにします。



2. "Publish"をクリックすると、Excel ワークブックが、DataMonitor クライアントの"Reports"の[レポートツール]で使用できるようになります。
   [テンプレート]をクリックすると、Excel ワークブックが DataMonitor クライアントで、"Reports"の"Excel Workbooks"でテンプレートとして使用できるようになります。
3. Excel Workbook-Wizard を終了します。
4. ワークブックを保存してから、Excel を閉じます。

別の手順

Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントにアップロードします。 詳細については、「Excel ワークブックをテンプレートとして使用可能化 (ページ 497)」および「Excel ワークブックをレポートツールとして使用可能化 (ページ 499)」を参照してください。

結果

Excel ワークブックが、DataMonitor クライアントで以下のように使用できるようになります:

- ワークブックが[レポートツール]タブで使用できます。 ワークブックを使用して、ランタイムでプロセスデータを表示できます。 詳細については、「Excel ワークブックでのプロセスデータの表示 (ページ 492)」を参照してください。
- ワークブックをテンプレートとして使用して、時間管理またはイベント管理のレポートを作成できます。 詳細については、「Excel ワークブックを使用したレポートの作成 (ページ 502)」を参照してください。

下記も参照

タグ値の表示の設定 (ページ 349)

アーカイブタグの表示の設定 (ページ 352)

アラーム表示の設定 (ページ 356)

3.2.6.2 Excel ワークブックでのプロセスデータの表示

はじめに

使用可能な Excel Workbook にプロセス値またはアーカイブ値およびアラームを表示できます ワークブックを編集および保存できます。

必要条件

- Excel ワークブックがレポートツールとして使用できるようにになっている。
- MS Excel が Excel ワークブックでのオンライン表示に使用可能
- DataMonitor サーバーがインストールされている。
- WinCC プロジェクトがランタイムである。

- DataMonitor のスタートページが開いている。
- ユーザーが WinCC で作成されている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [レポートツール]をクリックします。
   Excel ワークブックが、Excel Workbook Wizard で発行されたか、またはレポートツールとして使用できるようになっていることを確認します。

3. ワークブックを選択します。
4. Excel ワークブックのアイコンをダブルクリックします。
5. 次に表示されるダイアログで、[開く]をクリックします。 ワークブックが開きます。
6. [DataMonitor]メニューで[Excel ワークブック]エントリを選択します。
7. ワークブックに構成されているプロセスデータが所属するサーバーの名前が、[WinCC サーバー]フィールドに表示されます。
   [WinCC サーバー]フィールドは以下の情報を含むことができます。
   - ドメイン経由アクセス: サーバー名およびドメイン名は、ネットワークドメイン外のアクセスのために一覧表示されます。
   - DataMonitor のスタートページはデフォルトの Web ページです: [WinCC サーバー]フィールドに含まれるのはサーバー名のみです。
   - DataMonitor のスタートページは仮想フォルダにあります: サーバー名および仮想フォルダ名が表示されます（たとえば"/webnavigator"）。
8. Excel シートのタグが複数のサーバーからのものである場合、[すべてのサーバー]を有効にします。 すべてのサーバーのタグ値は、オンライン表示で更新されます。

注記

すべてのサーバーへの接続を確立するには、接続を確立する前に[接続]で[すべてのサーバー]を有効にします。

---

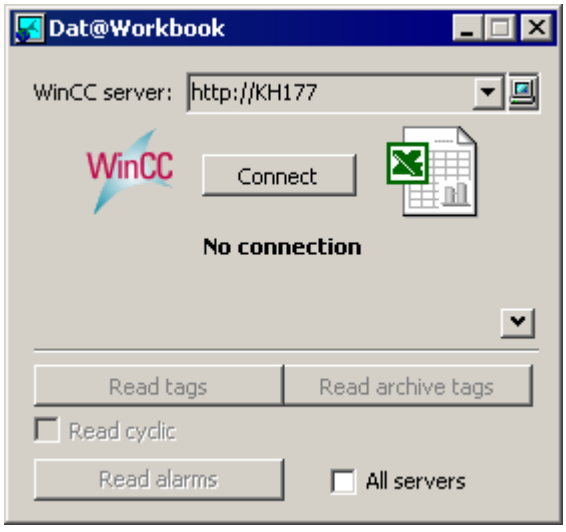
9. [接続]ボタンを使用し、WinCC プロジェクトとの接続を有効にします。 正しく接続されると、ログインダイアログが開きます。
ユーザー名と関連するパスワードを入力します。
サーバーが複数ある場合、それぞれのサーバーのログインダイアログが、次々と開きます。
接続が確立されていない場合は、対応するアラームが表示されます。 ダイアログをクリックすると、発生したエラーのその他の情報が表示されます。

注記

サーバーへの接続を確立するためのログインダイアログが開いているかぎり、"Excel Workbook"ダイアログを閉じないで下さい。

---

10. ダイアログに接続ステータスが表示されます。
[タグの読み取り]ボタン、[アーカイブタグの読み取り]ボタン、および[アラームの読み取り]ボタンをクリックし、それぞれの値または表示を更新します。



11. [サイクリックに読み取り]チェックボックスを有効にし、タグ値をサイクリックに更新します。
12. Excel での計算を終了すると、"Excel Workbook"ダイアログを閉じます。
13. [名前を付けて保存]メニューコマンドを使用して、ワークブックに結果を保存します。
14. Excel を閉じます。

結果

プロセスデータが Excel ワークブックに表示され、さらに処理することができます。

エラーが Excel ワークブックの表示中に発生するか、WinCC サーバーへの接続が確立されない場合、ログエントリはワークブックに表示されます。 そのエントリには、日付、影響を受けたタグまたはアラーム、サーバー、およびエラーメッセージが含まれます。

下記も参照

DataMonitor に対するユーザーの管理 (ページ 408)

3.2.6.3 アラーム属性

はじめに

"Excel Workbook" にアラームが表示されると、"Excel Workbook Wizard" のテーブルに表示する属性を選択できます。

概要

位置	属性	タイプ	コメント
1	アラームクラス名	VarChar (255)	
2	アラームタイプ名	VarChar (255)	
3	前面色	整数(4 バイト)	
4	背景色	整数(4 バイト)	
5	点滅色	整数(4 バイト)	
6～15	メッセージテキスト 1～10	VarChar (255)	
16～25	プロセス値 1～10	真 8 バイト	数値プロセス値 1～10
26	状態	VarChar (255)	ステータステキスト
27	情報テキスト	VarChar (255)	
28	メッセージクラス ID	整数(4 バイト)	
29	メッセージタイプ ID	整数(4 バイト)	
30	AS 番号	小さい整数(2 バイト)	
31	CPU 番号	小さい整数(2 バイト)	
32	期間	整数(4 バイト)	"着信"ステータスまでの時間差
33	アラームカウンタ	整数(4 バイト)	連続アラームカウンタ
34	確認ステータス	VarChar (255)	確認ステータスのテキスト
35	優先度	整数(4 バイト)	
36	アプリケーション		コメント作成に使用したアプリケーション。

位置	属性	タイプ	コメント
37	コンピュータ	VarChar (255)	コメントを作成したコンピュータ。
38	ユーザー	VarChar (255)	コメントを作成したユーザー。
39	コメント	VarChar (255)	

3.2.6.4 Excel ワークブックの VBA 関数

Excel ワークブックの VBA 関数

Excel ワークブックオブジェクトのインスタンスが[Application.COMAddIns.Item("ExcelWorkbook.Connect").Object]を使用して生成されている場合、Excel ワークブックで以下の関数を使用できます。

- ShowDialog(0):
  [Excel ワークブック]ダイアログを通常のサイズで開きます。
- ShowDialog(1):
  [Excel ワークブック]ダイアログを最小化して開きます。
- ShowDialog(2):
  非表示の[Excel ワークブック]ダイアログを開きます。
- CloseDialog:
  [Excel ワークブック]ダイアログを閉じます。
- GetServerID(サーバー名):
  以下のように、特定名の WinCC サーバーの ID を取得します。たとえば、 "http://Local_PC"。
- Connect(ServerID):
  Excel ワークブックを特定の WinCC サーバーに接続します。 "ServerID"は"GetServerID(サーバー名)"関数を使用して取得できます。
  接続を確立する前に[Excel ワークブック]ダイアログが開かれている必要があります。
- ConnectAll:
  すべての WinCC サーバーを Excel ワークブックに接続します。 接続を確立する前に[Excel ワークブック]ダイアログが開かれている必要があります。
- Disconnect(ServerID):
  特定の WinCC サーバーから Excel ワークブックを切断します。
- DisconnectAll:
  すべての WinCC サーバーから Excel ワークブックを切断します。

- ReadTags(ServerID):
  "ServerID"を持つ WinCC サーバーからタグを読み取ります。 タグを読み取るには、接続を確立する必要があります。
- ReadArchives(ServerID):
  "ServerID"を持つ WinCC サーバーからアーカイブを読み取ります。 アーカイブを読み取るには、接続を確立する必要があります。
- ReadAlarms(ServerID):
  "ServerID"を持っている WinCC サーバーから、アラームを読み取ります。 アラームを読み取るには、接続を確立する必要があります。

接続や切断を実行するたびに、"ExcelWorkbook.Connect"オブジェクトは"ServerConnected(ServerID)"または"ServerDisconnected(ServerID)"イベントを出力します。 これらのイベントは"WithEvents"(VB-標準)などを使って結合されます。

3.2.7 レポートの取り扱い

3.2.7.1 Excel ワークブックをテンプレートとして使用可能化

はじめに

Excel ワークブックを、["Reports"]を作成するテンプレートとして使用できるようにすることができます。このためには、以下のオプションがあります。

- [テンプレート]ボタンを使用して"Excel Workbook Wizard" で、Excel ワークブックを WinCC サーバーに発行します。
- まだ発行されていない Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントにアップロードします。

このページには、DataMonitor クライアントでテンプレートを使用できるようにする方法についての説明が、含まれています。

必要条件

- Excel ワークブックが作成されている。
- Excel ワークブックのファイルサイズが 4MB 未満。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [テンプレートのアップロード]タブをクリックします。

3. [ターゲットディレクトリ]フィールドで、テンプレートを保管するディレクトリを選択します。
   ログインしているユーザーが「作成」アクセス権を持っているディレクトリのみを選択できます。
4. [選択されたテンプレート]の[検索]をクリックします。必要な Excel ワークブックに移動します。
5. [アップロード]ボタンをクリックします。

結果

ワークブックをテンプレートとして使用して、時間管理またはイベント管理のレポートを作成できます。

下記も参照

アクセス権の割り当て (ページ 433)

Excel Workbook を使用したレポートの表示 (ページ 502)

Excel ワークブックの構成 (ページ 344)

3.2.7.2 レポートツールとして、Excel ワークブックを使用できるようにする

はじめに

Excel ワークブックを、「"Reports"」でレポートツールとして一元的に使用できるようにすることができます。このためには、以下のオプションがあります。

- [発行]ボタンを使用して"Excel Workbook Wizard" で、Excel ワークブックを WinCC サーバーに発行します。
- まだ発行されていない Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントにアップロードします。

ここでは、まだ発行されていない Excel ワークブックを、DataMonitor クライアントで使用できるようにする方法について説明します。

必要条件

- Excel ワークブックが作成されている。
- Excel ワークブックのファイルサイズが 4MB 未満。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [テンプレートのアップロード]タブをクリックします。

3. [Excel ワークブックのテンプレートのアップロード]の[検索]をクリックします。必要な Excel ワークブックに移動します。
4. [アップロード]ボタンをクリックします。

結果

ワークブックが[レポートツール]タブで使用できます。ワークブックを使用して、ランタイムでプロセスデータを表示できます。

下記も参照

Excel ワークブックでのプロセスデータの表示 (ページ 492)

3.2.7.3 レポートの設定

はじめに

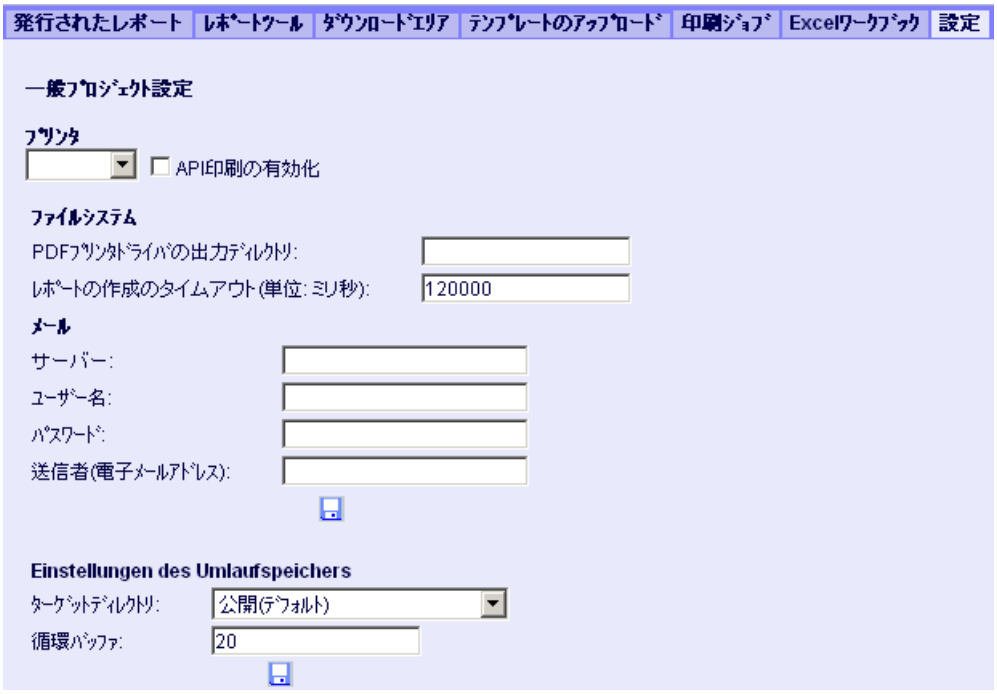
DataMonitor の"Reports"機能を使用するには、異なる設定が必要です。

必要条件

- PDF Reader がインストールされている。
- DataMonitor サーバーで WinCC プロジェクトが有効になっている。
- [ランタイムのレポート]オプションが、コンピュータのプロパティの WinCC プロジェクトで有効になっている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [設定]タブをクリックします。 [設定]ページが表示されます。



3. [プロジェクトの一般設定]セクションのエントリを確認します。
   これで、Web サーバーのプリンタを選択できます。 ファイルの印刷だけが可能です。
4. PDF ファイルへの出力を有効にするには、[API 印刷の有効化]オプションを起動します。
5. メールを送信するための以下のデータを、[メール]領域に入力します。
   - サーバー: 送信先のメールサーバー(SMTP)
   - ユーザー名: 送信者の名前
   - パスワード
   - 送信者: 電子メールの送信に使用する電子メールアカウント
6. [プロジェクトの一般設定]セクションでディスクアイコンをクリックし、設定を保存します。
7. [サークルバッファの設定]領域で、選択した宛先ディレクトリに保存する作成されたレポートの数を、定義できます。 ボックスには、事前に割り当てられた値の 20 が設定されています。同じタイプのレポートの最大数に達すると、「先入れ先出し」法が適用されます。 [アラームテーブル]タイプに関するレポートが 21 件作成された場合、最初に作成されたレポートは削除されます。
8. このセクションのディスクアイコンをクリックし、設定を保存します。

結果

"Reports"の設定が実施されました。

製品サポート - 例

インターネットの[製品サポート]にある FAQ "51334611"に詳細な例が示されています:

- http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/51334611 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/de/51334611)

下記も参照

電子メールによる WinCC/DataMonitor レポートの送信 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/de/51334611)

3.2.7.4 Excel Workbook を使用したレポートの表示

はじめに

"Reports"を使用して、Excel ワークブックからレポートを、または PDF 形式での印刷ジョブを作成します。以下に Excel ワークブックからのレポートの作成について説明します。

注記

イベント管理された"Excel Workbooks"に関する情報

イベント管理されたレポートが作成されるのは、タグが変化する期間が 1 分を超える場合のみです。

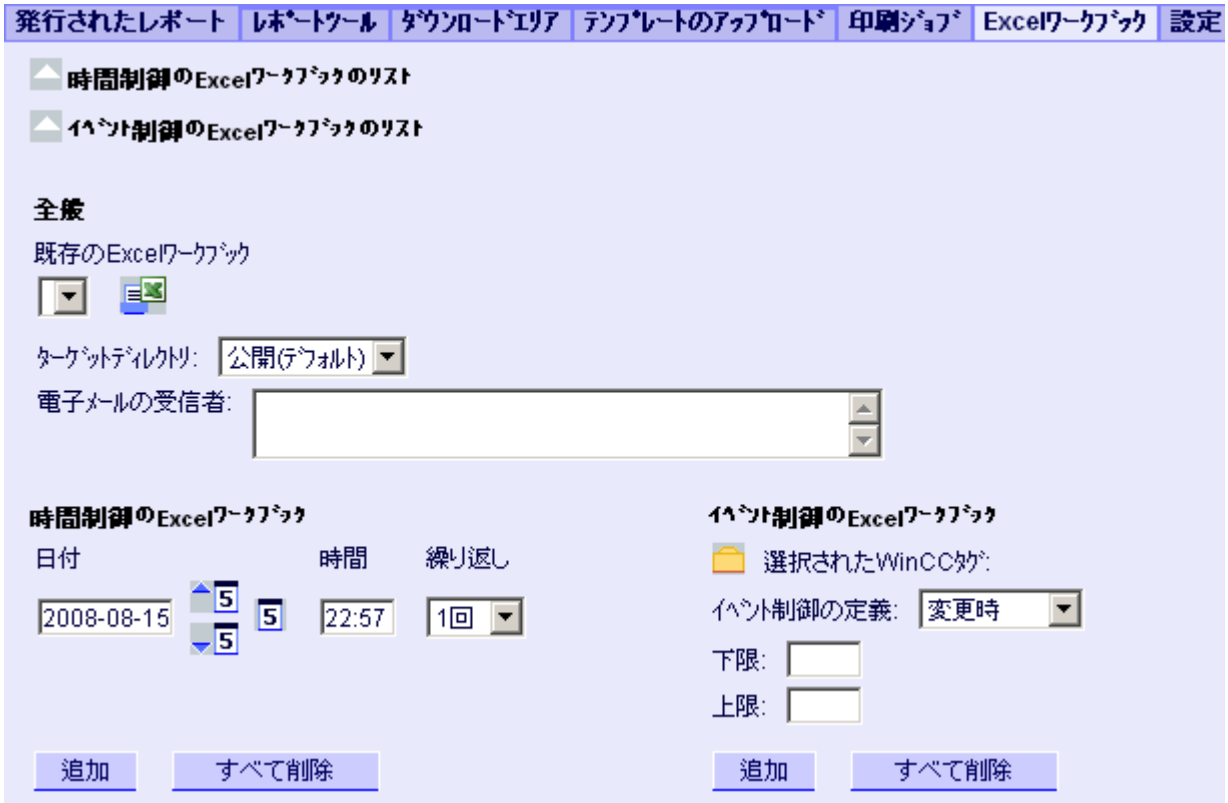
長時間にわたり 1 つ以上のイベント管理されたレポートを頻繁に作成すると、大量のメモリを消費し、貴重なリソースを使い尽くすことに、留意してください。この状況は、例えばイベント管理されたレポートをトリガするタグの信号の頻繁な変化のために発生することがあります。

必要条件

- DataMonitor サーバーで WinCC プロジェクトが有効になっている。
- [ランタイムのレポート]オプションが、コンピュータのプロパティの WinCC プロジェクトで有効になっている。
- 使用する Excel ワークブックを、すでに発行しているか、またはテンプレートとして使用できるようにしている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. "Excel Workbooks"タブをクリックします。
   "Excel Workbooks"ページが表示されます。
   [時間管理された Excel ワークブックのリスト]および[イベント管理された Excel ワークブックのリスト]の前のアイコンが、無効になっている。アイコンは、現在設定されたレポートがないことを示します。



3. [使用可能な Excel ワークブック]で使用できる Excel ワークブックを 1 つ選択します。
4. レポートを保存するターゲットディレクトリを選択します。
   ログインしているユーザーが「作成」アクセス権を持っているディレクトリのみを選択できます。
5. 電子メールとしてレポートを送る場合、[電子メールの受信者]フィールドに電子メールアドレスを入力します。任意の標準電子メールプログラムを使用して、必要なだけ複数の受信者を入力できます。
6. を使用して、即座にレポートを作成します。
7. レポートをすぐに作成しない場合、時間管理またはイベント管理されたレポートの作成を、以下のステップで設定します。

8. 時間管理されたレポートを設定するには、[時間管理された Excel ワークブック]領域で以下を入力します。
   - 日付:個別のフィールドに日付を入力するか、カレンダーを使用して日付を入力します。カレンダーを開くには、[カレンダー]アイコンをクリックします。
   - 時刻: レポートを作成する時刻を定義します。
   - 繰り返し:「1 回」、「毎週」など、繰り返す頻度を定義します。
9. [時間管理された Excel ワークブック]領域で[追加]をクリックします。
   レポートが[時間管理された Excel ワークブックリスト]に表示されます。
10. イベント管理されたレポートを設定するには、[イベント管理された Excel ワークブック]領域で以下を入力します。
    - 選択する WinCC タグ:
      をクリックします。選択ダイアログで、必要なタグを選択します。
      フィルタを使用して表示されるタグ数を制限します。
    - イベント管理の定義：
      トリガするイベント(たとえばタグの値が変わったとき)を設定します。
      イベント管理に[下限]、[上限]または[上下限の両方]を選択した場合、それぞれの限界値を入力します。
11. [イベント管理された Excel ワークブック]領域で[追加]をクリックします。
    [イベント管理された Excel ワークブックのリスト]にレポートが表示されます。

結果

時間管理されたまたはイベント管理されたレポートは、"Excel Workbook"として設定されます。

設定されたレポートは、"Excel Workbooks" のリストに表示されます。リストのレポートを編集または削除できます。

レポートを作成すると、選択したディレクトリの"Published Reports"タブでランタイムで使用できます。

下記も参照

Excel ワークブックをテンプレートとして使用可能化 (ページ 497)

Excel ワークブックの発行 (ページ 361)

3.2.7.5 印刷ジョブを使用したレポートを作成

はじめに

"Reports"を使用して、Excel ワークブックからレポートを、または PDF 形式での印刷ジョブを作成します。以下に、PDF 形式の印刷ジョブを使用したレポートの作成について説明します。

注記

Acrobat Reader を使用してアジア版 PDF ファイルを開く

[レポート]を使用して作成したアジア版 PDF ファイルを開くには、Adobe Acrobat Reader の各国版またはそれぞれのフォントパッケージが必要です。

4 つのアジア言語は、それぞれ 1 つのフォントに永久的に関連付けられています。つまり、レポートレイアウトのフォント設定は、アジア言語には影響しません。

イベント管理された印刷ジョブに関する情報

イベント管理された印刷ジョブが作成されるのは、タグが変化する期間が 1 分を超える場合のみです。

長時間にわたり 1 つ以上のイベント管理された印刷ジョブを頻繁に作成すると、大量のメモリを消費し、貴重なリソースを使い尽くすことに、留意してください。この状況は、例えばイベント管理された印刷ジョブをトリガするタグの信号の頻繁な変化のために発生することがあります。

必要条件

- PDF Reader がインストールされている。
- DataMonitor サーバーで WinCC プロジェクトが有効になっている。
- [ランタイムのレポート]オプションが、コンピュータのプロパティの WinCC プロジェクトで有効になっている。
- DataMonitor のスタートページが開いている。

手順

1. スタートページの"Reports"をクリックします。
2. [印刷ジョブ]タブをクリックします。
   [印刷ジョブ設定]ページが表示されます。
   [時間管理された印刷ジョブのリスト]および[イベント管理された印刷ジョブのリスト]の前のアイコンは、無効になります。アイコンは、現在設定された印刷ジョブがないことを示します。

3. [使用可能な印刷ジョブ]で、必要な印刷ジョブを選択します。
4. レポートを保存するターゲットディレクトリを選択します。
   ログインしているユーザーが「作成」アクセス権を持っているディレクトリのみを選択できます。
5. 電子メールとしてレポートを送る場合、[電子メールの受信者]フィールドに電子メールアドレスを入力します。任意の標準電子メールプログラムを使用して、必要なだけ複数の受信者を入力できます。
6. を使用して、即座にレポートを作成します。
7. レポートをすぐに作成しない場合、時間管理またはイベント管理されたレポートの作成を、以下のステップで設定します。

8. 時間管理されたレポートを設定するには、[時間管理された印刷ジョブ]領域で以下を入力します。
   - 日付:個別のフィールドに日付を入力するか、カレンダーを使用して日付を入力します。カレンダーを開くには、[カレンダー]アイコンをクリックします。
   - 時刻:レポートを作成する時刻を定義します。
   - 繰り返し:「1 回」、「毎週」など、繰り返す頻度を定義します。
9. [時間管理された印刷ジョブ]領域で[追加]をクリックします。
   [時間管理された印刷ジョブのリスト]にレポートが表示されます。
10. イベント管理されたレポートを設定するには、[イベント管理された印刷ジョブ]領域で以下を入力します。
    - 選択する WinCC タグ:
      をクリックします。選択ダイアログで、必要なタグを選択します。
      フィルタを使用して表示されるタグ数を制限します。
    - イベント管理の定義：
      トリガするイベント(たとえばタグの値が変わったとき)を設定します。
      イベント管理に[下限]、[上限]または[上下限の両方]を選択した場合、それぞれの限界値を入力します。
11. [時間管理された印刷ジョブ]領域で[追加]をクリックします。
    レポートが[イベント管理された印刷ジョブのリスト]に表示されます。

結果

時間管理されたまたはイベント管理されたレポートは、PDF 形式で印刷ジョブとして設定されます。

設定されたレポートは、印刷ジョブのリストに表示されます。リストのレポートを編集または削除できます。

レポートは、WinCC 設定中に設定された言語で作成されます。WinCC Runtime 言語は、テーブルなどのダイナミックエレメントの表示には影響しません。

レポートを作成すると、PDF ファイルが、選択したディレクトリの"Published Reports"タブでランタイムで使用できます。

WinCC/WebUX 4

4.1 WebUX - 概要

概要

WinCC/WebUX は、デバイスとブラウザに依存しない、オートメーションシステムのオペレータコントロールやモニタリングのソリューションを提供します。

プロセスセキュリティのために、SSL 証明書による HTTPS 接続のみをサポートします。

活用されている Web 技術により、WinCC 基本システムへの制限が発生します。一部のグラフィックデザイナオブジェクトおよびそれらのプロパティはサポートされていません。詳細情報は、以下を参照してください。

- WebUX でサポートされるファンクション (ページ 525)

WebUX での作業

WinCC/WebUX を使用するには以下のステップが必要です。

1. WinCC および WinCC/WebUX を WebUX サーバーにインストールします。 (ページ 519)
2. WebUX Web サイトをセットアップします。 (ページ 522)
3. WebUX 用の WinCC プロジェクトを構成します。 (ページ 537)
4. 端末デバイスで WebUX サーバーにアクセスします。 (ページ 541)

WebUX - WebNavigator の区別

WinCC/WebUX	WinCC/WebNavigator
一般的に確立された Web 標準に基づく	Microsoft の ActiveX 技術に基づく
ブラウザに無関係に使用できる Chrome ブラウザ用に最適化。	Microsoft Internet Explorer のみをサポート
タブレット、パソコン、スマートフォンなど、オペレーティングシステムに無関係に多様なデバイスで実行できる	Windows コンピュータのみで実行できる
クライアントのインストールは不要	クライアントのインストールが必要
デフォルトのユーザー権限で十分	インストールに管理者権限が必要

WebUX での表示

WinCC 画像およびサポートされる WinCC コントロールは、「HTML5」および「SVG」の標準で Web ブラウザに表示されます。

- グラフィックエレメントは、SVG エレメントで作成されます。
- プロセス画像の動的更新は、ブラウザとサーバーの間での永続的接続を通じて行われます。

注記

ブラウザ依存の表現

ブラウザのバージョンが異なると、表示と動作が異なる可能性があります。

設定された文字セットを表示するには、例えば、これがブラウザやデバイスでも使用可能になる必要があります。

パフォーマンスデータ

WebUX システムのパフォーマンスは次の要素によります。

- 使用された WebUX サーバーのハードウェア
- グラフィックオブジェクトとスクリプトの数量構造

設定

一般的なシナリオとして、100 台の WebUX クライアントによる 1 つの WebUX サーバーへの同時アクセスをテストしました。

ランタイム中の画像変更:

WebUX クライアントのパフォーマンスは、基本的に WinCC クライアントの動作に対応します。

しかしながら、WebUX クライアントの画像変更中の読み込み時間は、以下の要因に影響されます。

- WebUX サーバーに同時にアクセスする WebUX クライアントの数
- WebUX クライアントのパフォーマンス

- 使用されるブラウザ
  ブラウザによっては、画像設定の時間が数秒異なることがあります。
  テストされたブラウザに関する追加情報は、インターネットのカスタマーサポートページに掲載されています。エントリ ID = 109480708:
  – http://support.automation.siemens.com/WW/view/de/109480708 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109480708)
- プロセス画像内のスクリプトの数
  WinCC クライアントと異なり、すべてのスクリプトが WebUX サーバーで実行されます。
- プロセス画像内のグラフィックオブジェクトの数
- プロセス画像内のグラフィックオブジェクトのタイプ
  Web コントロールは読み込み時間を延長できます。

注記

パフォーマンス負荷による接続喪失

パフォーマンス負荷が高いと、タイムアウトが発生することがあります。
WebUX クライアントと WebUX サーバーの間の接続が結果として切断されます。

WinCC/WebUX - 移行

プロセス画像とフェイスプレートの変換

WebUX 以前のバージョンで作成されたプロセス画像とフェイスプレートタイプを使用するには、画像を変換します。

1. WinCC エクスプローラで、「グラフィックデザイナ」エディタのデータエリアで「タイプ」列でファイルをソートします。
2. グラフィックデザイナで、「Web 対応」とマークされた画像を開きます。
3. 画像を保存して、閉じます。

あるいは、WinCC エクスプローラで画像を変換します。

ただし、全てのプロセス画像とフェイスプレートは「ツール」**>**「プロジェクトデータの変換」で変換されます。プロジェクトの大きさによって、この変換には時間がかかる場合があります。

WinCC/WebUX V7.3

WebUX V7.4 以降で V7.3 から移行したプロジェクトを使用するには、プロセス画像とプロジェクト関数を変換します。

詳細は、WinCC 情報システムの以下の項目を参照してください。「最初の手順」 > 「移行」 > 「移行中の追加手順」。

下記も参照

WebUX でサポートされるファンクション (ページ 525)

WebUX のインストール (ページ 519)

WebUX Web サイトの構成 (ページ 522)

WebUX 用の WinCC プロジェクトの構成 (ページ 537)

WebUX の使用方法 (ページ 541)

http://support.automation.siemens.com/WW/view/de/109480708 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109480708)

4.2 WebUX のライセンス

統合された WinCC WebUX Monitor ライセンスを使用する WinCC/WebUX 基本パッケージは、WinCC に含まれています。

WebUX クライアント

WebUX クライアントは WebUX サーバーでライセンスされています。

コンピュータ上の WebUX クライアントにはライセンスは不要です。

WebUX サーバー

WebUX サーバーは WinCC システム上にインストールされます。WinCC 基本システムには、少なくとも WinCC 基本 RT ライセンスが必要です。

ライセンスキーは、以下で説明されているとおりに区別され、WinCC/WebUX サーバー上で並列に実行されます。

ライセンス [1]	機能	コメント
WinCC WebUX Monitor	ユーザーは読み取りアクセス権限だけを持っています。	オーソリゼーションレベル 1002「Web アクセス ー モニタリングのみ」がユーザー管理者の中でユーザーのために設定されています。 使用可能な「Monitor」ライセンスが割り付けられている場合は、「Operate」ライセンスも WebUX クライアントに読み取りアクセスのために割り付けられます。
WinCC WebUX Operate	ユーザーは読み取りおよび書き込みアクセス権限を持っています。	
WinCC/ WebNavigator	ユーザーの認証により、読み取りアクセスに加えて、書き込みアクセスが可能かどうかが決定されます。	

1) WinCC/WebNavigator ライセンスも WinCC システムにインストールされている場合は、WebNavigator ライセンスも WebUX クライアントに割り付けることができます。

これを行うには、WebNavigator ダイアログ[WinCC Web 設定]で次のオプションを選択済みにする必要があります。

- [WebUX が WebNavigator ライセンスを使用することを許可する]。

しかしながら、最初にすべての使用可能な WebUX ライセンスが使用されます。

ライセンスパッケージ

ライセンスパッケージは、1、3、10、30 および 100 クライアントのものがあります。

WebUX V7.3 からアップグレードする場合は、5/25/50/150 クライアントのライセンスもあります。

ライセンスされているクライアントの数が WebUX クライアントによるログイン試行中に超過した場合は、それ以上のログインは許可されません。

パッケージはバージョンに依存せず、組み合わせることができます。

WebUX デモライセンス

WinCC/WebUX を使用すると、WebUX サーバーにアクセスするためのデモライセンスも受け取ります。

これにより、有効な WebUX ライセンスまたは WebNavigator ライセンスのない最大 1 ユーザーにプロジェクトの読み取りアクセス権を付与できます。

予約済みライセンス

予約済み WebUX ライセンスにより、WebUX サーバーへのアクセスがユーザーに保証されます。

ユーザーのために接続は予約されたままになります。自由に使用可能な WebUX ライセンスの数は、設定された予約済みライセンスごとに減少します。

用途

可能な用途には、以下が含まれています。

- リモートオペレータアクセス:
  WebUX サーバーへの接続が読み取り専用アクセスにより専有されている場合は、接続は操作のために予約されたままになります。
- セントラル表示:
  セントラルクライアントステーションは、たとえば、WinCC システムの状態を表示するために、常に接続されています。

WebUX ライセンスの予約

ユーザー管理者で、使用可能なライセンスの 1 つを予約ライセンスとして WebUX ユーザーに割り付けます。

こうするには、ユーザーのために[WebUX ライセンスの予約]オプションを有効にします。[予約済み WebUX ライセンスの数]フィールドに、予約で割り付けられた WebUX ライセンスの数が表示されます。

予約済みライセンスは、個別のユーザーのみに設定され、ユーザーグループには設定されません。

WebUX サーバーで使用可能な数を超えて、より多くのライセンスが設定されている場合は、ログオンした最初のユーザーのライセンスが使用されます。

WebNavigator ライセンスの使用

WebUX クライアントの WebNavigator ライセンスも使用できます。

WebUX クライアントのライセンスを有効にするには、WinCC エクスプローラの[WebNavigator]エディタのコンテキストメニューで[WinCC Web 設定]ダイアログを開きます。

[ランタイム]タブで、[WebUX が WebNavigator ライセンスを使用することを許可する]オプションを有効にします。

ランタイムでのクライアントの管理

無効なクライアントを特定し、それらを切断するには、必要に応じてページ「http://<サーバー名>/status.html」を使用します。

詳細情報については、次の場所にある WinCC/WebNavigator オプションのドキュメントを参照できます。

- WinCC/WebNavigator ドキュメント > WinCC プロジェクトの操作 > 「Status.html」による接続の診断 (ページ 276)

下記も参照

"Status.html"による接続の診断 (ページ 276)

4.3 通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書

通信のセキュリティを向上するために、WebUX は HTTPS 接続のみをサポートしています。

WebUX サーバーのデジタル SSL 証明書が必要です。

通知
インフラストラクチャの保護 Web サーバーを設定することで、プラントインフラストラクチャへのアクセスが有効になります。 このため、Web サーバーがインストールされているコンピュータを保護してください。以下の規則に従ってください。 ● コンピュータはセキュア接続経由でのみアクセス可能であること。 ● ソフトウェアベンダにより提供されるチェック機構を有効にし、いかなる状況でもバイパスできないこと。

SSL 証明書のインストール

WebUX Web サイトを設定するとき以下のオプションがあります。

- 既存の証明書を選択します
- 自己署名証明書の作成
- 証明書を設定後にインストールします

新しい証明書の作成

1. [新しい証明書の作成]オプションを有効にします。
2. 選択した項目の名前を入力します。

設定が完了したら、自己署名した証明書が作成されます。証明書は 1 年間有効です。

注記

制限付き認証

WebUX Web サイト自体を設定するときに作成する証明書は、公式な認証団体から検証されません。ブラウザの設定によっては、Web サイトにアクセスするときに警告メッセージが表示されます。

サーバー認証をよりセキュアにするために、公的認証機関の証明書をインストールしてください。

セキュアデータソースのみの表示

Web ページおよび外部ファイルを表示するために、以下の条件のいずれかを満たす必要があります。

- HTTPS 接続経由での呼び出し
- 信頼されるサイトの呼び出し

IIS での SSL の有効化

SSL を使用するには、インターネットインフォメーションサービス(IIS)で SSL アクセスを設定します。

必要条件

- WebUX サーバーの管理者権限があること。

手順

1. [インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ]を開きます。
2. [接続]ナビゲーションエリアの[サイト]でウェブページを選択します。
3. [操作]エリアで[結合]をクリックします。
   [サイト結合]ダイアログが開きます。
4. 設定を構成するには、[追加]をクリックします。
   [サイト結合の追加]ダイアログが開きます。
5. ウェブサイトのタイプ、IP アドレスおよびポートを選択します。
   SSL 証明書の設定用フィールドを開くには、[https]タイプを選択します。
6. リストから SSL 証明書を選択するか、[選択]をクリックします。
7. [OK]で確定してダイアログを閉じます。
   [サイト結合]ダイアログで他のエントリを削除できます。
8. [閉じる]で設定を終了します。
9. [デフォルトウェブサイトホーム]データエリアで、[IIS]の下にある[SSL 設定]を選択します。
10. [SSL が必要]オプションを有効にしてから、クライアント証明書の設定を選択します。

詳細な情報は、Microsof サポートの「IIS で HTTPS サービスを設定する方法」にあります。

- http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

下記も参照

WebUX Web サイトの構成 (ページ 522)

http://support.microsoft.com/kb/324069 (http://support.microsoft.com/kb/324069)

4.4 WebUX のインストール

ソフトウェア要件

インストールには、オペレーティングシステムおよびソフトウェア設定に関する一定の必要条件を満たす必要があります。

WebUX サーバー:オペレーティングシステム

ソフトウェア	設定	コメント
Windows 10	Pro Enterprise	標準インストール 64 ビット 接続できる数には制限があります。最大 3 つの WebUX クライアントが WebUX サーバーに接続できます。
Windows 10	Enterprise LTSC (Long-Term Servicing Channel)	標準インストール 64 ビット 接続できる数には制限があります。最大 3 つの WebUX クライアントが WebUX サーバーに接続できます。
Windows Server 2012 R2	Standard Datacenter	64 ビット
Windows Server 2016	Standard Datacenter	64 ビット
Windows Server 2019	Standard Datacenter	64 ビット

追加のソフトウェア要件

	バージョン/設定	対象	コメント
Web ブラウザ	ブラウザは HTML5 に対応している必要があります。	WebUX クライアント/端末	WebUX はあらゆるブラウザで使用可能です。 画面は Chrome ブラウザ向けに最適化されています。
WinCC バージョン	WinCC V7.5 SP1	WebUX サーバー	WebUX サーバーは WinCC システムにインストールされます。

	バージョン/設定	対象	コメント
SIMATIC Logon バージョン(オプション)	SIMATIC Logon V1.6	WebUX サーバー	一元的ユーザー管理のために SIMATIC Logon を使用する場合のみ対象。
インストールに必要なユーザー権限	管理者権限	WebUX サーバー	WebUX サーバーのインストールに必要な権限。
操作に必要なユーザー権限	初期ユーザー設定	WebUX クライアント WebUX サーバー	WebUX サーバーおよび WebUX クライアント上で必要な権限。
Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)	[WWW サービス] > [HTTP 共通機能]または[HTTP 共有機能]: ● 標準マニュアル ● 静的コンテンツ WWW サービス > パフォーマンス機能: ● 動的コンテンツの圧縮 ● 静的コンテンツの圧縮 WWW サービス > アプリケーション開発機能: ● ASP.NET	WebUX サーバー	WebUX サーバーは Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)が必要です。 IIS の設定リストを有効にします。

WebUX クライアント(端末)

WebUX サーバーにアクセスする端末に必要なのは Chrome、Firefox、Internet Explorer または Safari など、HTML5 対応の Web ブラウザのみです。

注記

ブラウザ依存の表現

ブラウザのバージョンが異なると、表示と動作が異なる可能性があります。

設定された文字セットを表示するには、例えば、これがブラウザやデバイスでも使用可能になる必要があります。

WebUX サーバーのインストール

WinCC のインストール時に WinCC/WebUX をインストールすることができます。

WebUX サーバーを後でインストールする場合は、次の手順を実行します。

1. WinCC インストール DVD を起動します。
2. インストールタイプで「カスタムインストール」を選択します。
3. [プログラム]ダイアログで、[WinCC]グループの[WinCC WebUX]エントリを選択します。
4. WebUX ライセンスを転送します。詳細情報は、以下を参照してください。
   – WebUX のライセンス (ページ 513)

インストールしパーソナルコンピュータを再起動したあと、WinCC WebUX コンフィグレータが開きます。

WebUX の設定に関する情報は、以下を参照してください。

- WebUX Web サイトの構成 (ページ 522)

下記も参照

WebUX のライセンス (ページ 513)

通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書 (ページ 516)

WebUX Web サイトの構成 (ページ 522)

4.5 WebUX Web サイトの構成

WebUX クライアントと通信するために、WebUX サーバーで WebUX Web サイトおよび HTTPS を介する接続を構成します。

WinCC WebUX コンフィグレータ

WinCC および WinCC/WebUX をインストールしたあと、WinCC WebUX コンフィグレータが開きます。

後で変更するには、[Siemens Automation]プログラムグループの中に WinCC WebUX コンフィグレータがあります。

WebUX コンフィグレータを使用して、WebUX を使用するための標準設定を設定します。

- Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)の設定
- Web サーバーの設定
- HTTPS 接続用の SSL 証明書
- 仮想フォルダ

デジタル証明書に関する情報は次の場所にあります。

- 通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書 (ページ 516)

仮想フォルダの作成

初期設定中に、新規デフォルト Web サイトまたは新規仮想ディレクトリを作成するか指定します。

Web サイトを仮想ディレクトリとして設定する場合、SSL 暗号化が有効になった少なくとも 1 つの Web サイトがパーソナルコンピュータ上に存在しなければなりません。この基準を満たす Web サイトは[より高いレベルの Web サイトを選択する]選択リストに表示されます。

手順:仮想フォルダの使用

1. 設定
   より高いレベルの Web サイトを選択します。
   WebUX コンフィグレータは、IIS 設定からポート番号および SSL の設定を取得します。
2. ターミナルからのアクセス(WebUX クライアント):
   Web サイトにアクセスするには、ブラウザの URL に仮想ディレクトリの名前を追加します。

必要条件

- Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)がインストールされていること。
- WinCC 基本システムがインストールされていること。
- [WinCC WebUX]プログラムパッケージがインストールされていること。
- [WinCC WebUX]ライセンスがインストールされていること。

手順

WinCC/WebUX をインストールしパーソナルコンピュータを再起動したあと、WinCC WebUX コンフィグレータが開きます。

1. [構成の適用]をクリックします。
   標準構成が設定されます。
   [IIS 構成]ダイアログが開きます。
2. Web サイトの名前を入力します。
3. サーバーで WebUX Web ページを操作するだけの場合、[Web サイトの新規作成]オプションを選択します。
   仮想フォルダで作業する場合は、ステップ 6 に進んでください。
4. アクセスで使用するポートの番号を、[ポート]フィールドに入力します。
   デフォルトでは、HTTPS 標準ポート「443」が設定されています。
   異なるポート番号を選択する場合は、アドレスは WebUX クライアントに適合させる必要があります:ターミナルにログオンするときは、この番号がブラウザのアドレスバーでサーバー名の後に追加されます。
5. サーバーのデジタル証明書の設定を選択します。
6. Web サイトを仮想ディレクトリとして設定する場合は、より高レベルの Web サイトを選択します。
   WebUX コンフィグレータは、IIS 設定からポート番号および SSL の設定を取得します。
7. [OK]で確認します。
8. 構成が設定されたら、[終了]をクリックします。
9. コンピュータを再起動します。

結果

WebUX サーバーが構成され、WebUX Web サイトが設定されています。

WebUX サーバーにアクセスするには、WinCC プロジェクトをランタイムで有効化する必要があります。

下記も参照

通信:HTTPS 接続用の SSL 証明書 (ページ 516)

http://msdn.microsoft.com/en-US/library/ms751408(v=vs.110).aspx (http://msdn.microsoft.com/de-de/library/ms751408(v=vs.110).aspx)

4.6 WebUX でサポートされるファンクション

4.6.1 WebUX でサポートされるファンクション

WinCC Runtime と比較した場合の制限

WinCC のファンクション範囲と比較して、以下の制限が適用されます:

- 電子署名はサポートされていません。
- コンピュータローカルタグはサポートされていません。
  WinCC タグは常にプロジェクト全体で更新されます。
- タッチ操作は最適化されません。
  しかしながら、WinCC でサポートされている全てのタッチジェスチャを使用できます。
- 全てのオブジェクトまたはプロパティがグラフィックオブジェクトでサポートされるわけではありません。
  (詳細は、「サポートされているファンクション:グラフィックオブジェクト (ページ 526)」を参照してください)
- SVG ライブラリのみがサポートされています。
  シンボルライブラリはサポートされていません。
- 全てのコントロールまたはファンクションが WinCC ActiveX コントロールでサポートされるわけではありません。
  (詳細は、「サポートされているファンクション:WinCC コントロール (ページ 530)」を参照してください)
- ダイナミック化(詳細は、「サポートされているファンクション:ダイナミック化 (ページ 533)」を参照してください):
  - グローバルスクリプト:ANSI-C はサポートされていません。
  - グローバルスクリプト:VBScript は制限付きでサポートされます。
  - ダイナミックダイアログ:複雑な数式またはスクリプトへの制限
  - ダイナミックウィザードによるダイナミック化はサポートされません。

すべてのサポートされていないオブジェクトは、WebUX では表示されません。

下記も参照

WebUX 用の WinCC プロジェクトの構成 (ページ 537)

サポートされているファンクション:WinCC コントロール (ページ 530)

サポートされているファンクション:ダイナミック化 (ページ 533)

サポートされているファンクション:グラフィックオブジェクト (ページ 526)

4.6.2 サポートされているファンクション:グラフィックオブジェクト

WebUX は、ほとんどのグラフィックオブジェクトをサポートします。

インターネットのカスタマーサポートページにあるオブジェクトプロパティのダイナミック化の制限事項に関する追加情報は、エントリ ID=109481796 で参照できます。

- http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796)

すべてのグラフィックデザイナオブジェクトの制限事項

以下の制限事項が、すべての WebUX のグラフィックオブジェクトに適用されます。

印刷機能	サポートされていません。
グループオブジェクト	[ツールヒントテキスト]オブジェクトプロパティはサポートされていません。
カスタマイズオブジェクト	サポートされていません。
標準オブジェクト	線端は点滅しません。
画像/背景画像	次のグラフィックフォーマットはサポートされていません。 • EMF • WMF

事前設定されたテキストリストとグラフィックリスト	サポートされていません。 [テキストとグラフィックスのリスト]エディタのリストに関連付けられたオブジェクトプロパティは、WebUX Runtime ではダイナミック化されません。
フォント	選択された文字セットは、WebUX クライアントで使用可能である必要があります。 これは、文字セットが選択されているすべてのオブジェクトプロパティに適用されます。 Font / FontName / HeaderFont / NavigationPathFont / StatusbarFont 例外: WebUX クライアントは、WebUX サーバーから常に[FontAwesome]および[Siemens Sans]フォントをロードします。

オブジェクトプロパティ

次のオブジェクトプロパティは一般的にサポートされていません。

オブジェクトプロパティ	OLE オートメーション名	コメント
枠線の内側描画	DrawInsideFrame	枠線は、常に境界線の内側に描画されます。
グローバル網掛け	GlobalShadow	網掛けは描画されません。
グローバル色スキーム	GlobalColorScheme	ダイナミック化はサポートされていません。
LocalID プロパティ	LocaleID	
サーバー名	ServerName	
タイムベース	TimeBase	プロジェクトプロパティに関わらず、ローカルタイムゾーンが常に表示されます。
WinCC スタイル	WinCCStyle	オブジェクトは、個々の設定に従ってオブジェクトを表示します。
Windows スタイル	WindowsStyle	

サポートされているグラフィックデザイナオブジェクト

標準オブジェクト	WebUX	サポートされていないプロパティ [1]
「コネクタ」以外のすべてのオブジェクト	はい	「すべてのグラフィックデザイナオブジェクトの制限事項」を参照
コネクタ	いいえ	コネクタは、静的オブジェクト[ライン]と同じように処理されます。線の各端は、それぞれ異なるデザインに指定できます。

スマートオブジェクト	WebUX	サポートされていないプロパティ [1]
アプリケーションウィンドウ	はい	● スクリプト診断にのみ使用できます。「Application」プロパティはサポートされていません。
画像ウィンドウ	はい	● ウィンドウモード(WindowPositionMode) ● モニタ番号(WindowMonitorNumber) ● 独立したウィンドウ(IndependentWindow) ● メニュー/ツールバー設定(MenuToolbBarConfig)
コントロール	いいえ	-
OLE オブジェクト	いいえ	-
入力/出力フィールド	はい	● 新規入力時のクリア(Internet Explorer のみ) ● 全体入力に適用 ● 無効入力でクリア ● 制限されたカーソルの動き(RestrictedCursorMovement)
バー	はい	-
グラフィックオブジェクト	はい	-
ステータス表示	はい	-
テキストリスト	はい	● 最大 512 エントリ
複数行テキスト	はい	-
コンボボックス	はい	● 最大 512 エントリ
リストボックス	はい	● 最大 512 エントリ
フェイスプレートインスタンス	はい	-

スマートオブジェクト	WebUX	サポートされていないプロパティ 1)
.NET コントロール	いいえ	-
WPF コントロール	いいえ	-
3D バー	いいえ	-
グループ表示	いいえ	-
SVG オブジェクト	はい	● シンボルライブラリはサポートされていません。SVG ライブラリはサポートされています。「IndustryGraphicLibrary」SVG ライブラリの V2.0 以降では、SVG ライブラリオブジェクトのダイナミック化もサポートされています。
ステータス表示(拡張)	いいえ	-
アナログ表示(拡張)	いいえ	-
DataSet オブジェクト	いいえ	-

Windows オブジェクト	WebUX	サポートされていないプロパティ 1)
すべてのオブジェクト	はい	「すべてのグラフィックデザイナオブジェクトの制限事項」を参照
スライダオブジェクト	はい	● 上限色(HighLimitColor) ● 下限色(LowLimitColor)

チューブオブジェクト	WebUX	サポートされていないプロパティ 1)
すべてのオブジェクト	はい	「すべてのグラフィックデザイナオブジェクトの制限事項」を参照

1) すべてのグラフィックデザイナオブジェクトの制限事項は再びリスト表示されません。

下記も参照

WebUX でサポートされるファンクション (ページ 525)

サポートされているファンクション:WinCC コントロール (ページ 530)

http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796)

4.6.3 サポートされているファンクション:WinCC コントロール

WinCC ActiveX コントロール

ほとんどの ActiveX コントロールは、WebUX で Web コントロールとして実行可能です。

個別のコントロールの制限事項は下記にリスト表示されています。

WinCC ActiveX コントロール	WebUX コントロール	制限事項 1)
WinCC AlarmControl	WinCC Alarm Web Control	はい
WinCC OnlineTableControl	WinCC OnlineTable Web Control	はい
WinCC OnlineTrendControl	WinCC OnlineTrend Web Control	はい
WinCC FunctionTrendControl	WinCC FunctionTrend Web Control	はい
WinCC RulerControl	WinCC Ruler Web Control	はい
WinCC Slider Control	WinCC Slider Control	はい
WinCC Digital/Analog Clock Control	WinCC Digital/Analog Clock Control	はい
WinCC Gauge Control	WinCC Gauge Control	はい
WebBrowser Control	WebBrowser Control	はい
サポートされない WinCC コントロール:		
WinCC BarChartControl	-	
WinCC Media Control	-	
WinCC SysDiagControl	-	
WinCC UserAdminControl	-	
WinCC UserArchiveControl	-	
WinCC Channel Diagnosis Control	-	
Siemens HMI Symbol Library	-	

1) すべてのグラフィックデザイナオブジェクトの制限事項は再びリスト表示されません(サポートされているファンクション:グラフィックオブジェクト (ページ 526)を参照)。

WebUX の ActiveX コントロール:制限事項

次の制限事項が Web コントロールに適用されます。

インターネットのカスタマーサポートページにあるオブジェクトプロパティの制限事項に関する追加情報は、エントリ ID=109481796 で参照できます。

- http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796)

制限事項が適用されるコントロール	サポートされないファンクション
すべての WinCC コントロール	● オブジェクトイベント
WinCC Alarm Web Control WinCC OnlineTable Web Control WinCC OnlineTrend Web Control WinCC FunctionTrend Web Control WinCC Ruler Web Control	● ランタイムデータのエクスポート ● ツールバーでのキーファンクションのオペレータ認証 ● ランタイムでのツールバーのキーファンクションの設定 ● 印刷機能 ● VBScript:メソッドなし ● ランタイムでのオンライン設定:可能ですが、永続的ではありません
WinCC OnlineTrend Web Control WinCC FunctionTrend Web Control	● トレンドの選択
WinCC OnlineTrend Web Control	● ユーザースケーリング ● トレンド表示: – トレンドタイプ[表示値] – 不確定なステータスがある値の色コード
WinCC FunctionTrend Web Control	● ユーザーアーカイブからのデータ

制限事項が適用されるコントロール	サポートされないファンクション
WinCC Alarm Web Control	● メッセージブロック – 夏時間/標準時間 – アーカイブ – ロギング – クラス優先度 – 周波数 – 合計 +/-、合計 +/*1、合計 +/*2、合計 +/+ – 平均 +/-、平均 +/*1、平均 +/*2、平均 +/+ – プロジェクト設定を適用 ● 中央信号デバイスの確認 ● ランタイムでのフィルタの設定 ● ランタイムでのロックリストの設定 ● 表示されるメッセージのユーザー定義によるソート ● 長期アーカイブリストのページ送り ● 各[クラス]、[タイプ]、[日付]および[時刻]列の内容が、1 列の共通列に表示されます。 ● AlarmControl におけるメッセージフィルタ処理用 SQL ステートメント
WebBrowser Control	● HTTPS 接続のみが可能です。 詳細情報は、「Web ブラウザコントロールのファイルを表示」を参照してください。 ● URL を特定するための参照ダイアログは提供されません。 ● Web ブラウザに応じて、サポートされていないボタンおよびファンクションはグレーアウトされています。
WinCC Slider Control	-
WinCC Digital/Analog Clock Control	-
WinCC Gauge Control	● 内フレーム(BevelInner) ● 外フレーム(BevelOuter) ● フレーム幅(BevelWidth) ● 境界線の幅(BorderWidth)

Web ブラウザコントロールのファイルを表示

Web ブラウザコントロールのファイルを表示するには、これらのステップに従います。

1. 以下のパスのサブフォルダにファイルを保存します。
   – C:\inetpub\wwwroot\siemens\WebRH\public\<フォルダ>
2. Web ブラウザコントロールで次の呼び出しを使用します。
   – https://<サーバー名>/<フォルダ>/<ファイル名>

例

PDF ファイル「WinCC.pdf」は、サブフォルダ「WebUXFiles」にあります。

- C:\inetpub\wwwroot\siemens\WebRH\public\WebUXFiles

次の URL を使用して呼び出します。

- https://localhost/WebUXFiles/WinCC.pdf

注記

「パブリック」フォルダにはアクセス制限はありません

「C:\inetpub\wwwroot\siemens\WebRH\public」フォルダのファイルはすべてのユーザーがアクセス可能であることに注意してください。

WinCC 認証は、このフォルダのファイルへの影響はありません。

下記も参照

WebUX でサポートされるファンクション (ページ 525)

http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796)

4.6.4 サポートされているファンクション:ダイナミック化

スクリプトおよびダイナミックダイアログを介したダイナミック化

WebUX は、次のダイナミックが設定されたグラフィックオブジェクトをサポートします。

- トリガ
- タグ接続
- ダイナミックダイアログ
  ダイナミックダイアログを介したダイナミックは VBScript に変換されます。

- アニメーション
- 直接接続
- VBS アクション

制限事項

以下の制限が、ダイナミック化に適用されます。

- [フォーカス変更]イベントの動作は、WinCC Runtime の動作とは異なります。
- ダイナミックダイアログ:
  複雑な数式やスクリプトはサポートされていません。
- VBScript:
  - スクリプトは、MS Excel などの対話型アプリケーションを開くことができませんでした。
    この機能はオペレーティングシステムの制限によって無効かされています。
  - WebUX Web コントロールは、メソッドをサポートしません。
    その代わり、割り付けられたインデックスを介してコントロールのエレメントのアドレスを指定します。
  - 以下のメソッドはサポートされていません。
    - 「item.Activate」: 画像または画像要素を有効にする
    - 「HMIRuntime.Stop」: WinCC Runtime を終了する
    「HMIRuntime.Stop」の代わりに、WebUX ログインのダイアログを使用します。
  - [アニメーションサイクル]トリガを介したアニメーションのトリガはサポートされていません。
  - 「MsgBox」ファンクションを使用したメッセージフィールドの呼び出しは抑制されます。(Messagebox)
  - VBS オブジェクト「DataSet」は、たとえば、「BOOL」、「DOUBLE」、「LONG INT」などのスカラデータタイプを使用したグローバルタグのみを含むことができます。
    「VARIANT」や Excel 表などの OLE 自動データタイプは処理されません。
  - 一部のオブジェクトプロパティは、ダイナミックにすることができないか、異なる値フォーマットを使用します。
    インターネットのカスタマーサポートページにあるこれに関する追加情報は、エントリ ID=109481796 を参照できます。
    http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796)
- ANSI-C:
  C アクションはサポートされていません。
- ダイナミックウィザード:
  ダイナミックウィザードによるダイナミック化はサポートされません。

注記

スクリプトは、常に WebUX サーバー上で実行します。

スクリプトは、WebUX クライアント上でローカルには実行されません。WinCC クライアント上でローカルに実行されるスクリプトは、WebUX を介してアクセスしている場合は、WebUX サーバー上で実行されます。

これは、次の係数が WebUX サーバーのパフォーマンスに影響する可能性があることを意味しています。

- スクリプトの実行数
- サーバーにアクセスする WebUX クライアント数

必要な場合は、WebUX 用に保存されるプロセス画面のスクリプトを減らします。

ダイナミックダイアログによるダイナミック化

ダイナミックダイアログの設定は、Web ブラウザでの表示用に VBScript に変換されます。複雑な数式またはスクリプトへの制限はここに適用されます(詳細 (ページ 543))。

変換は、プロセス画像を保存するときに自動的に実行されます。

設定を実装できない場合、オブジェクトおよびダイナミックプロパティが出力ウィンドウにリスト表示されます。

ここで、メッセージからプロパティにジャンプし、ダイナミックダイアログを調整できます。

注記

スクリプト調整は、ダイナミック化を上書きします。

VBScript でダイナミック化を調整する場合、ダイナミックダイアログのダイナミック化が上書きされます。

その後、WinCC Runtime でプロセス画像を変更して表示することができます。これは、WinCC クライアントおよび WinCC サーバーの制限事項にも適用されます。

手順

1. グラフィックデザイナの出力ウインドウにリストされているオブジェクトプロパティをダブルクリックします。
   またはプロセス画像でオブジェクトを選択します。
2. メッセージにリスト表示されているダイナミックプロパティのショートカットメニューを開きます。

3. [VBS アクション]エントリを選択します。
   メッセージは、変更がプロパティのダイナミック化用に恒久的に保存されることを示します。
   メッセージが確認された後、[VB アクションの編集]エディタが開きます。
   スクリプトコメントには、自動的に変更されない数式に関する詳細情報が含まれます。
4. スクリプトをチェックし、変更内容を保存します。
   スクリプトを保存せずにエディタを閉じるとき、ダイナミックダイアログを介してオリジナルのダイナミック化が保持されます。

下記も参照

WebUX でサポートされるファンクション (ページ 525)

http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796 (http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/109481796)

4.7 WebUX 用の WinCC プロジェクトの構成

はじめに

WinCC/WebUX をターミナルデバイスで使用するには、WinCC プロジェクトを以下のように設定する必要があります。

- WebUX ユーザーが設定されている。
- プロセス画像が Web での表示に最適化されている。

注記

Windows 10:WebUX クライアントの制限数

Windows 10 の IIS は最大 10 の接続またはインスタンスをサポートします。

WebUX は、クライアントのために 2 つ以上の接続を必要とします。

したがって、最大 3 つの WebUX クライアントが WebUX サーバーに接続できます。この数を超えると、既に接続しているインスタンスを操作できなくなります。

- 複数の WebUX クライアントのある Web アプリケーションのためのサーバーオペレーティングシステムを使用します。

WebUX ユーザーの設定

また SIMATIC Logon 経由でユーザーおよびユーザーグループをセットアップおよび管理できます。

しかしながら、WinCC ユーザー管理者で WebUX サーバーにアクセスするために、必ず設定を構成する必要があります。

詳細は、WinCC 情報システムの以下の項目を参照してください。

- [ユーザー管理の構造] > [管理ユーザー] > [Web アクセスのための管理ユーザー]

自動ログイン

次のユーザーの自動ログインを設定できます。

- モニタユーザー役割
  認証レベル 1002 [Web アクセス - モニタリングのみ]を持つユーザー
- オペレータユーザー役割
  WebUX プロジェクトを制御することが承認されているユーザー

初めて WinCC/WebUX にログインするとき、ログインデータを保存する設定を有効にします。

ユーザー名とパスワードは、次回のログイン時に自動的に入力されます。

電子署名:リリースされていない

重要な操作に対する保護として、電子署名を WinCC/WebUX と一緒に使用することはできません。

WebUX のためのプロセス画像の調整

WebUX で表示を設定するには、プロセス画像の[Web 選択済み]オブジェクトプロパティを選択します。

- プロセス画像は、さらに「*.json」フォーマットで保存されます。
- フェースプレートタイプは、さらに「*.jsof」フォーマットで保存されます。

ただし、WinCC エクスプローラでは、「*.pdl」または「*.rdf」フォーマットのプロセス画像またはフェースプレートのみが表示されます。

Web 対応のプロセス画像およびフェースプレートは、[グラフィックデザイナー]エディタのデータエリアにおいてマークされています。

- [タイプ]列には追加コメント(Web 対応)が含まれています。
- [名前]列のシンボルの背景は暗いです。

プロセス画像の点検

プロセス画像を Web 選択済みとして保存する場合は、画像とオブジェクトのプロパティが点検されます。

結果はグラフィックデザイナの出力ウィンドウに表示されます。以下のオプションを必ずオンにしてください。[ツール] **>** [設定]**>** [オプション] **>** [パフォーマンス警告の表示]

メッセージには、各プロセス画像のために Web 選択済みとして保存されていないグラフィックオブジェクトのリストが含まれます。出力ウィンドウでエントリをダブルクリックしてオブジェクトを編集します。

WebUX Runtime には Web 選択済みのオブジェクトのみが表示されます。

追加情報:

- WebUX でサポートされるファンクション (ページ 525)

WebUX を使用するための WinCC プロジェクトの構成

1. グラフィックデザイナの中で Web ブラウザに実行可能としてプロセス画像を設定します。
   - [その他]グループの中の[Web 選択済み]オブジェクトプロパティのために[はい]を選択します。
   - プロセス画像を保存します。
   - 必要に応じて、出力ウィンドウのメッセージを点検します。
2. WinCC ユーザー管理者での WebUX ユーザーの設定
   - プロパティの[WebUX]オプションを有効にします。
   - [Web 選択済み]として保存しているプロセス画像のリストから開始画像を選択します。
   - ランタイム言語を選択します。
     ランタイム言語は、ターミナルで変更できません。
   - ユーザーを読み取り専用アクセスに限定するべき場合は、認証レベル 1002「Web アクセス ー モニタリングのみ」を選択します。
   - 保証済みアクセスをそのユーザーに予約するべき場合は、[ライセンスの予約]オプションを有効にします。

専用 WebUX サーバーの設定

WinCC/WebUX で、WebUX クライアントの集中型データ供給源として専用 Web サーバーを使用できます。

必要条件

- WinCC/WebUX を専用 WebUX サーバーにインストールしておかなければなりません。
- WebUX 開始画像は、専用 WebUX サーバーでローカルに使用可能にする必要があります。
- 追加のプロセス画像は、開始画像の中の画像ウィンドウを介してのみ呼び出すことができます。
  [画像ウィンドウ]オブジェクトの以下のオブジェクトプロパティを設定します。
  - [画像名(PictureName)]:
    サーバー接頭語のない画像名を設定します。
  - [サーバー接頭語(ServerPrefix)]:
    専用 WebUX サーバーのためのサーバー接頭語を設定します。

WinCC/WebNavigator のマニュアルで専用 Web サーバーの使用の詳細を確認してください。

- [WinCC/WebNavigator で可能なアプリケーション] > [専用 Web サーバー]

下記も参照

WebUX でサポートされるファンクション (ページ 525)

4.8 WebUX の使用方法

はじめに

端末で WinCC/WebUX を使用するには、WebUX サーバーのネットワークにアクセスできる Web ブラウザを使用するだけです。

注記

WebUX サーバー上の Windows 10:WebUX クライアントの制限数

Windows 10 の IIS は最大 10 の接続またはインスタンスをサポートします。

WebUX は、クライアントのために 2 つ以上の接続を必要とします。

したがって、最大 3 つの WebUX クライアントが WebUX サーバーに接続できます。この数を超えると、既に接続しているインスタンスを操作できなくなります。

- 複数の WebUX クライアントのある Web アプリケーションのためのサーバーオペレーティングシステムを使用します。

ヒント:ランタイム時の操作

- ブラウザを終了する前に、割り付けられたライセンスを開放するためにセッションを閉じます。
- とりわけモバイルデバイスを使用するときは、ブラウザを閉じて、消費電力と転送されるデータ量を減らしてください。
  ブラウザでプロセス画像が開いている限り、その表示が常時更新されます。
- セッションが終了するので、以下のオペレータ入力は避けてください。
  - ブラウザナビゲーション(戻る/次へ)
  - Web ページの再読み込み(更新または<F5>)

必要条件

- 「WinCC WebUX」ライセンスが WebUX サーバーにインストールされていること。
- WinCC プロジェクトが WebUX のために設定されていること。
- WinCC プロジェクトがランタイムであること。

手順

1. ブラウザのアドレスバーへ移動し、WebUX サーバーのアドレスを入力します。
   – https://<サーバー名>
   デフォルトのポートを使用しない場合は、ポート番号を URL に追加します:
   – https://<サーバー名>:<ポート番号>
   Web サイトの代わりに仮想フォルダを使用している場合は、仮想 Web フォルダの名前を追加します:
   – https://<servername>/<directoryname>
2. ユーザー名とパスワードを入力します。

結果

ユーザーの権限によっては、WinCC プロジェクトを観察または操作することができます。

4.9 付録

4.9.1 表現/式に関するダイナミクスダイアログの制限事項

WinCC/WebUX のプロセス画像を保存するとき、ダイナミクスダイアログのダイナミック化が VBScript に変換されます。

変換中には、複雑な式や公式は変換されません。影響を受けたダイナミック化を VBScript として開くとき、グローバルスクリプトエディタに詳細情報が表示されます。

以下の演算子および式は規則として変換されません。

- C ファンクション付きの式
- 割り付け演算子: ^= %= /= &= |= += -= *=
- ビット演算子: & | ^ ~
- 追加演算子: << >> ? : ++ -- /
- 式がカッコの中にある場合の論理演算子: (&& || !)
- 「アナログ」データタイプの論理演算子: (&& ||)
- 「ブール型」データタイプに属するプロパティの「直接」データ・タイプの論理演算子: (&& ||)

==========

WinCC/Cloud Connector 5

5.1 WinCC/Cloud Connector

Cloud Connector の動作方法

WinCC/Cloud Connector を使用すると、WinCC ステーションからクラウドに自動的にタグを転送できます。

より詳細な分析のためにクラウドに保存されたデータを使用したり、ダッシュボードなどを介して、タグ値を出力することができます。

Message Queue Telemetry Transport (MQTT)

Cloud Connector は、タグ値の転送に、MQTT プロトコルを使用します。

中央サーバーである MQTT ブローカがデータ転送に使用されます。

送信デバイスと受信デバイス間のデータ転送は、MQTT ブローカを介して排他的に実行されます。

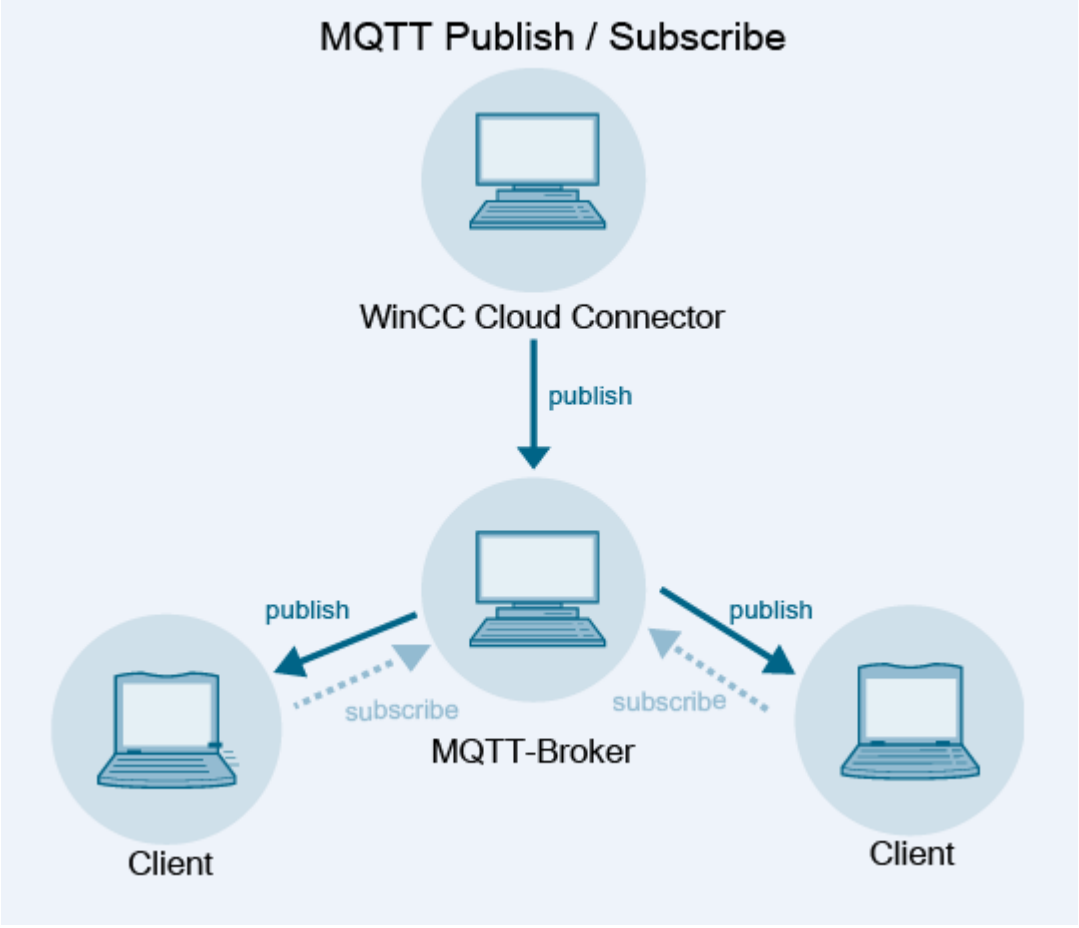
Cloud Connector を使用したデータの送信のみが可能です。データは、WinCC では受信されません。

MQTT プロトコル

MQTT プロトコルに関する追加情報を参照できます:

- https://mqtt.org/ (https://mqtt.org/)

MQTT による通信



クラウドプロバイダ

WinCC/Cloud Connector は、MQTT ブローカとして次のプロバイダをサポートします:

- Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension
- Amazon: AWS
- Microsoft: Azure
- 汎用 MQTT

通信のセキュリティを向上するため、証明書ハンドシェイクによって暗号化された接続を使用します。

5.2 ライセンシングクラウドコネクタ

ライセンス

WinCC/Cloud Connector 用に別個のライセンスが必要です:

- SIMATIC WinCC Cloud Connect

ライセンスなしでは、テスト目的で最大 5 つのタグを転送できます。

5.3 MQTT を経由したクラウドへのデータ転送

クラウドプロバイダ

データは、Cloud Connector 経由で、MQTT プロトコルを使用して書き込まれます。

次のクラウドプロバイダが現在サポートされています。

- Amazon Web Services (MQTT)
- Microsoft Azure (MQTT)
- Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)

CCCloudConnect サービス

Windows サービス CCCloudConnect は、WinCC プロジェクトとクラウドシステム間の接続を確立するために使用されます。

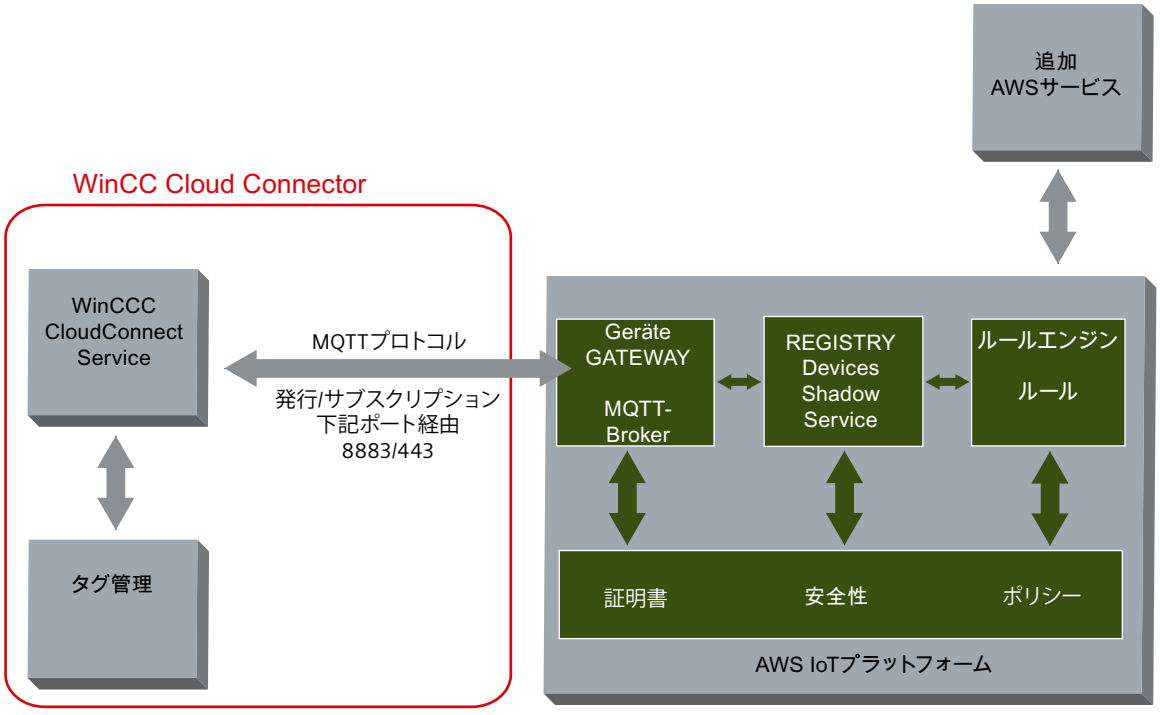
CCCloudConnect サービスは、標準ポート 8883 または 443 からデータを送信するために、クラウドの MQTT ブローカに接続する MQTT クライアントです。

WinCC では、CCCloudConnect サービスは、WinCC タグの値の変更をログ記録します。値はクラウドに書き込まれます。

CCCloudConnect がタグ管理からの値の変化を受信した場合、サービスがメッセージを作成します。サービスは、MQTT ブローカにこのメッセージを転送します。

例:WinCC/Cloud Connector および AWS-MQTT

次の図は、Cloud Connector と AWS プラットフォーム間のデータ転送を表示しています。



MQTT トピック

命名規則

MQTT ブローカに送信される各タグに対して、個別の MQTT トピックが作成されます。

ブローカからこのトピックを受信したいすべてのクライアントは、トピックを認識している必要があります。

WinCC タグの命名規則は次のとおりです。

- <ステーション名>/<WinCC プロジェクト名>/<タグ名>

これらの値を受信することを希望する MQTT のクライアントは、適切なパスのある MQTT トピックに登録する必要があります。

Cloud Connector 設定でデフォルトステーション名「WinCC」を変更できます。

MindSphere の MQTT トピック

プロバイダ「Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension」を選択するとき、WinCC からタグ名を適用します。

ステーション名として、MindSphere からデバイス名を使用します。

例

WinCC プロジェクトが「MyWinCCProject」という名前で作成されています。

WinCC プロジェクトでクラウドに対して「MyTag1」と「MyTag2」という名前の 2 つのタグが有効にされます。

CCCloudConnect は、これら 2 つのタグに対して次の MQTT トピックを送信します:

- WinCC/MyWinCCProject/MyTag1
- WinCC/MyWinCCProject/MyTag2

MindSphere の例

デバイスが「WinCCStation1」という名前で作成されています。

「MyTag1」および「MyTag2」タグは、デバイス「WinCCStation1」上で最初に転送された後に表示されます。

クラウドへのデータ転送:キュー

Cloud Connector 経由でのデータ転送中、メッセージは、キュー原則に従って送信されます。

最初に追加されるメッセージが最初に送信されます。

データタイプ

ほとんどのデータタイプが転送用に許可されています。

例外

- 構造化されているデータタイプはサポートされていません。例: STRUCT や ARRAY。
- 追加の制限はそれぞれのクラウドプロバイダにより異なります。

タグタイプ[日付/時間]

[日付/時間]タグタイプのフォーマットは、使用されるクラウドに依存しています。

MindSphere のタグタイプ

MindSphere では、以下のデータタイプは WinCC タグに対してサポートされません。

- テキストタグ、8 ビットフォント
- テキストタグ、16 ビットフォント
- テキスト参照
- 日付/時刻

タイムスタンプ

タイムスタンプは WinCC ステーションによって生成され、クラウドに送信されます。

クラウドプロバイダは、タイムスタンプに対して協定世界時(UTC)を使用します。

WinCC Runtime の無効化

WinCC Runtime を無効にすると、クラウドへの接続も終了します。

クラウドに送信された最後のメッセージは、診断ファイル「CCCloundConnect.log」に保存されます。

下記も参照

WinCC クラウドコネクタでの設定 (ページ 554)

クラウド接続の診断 (ページ 564)

WinCC タグ管理での設定 (ページ 552)

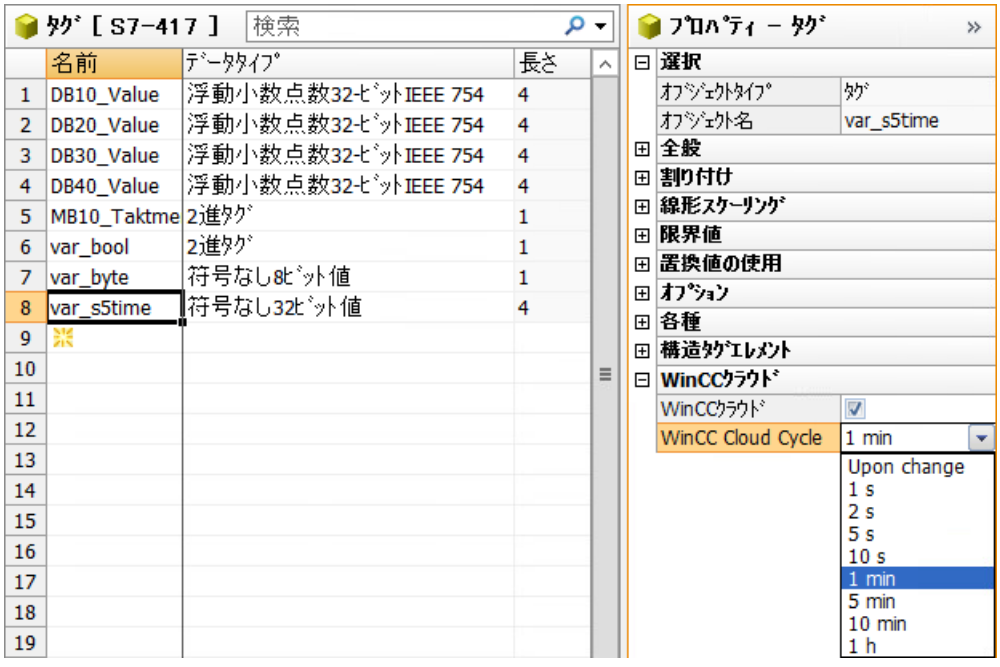
5.4 WinCC タグ管理での設定

WinCC タグ管理では、転送されるタグを指定します。

すべてのタグタイプがすべてのクラウドプロバイダによってサポートされるわけではないことに注意してください。制限事項に関する情報は、「MQTT を経由したクラウドへのデータ転送 (ページ 548)」を参照してください。

クラウド転送の有効化

タグをクラウドに送信するには、タグ管理で[WinCC クラウド]オプションを有効にし、取得サイクルを選択します。



サイクルタイムを設定する

「WinCC クラウドサイクル」は、クラウドに転送される各タグに対して個々に設定することができます。

この設定は、WinCC タグロギングのサイクルタイム設定に相当します。

- サイクルタイムに対して何の設定も行わない場合、1 分のサイクルが初期設定として使用されます。
- 可能な最短のサイクルタイムは 1 秒です。
- サイクルタイムに対して、タグサイクルのリストから、[値の変更時]または固定値を選択します。
  - 1 / 2 / 5 / 10 秒
  - 1 / 5 / 10 分
  - 1 時間

注記

ODK / VBA

サイクルタイムは、VBA または ODK 経由で変更できません。

下記も参照

MQTT を経由したクラウドへのデータ転送 (ページ 548)

WinCC クラウドコネクタでの設定 (ページ 554)

クラウド接続の診断 (ページ 564)

5.5 WinCC クラウドコネクタでの設定

はじめに

[WinCC クラウドコネクタ設定]ダイアログボックスで、使用されるクラウドの URL およびアクセス設定を構成します。

クラウドプロバイダ

[汎用 MQTT]またはプロバイダを選択します。

次のプロバイダがサポートされます。

- Amazon Web Services (MQTT)
- Microsoft Azure (MQTT)
- Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)

アプリケーションの例

多様なクラウドプロバイダに対してデータ接続を設定する方法の詳細な例については、インターネットで参照できます:

- アプリケーション例 109760955:「クラウドの WinCC データ接続 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109760955)」

ブローカアドレス

MQTT クラウドの終了ポイントです。

MQTT ブローカアドレスは、クラウドプロバイダによって使用可能です。

ブローカポート

標準ポートがサポートされています。

- 8883
- 443

ステーション名

クライアントに一意の名前を指定します。

タグ転送中に、クライアントの名前が、MQTT トピックのパスとして使用されます。

MindSphere のステーション名

プロバイダ「Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)」を使用するとき、ステーション名がデバイス名として使用されます。

MindSphere でデバイスを登録するとき、名前がデバイス ID として指定されます。

変更された値のみを送信

このオプションを選択すると、変更されたデータのみがクラウドに送信されます。

CA 証明書

クラウドプロバイダからの CA 証明書を取得できます。「CA」は、「認証局」を表します。

WinCC ステーション上に証明書をローカルに保存します。

WinCC デフォルトパス:

- \Program Files (x86)\Siemens\WinCC\CloudConnector\Certificate

AWS 証明書

Amazon Web Services は、AWS IoT によって生成される証明書または CA 認証のある証明書を使用してデバイスを識別します。

AWS IoT 証明書は、次の CA 証明書によって署名されます。

- RSA 2048 bit key: VeriSign Class 3 Public Primary G5 root CA certificate
- RSA 2048 bit key: Amazon Root CA 1
- RSA 4096 bit key: Amazon Root CA 2
- ECC 256 bit key: Amazon Root CA 3
- ECC 384 bit key: Amazon Root CA 4

AWS IoT サーバー証明書でデバイスを認証するには、AWS は、WinCC ステーションに 5 つの証明書をすべてインストールすることをお勧めします。

Azure 証明書

Microsoft Azure クラウドは、一時的な証明書を使用します。

MindSphere 証明書

MindSphere の CA 証明書は、WinCC のインストール中にインストールされます。

プロバイダ「Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)」を選択するとき、[安全設定]エリアが非表示になります。

MindSphere に接続するための[登録]ボタンが表示されます。

クライアント証明書

クラウドプロバイダから受け取った証明書を WinCC ステーション上にローカルに保存します。

証明書には、次のファイル拡張子があります。

- .cer
- .crt
- .pem

入力フィールドに、証明書へのパスを入力します。

- \Program Files (x86)\Siemens\WinCC\CloudConnector\Certificate

MindSphere 証明書

プロバイダ「Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)」を選択するとき、[安全設定]エリアが非表示になります。

クライアントキー

クラウドプロバイダからクライアント/デバイスキーを取得します。キーを WinCC ステーションにローカルに保存します。

クライアント/デバイスキーのファイル拡張子は「.key」です。

入力フィールドに、クライアントキーへのパスを入力します。

- \Program Files (x86)\Siemens\WinCC\CloudConnector\Private

MindSphere 証明書

プロバイダ「Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)」を選択するとき、[安全設定]エリアが非表示になります。

登録/登録解除

このフィールドは、プロバイダ「Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)」を選択したときにのみ表示されます。

[登録]ボタンは、MindSphere のデバイス登録を開始します。

登録に成功した後、このボタンはグレーアウトされ、[登録解除]ボタンが代わりに有効になります。

WinCC ステーションの設定を変更するには、[登録解除]をクリックします。デバイスは引き続き MindSphere で作成され、既存のデータが保持されます。

ユーザー名/パスワード

このフィールドは、プロバイダ「Siemens MindSphere - MindConnect IoT Extension (MQTT)」を選択したときにのみ表示されます。

ユーザー名およびパスワードは、MindSphere の登録中に指定され、Cloud Connector に表示されます。

MindSphere のパスワードを変更するとき、Cloud Connector で新しいパスワードを適用する必要があります。

下記も参照

MQTT を経由したクラウドへのデータ転送 (ページ 548)

クラウド接続の設定を指定します。 (ページ 559)

クラウド接続の診断 (ページ 564)

WinCC タグ管理での設定 (ページ 552)

適用例:クラウドへの WinCC データ接続 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109760955)

5.6 クラウド接続の設定を指定します。

はじめに

[WinCC クラウドコネクタ設定]ダイアログボックスで使用される、クラウドの URL およびアクセス設定を指定します。

ランタイムの設定

プロジェクトを有効化するときに Cloud Connector を実行する WinCC Runtime には、[Cloud Connector]アプリケーションが有効化される必要があります。

アプリケーションが無効化される場合、クラウドコネクタサービスはランタイムで実行されません。

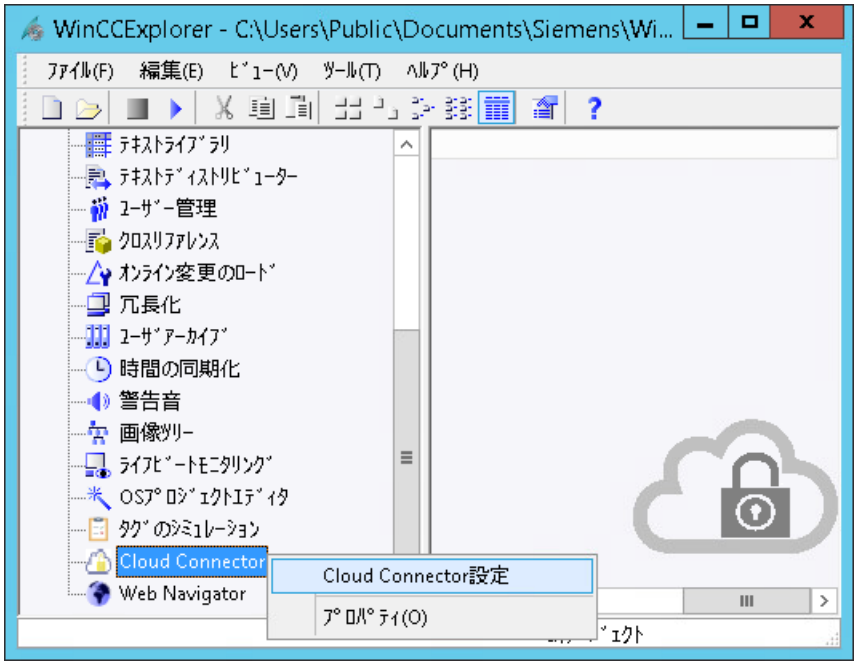
アプリケーションの例

多様なクラウドプロバイダに対してデータ接続を設定する方法の詳細な例については、インターネットで参照できます:

- アプリケーション例 109760955:「クラウドの WinCC データ接続 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109760955)」

手順

1. WinCC エクスプローラを開きます。
2. [クラウドコネクタ]のショートカットメニューで、[クラウドコネクタ設定]エントリを選択します。



[WinCC クラウドコネクタ設定]ダイアログボックスが開きます。

3. 接続データを指定します。

4. 接続設定をテストするには、[接続のテスト]ボタンをクリックします。
5. [OK]を押してダイアログボックスを閉じます。
6. WinCC エクスプローラのコンピュータ名のショートカットメニューで、[コンピュータプロパティ]ダイアログボックスを開きます。
7. [スタートアップ]タブで[クラウドコネクタ]アプリケーションが選択されていることを確認します。
8. [OK]を押してダイアログボックスを閉じます。

MindSphere に対する設定の指定

Siemens MindSphere (MindConnect IoT Extension)に接続しているときに、WinCC と一緒にインストールされた CA 証明書が使用されます。

追加の認証のため、MindSphere は、ユーザー名およびパスワードを作成します。

手順

1. [WinCC クラウドコネクタ設定]ダイアログボックスで接続データを指定します。
   - クラウドプロバイダ[MindSphere (MindConnect IoT Extension)]
   - ブローカアドレス
   - ステーション名
   - 必要に応じて、[変更済み値のみ送信]オプション

   デフォルトポート 8883 は、変更できません。

2. ブラウザで MindSphere 設定を開き、[MindConnect IoT Extension]のエディタに切り替えます。
   [デバイス]でデバイス登録を選択します。
3. 新しいデバイスを作成するには、ステーション名を入力します。
   MindSphere の Cloud Connector のステーション名およびデバイス名が一致する必要があります。
   WinCC ステーションがデバイスとして作成されます。
   [接続の待機]ステータスが表示されます。
4. [WinCC クラウドコネクタ設定]ダイアログボックスを開き、[登録]ボタンをクリックします。
5. MindSphere ブラウザウィンドウに戻ります。
   登録を完了するには、[承諾]をクリックします。
   登録が承諾されている場合、[登録]ボタンが Cloud Connector でグレーアウトされます。
   [登録解除]ボタンが有効になります。
   有効なユーザー名が表示されます。

下記も参照

WinCC クラウドコネクタでの設定 (ページ 554)

MQTT を経由したクラウドへのデータ転送 (ページ 548)

適用例:クラウドへの WinCC データ接続 (https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109760955)

5.7 クラウド接続の診断

はじめに

WinCC は、パフォーマンスタグの診断およびログファイルのメッセージの出力をサポートします。

パフォーマンスタグのリセット

システムタグ「@PRF_CLDCN_RESET」を使用して、関連するカウンタタグの値をリセットします。

値が「0」から「1」に変化する場合、他のすべての[@PRF_CLDCN_...]システムタグも「0」に設定されます。

接続監視用のシステムタグ

WinCC には、WinCC プロジェクトを分析するために「@PRF_...」システムタグがあります。

パフォーマンス分析のシステムタグは、WinCC タグ管理の内部タググループ[パフォーマンス]にあります。

次のタグが接続のパフォーマンスを評価します。

システムタグ	説明
@PRF_CLDCN_TAG_FAILED_WRITES_TOTAL	クラウドによって確認されなかった転送タグ数
@PRF_CLDCN_TAG_WRITES_PER_SECOND	1 秒ごとの転送されるタグ数
@PRF_CLDCN_TAG_WRITES_TOTAL	接続を経由して転送されるタグの合計数

診断ファイル

「CCCloudConnect.log」ファイルが、「診断」フォルダの WinCC インストールパスに作成されます。

下記も参照

MQTT を経由したクラウドへのデータ転送 (ページ 548)
WinCC クラウドコネクタでの設定 (ページ 554)
WinCC タグ管理での設定 (ページ 552)

索引

@

@接頭辞付きのタグ, 94

A

ActiveX コントロール, 81, 280
    Internet Explorer での表示, 68

C

CAL, 96
CCAgent, 31
CCCloudConnect サービス, 548

D

DataMonitor, 307, 388
    Webcenter, (Webcenter を参照)
    アーカイブコネクタ, (アーカイブコネクタを参照)
    インストールの必要条件, 102
    クライアント, (DataMonitor クライアント参照)
    クライアントの起動, 327, 421
    スタートページ, 327, 421
    データベースアクセス, 439, 443
DataMonitor Webcenter, (Webcenter を参照)
DataMonitor クライアント, 102, 105
    インストール, 105, 108
    開始, 327, 421
DataMonitor サーバー, 102
    インストール, 108
DCF ファイル
    作成, 80
DCOM 設定, 65
DHCP サーバー, 70

E

Excel テンプレート
    データの発行, 367, 497
Excel ワークブック, 343, 393, (Excel ワークブックを参照)
    VBA 関数, 496
    XML ファイルを使用したアクセス, 343, 393
    アラーム属性, 495
    オンラインアクセス, 343, 393
    プロセスデータオンラインの表示, 363, 492
    プロセスデータ表示の構成, 349, 352, 356, 478, 481, 485
    レポートツールとして使用できるようにする, 369, 499
    接続ステータス, 363, 492
Excel ワークブックウィザード, 344, 349, 352, 356, 474, 478, 481, 485, 495

I

IIS, (インターネット インフォメーション サービスを参照), (インターネットインフォメーションサービスを参照)
Internet Explorer, 22, 68, 116, 148, 264
    ActiveX コントロールの表示, 68
    セキュリティの設定, 137, 191, 325, 419
IP アドレス, 70
ISDN ルーター, 70

M

Microsoft SQL Server, 29, 69
Microsoft SQL Server 2014, 12, 14, 54
Microsoft メッセージキュー, 43, 96
    MSMQ Server, 43, 96
MQTT, 545
MSMQ Server, 43, 96
MS メッセージキュー, 43, 96

N

Netware, 65
    Novell Netware クライアント, 65
Notebook, 70
Novell Netware クライアント, 65

O

OPC, 84
    Historical Data Access, 85
    XML Data Access, 85
OPC A&E, 86
    OPC ソース, 86
OPC A&E サーバー, 86

OPC UA
通信に関する情報, 88
未処理データタグ, 88
OPC_E_MAXEXCEEDED, 85
OPC チャンネル, 208

P

PDF ファイル, 9, 366, 394
PdlPad, 220, 317, 401
Plug-In Builder, 280
プラグインを作成して、ダウンロードできるようにする, 282

R

RAS, 70
RDP, 90

S

S5 PROFIBUS DP
通信に関する情報, 88
S7 Protocol Suite, 87
AR_SEND での時間変更, 87
通信に関する情報, 87
S7DOS, 87
SIMATIC 505 TCPIP
通信に関する情報, 89
SIMATIC HMI, 34, 38, 39, 40
ユーザーグループ, 34
SIMATIC Logon, 235
SIMATIC Manager
ユーザー権限, 34
SIMATIC セキュリティコントローラ, 44
SIMATIC レポートユーザー, 309, 412, 429
SIMATIC レポート管理者, 309, 412, 429
SQL マスタデータベース, 69

T

TCP/IP プロトコル, 70

U

UPS, 70

V

VBA, 83
Visual Basic スクリプト
WebNavigator での使用, 256

W

Web Configurator
ファイアウォールの設定, 188, 246, 316, 418
Web Navigation インターフェース, 266
Web View Publisher, (WebPublisher を参照)
Webcenter, 378, 390
アーカイブのリンクおよび切断, 439
スタティックプロセス画像,
ディレクトリへのアクセス権, 433
テンプレートファイル, 380, 449
ユーザー管理, 429
レイアウトテンプレート, 380, 449, 459
Webcenter ページ
webpart の挿入, 385, 454
ディレクトリの作成, 432
データ表示, 457
テンプレートファイル, 380, 449
作成, 382, 451
削除, 459
WebConfigurator
設定の設定, 314, 415
WebNavigator
DVD の内容, 118
Web プロジェクト, 215, 228, 234
Web プロジェクトの制限, 255
WinCC 基本システムと比較した相違, 256, 259
インストールの必要条件, 119
ガジェット, 230
スクリプトでのプリプロセッサ定義, 256
スクリプトの使用, 256
タグの使用, 259
デモプロジェクト, 142
ファンクション, 292, 304
プロセス画像の発行, 216, 219, 220, 317, 397, 400, 401
ユーザー管理, 235
ライセンス, 122
ロードバランシング, 249, 252
設定手順, 215
端末サービス, 214, 284, 285, 286
WebNavigator クライアント, 119, 139, 205, 260, 264
Plug-In Builder, 280

Web オプション, 235
Windows Server でのインストール, 131
アップグレード, 131
インストール, 131
ハードコピーファンクション, 274
ファンクション, 260
プラグイン, 280
ライセンス, 122
画像, 264
画像イン画像法, 256
画像変更, 259
自動ログアウト, 235
接続の自動確立, 260
端末サービスによるアクセス, 284
WebNavigator サーバー, 119, 205
PdlPad によるスクリプトの確認, 220, 317, 401
WinCC サーバーによる設定, 207, 208, 211
アップグレード, 130
インストール, 130
コンフィグレーションの編集, 239
ライセンス, 122
ロードバランシング, 249, 252
初期コンフィグレーション, 239
診断, 276
専用 Web サーバー, 211
分離ソリューション, 207
WebNavigator 診断クライアント, 119, 205, 213
インストール, 141
WebNavigator 診断サーバー, 213
webpart, 378, 385, 390, 454, 457, (webpart を参照)
Webcenter ページでの挿入, 385, 454
エクスポート, 457
移動, 457
概要, 379, 391
最小化, 457
削除, 457
設定, 457
WebPublisher
PdlPad によるスクリプトの確認, 220, 317, 401
データの発行, 410, 447
プロセス画像の発行, 216, 220, 317, 397, 401, 410, 447
必要条件, 219, 400
WebPublishing Assistant, 410, 447
WebUX
WebUX Web ページの構成, 160, 522, 537, 541
WebUX の使用, 160, 522, 537, 541
インストール, 157, 519
ライセンシング, 153, 157, 513, 519
ライセンスの予約, 154, 514
概要, 509
Web オプション, 235
Web クライアント, (WebNavigator クライアントを参照)
Web コンフィグレータ, 239
インターネット インフォメーション サービスのセットアップ, 239
ポートの設定, 241
仮想ディレクトリの作成, 243
標準 Web ページの作成, 241
Web ナビゲーションインターフェース, 267
Web ビューア, 193, 197, 205, 268, 272, 329, 333, 423, 428
Web プロジェクト, 215
PdlPad によるスクリプトの確認, 220, 317, 401
Web ビューア, 193, 205, 268, 329, 423
Web 設定, 228, 234
WinCC プロジェクトのミラーリング, 208
WinCC 基本システムと比較した相違, 259
スクリプトの使用, 256
プロセス画像の発行, 216, 219, 220, 317, 397, 400, 401
制限事項, 255
Web 設定, 228, 234, (Web コンフィグレータを参照)
Web 発行ウィザード, (WebPublisher を参照)
WinCC, 70, 76
Notebook, 70
WinCC DVD, 9
アクセスの制限, 34
アップグレード, 56
インストール, 9, 18, 41
インストールのアップグレード, 57
インストールの実行, 44
インストールの準備, 40
インストールの必要条件, 20, 22
ドメイン内で使用, 70
リモートアクセス, 31
一般情報, 76
削除, 54
追加のインストールの実行, 49, 50
複数のドメインで使用, 70
WinCC DataMonitor, (DataMonitor を参照)
WinCC DataMonitor クライアント, (DataMonitor クライアント参照)
WinCC DataMonitor サーバー, (DataMonitor サーバー参照)
WinCC DVD, 9
WinCC ServiceMode, 95
WinCC V6.x, 56
WinCC WebNavigator, (以下の項目を参照してください:WebNavigator)
WinCC/WebNavigator クライアント, (WebNavigator クライアントを参照)

WinCC/WebNavigator サーバー, (WebNavigator サーバーを参照)
WinCC/WebNavigator 診断クライアント, (WebNavigator 診断クライアントを参照)
WinCC/WebNavigator 診断サーバー, (WebNavigator 診断サーバーを参照)
WinCC-OPC-UA
　通信に関する情報, 88
WinCCViewerRT, 193, 197, 202, 235, 268, 272, 329, 333, 389, 423, 428, (Web ビューアを参照)
　画像の表示, 389
WinCC アーカイブコネクタ, (アーカイブコネクタを参照)
WinCC クライアント
　端末サービスによるアクセス, 284
WinCC クラウド, (以下の項目を参照してください:クラウドコネクタ)
WinCC サーバー
　WebNavigator サーバーによる設定, 207, 208
WinCC プロジェクト, (Web プロジェクトを参照)
　ユーザーグループに追加, 40
WinCC ユーザー管理者, (ユーザー管理者を参照)
Windows, 22, 34
　Microsoft メッセージキュー, 43, 96
　WinCC のインストールの準備, 40
　Windows での操作, 59
　アクセス権, 34
　セキュリティポリシー, 40
　ツールバー, 30
　ユーザー権限, 34
Windows 7, 22
Windows 8.1, 22
Windows Server 2012, 22
Windows[スタート]メニュー, 44
Windows イベント表示, 54
Windows タスクバー, 65
　表示を禁止, 65

X

XML ファイル
　メモリ位置, 346, 475
　作成, 346, 475

ア

アーカイブ
　リンク, 439, 443
　切断, 439, 443
　符号付き, 439, 443
アーカイブコネクタ, 443
アーカイブシステム, 79
アーカイブタグ, 84
アーカイブ設定, 84
アクセス権, 34, 39, 40
アクセス権限, 38
アップグレード, 130, 131
アップグレードインストール, 12, 57
　実行, 57
アラーム
　アラームテーブルでの表示, 341, 466
　統計リスト, 470
　列名, 468
アラームテーブル
　メッセージを表示する, 341, 466
アラームの統計リスト, 470
アラームロギング, 94

イ

イベント表示, 54
インストール, 41, 44, 65, 98, 99
　PDF ファイル, 9
　WebNavigator クライアント, 131, 137, 139, 191
　WebNavigator サーバー, 130
　WebNavigator 診断クライアント, 141
　アップグレード, 130, 131
　インストールされているソフトウェアに関する注意点, 44
　インストールのアップグレード, 57
　インストールの準備, 40
　インターネットインフォメーションサービス (Internet Information Service), 128
　コンポーネント, 44, 49
　セキュリティの設定, 137, 191
　セキュリティポリシーを適合する, 40
　ドメイン, 22
　言語の追加インストール, 50
　削除, 54
　実行, 44, 57
　接続性パッククライアント, 99
　接続性パックサーバー, 98
　多言語, 65
　追加のインストールの実行, 49, 50
　必要条件, 18, 20, 22, 102, 119, 126
インストール;インストール, 9
インストールガイド, 9
インストールされているソフトウェア, 44
インストールに関する注意点, 9
インターネット インフォメーション サービス, 239

インターネットインフォメーションサービス(Internet Information Service), 128
Web ページの起動, 190, 248
有効化した Web ページの確認, 190, 248

ウ

ウィルススキャナ, 61

エ

エラーレポート, (サポートを参照)

オ

オーソリゼーション
Web オプションの構成, 235
オペレーティングシステム, 22, 65
アクセスを禁止する, 30
アクセス権, 34
オンラインサポート, (サポートを参照)
オンラインヘルプ, 65
Internet Explorer, 116, 148
ランタイム, 65

カ

ガジェット, 230
カスタマサポート, (サポートを参照)

ク

クライアント
オペレーティングシステム, 22
リモートアクセス, 31, 79
クライアントアクセスライセンス, 96
クラウドコネクタ, 545
クラスタ, 70
グローバルスクリプト
WebNavigator での使用, 256

コ

コンフィグレーション, 239
コンポーネント, 9, 44, 49
通信ドライバ, 9
提供されるコンポーネント, 9

サ

サーバー
オペレーティングシステム, 22
サーバー接頭辞, 70
サポート, 168, 171
サポートリクエスト, 171

シ

システムオーソリゼーション, 235
システム安定性, 77
システム診断, 171
ショートカットキーの無効化, 65

ス

スクリーンショット, (ハードコピーを参照)
スクリーンセーバー, 61
スクリプト
ファンクション, 302
スタートガイド, 184, 185, 188, 199, 202
WebNavigator サーバーの設定, 185, 188
プロセス画像の変更, 198, 202
スタートメニュー, 44
スライダコントロール, 260
スワップアウトされた WinCC アーカイブ
SQL Server への接続, 439, 443
交換可能な媒体, 439, 443

セ

セキュリティコントローラ, 44
セキュリティの設定
Internet Explorer, 325, 419
セキュリティポリシー, 40

ソ

ソフトウェア, 22
必要条件, 22, 102, 119

タ

ターミナルバス
大容量データ, 84

ツ

ツールバー, 30

テ

データベースアクセス, 439, 443
テーブル
　プロセス値の表示, 336, 461
デモプロジェクト, 142
デモモード, 12

ト

ドメイン, 22
ドメイングローバルユーザーグループ, 39
ドライバ
　署名のない, 40
トレンドおよびアラーム, 336, 339, 392, 461, 464, (トレンドおよびアラームを参照)
　アラームテーブル, 341, 466
　アラームの統計リスト, 470
　アラームの列名, 468
　メッセージを表示する, 341, 466
　表示機能, 336, 339, 461, 464
　分析機能, 470, 472

ネ

ネットワークアダプタ, 70
　省電力モード, 70
ネットワークエンジニアリング, 70
　DHCP サーバー, 70
　IP アドレス, 70
　ISDN ルーター, 70
　Notebook, 70
　Novell クライアントソフトウェア, 65
　RAS 経由アクセス, 70
　TCP/IP プロトコル, 70
　サポートされているネットワークプロトコル, 70
　ドメイン内の WinCC, 70
　ネットワークアダプタ, 70
　ネットワーククライアント, 65
　ネットワークサーバー, 70
　複数のドメインの WinCC, 70
ネットワーククライアント, 65
ネットワークサーバー, 70
ネットワークドライブ, 70
ネットワークプロトコル, 70
　TCP/IP, 70
　サポートされているネットワークプロトコル, 70
ネットワーク接続, 70
　速度, 70

ハ

バーコード, 82
ハードウェア
　必要条件, 102, 119
ハードウェア要件, 20
ハードコピー, 274

フ

ファイアウォール, 31, 70
　Windows 2008, 188, 246, 316, 418
　Windows 7, 188, 246, 316, 418
　設定, 314, 415
ファイル
　署名のない, 40
ファイルの共有, 34
ファンクション
　サポートされている MSBC ファンクション, 292
　サポートされている ODK ファンクション, 292
　サポートされているファンクション, 292
　サポートされているユーザーアーカイブファンクション, 292
　サポートされないファンクション, 304
　画像ウィンドウを開く, 302
フォルダ, 34, (以下の項目を参照してください。フォルダ)
　リリースされたフォルダ, 34
フォルダ共有, 35, (以下の項目を参照してください。フォルダ共有)
プラグインの発行, 282
プロキシ, 70
プロジェクト
　ユーザーグループに追加, 40
プロジェクトパス, (以下の項目を参照してください。フォルダ)
プロセスバス, 208
プロセス画像, 264
　発行, 216, 219, 220, 317, 397, 400, 401
プロセス値
　テーブルに表示, 336, 461
　図中の表示, 339, 464
　統計機能の表示, 472

ホ

ポート
　設定, 241

ユ

ユーザー
　作成, 310, 413
ユーザーオーソリゼーション, 94
ユーザーグループ, 34, 429
　SIMATIC HMI, 34, 38, 39, 40
　ドメイングローバルユーザーグループ, 39
　プロジェクトを追加, 40
　個別のグループ, 309, 412
　自動作成されたグループ, 309, 412
ユーザーの変更, 193, 268, 329, 423
ユーザー管理
　Webcenter, 429
ユーザー管理者
　WebNavigator のユーザー管理, 235
　Web オプション, 235

よ

よくある質問, (サポートを参照), (修正処置を参照)

ラ

ライセンス, 12, 122
　DataMonitor, 111
　WebNavigator 診断クライアント, 122
　インストール, 12
　無効, 113
　予約済み WebUX ライセンス, 154, 514
ライセンスの種類, 12
ライセンス契約, 12
ランタイム, 69
　オンラインヘルプの表示, 65
　サーバー障害, 69

リ

リモートアクセス, 31
リモートデスクトッププロトコル, 90
リモート発行, 216, 219, 220, 317, 397, 400, 401
リリース
　フォルダ, 35
リリース共有, (以下の項目を参照してください。フォルダ共有)

レ

レイアウト
　バーコードの印刷, 82
レイアウトテンプレート
　作成, 380, 449
　削除, 459
レポート, 366, 370, 372, 375, 394, 500, 502, 505, (レポートの参照)
　Excel ワークブック, 372, 502
　PDF ファイル, 366, 394
　PDF レポート, 370, 500
　XLS ファイル, 366, 394
　印刷ジョブ, 375, 505
　設定, 370, 500
　電子メールとして, 370, 500
レポートツール, 363, 492
　使用できるようにする, 369, 499

ロ

ロードバランシング, 249
　設定, 252

安

安全性, 30, 34

移

移行, 93

一

一般情報, 61

仮

仮想ディレクトリ, 243
仮想化, 21

画

画像ツリー, 94
画像描画時間, 94
画面, 67

画面解像度, 67

外

外部アプリケーション, 59, 61

技

技術サポート, (サポートを参照)

共

共有, 34, (以下の項目を参照してください。フォルダ共有)

権

権限
    WinCC のアクセス権限, 312, 408
    WinCC のユーザー権限, 312, 408
    Windows のアクセス権, 309, 310, 412, 413
    Windows のユーザー権限, 309, 310, 412, 413
    ディレクトリへのアクセス権, 433, 435

言

言語, 93
    追加のインストールの実行, 50
言語依存のテキスト, 260

互

互換性, 61

削

削除, 54
    実行, 54

三

三菱製 Ethernet
    通信に関する情報, 88

持

持続性, 260

時

時刻の同期化, 78

手

手動での切り離し, 69

修

修正処置
    接続中止, 287

署

署名のないドライバ, 40
署名のないファイル, 40

省

省電力モード, 70
    ネットワークアダプタ, 70

冗

冗長性, 70
    冗長サーバー, 70
    標準ゲートウェイの設定, 92

色

色パレット, 67
    変更, 67

診

診断
    WebNavigator サーバー, 276
    サポートリクエスト, 171
診断クライアント, 122, (WebNavigator 診断クライアントを参照)

図

図
    プロセス値の表示, 339, 464

接

接続
　サーバーへの接続, 334, 437
　サーバーへの接続の確立, 334, 437
接続の中断, 70
接続性パック
　ライセンシング, 96

専

専用 Web サーバー, 211
　プロセス画像の発行, 216, 219, 220, 317, 397, 400, 401
　画像変更, 264

操

操作, 59
　ドメイン, 22

多

多言語, 65
　インストール, 65

端

端末サーバー, (端末サービスを参照)
端末サービス, 126, 214
　ユーザーの設定, 286
　設定, 285
　端末サービスサーバーの起動, 286
　通信, 284
　有効にする, 285
端末サービスクライアント, (端末サービスを参照)
端末サービスサーバー, (端末サービスを参照)

注

注記, 61
　操作について, 61

追

追加のインストール, 49, 50
　言語, 50
　実行, 49, 50

通

通信, 208
　IPv4 プロトコル, 87
通信ドライバ, 9, 22
通信プロセス, 87

電

電子メール添付
　レポート, 370, 500

統

統計機能
　プロセス値の表示, 472

納

納品範囲, 9

発

発行レポート
　Excel テンプレート, 367, 497

必

必要条件, 18
　インストール, 102, 119
　オペレーティングシステム, 22, 102, 119
　ソフトウェア, 22, 102, 119
　ハードウェア, 20, 102, 119

標

標準 Web ページ, 241

負

負荷分布, (ロードバランシングを参照)

分

分散システムのエリア名, 94
分離ソリューション, 207

無

無停電電源装置, 70

優

優先サーバー, 70
    接続の中断, 70

例

例
    ディレクトリへのアクセス権, 435